大乱闘スマッシュハーツブラザーズ出張版

鳴神　ソラ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
大乱闘スマッシュハーツブラザーズ出張版

【Ｎコード】
Ｎ８２８７Ｔ

【作者名】
鳴神　ソラ

【あらすじ】
別サイトにて投稿してる大乱闘スマッシュハーツブラザーズ出張バージョン！コラボしたい方は感想で書いてください。
不定期になると思いますがよろしくお願いしますｍ（＿　＿）ｍ

※２００話目を書いたらコラボ受付を休止します事を言って置きます。
理由は活動報告のお知らせを見てください。

プロローグと言う名のキャラの喋り（前書き）

初めて此処で小説を書いて見ました。

マリオ「唐突だな」

ルイージ「書くよねマジで」

プロローグと言う名のキャラの喋り

マリオ「そんな訳で俺達、にじファンの感想と他の人の小説以外で登場！！」

明久「いきなり過ぎる！！ってか何で僕とムッツリーニもいるの！？まだ出演する作品に出てないのに！？そこんとこはどうなんですか先生！！」

マリオ「何でもこのままだとお前と康太が出るの遅れると思うので此処で出すとの事だ」（カンペ見て）

ムッツリーニ「……ホント計画性がない…投稿してるサイトでもまだ完結してない小説が沢山あるのに…」

ルイージ「ツッコム身にもなって欲しいよね…」

マリオ「まあ、それはともかく、大乱闘スマッシュハーツブラザーズ出張版だ！」

フォックス「主に何をやるんだ？」

マリオ「まあ、あたすじでもあるが不定期になると思うけど色々とやったり、コラボして欲しい人が出ればコラボやったりとか色々する！！」

ムッツリーニ「……ノー計画も程がある…」

ソニック「けど、これで色々と会えるな♪」

マリオ「おう、色々とな…」

フォックス「ちなみにキーワードの数が限りがあったので言うが…内のマリオは色々と越えてるぞ」

スネーク「キャラ崩壊もあるからそう言うのを嫌う人は感想にあんまり書かないでくれ」

ルイージ「後、東方キャラも出るけどガールズラブな人達もいる事を言って置くよ」

マリオ「と言う訳で色々と待っててくれ！！」

ソニック「シーユー！」

プロローグと言う名のキャラの喋り（後書き）

感想を待ってますm（＿＿）m

Another Century's Episode X 第一章～亜空の使者～

最初のコラボ第1弾！

ルイージ「最初は委員長さんの『Another Century's Episode X 第一章～亜空の使者～』とのコラボだよ！」

ソニック「どう言う話かは下で見てくれ」

ムッツリーニ「……なお、今回の話の形式は相手側のに沿ってのにする…」

「参ったな…帰りの途中で別世界に入り込むとは…」

マリオこそ仮面ライダーゼロ・テクターフォームは頭を掻く。

「帰るのも良いが…少しこの世界を見て回るか…」

そう言ってゼロＴＦは飛び上がろうとした時…

「！？」

その場を横に避ける。

すると、ゼロＴＦのいた場所に巨大なカマが２本振り下ろされる。

「いきなり過ぎるのもどうかと思うな…」

振り下ろした者…ギラーンを見てゼロＴＦは呟いた後に周りにプリムやソードプリムが現れ、ゼロＴＦを囲む。

「四方八方、敵か…やってやろうじゃん！キャフトオフ！」

そう言うとゼロＴＦのアーマーが吹き飛び、仮面ライダーゼロ・ウルトラフォームへとなるとゼロスラッガーを飛ばし、プリムを何体か切り裂いた後に戻って来たゼロスラッガーを掴むと駆け出す。

少し離れた場所で…

「ん？」

一方、この世界のマリオがシン、ドモン、東方不敗、ピット、デュオ、リンクとヨッシーにカービィと共に亜空軍を追っている途中である状況が目に映り、足が止まる。

「どうしたのじゃマリオよ？」

足を止めたマリオに東方不敗が代表で聞く。

「あれを…」

マリオが指した方を８人は見ると…

「でぁぁぁぁぁ！！」

ゼロスラッガーを持ったゼロが沢山の亜空軍と戦う姿であった。

「誰だあれ？」

「まっ、亜空軍と戦うからには敵じゃないと思うし助けようぜ」

「ああ、出ろーーーッ！！ガァンダーーーム！！」

シンが呟いた後にデュオが肩を叩いてそう言うとドモンも同意して、自分の愛機の姿へと変える。

その後に東方不敗とシン、デュオもそれぞれガンダムに変わるとゼロの手助けに走る。

「ふう～…多いな」

ゼロスラッガーを戻し、目の前の大群にゼロは呟く。

「こりゃあ…増やした方が良いな…」

ゼロはそう言うとカードは構えた時…

「はっ！」

「せやっ！」

マリオとリンクが現れ、プリム達を吹き飛ばす。

その後にシンやデュオがそれぞれの武器でソードプリムを倒して行く。

「助太刀する！」

「そりゃあ助かる。こいつ等うじゃうじゃ出るから」

プリムを殴り飛ばしたドモンにゼロはカードを仕舞ってそう言う。

「ホント多いね」

「と言うかさっきより増えてません；」

ハンマーで殴り飛ばすカービィにヨッシーが攻撃しながらも言う。

「そうなんだよ、さっきから倒してるのに増えてるんだよ」

「ふむ、どっかに敵を転送する何かがあるのでないじゃろうか？」

ゼロの言葉に東方不敗が敵を投げ飛ばした後にそう推察する。

「んじゃあ…あそこか？」

ビームシザーズでプリムを切り裂いた後にデュオが１つの大きな岩を指す。

すると、その後ろからプリムが出て来る。

「そこか…」

そう言うとゼロスラッガーを外し、胸のタイマーの両隣に装着させ…

「いっけぇぇぇぇぇ！！」

ゼロツインシュートを放ち、大岩ごと後ろにあった装置を破壊する。

「派手だね～」

「けれどこれで増えなくなったから行くぞ！」

その光景にデュオは口笛を吹くとシンがアロンダイトを構えなおして言う。

数分後、亜空軍を撃退したマリオ達は一旦変身を解いて再び変身したゼロと座って話していた。

「まさか別世界の俺とはな…」

「驚きですね」

マリオが感慨ぶかげにそう言うとピットもまだ驚きが冷めない顔で言う。

「なあ、あんたも俺達と行かないか？」

「無理」

「即答ですか！？何でなんですか！？」

シンの誘いに即答で答えるゼロにヨッシーがツッコミながらそう言う

「1つは俺はこの次元の住人でもないから…んでもう1つは…俺(マリオ)が2人いるとややこしいだろ？」

「そりゃあ…まあ」

「確かに返って混乱させてしまう要因になってしまうな…」

ゼロの言葉にシンは戸惑った顔でそう言い、東方不敗が腕を組んでそう言う。

「それにあんた達なら俺がいなくても行けるだろ…なんたって強いからな！」

「当然だ！」

ゼロの言葉にドモンが答える。

「おっ、そうだ…」

何か思い付いたのか、ゼロは懐からあるカードを取り出すとそれをマリオに渡す。

「何だこれ？」

「俺が変身してるライダーへなれるカード…テキストを読めば変身する為のアイテムが出て来るが…俺なら何回も出来るけど、他の人の場合、１回しか使えない。使えばそれは俺の元に戻って来る…もし使うならここぞと言う時に使ってくれ…まっ、それ以外ではお守りとして持っていてくれ」

疑問の声を上げるマリオにゼロはそう言う。

「んじゃまあ…俺はそろそろ戻るよ」

「もう行くのか？」

「ああ…帰る途中だったし」

リンクの問いにそう言うとゼロは立ち上がり、空へ飛び上がり、マリオ達の方を向く。

「頑張れよ！…後、亜空軍の裏に強大な敵が潜んでいるかもしれない…気を付けろよ」

「！それってどう言う…」

ゼロの言葉にピットが聞こうとするが本人はもう遠くへ行き、世界を去った後であった。

「…強大な敵…」

「あいつ等以上に強い敵がいるのか？」

「かもしれないと言っておるが、心に留めて置いた方が良いじゃろ」

呟くドモンの隣でシンは戸惑った顔で疑問詞を浮かべ、東方不敗はゼロが飛んで行った方を見る。

Another Century's Episode X 第一章～亜空の使者～

そんな訳で委員長さんの『Another Century's Episode X 第一章～亜空の使者～』とのコラボでした！
委員長さん、どうでしょうか？

ルイージ「コラボは何時でも募集しております」

明久「次回を楽しみにしててね！」

ムッツリーニ「感想を待っているぞ」

～出張版！教えて銀八先生！～ルール説明（前書き）

黒龍さんの提案によりやってみようでの説明です！

マリオ「どんな質問が来るのやら」

～出張版！教えて銀八先生！～ルール説明

明久「教えて！」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

蛇八「俺これだとそれなのか！？Σ（ 口 ；）」

ルイージ「と言うか銀八先生がいないね；」

ゼロ「大丈夫だ…今呼ぶから」

ゼロブレスレッド「サモンライド！銀八！！」

銀八「うぉっ！？何いきなり！？ってか此処どこ！？」

ゼロ「ウェルカム、スマッシュハーツブラザーズ出張版ワールドへ」

銀八「えっ？いきなりなの？」

蛇八「まあ、簡単なルール説明だな…」

銀八「んで…質問のルールは？」

ムッツリーニ「……黒龍の所を元にしている…」

ルール

・どんな質問でもＯＫ（ただし恋愛関係は控えめに）

・質問は一人三つまで。

・フォックスに撮って欲しい人の写真の要望も此処で（ただし女装やＢＬ関連は本人により無理なのでごめんなさいｍ（＿＿）ｍ）
・別サイトに投稿してる小説関連の質問もＯＫ

銀八「2番目を除いてこれか…ってか最初のカッコの部分は…」

マリオ「ん？」

ソニック「Ｈｅｙ、何で俺達を見るんだ？」

リュウケンドー「何で？」

明久「ほえ？」

ガンダム「どうせ…どうせ…！」

ヘビーアームズ「……（ポン）」↑ガンダムの肩を叩いている。

銀八「…ああ、うん…確かにこのメンバーであれは無理だろうな…」

蛇八「理解していただき結構だ」

フォックス「そんな訳で質問を待ってるぞ～」

リュウケンドー「アイディアをくれた黒龍に感謝！」

ムッツリーニ「……そんな訳で質問を待っている…」

～出張版！教えて銀八先生！～ルール説明（後書き）

ルイージ「どう言う質問が来るのやら…」

コラボともども待ってますｍ（＿＿）ｍ

海賊戦隊リリカルゴーカイジャーＳＴＳ　別話『もう1人の海賊戦隊とウルトラ

今回はディワールドさんの海賊戦隊リリカルゴーカイジャーＳＴＳよりマーベラスさんとエリオが出演します！

ルイージ「なお、真王さんのは考え中で真王さん的にこう言う風にして欲しいと言うなら感想で書いてくださいｍ（＿＿）ｍ」

明久「そんな訳で始まります！」

ムッツリーニ「……なお、これも委員長とのコラボと同じ様に相手のと同じ形式になる事を言って置く」

とある次元でミッドチルダでザンギャックと戦うゴーカイジャーと起動六課

ゴーカイジャーのリーダーであるマーベラスと起動六課のフォワードの1人であるエリオはいきなりの状況に戸惑っていた。

「マーベラスさん、此処どこなんでしょうか？」

「さあな…だが、あいつ等の仕業とも思えないな…」

目の前に広がる景色にエリオは戸惑い、マーベラスは辺りを見回す。

どこかの世界の様だが、綺麗な風景が広がり、遠くにはお城と思われる建物がある。

「まずは探索と行くか…」

「はい！」

そう言った後に2人が歩こうとした時…

「！そこだ！！」

何かを感じ取り、マーベラスは感じた方にゴーカイガンで攻撃する。

そこから何かが飛び出し、マーベラス達の前に姿を現し…その人物にマーベラスとエリオは驚く。

「何！？」

「ゴーカイレッドがもう1人!?」

目の前に立つゴーカイレッドに驚いていたマーベラスだったがゴーカイレッドがゴーカイサーベルとゴーカイガンを構えるとすぐにへっと笑った後にモバイレーツとレンジャーキーを構える。

「誰かわかんねえが…上等だ…相手してやる!豪快チェンジ!!」

『ゴーカイジャー!!』

そう言うとマーベラスはゴーカイレッドに変身する。

「ゴーカイレッド!派手に行くぜ!」

名乗り上げた後、マーベラスが変身したゴーカイレッドはゴーカイサーベルとゴーカイガンを構えると同時にゴーカイガンで攻撃する。

それにマーベラス達の前に現れたゴーカイレッドは避けると同時に同じ様にゴーカイガンで攻撃する。

「しゃらくせ!」

それをマーベラスが変身したゴーカイレッドは避けた後に接近してゴーカイサーベルを振り上げ、それにもう1人のゴーカイレッドはゴーカイサーベルで防いで鍔迫り合いになる。

そして離れた後にマーベラスが変身したゴーカイレッドはレンジャーキーを取り出し、それにもう1人のゴーカイレッドもレンジャーキーを取り出すが、エリオはそれに目を丸くする。

「マーベラスさんの持ってるのと違う…」

「「豪快チェンジ！！」」
『シーンケンジャー！！』

その間に2人は豪快チェンジし、マーベラスの変身したゴーカイレッドはシンケンレッドにもう1人のゴーカイレッドはシンケンゴールドに変身する。

「烈火大斬刀！」
「サカナマル！」

シンケンレッドは烈火大斬刀を構え、シンケンゴールドはサカナマルを構える。

次の瞬間、シンケンゴールドから黄金のオーラが出て来る。

「なっ！？」
「サカナマル！電子百枚おろし！！」

シンケンレッドが驚いてる間にシンケンゴールドはそのオーラをサカナマルに纏わせるとシンケンレッドを高速で斬ろうとする。

それにシンケンレッドは壁とショドウフォンで書くとそれで自分の後ろと左右に壁を作り、前を烈火大斬刀で防ごうとするが…

「はあぁぁぁぁぁぁぁぁ！！」

シンケンゴールドの攻撃がどんどん壁にヒビが入って行く。

「ちっ！」

それにシンケンレッドは烈火大斬刀をシンケンマルに戻して前へ転がると同時にレンジャーキーを取り出す。

「豪快チェンジ！！」
『ハーリケンジャー！！』

シンケンレッドからハリケンレッドに豪快チェンジするとドライガンを構える。

「おら！」
「豪快チェンジ！！」
『ハーリケンジャー！！』

火炎弾を放ったハリケンレッドにシンケンゴールドもシュリケンジャーに豪快チェンジするとシュリケンズバットで切り裂く。

「何なんだあのゴーカイレッド…マーベラスさん達が持ってないレンジャーキーを使うけど…さっきの力は…」
「あれはデジソウルだよ」

呆然と戦いを見るエリオの疑問の呟きに答えた声に慌てて振り返るとそこにいたのは…前、ホテルアグスタに出たウルトラマンゼロXと似た者であった。

「誰だあなた達は！？」
「待った待った！僕達は戦うつもりないから！」
「……と言うかどこから来た？」

ストラーダを構えるエリオにウルトラマンネオスに似たライダーが慌てて両手を横に振り、ウルトラマンネクサスに似たライダーが疑

問を言う。

1時間後

「つまり…此処はあなた達の先生さんの知り合いが作った修行空間で…修行中に誰か着たから様子を見に行って…さっきの状態になったと？」

ウルトラマンネオスに似た仮面ライダー、仮面ライダーネオスに変身していた明久の説明に出されたお茶を飲んだ後にエリオはそう言う。

「うん…それにしても黒狼君は何でマーベラスさんと戦ったの？」

頷いた後にさっきまでマーベラスと色々なスーパー戦隊に豪快チェンジして戦っていたもう1人のゴーカイレッドこそ黒狼に明久は聞く。

「いや、オリジナルの人と一度戦って見たかったからどこまで行けるのかを試す為に…」

「成る程な…それにしても…お前が使っていたレンジャーキーは何だ？」

頭を掻く黒狼にマーベラスは黒狼が使っていたのを思い出して聞く。

「あれは6人目以降のレンジャーキーで…いずれマーベラスさんが手に入れる奴です」

「そうか…しっかしデジソウルか…魔法とまた違った力か」

黒狼の説明にマーベラスはそう呟いた後にそう言う。

「……そう簡単には使えない」

ウルトラマンネクサスに似たライダー、仮面ライダーネクサスに変身していた康太がそう言う。

「別に良い…しっかしどうしたら元の場所に戻れるんだ？」

「それだったら戻るまで此処で修行しませんか？していればきっと元の世界に戻れる世界の壁が現れると思うし」

「けど…」

「……安心しろ、此処は外の時間とかけ離れていて、どんなにいてもお前達のいた世界の時は進まない…此処では体の成長も止まり、好きな時に出れる」

思案するマーベラスに明久がそう提案しエリオは不安な顔で伏せるが康太がそう言う。

「そりゃあ凄いな…まあ、こんな所でじっとしてるよりかは良いな…エリオはどうする？」

「ぼっ、僕もやります！」

感嘆の声をあげた後にマーベラスは立ち上がり、エリオを見て、エリオは慌てて立ち上がって言う。

「それじゃあ頑張ろうか！」

「はい！」

「エリオ君は見るからに槍の使い手だよね？僕の仲間に槍の使い手がいるから良い修行になると思うよ」

明久の言葉にエリオが元気よく返事した後に黒狼がそう言う。

マーベラス達が明久達の所に来て1週間後

「これが世界の壁か？」
「はい！現れたからにはきっとこれを通れば戻れると思います」
「黒狼さん、ありがとうございます！」
「良いよ、それにお礼はデュークモンに言ってよ…君を主に鍛えたのは彼だし」

世界の壁を前にして立つ、マーベラスに明久はそう言い、エリオは黒狼に頭を下げ、黒狼は頭を掻いてそう言う。

この世界での1週間でマーベラスは大体のレンジャーキーの特徴を知り、エリオは前より動きが良くなった。

「んじゃあな」
「さよらな！」

そう言うと2人は世界の壁を通り、元の世界へ戻る。

「大丈夫かなエリオ君達」

「大丈夫ですよ！鍛えたんですから！」

心配な顔をする明久に黒狼がそう言う。

ちなみにマーベラス達が戻った時、黒狼達の所に行った日の2分しか経過してなかったのであった。

そんな訳でディワールドさんの所とのコラボでした！ディワールドさんどうでしょうか？

ルイージ「色々とやってるね…」

フォックス「と言うか…これどれ位だ？」

6人目以降のレンジャーキーを手に入れる前を想定してます。

スネーク「と言うかあっちが6人目のを持ってないのかも分かんないぞ？アバレキラーあったし…」

そうなんだよね；

マリオ「感想を待ってるぜ！」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　銀の侍と４人の女神　－　第別訓：色々出てくるけど…

明久「今回は真王さんの『リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　銀の侍と４人の女神』とのコラボです！まあ、他の人のキャラが１人出るけど…」

ムッツリーニ「……師匠が燃えている…」

マリオ「させ、どう言う風に鍛えてやろう…先ずは物扱いしない様にしないとな（黒い笑顔）」

ネス「色んな意味で怖いね；」

マリオ「そんな訳で来たぜ！真王のリリカル銀魂　ＳｔｒｉｋｅｒＳ　銀の侍と４人の女神の世界！！」

明久「いきなり過ぎる！！」

六課の建物前でのマリオの言葉に明久が叫ぶ。

マリオがこの世界に来た理由は今、この世界に来ているある少女を鍛える為にだ。

明久はいるのはどうせなら鍛えてる間にネプテューヌ達と話しをして貰うのとこの世界のを見て貰おうと言う理由で明久と一部を連れて来たのだ。

ちなみに、マリオと明久以外にムッツリーニと黒狼にアンクとガメル、カザリ、魔弾戦士組とチルノにフランとお空がいるが…

不動「……何で俺だけ女で女神状態なんだよ…」

以前、真王さんから貰った女神の腕輪で女神状態（外見は腰まで伸びた青髪に前髪一房が赤くなっていて、青い目、スタイルはそちらの女神化した銀時より上、背中に青い鳥の羽を模した翼を装着している）になっているファルコもとい不動が顔を真っ赤にして言う。

ソラ「結構カッコいいと思うぞ俺的に」

カービィ「そうだよ、ファルコもといファルコンハート♪」

ファルコンハート「それ女神時の俺の名前!?しかも名前表記もそうなってる!!?」

サトシ「けどホントにかっこいいですよ?」

ルビー「大変だなファルコさん」

ソラの感想の後にカービィの言葉にファルコンハートはツッコミを入れまくり、サトシの言葉にルビーだけため息を吐いた後に同情の言葉を発する。

ビビ「何々?誰なの?」

そこに…今回で一番不幸と思われる本来はリィーンさんのキャラだがコラボで真王さんの所に着ているビビ・スティンが着た。

ゼロUF「着たな…今回のターゲット!」

明久「何時の間にか変身してる!?」

ムッツリーニ「……しかも最強フォーム…」

ビビが現れた事に何時の間にか仮面ライダーゼロ・ウルティメイトフォームになってるマリオに明久は驚き、ムッツリーニが呟いた後に…

ゼロUF「色々と修行と同時に人を物扱いする所を修正する!!」

ビビ「えっ!?何いきなり…みぎゃあぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ!!」

ビビを掴んだ後にそのままどこかへ飛んで行くゼロＵＦへ見届けた一同は…

一同「ご愁傷様（一人一）」

手を合わせ、ビビに合掌する。

そんな彼等の前にビビの叫び声を聞いて駆け付けたと思われるネプテューヌ、ノワール、ブラン、ベールとヴィヴィオ、サチコ、リリス、アルラ、ミーニャが来る。

ネプテューヌ「あれ？ビビちゃんの叫び声が聞こえたけど…どこに行ったの？」

明久「あの子はね…先生の（常識の無い）範囲に入っちゃったんだよ…（遠い目）」

ムッツリーニ「……元々いた所ならともかく、他の所では許せないからな…（遠い目）」

ノワール「そっ、そう…；」

周りを見てビビの事を聞くネプテューヌに遠い目をする明久とムッツリーニにノワールは冷や汗を流す。

数分後

黒狼「今他の人は出かけてるんですか？」

ミーニャ「そうニャ、皆それぞれ思い思いに修行に行ったり、自分のをしに出かけてるニャ」

アルラ「それで私達とビビがお留守番」

ブラン「だけど無理っぽいね」

明久「そうだね…先生にトラウマ持つだろうな…」

お茶を飲んで言う黒狼にミーニャ、アルラが言って、ブランが連れて行かれたビビにそう呟き、明久はビビにまた手を合わせる。

ノワール「そんなに凄いの？」

パール「そうだな…あの人ってそこ等へんはめっちゃ厳しいからな…」

ファルコンハート「当分、戻って来ないだろ…ほれ、あーん」

お空「あ～～ん♪うにゅ～♪」

フラン「不動～私も私も～♪」

ノワールの疑問にパールがテーブルに肘を付いてそう言い、ファルコンハートはお空やフランにおやつを食べさせながらそう言う。

されてる2人はめっちゃ笑顔である。

チルノ「おお～リリスのお母さんは凄いね」

リリス「でしょ♪」

チルノはチルノでリリスと話していた。

ヴィヴィオ「仲良いね♪」

パール「そりゃあな…」

ルビー「色々とされてるからね…」

ノワール「…何されてるのあの人;」

ファルコンハートとお空にフランを見てのヴィヴィオの言葉にパールとルビーは目を逸らして言った事にノワールはそう聞く。

ルビー&パール「聞きたい（か）？」

ノワール「……止めとくわ;」

同時に言う2人にノワールは聞いたらなんかツッコミ所が多いと思い、聞くのを止めた。

ダイヤ「何話してるんだろうね～パール達？」

ソラ「さあ？」

ガメル「メズールへのお土産～♪」

サチコ「よかったね♪」

カザリ「…ホント、君達はある意味関心するよ」

少し離れた場所でジュースを飲んでるダイヤとソラにガメルとサチコを見てカザリは呆れた顔でそう言う。

その時

ドドーン！

アンク「うぉ！？何だ！？」

ノワール「外からしたわ！」

アイスを食べていたアンクがいきなりの揺れに驚き、ノワールがそう言った後に全員外に出ると…

キラーマシン、ラージボディ、ゴーレムがそれぞれ１０体の計３０体いて、その後ろにはダークゾーンがいた。

さっきの揺れは上記の奴等にダークゾーンが起こしたものだろう…

そして、ソラ達を見て、集団は戦闘態勢に入る。

ベール「襲撃ですか」

カザリ「やれやれ…アンク、ガメル、黒狼…行くよ」

アンク「言われなくてもそのつもりだ」

ガメル「頑張る！」

黒狼「うん！」

ベールが言った後に黒狼達はそれぞれ、オーズドライバーを装着した後、グリード３人は自分のメダル３枚を、黒狼は黒いコアメダル３枚を装填するとスキャンする。

グリード３人＆黒狼「変身！」

オーズドライバーＡ「タカ！クジャク！コンドル！…タージャードル～♪」

オーズドライバーＫ「ライオン！トラ！チーター！ラッタラッタ～ラトラーター♪」

オーズドライバーＧ「サイ！ゴリラ！ゾウ！…サゴーゾ、サッゴーゾ！！」

オーズドライバーＢ「アモン！　ベリアル！　ルシファー！　ア・ベ・ル♪　アベル♪　ア・ベ・ル♪」

不可思議な歌が流れると黒狼達の周りにメダルが現れ、歌が終わると共にアンクは仮面ライダーオーズ・タジャドルコンボ、カザリは仮面ライダーオーズ・ラトラーターコンボ、ガメルは仮面ライダーオーズ・サゴーゾコンボ、そして黒狼はクウガ・ライジングアルティメットに酷似し、漆黒の体に血管のような深紅のラインが走っている。複眼は深紅の仮面ライダーオーズ・アベルコンボへ変身した。

（アベルコンボの許可をくれたフロストさん、マジ、感謝しますｍ（＿＿）ｍｂｙ鳴神　ソラ）

ソラ「んじゃあ俺も…ゲキリュウケン！」

カービィ↓星斗「ザンリュウジン」

サトシ「セイリュウケン！」

ルビー「ソウリュウサイ！」

ダイヤ「トウリュウヤリ～！」

パール「レツリュウツチ！」

チルノ「やっとあたいの出番！ヒョウリュウケン！」

それにファルコンハートを除いた魔弾戦士組みとチルノも魔弾龍を構えるとそれぞれマダンキーを差し込む。

ソラ「撃龍変身！」

星斗「斬龍変身」

サトシ「星龍変身！」

ルビー「双龍変身！」

ダイヤ「凍龍変身！」

パール「烈龍変身！」

チルノ「氷龍変身！」

それぞれの言霊を言うと同時に魔弾戦士組みはそれぞれ、リュウケンドーとリュウジンオー、リュウセイオー、リュウサイオー、リュウトウオー、リュウレツオーに…

チルノはリュウケンドーの胸の鎧がマグナリュウガンオーの鎧と混ざった感じを纏ったスーツの部分が水色の魔弾剣士リュウケンオーに変身した。

リュウケンドー「魔弾戦士！」

魔弾戦士「ライジン！！」

リリス＆サチコ＆ヴィヴィオ「すご～い！」

ミーニャ「色々あるニャ」

オーズＴＣ「それは気にするな」

アルマ「気にすると思うよ」

名乗りを上げる魔弾戦士とポーズを取るオーズ達にリリスとサチコとヴィヴィオは目を輝かせ、ミーニャは驚き、そんなミーニャにオーズＴＣがそう言うとアルマがツッコミを入れる。

明久「行くよムッツリーニ！」

ムッツリーニ「……うむ」

そして、明久とムッツリーニはそれぞれ、明久は変身アイテムのネ

オスバックルとカードデッキを構え、ムッツリーニは変身アイテムのネクサスベルトとエボルトラスターを取り出す。

明久＆ムッツリーニ「ＫＡＭＥＮ（カメンライド）ＲＩＤＥ！！」

叫び、明久はカードデッキをネオスバックルに装填し、ムッツリーニはネクサスベルトの右側部のスロットにエボルトラスターを差し込む事。

ネオスバックル&ネクサスベルト「ライダーアップ」

明久は音声と共に明久の周りに二重のサークルが現れ、ネオスのシルエットが明久と重なり、サークルが回転して色が付くとウルトラマンネオスの腕と胸、足に遊戯王のＥ・ＨＥＲＯネオスを模した装甲を模した感じのを纏い、左腕に龍騎のドラグバイザーの外見を遊戯王のスターダストドラゴンに変えた『ネオスバイザー』を装備している仮面ライダー、仮面ライダーネオスに変身する。

ムッツリーニは音声と共に装着者の周りにサークルが現れ、サークルが高速回転してサークルが止まり、消えるとムッツリーニはウルトラマンネクサス・アンファンスの肩と足に仮面ライダーサガの鎧を纏った感じの仮面ライダー、仮面ライダーネクサスに変身する。

ネプテューヌ「ファルコンハートさんはリリス達をお願いします！」

ファルコンハート「分かった！」

エックスセイバーを構えたネプテューヌにファルコンハートが答えた後にネプテューヌはダークゾーンに向かって駆ける。

それにオーズＡＣ、リュウケンオー、ネオスが続くと他のメンバーはキラーマシン、ラージボディ、ゴーレムの集団と戦う。

ヒョウリュウケン「相棒、行けるか？」

リュウケンオー「当然！あたい達はサイキョーだしね！」

ネオス「行くよ」

ネオスバイザー「ソードベント」

ネプテューヌ「おりゃあ！」

ヒョウリュウケンの言葉にリュウケンオーは自信満々に言い、ネオスはネオスジャベリンを構えるとネプテューヌが最初にダークゾーンにダメージを与える。

それにダークゾーンはパンチをするが、４人は避けた後にオーズＡＣは専用武器、アベルザンバーで斬った後にネオスがネオスジャベリンで斬り…

ネプテューヌ&リュウケンオー「おりゃあ！」

怯んだダークゾーンの顔をネプテューヌとリュウケンオーが蹴りを入れる。

ネプテューヌ「そろそろ周りの敵を皆が倒して来てるし…決めようか？」

リュウケンオー「それ賛成！」

ネオス「分かった！」

オーズＡＣ「はい！」

ネプテューヌの提案に3人は同意した後にそれぞれ必殺技の体制に入る。

先ず、ネプテューヌはパープルハートに変身する。

パープルハート「行くよ！エックスセイバー、カートリッジロード！」

エックスセイバー≪Ａｌｌ　ｒｉｇｈｔ！！Ｆｕｌｌ　ｐｏｗｅｒ　ｍｏｄｅ！！≫

ガシャン×１０

パープルハートはエックスセイバーから7発のカートリッジをロードしただけでなく鞘からも3発のカートリッジをロードする。

リュウケンオー「いっくよ！ファイナルキー！発動！」

ヒョウリュウケン「ファイナルブレイク！」

次にリュウケンオーはファイナルキーをヒョウリュウケンに差し込み、ヒョウリュウケンからエネルギーが発生した後にダークゾーンの周りにヒョウリュウケンの形をした剣状のエネルギーが５つ出て囲む。

ネオスバイザー「アドベント！ファイナルベント！」

ネオスは後ろにスターダスト・ドラゴンを呼ぶと龍騎の必殺技の構えをした後に飛び上がる。

オーズＡＣ「今回特別版！」

アベルザンバー「コブラ！カメ！ワニ！ブラカワニ！スキャニングチャージ！！」

オーズＡＣはアベルザンバーにコブラ・コアメダル、カメ・コアメダル、ワニ・コアメダルをセットしスキャナーで読み込んで構える。

パープルハート「エックスカリバー！！！」

リュウケンオー「ヒョウリュウケン！奥義！超・？・武・神・覇・斬！！！」

オーズＡＣ「ブラカワニボンバー！！！」

３人がダークゾーンをそれぞれ切り裂くと同時に飛び上がっていたネオスはスターダスト・ドラゴンから放たれたシューティングソニックの勢いでダークゾーンに突っ込む。

ネオス「スターダストライダーキック！！！」

星屑を纏ったネオスの蹴りがダークゾーンを貫き、ネオスが着地すると同時にダークゾーンは消えて行った。

リュウケンオー「あたい達ってばホントにサイキョー！！」

パープルハート「いえ～い♪」

ハイタッチするリュウケンオーとパープルハートに倒し終えたメンバーは笑う。

その後、戻って来た銀時達と色々と話した後にマリオがビビを連れて戻った後に帰ったのであった。

ちなみに…

ビビ「怖い怖い怖い怖い怖い怖い怖い怖い怖い！！」

ビビはマリオとゼロにすっかりトラウマになっていたのであった；

と言う訳で真王さんとのコラボでした～

フォックス「ビビの奴…凄い事になってるな；」

スネーク「後、別サイトで名前しか出してないリュウケンオーを出したな；」

出して見ました♪そして…ビビさんの扱いが悪くてすいませんｍ（＿＿）ｍ

ネス「マリオさんがいる時点で無理だろうね～」

リュカ「感想を待ってます；」

運動会！ってこれ相手側他のコラボでやってるよね！？ｂｙガンダム　その１

ガルマドップ「今回はユートピア氏のＩＳ＞インフィニット・ストラトス＜黒き牙と永遠の月とのコラボ話だよ」

デスティニーガンダム「何かツッコミ所満載な予感がするな…」

ブリッツ「当たりそうでござるな；」

運動会！ってこれ相手側他のコラボでやってるよね！？ｂｙガンダム　その１

ゼロブレスレッド「サモンライド！ユートピア！！」

ゼロ「と言う訳でウェルカム！大乱闘スマッシュハーツブラザーズ出張版の世界に！！」

一夏「いきなり！？」

箒「しかもタイトルからするに…運動会をするのか？」

ガルマドップ「その通り、ちなみに君達が地水炎風陰雷氏とのコラボでやったチームに１人追加させて貰うよ」

楓「えっ？誰ですか？」

ガルマドップ「（パチン！）ゼロ氏、すぐにアレをやってくれたまえ」

千冬「（さっきの指パッチンの音か！？ドコでやったんだ！？）」

ゼロ「ＯＫ、楓…ちょっとこっち着て背中向けてくれ」

楓「えっ？分かりました」

ラウラ「何をする気だ？」

ガルマドップ「大丈夫大丈夫、痛みはないから…驚く事が起こるけど（ボソリ）」

鈴「えっ？」

ゼロ「ちょっと衝撃来るが、気にするな」↑カード装填

ゼロブレスレッド「ファイナル・フォームライド！」

セシリア「ちょっと待ってくださいませんか！それって…」

ゼロブレスレッド「カ・カ・カ・楓！！」

楓「きゃう！？」

千冬「貴様！何……を……」

楓「えっ？」

椛「ん？」

ＩＳメンバー「えええぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！？」

ガルマドップ「と言う訳で君達のチームの９人目である楓君を見守るある意味危ないヤンデレな椛君だ」

終「いやいやいや！ちょっと待って！さっきの何だ！？」

ゼロ「特別な楓専用ファイナルフォームライドカード」

一夏「それだけで納得出来るか！」

鈴「そっ、そうよ！それに彼女がちゃんとするか…」

ガルマドップ「（パチン！）フォックス、すぐにアレを出してくれたまえ」

千冬「（だからどこから出してるんだ！？）」

フォックス「ちゃんとやってくれたらこれをあげるから…」

（っ５つのケースに色んな楓の写真がぎっしり、しかも５つとも中身は同じ）

ラウラ「まっ、まあしょうがないな」

セシリア「そっ、そうですわね」

シャルロット「うっ、うん…」

鈴「納得するしかないわね」

椛「やらなきゃ駄目ならしょうがないわね」

終「待て待て待て！何渡してるんだよ！」

楓「と言うかどうやって撮ったんですか！？」

ガルマドップ「（無視）させ、こっちのチームは以下の通りだよ」

【スマハツチーム】

ルイージ
ファルコンハート
吉井　明久
ムッツリーニ（土屋　康太）
デスティニーガンダム
ブリッツガンダム
ガンダムヘビーアームズカスタム
チルノ
紅　美鈴

ルイージ「僕ううううう！！？」

ファルコンハート「俺もか！？しかも前回でのまんまかよ！？」

明久「えっ！？僕も！？」

ムッツリーニ「……解せぬ……」

デスティニー「何で俺！？」

ブリッツ「せっ、拙者でござるか！？」

ヘビーアームズ「！？」

チルノ「あたいの強さは泣けるわよ！」

美鈴「えっ？えええぇぇぇぇ！？」

ガルマドップ「これが内のチームだ」

鈴「いやいやいや！流石にこっちが不利過ぎない！？」

ラウラ「何を言っている。こっちにはＩＳが…」

ガルマドップ「あっ、ちなみにＩＳは一部除いて使用禁止ね」

一夏「確実に不利だろう！？」

セシリア「その通りですわ！しかも１人は女神ですから無理ですわ！」

ガルマドップ「流石にこっちも鬼じゃないから…君達の内の２人にライダーの力を貸すから、ファルコンハート君も力を普通の状態にするし」

千冬「それなら…大丈夫だが…そちらのメインは出ないのか？」

ガルマドップ「ああ、彼なら…スターターだから」

マリオ「位置について…」

明久「何で！？」

デスティニー「普通に出るのが当然だろ！？」

ガルマドップ「だって彼全力でやったら普通に圧勝でしょう？」

ムッツリーニ「……否定出来ない…っ！」

終「どうなるんだ…」

ガルマドップ「あっ、ちなみにこれ分けてやるから、次回から本格的に運動会はスタートだ」

デスティニー&終「続くのかよ!?」

運動会！ってこれ相手側他のコラボでやってるよね！？ｂｙガンダム　その１

フォックス「どうなるんだ？」

色々とやるよ…ＳＤガンダムフルカラー劇場にあった奴も入れて

スネーク「何か不安だな；」

ネス「感想を待ってるよ♪」

運動会！ってこれ相手側他のコラボでやってるよね！？ｂｙガンダム　その２

ガルマドップ「と言う訳で続きだよ」

ＤＸ「と言う訳で頑張ろうでターンＡ！ステイメン！」

ターンＡ「はい！」

ステイメン「うん！」

運動会！ってこれ相手側他のコラボでやってるよね！？ｂｙガンダム　その２

ターンＡ『と言う訳で始まりました楓さん主人公のＩＳチーム対僕等側のスマハツチーム！実況はぼく、ターンＡと…』

ステイメン『ぼく、ステイメンと』

ＤＸ『このオレ！ＤＸが勤めるぜ！！しかも今回はガルマドップの旦那がゲストを呼んでるぜ！』

束『ち～ぃ～ちゃ～ん、箒ちゃ～ん、しゅ～君、かえちゃ～～ん、みんなのアイドルの束さんが来ちゃったよ～♪』

ＩＳメンバー「えぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！！？」

シャア「お前…呼んでたのか；」

ガルマドップ「いや～彼女はあっちでは呼ばれてなかったからどうせならこっちではよんどこ～と思ってね～」

ＤＸ『んじゃあ最初の競技に行ってみよう！！ステイメン！言っちゃえ！』

ステイメン『はい！さいしょのきょうぎはぷかぷかアイランドです！』

デスティニー＆終「待て待て待て！！」

ルイージ「それマリパのだよね！？普通に運動会と言うよりパーテ

ィー向けのでしょ！」

ガンダム「ゲームのパーティーであって実際はきついよね；」

ガルマドップ「（無視）説明を続けてくれたまえ」

ファルコンハート＆一夏「無視かよ！」

ターンA『６０秒の間に船から来る砲撃から島の中を走って逃げ続けてください。当たったり、島から落ちたらリタイアです。人数が多いチームの勝利ですよ～また、１人になった場合、その１人となったチームが勝利です。ちなみに同じ人数だったり全滅したらドローだと言って置きます』

ＤＸ『参加する人数は両チームから3人ずつの計6人だぜ！ちなみに公平を記す為に参加者はランダムで決まるぞ！…そんな訳で束！ボタンを押して参加するメンバーを決めてくれ！』

束『おお！これだね！ポチッとな！』

ジャラララララララ…ガチン！！

ＤＸ『決まった！スマハツチームはブリッツにヘビーアームズに美鈴！』

ステイメン『ＩＳチームは一夏さん、千冬さん、シャルロットさんです！』

ターンA『なお、ライダーは一夏と千冬さんで一夏さんがクウガ・ドラゴンフォーム、千冬さんはオーズ・シャウタコンボです！』

ブリッツ「拙者!?」

ヘビーアームズ「!」

美鈴「私ですか!?」

一夏「俺と千冬姉とシャルロットか」

千冬「頑張るぞ一夏、デュノア」

シャルロット「はい!」

ガルマドップ「と言う訳で転送」

シュイイイン!!

クウガDF「おお!いきなり変身してる!?」

オーズSC「（これの能力を上手く使うかが鍵だな…）」

シャルロット「（上手く逃げないと）」

終『頑張れよ一夏』

ラウラ『教官、頑張って下さい』

楓『シャルさんも頑張ってね』

咲夜『頑張りなさいよ美鈴』

椛（東方）『わふぅ、頑張って下さい美鈴さん！』

妖夢『頑張って下さい！』

鈴仙『ガンバです』

デスサイズ『頑張れよヘビーアームズ！』

サンドロック『頑張れ！』

ジャスティス『頑張れブリッツ』

フリーダム『頑張れ～』

美鈴「はい！」

ヘビーアームズ「！」

ブリッツ「頑張るでござる！」

マリオ『では…スタート！！』

ピー！！

クッパ「どんどん撃つのだ！！」

ドンドン！！

DX『さあ始まったぜ！ぷかぷかアイランド！』

ターンＡ『序盤は今の所誰も落ちてませんけど、この中でオーズＳＣになった千冬さんが上手く能力を使って島に来た弾を避けてます』

束『皆凄いね～』

クウガＤＦ「うぉっ！？」

ブリッツ「ござっ！？」

ＤＸ『ああっと！２０秒位でクウガ・ドラゴンフォームの長所であるスピードで逃げ回っていた一夏がブリッツと激突！そこに大砲の弾が当たって２人共海に落ちた！！』

ターンＡ『２人は運び役であるアカツキさんとＧＰ－０２さんによりこちらに運ばれました』

一夏『あ～動きまくったのがまずったな…』

ブリッツ『残念でござる～』

～５０秒経過～

ステイメン『ラスト１０びょうです！』

ターンＡ『そしてついに大型大砲が登場で大きい弾が発射されました！』

ドカーーン！！

シャルロット「ひゃあぁぁ！」

ヘビーアームズ「！？」

ＤＸ『此処でシャルロットとヘビーアームズが飛ばされた！最後に残ったのは…』

美鈴「あっ、危なかった…」

ターンＡ『スマハツチームの美鈴さんです！これはスマハツチームの勝利でしょうか？』

束『いやいや、良く見なよ』

オーズＳＣ「ふう…」

ターンＡ『ああっと！千冬さんが残ってました！』

ＤＸ『シャウタコンボの能力である水になるので避けた様だ！！』

マリオ『そこまで！！タイムアップ！』

ステイメン『ここでじかんがきました！』

ターンＡ『残ったのはＩＳチーム１人とスマハツチームも１人なのでドローです！』

戻って会場

シュイイイン！

デスティニー「ドローか…」

ラウラ「やりましたね教官！」

千冬「ああ、オーズの能力の発動が遅れてたら危なかったが…」

美鈴「はあ～…なんとか行けた…」

ブリッツ「頑張ったでござるな」

ヘビーアームズ『ナイスファイト』

束『それじゃあ次の参加者決めるよ～』

ＤＸ『いや、まだ競技の名前を…『ポチッとな』押しちゃったよ…』

ジャラララララ…ガチン！！

ターンＡ『ええっと…ＩＳチームは椛さんとラウラさん、スマハツチームはファルコンハートさんとデスティニーさんです…ちなみに椛さんは王蛇でラウラさんはゾルダです…；』

明久＆ルイージ＆一夏＆終「最悪なのになったぁぁぁぁ！！」

王蛇「良いわね～」

ゾルダ「勝たせて貰うぞ」

リュウガンオー「やるっきゃねえか…」↑ファルコンハート

デスティニー「俺…生きていられるか？」

DX『盛り上がってる所…競技の名前を言って良いか？…』

王蛇「早く言いなさい」

ステイメン『2ばんめのきょうぎは…じゅんびたいそうです！』

王蛇&ゾルダ&リュウガンオー「……はっ？」

上記3人＋実況3人＋束＋ガルマドップ＋マリオを除いたメンバー「意味ねぇぇぇぇぇぇぇぇ！！」

この後、デスティニー以外の3人は準備体操を変身した状態でやってあまりの恥ずかしさに絶叫したのはガルマドップにとって些細であった。

運動会！ってこれ相手側他のコラボでやってるよね！？ｂｙガンダム　その２

ガルマドップ「まだまだ続くよ」

フォックス「ファルコご愁傷様」

スネーク「ＳＤガンダムフルカラー劇場の３巻か；」

ネス「感想を待ってます♪」

運動会！ってこれ相手側他のコラボでやってるよね！？ｂｙガンダム　その３

ＤＸ「今回は新たにゲストを追加だぜ！」

ターンＡ「誰かは本分で出しますので～」

ステイメン「はじまります～」

運動会！ってこれ相手側他のコラボでやってるよね！？ｂｙガンダム　その３

ラウラ「シクシク」

椛「ぐっすん、私、強い子」

ファルコンハート「俺…何の為に変身したんだ……」

デスティニー「あ…えっと…」↑どう声をかければ良いか戸惑っている。

楓「えっと」↑デスティニーの様にどう声をかければ良いか悩んでいる。

ガンダム「俺たちの時にもあったよね（ホロリ）」

ウイング「……」

ガルマドップ「させ、きびきび行こうか」

明久＆一夏「鬼だ！！」

ＤＸ『此処でゲストを追加だぜ！』

ターンＡ『プリニーラハールさんの作品『バカと魔王と召喚獣』よりラハールさんとプリニーさんです！！』

ラハール『よろしく頼むぞ』

プリニー『よろしくッス！』

束『お～変わった人だね～…ってステイメン君、次の競技は何かな～？』

ステイメン『はい…えっと…3ばんめはダッシュハードルです！』

明久「今度はポケモン！？」

ルイージ「あれも競技だけどね…」

ラハール『ハードルを使った競技か？』

プリニー『教えて欲しいッス』

ターンA『え～本来だとポケモンと言われる生き物さんで3匹を指示し、ハードルを上手くジャンプしてゴールを目指して3匹の合計タイムが速いチームが1位なんですけど…これでは2チームから6人の計12人で50mをハードルを飛んで走って競い、6人の合計タイムが速いチームが勝ちです』

束『これなら勝ち負け出来るね～』

ラハール『ただ走って飛ぶだけならオレ様でも行けるな』

DX『ただし！普通のハードル走と違ってこれの場合はハードルが間を置いてある事もあるが連続で置かれてたりするんだぜ！それと、タイミングよくハードル直前でジャンプすればスピードが上がるんだぜ！』

ラハール『成る程、つまりハードルを直前で上手く飛ぶのがこの競技の勝利の鍵か』

プリニー『簡単そうで難しいッスね～特に連続で置かれてる奴とか』

束『それじゃあ参加者を決めるよ～ポチッとな！』

ジャラララララ…ガチン！！

DX『ISチームは楓に終とセシリアとラウラと椛と鈴だ！ちなみにライダーに変身出来るのは楓とセシリア！…変身するライダーはセシリアはガタック・ライダーフォームで…なんと楓はオーズ・サゴーゾコンボだ！！』

楓「ええっ！？」

鈴「ちょっ！？重くて遅いライダーじゃん！」

終「この競技じゃ不利だろ；」

ガルマドップ「しょうがないからハンディで彼女はIS使用許可するよ、ただし、普段より君の走る速度まで落とさせて貰うけど、後これスマハツチームで言えるけど加速は2秒まで」

ラウラ「此処でさっきのを挽回するぞ！」

椛「ええ！」

デスティニー「あっ、復活した」

ターンA『一方のスマハツチームはムッツリーニさん、チルノさん、ルイージさん、デスティニーさん、ブリッツさんとファルコンハートさんです！」

ムッツリーニ「……土屋　康太だ」

チルノ「あたいの出番だ！」

チルノＬＯＶＥズ「チルノ（さん）（ちゃん）ガンバ！！」

ルイージ「頑張ろう！」

デスティニー「またか…」

ブリッツ「また拙者でござるか！？」

ファルコンハート「やってやる！」

ガルマドップ「と言う訳で転送」

シュイイイン！！

終「やってやる…」

鈴「頑張るぞ！」

ラウラ&椛「（やってやる！）」

ガタック「大丈夫ですか楓さん？」

オーズSGC「なんとか…」

ネクサス「……」

チルノ「やってやる！」

ルイージ「頑張らないと…」

デスティニー「やるからにはやらないとな！」

ブリッツ「頑張るでござる！」

ファルコンハート「やってやる！」

マリオ『それじゃあ…よ～い！』

ドン！！

DX『さあ始まったぜダッシュハードル！まず先頭を走るはムッツリーニが変身したネクサス！それを終と鈴、ルイージ、椛、ラウラ、ファルコンハートと続く！誰もが上手く飛んでスピードを上げているぞ！』

ターンA「一方、ブリッツさんとセシリアさんが変身するガタック、デスティニーさん、チルノさんが遅れて追いかけています。途中で当たってますが1個の時に上手く上げてます…オーズ・サゴーゾコンボに変身した楓さんは…』

オーズSGC「わっ、とと…速く行かないと…」

ラハール『…おい、当たってはいるが全然スピード落ちてないぞ？』

ＤＸ『資料によるとオーズ・サゴーゾコンボは攻撃と重力を操る事に防御力に特化してるそうだからＩＳと合いさって落ちないんじゃないか？』

プリニー『…もしＩＳがなかったら確実にビリッケツッスね』

束『そうだろうね～』

パパン！！パパパパパパン！！！パン！

ステイメン『だれか、ゴールについたよ！』

ＤＸ『着いたのはどうやら最初はネクサスで次にガタックの様だな、ガタックはクロックアップを使用して一気に１位に出ようと思ったけどそれに気づいたネクサスが同じ様にクロックアップを使用した様だな』

ターンＡ『その後に椛さんとラウラさんにルイージさんが同着、遅れて終さん、ファルコンハートさん、追い上げを見せたチルノさんにデスティニーさんがゴール、少ししてハードルでこけた鈴さんがゴールの模様です』

束『ほぼ同着だから…残ったブリちゃんかかえちゃんのどっちかが先にゴールすればゴールした方のチームの勝利だね』

プリニー『見るからにブリッツさんはどうやらハードルでこけて大幅にダウンした所で楓さんと並んだようッス！』

ラハール『どうなるのだ？』

ブリッツ「負けないでござる！！」

オーズＳＧＣ「いっけえぇぇぇ！！」

パパン！！

ＤＸ『２人共ゴールした！！』

プリニー『はたして結果は！？』

ガルマドップ『次回に続く』

明久＆一夏『先送りかよ！！』

運動会！ってこれ相手側他のコラボでやってるよね！？ｂｙガンダム　その３

はたして結果は！

ネス「どうなるのやら～」

リュカ「感想を待ってますｍ（＿＿）ｍ」

運動会！ってこれ相手側他のコラボでやってるよね！？ｂｙガンダム　その４

ＤＸ「今結果が発表されるぜ！」

ターンＡ「これは…」

ステイメン「はじまります！」

運動会！ってこれ相手側他のコラボでやってるよね！？ｂｙガンダム　その４

ＤＸ『結果を発表するぜ！』

ターンＡ『勝者は…』

一同「……」

ステイメン『ＩＳチームの皆さんです！オーズ・サゴーゾコンボの腕がゴールをこえてました！タイムもわずかな差でＩＳチームがはやかったです！』

終「良し！」

楓「やっ、やった…」

ラウラ「良くやった楓！流石私の嫁だ」↑楓に抱き付く。

椛「ちょっとなに楓に抱き付いてるのよ！」↑と言いつつ楓に抱き付く。

鈴「そっちこそ楓に抱き付いてるじゃない！」

セシリア「そうですわ！」

シャルロット『う～』

楓「あっ、あの皆さん」↑抱き付かれて顔を真っ赤にしている。

ブリッツ「無念でござる～」

ジャスティス『いやブリッツは頑張ったよ』

バスター『そうそう、ホントに頑張ったぞ；』

ガルマドップ『それじゃあ戻って来てくれたまえ』

～会場～

デスティニー「一勝は取られたか…」

チルノ「大丈夫！次で取れば良いんだし！」

明久「そうだね」

一夏「この調子で行けるか」

終「油断しなければな…」

ガルマドップ「と言う訳で次行ってみよう～」

ステイメン『次のきょうぎは綱引きです！』

千冬「！」↑綱引きである意味苦い思い出がある人

一夏&ラウラ「……」↑その時のを思い出して顔を赤める2人

終「…；」↑千冬の思いっきり苦い思い出を作った張本人

箒「一夏？」↑木刀装備

一夏「待て待て待て！」

ラウラ「違うからな楓！私の嫁はお前だからな！」

楓「はい；」

ＤＸ『これは全員参加だからルーレットはＩＳチームが使うライダーを決めるのだぜ！』

プリニー『何になるんッスかね～？』

ラハール『そうだな……ん？響鬼系ライダーと言う奴は入ってないぞこれは？』↑一通りライダーの知識を覚えたからの発言

ステイメン『そこらへんはガルマドップさんが千冬さんの事をこうりょしてとの事です』

束『何かあったのちぃちゃん？』

千冬「聞くな」

束『？まっ、いいや！……それ！」

ジャラララララ…ガチン！！

ＤＸ『決まったぜ！ライダーを使うのは千冬と箒…ん？』

ターンＡ『あれ？』

デスティニー「？どうした２人共？」

チルノ「トラブルでもあったの？」

ＤＸ『いや…まあ……そうじゃないけど……発表するぞ…』

ターンＡ『２人が変身するライダー“少女”は…千冬さんがブレイドたん・キングフォーム、箒さんは龍姫です！』

千冬＆箒「……はっ？」

終「待て待て！何だライダー“少女”って！？」

デスティニー「ライダーを女の子にした感じの奴だけど…何で入ってるんだ？」

シャア「おい！ガルマドップ」

ガルマドップ「いや～まさか作者の脳内で書こうと思っているオーズとオールライダーの小説で使うと言うのがあったから気まぐれで入れてみたら当たるとはね～」

フォックス＆スネーク＆銀八＆ルイージ「おいいいいいいい！！何してんのお前！！？」

明久「ああ！あまりの事に今だ質問が着てない銀八先生も入ってのツッコミが入った！！」

んで…

ブレイドたんＫＦ「……」↑外見は深い青のレオタードの纏い、その上にブレイドＫＦとブレイドＪＦのを混ぜた感じの鎧を纏い、足に深い青のニーソックスの上にブレイドＫＦの足部分を鎧にしたのを纏い、頭に？を模した髪飾りを付けている。

龍姫「これは……」↑外見は金色の龍の模様が入った赤いチャイナ服に左腕にドラグバイザーを装着し、頭に龍の顔を模した髪飾りを付けている。

ムッツリーニ「……」↑２人の写真を撮っている。

ラウラ「凛々しい…」

セシリア「確かに…」

楓「これはこれで凛々しさを分かりますね」

椛「（ある意味コスプレに近くない？）」

一夏「にっ、似合ってるぞ箒」

龍姫「そっ、そうか…」↑褒められて赤らめる

束『ちぃちゃんかっこいい！凄く良いよ！』

ブレイドたんＫＦ「……さっさとやるぞ」

ガルマドップ「ちなみにライダー少女だけど能力はライダーと変わんないから」

ネオス「それだったら油断出来ないね…」

ムッツリーニ「……うむ」

美鈴「頑張らないと」

デスティニー「良し！」

ブリッツ「挽回するでござる！」

ルイージ「頑張ろう！」

ＤＸ『両チーム！位置に付いたな！』

プリニー『色々と油断ならないッスね』

ラハール『そうだな』

ターンＡ『それじゃあお願いします！』

マリオ「それじゃあ…よ～～い…初め！！」

両チーム「！」

ＤＸ『さあ、綱引きが始まったぜ！！』

ターンＡ『両チームともに一歩を譲りません！』

ラハール『スマハツチームは力自慢の奴等もいるが…ＩＳチームは

変身してる2人以外に織斑　一夏が奮闘してるからだろうな…』

プリニー『色々と見せたいお年頃ッスね～』

束『ちぃちゃん頑張れ～』

ガルマドップ『それにしても千冬氏のカップリングはどうなるのだろうね～やっぱり千冬×束？』

シャア『今はそれ関係ないだろ、しかも本人いるから後で拳骨かチョーク喰らうぞお前；』

ガンダム『それよりもロイヤルストレートフラッシュが来るんじゃない；』

ブレイドたんＫＦ「（絶対やってやる！）」

ＤＸ『おおっと！ブレイドたん・キングフォームになった千冬がラストスパートとさらに力を込めたぞ！』

ガンダム『来るね絶対…；』

フォックス『ファルコ～』

ファルコンハート「何だ！こっちは忙しい…」

フォックス『綱引きで負けたら…咲夜とエインにエンジェがその姿で色々と恥ずかしい格好をさせるだってさ（黒い笑顔）』

ファルコンハート「うぉぉぉぉぉぉぉぉ！！！！！」

ファルコンハート以外の綱引きしていた一同「うわっ！」

ＤＸ『ああっと！フォックスの一言で最後尾にいたファルコンハートが全員を空中へ浮かばせる位に引っ張った！』

ターンＡ『それにより綱も一気にスマハツチームへ引っ張られました！』

マリオ「そこまで！勝者、スマハツチーム！」

ＤＸ『決まった！これでスマハツチームも１勝を得た！』

ターンＡ『次で最後ですので楽しみにしてください！』

ステイメン『今回はここまで、次回でラストです♪』

なお、ガルマドップはまだブレイドたんＫＦだった千冬によりロイヤルストレートフラッシュを貰ったのであった。

運動会！ってこれ相手側他のコラボでやってるよね！？ｂｙガンダム　その４

ガルマドップ「いや～喰らっちゃったよ～」

シャア「それで無事なお前って…」

ガンダム「次回は何になるんだ？」

ネス「感想を待ってま～す」

運動会！ってこれ相手側他のコラボでやってるよね！？ｂｙガンダム　その５

ＤＸ「ラストだぜ！」

ターンＡ「最後のは…」

ステイメン「スタートです！」

運動会！ってこれ相手側他のコラボでやってるよね！？ｂｙガンダム　その５

ムッツリーニ「……まいど～」

一夏「よし！」

デスティニー「うおい！ホントに買って渡してるよ！」

箒「いっ、一夏」↑顔を真っ赤にしている。

ルイージ「ついにラストだね」

明久「一体なんでしょうね…」

ガルマドップ「ふふふ」

シャア「（またなんかややこしいだろうな…）」

束『おっまたせ～』

ＤＸ『おう！束、どこ行ってたんだ？』

束『ちょっとね～それじゃステイメン君、最後の言っちゃえ！』

ステイメン「はい！さいごのきょうぎはかりものきょうそうです！」

椛「借り物？」

セシリア「競争ですか？」

ターンA『はい！ISチームの皆さんはもう知ってる借り物競争です！』

DX『紙に書かれた物や人物をマリオの元へ先に持って来るんだ…3回やって先に2回持って来た物が勝利だぜ！ちなみに指定された物や人は素直に渡したり、付いて行く様に』

ラハール『ほほう、どう言うのが出るのか楽しみだな』

プリニー『難しいのが出たらやばいッスね』

ガルマドップ「ふふふ…色々と聞こえて来た単語をね…（キラン！）」

シャア「またその展開か…」

ガンダム「大丈夫かな?:;」

DX『と言う訳で束！最初に走るメンバーを決めてくれ！』

束『おう！…ってライダーの項目がないけど?』

ターンA『借り物ですからね。もし変身したライダーが指定されていたのを持ってたら駄目ですから最後はなしです』

鈴「え～」

セシリア「それは…」

ガルマドップ「（パチン！）フォックス！至急アレを」

千冬「（ホントにどこから出してるんだ？）」

フォックス「これでどうか…」

（っその１で渡されたのとは違う楓の写真がぎっしりつまったケース５個）

楓ＬＯＶＥズ「しょうがない（ですわね）（わね）」

終「いやいや！お前等あっさり買収されるなよ！！」

楓「だからどうやって！？」

ガルマドップ「彼は不可能を可能にする写真家だから！」

終「いや！やとわれ遊撃隊のリーダーだろあいつ！？」

ＤＸ『グダグダになるからメンバー決めてくれ；』

束『ほ～い…てりゃ！』

ジャラララララ…ガチン！！

ＤＸ『決まった！最初はＩＳチームは椛、ラウラ、鈴の３人！スマハツチームはチルノ、美鈴とムッツリーニだ！』

ターンＡ『呼ばれた人は移動してください』

～借り物場所～

椛「観客席に近いのね…」

ラウラ「これなら速く行けるな」

鈴「頑張るわよ！」

チルノ「か～つ！」

美鈴「何が出るかな？」

ムッツリーニ「……」

ガルマドップ『なお、移動した時点でそれぞれ持ってる個人物は終わるまで預かるから』

マリオ「そんな訳で…1回目！よ～い」

ドン！

DX『さあ一斉に紙へ向かう！』

ターンA『最初は椛さんとムッツリーニさんが着いて紙を取りました！』

椛「ええっと…『ガオの宝珠』…って誰が持ってるのよ！？」

ムッツリーニ「……『モバイレーツ』…」

ターンA『おおっと！2人共スーパー戦隊のに当たりました！』

ステイメン『観客席に向かう2人のつぎに他の人もきました』

鈴「ちょっと待って！『一晩煮込んだカレー』って誰が持ってるのよ！？絶対持って来てても食べきられてるでしょ！？」

美鈴「ええっと…『ニンニク』…うわぁ、この中でワリオさんを探さないと…」

ラハール『この2人は食べ物…って鈴は不可能に近くないか？』

プリニー『速攻で作っても無理ッスね』

チルノ「『巫女』？それなら早苗だ！」

ラウラ「『シャアの本体』…本体？」

DX『この2人は人だな～』

束『どうなるかなどうなるかな？』

椛「誰がガオの宝珠を持ってるの！？」

エルディ「オレだけど？」

椛「貸してくれないかしら？」

エルディ「どれが良い？」

椛「どれって…何でも良いから！」

チルノ「早苗～一緒に来てくれない？」

早苗「喜んで！！」

文&白蓮「ｏｒｚ」↑それぞれ自分も巫女だったらと落ち込んでいる

大妖精「頑張れチルノちゃん！」

ムッツリーニ「……モバイレーツを…」

黒狼「はい」

美鈴「ワリオさん！ニンニク貸して下さい！」

ワリオ「わりぃ、持って来た分、全て食べた」

美鈴「そうですか；」

鈴「誰か！一晩煮込んだカレーを持ってない？」

ヨッシー「すいません、あったんですけど」

カービィ「競技始まる前に食べちゃった☆」

鈴「やっぱり；」

ラウラ「付いて来てくれ」

シャア「んじゃあガンダム、叩いてくれ」

ガンダム「こうか？（ガン！）」

シャア本体「ちょっと強いぞ」

ラウラ「…どう言う仕組みなんだ？」

DX『鈴と美鈴を除いた４人がそれぞれ指定されたのを持って走る！』

ターンA『最初のに持って来るのは…』

椛&ムッツリーニ「これ！」↑持って来たのもガオライオンのガオの宝珠、モバイレーツ

ラハール『最初に来ていた2人だな…』

プリニー『どっちが先に…』

マリオ「……若干の速かった椛！」

ステイメン『と言う訳で1回目はISチームです！』

DX『これでスマハツチームは後がないぞ！』

束『と言う訳で2回の走る人は…これだ！』

ジャララララ…ガチン！！

ターンA『2回目はISチームは千冬さん、シャルロットさん、終さんで、スマハツチームはブリッツさん、ファルコンハートさん、ヘビーアームズさんです』

千冬「行くぞ、デュノア、黒谷」

シャルロット「はい！」

終「（どんなのが出るのやら）」

ブリッツ「頑張るでござる！」

ファルコンハート「（嫌な予感するな…）」

ヘビーアームズ『頑張る！』

マリオ「それでは…2回目、よ～い」

ドン！！

DX『全員一斉に飛び出して同時に取った！』

終「俺は…『グリード5人のコアメダル各1枚ずつ、黒狼のなし』…っておい！」

ブリッツ「『選手以外のIS』…無理でござる！！」

千冬「『烈火大斬刀』…」

ファルコンハート「『吸血された時に出る血』……（遠い目）」

シャルロット「ええっ!?『スキマ』ってどう持って来るの!?」

ヘビーアームズ「!」↑ガイアメモリ

DX『各選手急いで観客席に向かう!』

ターンA『誰が先に来るんでしょうね…」

ラハール『1名…思いっきり哀愁を漂わせてたぞ』

プリニー『まるで運命が決まったって感じッスね』

束『おっ、そう話してる間に誰かが…』(ちょっ、フランにお空、止め!アーーーー!)

ヘビーアームズ「!」↑右手にガイアメモリ(何しようとしてるんだ!?ってかそれドクターの!?)

DX『ヘビーアームズだ!ヘビーアームズが向かっているぞ!』(えっ?親切なお姉さんに貰ったって?)

千冬「急がなければ!」(やっ、止め、アーーーー!)

ターンA『その後を烈火大斬刀を抱えた千冬さんが追いかける』(そっ、そこは…うむっ!?)

束『凄いね~ちぃ~ちゃん』

プリニー『けれど距離があったから…』

ヘビーアームズ「！」↑マリオにガイアメモリを見せる。

マリオ「ＯＫ！」

ステイメン『２回目はスマハツチームのしょうりです！』（ふぅぅぅぅぅぅ！！）

ＤＸ『ついにラストだ！どう転んでも待ったはなしだ！』

楓「頑張ります！」

一夏「どう言うの出るんだ？」

箒「頑張らないとな…」

ルイージ「何が出るかな…」

明久「実況とか喋っている間にファルコさんの声してたよね？普通に…；」

デスティニー「何があったんだろうな…；」

マリオ「ラスト！よ～い」

ドン！！

ＤＸ『さあラストで全員走って何を持って来るんだ！？』

メンバー「『マリオの帽子』…って、え？」

ラハール『なんと！全員同じのか！？』

プリニー『ああ！？しかも何時の間にかマリオさんの頭から帽子なくて色々と似たのが散らばってる！？』

束『おお～つまり、本物の奴を見つけたチームの勝利とも言えるね！』

一夏「おいおい…どれも似て過ぎて分からん…」

箒「これだ！」

ＤＸ『おっと！箒が先に見つけたのか判定は！？』

マリオ「Ｍの左部分に点が付いてるから違う」

ターンＡ『違った様です』

ラハール『一体誰が手に入れるんだ？』

楓「やった！」

ルイージ「あちゃあ！」

ステイメン『あっ！楓さんが見つけたようです』

マリオ「……うん、俺の帽子だ」

ＤＸ『決まったぁぁぁぁ！！優勝はＩＳチームだ！！』

ガルマドップ「いや～良い勝負だったね～」

マリオ「ああ！手に汗握る運動会だった！」

楓「今日はありがとうございます！」

ルイージ「うん！これから頑張ってね！」

楓「はい！」

マリオ「あっ、楓…このカードを持ってくれ…これはな…」

運動会はＩＳチームの優勝で決まった。トロフィーを持って楓達は元の世界に戻った。

ルイージ「そう言えば…椛ちゃんは何時戻るの？」

ガルマドップ「あのまんまだけど？」

デスティニー「ええ！？」

マリオ「彼女には危険が迫れば自動的に椛が楓の所にテレポートされるのを持たせたから大丈夫だ」

ドクター「お～い誰か“女性同士でも子供が作れるよ君”を知らないかい？１ダースないんだよ」

フォックス「…それ持って行ったの誰か分かる気がする…」

スネーク「奇遇だな…俺もだ」

千冬「ん?束、それは何だ?」

束「ちょっとしたお土産~」

楓ＬＯＶＥズ「（これさえあれば楓と…！）」

楓「何か…着そうが気がします；」

ガルマドップ「ちゃんちゃん」

運動会！ってこれ相手側他のコラボでやってるよね！？ｂｙガンダム　その５

マリオ「ふう～終わったな～」

ルイージ「そうだね」

キノじい「マリオ殿！ルイージ殿！」

マリオ「どうしたキノじい！」

キノじい「姫様が攫われましたじゃ！」

ルイージ「マジで！？」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　銀の侍と４人の女神　－　第別訓パート２

マリオ「今回は真王のコラボパート２だ！」

ルイージ「プリニーラハールさん！もう少し待ってください！ｍ（＿＿）ｍ」

マリオ「まさか姫が攫われるとはな…」

ルイージ「しかも運動会直後だよ…」

νガンダム「いきなりだねホント」

ピーチ姫が攫われた方向へ行きながらマリオ、ルイージ、νガンダムと喋る。

運動会が終わった直後にキノじいからピーチ姫が攫われた事を聞いたマリオとルイージはすぐさま他のメンバーと共に姫の救出へ向かった。

ちなみに3人以外にウイング、デスサイズ、ブリッツ、デスティニー、ダブルオー、ソラ、リク、ギャレン、アクセル、アビス（仮面ライダーの方）、オーガ、エターナル、ソニック、ドクターのメンバーである。

ブリッツ「しかし…攫ったのは誰でござるか？」

アクセル「影だけだからな…流石にな…」

ブリッツの言葉にアクセルはエンジンブレードで肩をトントンしながらそう呟く。

アビス「ってか俺たち変身した状態で良いの？」

オーガ「そこはツッコムな」

エターナル「そうですよ…ん？あれは…」

アビスの言葉にオーガとエターナルがそう言った後にエターナルの目にある集団が目に入る。

その集団は真王の所のネプテューヌ、銀時、なのは、フェイト、神楽、桂、はやて、ヴィヴィオにリィーンの所のビビであった。

エターナル「みなさ～ん、あそこを見てください！」

その言葉に全員がエターナルの指した方を見て、一方の銀時達も気づいたのかこちらを見る。

銀時「つまり、オタク等は攫われた姫様を助ける為に歩いていて…」

マリオ「そっちはハートレスでありながら魔王になったベヒモスの退治に行く途中だったと…」

リク「そんなハートレスもいるのか…」

ソニック「ある意味、ハートレスの神秘だな」

少し進んだ先で休める場所があったのでお互いに情報を交換し、リクは岩に背を預けて呟くと寝転がったソニックがそう言う。

ビビ「……」

そんな中でビビは猫の様にマリオを威嚇していた。

桂「むっ？どうしたのだビビ殿？」

神楽「そうネ、どうしたアルよ？マリオを睨んで？」

マリオ「ちょっとな」

ビビ「ちょっとな…じゃないわよ！何よ！ほとんど私の攻撃とか皆を無効化しちゃったりとか！一体何よあれ！？」

それに気づいた桂が話しかけ、神楽がマリオを見て聞くとマリオがそう呟くとビビが叫んで言う。

ルイージ「兄さんはね…幻想郷風に言うなら『ありとあらゆるチートとバグに神より授かりし力を無効にする程度の能力』…つまり、チートやバグに値する能力や神様の力や神様が作り出した力を無効化する能力が生まれ付き持ってるんだ…しかもそれは誰にも無効化されないんだ…神でも無理なんだ」

はやて「なんやそれ！？チートやないか！？」

なのは「それがどうしてビビちゃんに？ビビちゃんは普通そうだけど？」

マリオ「普通じゃないから無効化されるんだよ…ちなみにチートじゃない奴や元の持ち主の奴は無効化されない」

フェイト「えっ？」

ルイージの説明にはやては驚き、なのはは首を傾げるとマリオがそ

う言う。

マリオ「ビビ、能力を使っての信頼なんて消されたらもうない…信頼ってのは…地味に繋げて行くもんだ…取られたくなかったら…ガッチガチに硬い絆を繋げ…起源とか能力とか関係なくな…」

ビビ「……」

マリオの言葉にビビは黙っていた。

ダブルオー「もう良いんじゃないか？」

マリオ「そうだな」

ネプテューヌ「それじゃあ元気に行こう！」

ダブルオーの言葉にマリオが同意した後にネプテューヌがそう言う。

休憩を終えた後にマリオ達はなのは達と共に進む。

途中、色んなモンスターが現れたがぶっ飛ばして行く。

ウイング「弱いな」

デスサイズ「いや…この人数でしかも何人か強力な攻撃してるからだろ；」

ギャレン「だな」

ヴィヴィオ「凄い凄い！」

アクセル「ってか何でバリキオンを出してヴィヴィオ乗せてんだよ、しかも大人モードで；」

ギャレン「危ないだろ？それに大人モードならちゃんと掴めるし」

なのは「なっ、なんかすみません；」

撃ちながら言うウイングにデスサイズは斬りながらそう言い、ギャレンも同意してバリキオンにヴィヴィオを乗せてるのにアクセルはツッコミを入れて、なのはは頭を下げる。

突き進んで行くと…

ピーチ「マリオ！」

檻に囚われたピーチ姫とそれの前に立つベヒモス、いや、魔王だからキングベヒモスがいた。

マリオ「お前か…仲間である姫を返して貰うぜ！」

ビビ「えっ？」

キングベヒモスに叫ぶマリオにビビは驚くがマリオはそれを気にせずにマリオはゼロバックルを装着する。

マリオ「ＫＡＭＥＮＲＩＤＥ！！」

ゼロバックル「ライダーアップ」

叫ぶと同時にゼロバックルの右に付いてるレバーを引き、音声と共に赤と青の二重のサークルを含むエネルギーの球体が現れ、その中でゼロの姿が形成され、装着者がそれと重なる事で仮面ライダーゼロＴＦに変身する。

ゼロＴＦ「キャフトオフ！」

叫ぶと同時にウルトラフォームへフォームチェンジするとキングベヒモスへ飛び出す。

ルイージ「やっぱ驚いてる？」

ゼロを見るビビにルイージがそう聞く。

周りが現れたハートレスの集団と戦う中、ルイージは戦うゼロを見ながら言う。

ルイージ「兄さんはピーチ姫を大切な仲間として認識しているんだ……それに、君の持つ知識とは違う歴史を兄さんは歩んでいる」

ビビ「…どう言う風に？」

デスティニー、フェイトとデスサイズが切り裂き、ウイングとなのはが相手を打ち抜く中、ルイージは続ける。

ルイージ「兄さんに聞いた話だけど…兄さんは5歳の時…行方不明になった…その時は別世界に飛ばされてるなんて思いもしなかった…飛ばされた先で兄さんは死にそうになってある人に助けられた」

ビビ「…へえ…その人が現代までに強くしたの？」

話してる間も神楽が蹴り、ソラとリクはキーブレードを振るい、エターナルとソニックはパンチする。

ビビの疑問にはルイージは首を横に振って言う。

ルイージ「…今の強さは兄さんが自分で修行しての強さだよ…１０歳の時にその人は兄さんを庇ってその傷で終わった後に死んだ…兄さんの目の前で」

ビビ「なっ！？」

ルイージの最後の言葉にビビは目を開く。

ルイージ「兄さんは泣いたよ…泣いて、壊れそうになったけど…兄さんは前を向いた。前を向いて２０歳で自分の世界に戻るまで色んな世界を旅して…色んな転生者と会い、能力とかで人の心を操ろうとする人や他人の力を自分だけの力だと思っている人に多く出会い…そう言う転生者が嫌いになった…僕が聞いたのはこれ位だよ」

ビビ「そうか…確かにいるわよね…ってそうじゃなかったら私も会った途端にされないわよね…」

ルイージの言葉にビビは会った時の事を思い出してブルリと震えたがそう呟く。

ルイージ「うん…だからビビちゃん、力や起源を使うなとは言わない…ただ、ホントに危険な時とか、誰かの心が壊れてる時に使って欲しい…勝手な願いだけどね」

νガンダム「ちょっとぉぉ!!喋ってる暇あるなら戦って!!」

銀時「そうだぞ!口を動かすより手を動かせ!」

ドクター「その通りだよルイージ君!動いてくれないかい?」

ルイージが言った後、ファンネルでハートレスを撃ち抜くνガンダムとシルバーソウルを振る銀時が叫び、ドクターがそう言う。

ルイージ「それじゃ!ビビちゃんは兄さんの援護を頼むよ」

そう言うとルイージも加わる。

ビビ「はあ…行くわよ2人共!」

ベアトリーチェ&ワルギリア《はい!》

息を吐いた後にビビはベアトリーチェとワルギリアに声をかけ、それに2機は答える。

ビビ「ベアトリーチェ、モード02、“神魔憑依(アバター・オブ・リンク)”“アルトリア・ペンドラゴン”!!」

走りながらビビはベアトリーチェをモード02に変え、あるキャラの力を持つ神魔憑依(アバター・オブ・リンク)を発動する。

そしてビビの姿は銀髪のところは変わらないが、ある騎士王の衣装と髪型をしていた。

そして手に持った不可視の剣でキングベヒモスで斬った後に来たキ

ングベヒモスの攻撃をワルギリアから二辺が長い六角形の形状のプレートが七枚展開して防ぐ。

ビビ「さっさとピーチ姫を助けるわよ！」

ゼロ「ああ！だからこれを使う！」

そう言うとゼロはビビの肩を叩いた後にカードをゼロブレスレッドに装填する。

ゼロブレスレッド「ファイナル・フォームライド！ゼ・ゼ・ゼ・ゼ・ゼロ！！」

ゼロ「ふん！」

音声と共にゼロは飛び上がるとその体を超絶変形させ、ゼロスラッガーをさらに大きくした感じのスラッガーゼロへとなり、ビビの手に収まる。

ビビ「えええぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！！！Σ（〇□〇）」

銀時「ちょっとぉぉぉぉ！！何か人体無視した変形してないあれ！？」

アビス「ホント凄いよな…」

アクセル「確かに」

驚くビビと銀時にアビスとアクセルは戦いながら呆れた口調で言う。

スラッガーゼロ「驚いてる暇あるならぶった切れ！」

ビビ「ええい！やってやろうじゃん！！」

そう言うとビビは飛び上がり、キングベヒモスの上へ行くとスラッガーゼロを構える。

ビビ「約束された勇者の剣（ゼロエクスカリバー）ッ！！」

今までと違う真名をビビが解放すると共にスラッガーゼロが眩い青い閃光を発すると共にはすべてを飲み込みかねないほどの攻撃を放った。

キングベヒモスはそれに飲み込まれると跡形もなく姿を消滅させ、戦っていたハートレス達はなのは達の手により倒された。

着地するビビとスラッガーゼロからゼロへ戻り、ゼロは着地した後、ビビにサムズアップする。

数分後

ドクター「うん、怪我はないね」

ピーチ「当たり前よ！それよりも…マリオありがとう♪」

マリオ「姫…それは皆に言って下さい。姫を助けるのに手伝ってくれたんですから」

ピーチ姫を檻から出して調子を見たドクターがそう言うとピーチは胸を張ってそう言った後にマリオに抱き付き、マリオは呆れた顔で

そう言った後、ピーチを剥がす。

ビビ「何よ！お礼を言われたのに！」

ピーチ「良いのよ、マリオらしいから…それに私はそんなマリオが大好きよ」

νガンダムやエターナル達にお礼を言うマリオにビビは眉を顰めるがピーチは気にする事なく、そう言う。

ピーチ「仲間を誰より思い、そして仲間を一番大事にするのがマリオの一番良い所よ。例え、仲間扱いでも私は良いの…それにライバルもいるから張り合えるしね」

ビビ「……」

胸に手を当てて言うピーチにビビは無言になるが…ピーチはそんなビビの頭を撫でる。

ピーチ「大丈夫よ！あなたは能力がなくてもこの先会う人達と良い関係を結べるわ♪現に色んな人と結べているじゃない♪」

ビビ「はっ、はい！」

マリオ「姫～帰りますよ！キノじいが心配してましたから！」

ピーチの言葉にビビが返事した後にマリオが呼ぶ。

は～いとピーチが駆け出すその後ろをビビは見ていた。

そんな訳で真王さんのコラボパート２でした！

フォックス「何か…ビビが主にメインな感じだな」

ははは…前回は少なかったからね；

スネーク「逆に増えたと言う訳か…」

ネス「そんな訳で感想を待ってます♪」

魔界戦記ディスガイア　ＩＦ　義兄弟　～第六話　ラハールの挑戦状～アナザー

マリオ「今回はプリニーラハールの『魔界戦記ディスガイア　ＩＦ　義兄弟』とのコラボだぜ！」

ルイージ「メンバーは文中で出すから」

ムッツリーニ「……なお、これは相手のに師父達を入れて少し変えて書いてるのを言って置く」

明久「後、纏めて入れてるよ」

魔界戦記ディスガイア　ＩＦ　義兄弟　～第六話　ラハールの挑戦状～アナザー

～挑戦状配布～編

～魔王城～

挑戦状割愛

ラ「どうだ！なかなかの達筆であろう！」

フ「え、ええ、でも毒蛇の月、呪いの日って魔界歴で言う今日なんじゃ？その手紙間に合うんですか？」

ラ「大丈夫だ、プリニー共に頼んでもうばらまかせた」

エ「殿下、これ、アタシが出ても良いんですか？」

ラ「別に構わんが魔王の権利書なんかないぞ？」

エ「はぁ！？じゃあ何でこんな事を？」

ラ「この間のマデラスのように野心満ち溢れたバカ共を纏めて葬り高らかに魔王ラハールを名乗るためだ！」

レ「へえー」

プ「おいら、生きて帰ったらあの子に告白するつもりなんだーッス！」

カ「どいつだ?不吉な死亡フラグ立てたバカなプリニーは」

ラ「そんなのどうでも良いからさっさと行くぞ!」

他全員「オーー!!」

マリオ（以降　マ）「ちょっと待った!!」

ラ「誰だ!?いきなり現れて!」

マ「俺はマリオ、俺と仲間をあんた達と一緒に戦わせてくれ」

ラ「良いだろう!」

ルイージ（以降　ル）「はやっ!?」

エルディ（以降　エル）「即決だな」

サトシ（以降　サ）「ホントだな」

ソニック（以降　ソ）「別に良いんじゃないか?」

フォックス（以降　フォ）「そうか?;」

ア「良いの?」

ラ「もう挑戦状はばら撒いたから速めに行きたいだろ?それと…見せて貰うぞ」

マ「ああ、見せてやるさ」

～ラハール一行＆マリオ一行移動中～

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

～10人＋9匹　対　約1400体～編

～ブレアの森～

ラ「ふるって参加しろとは書いたが・・・」

カ「集まりすぎたぞこれ！」

サ「いっぱいいいるな…」

レ「いったい何体いるんだろ」

エ「こんなに多かったら解るわけ・・・」

ア「えっと・・・1435体ですね」

エル「分かった奴いるな・・・」

フ「すごいです！どうして解ったんですか？」

ア「数えましたーカイトー褒めてー」

カ「あ、ああ、良くがんばりました」

ラ「とにかく、いちゃちいちゃしてないでこいつらを片づけるぞ！」

マ「俺に任せろ…丁度試したい奴がある…」

ル「もしかして使うの？…朝霧さんから貰った冒涜的な手榴弾を？；」

マ「うん…それ！！」

ドドーン！！

［ぎゃぁぁぁ！］

［ひぃぃ！に、逃げろー！］

倒した数１４００体　逃げた数３５体

一同「・・・すご！？」

ラ「見事なクレーターが出来てるな・・・」

マ「聞いた話によると公園にクレーターを作る程度の破壊力らしい」

エ「どこの公園を例えてるかが知りたいわね・・・；」

ル「確かにそうだね；」

サ「次は誰なんだろうな？」

ラ「行けば分かるだろう」

～ラハール一行＋マリオ一行移動中～

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

～ＶＳサルディア～編

サル「お待ちしてました、ラハール一行ですね」

カ「さっきの奴等とは格がちがいそうだな」

レ「ただ者ではなさそうだね」

サル「我が名は悪魔殺しのサルディア、この剣が葬りし悪魔は２０００を越えるー」

エ「おお！すごい！」

サ「確かに！」

サル「ーとか越えないとか」

三人「どっちなんだ！」

フォ「曖昧だなおい！」

サル「私が剣を振るえば、大地は真っ二つに割れるー」

フ「すごい！割れるんですか？」

サル「ーかもしれない」

三人「だからどっちなんだ！」

フォ「天邪鬼かこいつ；」

サル「さて、どっちでしょう？」

三人「知るか！くらえ！超魔王玉ー！」

ドコーン！

サル「キャアァァ！」

キラーン☆

マ「あっさり飛んで行ったな・・・」

カ「はっ！たあいもねえや」

ラ「全くだな、次に行くぞ」

ア「ちなみに、あの人が倒した悪魔の数は２１１３匹倒していたようで、大地は割れなかったようですー」

エ「２０００越えてた割に弱かったわね・・・というか、何で解るの？」

ア「秘密ですー」

マ「（転生者のようだが・・・何か狙ってる訳でもないし常識ある

から良いか）」

～再び移動中～

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

～ＶＳプリニー～編

フ「あれ？プリニーさん？何でここに？」

エル「同じのが沢山いるんだな…」

ソ「改めて凄いよな」

プ（敵）「おいら達も参加してみようかなーって、さすがにまともに戦ったらやられる事は百も承知ッス」

カ「何か秘策があんのか？」

プ（敵）「そのとおりッス！それッス！」

スタタタン！

プ（敵）「さあ！野球で勝負ッス！」

マ「野球か・・・」

エ「エトナ隊、あそことあそことあそこに行ってきて」

プ「？了解ッス」

カ「爆連発」

ドドドドン！

サ「なんで何もない場所を？」

レ「さっき爆弾が落ちた場所に立って」

プ「？はいッス」

ア「一番近いプリニーまで４メートルですー」

全プリニー「ま、まさか！？」

ル「えっ？まさか！？」

ラ「そのまさかだ！くらえ！」

グドオォォン！！

全プリニー「ぎゃぁぁあああッス！！」

ル「味方のプリニー君達を使ってやっちゃったぁぁぁぁ！！」

フ「・・・」

マ「おい、野球で勝負じゃなかったか？；」

ラ「知るか、さて、行くか」

カ「てか、準備で気付けよ」

プ「それも、そうだったッス・・・ガクッ」

フォ「ご愁傷様（ー人ー；）」

～移動中～

ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

～ＶＳ別次元の魔王～編

「グワッハッハッハッハッ！！小僧共！お前達がクリチェフスコイの息子達か！？」

三人「貴様は誰だ！」

「ワシか！？ワシは別次元の魔界を支配する魔王だ！」

三人「別次元の魔王だと！」

「そうだ！以前、この魔界に侵攻したがクリチェフスコイの奴に邪魔されたのだ！」

レ「以前・・・まさか！６００年前の！」

カ「どうりで義父さんが来ないと思った！」

ラ「貴様の兵がカイトを殺したのか！許さん！」

［やってみるが良い！貴様等などちっぽけな存在だと思い知らせてやる！］

マ「うっさい！！」

バキッ！！

［ぐあぁぁぁぁぁぁ！！］

一同「えっ？」

マ「そう言う奴程相手を見下して自分が弱い事を示してるんだよ・・・考えてなかったか？」

［きっ、貴様、何者だ！？］

マリオ「ただの配管工だ！覚えて置かなくて良い！飛んでけ！！」

ドカーーーン！

［ぐあぁぁぁぁ！！ただの配管工なんかに負けるなんて！！］

ル「（いや、兄さんはただの配管工を超えてるよ；）」

フォ「（しかもディケイド風に名乗ってるし；）」

フ「何のために出たんでしょうね？；」

カ「確かに」

エ「あれ？エリクシルが六本置いてある」

ア「誰かいたようですけど・・・もういませんね」

サ「親切な人もいるな～」

～移動中～

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

～VS虹レンジャー～編

～ブレアの森デスソース前～

赤「待っていたぞ、悪魔共め！」

青「邪悪な闇が迫るとき何処からともなく現れる！」

黄「指名に萌える三つの光が勇気と希望で世界を救う！」

虹「俺達三人そろって、虹色戦隊、虹レンジャー！」

フ「か、カッコイイ！皆さん！私たちも抵抗して決めポーズを！」

マ「んじゃあ！ゴー！」

エル「ガオアクセス！はっ！」

サ「チェンジソウルセット！レッツ！ゴー・オン！」

フォ「忍風！シノビチェンジ！」

ソ「天空！シノビチェンジ！」

マ↓アカ「アカレンジャー！！」

エル↓ガオ「しゃくねつの獅子！ガオレッド！！」

サ↓ゴー「ブレイク限界！ゴーオンゴールド！！」

フォ↓ハ「風が哭き、空が怒る！空忍、ハリケンレッド！！」

ソ↓シュ「Ｉ＇ａｍ　ニンジャ・オブ・ニンジャ！天空忍者、シュリケンジャー！！」

５人「我等！スーパー戦隊！！」

ドドーン！！

フ「すっ、すっごくかっこいいです！！」

エ「と言うか後ろの爆発は何？後、赤が多くない？；」

ル「まあ…スーパー戦隊のお約束だよ；」

フ「もう凄すぎです！…でそちらに疑問が一つ」

赤「疑問だと？よし、言ってみろ」

フ「虹レンジャーなのに全然虹色じゃ無いんですけど、三人だけだし」

アカ「確かにそうだな…言うからには普通は7人だろう？」

虹「俺達は友達が少ないのだ！ヒーローとは孤独な物なのだ！」

ル「謝れぇぇぇ！！色んな世界のヒーローに謝れぇぇぇぇぇ！！」

赤「なぜ謝らなければならない？行くぞ！ブルー！イエロー！へんしー」

エ「やるわよ」

レ「うん」

ダンダン！

ル「変身する前に2人倒しちゃったぁぁぁぁぁぁ！！！」

赤「ブルゥゥゥウウウ！イエロォォォオオオ！なんて事だ！ブルーとイエローが撃たれてしまった！こうなったら金で雇った悪魔達とー」

二人「魔王神玉」

5人「ダイスオーフラッシュ！！」

赤「うわぁぁああ！」

ラ「はあ、さっさと次に行くぞ」

アカ↓マ「そうだな」

シュ↓ソ「やれやれだぜ」

～移動中～

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

～VSバイア・・・中ボス～編

～ブレアの森奥地、デスソース～

中「あいや待たれぇぇぇい！」

カ「なにも！・・・中ボスか」

レ「なんのよ・・・魔王の座か」

中「何でそんなにも落胆するんですか！」

ラ「なぜここ・・・勝負ならもうついたはずだが？」

中「あれが私の本気だと思わないで下さい！」

エ「どういう・・・鍛えてきただけか」

中「鍛えてきただけとは何ですか！」

ラ「あー！うるさい！カイト！レオン！」

二人「りょうかい！」

マ「俺も」

エル→クウガＰＦ（以降　クＰ）「俺もやるか」

サ「決めるぜ！」

フォ「ランドマスター！！」

中「ちょっ！ま、まだしゃべり」

三人「問答無用！トリプルメテオ！」

マ「マリオファイナル！」

クＰ「ブラストペガサス！」

サ「行くぞ！さんみいったい！！」

フォ「発射！！」

中「うわあぁぁぁーー」キラン☆

フ「さよーならー！中ボスさーん」

ル「あっさり星になったな；」

ソ「ホントだな」

エ「これで、終わりですか？」

ア「と言うことはー」

ラ「オレ様が魔王だ！！魔王だ魔王だ！魔王だー！！ハァーハッハッハッハッ！！」

マ「そりゃあおめでとう」

エ「えーっと、義兄だっけ？義弟だっけ？が魔王かー」

カ「何か不満か？義姉？義妹？」

ルイージ「なぜ疑問詞；」

エ「いや、別に不満は無いわよ、それよりフロンちゃん、大丈夫なの？」

フ「何がで・・・はわわわ！忘れてましたー！どどどどうしましょう！」

ア「悪魔か堕天使になったらどうですー？」

フ「嫌ですー！大天使様！どうか私をお救い下さい！」

マ「まっ、大丈夫じゃないか？」

～移動中～

ーー

～魔王城の非日常的な日常～編

～魔王城～～謁見の間～

ラ「クックックックッ・・・クックックックックックッ・・・ハァーハッハッハッハッ！」

フ「あーもー！何度目ですか！その高笑い！いい加減うるさいですっ！」

ラ「何を言うフロンよ、高笑いは魔王の重要な仕事の一つなのだ！」

マ「あ～確かに俺の知り合いもそうだよな…」

フ「魔王になってから高笑いしかやって無いじゃないですか！我慢の限界ですっ！かにみそっ！」

ドッカーン！

ラ「どぉわぁ！」

ル「ありゃりゃ；」

フォ「それじゃあ戻るか」

サ「それじゃあ」

フ「はいはい、さよなら～」

～帰り道～

サ「凄かったな～エル！」

エル「ホントだな、ツッコミ所ある奴もいたけど」

マ「もうちょいプリニーの扱いをマシにしてやってほしいもんだな」

フォ「無理かもな；」

ル「プリニー使っての技を持つ人がいるしね；」

ソ「色々と面白かったぜ！」

と言う訳でプリニーラハールさんとのコラボでした！…プリニーラハールさん、こんな感じでどうでしょうか？；；

スネーク「と言うか…虹レンジャーっていっときながら3色だけとはな；」

クッパ「別次元の魔王も出たが元だとラハール達を圧倒したが後から着た先代魔王の部下にあっさり倒されていたのだ；」

ネス「感想を待ってます♪」

魔界戦記ディスガイア　ＩＦ　義兄弟　～第九話　天使と悪魔と人間と～アナザー

マリオ「と言う訳でプリニーラハールとのコラボ2回目だ！」

ルイージ「今回はメンバーを変えて出るよ！」

～家来とのピクニックの計画～編

～魔王城～

エ「殿下ー、ゲヘナの海でピクニックしませんか？」

ラ「なぜピクニックするのだ？お前とレオンなら大丈夫のはずだが？」

エ「いや、デートじゃ無いし」

フ「地球勇者の皆さんに魔界を案内するので一緒にどうかなーって思ったんです」

ラ「そうか、行くから少し待っててくれ」

エ「はーい」

～魔王城広場～

ラ「そこのプリニー、ピクニックについてこい」

バ「駄目ッス！掃除はきっちりしないとゴキブリが大量発生しちゃうッス！ゴキブリが沢山いる城に住みたいッスか！？」

ラ「い、嫌だな、わかった掃除していろ」

〜魔王城〜

エ「そんじゃ行きましょうか」

マ「またもや待った！！」

ラ「あっ、お前達はあの時の！？」

ル「こんにちは」

ソ「ちょっとメンバー変えてるけどな」

シャドウ（以降　シャ）「此処が…」

テイルズ（以降　テ）「うわぁ…」

ナックルズ（以降　ナ）「何で俺まで」

シルバー（以降　シル）「何でだ？」

ソ「そりゃあリクエストされたからな〜」

マ「んでまあ…俺達も行っていいか？」

フ「良いですよ〜」

〜ラハール一行＆マリオ一行移動中〜

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

～家来とのピクニック～編

～ゲヘナの海～

ゴ「ラッラーン♪ＨＡＨＡＨＡＨＡＨＡ魔界のピクニックがこんなにもエキサイティングとはな！」

カ「なら何で楽しそうなんだよ」

レ「何か企んでるんじゃ？」

ゴ「（ギクッ）ＨＡＨＡＨＡただ純粋に楽しんでるだけだよ」

ナ「いや、今うろたえただろう；」

ア「（そう言えば地球に帰る気だったよね、無理だったけども、鎌かけのつもりで・・・）地きゅモガッ！」

ゴ「うわー！何にも企んでー」

カ「アイリンに触るな！轟炎ナックル・激怒！」

ゴ「ぐああ！」

ル「吹っ飛ばされた！！」

テ「しかも結構入ってたよね！？」

ラ「何をやっているのだお前達は・・・メガヒール」

ジ「優しいわねラハールちゃん」

ラ「ちゃん付けするな！そして近づくな！」

ア「ありがとー、カイトー（まさか速攻で動くなんて・・・）」

マ「賑やかだな～」

ソ「ホントだな～」

シル「いや、超えてるだろ；」

シャ「そうだな…」

～ラハール一行＆マリオ一行移動中～

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

～ラハールの後の親族とフロンちゃんとバールの年齢（ついでに今のレベル）～編

ジ「そう言えばあなた達の年齢はいくつ位なの？」（ＬＶ５３）

ラ「なぜそんな事を聞くのだ？まあいい、オレ様は１３１３歳だ！」（ＬＶ７４）

エ「アタシは１４９０歳よ」（ＬＶ６７）

カ「俺は１３１１歳」（ＬＶ６４）

レ「僕も１３１１歳だよ」（ＬＶ６３）

ア「あたしはー１３１０歳ー（実際はここに来て一年だけどね）」（ＬＶ６１）

フ「私は・・・・・・・・そこそこです」

エ「沈黙長っ！」

フ「い、今は言いたくないです・・・」

ラ「バールの奴はたしか転生して一年と言っていたな」（バールのＬＶは１５）

ア「フロンちゃんの年齢は・・・せムグ！」

フ「い、言いますから！せ、１５０９歳です・・・」（ＬＶ５７）

エ「フロンちゃん、アタシより年上だったんだ・・・」

ゴ「私たちよりもかなり年上だったのか！」（ＬＶ５４）

サ「見タ目ハ年齢ノ１０分ノ１ノヨウデスネ」（ＬＶ５３）

マ「俺は２６歳だ」（ＬＶ不明）

ル「僕は兄さんと同じ」（ＬＶ６０）

ソ「俺は１５歳」（ＬＶ不明）

エ「見かけによらず若いわね」

テ「僕は８歳」（ＬＶ５０）

ジ「もっと若い子いたわね…あなた達は？」

ナ「俺？・・・１６歳だ」（ＬＶ６９）

シャ「・・・一応ソニックと同じだ」（ＬＶ６９）

シル「俺は１４歳」（ＬＶ６５）

フ「ふえ～シャドウさんはともかく、シルバーさんは若いんですね～」

ジ「見た目で決めちゃ駄目って事なのね」

ラ「そうだ、とは言え近づくな！」

～ラハール一行＆マリオ一行移動中～

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

～そろそろ休憩？～編

ラ「そろそろ腹が減ってきたな」

ゴ「そうだな、ジェニファー、お弁当は持ってきたかい？」

ジ「当然よ、ピクニックにはお弁当は必要不可欠だものね」

エ「あ、アタシ、レオンのために作ってきたわよ」↑真っ赤

レ「あ、ありがと、エトナ」↑真っ赤

ア「あたしもー、作ってきたよー（なんだろ、このお弁当嫌な予感が・・・無意識に某ピンク髪の必殺料理人が出てきたような・・・）」

ル「（何かこっちの勘が告げている！後で料理を教えろと；）」

フ「私も持って「隙有りです！」あれ？」

エ「あ！中ボス！皆の（特にアタシの作った）お弁当を返せ！」

中「嫌ですよ！私は腹ペコなんです！お弁当を返して欲しければ追いかけてきなさい！では！」

ソ「どこへ行くつもりだい？」（中ボスの前に回りこむ）

中「えっ？」

ソ→カリバー（以降　カ）「変身！決めるぜカリバーン！」

カリバーン（以降　カリ）「何時でも行けるぞ！」

カ&カリ「約束（エクス）された！勝利の剣（カリバー）！！」

シャ「オマケだ、カオススピア！！」

中「あーーーーーーー！！」

キラーン☆

シル「よっ・・・と・・・」（サイコキネシスでお弁当を受け止める）

エ「ナイス！」

テ「ちょっと可愛そうだったね；」

ナ「けどまっ、持って行こうしたから自業自得だろ」

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

～ラハール達のお弁当吟味～編

マ「それじゃあ食べるか」

ル「僕達は自分達のあるから」

ラ「では・・・」

一同「いただきます！」

～ゴードンの場合～

ジ「それじゃあどうぞ」

ゴ「では・・・美味い！」

～レオンの場合～

エ「アタシのお弁当を召し上がれ」

レ「頂きまーす」

ぱくっ　バタッ！カタカタカタカタ

エ「れ、レオン！？」

ル「・・・・・戻ったら料理教えてあげようか？；」

エ「お願いするわ；」

～カイトの場合～

ア「（嫌な予感するけど…）召し上がれ」

カ「んじゃあ」

ぱくっ　バタン！ババババババババ（魂の持って行かれる音～）

ア「かっ、カイト！？」

ル「・・・アイリンちゃんも参加するかい？；」

ア「お願いします；」

～ラハールの場合～

フ「食べてみて下さい」

ラ「んじゃあ・・・マズッ!フロン、味見はしたのか?」

フ「あり?;」

ル「フロンちゃんも参加…と」

マ「どれも美味いけどな…」（ちょっと食べさして貰った）

ア「（彼女の料理を食べれるって・・・どんな胃の持ち主よ;）」

（なお、倒れた2人はエトナのエスポワールで何とか峠を越え、三人の料理はマリオが美味しく食べました）

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

～三人の花嫁修行～編

～魔王城、キッチン～

ル「と言う訳で・・・ビシビシ行くから覚悟してね」

三人「は～い」

～料理中～

ル「まった!それ塩!」

エ「あっ、あぶな・・・」

ル「んじゃあ次は・・・って何でキッチンに科学薬品が有るのぉぉぉ！？」

ア「ごめんなさいー！それいつの間にか置いてたのー！（ひょういしたあの人が！）」

プ「片付けて置くッスね；」

ル「お願いするよ；」

～～

ル「ゆっくりかき混ぜて・・・慌てずにやる」

エ「はい・・・」

ア「ほっ、ホントに厳しい・・・；」

フ「ですね；」

～～

ル「面倒だからって魔法を使わない様に」

エ「（バレた！？）」

ル「好きな人に食べて貰う料理はじっくりやる！これは料理の基本であり大事な事なんだよ！必死にやるのも良いけど…最初は本とか

を見て手順通りに作るんだよ・・・わかったかい？」

三人「はい！」

ル「僕が言った事、忘れないでね」

三人「はい！」

三人の料理の腕はルイージの丁重な教えにより、８０も上がったのであった。

と言う訳でプリニーラハールさんとのコラボでした～

ルイージ「疲れた…」

テイルズ「お疲れ様；」

ナックルズ「やれやれだな」

ネス「感想を舞ってます♪」

ルイージ「と言う訳で真王さんのリクエスト！パート３！」

スネーク「どうなる事やら」

フォックス「そんなに酷くはならないだとさ」

ネス「速いな；」

銀時「たくよ…何でめんどくさいロストロギアが出て来るんだろうな…」

グレイ「まったくだ」

ネプテューヌ「ぼやかないぼやかない」

ビビ「そうよ。私だってヴィヴィオちゃんと遊ぼうと思っていたのに」

頭を掻いてぼやく銀時とグレイにネプテューヌは宥め、ビビが頬を膨らませて言う。

なぜこの４人が歩いているかと言うとイストワールからのクエストで向かっているのだ。

彷徨うロストロギア、ダークゴーストが転生者を作り出して世界を壊そうと企むので討伐せよと依頼を受けたので着ているのだ。

銀時「一体何なんだろうな…」

銀時の言葉にネプテューヌが答えようとした時…

ヒュン！！

４人の隣を何かが通り過ぎ…

ドドドドドーーーーン！！

４人「！？」

凄い振動と土ぼこりが起こる。

それに４人が驚く中、コードギアスに出るガウェインの指先部分を通常の人の手にし、スラッシュハーケンをクローにしたのをその上に装備したライダーが来る。

ビビ「（えぇぇぇ！？何でコードギアスのガウェインが！？）」

グレイ「誰だ？」

心の中で驚くビビを尻目にグレイがそのライダーに話しかける。

ガウェイン「私は仮面ライダーガウェイン…転生者のグレイ・スティンとビビ・スティンか…それに坂田　銀時とネプテューヌ…君達は帰りたまえ」

銀時「そりゃあ無理だ。ダークゴーストって言うロストロギアを討伐せにゃあならないからな」

４人を見てのガウェインの言葉に銀時がイストワールのクエストの事を話す。

ガウェイン「ならばそれは完遂されている。ダークゴーストはいない…いるのは…ただ成長した弟子と戦う…」

そう言うガウェインの後ろを見て４人は気づく。

遠くだが、近づいて来る男に…

燃える様な赤のツンツンした髪に緑色の瞳、ボロボロのマントを付け、青い半そでと黒いジーンズを纏ったその姿に４人は威圧される。

ガウェイン「師だけだ」

バッカーーーン！！

ガウェインの言葉と共に銀時達の後ろで岩が吹き飛び、そこからマリオが飛び出し、男にラッシュをかける。

男は避けて行き、マリオに蹴りを入れようとし、マリオはそれを避けると男の顔を殴る。

男は後ずさるが、顔を拭った後にニッと笑う。

それに釣られてマリオもニッと笑う。

銀時「おいおい、あの男は何だ？」

ビビ「と言うか師って…え！？」

ぶつかり合う２人を見ながら銀時はガウェインに話しかけ、ビビはマリオと男を見て驚く。

ガウェイン「彼の名は『ジルバ・フォード』…マリオの強さの方針でもある男だ」

ビビ「ちょっと待って！マリオのお師匠さんはもう…」

ガウェインの言葉にビビはマリオと戦うジルバを見る。

ネプテューヌ「それじゃあダークゴーストが蘇らせた転生者？」

ガウェイン「否！彼は転生者ではない。ダークゴーストの力で一時的蘇っただけだ…彼はまた元へ戻る」

ビビ「それじゃあ…また死ぬって事？」

ネプテューヌの言葉にガウェインは力強く否定した後、ビビは聞く。

ガウェイン「ああ、だからこそ、時間が来るまで、２人はぶつかりあっているのだ。持てる力を全力で出し合い、１６年ぶりの師弟の再会と共に実力を見ているのだ」

銀時「そうか…」

ガウェインの言葉に銀時はジルバを見る。

ぶつかり合った後に２人は距離を取る。

マリオ「やっぱあんたはすげぇな！バカ師匠！」

グレイ「バカ師匠？」

鼻を摩るマリオの言った事にグレイは首を傾げる。

マリオ「５歳の時にあんたの世界、アーセクトに飛ばされた俺はあ

んたと出会い助けられ、俺が訓練を付けさせて欲しいで頼んだらヘキサさんと考えたトレーニングで逆さ吊り1時間で全方位からランダムに球が飛んで来たり、大きい岩を背負って腕立て伏せ１０００回をこっちが一度でもへばれば最初っからやり直しを何回もやってくれたよな！」

銀時「いやいやいやいやいやいや！！それ拷問だよね！？普通にトレーニングと言う名の拷問だよね！！」

マリオの言った事に銀時はツッコミをいれ、他のビビとネプテューヌは冷や汗を流し、グレイは呆れた顔をする。

ジルバ「そりゃあ、何回もへばったお前が悪いんだよ！強くなりたいって言ったのはお前だろ？」

銀時「いやいやいやいやいやいや！５歳児にそれは無謀だろ！？」

初めて口を開いたジルバに銀時はさらに言う。

マリオ「他にも色々と付けてくれたよな！」

ジルバ「ああ！ホントお前は泣きまくってたよな！」

ビビ「泣きまくってた！？」

グレイ「それより色々って何をしたんだ？」

２人の会話にビビは想像できないと驚き、グレイは呆れた顔で言う。

マリオ「戻る前に…俺の今の力を刻んでおけよバカ師匠！！」

ジルバ「お前こそ！俺の強さは忘れてないよなバカ弟子！！」

それぞれ咆哮した後にぶつかり合う。

何度も吹き飛べばまた向かって行き、自分達の力をぶつけて行く。

そのぶつかり合いに４人は吹き飛ばされない様に踏ん張り、ガウェインはただ、２人を見ている。

数時間後

マリオ「ぜえぜえ…」

ジルバ「はあはあ…」

平べったくなった地面に寝転がって息を吐く２人。

離れた場所で４人とガウェインはそれを見ていた。

ビビ「それにしても…何で能力とデバイスが使えなかったの？」

銀時「俺が…知るかよ」

首を傾げるビビに銀時は肩を上下させながら言う。

さっきまで、２人の戦いで飛んで来た岩とかを銀時とガウェインが全て防いだのだ。

ガウェイン「それが彼の、ジルバ・フォードの生まれ付きの能力だ

…幻想の都風に言うならば『認め し者以外の全ての能力と力を封印する程度の能力』。彼の前では認めた者以外は能力と力を使えなくなる。それには神も含まれる」

ネプテューヌ「それであの人を見た後から力が上手く出せないんだ」

ビビ「と言うか…マリオの上級版じゃないのそれ；」

ガウェインの言葉にネプテューヌは納得し、ビビは冷や汗を流す。

グレイ「…どうやら戻る様だぞ」

2人を見ていたグレイはそう言う。

ジルバの体はどんどん透けて行っていた。

ジルバ「どうやら戻りの時間のようだ」

マリオ「そうかい！元気にあの世をエンジョイしろよ！」

ジルバ「お前も生き続けろ！んで約束守れよ！」

ジルバの言葉にマリオはそう言い、ジルバはそう返す。

ジルバ「じゃあな！義息子（バカでし）！」

マリオ「あんたこそ！義親父（バカしょう）！」

寝転がったまんま！別れの挨拶をするとジルバはその姿を消す。

起き上がったマリオは肩を回した後に歩き出す。

銀時「んじゃあ俺達も戻るぞ」

ネプテューヌ「あっ、はい」

それに銀時も歩き出し、ネプテューヌ達も後に続く。

ビビが振り返ると、マリオは顔を上に向けていた。

そんな訳でパート３でした！

スネーク「きっと真王は予想してたのと違うのに驚くだろうな…」

フォックス「そうだろうな…」

ネス「感想を待ってます♪」

魔界戦記ディスガイア　ＩＦ　義兄弟　～第五話～リインカネーション～～アナ

フォックス「プリニーラハールのコラボ３回目だ！」

ルイージ「今回は前行った世界のパラレルワールドなんだよね；」

～赤い月の昇る夜～１～編

～魔王城～

赤い月の歌が聞こえてくる。

レ「あ、赤い月だ」

カ「そうか・・・で、何でエトナがこの部屋に？」

エ「いいじゃん、彼氏の居る部屋なんだから」

カ「へーはぁぁああ！？彼氏ぃぃいい！？」

レ「うん、僕ら、つきあう事になったんだ」

カ「レオン、この女の何処が良いんだ？可愛くねーし、ペタンコだ「ラブビーム！」しぃぃいい！危ねぇな！」

レ「次ハ本気ダヨ？」

カ「うわー！謝るから！すまん！つい本当の事「ヘルインパクト！」をぉぉおお！」

ラ「やかましい！今は大変だと言うのわぁぁああ！」

～しばらくして～

ラ「全く、貴様等と言う奴は・・・」

魔王玉でカイトとレオンの部屋をめちゃくちゃにしながら止めた、ついでに今はラハールは仁王立ちで他の三人は正座している。

ラ「プリニー共が居なくなって大変だというのに貴様等はなにしてる！」

レ「だって・・・兄貴がエトナの悪口言うんだもん・・・」

エ「で？何でプリニー達が居ないんです？」

ラ「知るか！」

カ「そう言えば、今日は赤い月が昇っているんだったな、だとしたら、転生しに行ったんじゃないか？」

ラ「転生だと？」

カ「ああ、俺もちょうど転生するんだ、一緒に来るか？」

マ「俺達も連れて行ってくれ！！」

一同「うわぁ！？」

ル「兄さん、いきなり過ぎるよ；」

ソ「Ｈｅｙ，そうだぜ」

ウヴァ（以降　ウ）「まったくだ」

ブリッツ（以降　ブ）「何で拙者；」

デスティニー（以降　デ）「俺もだよ；」

カ「まっ、まあ良いけど」

ウ＆デ「良いんかいヾ（－　－；）」

～ラハール一行＆マリオ一行移動中～

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

～赤い月の昇る夜～２～編

～月渡しの雪原～

「ガサガサ！」

「フオン！」

「うをおおぉぉ！」

プ「うわあぁあッス！」

ラ「くっ！なんだコイツ等は！」

カ「月渡しの守護隊だ、コイツ等は転生するプリニー以外は通さないようにしているだけだ、頑張ってついてきてくれ」

ウ「用心棒って事か・・・」

デ「それ先に言えよ！！」

プ「何でおいら達まで襲われるッスかー！？」

カ「お前等はまだ転生できないからだ！」

エ「コイツ等殺しても良いの？」

レ「殺しちゃ駄目だよ！せめて動けなくする、最悪でも瀕死にしなきゃ！」

フ「瀕死って、ほとんど死んじゃってますよ・・・」

ラ「あー！うるさい！コイツ等は吹き飛ばす！はあぁぁぁ！」

マ「ならば俺も！弱めで」

レ「え！ちょ、殿下！？って！避けなきゃ！」

ル「確かに！」

ラ「魔王玉！」

マ「マリオファイナル！」

［ガサァァァ！］

［ギュウウウン・・・］

［うわぁぁぁ！］

「うぎゃあああーッス！」

ラ「よし、あらかた吹き飛ばせたな、先に進むぞ！」

マ「失敗したな・・・」

フ「確実にプリニーさん達を巻き込んだ声が聞こえましたよ・・・」

ブ「ある意味罪悪感が・・・」

カ「殿下、暴走は悪い癖だからやめてくれよ」

ラ「分かったから、オレ様に冷ややかな目線を送らないでくれ、傷つく」

マ「軽めにしたけど・・・やっぱプリニーは難しい；」

～ラハール一行＆マリオ一行移動中～

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

～赤い月の昇る夜～3～編

フ「そういえば、レオンさん、そのマフラーどうしたんです？」

レ「あ、ああ、エトナから貰ったんだ」

フ「なんでです？」

エ「アタシ達、つきあうから、お互いにプレゼント交換したの」

ラ「何！？レオンとエトナがつきあうだと！？」

エ「なんでそんなに驚くのよ」

フ「二人共、おめでとうございます～、エトナさんのその指輪は結婚指輪ですか？」

レ「ち、違うよ！エトナを守るために作って貰った指輪だよ！」

カ「なんでそこでムキになるんだ？」

レ「ま、まだ結婚できないから・・・」

フ「早くも結婚する予定なんですね！」

プ「ヒューヒュー！熱いッスねー！」

エ「プリニー！うるさい！レオン、殺るわよ！セクシービーム！」

レ「うん！ダークビーム！」

二人「ラブビーム！」

プ「ギャァァァアアアっス！！」

フ「愛の力ですね！すばらしいです！」

ウ「それで吹っ飛ばされてたらきりないだろ；」

デ「確かに」

二人「・・・」↑真っ赤っ赤

カ「ちくしょう、羨ましい！俺も彼女欲しいがこの姿じゃ無理だから早く転生してやる！早く行くぞ皆！」

ラ「なぜそんなに不機嫌なのだ？」

ブリッツ「ジェラシーでござるよ」

マ＆ソ「？」

ル「分かってないなこの２人；」

～ラハール一行＆マリオ一行移動中～

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

～赤い月の昇る夜～４～編

～月渡しの雪原奥地～

カ「ここだ」

レ「・・・なんだか綺麗だなー・・・」

マリオ「神秘的だな・・・」

フ「ええ・・・けど、なんだか切ない景色ですね・・・」

カ「皆、俺の魂が抜けたら、このポーチとマフラーを回収しといてくれ」

ラ「・・・お前の遺産か？」

ウ「それを遺影に飾れって事か・・・」

カ「ちがうちがう、ほっておくと消えるだろうから回収をしておいて欲しいんだ」

ラ「そうか、わかった」

カ「じゃ、数日したらまた会おうか」

エ「うん、じゃーねーカイトー、アタシ達、もうちょっと進展しておくからね」

レ「う、うん、じゃあね、兄貴」

カ「ああ、じゃあな、レオン、エトナ姉、フロンちゃん、ラハール兄貴」

ラ「だから兄と呼ぶなと・・・まあ、今回くらい良いか」

カ「死神よ！俺を転生させてくれ！」

カイトの魂が抜け、カイトの魂が抜けたプリニーの皮からマフラーときっちり転生費の抜き取られたポーチを回収した。

～数日後～

手紙が届いた、手紙には。

［ここどこさ？　カイト］

これだけが書かれていた。

ラ「知るか！！」

デ「どこに転生したんだあいつ；」

ウ「この手紙が届くからに知らない場所なんだろ」

ソ「それじゃあ俺が迎えに行くよ」

～1時間後～

ソ「連れて来たぜ！」

エ「凄いわね」

カ「あー、やっと帰ってこれた・・・皆ただいまー」

黒髪のレオンと同じ姿の青年が帰ってきた。

～ラハール一行＆マリオ一行移動中～

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

～新たなる出会い～編

～魔王城～

カ「ちょっと買い物したいから誰かついてきてくれ」

レ「わかった、エトナも良い？」

カ「ああ、いいぞ」

ウ「んじゃ俺も手伝ってやるよ」

ソ「んじゃ俺も」

～生け贄横町～

カ「えっと、爆弾にスイーツ、新しい剣っと、買った買った」

レ「爆弾以外結構少ないね」

「ちょっ！放して！」

「うへへへ」

「良いじゃねえかちょっとくらい」

「誰か助けてー！」

オーズドライバーU（以降　オU）「クワガタ！カマキリ！バッタ！ガーッタガタガタキリッバ、ガタキリバ♪スキャニングチャージ！」

カ「ドロップキーック」

カリバー&カリ「約束（エクス）された！勝利（カリバー）の剣！！」

ウ→オーズ・ガタキリバコンボ（以降　オG）「ガタキリバキック！」×１０

［がはっ！］

レ「兄貴、それ、ライダーキックだから」

［ら、カイト・レオン兄弟だ！逃げろー！］

［ひぃぃー！］

？「あっ！あの、助けてくれてありがとうございます！、つ、つきあって下さい！」

カ「うん、いいぞ、モロストライクだし」

３人「ハアアァァ！？」

ソ「？」

ア「あ、名前忘れてました！アイリンといいます、不束者ですがよろしくお願いします！」

カ「俺はカイト、よろしくな」

エ「何よこの子の胸！喧嘩売ってんの！？」

レ「お、落ち着いて、エトナ、どんなスタイルでも僕はエトナが好きなんだから！」

エ「あ、ありがと」↑真っ赤

カ「あ、殿下って確か・・・まあ、何とかなる・・・かな？」

アイリンが仲間になった！

～魔王城～

ラ「ぐぁぁ！」

カ「やっぱりか・・・」

ウ「ちゃんちゃん」

デ「済ませるのかよ！」

～おまけ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

銀八「そんな訳で初めて質問着たので始めるぞ～」

蛇八「まあ、１つだけだけどな…ペンネーム『真王』から『真王「まさかそのパターンで来たか」

フロン「うぅぅ・・感動です～～！！これぞ師弟愛の絆ですね！」

ヴァルバトーゼ「師弟の絆か…よいな」

真王「んじゃマリオさん、『師匠と会ってどうだった?』ではまた」『…ではマリオ答えてくれ」

マリオ「相変わらずだったぜ…いや～変わらないなまったく…」

銀八「と言う訳で『真王』さん、廊下に立ってなさい」

蛇八「１つだけなので此処までだ」

銀八「もうちょい欲しいもんだな…」

蛇八「まぁ…そうだな」

と言う訳でプリニーラハールさんの3回目のコラボでした～

デスティニー「何で俺だったんだ？」

ブリッツ「そうでござるな」

ＳＤガンダムフルカラー劇場で好きなキャラだからさ！！

ネス「感想を待ってます♪」

マリオ「今回はｓｉｂｕｇａｋｉの『リリカル銀魂Ｓｔｒｉｋｅｒ
Ｓ　蒼炎の龍』からゲストを召喚だ！」

ルイージ「んじゃあ行こうか！」

ゼロブレスレッド「サモンライド！ｓｉｂｕｇａｋｉ！！」

銀時「うぉ！？」

ティアナ「どこよ此処！？」

ゼロ「ウェルカム！大乱闘スマッシュハーツブラザーズ出張版の世界へ！」

ルイージ「もうお出迎え役だね兄さん；」

スバル「私達を呼んだ理由はなんですか？」

フォルカ「スバルの言う通りなぜだ？」

ゼロ「あんた等に会いたい修羅がいるんだよ…ほら来た」

アレディ「あなたがフォルカ殿ですね。私はアレディ・ナアシュ、人は私を剛錬のアレディと呼びます。そして別世界のスバル殿、初めまして…やはり、世界が違うとその人物の覇気も違うのですね」

スバル「私を知ってるんですか？」

ハーケン「別世界だけどな…俺はハーケン・ブロウニング。さすらいの賞金稼ぎでアレディと同じエンドレス・フロンティアの出身者だ。あんたの事は聞いてるぜ、フォルカ・アルバーグ」

フォルカ「エンドレス・フロンティア？…そこは一体…」

ハーケン「説明するとだな…」

ハーケン、エンドレス・フロンティアについて話し中

フォルカ「成る程…」

ティアナ「そんな世界が…」

銀時「色々といるんだな…」

アレディ「ええ…そこで私は修羅の新たな道を探しています」

フォルカ「凄いな…」

アレディ「いえ、まだ未熟者です」

銀時「…未熟ね…」

アルクオン「……」（銀時の後ろに音もなく出現）

銀時「うぉわ！！」

フォルカ「アルクオン！？」

スバル「なぜ此処に！？」

アルクオン「……」（そのままアレディの後ろに）

フォルカ「成る程…そちらのアルクオンか？」

アレディ「はい、そちらの様には喋れませんが」

銀時「それよりも何で俺の後ろに現れたの？ねえ？」

アレディ「驚かせたかったのでしょうか？」

銀時「いや、疑問詞で返されても；」

ハーケン「しっ、かし、色々な世界を見て来たが…会う人物によってスバルの戦い方や生き様が変わるよな…」

マリオ「特に銀魂とかな…」

スバル「そちらが会った私はどうなんですか？」

ハーケン「俺と同じ賞金稼ぎさ」

アレディ「幼き頃にハーケン殿に助けられ、ハーケン殿やパーソナルトルーパーの戦い方を見て同じ道に入ったとの事です」

ティアナ「へえ～」

ハーケン「ちなみにティアナ、お前も一緒にいたから同じ賞金稼ぎになってたぞ」

ティアナ「そうなの！？」

ルイージ「ホントだよ、ナンバーズの皆と一緒に何でも屋兼賞金稼

ぎをやってたよ」

フォルカ「それで…会う以外に来たのか？」

アレディ「会うのも目的ですが…マリオ殿に教わった覇気を鎧にする事をスバル殿に教えようと思いまして」

フォルカ「何と！？」

マリオ「俺は覇気を鎧の様に出来ないかをアレディに聞いたら実際にしてみてホントに出来たんだよな～」

銀時「やって見ろって言ったら出来ちゃったって方向！？」

ティアナ「何か凄い出来方だな！」

アレディ「では…はあぁぁぁぁぁぁ！！！」

フォルカ「これは…」

スバル「凄い…覇気です」

アレディ「ふん！はっ！せいや！とあ！」（動くごとに溢れ出る覇気が集束して行き、体を銀色のライダースーツとなった覇気が覆い、さらにその上からまだ溢れる覇気が黒き鎧に集束し、腕、足、体と装着して行き、最後に顔がアルクオンを模した仮面に覆われると動きを止める）

銀時「アルクオンになった！？」

アレディ→羅刹「この時の私は仮面ライダー羅刹と名乗っています」

ティアナ「何で動いてたんですか？」

羅刹「その場に立ち止まっても出来ますが…動きは威圧にもなるのとイメージがし易いとも言えますね…しかし、これは集中が切れると失敗します」

スバル「成る程…最初の覇気を出すのは言わば邪魔されない様にも含んだ準備なのですね」

マリオ「そうなるな…まあ、一点に集中させる事も出来るって事だ」

スバル「成る程…参考になります」

羅刹「頑張って下さいスバル殿、それに銀時殿、お2人の上に頭上に、死凶星が輝かぬことを…」

スバル「ありがとうございます…では…坂田　銀時で教えて貰った奴の練習を…」

銀時「ちょっとぉぉぉぉぉ！！いきなりは止めてくんない！！」

ティアナ「他のでやれ！！」

ルイージ「ガンバ；」

ハーケン「修羅ガールも熱心と言えば良いのやら…」

羅刹「はっ！」

フォルカ「ふん！」

ルイージ「こっちはこっちで試合をやってるし；」

～おまけ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

銀八「そんな訳で今回も行くぞ～」

蛇八「まずは質問と言えば良いか分からないがペンネーム『ヒョウガ』から『更新お疲れ様です。もはや拷問以外何物でもないジルバ。誰だって突っ込むでしょうね。一体どんな事をマリオにしたんだ？気になります。そして後悔しそうな気もします。これからどうなるか続きが楽しみです。』…と言う訳でマリオ、答えてくれ」

マリオ「そうだな…岩を背負わせて走りこみを１０周させたり、大

きな球を岩と思って避け続けろを1時間したりで…これもへばれば最初っからだった…良い思い出だな～」

銀八「『ヒョウガ』さん、廊下に立ってなさい！続いてはペンネーム『ユートピア』さんから『楓「ひゃぁう！？／／／」

椛「ふふふ、気持ち良くさせてあげる♪」

一終箒「「「何やってんだ！？」」」

椛「勿論、【ピーーー】に決まってるでしょ」

終「止めろよ！！」

一夏「そう言うのはベッドの上でやれ！！」

椛「それもそうね」↑楓を抱えて何処かへ

終「何やってんだよ！！」

箒「凄い話だったな。一夏」

一夏「あぁ、質問、明久やムッツリーニは仮面ライダーの力をどう思う？」

『あぁ、そこはひゃぁ！？／／／』
『お楽しみはまだまだだよ』
『あぁぁぁん！！／／／』

一終箒「「「何やってんだ！？」」」『…ホントに何やってんだよ

おおおおお！？」

蛇八「まあ…言われた2人、答えてくれ；」

明久「僕にしたら、破壊者にも守護者にもなれる力かな？」

ムッツリーニ「……使い方を誤ればやばい力……」（鼻にティッシュを詰めている）

銀八「はいありがとう。『ユートピア』さん、そちらのコラボ長編頑張って下さい！」

蛇八「次で最後だなペンネーム『ロムスカ王』から『カズマ「無効化能力？それがどうした！そんなもん、俺の拳で突き破る！！」

日向「スクライドのアニメ見たけど、カズマならマジでできそうで怖いよな。」

ゆり「今回はかなでちゃんから質問があるみたい。」

かなで「質問するわ。もしプレゼントをもらえるとしたら、何をもらえると嬉しいの？」

次回も頑張ってください。』…俺だったら新しいダンボールだな…んで代表でこいつ等だ」

マリオ「俺は珍しいキノコや配管工関連の道具だな」

ルイージ「新しい料理の本だね」

ソニック「俺は走れれば良いからシューズだな」

明久「僕は新しいゲームだよ！」

ムッツリーニ「……カメラ」

銀八「と言う訳で『ロムスカ王』さん！廊下に立ってなさい！」

蛇八「今回は此処までだ」

銀八「次回もよろしく！」

そんな訳でｓｉｂｕｇａｋｉさんからのゲストでした～ｓｉｂｕｇａｋｉさんどうでしたか？

アレディ「良き試合でした」

ハーケン「見事な相打ちだったな…」

マリオ「ああ…」

ネス「感想を待ってます♪」

マリオ「と言う訳で真王とのコラボパート４！」

ルイージ「ユートピアさんとのコラボと並びそうだね」

ガンダム「話しの数ではね」

シャア「あれは１つで複数だからな」

銀時「何か最近多いな」

新八「そうですね」

テーブルに肘を付いて呟く銀時に新八は同意する。

銀時の言う多いと言うのは突然、車やガジェットなどが人型に変形して破壊活動すると言う奇妙な事件が色んな場所で起きているのだ。

それにより今、ネプテューヌ、ノワール、ブラン、ベール、アイエフ、コンパ、銀時、新八、神楽、ビビ、グレイを除いたメンバーが赴いて鎮圧に向かっていて、起動六課には除かれたメンバーしかいない。

ちなみに、子供メンバーはアイナと共にお出かけしている。

ビビ「それにしても多いよね～」

グレイ「そうだな…」

ノワール「けれど…誰の仕業かしら」

？？？「それについては俺達が説明しよう」

ビビ、グレイ、ノワールの順に言った時、声がして、それに全員の目がした方にするとマリオとルイージ、ソニックとリンクにロイ、マルス、テイルスとナックルズにマリオの隣に少年がいて、その少

年にビビは驚く。

ビビ「（何でコードギアスのルルーシュがいるの！？）」

ブラン「それよりさっきの言葉…」

アイエフ「何か知ってるの？」

ルルーシュ「ああ、今、この世界で起きてる事件には俺達が追ってる者の仕業…自己紹介だが…俺はルルーシュ・ランページ…こうして変身する前と出会うのは初めてだな、坂田　銀時にネプテューヌ、そして転生者のスティン姉妹よ」

グレイ「…その口ぶりだと…あの時いた仮面ライダーガウェインか？」

ブランとアイエフの言葉にルルーシュが答えた後に、言った４人を見て、グレイの問いにルルーシュは頷いた後、説明する。

ルルーシュ「今、自分達が追っているのは機械獣デウスエクスマキナと言い、車やガジェットなどを己の部下にして人型へと変形させる能力を持っている」

神楽「それじゃあ、暴れまわっている奴等はそのデウスマキナって言う奴の仕業アルか？」

新八「神楽ちゃん、エクスが抜けてる！それだと別のになるから！」

ルルーシュ「…奴がこの世界のミッドチルダに流れ着いて暴れているとの報告を受けたので、至急、マリオの仲間である彼等にも協力

を仰ぎ…」

コンパ「私達にも協力を？」

神楽と新八の漫才をスルーしてルルーシュは言い、コンパが続きを言う。

ルルーシュ「その通り。奴はきっと大量に作っているだろうと考えて、あなた方の所へ来た。早々に討伐せねば、大混乱になる」

銀時「確かにそうだな…んで、そいつの居場所は分かってるのか？」

マリオ「そこ等へんはばっちりだ」

テイルズ「ミッドの廃墟工場に潜伏しているようだよ」

ベール「それじゃあ早く行きましょう」

ソニック「よおし！レッツゴーだ！」

銀時の問いにマリオとテイルズが答え、ベールが言った後にソニックの言葉と共に潜伏してるデウスエクスマキナの廃墟工場へ向かう。

数分後

ビビ「此処？」

テイルズ「うん、反応が此処から出てるからね」

ナックルズ「んで…沢山出るんだろうな…」

ビビの問いにテイルズはパソコンを見ながらそう答え、ナックルズがそう呟くと…

彼の言葉に答える様に沢山の人型に変形した車やガジェットが出て来る。

ソニック「Ｈｅｙ，ナッコー、お前の言う通りに出て来ちゃったじゃねえか…」

ナックルズ「俺のせいか！？」

リンク「それよりも変身しますよ！」

マルス「そうだね！」

呆れた顔で言うソニックにナックルズがそう怒鳴り返すとブレイバックルを取り出すリンクがそう言い、マルスもオルタリングを呼び出し、ロイもガタックゼクターを構え、ルルーシュは黒く塗られたアークル、ガウェインベルトを装着する。

ソニック達も擬人化し、ソニックはカリバーンを構えた後、ナックルズは不満げだったがしぶしぶ、ベルトを呼び出し、テイルズは右手首のＧ３ブレスを構える。

テイルズ「Ｇ３－Ｘ！装着！」

ソ&テ&ル&ロ&マル&ナ&リ「変身！」

ブレイバックル「ターンアップ」

ガタックゼクター「ヘンシン、キャフトオフ！チェンジ！スタッグビートル！！」

ガウェインベルト「フェイスオン」

それぞれの変身音と共にマルスは仮面ライダーアギト、テイルズはＧ３－Ｘ、ナックルズはギルス↓エクシードギルスとなった後に光ると仮面ライダーミラージュアギトに…

リンクは仮面ライダーブレイド、ロイは仮面ライダーガタック・ライダーフォーム、ルルーシュはガウェインに、ソニックは仮面ライダーカリバーに変身する。

マリオ「んじゃあ俺達も」

ルイージ「うん」

２人もそれぞれゼロバックルとコスモスバックルを装着する。

マリオブラザーズ「ＫＡＭＥＮＲＩＤＥ！」

ゼロバックル＆コスモスバックル「ライダーアップ」

マリオはゼロへとルイージはコスモスバックルの両側を押す事で音声と共にルイージの周りに二重のサークルが現れ、その中に光に包まれ、コスモスのシルエットがルイージと重なると共に仮面ライダーコスモスに変身する。

ブレイド「マリオさん達は行ってくれ！」

Ｇ３－Ｘ「此処は僕達に任せて！」

ゼロ「分かった！頼んだぞ！」

ブレイラウザーでガジェットを切り裂き、ＧＸ０５ケルベロスで変形した車を打ち抜いた後、ブレイドとＧ３－Ｘがそう言い、ゼロ、カリバー、ガウェイン、コスモス、ビビ、グレイ、銀時、新八、ネプテューヌ、ベール、ノワール、ブランとアイエフ、コンパが中に突入する。

中に入ったメンバーは目の前の存在に構える。

新八「あれが…デウスエクスマキナ…」

デウスエクスマキナを見た新八が代表で言うと同時にデウスエクスマキナは攻撃をして来る。

カリバー「Ｈｅｙ！お前、確かセイバーと同じ姿で行けたよな？」

ビビ「そりゃあ行けるわよ、けど何で…ああ、そう言う事ね」

カリバーの問いに一瞬ビビは疑問に思ったが納得して神魔憑依（アバター・オブ・リンク）を発動するとカリバーの隣に立つ。

カリバー「んでもって…デルフ！出番だぜ！」

ビビ「（はぁ！？デルフって！？もしかしてゼロの使い魔に出るインテリジェンスソードよね！？って、剣の形が違う！）」

カリバーが叫ぶと同時に取り出した柄に3つの青、赤、緑の球が入った銀色に光る刃を持った剣の名前と自分の知ってる形と違う事にビビは驚く。

デルフ「おう！待ちくたびれたぜ相棒に大御先祖！！」

カリバーン「ああ、思いっきり待たせたなデルフ！行くぞソニック！」

カリバー「ＯＫ！一気に行くぜ！ビビ」

ビビ「ああもう！やってやろうじゃん！」

喋るデルフにカリバーンがそう言った後にカリバーは前方に大きな黄金の魔方陣展開、不可視の剣を構えたビビと共に左手にデルフ、右手にカリバーンを持って突撃する。

カリバー&カリバーン&デルフ「約束（ツインエクス）された！勝利（カリバー）の双剣！！」

ビビ「約束（エクス）された！勝利（カリバー）の剣！！」

黄金の弾丸となったカリバーとビビにデウスエクスマキナは攻撃しようとするが…

ガウェイン「させん！」

ゼロ「デアッ！」

グレイ「爆ぜ、タマモ」

タマモ『“ビッグバン”、発動』

銀時「おらぁ！！」

パープルハート「ギガスラッシュ！」

ガウェインのハドロン砲、ゼロのエメリウムスラッシュ、グレイのビックバン、銀時の攻撃とパープルハートのギガスラッシュにより、気を取られ、気づいた時には2つの黄金の弾丸により、貫かれ、爆発する。

アイエフ「すっご…」

コンパ「2人共、凄いです！」

着地したカリバーとビビに倒し終えたアイエフとコンパが駆け寄る。

ビビ「それにしても…それ何？」

ソニック「ん？ああ、デルフの事か？ハルケギニアに召喚されて、しばらくして手に入れた相棒さ…最初はこんな姿じゃなかったけどな」

デルフ「そうそう！バージョンアップだな！」

ビビ「（はい！？ゼロの使い魔の世界に召喚されたの！？…もうこのマリオの知り合いって知識は通じないっておもっとこう…）」

知らない振りをして変身を解いたソニックに聞いたビビはソニックの口から出た事に驚愕し、脱力してそう心でそう決めた。

それにソニックは首を傾げる。
その後、戻ったなのは達と少し話した後にマリオ達は戻ったのであった。

～おまけ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

銀八「んじゃあ行くぞ～蛇八先生よろしく！」

蛇八「了解だ、ペンネーム『ユートピア』から『楓「あぅぅ／／／」↑お腹が膨れてる

終「何があったんだ！？」

ラウラ「貰った薬で【ズッキューン】や【バッキューン】をやった」

一夏「うわぁ」

箒「何と言うか、なぁ？」

終「はぁ、質問、一番強いのは誰？　教えないと椛を送り込む」

ラウラ「因みに１８回やった」

一終箒「「「関係ないだろ！！」」」』…なに成人向けと同じ数やってるんだよぉぉぉぉぉ！！」

マリオ「バカ師匠」

マリオを除いたメンバー「マリオ（さん）！」

銀八「と言う訳でマリオだそうです。『ユートピア』さん！キャラ達のやる数を控える様に！んで最後はペンネーム『ロムスカ王』さんから『忘れてました。この人から質問です。

ルシフェル「そんな装備で大丈夫か？」』…と言う訳で答えてください」

マリオ「問題ないけど？」

ソニック「同じく」

ルイージ「僕もそんなに…」

ネス&リュカ「ありません」

ルルーシュ「同じく」

明久「めっちゃあるから十分だよ」

ムッツリーニ「……問題ない、十分いける」

テイルス「ないよ」

ナックルズ「普通にないな」

黒狼「フォームとかもあるので」

銀八「と言う訳で『ロムスカ王』さん！廊下に立ってなさい！」

蛇八「今回は此処まで！」

銀八「またな！」

と言う訳で真王さんのコラボでした～

ナックルズ「マジ疲れたな…」

リンク「我々、これが初登場でしたね」

マルス「確かに」

ロイ「うんうん」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　銀の侍と４人の女神　―　第別訓パート５

マリオ「真王とのコラボ！パート５！ちなみに今回は俺は出ない」

ルイージ「そうなんだ」

マリオ「そうだよ、俺でっぱなしだったし」

銀時「たくよ…なんでこんな夜中に出なきゃあならねえんだよ…」

新八「文句言わないでくださいよ銀さん」

神楽「しょうがないネ銀ちゃん」

ビビ「そうそう、起こった時間が今だったんだしさ」

夜のミッドチルダを歩きながらぶつぶつ言う銀時に新八が宥め、神楽とビビがそう言う。

彼等がなぜこんな時間帯に動いてるかと言うと依頼が入ったからだ。

依頼して来たのは夜勤で働く主婦で…

主婦『最近夜な夜な不気味な声が聞こえるのよ。ちょっと怖いから管理局の人と相談して調査させたらその人たちは何かに喰われてたのよ！唯一生き残った局員がガタガタ震えて「袋が…袋が動いて…虫が…」って怖がっていたけど…誰か助けてくれませんか？』

との事で銀時だけ不満だったがそれを受け、４人以外にネプテューヌ、なのは、フェイト、グレイ、レーティア、ジャンヌと共に出向いたのだ。

銀時「ん？」

そして歩いていて、銀時は目の前で調べてる集団に気づく。

ネプテューヌ「あれ?明久君にムッツリーニ君じゃない」

明久「あっ、ネプテューヌ!」

康太「……土屋　康太だ…」

ビビ「(何でバカテスの2人が!?)」

ネプテューヌに話しかけられ、調べていた2人は手を止め、ネプテューヌの方を向き、ビビは驚き、後ろでデビリアス姉妹も驚いていた。

明久「ええっと初めての人は初めまして、吉井　明久と言います」

康太「……土屋　康太、けっしてムッツリーニが名前じゃない…」

神楽「それじゃあ何でムッツリーニって何ネ?」

康太「……黙秘する…」

明久と康太が自己紹介した後、神楽が質問し、康太がそう言う。

レーティア「それにしても…何を調べていたの?」

明久「実はと言うと…先生が追っていた転生者が復活させた奴のがこの世界に来ちゃったんですよ」

康太「……師父は師父で、その転生者を追っている」

ジャンヌ「あなた達が言う先生と師父って誰？」

ビビ「そうそう、教えてくれない？」

レーティアの問いに明久が肩を竦め、康太が言い、ジャンヌとビビがそう聞く。

明久「まあ、ビビさんはあの時ね…」

康太「……俺達の師は赤い帽子をかぶった人と言えば分かる」

グレイ「…マリオか？」

明久は頬をポリポリし、康太がそう言うとグレイが聞き、２人は頷く。

ソラ「お～い、明久～ムッツリーニ～！」

そこに、ソラとリク、ロクサスにソニックとナックルズ、テイルズとシャドウとシルバーが来る。

明久「あっ、ソラ、そっちは？」

ソラ「まだまだ…」

リク「匂いがするが…他にもモンスターがいて、特定しにくいもんだ」

ロクサス「面倒な奴を蘇らせたもんだよな…」

明久の問いに、ソラは首を横に振り、リクとロクサスは肩をすくめる。

グレイ「どう言う事だ？」

ソラ「明久から大体の事は聞いてるよな…その蘇らした奴…俺と友達が倒した奴なんだよな…」

グレイの問いにソラが頭を掻いてそう言う。

フェイト「証言があるんだけど…『袋が…袋が動いて…虫が…』ってなんだけど…思い当たる事はある？」

ソラ「あっ！もう確定だ！そいつだよそいつ」

新八「はやっ！」

銀時「と言う事は…俺達の対象とお前等の探してるのは一緒か？」

リク「だな…」

フェイトの質問にソラは答え、新八の後に銀時がリクを見て、リクも同意する。

ソニック「そんじゃあ早速探しに…の前に」

シルバーの目の前のを相手にしないと行けない様だな」

ソニックが言って、シルバーが構えると目の前にゴーストワーム、ゴーストマン、ゴーストサイズ、ゴーストバブルの集団が現れる。

その後ろで何かが逃げて行くのが見えた。

ソラ「いた！」

明久「ソラ、リク、ロクサスは先に行って！」

ソラ「分かった！銀時達も付いて来てくれ」

銀時「しゃあねえな！」

明久の言葉にソラとリク、ロクサス、銀時、神楽、ネプテューヌ、なのは、フェイト、グレイ、ビビが追いかける。

明久達とすぐそれぞれのライダーに変身し、シルバーとシャドウも擬人化する。

シャドウ「ナックルクロス！」

シャドウが左手を上げるとナックルクロスが装着され、シルバーは腰にＮＥＷデンオウベルトを装着する。

シャドウ「エックス、装着！」

シルバー「変身！」

ＮＥＷデンオウベルト「ストライクフォーム」

シャドウは鷲のモチーフの風の戦士、イーグルセイザーにシルバーはＮＥＷ電王に変身する。

レーティア「うっそぉ…」

ジャンヌ「……」

新八「そりゃあ驚くよね…」

変身したメンバーにレーティアは口を開いて呆然と呟き、ジャンヌは驚き、新八は隣でうんうんと納得している。

カリバー「此処は任せな！デルフ！」

デルフ「早速出番だな！」

カリバーがデルフを取り出し、構えるとデルフの青色の球が光る。

カリバー&デルフ「円卓の騎士の1人が転生せし水龍よ！毒を無効にする霧を作り出せ！ポイズンジャマーミスト！！」

そう唱えると青色の球から水龍が飛び出し、口から白い霧を吐き出す。

それが周りを包み込む。

カリバー「これで奴等の毒を気にしなくてすむぜ！」

ミラージュアギト「んじゃあやってやるぜ！」

ジャンヌ「ようし！シャマッシュ、フォームチェンジ」

カリバーの言葉にミラージュアギトがポキポキさせた後にジャンヌは銀色の首飾りの様なデバイス、シャマッシュに声をかける。

シャマッシュ≪オーライマスター、合言葉は？≫

ジャンヌ「虚無の使い手」

シャマッシュ≪ＯＫ、フォームチェンジ！≫

シャマッシュが言うとジャンヌの体が光る。

治まるとそこにはマントを羽織り、その下に制服（ゼロの使い魔のトリステイン魔法学院の制服）を着たジャンヌがいた。

カリバー「Ｗｈａｔ!?トリステイン学院の服に変わった！」

デルフ「おでれーた！まさかルイズの嬢ちゃん達以外で見るとはな！」

ジャンヌ「（もしかして…才人の代わりに召喚されたのかな？）」

驚いてるカリバーとデルフにジャンヌはそう思いながら何時の間にか持っていた杖を振る。

すると、１体のゴーストワームが爆発する。

Ｇ３－Ｘ「いきなり爆発した!?」

ミラージュアギト「まるでルイズの魔法みたいだな」

イーグルセイザー「今はともかく、殲滅あるのみだ！」

ＮＥＷ電王「そうだな！」

Ｇ３－Ｘとミラージュアギトが驚いてる間、スワン６をイーグルブラスターに装填しながらイーグルセイバーが言い、デンガッシャーＳＭを組み立てたＮＥＷ電王が同意した後に走る。

ミラージュアギト「考える暇もねえか…やってやらぁ！！」

走ると共にゴーストサイズも殴り倒し、ミラージュアギトは襲い掛かるゴーストバブルを倒す。

Ｇ３－Ｘ「無茶しないでねナックルズ！」

カリバー「それがナッコーの何時も通りだろテイルズ？」

イーグルセイザー「まったくだ」

ミラージュアギトの背中を狙ったゴーストマンをイーグルセイザーのスワンシェアーで威力アップさせたＧＸ－０５ケルベロスで撃ちながらＧ３－Ｘがそう言い、カリバーがデルフとカリバーンでゴーストマンを攻撃し、イーグルセイザーはイーグルブラスターでゴーストワームを撃ち抜く。

ネオス「よいしょ！」

ネクサス「……甘い」

ネオスがネオスジャベリンで切り裂き、ネクサスがアームドネクサ

スでゴーストワームを後ろから攻撃する。

ＮＥＷ電王「纏めてやってやるぜ」

超能力で纏めた集団にＮＥＷ電王はそう言うとＮＥＷデンオウベルトにライダーパスを４回セタッチする。

ＮＥＷデンオウベルト「フルチャージ」×４

その後にオーラソードが伸びて行き、それが離れると共に連続で切り裂く。

レーティア「どんだけチャージするのよ…」

新八「確かに」

ジャンヌ「（後で聞いて置こうかな…）」

その光景に一通りファスシニムで倒したレーティアは呆然と呟き、木刀でゴーストマンが殴り飛ばした新八が同意し、ジャンヌが心の中でそう決める。

ソラ「お～い、皆～」

全員を倒した後に倒しに行っていたメンバーが戻って来る。

明久「どうだった？」

ソラ「ああ、なんとか倒したぞ」

明久が聞くとソラはそう言うと説明する。

～回想～

亡霊ブ○ー「ぶはっはっはっはっ！」

ソラ「お前…何回蘇れば気がするんだよ…」

亡霊ブ○ー「ふん！前回はやられたが！今回はお前を倒して今度はあの男を倒す！」

銀時「はいはい、そう言う奴程、やられるってもんだ！」

ネプテューヌ「そうそう！」

グレイ「と言うか…さっさと終わらせる」

亡霊ブ○ー「やって見ろ！」

～回想終了～

ソラ「…んで戦ってなんとか倒したな」

神楽「めっちゃむかつく戦い方だったネ」

銀時「ホント引きずり下ろすのは…んで倒したら倒したでな…」

ソラ、神楽、銀時の順そう言った後、ある方を見る。

なのは「たっ、倒したら、むっ、虫がドパーって…」

フェイト「きっ、きついよ…しかもどこにそんだけ入ってたのって言いたい…」

ビビ「マジで気持ち悪かった…；」

顔を青くするなのはとフェイトに冷や汗を流すビビは心の底からそう言う。

その後、依頼主にあった後、明久達は戻って行った。

～おまけ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

銀八「んじゃあ行くぞ～蛇八先生よろしく！」

蛇八「了解だ、ペンネーム『真王』から『真王「アイナなんてそんな人物……あ、原作でヴィヴィオを世話してたあの人ね」

レーティア「ねぇ作者、次は私達出るのよね？」

真王「その辺は計画している」

ジャンヌ「それじゃあ質問だよ『マリオさんがフェアリーテイルのナツ・ドラグニルのコスプレをするとどんな感じになる？』」

真王「ちなみに彼女が着せるコスプレはその服の使用者の能力が使えるとの事です。簡単なところマリオさんがあれ着たらナツさんと同じ能力が使えます（無論炎も食べれる）」

レーティア「次は私からの質問、『あなた達の中でもてる子って誰？』」

真王「最後に私が質問じゃないですがリクエストをやります」

『最近夜な夜な不気味な声が聞こえるのよ。ちょっと怖いから管理局の人と相談して調査させたらその人たちは何かに喰われてたのよ！唯一生き残った局員がガタガタ震えて「袋が…袋が動いて…虫が…」って怖がっていたけど…誰か助けてくれませんか？（ある夜勤の主婦より）』

『登場キャラ：銀時、神楽、新八、ネプテューヌ、なのは、フェイト、グレイ、ビビ、レーティア、ジャンヌ』

『登場敵：ゴーストワーム、ゴーストマン、ゴーストサイズ、ゴーストバブル、亡霊ブギー（ボス）』

真王「ブギーとはディズニーかキンハ（キングダムハーツの略）のブギーです。連続リクですいません」』…それじゃあ答えて貰うぞ」

マリオ「俺だったらそのナツの技が使えるだな」

ルイージ「ええっと…兄さん、ソニック、明久君、土屋君、ソラ、ファルコ、チルノ、美鈴さん、サトシ、ダイヤ、ナックルズ、黒狼君、ロイ…他にもいるけど知り合いではこれ位」

銀八「多いな！おい！…『真王』さん！次の長編頑張って下さい！」

蛇八「次はペンネーム『ｓａｙａ』から『ひとつ、質問なのですが、ガウェインって、ナックルズと、同人物ですか？ソニックと暗黒の騎士から、ひっぱってきたと思いまして、間違っていたらごめんなさい

それから、執筆がんばって下さい！

次回も楽しみにしています！

次回は、ぜひ、ナックルズたちも活躍させてあげてください。

もちろん、ソニックも！

ではでは、長文失礼しました。

更新、楽しみにしています！』…作者が感想で答えたが別人だ」

銀八「と言う訳『ｓａｙａ』さん！廊下へ立ってなさい！次はペンネーム『ヒョウガ』さんから『更新お疲れ様です。

最強コンボで薙ぎ払ってますね。

もはや誰もマリオさん達には勝てませんね。

質問ですがデルフがバージョンアップしましたがいつバージョンアップしたんですか？気になります。

それとヒュウガではなくヒョウガです。

これからどうなるか続きが楽しみです。』…では本人に答えて貰おう」

デルフ「俺が最初にバージョンアップしたフーケの時でよ～丁度フ

ーケの盗んだお宝である赤の宝玉が相棒に反応して、俺を今の姿に変えてよ、次にレコン・ギスタの一員だと分かったワルドとの戦いで死にそうになっていたウェールズの王子さんが持っていた緑と青の宝玉が収まって、今の姿に収まった訳よ…けれどまあ…その3つの宝玉でウェールズの王子さんを助けたけどな…まさかああなるとはな…」

蛇八「と言う訳で『ヒョウガ』、名前を間違えてすまん！」

銀八「今回は此処まで！」

蛇八「またまってるぞ～」

ルイージ「なんかメインがサブになってるね；」

スネーク「他にもリクエストされてたからこう言う感じなったとの事だ」

どうでしたでしょうか；

ネス「感想を待ってます♪」

修行か…どう言う風になるんだろうｂｙガンダム　（前書き）

マリオ「と言う訳でユートピアとのコラボ2弾だ！」

ルイージ「タイトルの通りにどう言う風になるんだろうね…」

修行か…どう言う風になるんだろうｂｙガンダム

ゼロブレスレッド「サモンライド！ユートピア！！」

終「と言う訳で感想でも言った通り、鍛えてくれないか？」

全員「お願いします！」

マリオ「おう！任せておけ！俺の師のトレーニングで！」

終「いや、流石にマリオの師の練習は；」

マリオ「…なぜ？」

シャルロット「それ以外はないの？；」

黒狼「だったら俺の師とも言える人とやりますか？」

一夏「黒狼の？」

黒狼「はい！…と言う訳でリロード！デュークモン！タクティモン！！」

デュークモン「我々の出番か…」

タクティモン「……」↑終達に後ろを向いて腕を組んでいる。

終「…おい、１人だけ後ろ向いてるぞ；」

黒狼「あ～～…こっちのタクティモンは戦い以外だと人見知りで無口なんですよ；」

一夏「それ、どうよと思うんだが；」

ラウラ「外見と性格が違うと言うのもな…」

デュークモン「だが、実力はあるから油断しない方が良いぞ」

タクティモン「……（ぶんぶん）」

セシリア「…顔を横に振っておられますが？」

鈴「ホントにあるの？；」

デュークモン「謙遜しすぎな所もたまに傷なのだ…（ため息）」

シャルロット「謙遜って；」

千冬「他の誰かを呼んどいた方が良いんじゃないか？」

鈴「他にもいないの？」

黒狼「そうですね…リロード！シャウトモンＸ５Ｓ！ダークナイトモン！デッカーグレイモン！」

シャウトモンＸ５Ｓ「おっ！出番だな！」

ダークナイトモン「ふむ、話しは大体聞いてたよ」

デッカーグレイモン「ぐははは！どーんと胸を貸してやる！」

椛「…ある意味シュールね」

ラウラ「？」

マリオ「そう言えば…楓…太ったのか？お腹が膨らんでるが？」

楓「あう…／／／」

椛「ちょっとね♪」

セシリア「うふふ♪」

鈴「えへへ♪」

シャルロット「あはは♪」

ラウラ「あれをくれた博士には感謝せねばな♪」

セシリア「ホントですわ♪」

マリオ「？」

ドクター「（ああ…使ったんだな…）」

ネス「（妊娠したんですね分かります）」

リュカ「（ネス～；）」

数分後

～練習場～

デュークモン「では…訓練を始めよう」

タクティモン「……！」↑蛇鉄封神丸を構える。

シャウトモンＸ５Ｓ「行くぜ！」

デッカーグレイモン「大暴れだ！」

ダークナイトモン「大暴れじゃなくて訓練だぞデッカーグレイモン」

終「大丈夫か…特にデッカーグレイモン」

一夏「そうだな、あれ、撃つだけじゃあ…」

デッカーグレイモン「良く分かったな、後、格闘も入れる！」

一夏「マジかよ！」

楓『皆さん、頑張って下さい！』

楓ＬＯＶＥズ「勿論！」

終「ホント早いなおい；」

～一夏ＶＳデュークモンの場合～

デュークモン「もう少し早く！そして防御するだけじゃなく受け流すのだ！」

一夏「うわっ！つえぇ…けどやってやる！」

デュークモン「その意思よし！それでこそ修行する価値ありだ！」

一夏「そう言って貰えて光栄だ！」

～終ＶＳタクティモンの場合～

タクティモン「！」

終「おっと！確かにデュークモンの言う通り実力があるな…」

タクティモン「（ぶんぶん）」

終「いや…首振られても…」

～箒＆シャウトモンＸ５Ｓの場合～

シャウトモンＸ５Ｓ「インパクトレーザー！」

箒「くっ！はっ！」

シャウトモンＸ５Ｓ「おっと！へへっ、面白いなＩＳって！」

箒「笑っている暇があるか！」

シャウトモンＸ５Ｓ「分かってるって！訓練には付き合うからには

本気でやるもんだ！」

～楓ＬＯＶＥズＶＳダークナイトモン＆デッカーグレイモンの場合～

デッカーグレイモン「プラズマデッカードランチャー！！」

鈴「うひゃあ！」

セシリア「外見通りの砲撃型ですわね」

デッカーグレイモン「ぐはははは！さっきも言ったが砲撃以外にも格闘も出来るぞ！」

ダークナイトモン「それに、私もいる事を忘れないで欲しい！」

ラウラ「忘れてない！」

椛「だから私達が相手してるじゃない」

シャルロット「そうそう！楓を守る為にさらに強くならなきゃ！」

デッカーグレイモン「ぐはは！ホントに気に入ったぞ！とことん付き合ってやる！」

ダークナイトモン「同じく、訓練とはいえ、勝ちにはさせないよ」

椛「上等！」

～見学場所～

楓「凄い…」

黒狼「そりゃあ俺の先生ですから…並大抵の人には負けないよ」

千冬「しかも、ちゃんと指摘も入れている…デッカーグレイモンはただ、撃ったり、殴ったりだが…」

ドクター「そうだね…あっ、そうそう、楓君のお腹の中の子は全員分、順調に育ってるから」

楓「あうあう…／／／」

千冬「……」

ネス「（ホントに千冬さんのカップリングが気になるネスです…）（ごん！）」↑出席簿アタックを食らった

リュカ「（ネス～～～～！；）」

～1時間後～

デュークモン「ISと言う操縦は良いが…体力づくりも入れといた方が良いだろうな」

ダークナイトモン「確かに、ISが使えない状況を入れといた方が良いだろう」

一夏「まっ、マジ疲れた；」

終「そうだな」

シャウトモンＸ５「けどやるなお前等！」

デッカーグレイモン「まったくだ！とことん頑張れ！」

タクティモン「（コクコク）」↑後ろ向いて頷いている。

箒「その後ろを向くのは修正出来ないのか？」

シャウトモンＸ５「無理だな」

デッカーグレイモン「そう簡単には直らん」

シャルロット「なんだかな；」

椛「ある意味、知ってる奴等から見たら違和感マックスなんじゃない？」

この後、楓と千冬を除いたメンバーはデジモン達により、ＩＳの技術や体力も上がったのであった。

～おまけ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

銀八「んじゃあ行くぞ～蛇八先生よろしく！」

蛇八「了解だ、まあ1つだけだがペンネーム『ヒョウガ』から『更新お疲れ様です。

今回はマリオはお休みですか。代わりに明久達が登場。

今回のメンバも兵揃(つわもの)いですね。

私には彼らの強さに驚きです。

質問です。

マリオ達は一体幾つ変身できるか知りたいです。

これからどうなるか続きが楽しみです。』…ではマリオが代表で答えよう」

マリオ「俺達は大体、仮面ライダーとウルトラマン、スーパー戦隊に変身出来るぞ。仮面ライダーとウルトラマンの2種類に変身出来るメンバーと仮面ライダーとスーパー戦隊に変身出来るメンバーで分けられる。ちなみに俺はあるカードのお陰で色んな奴に変身出来るぞ」

銀八「と言う訳で『ヒョウガ』さん、バカとメダル（欲望）とグリードを頑張ってください！」

蛇八「今回は此処まで！」

修行か…どう言う風になるんだろうｂｙガンダム　（後書き）

ヨッシー「オメデタですね～あっち側」

スネーク「感想でもなってたしな…」

ファルコ「（学生結婚…）」

ネス「感想を待ってます♪」↑帽子の下にタンコブ

リュカ「；」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　銀の侍と４人の女神　ー　第別訓パート６

マリオ「真王とのコラボ６回目！…ちなみにまたもや俺は出ません」

ソニック「代わりに俺や俺が行った世界の皆とグリードとオリマーが出るぜ！」

デルフ「賑やかになりそうだな～」

銀時「たくよ…今度は真珠探しか…」

船の先端で銀時が前を見ながら呟く。

今度はこう言う依頼が来た。

『オウシンジュって知ってるかい？とある島に生息するヤマシンジュの王様さ。普通のヤマシンジュと違って数段大きくてしかも中の真珠が黄金色をしているんだ。黄金の真珠って俺は見た事はないが是非それをコレクションに収めたい。報酬は払うので是非見つけてくれ』

…と偉そうな貴族の男に言われて、銀時は新八、神楽、桂、エリザベス、グレイ、ビビ、レーティア、ジャンヌ、ＳＳＳ団（奏含む）のメンバーでオウシンジュの真珠を取りに向かっているのだ。

銀時「ん？」

ふと、横を見ると、自分達と同じ方向に進む船を見つけ、そして船の先頭を見る。

ソニック「走らせてくれ、頼む！プリーズ！！」

オリマー「落ち着くんだソニック！今は海だからね！君泳げないでしょ！」

アンク「落ち着け！！」

銀時「……何やってんだあいつ等？」

オリマーとアンクに抑えられてるソニックに銀時は呆れの声を出す。

1時間後

銀時「ふ～ん、つまりお前等は遊びに行った時に俺達がオウシンジュを取りに行くのを聞いて興味が沸いたから来たと？」

オリマー「ああ、ヤマシンジュについては知ってたけど、オウシンジュと言うのが聞いた事なかったからね」

走り回ってるソニックを尻目に銀時がオリマー達が来た理由を告げて、オリマーが同意した後に言う。

銀時「しかし…」

銀時はとある方を見て、オリマーははははとから笑いする。

神楽「お前、何で私と同じ声ネ？説明しろ」

ルイズ「知る訳ないでしょ！と言うか何齧ってるのよ！」

神楽「すこんぶあるよ、食べるか？」

ルイズ「いらないわよ！しかもそれ齧っていたのじゃない！」

キュルケ「それで…ダーリンそろそろ止めない？」

タバサ「……もう少し」

イルククゥ「きゅい～楽しみなのね～」

ティファニア「もう走り回って十分じゃあ；」

シエスタ「ですよね～」

ビビ「（うぉぉぉぉ！ゼロ魔のメインキャラがいるよ！！やっぱりソニックが才人の代わりに選ばれたのね…それにしても、後ろの金髪の子とゲームに出た高凪　春奈ちゃんの後ろにいる黒髪の子って誰…ってかどっちともデカッ！？）」

神楽と会話しているルイズとソニックを見ているキュルケ達にビビは興奮し、後ろにいる髪が長いのとある部分が他のメンバーよりデカイ知らない２人に首を傾げる。

同じ様に疑問を感じたジャンヌが聞こうとしていた。

ジャンヌ「あの～後ろにいる人達って？」

ルイズ「ん？…ああ、テュールと才人の事？」

転生者乙女三人「（えええぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！？）」

才人「はうっ！？」

テュール「（何で驚いてるのかな？）」

春菜「だっ、大丈夫だよ才人」

グレイ「？」

ルイズの言葉に乙女三人は驚き、グレイはそんな三人に首を傾げ、ビビに話しかける。

グレイ「（何そんなに驚いてるんだ？）」

ビビ「（だって、才人って私の知ってるのでは男だよ！けれどソニックの方では女の子でしかもあんなボン・キュ・ボンなんだよ！どう会ったか気になるぅぅぅぅ！！）」

興奮するビビにグレイはため息を付いた後に銀時に近づく。

グレイ「そろそろ出発しないか？」

銀時「そうだな…」

オリマー「そうだね、ソニック～行くよ～」

ソニック「分かった」

銀時が頷いた後、オリマーが走り回っているソニックに話しかけて、オウシンジュのある場所へと向かう。

エリザベス『それにしても…どれ位大きいんでしょうね？』

桂「うむ、実際のヤマシンジュを見ないかぎりはな…」

オリマー「ああ…だったらあれだよ」

エリザベスの疑問に桂が同意した時、オリマーが前方を指す。
指した方に大きい二枚貝があり、その開いた中心に大きい真珠があった。

ゆり「あれがヤマシンジュ？」

音無「デカイ真珠貝？」

オリマー「まあ、あれには宝石としての価値はないんだけどね」

新八「えっ？そうなんですか？」

ゆりと音無が言った後にオリマーがそう言い、新八がオリマーの方を向いて言う。

オリマー「ああ、真珠は餌をおびき寄せるためのおとりで、あれは栄養価が高くてそれに誘われたものが貝の中に入り、粘液に包まれた真珠を取り外そうとしている内に殻を閉じて捕食、消化するんだよ」

日向「それはちょっと残念だな…」

ウヴァ「まっ、お土産には良いだろ」

オリマーの説明に日向が残念がるとウヴァがそう言って、オーズドライバーを装着し、自分のメダルを装填してスキャンする。

ウヴァ「変身！」

オーズドライバーU「クワガタ！カマキリ！バッタ！ガーッタガタガタキリッバ、ガタキリバ♪」

不可思議な歌と共にウヴァはオーズ・ガタキリバコンボへとなると１０人に分身し、角の先から電撃を放って、真珠の粘液を吹き飛ばす。

それに真珠はヤマシンジュからポーンと吹き飛び、それを、オーズ・サゴーゾコンボに変身していたガメルが重力を操作して、浮かばして、ティファニアの手に収める。

メズール「ナイスよガメル」

オーズＳＧＣ「えへへ～」

メズールにそう褒められるとオーズＳＧＣは頭を掻く。

その後、進んで行き、途中でもカザリやソニックが変身したり、ＳＳＳ団やレーティアがそれぞれの武器で粘液を剥がしてオーズＳＧＣの重力操作で3～6個の真珠を手に入れて進む。

そして進んだ先で…

銀時「……ホントにでっか！？」

新八「でか過ぎでしょ！？」

目の前にあるヤマシンジュより数倍デカイ2枚貝に銀時と新八が声をあげ、他のメンバーも口を開いて、驚く者と口を手で覆う者とい

た。

オリマー「これは手間が掛かりそうだね」

アンク「しょうがねえ…」

オリマーの言葉にアンクは自分のオーズドライバーを取り出し、メダル3枚を装填するとスキャンする。

アンク「変身」

オーズドライバーA「タカ！クジャク！コンドル！…タージャードル～♪」

不可思議な音と共にアンクはタジャドルコンボとなると、タジャスピナーのオークラウンのセルメダルを全て抜く。

オーズTC「お前等！メダルを貸せ！」

オーズLC「了解」

オーズSGC「分かった」

オーズGC「ちゃんと使えよ！」

メズール「はい」

他のオーズ三人とメズールからメダルを1枚ずつ貰うとそれを自分のコアメダルと一緒に窪みにはめ込み、テーブルを回転させながらオースキャナーでスキャンする。

タジャスピナー「タカ！クジャク！コンドル！クワガタ！ライオン！サイ！シャチ！ギガスキャン！！」

その音声と共にタジャスピナーから４種の色のエネルギーがあふれ出し…

オーズＴＣ「いけぇぇぇぇぇ！！」

咆哮と共に突き出すとタジャスピナーから４色混じったエネルギー弾が発射され、それが命中すると同時にオウシンジュから黄金の真珠が飛び出し、それを銀時と新八、才人と春菜、テュールが布を広げて、オーズＳＧＣの重力操作でゆっくり落ちて来る真珠の下に行って、受け止めると包んで出て来ない様に包む。

春菜「これで終わりね」

銀時「なんもなくて良かったな」

新八「けれど、これを持ち帰るまでが気が抜けませんよ」

テュール「そうだね」

才人「それじゃあ帰りましょう」

才人の言葉と共に全員は同意した後、歩いて帰る。

その後、無事に黄金の真珠を依頼主に渡し、他の真珠は２個は起動六課に置いといたのであった。

マリオ「と言う訳で真王とのコラボだぜ！」

オリマー「あの大きさが凄かったよ」

アンク「次はユートピアとのコラボだな」

ネス「感想を待ってます♪」

俺達の事を記憶しとけよｂｙアクセル（前書き）

マリオ「と言う訳でユートピアとの３回目のコラボだ」

ルイージ「今度はね」

アクセル「俺達が戦うんだよな～」

俺達の事を記憶しとけよｂｙアクセル

それは一夏の一言で始まった

一夏「なあ、そっちにキングダムハーツのメンバーは誰が居るんだ？　戦ってみたいんだが？」

マリオ「ソラ達とか？」

訓練中に一夏の頼みにマリオはそう聞き、一夏は頷く。

終「俺も一夏と同じ様に思っていた」

マリオ「それじゃあソラ達と戦う事も訓練だな」

～数分後～

マリオ「と言う訳で一夏達と勝負してくれ」

ソラ「分かった！」

リク「やれやれ」

ロクサス「ああ！」

アクセル「させと記憶させとけよ？」

デミックス「やるんすか俺も；」

ゼクシオン「やるんです」

サイクス「その通りだ」

終「7人か？」

マリオ「もう2人いるが別世界にいるもんでね」

椛「1人余るわね…」

アクセル「大丈夫だろ、内には2匹操る奴いるし」

デミックス「それ、俺の事言ってるよね！？」

～話し合った結果～（）の部分はソラ達が変身するヒーロー

ソラ（サンダーウイングリュウケンドー）ＶＳ一夏

リク（カブトＨＦ）ＶＳ終

ロクサス（ギャレンＪＦ）ＶＳセシリア

アクセル（アクセルブースター）ＶＳ鈴

サイクス（オーガ）ＶＳ箒

ゼクシオン（エターナル）ＶＳシャルロット

デミックス（アビス）ＶＳ椛＆ラウラ

アビス「ホントに俺2人かよぉぉぉぉぉ！！」

マリオ「と言う訳で始め！」

～ＳＵリュウケンドーＶＳ一夏～

ＳＵリュウケンドー「おりゃあぁぁぁぁぁ！！」

一夏「はあぁぁぁぁぁぁぁ！！！」

それぞれの剣をぶつけ合い、ほとんど直進でぶつけ合う。

～カブトＨＦＶＳ終～

カブトＨＦ「あいつ等…」

終「真正面だな…」

それぞれの攻撃をかわしながら、お互いの親友と仲間のぶつかり合いに呆れた口調で言う。

～ギャレンＪＦＶＳセシリア～

セシリア「やりますわね！」

ギャレンＪＦ「慣れてるからそう言う攻撃に！」

セシリアの攻撃をかわしながらギャレンＪＦはそう言う。

～アクセルＢＶＳ鈴～

アクセルB「おらおら！」

鈴「うわっとと！？戻るチャクラムってあり！？」

アクセルBの投げるチャクラムに鈴は避けながらそう言う。

～オーガVS箒～

オーガ「むん！はっ！」

箒「むっ、くっ！重いな」

オーガの攻撃を受け止めながら弾いた後に箒はそう呟く。

～エターナルVSシャルロット～

エターナル「やりますね」

シャルロット「そっちこそ！」

バードのメモリとトリガーのメモリを使い関心の声を出すエターナルにシャルロットは攻撃しながらそう返す。

～アビスVS椛&ラウラ～

アビス「ホント俺は戦闘向きじゃないんだけどな…」

椛「私達の攻撃を止めながら攻撃してるあんたが言えるセリフかしら？」

ラウラ「まったくだ！」

シタールを弾いて水の壁を作って逃げまくるアビスに椛とラウラはそう言う。

～観戦室～

千冬「誰もがやるな…」

マリオ「だろ？」

楓「だっ、大丈夫でしょうか？；」

それぞれの戦いを見て感想を言う千冬にマリオはそう言い、楓はお腹を撫でながらそう言う。

ガメル「ただいま～」

アンク「戻ったぞ」

黒狼「あっ、皆お帰り、どうだった？」

メズール「もうね、凄い真珠が取れたわ」

ウヴァ「ドッチボール位のだ…ほら、これだ」

入って来たグリード達に黒狼は話しかけ、メズールがそう言った後、ウヴァが背中に背負っていた風呂敷を降ろし、中から3～7個のウヴァが言ったサイズの真珠を見せる。

マリオ「（させ、どう言う風になるのやら…）」

真珠を見て話してるメンバーを尻目にマリオはある方向を見る。

クレイジー「それでデュアルムーンをどうする？」

にとり「やっぱり負担を減らすのを当然で此処は必殺技がいるよね～」

束「後～何しようか？」

マリオ「（…大丈夫かな；）」

話し合うマッド達にマリオは冷や汗を流す。

～数時間後～

ソラ「ふへ～」↑ＷＩＮ

一夏「負けた…」

終「なかなかやるな」↑ＷＩＮ

リク「お前こそな、まさかああされるとは思いもしなかったさ」

セシリア「何ですかあの巨大な砲撃は；」

ロクサス「それは秘密」↑ＷＩＮ

アクセル「どうよ、俺の強さは記憶したか？」↑ＷＩＮ

鈴「十分ね」

サイクス「精進しろ」↑ＷＩＮ

箒「そうさせて貰うさ」

ゼクシオン「いや～負けました。これ、お近づきの漬物です」

シャルロット「これはどうも」↑ＷＩＮ

デミックス「マジ２人は無理だ；」

ラウラ「呼べばよかろう」↑ＷＩＮ

椛「まっ、出しても吹っ飛ばしてたけどね」↑ＷＩＮ

それぞれがお互いを称えたり、渡したりして、話し合ったのであった。

なお、ウヴァ達が持って帰った真珠の内の５個を終達にプレゼントしたのであった。

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

銀八「んじゃあ行くぞ～蛇八先生よろしく！」

蛇八「了解だ、今回は質問の部分だけを…ペンネーム『真王』から『ビビ「そう言う問題？あ、質問、『オウシンジュを見た人たちはどう思ったの？』それと『今回でなかった人たちはオウシンジュ見てどう思う？』。オウシンジュの写真送っとくわ」

真王「では私も、『ところで作者は今回出た女才人は何処から出たんですか？（ニジファンの何処からということ）』そしてまたまたリクエストです」』…では質問に答えるぞ」

行った一同「ホントにデカかった』

マリオ「大玉に使えるんじゃねえ」

ルイージ「これは凄いよね…」

黒狼「でか過ぎです；」

ソラ「デカイな」

アクセル「マリオの言う通り、使えそうだな」

鳴神　ソラ「え～自分が女才人を出したのは此処（にじファン）に投稿されてるｉｇｎｉｔｅｄさんのゼロの使い魔の小説を見てどうせなら性別を変えて才人を出そうと言うアイディアが浮かんだのです…百合もありますが色々と面白いので見てくださいｍ（＿＿）ｍ」

銀八「と言う訳で『真王』さん、廊下に立ってなさい！これは質問

じゃないがペンネーム『葉月』さんから『雪菜「カービィに大好物のマキシマムトマトとスイカをそれぞれ二個ずつ贈ります♪」麻穂「ついでにマリオとルイージにキノピオとノコノコのぬいぐるみを贈るね！」』…それじゃあ送られた三人どうぞ」

カービィ「ありがとう！！」

マリオ「良く出来てるな…」

ルイージ「ホントだね」

銀八「そんな訳で『葉月』さん、次はあなたのコラボをやるので楽しみにしてください！」

蛇八「次はペンネーム『黒龍』から…おっ、あんたの所からだぞ銀八先生」

銀八「おっ、そうかんじゃあ『黒龍「じゃあ最後に質問です。1．マリオに質問ですが、あなたはこれからも強くなろうとしてるんですか？

2．ルイージに質問。一番尊敬している人は誰ですか？

今回はこれで失礼します」

ソラ「じゃあな」

銀時「コラボ頑張れよ～」』…それじゃあ答えてもらうぞ」

マリオ「勿論！強くならなきゃ皆に何かあった時に駄目だからな」

ルイージ「兄さんだよ」

銀八「そんな訳で『黒龍』、そっちの小説を頑張るように！」

蛇八「今回は此処までだ！」

銀八「次回も質問を待ってるぜ！」

俺達の事を記憶しとけよｂｙアクセル（後書き）

マリオ「と言う訳でユートピアとのコラボだ！」

ルイージ「ちょっと戦う所が少なめだけどね；」

言うな；

ネス「感想を待ってます♪」

無双ＯＲＯＣＨＩ　ＩＮ　スマッシュハーツブラザーズ（前書き）

マリオ「今回は葉月の『無双ＯＲＯＣＨＩ』とのコラボだ！」

ルイージ「本人の希望でこの話しは分けてやるからね」

リンク「ちなみに我々も分けて出ます」

マリオ「いってぇ…」

ソニック「いきなりの招待は簡便したいもんだ」

頭を抑えるマリオの隣でソニックも同じ様に抑えながらそう言う。

そして…そんな彼等を人じゃない者達が囲む。

マリオ「やれやれ…」

ソニック「こりゃあ大変だな…」

そう言っているが口元は笑っている…そして…

マリオ「そっちは頼むぜ！相棒（ソニック）！」

ソニック「そっちもな！バディ（マリオ）！」

そう言うと同時に駆け出す。

マリオ「おりゃあ！！たっ！であっ！とあ！」

マリオは両手に師の武器でもあり、師の形見でもある二振りの紅いジャベリン『ブレイブスラッシャー』で襲い掛かる者達を吹き飛ばしていく。

そのまま、マリオは襲い掛かる者をどんどんなぎ倒して行く。

ソニック「とっ！たっ！はっ！はっ！！」

ソニックもカリバーンとデルフで同じ様に襲い掛かる者達を倒して行く。

マリオ「（それにしても…）」

マリオは襲い掛かる者を倒しながら端に見える城を見る。

マリオ「（なんて禍々しい気だな……）」

そう心の中で呟いた後、また来た者をなぎ払う。

ソニック「それにしてもマリオ、此処はどこなんだ？」

マリオ「さあな…ただ、俺達を帰す気が全然ないって事だな」

背中合わせになった時、ソニックの問いにマリオはブレイブスラッシャーを構え直しながらそう言う。

？？？「ほう、突然現れてあの者達以外で暴れまわってるのはあなた達ね」

その言葉に襲い掛かっていた者達は動きを止め、マリオとソニックは声をした方を見る。

そこには狐の姿をした女性がいた。

マリオ「貴様は妲己！！この兵士はお前の部下か！」

その女性、妲己にマリオは構える。

妲己「なぜ私の名前を知ってるかは知らないけど、遠呂智様の邪魔をする気なら排除するわ！兵士達！やってしまいなさい！」

妲己がそう言うとマリオ達に再び襲い掛かる。

マリオ「はっ！」

ソニック「とう！」

再び襲い掛かって来た兵士に2人も応戦して行く。

いくら強い2人でも無数とも言える敵に疲れてしまったら一間の終わりだ。

マリオ「どこまで出てくるんだ！」

ソニック「きりがないぜ！！」

ブレイブスラッシャーで払うマリオとカリバーンとデルフで払うソニックがそう言った時…

？？？「はっ！」

突然、1人の男が現れて、沢山の兵士を切り払う。

武蔵「この宮本　武蔵！助太刀いたす！」

？？？「宮本殿！拙者も助太刀いたしますぞぉぉぉ！」

武蔵の言葉の後にもう1人の男が現れて、手に持った槍で兵士をなぎ払う。

武蔵「幸村殿！某も来たのか！」

幸村「うむ！お2人方！拙者も助太刀いたす！」

マリオ「了解した！行くぜ！」

武蔵と幸村にそう言った後にマリオは駆け出す。

数分後

襲い掛かって来た兵士を全て倒したマリオ達は武蔵と幸村にこの世界の事について聞いた。

ちなみに妲己は逃げたのかもういない。

マリオ「そうだったのか…」

ソニック「もしかしたら…他の皆もいるんじゃないか？」

腕を組んで納得するマリオの隣でソニックがそう言う。

マリオ「武蔵、幸村、俺達も付いて行って良いか？もしかしたら仲間も着ていて他の部隊と一緒に行動してると思うから」

幸村「あい分かった。それに主達がいれば心強いからな」

武蔵「確かに…それじゃあ趙雲殿と合流しよう」

そう言うと４人は走る。

無双ＯＲＯＣＨＩ　ＩＮ　スマッシュハーツブラザーズ（後書き）

次回は別のメンバーの視点

ワリオ「ちなみに作者は戦国無双とか三国志とか全然した事がない！」

スネーク「ほとんどＰＶとかＣＭでしか見た事ないしな…後、二次創作」

ネス「感想を待ってます♪」

リュカ「次は誰視点？」

無双ＯＲＯＣＨＩ　ＩＮ　スマッシュハーツブラザーズその２（前書き）

スネーク「と言う訳でパート２」

ワリオ「どうなるのやら…」

クッパ「なのだ…」

無双ＯＲＯＣＨＩ　ＩＮ　スマッシュハーツブラザーズその２

マリオ達が戦っている場所とは別の場所で同じく飛ばされていた者達が異形の兵士を相手にしていた。

リンク「であっ！」

アイク「ふん！」

ロイ「とあっ！」

マルス「たっ！」

ピット「うりゃりゃりゃりゃりゃ！！」

リンク、アイク、ロイ、マルス、ピットがそれぞれの剣で襲い掛かる兵士を相手にしていた。

マルス「いきなり飛ばされたと思ったらいきなり戦闘ってありかな？」

ロイ「そりゃあ俺達は慣れてますけどね…」

アイク「嫌な慣れでもあるな…」

リンク「私達って巻き込まれ体質なんでしょうかね？；」

ピット「それだけは嫌だね」

斬りながらそう言う会話をしている中でも5人は倒して行く。

???「ほう、貴様等か、いきなり現れたのは？」

5人「!?」

いきなりの声に5人はした方を見ると、2人の男が立っていた。

アイク「誰だお前達は？この兵士の命令する奴か？」

政宗「わしは独眼竜！伊達　政宗！！遠呂智に逆らう馬鹿どもめ！貴様らは負けるのじゃ！」

慶次「んで俺は前田　慶次、派手に暴れさせて貰うぜ！！」

そう言うと2人はそれぞれの武器を構えて、リンク達に突撃する。

リンク「くっ！」

ピット「おっと！」

リンクが政宗、ピットが慶次の攻撃を受け止めた後にそれぞれ、ぶつかり始め、後の三人には兵士が攻撃し始める。

リンク「てあっ！はっ！」

政宗「むっ！はっ！」

リンクが盾で防げば政宗はリンクの攻撃を己の武器で受け止める。

慶次「やるねお前！喧嘩のし甲斐があるぜ！」

ピット「悪いけど！こっちはこう言うのはあんまり好きじゃないんでね！！」

ピットはパルテナの神弓を双剣の様に構えて慶次の攻撃を受け止めては反撃するが相手の弾いて行く。

ロイ「こいつら！俺達をリンク達に近づかせない気かよ！」

アイク「そうらしい！」

マルス「これじゃあ援護に行けませんよ！」

一方の兵士と戦う三人は援護に行こうとするが邪魔して行けない。

三人が焦った時…

？？？「ふん！」

1人の男がいきなり現れて、手に持った武器で兵士をなぎ払う。

いきなりの事に三人が驚いている時…

？？？「信長様！大胆に行き過ぎですぞ！」

男、信長に続いて現れた男がそう行って、信長の後ろに迫る兵士を斬る。

政宗「むっ？」

慶次「あいつ等は…」

リンクとピットが戦っていた2人が突然現れた信長と男に目を向けた瞬間にリンクとピットはスマッシュボールを取り出し、必殺技を出す。

リンク「隙あり！トライフォースラッシュ！！」

ピット「いっけぇぇぇ！！パルテナフラッシュアロー！！」

リンクが政宗をトライフォースに封じ込めると連続で切り裂き、ピットがパルテナの神弓を強く引き、光を集束させると、リンクが政宗を吹き飛ばすと同時にピットは強く光った矢を放ち、慶次へと当てる。

政宗「ぬあぁぁぁぁぁぁ！！」

慶次「があぁぁぁぁぁぁぁ！！」

それに2人は吹き飛び、2人の光景から消える。

信長「どうやら、肩が付いたようだな…」

それにマルス達と兵士を倒し終えた信長がさっきの男、関平と共に近寄る。

リンク「あっ、あなたは？」

信長「織田　信長だ」

関平「拙者は関平と申す…お主等は魔王・遠呂智を倒す為に戦ってるのか？」

アイク「アイクだ…俺達はあの城に向かっている。仲間が行ってるかもしれないからな」

信長と関平が名前を名乗り、関平の問いにアイクが名乗った後に見える城を指す。

それにロイは慌ててアイクを引っ張り、距離を取り、小声で話す。

ロイ「おいおい、何であの城なんだ？」

アイク「もしかしたら他の皆も来てるかもしれない。だから目立っているあの城をきっと目指すだろう」

マルス「成る程…一理あるね」

ロイの問いにアイクはそう言うと会話に入り込んだマルスがそう言う。

リンク「私達も同行して良いでしょうか？行く先も同じでしょうし」

信長「ふむ…良いだろう」

関平「よろしくでござる」

ピット「うん！」

何時の間にかリンクが同行の願いを出し、信長が少し考えた後にそう言う。

ピット達は信長の部隊と合流すると城へ目指す。

無双ＯＲＯＣＨＩ　ＩＮ　スマッシュハーツブラザーズその２（後書き）

次は…てんこ盛りを見せます。

ワリオ「確かにてんこ盛りだよな…」

スネーク「これ、初めて見た人は驚くか、目が点になるんじゃないか？」

ネス「感想を待ってます♪

無双ＯＲＯＣＨＩ　ＩＮ　スマッシュハーツブラザーズその３（前書き）

スネーク「パート３だ」

ワリオ「どう言う反応が見れるのやら…」

クッパ「なのだ」

他の２組と離れた場所で

ジーノが変身した仮面ライダードレイクとゼクシオンが変身した仮面ライダーエターナルが孫堅、孫権、太史慈、周泰、呂蒙、琴魅の呉軍と共に砦にて董卓と戦っている所であった。しかし、彼等の実力により董卓は破れ、傷だらけになって地面に倒れこんだ。呆気なく勝負は着いたのである。

ドレイク「いきなりだったけど、なんとか勝てたね」

エターナル「確かに」

董卓「ふん、面妖な奴等だなおぬし達は…」

琴魅「董卓様、あなたのような者が何故、遠呂智に与するのですか。一体何を望んでいるのですか」

ドレイクとエターナルを見て言う董卓に琴魅は長刀を董卓に向けて問い、董卓はうっすらと笑みを浮かべて言った。何かを企んでいるような表情をして、琴魅の方へ顔を向けている。

董卓「ぐふふ……わしが何を望むかだと？　遠呂智様が貴様等を皆殺しにしたあと、わしが酒池肉林を築く。それがわしの望みじゃ」

琴魅「ならば何故、遠呂智はこの城の中から出てこないのです？私達の力を思い知って怖気づきましたか？」

董卓「いや、違うな。遠呂智様は貴様等をお待ちになられるのだ。もし出会ったら其の強気な言葉、何処まで持つのか楽しみじゃのう」

琴魅は長刀を戻した後、後ろへ下がった。

孫堅「ならば今度は俺が問おう」

今度は孫堅が前に出て、左手に腰を当てて董卓に問う。

孫堅「董卓。もし、俺達が遠呂智に勝った場合、貴様はどうするつもりだ？」

彼にとっては答えにくい質問だ。董卓は孫堅の問いに口ごもり、そのまま黙り込んだ。

孫堅「早く答えなければ貴様の其の首、刎ねるぞ」

孫堅は怖い顔をして剣を董卓の首にあてる。董卓は舌打ちをして仕方なく答える。

董卓「……仕方あるまい。もし、貴様等が勝った場合は大人しく去ろう。だが、遠呂智様はこの世界の最強の魔王。たとえ貴様等が束になろうとも遠呂智様の敵ではないわ！　がっはっはっは……！」

ドレイク「いや…勝てそうな人がいるんだけどね…来ていたらだけど…」

孫堅「減らず口を叩くな。我等は絶対に勝つ。絶対に、だ」

頬を掻いて言ったドレイクの後に孫堅は其の言葉を貫き通した後、

ドレイクとエターナル、仲間たちと共に砦を出発し、遠呂智軍の本拠地である古志城へと向かった。

数時間後

電王ＳＦ「どわっ！！」

時野　黒巣にモモタロスが憑依して変身した仮面ライダー電王・ソードフォームは吹き飛ばされる。

その隣で紅　魔青が変身した仮面ライダーキバとネスとリュカが変身する仮面ライダーＷが肩を上下させていた。

他の３組と同じ様にこの世界にやって来た４人は戦っている所を魏軍のメンバーと出会い、そのまま城へ行き、その先で…

？？？「どうしたカスども、俺が怖いのか！？」

大柄で冠に長い装飾物をつけた男性、呂布は大声で吼える。

電王ＳＦ「へっ！誰が怖いだって！」

キバ「それに、誰がカスだよ！」

Ｗ（ネス）「そうそう、それに、怖いの慣れてるし」

Ｗ（リュカ）「こんな所で倒れる訳には行かないよ！」

呂布に４人はそう叫ぶと構える。

電王ＳＦ「こんにゃろ！」

キバ「はっ！」

Ｗ「はっ！」

呂布「ふん！」

呂布とまだぶつかり合うが、まとめて吹き飛ばされる。

黒巣『こうなったら…超てんこ盛りで行くぞ！』

電王ＳＦ「あれか…亀！熊！リュウタ！鳥！犬！行くぞ！」

ウラタロス『了解！』

キンタロス『よっしゃあ！』

リュウタロス『イエイ超てんこ盛り♪』

ジーク『いざ行かん！』

イブタロス『だから私は犬ではなく！イブタロスだ！』

キバ「キバット！俺達も超てんこ盛りだ！」

キバット「よっしゃあ！行くぜ！」

電王ＳＦが仲間に言ってる間、キバも準備をする。

電王ＳＦはケータロスのボタンを押す。

ケータロス「モモ、ウラ、キン、リュウ、ジーク、イブ、クロス…ハイパークライマックスフォーム』

キバット「全員集合！！」

電王ＳＦはケータロスを装着すると、アーマーが変化し、デンカメンでＲＦが右肩、ＡＦが左肩、ＧＦが胸、ＷＦが大きくなって背中に、右足にＧ電王のデンカメン、左足に同じくオリジナルフォームのクロノスフォームのデンカメンが装着されて、最後にＳＦのデンカメンが新たに展開され、電王は『仮面ライダー電王・ハイパークライマックスフォーム』になる。

次にキバにガルルセイバー、バッシャーマグナム、ドッガハンマーが吸収された後に左腕にタツロットが装着されると左腕がガルルフォーム、右腕がバッシャーフォーム、胸がドッガフォームとなり、それ以外はキバ・エンペラーフォームとなったドガバキエンペラーフォームになる。

最後にキバＤＧＢＫＥＦはザンバットソードを取り出すともう１つ、恐竜が描かれたディスク『恐竜ディスク』を取り出し、それをザンバットソードのもち手へ嵌めると…ザンバットソードの刀身が恐竜の顔へとなった『キョウリュウザンバットソード』へと変わり、キバＤＧＢＫＥＦは襟に金の縁取りが成された赤い陣羽織を纏った『仮面ライダーキバ・ハイパードガバキエンペラーフォーム』通称、超キバヘフォームチェンジとなった。

彰久「すっ、凄い程、派手だな…」

長政「うむ…」

２人の姿に魏軍は驚き、呆れと分かれていた。

呂布「どんな姿になろうと、俺に勝てるか！」

電王ＨＣＦ「へっ！姿は見せかけじゃねえよ！」

デンオウベルト「チャージアンドアップ」

超キバ「その通りだ！俺達の一心同体の技、受けてみな！」

キバット「ハイパーウェイクアップ！！」

赤い馬――伝説の赤兎馬（せきとば）を走らせる呂布に２人はそう言うと飛び上がる。

電王ＨＣＦ「必殺！俺達の必殺技！ハイパーバージョン！！」

超キバ「ハイパードガバキ！」

キバット「エンペラーブレイク！！」

電王ＨＣＦの両蹴りと超キバの両蹴りが呂布は方天画戟（ほうてんがげき）で受け止めるが…

電王ＨＣＦ「うりゃあぁぁぁぁぁぁぁ！！！」

超キバ「はあぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！」

呂布「ぬおぉぉぉぉぉぉぉぉ！！！」

突き破られ、２人のライダーの攻撃が呂布に炸裂して、赤兎馬から落ちて、地面に転がる。

何度も転がり、止まった時には呂布はうめき声を上げた後に気を失う。

典韋「やるなおぬし等」

電王ＨＣＦ「へっ！まだまだ！それよりも！早くオタマを倒しに行こうぜ！」

ウラタロス『先輩、オタマじゃなくて遠呂智だからね；』

超キバ「しかも最初のしか合ってないし；」

キンタロス『モモの字、そこはちゃんと言おうな；』

イブタロス『まったく』

典韋にそう言って走り出す電王ＨＣＦにウラタロスと超キバ、キンタロスとイブタロスがそう言ってツッコミを入れるとうるせぇ！と電王ＨＣＦは怒鳴る。

４組が再開するのと決戦は近い。

無双ＯＲＯＣＨＩ　ＩＮ　スマッシュハーツブラザーズその３（後書き）

スネーク「次でラストだ…」

クッパ「うむ…」

ワリオ「だな…」

ネス「感想を待ってます♪」

フォックス「フォームについて…どう言う感想が来るのやら…」

ルイージ「だね；」

無双ＯＲＯＣＨＩ　ＩＮ　スマッシュハーツブラザーズその４（前書き）

スネーク「と言う訳で葉月とのコラボラストだな」

クッパ「なのだ」

フォックス「だな」

無双ＯＲＯＣＨＩ　ＩＮ　スマッシュハーツブラザーズその４

マリオ「おお！皆も来ていたのか！」

ピット「マリオさんこそ」

ソニック「多いな～」

カリバーン「確かに」

マルス「遠呂智を倒せば良いんですね」

電王ＨＣＦ「そろそろクライマックスの様だな」

超キバ「ですね」

ジーノ「（ホント凄いてんこ盛りだな）」

Ｗ（ネス）「（だよね～電王とかキバとか）」

光秀「…凄い鎧だな」

秀吉「確かに」

家康「しかも思いっきり人じゃないのもいるな」

光成「だが、打ち解けてるな…」

合流したスマハツメンバーを見て戦国メンバーは思い思いに行った

後に進む。

妲己「人間の皆さぁ～んと人間じゃない皆さぁ～ん。よく此処まで来たものねえ。でも残念。何故ならあなた達は此処で死んじゃうんだもの」

ボスである遠呂智の場所へ着いたマリオ達と連合軍を来た事を歓迎するかのように妲己は不敵な笑みを浮かべながら言った。

そして妲己が何かしようとした時…

メコッ！

マリオ「…………」

何時の間にか妲己の前に立ったマリオが腕を組んだまま右足を妲己の顔にめり込ませていた。

マリオ「砕砕ぃぃぃぃいいいい！！！」

ドゴーーーーン！！

そして、妲己から足を退かした後、マリオは腕を組むのを解くと同時に連続でパンチをマシンガンの如く浴びせて行く。

最後に回し蹴りを妲己に決めると妲己は悲鳴を上げるまもなく、意識を刈り取られ、城の外へと飛んで行く。

趙雲「なんと……」

皐月「…あの髭野郎…やるな…」

アイク「大方、あの女が人を殺すのを察して突撃したんだろうな…」

マルス「いきなり過ぎだけどね」

驚く趙雲と皐月の隣でアイクは腕を組んでそう言い、マルスは肩をすくめてそう言う。

遠呂智「やるな貴様…」

マリオ「…俺は目の前で潰されそうな命をほって置く程、相手の都合に付き合う気はない」

大きな鎌を持った遠呂智にマリオはそう言うとブレイブスラッシャーで斬りかかり、鎌に受け止められる。

それにマルス達と連合軍も動く。

それぞれの武器で遠呂智に向かって行き、遠呂智はマリオを弾き飛ばした後に鎌を振るうが今度はアイクにとめられ、幸村、武蔵、超キバ、電王ＨＣＦの斬撃が炸裂し、次にＷＣＪＸになったＷ、家康、光秀の攻撃が決まる。

それに遠呂智はすぐ攻撃に移ろうとするが、聖なる三角形と黄金の魔方陣にもう１つの力が遠呂智の動きを止める。

遠呂智「ぬっ！」

呻いた後に遠呂智は動こうとするが動けず、身動きが取れなくなった遠呂智は舌打ちをして首を動かして周りを見る。

そこには、左手の甲のトライフォースを光らせるリンクとカリバーに変身してカリバーンとデルフを構えるソニック、そして、ゼロに変身して腕を交差させて遠呂智を見るマリオ。

遠呂智「（奴等の仕業か…！）」

ゼロ「今だ！必殺技を叩き込むチャンスだ！」

ゼロの号令にスマハツチームは持っていたスマッシュボールを割り、ライダーに変身してる者は必殺技の態勢に入る。

趙雲達み一斉に武器を構え、趙雲、関羽、張飛、幸村らは遠呂智の周りを囲み、一斉攻撃を出した。

趙雲は地面を強く蹴り、槍を構えて突撃し、連続突きをする。その連続突きは目にも留まらぬ速さで遠呂智の胸や腹、下腹などを突いた。

関羽は青龍刀を振り回しながら走り、縦一閃を振るう。この攻撃は雑魚ならば真っ二つになり即死であろう。

張飛は地面を蹴って力強く走り、矛を大きく振り回して一回、二回と遠呂智の体を斬り付ける。

超キバと電王ＨＣＦがＸ字に遠呂智を斬って、アイクは大天空で連続で切り裂く。

ロイとＷＣＪＸもそれぞれ炎と光りを纏った剣で斬る。

幸村は槍を構えて突撃し、横へ下へと槍を振るう。一度だけではなく、何度も何度も高速にやっている。

遠距離からは孫市とピット、ドレイクの銃と弓矢の乱射だ。狙いを遠呂智に定め、発砲をしている。

遠呂智「ぐぅ……小賢しい真似を！」

遠呂智は次々と繰り出す趙雲達の猛攻に苛立ち、舌打ちをするが、リンク、カリバー、ゼロの三人により、思うように体が動かない。

しかも、妖術を使えないのだ。

趙雲「遠呂智！　今までの無念、晴らしてくれよう！」

幸村「仲間が傷つき、裏切られ、どれだけ苦しんだのか貴様の卑劣な行為が許されぬのだ！」

孫市「てめえのおかげで仲間の大切さをよーく分かったぜ！　俺達の結束、受けやがれ！」

趙雲、幸村、孫市の順番で言うと彼等にとって最後の一撃を放つ。

最後は趙雲達が二列で遠呂智の周りを囲み、地面をけって遠呂智に向かって突撃した。

そして、それぞれの武器が、思いが、彼の体を貫いた。一列目が武

器を抜いた後、続いて二列目も彼の体を思いっきり貫いた。

今度はのども貫き、心臓をも貫いた。遠呂智から大量の血が噴水のように出し、地面と壁が一面に血の色に染まった。遠呂智の口からもごふっと大量の血を吐き出し、意識が朦朧とし始めた。

ロストドライバー「ジョーカー！マキシマムドライブ！」

朦朧していた遠呂智はその音声に上を見上げると紫に光る右足で踵落としの態勢に入ったエターナルの姿が目に入ると同時にエターナルの踵落としが炸裂して遠呂智の意識がさらに朦朧する。

様々なメンバーの猛攻を受けた遠呂智だがそれでもまだ生きていた。

遠呂智「ごほっ……！　我を此処まで追い詰めるとはな……ごほっごほ！」

のどを貫かれているためか、遠呂智は喋るたびに咳き込み吐血をする。

エターナル「まさかまだ喋れるなんて…」

ドレイク「タフと言うかしぶといと言うか…」

身構えるエターナルの隣でドレイクは呆れ混じりの声が漏らす。

そんな中、ゼロは待っていた。この物語の人物が決めるのを…

柘榴「木実！　純！　今こそ止めを刺すときだ！」

木実「えぇっ!?　わ、私達!?」

柘榴「今が好機なんだ！　早く！　遠呂智の意識が朦朧としてきたんだよ！」

純「遠呂智の意識が朦朧としてきた……もしかしてだいぶ弱ってきたんじゃ……」

柘榴は木実と純に止めを刺すように促した。

ゼロ「その通りだ！お前達がこの戦いに終止符を討て！」

続けて促したゼロの言葉に木実や純は初めはよく分からなかったが、曹操や曹丕、信長や秀吉ら仲間達に励まされる。

曹丕「木実、純。早く行くがいい。貴様らが行かねば誰が行くのだ？」

木実「曹丕さん……」

曹操「お前達は我らにとって大切な存在だ。木実や純がいたから、我らは多くのことを学んだ……だからこそその思いを遠呂智にぶつけてやれ！」

純「曹操さん……」

おねね「大丈夫よ！　自信を持って！」

木実「おねね様……」

左慈「行け、木実、純。遠呂智に止めを刺して悲しみを終わらせるのだ！」

純「左慈さん……」

不安を抱く木実と純に仲間達から次々と激励の言葉が送られる。彼等は木実と純（男）の二人の存在があったからこそ、今までの苦しみや悲しみを乗り越えてきたのだ。

仲間達の言葉を貰い、不安を和らいでいく。その代わりに自信もついてきた。

木実「みんな……ありがとう。今まで私達を支えてくれて……今度は私達がみんなを守るから……」

純「僕達の思いは心一つ。それは――今まで味わった苦しみや悲しみを終わらせるためだ」

二人は凛とした顔つきに変わり、武器を構えた。

木実＆純「遠呂智を倒して……世界の平和を取り戻してみせる！」

二人の声は揃った魔王・遠呂智を倒して混沌とした世界を元の平和の世界に戻して見せると。その思いを胸に抱き、弱体化している遠呂智に向かって走り出す。木実が前、純が後ろになって縦二列に走る。

ゼロやスマハツメンバーにこの世界の英雄達は2人を見る。

木実は一対の剣を二つにわけ、二刀流にし、両腕を広げて遠呂智の

胸を目掛けて深く、深くその剣を突きつけた。

純は二個の圏を交互に投げ、遠距離から遠呂智を傷つける。戻ってきた圏を持ち、右腕を上げて遠呂智の左胸から右の腰に向かって斬りつけた。

一度だけではない。何度も何度も同じことを繰り返す二人は、もう終わりにしようと顔を見合わせた。後ろに飛んで遠呂智から少し距離を置き、武器を再び構え直す。

木実&純『もうこれで終わりにしよう……これ以上悲しみを増やさないためにも』

ぎゅっと武器を強く握り締めて、木実と純は胸に手を当てて思いを馳せる。もう二度と苦しみや悲しみを増やさないためにも此処で終わらせなければならない。その思いが伝わったのか、白い光が二人を包み込んだ。

それは一体何事かと、仲間達は二人の名前を叫んだ。

突然白い光が降り注ぎ、二人を包み込んだから仲間達やロイ達は誰しも彼女達の変化に驚愕した。

趙雲「木実！　純！」

張飛「畜生！　眩しくて何が何だかわかんねえ！」

ゼロ「大丈夫だ…今、絆が新たな力を呼んだ」

周りにも光が当たり、目が開けられない状態だった。趙雲が二人の

名前を叫び、張飛が叫ぶとゼロが静かにそう言う。

しばらくは眩しくて何も見えない状態だったが、次第に眩しさは薄れ、木実と純の姿が映し出す。二人の体にあった傷は、綺麗に消え去り、痕も残らず何も無かったように無くなっていた。それは誰もが息を呑み、目を大きく見開いた。

木実と純の衣服も和服に変わり、今までとは違う気配を感じていた。今まではお人よしで、純粋で、快活な少年少女の姿だったが、今の彼女達は運命を担う戦士としての姿をしている。遠呂智を倒すため、今まで傷つき苦しんだ仲間達のため、武器を取って戦うのだ。

木実と純の戦いを見守る信長や秀吉、曹操や曹丕ら仲間の前に、凌統が一歩前に出て、今までの思いを伝えた。

凌統「みんな、あの子達を信じようぜ。今までの苦しみも悲しみも、あの子達が居たから俺たちは此処まで来れたんだ」

人を信じることは、仲間を信頼している証だ。木実も純も今まで仲間たちを信じてきたからこそ此処まで来たのだから。今まで経験した悲しみや苦しみ、裏切りもした。仲間の同士討ちもした。だからこそ、彼らはそれらを乗り越えてきたのだ。

凌統「俺達の絆の力を――遠呂智に見せ付けてやれ！　木実ちゃん、純！」

凌統は再び木実と純に視線を戻し、右手で胸に当てて叫ぶ。

遠呂智に絆の力を見せ付けろと。凌統だけではない。曹操も曹丕も信長も秀吉も家康も皆、木実達に全てを託した。裏切りによって一

度切れた絆は再び紡がれ、二人の少年少女により英雄達は大きく成長した。その絆はより大きいものだった。

木実と純は凌統の声が届いたのか、握る手に力が篭った。

ロイ「いっけぇぇぇぇ！！」

ピット「貫け！」

ロイとピットの声にも押され、2人は地面を蹴って、弱っている遠呂智に向かって駆け出し、武器を構えて遠呂智の心臓を目掛けて突き出した。今までよりも力強く、勢いは止まらない。その時再び彼女達の周囲に光が包まれ、光の玉になって遠呂智に向かって突撃した。

やがて遠呂智の体は光の玉によって貫かれ、今までにない程に体が大きく抉られた。腹に大きくぽっかりと空いた穴は遠呂智を更に苦しめた。抉られた部分から多量出血をし、地面が血の海と化す。今までにない少年少女の威力は凄まじいもので、あの魔王の体を大きく抉る程である。

遠呂智は後ろに倒れ、黒い霧に包まれて消滅した。消滅したあと、血に染まった地面は跡形もなく消え去り、血に染める前の状態に戻った。

白い光が徐々に薄れ、少年少女の姿が映る。木実と純の姿が現れたあと、仲間達は歓喜した。まるで戦で勝利をしたように大きな声を上げて雄叫びをした。ヒューヒューと指笛を鳴らす人も中にはいる。

ゼロ「やったな」

リンク「そうですね…」

カリバー「グッジョブ！」

勝った。ようやく魔王・遠呂智を倒すことが出来た。

木実や純は勿論の事、劉備や曹操、曹丕、信長や秀吉、家康など周りにいる仲間達は魔王・遠呂智に打ち勝つことが出来たのだと喜びの感情を溢れ出す。

それを見たスマハツメンバーも喜んだ後、その姿が薄れて行き、自分達の世界へ戻った。

ゼロ「（頑張れよ、この世界の英雄と新たな英雄よ）」

消える前に木実と純を見て、ゼロはそう呟いて激励を送った。

無双ＯＲＯＣＨＩ　ＩＮ　スマッシュハーツブラザーズその４（後書き）

スネーク「と言う訳で葉月とのコラボだ！！」

フォックス「こんな感じの最後で良かったか？」

ワリオ「あっちが書いてるのも混ぜてるな…」

ネス「感想を待ってます♪」

気力少年ダイチ！俺と四人の探偵と気力修行！　―　グリード、登場（前書き）

ワリオ「今回は龍の骨とのコラボだ！」

フォックス「どうなるのやら…」

スネーク「だな」

気力少年ダイチ！俺と四人の探偵と気力修行！　一　グリード、登場

とある次元の世界、恋姫の世界に飛ばされ、今は船で江東へ向かう気力少年ダイチとその仲間達、それは彼等が江東に着く前のお話

ダイチ
「まだかね…」

ブライ
「確かに長いな…」

如月
「まだ出発してそれ程立ってませんよ」

船の上でぼお～として呟く2人に如月はそう言う。

ダイチ
「それでも暇な物は暇だ」

斗真
「それには同意」

ブライ
「それでどうする？」

考える男子組みだったがふと、ダイチは上に突然出来た気配に顔を空へ向ける。

それに木里達も見上げる。

カザリ
「アンク！なんとかしてぇぇぇぇっぇ！」

アンク
「出来るか！！お前１人ならともかくウヴァとガメルも掴まってたら飛べるか！」

ウヴァ
「ファイトぉぉぉぉ！！」

ガメル
「いっぱ～～～つ！！」

アンク
「ＣＭに出てる人の様にそう言えば出来ると思うなぁぁぁぁぁ！！」

美希
「何ですかあれ？」

斗真
「と言うか…この船に落ちて来ないか？」

落ちて来る４人に美希が疑問を呟いた時、斗真が見ながらそう言う。

案の定、４人は船に落ちた。

ダイチ
「誰だお前達は！ゴーマの怪人か！」

アンク
「あぁ？誰がゴーマだ？」

ガメル
「ゴマ？」

カザリ
「違うからねガメル。その胡麻じゃなくてゴーマね；」

メンバーが構える中でアンクに問うダイチ、問われたアンクはそう返し、ガメルはどこからか胡麻を取り出してカザリにツッコミを入れる。

ダイチ
「ゴーマじゃないだろうけど、船を破壊しようとするなら倒させて貰う！気力転身！」

そう言うとダイチはリュウレンジャーに変身する。

隣ではブライもドラゴンレンジャーZに変身していた。

ガメル
「あ～～ダイレンジャーとジュウレンジャーだぁ～」

アンク
「破壊する気はないんだが…これは面白い、ちょっと試すか」

ウヴァ
「なら俺は、ドラゴンレンジャーだ」

変身した2人にガメルは指して言い、アンクとウヴァはそれぞれ、アンクはリュウレンジャーの前にウヴァはドラゴンレンジャーの前に立つとある物を取り出す。

リュウレンジャー
「？リュウレンジャーのフィギュアか？」

ドラゴンレンジャーZ
「しかも、ドラゴンレンジャーのもある！まさかファンか！？」

ウヴァ
「違うぞ」

アンク
「これはこう使うんだよ」

アンクとウヴァの取り出したのにリュウレンジャーは首を傾げ、ドラゴンレンジャーZが言った事を否定した後、アンクとウヴァはそれぞれのレンジャーキーとモバイレーツを構える。

ウヴァ&アンク
「豪快チェンジ！！」

そう言うとモバイレーツにレンジャーキーを差し込む。

Uモバイレーツ
「ジュウーレンジャー！！」

Aモバイレーツ
「ダーイレンジャー！！」

その音声と共に2人の前にマークが現れると姿を変え、その姿にリュウレンジャー達は驚く。

リュウレンジャー
「なっ!?」

斗真
「マジかよ!?」

木里
「ダイチとブライと同じ姿になりやがった!?」

如月
「うそぉ…」

Aリュウレンジャー
「させ、派手に行くか!」

驚いてる間にアンクが変身したリュウレンジャーのその言葉の後に驚きから覚めたダイチの変身したリュウレンジャーとアンクが変身したリュウレンジャーがぶつかる。

その後にウヴァが変身したドラゴンレンジャーとドラゴンレンジャーZもぶつかり合う。

ドラゴンレンジャー
「ってか何だそのチェーンソーは!ピンク色って悪趣味過ぎるだろ!?」

ドラゴンレンジャーZ
「これはミ〇トルティンだ！」

ドラゴンレンジャー
「名前は聞いてねえよ！」

そんな会話をしながら…

リュウレンジャー同士はお互いにスターソードとスターカッターで相手を攻撃してはかわし、同時に攻撃したりと戦っている。

如月
「互角！？」

斗真
「いや、若干だがダイチの方が押されてる」

美希
「なっ、何でですか？」

カザリ
「もしかして彼、リュウレンジャーになってから日が浅くないかい？」

木里
「うわぁ！何時の間に！？」

カザリ「でっ？どうなの？」

その様子に如月は驚き、斗真が訂正して、美希が問うと何時の間に

か隣にいたカザリが問う。

それに木里が驚いてる間、カザリはメンバーを問う。

如月
「会った時は付けてなかったけど、数日前に付けてました…」

カザリ
「それだね。ただ変身しての戦いの経験が少ない。だから押されてるんだろうね。アンクの変身するリュウレンジャーは長年の経験が詰まってるから押している」

ガメル
「お菓子食べる?」

カザリ
「ガメル、人が真剣に話してるから止めてくんない;」

如月の言葉にカザリはそう言うと2人の戦いを見る。

Dリュウレンジャー
「くっ!」

Aリュウレンジャー
「やるなお前!だが、まだまだ経験が足りないな…もっと強くなれ!己の信念を貫ける様に!」

Dリュウレンジャー
「!ぐわっ!」

アンクの変身してるリュウレンジャーの言葉にダイチの変身してるリュウレンジャーは驚いた後にどてっぱらに蹴りを入れられて、転がると同時にダイチは変身が解ける。

アンクはそれを見て、己も変身を解く。

そこにボロボロなウヴァが来る。

アンク
「ボロボロだな」

ウヴァ
「ああ、変になっていたが流石はオリジナルって事だ。負けた」

ガメル
「お疲れ～」

カザリ
「させ、それじゃあどうやって帰る？」

ガメルとカザリが２人に近寄ると世界の壁が現れて、４人を通り過ぎると４人の姿はなかった。

ブライ
「今のは…何だったんだ？」

ダイチ
「さあな…だけど…強くなれ、己の信念を貫ける様に…」

変身を解いたブライにダイチはそう答えた後に消えたアンクの遺し

た言葉を呟く。

気力少年ダイチ！俺と四人の探偵と気力修行！　―　グリード、登場（後書き）

リュカ「と言う訳で龍の骨さんとのコラボでした～龍の骨さん、どうでしたか？」

スネーク「気になったが…どうしてブライをああ言う風にしたんだろうな？」

クッパ「さあ？」

ネス「感想を待ってます♪」

ワリオ「と言う訳で真王のコラボ第７弾だ！」

ネス「そう言えば、総合のでアクセス数がもうすぐで７０００突破で人数は１０００人も突破してたよ」

リュカ「嬉しいよね～」

クッパ「これからも頼むのだ！」

コスモス「遊びに来て早々何ですけど…いきなりですね」

銀時「ホントだよ、いきなり過ぎるよね」

仮面ライダーコスモスに変身したルイージの言葉に銀時はそう言う。

ルイージがウヴァ、ウルフ、ガノン、アクセル、ゼクシオン、ヨッシー、カービィと共に起動六課に遊びに着た時に屁怒絽が走って来たのだ。

それに銀時達はパニくったが屁怒絽を怖がらないグレイが話しかけると走っていた理由は以下の通りだ

屁怒絽『いやぁどうもはじめまして…屁怒絽です。実はお願いしたことがありますがある商人が私に渡した種があるんですがそれを育てたら自分から動いてどこかへ逃げたんですよ。殺生はいけないと言う私ですが暴れて殺生をする植物なんていりません。ではよろしくお願いします』

との事で、銀時、新八、神楽、ネプテューヌ、ノワール、ブラン、ベール、ビビ、グレイ、レーティア、ジャンヌにガノンとゼクシオンを除いたルイージ達がその植物の駆除に出向いたのだ。

イクサに変身したウルフは襲い掛かって来たイバラドラゴンを殴り飛ばした後にコスモスを見る。

イクサ「ってかよ…何で俺達も行かなきゃならんのだよ」

コスモス「来た時に来たからね…手伝えるのは手伝おうと思って」

めんどくさいと言うのが言葉で分かるのでコスモスは苦笑しながらそう言う

龍騎「しょうがないですよ～此処は手伝った方が早いんですし」

リュウジンオー「そうだな…」

ビビ「（それにしても…ヨッシーはともかく、カービィは変わり過ぎよね；）」

レーティア「（可愛いカービィが擬人化してしかもクール系；）」

ジャンヌ「（違和感マックスだよね；）」

龍騎に変身したヨッシーがそう言ってリュウジンオーが同意する中、女性転生者三人は心の中で冷や汗を流す。

新八「それにしても…ホント、大変なのが出来たな…」

神楽「と言うか、どうやったらこう言うのが出来たのかにめっちゃ疑問が出来るネ」

ノワール「ホントよね…」

新八は写真を見ながらそう言い、隣から覗き込んだ神楽がそう言い、ノワールも同意する。

アクセル「それよりも、ガノンとゼクシオンも同行させた方が良かったんじゃないか?属性的にもエターナルはヒートを持ってるしよ?」

コスモス「子供達の面倒や気絶した人達の介抱を頼んだしね;」

ブラン「…ああ言う事があったもんね」

エンジンブレードでマンドラゴラ、ドライアードを吹き飛ばしたアクセルが肩をとんとんさせて言うとコスモスは頬を掻き、ブランは少し体を震わせて言う

実はと言うと出る前にマッドゴキと言うでかいゴキブリが大量に現れて、それに女性やそう言うのが苦手なメンバーが気絶したり、怯えまくったので上記2人は残る事にしたのだ。

ネプテューヌ「まあまあ、いない人強請っても仕方ないよ」

オーズGC「そうだぞ」

キラーパックンを倒したネプテューヌとオーズGCがそう言うとはいはいとアクセルは手をひらひらさせる。

銀時「んで新八、目標のは?」

新八「今の所まだ…」

神楽「早く出て来いアルよ」

アクセル「嬢ちゃん、そりゃあフラグだな」

グレイ「…出たらしいぞ」

銀時が周りを見て新八に聞き、新八は周りを見た後に写真を見てそう答え、すこんぶを齧ってそう言う神楽にアクセルがそう言うとグレイが構えて言う。

すると…

ドーン!!

ノワール「…デカイわね」

龍騎「デカイですね～」

揺れと共に現れた目の前のイガムートとマッドバイオオチューを見てノワールと龍騎がそう言う。

新八「片方のが目標のですね」

アクセル「それじゃあまずは目標じゃないのを終わらせるか」

アクセルドライバー「アクセル!マキシマムドライブ!」

新八が目の前のイガムートを写真を見て言い、アクセルはそう言うとマキシマムドライブを発動させた後にマッドバイオオチューに攻撃するが…

アクセル「おわっ!」

燃えると思いきや、マッドバイオオチューはアクセルを吹き飛ばす。

レーティア「こいつは炎に強いようね」

リュウジンオー「ならば俺が終わらせる」

そう言うとリュウジンオーはシャドウキーを取り出し、ザンリュウジンに装填する。

リュウジンオー「シャドウキー、召喚！」

ザンリュウジン「デルタシャドウ」

リュウジンオー「出でよ！デルタシャドウ！」

振るうと同時に魔方陣が現れ、そこからリュウジンオーの獣王デルタシャドウが現れる。

リュウジンオー「デルタシャドウ、バイクモード！」

リュウジンオーがそう言う指示するとデルタシャドウはシャドウバイクに変形するとリュウジンオーは乗り、ファイナルキーを取り出す。

リュウジンオー「獣王、魔弾龍、そして闘士！今、３つの力を１つに！」

そう言うとザンリュウジンをアーチェリーモードに変える。

リュウジンオー「ファイナルキー、発動！」

ザンリュウジン「ファイナルクラッシュ！」

その音声の後、シャドウバイクの上でザンリュウジンを構える。

リュウジンオー「三位一体、乱舞」

言うと同時にアーチェリーモードとなったザンリュウジンからエネルギー弾が放たれ、マッドバイオオチューを貫く。

リュウジンオー「星の元に眠れ」

止まると同時にそう静かに言う。

龍騎「それじゃあ決めますよ」

ドラグバイザー「ファイナルベント」

オーズＧＣ「ふん！」

Ｕオーズドライバー「スキャニングチャージ！」×５０

銀時「俺も決めますかね」

龍騎がファイナルベントカードを入れると飛び上がり、オーズＧＣも分身４９体と共にスキャニングチャージをおし、銀時はシルバーソウルを構える。

龍騎「おりゃあぁぁぁぁ！！」

オーズGC「はぁぁぁぁぁぁ！」

銀時「ほわたっ！！」

龍騎のドラゴンライダーキックとオーズGCのガタキリバキックに銀時の一閃によりイガムートは爆発する。

ジャンヌ「これで終わりだね」

レーティア「そうね」

銀時「んじゃあ報告と行きますか」

その後、屁怒絽に今回の事を言った後にルイージとゼクシオンの料理にガノンのおでんで盛り上がったのであった。

スネーク「と言う訳で真王とのコラボだ」

フォックス「屁怒絽って…良く育てられたよな…」

ネス「ホント凄いよね～」

リュカ「感想を待ってます♪」

やれやれ、厄介な事になりそうだなｂｙマリオ（前書き）

マリオ「今回は黒龍の考えた敵オリキャラが出るぞ」

ルイージ「どう言う感じになるんだろうね…」

クッパ「なのだ」

やれやれ、厄介な事になりそうだなｂｙマリオ

ゼロ「まったく…偽神は何人もの命を散らせば気が済むんだ！！」

ガウェイン「落ち着けマリオ、あなたの怒りたい気持ちは分かる」

ディエンド「その通りだマリオ、我々だって同じだからな」

とある世界を飛んで行くゼロにガウェインとオリジナルのアタックライド、ウイングの力で飛ぶディエンドが宥める。

彼等が向かっているのはとある町で転生者が暴れてるとの事で向かっているのだ。

今回も素早く終わらせると思っていた三人は行った先で驚愕の場面を見る。

ゼロ「なっ！？」

ガウェイン「これは…」

目の前に広がる既に倒されて転がっている転生者達、その光景にゼロ達は驚く。

その中心にはエリザベスそっくりの黒いエリザベスが立っていた。

ゼロ「お前か、こんな事をしたのは？まあ、逆に輪廻へ戻しやすいけどな」

ゼロの言葉に振り返った黒いエリザベスはゼロを見る。

黒いエリザベス『ほう、お前が噂の神殺しか？』

ゼロ「そう言うお前は転がってる奴等と同じ転生者だな？」

黒いエリザベスにゼロは警戒しながら問う。

ダークエリザベス『俺はダークエリザベス、エリザベスと同じ種族だが俺は人間が嫌いだ』

ゼロ「…そう言うからには酷い目に遭ったんだろうな…」

ダークエリザベス『その通りだ、昔信用していた人間裏切られ、解剖されそうになったから。何とか難を逃れた後、人間に復讐を誓った』

ダークエリザベスの言葉にゼロは仮面の中で眉を潜めた後にそう言うとダークエリザベスは殺気を出しながら言う。

ガウェイン「それで貴様はどう復讐するんだ？」

ダークエリザベス『ふふふ、俺は腐った人間を征服する！人類は粛清されるべきなのだ！』

ゼロ「確かに粛清されるべき者はいるだろう…だが、人間全員が腐ってる訳じゃない」

ディエンド「だからこそその野望、止めさせて貰うぞ」

ガウェインの問いに答えたダークエリザベスにはゼロがそう言い、ディエンドがそう言うと三人は構える。

ダークエリザベス『俺の邪魔をする奴は誰であろうと許さない！』

ダークエリザベスはそう言うと手をバッと上げる。

すると沢山のザクの姿をした機会兵が現れる。

ゼロ「始める前に聞きたい事がある」

ダークエリザベス『何だ？』

前へ進みながらゼロは声をかけ、ダークエリザベスは聞く。

ゼロ「好きな食べ物は何だ？俺はキノコだ」

ダークエリザベス『俺は唐揚げが好きだ！』

ガウェイン&ディエンド「（何聞いてるんだ？（汗）しかも律儀に答えた！？）」

ゼロの問いにダークエリザベスは答えると2人は戦いを始め、ガウェインとディエンドがツッコミを入れた瞬間に機会兵と戦う。

ゼロ「でやっ！」

ダークエリザベス『ふん！』

ゼロのゼロスラッガーとダークエリザベスのライトセイバーがぶつ

かり合う。

ゼロ「成る程…それはオリジナルか…」

ダークエリザベス『ああ、お前の能力の事は聞いていたからわざわざ行って手に入れたのだ！』

距離を取った後にゼロはダークエリザベスの持つライトセイバーを見て呟き、ダークエリザベスはそう言った後に目からビームを出す。

ゼロ「どこのマネだよ」

それをゼロは片手で受け止めた後に弾く。

ダークエリザベス『やはり凄いな…ならばこれだ！』

何かを構えをするダークエリザベスにゼロはすぐさまワイドゼロショットの態勢を取る。

ダークエリザベス『シュワッ！』

ゼロ「ゼアッ！！」

なんとダークエリザベスはスペシウム光線を放ち、それにゼロはワイドゼロショットを放って相殺する。

ゼロ「まさかウルトラマンの技を使えるとはな…」

ダークエリザベス『これも防がれるとはな…」

距離を取りつつ、ゼロは呆れ混じりな声が漏れ、ダークエリザベスはそう言う。

ディエンドライバー「アタックライド！ブラスト！！」

ダークエリザベス『むっ！？』

いきなりの攻撃にダークエリザベスはどこからかビームシールドを取り出すとそれを防ぐ。

ディエンド「ビームシールドもあるんですね」

ガウェイン「お前の部下は全て倒した。大人しく輪廻を戻るのだ」

ディエンドとガウェインがゼロの両隣に立ち、そう言う。

ダークエリザベス『まだだ！俺は戻らん！』

そう言うとサングラスをかけ、地面に何かをぶつけるとそれが眩い光りを放つ。

ゼロ&ガウェイン&ディエンド「！？」

三人がそれに腕で隠し、収まった後にそこには…

ダークエリザベス『今日の所は此処までだ！あばよ！』

と書かれたプラカードしかなかった。

ディエンド「逃げられた様だな…」

ゼロ「そうだな…しかし面白い奴だ」

ガウェイン「それでどうする？」

ディエンドはプラカードを持ってそう呟き、ゼロは腕を組んでそう言うとガウェインが聞く。

ゼロ「行った先は分かんないからな…保留だ…それでガウェイン、頼みたい事がある」

ガウェイン「何だ？」

ゼロがそう言った後にガウェインに耳元で小さい声で知らせる。

ガウェイン「……そんな世界を紹介するのか？」

ゼロ「気に入った。奴をこのままにしとくのは惜しいからな…」

仮面の中で驚いているガウェインにゼロはそう言うとダークエリザベスのいた場所を見る。

やれやれ、厄介な事になりそうだなｂｙマリオ（後書き）

スネーク「マリオがガウェインに頼んだ事とは一体…」

バート「次回の黒龍さんのコラボで分かりますよ」

ネス「感想を待ってます♪」

ルイージ「と言う訳で黒龍さんの『リリカル銀魂ライダー～異世界鎮魂歌～』とのコラボだよ！」

フォックス「どうなるのやら…」

スネーク「だな」

マリオ「う～～～ん」

ソニック「おいおいどうした？何か走り足りないのか？」

カリバーン「たわけ、お前な訳なかろうが」

ダークエリザベスとの戦いから数日、イメージワールドを腕を組んで何かを考えるマリオに一緒に歩いていたソニックが話しかけ、カリバーンがツッコミを入れる。

マリオ「ちょっとな…ある奴の行方が分からないから困ってるんだよ…」

ソニック「そうなのか？」

カリバーン「知り合いなのか？」

マリオの言葉にソニックとカリバーンは問う。

マリオ「いやいや、仕事柄会った奴…ん？」

カリバーンの問いに答える途中でマリオは前を見て、走る。

それにソニックもカリバーンを持って追う。

銀時「此処どこだ？」

ソラ（黒龍）「それは俺が知りたい…」

銀時とソラ（黒龍）は目の前の光景に驚く。

セイバー「此処はどこなのでしょうね…」

神楽「まったくネ、周りから見るにのどかな所だと分かるネ」

新八「いや、そりゃあ誰だってわかるよ」

ライダー「どうすれば…ん？」

セイバー、神楽、新八と言った後にライダーも言おうとして近づいて来るマリオ達に気づく。

マリオ「あんた達、坂田　銀時に天道　ソラだな？」

銀時「！何で俺たちの名前を？」

ソラ（黒龍）「誰だお前は？」

マリオが近づいて問い、問われた銀時とソラ（黒龍）は驚き、他のメンバーも警戒する。

～マリオ説明中～

銀時「…つまり、俺たちは本来なら別の場所にバラバラに飛ばされる筈がなぜか此処、イメージワールドに来ちゃったと？」

マリオ「そうそう」

桂「どうすれば戻れるのだ？」

ソニック「それだったらマリオの力で戻せれるぞ」

カリバーン「こいつはそう言う力を持ってるからな」

銀時は頭を掻いてそう言うとマリオは頷き、桂は聞くとソニックとカリバーンが代わりに言う。

すると…

マスター『マリオ！ソニック！大変だ！』

マリオ「マスター！」

ソニック「どうしたんだ？そんなに慌てて？」

頭に響いたマスターの声に2人は上を見て、銀時達はいきなりの声に驚く。

マスター『この世界に来た転生者を保護する町が何者かに襲われている。住民は全て避難させたがまだ暴れているんだ…すぐに鎮圧に向かって欲しい！』

マリオ「分かった」

ソニック「一体誰だ？こんな所で暴れまくる奴は…」

マスター『それが…そこにいる白い奴を黒くした感じのだ』

カリバーン「？エリザベスと言う奴を黒くした奴？」

マリオ「あらら…丁度探してた奴じゃん…」

マスターの願いにマリオは答え、ソニックが聞くとマスターが言った相手の外見にマリオは頬をポリポリ掻いた後に銀時達に向く。

マリオ「悪いけど、手伝ってくれないか？」

銀時「メンドーな事に巻き込まれそうだな…」

ソラ（黒龍）「確かに」

桂「何を言う！エリザベスの黒い奴が暴れてると聞いたからには行くしかないだろ！」

渋る銀時とソラ（黒龍）に桂がそう言う。

マリオ「分かった。万屋銀ちゃんに依頼として頼む。前借り料として…これを出すけど、完了したらさらにこれの１００倍は出す」

マリオはそう言うと封筒を取り出し銀時に渡す。

銀時は封筒の中を開けると…

っ、１０００万円

銀時「よっしゃあ！お前等やるぞ！！」

ソラ（黒龍）「これは…」

神楽「やってやるアル！」

セイバー「食べ放題ですね！」

アリス「ツケが払えるな」

アリア「確かに」

ヤミ「……」

ライダー「何を買いましょうか…」

リリス「ですね」

新八「うぉぉぉい！大金貰えて興奮するの分かるけど色々とツッコミ所あるぞ！どこからそんな大金出せるんだよ！！」

ライホース「無駄だ新八、主達にはもう聞こえてない」

口々に言い合うメンバーに新八はツッコミを入れて、ライホースが新八の肩を叩いて首を横に振る。

カリバーン「どんだけツケを貯めていたのだろうな…」

ソニック「さあ？」

そんなこんなでマリオ達は銀時達を引き連れて目的の場所に向かう。

銀時「こりゃあ…ひでえな…」

神楽「ボロボロネ」

新八「こんだけボロボロにするなんて…その黒いエリザベスは何者なんでしょうね…」

銀時と神楽は目の前の廃墟となっている建物を見て呟き、新八も暴れた人物についてそう呟く。

進んで行くと…

ダークエリザベス『久しぶりだな神殺し』

マリオ「お前こそ、ダークエリザベス』

広場の中心にいたダークエリザベスにマリオはそう言う。

銀時「おいおい、マジで黒いエリザベスだな」

神楽「ホントネ、エリーを黒くしたら絶対見分けが付かないネ」

エリザベス『ホントに自分にそっくり!?』

桂「……」

アリア「お前、しようと思ってないだろうな?」

ダークエリザベスを見た銀時達は口々に言い、ダークエリザベスを見る。

マリオ「それで？此処を狙った理由は何だ？」

ダークエリザベス『とりあえず、此処の人間は服従させる為にだ。丁度転生者だらけだからな…全員逃げられたけど』

マリオ「悪いな…此処に住む者達は常識があり、平穏に暮らしたい者達…そう言う事はさせねえよ…銀時、ソラ（黒龍）行くぞ」

そう言うとメンバーが構え、走り出すと…

神楽「あたっ！？」

新八「ぶべっ！？」

アリア「っ～～！？」

エリザベス『あうち！？』

途中で神楽、新八、アリア、エリザベスが呻いた後に顔を抑える。

銀時「なっ、何だ？」

それに前方の銀時が驚き、桂が４人が声を漏らした場所を何かを探る様にして驚く。

桂「なんと！？バリアらしき物が張られてるぞ！」

ソニック「これじゃあ進めないぞ！」

カリバーン「それよりも…我々はこいつ等を相手にせねばなるまいな…」

桂の言葉にソニックはバリアをガンガン叩き、カリバーンが周りを見て言う。

周りにはザクの機会兵が現れる。

銀時「やるしかないか」

ソラ（黒龍）「だな」

マリオ「頼むぞ2人共」

頭を掻いた後に銀時、ソラ（黒龍）はシルバーとチェーンを構え、マリオはブレイブスラッシャーを構える。

ダークエリザベス『行くぜおい！』

そう言うと同時に口から破壊光線を出す。

銀時「おいいいいいい！！何口から光線出しちゃってるの！？」

ソラ（黒龍）「外見はエリザベスに似てるが…思いっきり違うな…」

それに銀時はツッコミながら、ソラ（黒龍）は呟きながら避け、マリオもジャンプして、ブレイブスラッシャーをダークエリザベスに振り下ろす。

それにダークエリザベスはライトセイバーとビームシールドで抑え

るが…

銀時「横ががら空きだぞ！」

ソラ（黒龍）「はっ！」

ダークエリザベスの左右から銀時とソラ（黒龍）がそれぞれのキーブレードを振るう。

その攻撃はダークエリザベスに当たり、ダークエリザベスは後ずさる。

ダークエリザベス『くっ、流石は坂田　銀時！後、キーブレードを持ってる奴！』

そう言うとダークエリザベスの手からドロドロの液体が出て来る。

銀時「ちょっ、何あれ…」

シルバー『嫌だぞ、あれは…』

チェーン『私も』

ソラ（黒龍）「何か効果があるのか？」

マリオ「とう！！」

ダークエリザベス『げはっ！？』

銀時、シルバー、チェーン、ソラ（黒龍）がダークエリザベスが出

したドロドロの液体にそう言ってる時にマリオがダークエリザベスをキックして吹き飛ばす。

銀時「あっさり行ったぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！」

ソラ（黒龍）「やるねお前」

マリオ「隙を見せすぎだろ」

ダークエリザベス『普通、不快感出るもんだろ？』

マリオの行動に銀時は叫び、ソラ（黒龍）は呆れ混じりの感嘆の声を出し、マリオがそう言うとダークエリザベスはそう言いながら起き上がる。

マリオ「どうせ攻撃するんだろうその間に口とか目から光線出して」

ダークエリザベス『（大当たり！）』

銀時「お〜い、心の中で思ってるだろうがプラカードに出てるぞ；」

呆れた顔をするマリオにダークエリザベスは心の中で思っている事をプラカードに出してる事に銀時はツッコミを入れる。

ソラ（黒龍）「まっ、これで打つ手ないだろ？」

マリオ「大人しく輪廻へ戻れ」

？？？「それは困るな」

銀時「！誰だ！」

突然の声に三人は構え、銀時が叫ぶ。

するとダークエリザベスの前に見た目は白髪の成人の男性が現れる。

マリオ「お前は…ダークエリザベスと同じ転生者か？」

ギリアス「いかにも、私はドクター・ギリアス、彼と手を組む科学者だ」

マリオの問いにギリアスは答え、名乗る。

マリオ「そいつと組んでる理由は？」

ギリアス「『お前の頭脳を俺に貸せ』と言われてね。彼といれば私の欲も満たせるだろうと思いね。私は研究さへできればいいから」

銀時「おいおい、どんだけ研究に熱心なんだ？」

ギリアス「私は自分の欲望のためなら他人からどう言われようが、どう見られようが関係ない」

マリオ「（スカリエッティの様な奴だな…）」

ギリアス「ではさらばだ」

マリオと銀時の質問にギリアスは答えた後にそう言うと、何かのボタンを押して、消えて行く。

消える前に、マリオは誰にも気づかれずにダークエリザベスに何かを投げる。

ダークエリザベスが消える前にそれは張り付き、２人と一緒に消える。

銀時「逃がしたな…」

マリオ「いや、鎮圧は出来たから成功だ…（それに渡せるモンを渡せたし）」

新八「銀さん！」

ギリアスとダークエリザベスが消えた場所を見て呟く銀時にマリオはそう言うと、機会兵を倒し終えた新八達が来る。

どうやらバリアは解除されてた様だ。

マリオ「そんじゃあ約束の報酬だ」

銀時「おう…おお！確かに１００倍入ってる！！」

神楽「これならすこんぶも大丈夫ネ！」

セイバー「食費もですね！」

マリオが封筒を出して銀時に渡し、銀時は中身を見て興奮し、神楽とセイバーがそう言う。

ゼロ「んじゃあお前達が飛ばされる筈だった世界に飛ばすぞ」

新八「マジですか?ってかその姿何!?」

ゼロ「仮面ライダーゼロだ、この姿じゃないと開けないからな」

ソニック「頑張れよ」

カリバーン「そちらの運命を切り開くのだぞ」

ゼロに変身したマリオが銀時達の横に世界の壁を発生させるとそれを銀時達に通過させて、その世界に飛ばす。

一方

ダークエリザベス『こっ、これは!?』

自分達の拠点としている場所に戻ったダークエリザベスは自分に張り付いていた何か、手紙の内容に驚く。

『よう、この手紙はお前が好む世界へ誘う為の物だ。お前に紹介する世界は因果が歪みまくったリリカルなのはの世界。その世界は転生者のせい歪んでるんじゃなく、元から因果が歪んだ世界だ。様々な歴史の住人が一緒に存在している他、男性が女になってたり歴史の進み方も違っている。特に管理局は歪みまくっているから潰してくれても構わない。因果が歪みまくった世界は並大抵の者じゃあ飲み込まれるから行くか行かないかはお前の自由だ。もしその世界に行き、他の次元の世界に進行しないなら俺もお前を消さない。Ｍｒ.Ｍ』

ギリアス「どうするんだ?ダークエリザベス?」

ダークエリザベス『……良いだろう…誘導させられると言うのは癪だが俺の力でその歪んだ世界を征服してやる！』

ギリアスの問いにダークエリザベスは手紙を置いた後にそう言う。

スネーク「と言う訳で黒龍とのコラボはこんな感じだ！」

ワリオ「ちなみにダークエリザベスの今後については黒龍さんが書いてくれたら嬉しいなと作者が言ってたぞ」

フォックス「おいおい；」

ネス「感想を待ってます♪」

どう言う風な戦隊が合うかな？ｂｙガンダム（前書き）

マリオ「今回はユートピアとのコラボだぜ！」

ドクター「させ、準備しないと…」

ルイージ「ガンバ～；」

どう言う風な戦隊が合うかな？ｂｙガンダム

ゼロブレスレッド「サモンライド！ユートピア！！」

終「と言う訳で俺や、一夏、つか全員どうゆう戦隊が合う？」

マリオ「そうだな…」

ガンダム「それじゃあ考えよう！」

フォックス「なお、彼女はドクターや永遠亭の人達と一緒にいて別のを頑張っているから」

楓ＬＯＶＥズ「楽しみ（ですわ）（ね）（だな）」

一夏＆箒「はぁ…」

～終編～

マリオ「させ、まずは終だが…終はクールな感じで野性味な所もあるからな…」

ルイージ「ガオレンジャーとかジェットマンにジュウレンジャーやライブマン、ゴーカイジャーかな？」

黒狼「後はハリケンジャーのゴウライジャーですかね？」

魔青「ゴーオンジャーとギンガマン、マジレンジャー、ボウケンジャーも行けるんじゃないか？」

終「成る程、それで個人のでなるなら何が合う？」

マリオ「個人なら、ガオシルバーやブラックコンドル、ドラゴンレンジャーにレッドファルコン、カブトライジャーでゴーオンブラック、ゴーカイブルー、黒騎士ヒュウガにウルザードファイヤー、ボウケンレッドだな」

終「成る程…ってか追加戦士がやけに多いな」

～一夏編～

マリオ「一夏は真っ直ぐでムードメーカーにもなる奴で元気いっぱいだからな」

ルイージ「（原作だと兄さんよりかはマシな鈍感だけど…）ガオレンジャーにジュウレンジャー、ゲキレンジャー、ゴーオンジャー、ハリケンジャーとアバレンジャーとシンケンジャー、ゴーカイジャー、ギンガマン、マジレンジャーかな？」

シャア「後、ダイナマン、チェンジマン、ダイレンジャーもだな」

一夏「はあ…ってか何でゲキレンジャーも？」

ガンダム「（似てる子がいるからだな；）」

スネーク「個人でのなら、ガオブルー、タイガーレンジャー、ゲキレッド、ゴーオングリーン、ハリケンレッド、アバレブラック、シンケングリーン、ゴーカイグリーン、マジレッド、ダイナレッド、チェンジドラゴン、ギンガレッド、リュウレンジャーだな」

箒「流石にガオブルーは違わなくないか?そこはガオイエローではないか?」

千冬「剣を使うからな」

シャア「まあな、だが、ムードメーカーだとガオブルーだな」

一夏「成る程…終より1つ多いな」

〜箒編〜

マリオ「箒は剣を主に使って戦う女の子だな」

ルイージ「後、好意には一途だね」

箒「むっ／／／」

デスティニー「それで戦隊だと、シンケンジャーは外せないな、後はサンバルカン、オーレンジャー、ギンガマン、タイムレンジャー、ゴーオンジャー、フラッシュマン、マスクマン、デカレンジャー、ガオレンジャー、ゲキレンジャーか?」↑カンペ見ながら

箒「個人だと?」

ブリッツ「個人ではシンケンピンク、バルイーグル、オーレッド、ギンガグリーン、タイムピンク、ゴーオンシルバー、レッドフラッシュ、レッドマスク、デカマスター、ガオイエロー、メレござる」
↑同じくカンペを見て)

箒「剣術を使うレンジャーだな、私にぴったりだな」

～セシリア編～

マリオ「セシリアは勉強家で自信家だな」

セシリア「それで私は何ですか？」

黒狼「戦隊はゴレンジャー、ダイナマン、ライブマン、ターボレンジャー、ジュウレンジャー、ダイレンジャー、カーレンジャー、メガレンジャー、ギンガマン、タイムレンジャー、アバレンジャー、マジレンジャー、ボウケンジャー、ゲキレンジャー、シンケンジャー、ゴセイジャーですね」

アンク「レンジャーじゃあアオレンジャー、ダイナピンク、ブルードルフィン、イエローターボ、プテラレンジャー、シシレンジャー、ピンクレーサー、メガイエロー、ギンガピンク、タイムグリーン、アバレブルー、マジシャイン、ボウケンブルー、ゲキブルー、シンケンブルー、ゴセイブルーだな」

セシリア「遠距離武器のレンジャーが多いですわね」

～鈴編～

マリオ「鈴はフットワークが良い子だな」

鈴「まあね～」

ルイージ「そう言う鈴ちゃんはデンジマン、サンバルカン、ゴーグルV、バイオマン、フラッシュマン、マスクマン、ターボレンジャ

ー、ジェットマン、ダイレンジャー、オーレンジャー、ギンガマン、ゴーゴーファイブ、タイムレンジャー、ハリケンジャー、アバレンジャー、デカレンジャー、マジレンジャー、ボウケンジャー、ゴーオンジャー、シンケンジャー、ゴセイジャー、ゴーカイジャーだね」

カザリ「レンジャーはデンジブルー、バルパンサー、ゴーグルブラック、ブルースリー、ブルーフラッシュ、ブルーマスク、ブルータービボ、ブルースワロー、テンマレンジャー、オーピンク、ギンガイエロー、ゴーグリーン、タイムレッド、ハリケンブルー、アバレイエロー、デカピンク、マジピンク、ボウケンイエロー、ゴーオンイエロー、シンケンイエロー、ゴセイイエロー、ゴーカイイエローだね」

鈴「…一部中国ので選んでない？」

フォックス「確かに；」

～シャルロット編～

マリオ「シャルロットは機転とさりげなく気が回せるだな」

シャルロット「それで戦隊は？」

スネーク「戦隊はバトルフィーバーJ、デンジマン、ジェットマン、ジュウレンジャー、ダイレンジャー、アバレンジャー、デカレンジャー、ボウケンジャー、ゲキレンジャー、ゴセイジャーだな」

ネス「レンジャーはバトルフランス、デンジグリーン、ホワイトスワン、マンモスレンジャー、ホウオウレンジャー、アバレッド、デカグリーン、ボウケンピンク、ゲキイエロー、ゴセイピンクだよ」

シャルロット「…何人かは似た人がいる気がする…と言うか最初の
って出身；」

～ラウラ&椛編～

ラウラ「待て待て、何で私達は一緒なんだ？」

マリオ「こっちの作者曰く…疲れたらしい」

椛「…それだけ？」

ルイージ「『調べるのが色々と大変なんです；』との事らしいよ；」

フォックス「レンジャーだけで、ラウラはオーブルー、デカブルー、
タイムファイヤー、アバレブルー、デカブレイク、シンケンレッド、
ゴセイナイトで…」

リュカ「椛さんはアバレキラー、クワガライジャー、ボウケンブラ
ック、ゲキヴァイオレットです；」

ラウラ「そうか…」

椛「成る程ね…」

ドクター「はあ…疲れた…」

マリオ「お～ドクター、一体どうし…」←ルイージとフォックスに
より強制退場

楓ＬＯＶＥズ「どうでした！？」

ドクター「五つ子で…外見は見てからのお楽しみと言うかそちらで判断してね」

楓ＬＯＶＥズ「楓（さん！）！！」↑楓さんの所へ直行

ドクター「おお～～～～！！？」↑楓ＬＯＶＥズのダッシュで回転する

終「凄い勢いだな…」

ネス「大丈夫ドクター？」

ドクター「ああ…ん？何時の間にかとある女性に頼まれて作った『胸が大きくなる君』（副作用でピーが出る）が３個ない；」

一夏「まさかな…さっきの突撃であいつ等のポケットに入ったとか？」

ルイージ「ははははっ…まさか；」

スネーク「それはそれで怖いな…」

ガメル「ちゃんちゃん」

アンク「終わりにすんのかよ；」

どう言う風な戦隊が合うかな？ｂｙガンダム（後書き）

と言う訳でユートピアさんのコラボでした～

マリオ「名前はどう言う風になるんだろうな？」

ルイージ「そうだね；」

フォックス「薬は誰の手に…；」

マリオ「？」

ネス「感想を待ってます♪」

スーパーヒーロー大戦　第6．5話　別次元の戦士たち（前書き）

マリオ「今回はボッスンの『スーパーヒーロー大戦』とのコラボだ！ちなみに俺は出ない」

ルイージ「あっちは色々とコラボしてるよね～」

フォックス「そうだな～」

スーパーヒーロー大戦　第6．5話　別次元の戦士たち

ソラ「えっと…」

ソラは困っていた。起きたら何時の間にか別世界にいたのだ。

ルビー「ホントだよね…いきなり展開は困った物だよ」

ルーミア「まったくだ」

隣でルビーと封印を解かれて大人の女性の姿になっているルーミアが形だけのタバコを銜えながらそう言う。

オマケ、ちなみにチルノも大人化しており、身長はレティと同じぐらいで髪が膝まで伸びている服装は上は文の服ベースにアレンジした感じで腋や肩が露出しており、霊夢の様に白い袖を虹色の紐で括り付け、下は文の様にミニスカートで青い生地の上に雪の結晶が描かれて、首に白いマフラーが巻かれている。

閑話休題

ソラ「きっと他の皆も来てるだろうな…」

ゲキリュウケン「ああ…他の魔弾龍達の力を感じる」

ルビー「それじゃあ合流だね」

ソウリュウサイ「そうやな」

ルーミア「…どうやらその前に、お客さんが来たようだ」

ソラ、ゲキリュウケン、ルビー、ソウリュウサイと話した後に目を瞑っていたルーミアがタバコを指で摘まんだ後に言う。

すると…そこにクルルとルビー・ランペルージが来た。

アンリュウジン「彼等から警戒の気配を感じますが我々が来た際にエネルギーか何かが発生してそれを追って来た模様ですルーミアお嬢」

ルーミア「そう」

右手首のアンリュウジンの言葉にルーミアは短く返す。

クルル「お前さん達は何者だ?見るからにルビーと同じ異世界から来たっぽいが」

ルビー「えっ?何で僕の名前を?」

ルビー（ボッスン）「はい?君も同じ名前なの?」

クルルの言った事にルビーは驚き、ルビー（ボッスン）は目を丸くして聞く。

数分後

リト「まさかまた別世界の人が来るなんてな…」

ソラ「まあ、俺たちの場合は戻れるけど…」

ゲキリュウケン「何かを達せばだけどな」

リトの家でリトはソラとゲキリュウケンはそう言う。

ちなみに…

リュウサイオー「何で僕だけ…」

ソウリュウサイ「しゃあないやんか、そこのランペルージと分かる様にせにゃあならんし」

ルビー（ボッスン）「何かゴメンね；」

リュウサイオーに変身したルビーはふてくれて、ソウリュウサイが宥め、ルビー（ボッスン）は頭を下げる。

ルーミア「美味いな…だが、フィアンセがいないとつまらないな…」

こちらはこちらで紅茶を飲んでそう言う。

リト「フィアンセって…婚約者がいるのか？」

ルーミア「まあな…可愛い女の子だよ…綺麗に鳴いてくれる♪」

ルビー（ボッスン）「（…どう言う風なのしてるの？ってか同姓なの；）」

リトの問いにルーミアは笑って言い、それにルビー（ボッスン）は心の中でそう言う。

キラ「えっと…君達以外にも魔弾龍を持つ人がいるんだよね？」

ソラ「ああ、後６人いる。それで皆の反応はどうなんだ？」

キラの問いにソラは答えた後にゲキリュウケンに問う

ゲキリュウケン「近くだが……これは…魔的反応！？鳴神！近くで魔的反応だ！」

ソラ「マジで！？」

ララ「リトリト！！大変だよ！街に変なのが現れたよ！」

ゲキリュウケンの言葉にソラは驚き、ララが慌てて入って来てそう言う。

ララの言った事にメンバーは外に出ると遣い魔が沢山いた。

ソラ「行くぞゲキリュウケン！」

ゲキリュウケン「ああ！」

ルーミア「紅茶を飲んだ後の運動と行くか、アンリュウジン」

アンリュウジン「分かりましたルーミアお嬢」

ソラはゲキリュウケンを、ルーミアはザンリュウジンの持ち手を銀色に染め、赤色の部分を黄色に変えた感じのアンリュウジンを構える。

ソラ「リュウケンキー」

ルーミア「リュウアンキー」

ソラ&ルーミア「発動！」

ゲキリュウケン「チェンジ、リュウケンドー！」

アンリュウジン「チェンジ、リュウアンオー」

それぞれのマダンキーを構えるとお互いの魔弾龍に挿し込む。

ソラ「撃龍変身！」

ルーミア「闇龍変身」

ソラがゲキリュウケンを構え、ルーミアがアンリュウジンを突き出すとゲキリュウケンの剣先から青い龍が、アンリュウジンの龍の部分から銀色の龍が飛び出る。

龍達が上空で吠えた後にソラとルーミアに吸い込まれ、2人を魔弾戦士に変える。

ソラは魔弾剣士リュウケンドーにルーミアはリュウジンオーの赤い部分を黄色に染め、スーツが銀色になった魔弾闘士リュウアンオーに変身した。

リュウケンドー「魔弾剣士リュウケンドー！」

リュウアンオー「魔弾闘士リュウアンオー…」

リュウサイオー「魔弾双剣士リュウサイオー！」

魔弾戦士三人「ライジン！」

ララ「おお～！」

リト「これがソラやルーミアが変身した魔弾戦士」

並び立つ三人の魔弾戦士にララは感嘆の声をあげ、リトは驚いている。

キラ「ルビーは下がってて！」

ルビー（ボッスン）「確かに、まだ完成してないからね」

ストライクとなったキラがそう言って、遣い魔と戦う三人の戦いに加わり、ルビー（ボッスン）はそう言って、手を握り締める。

リュウケンドー「てあっ！はっ！」

リュウケンドーは召喚したマダンダガーをゲキリュウケンに合体させたツインエッジゲキリュウケンとキーブレードを使って遣い魔を切り倒していく。

リュウアンオー「ふん…はあ！…スペルカード発動、闇鳥符『ダークナイトバード』」

リュウアンオーはアンリュウジンで切り裂いた後にスペルカードを

取り出して宣言し、遠くにいる遣い魔に闇の鳥を飛ばして攻撃する。

リュウサイオー「まったく…ホント出て来て欲しくないんだけどね…」

ソウリュウサイ「文句言っても仕方あらへんって」

マダンサイとソウリュウサイを振るいながら言うリュウサイオーにソウリュウサイがそう言う。

キラ「この！」

キラはビームサーベルで遣い魔を切り裂く。

そんなキラの後ろに遣い魔が迫る。

？？？「ドラゴンショット！」

遣い魔「ギジャ！」

キラ「えっ？」

キラに襲い掛かろうとしていた遣い魔を誰かが撃ちぬき、キラはした方を見る。

リュウガンオー「待たせたな」

リュウセイオー「此処はまだいるんだな」

リュウジンオー「らしいな」

リュウトウオー「頑張らないとね～」

リュウレツオー「ああ！」

リュウケンオー「正義の味方参上！」

リュウケンドー「皆！」

そこにリュウガンオーや他の魔弾戦士達がいた。

リュウガンオー「他の場所の遣い魔は倒した」

リュウジンオー「後は此処だけだ」

リュウケンドー「それじゃあさっさと決めるか！」

リュウガンオー、リュウジンオーの言葉にリュウケンドーはツインエッジゲキリュウケンを握り締める。

リュウケンドー「行くぜ！リュウケンオー！」

リュウケンオー「おう！」

リュウケンドーはリュウケンオーに声をかけた後にファイナルキーを取り出す。

リュウケンドー&リュウケンオー「ファイナルキー！発動！」

ゲキリュウケン「ファイナルクラッシュ」

ヒョウリュウケン「ファイナルブレイク」

その音声と共に2人は構える。

リュウケンドー「ツインエッジゲキリュウケン！超魔弾斬り！！」

リュウケンオー「ヒョウリュウケン！奥義！魔弾斬り！！」

それぞれの魔弾龍と振るうと同時に青と水色の龍が遣い魔達に突撃して行き、倒して行く。

リュウケンオー「あたい達ってばホントにサイキョー！！」

ルビー（ボッスン）「サイキョーって；」

リュウケンドー「あいつの決め台詞だからな」

ポーズを取るリュウケンオーにルビーは頬をポリポリし、リュウケンドーは笑って言う。

数分後、9人の前に世界の壁があった。

リュウサイオー「それじゃあ頑張ってね。ランペルージさん」

ルビー（ボッスン）「そっちもね」

リュウサイオーとルビー（ボッスン）が握手した後に魔弾戦士達は世界の壁を通り抜けて元の世界に戻った。

スーパーヒーロー大戦　第6．5話　別次元の戦士たち（後書き）

と言う訳でボッスンさんの所とコラボでした～…ボッスンさんどうでしょうか？

フォックス「一体、どう言う武装になるんだろうな？」

スネーク「気になるな」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　ＳｔｒｉｋｅｒＳ　銀の侍と４人の女神　―　第別訓パート８

フォックス「と言う訳で真王とのコラボ第８弾だな」

スネーク「頑張れよルイージ」

ルイージ「うん！」

ルイージ「まさかまた、ジャンボテレサと戦う事になるなんてな…」

オバキュームを背負ったルイージはため息を付く。

銀時「ため息を付きたいのは俺なんですけどね…何で俺が巻き込まれなきゃあならないんだよ…」

その後ろで銀時がオドオドしながらそう言う。

させ、なぜこうなっているかと言うと１時間前になる。

オヤマー『大変じゃルイージくん！ワシの知らぬ間に誰かが『ジャンボテレサの絵』を盗まれたんじゃ！そして最悪なことに復活したジャンボテレサがマリオくんをさらって行ったんじゃ！ワシのオバキュームを渡しておくから早く解決しておくれ。やつの居場所は廃墟の屋敷の屋上じゃ』

オヤマーの元に向かったマリオが遅く、どうしたのかを見に行った時にオヤマーが慌てて上の事を言いルイージは驚き、急いで他のメンバー、明久、ムッツリーニ、ソニック、シルバー、シャドウ、テイルス、ナックルズ、デスサイズ、ブリッツ、デスティニー、ガンダムを収集して聞いた場所へ向かったが…

銀時「こっちの世界の廃墟に移るってありですか…」

そう、銀時の言った通り犯人もジャンボテレサも銀時達のミッドチルダの廃墟の屋敷の屋上へ移動していたので銀時以外に新八、神楽、

グレイ、ビビ、レーティア、ジャンヌのメンバーと共に来て貰ったのだ。

ガンダム「それにしても…此処は廃墟なんでしょ？何で電気が通ってるの？」

入った時の明かりが付いたエントランスを思い出してガンダムは首を傾げる。

シルバー「確かにおかしいよな？」

ルイージ「解放されたジャンボテレサの仕業かもね。テレサは沢山集まれば強大な力を発揮するって言ってオヤマー博士が言ってたし、特に封印が解かれたジャンボテレサは１５匹のテレサが集まった奴だから…」

銀時「…すいません、帰っても良いでしょうか？」

新八「いやいやいや！マリオさんが捕まってるんですから最後まで行きましょうよ！」

グレイ「まったく…」

レーティア「ホント怖がりね」

顎に手を当てて疑問を呟くシルバーにルイージはそう答え、顔を青くした銀時はそそくさと戻ろうとして新八に服の裾を引っ張られ、グレイとレーティアは呆れる。

神楽「銀ちゃん怖がり過ぎネ」

銀時「ばっ、ばっきゃろう、銀さんは怖がってませんよ」

ビビ「震えてるわよ？」

銀時「ちっ、ちげえよ、こりゃあ武者震いだよ武者震い」

デスサイズ「まあまあ、本人がそう言ってるから良いんじゃないの？」

神楽とビビの指摘に否定する銀時の隣でデスサイズがそう言う。

すると…

？？？「ばあぁぁぁぁぁ！！」

銀時「ぎゃあぁぁぁぁぁぁぁ！！」

銀時の前にオレンジ色の幽霊、ヤプーが現れて、それに銀時は後ずさりする。

ルイージ「よっ！」

出て来たヤプーにルイージはオバキュームで吸い込む。

ブリッツ「大丈夫でござるか？」

デスティニー「ってか何でたまたまあったゴミ箱に顔を突っ込んでるんだ？」

銀時「いや、ちょっとムー大陸の入り口を…」

デスティニー「ねえよ！ゴミ箱にムー大陸の入り口なんてねえよ！」

明久「あはは；」

ムッツリーニ「……早く行こう。師父が心配だ」

ルイージ「だね」

ブリッツがゴミ箱に顔を突っ込む銀時に話しかけ、そう返す銀時に聞いたデスティニーがツッコミを入れて、明久は苦笑し、ムッツリーニがそう言い、ルイージがそう言う。

その後、鍵が掛かってたりもしたがヤプー、マプー、モプー、呪霊の集団と戦い、鍵をゲットしてはその鍵の部屋へ行き、また手に入れたら他の部屋へと言う感じに進んで行く。

ナックルズ「いっ、一体何部屋あるんだ？」

テイルス「開けまくったよね？」

ジャンヌ「ほとんど階を何回も往復したのは分かるわ」

銀時「……」

新八「銀さん大丈夫ですか？」

神楽「…駄目ネ、沢山会ったから抜けてるネ」

νガンダム「いや～途中でνガンダムになったよ」

デスティニー「なる理由は分かりますけど…何部屋あるんだよこの廃墟！」

シルバー「だよな…多すぎだろ、ルイージってこれに似たので何回も言ったんだな…」

グレイ「目的の場所へは何時になったら着くんだ？」

肩を上下させて言うナックルズにテイルスは聞き、ジャンヌがそう言う。

銀時は口から何かでかねない程と言うか出ていて新八が話しかけても返事せず、神楽が銀時の顔の前で手を振ってそう言う。

タオルで頭の汗を拭くνガンダムにデスティニーは叫び、シルバーは背伸びしてしみじみと言い、グレイはイライラしながら言う。

シャドウ「それで…次はどこなんだ？」

ルイージ「次は……バルコニーか…いそうだな」

ブリッツ「へっ？犯人がでござるか？」

シャドウの問いにルイージはゲームボーイホラーで次の鍵の場所を見てそう言い、ブリッツが聞く。

ルイージ「いや、ジャンボテレサだよ、前戦った時は奴はバルコニーにいたからね」

銀時「マジですか？」

ビビ「ああ…確実にビックリするわね」

デスサイズ「魂が抜けかねないな」

ソニック「Ｈｅｙ，それで行こうぜ」

カリバーン「そうだな」

ルイージが言った後に銀時の顔が真っ青になり、ビビは思い浮かべてそう言い、デスサイズはその顔を見て言い、ソニックが早く行こうと催促する。

数分後、バルコニーで

ルイージ「やっぱり…」

銀時「すいません、マジ帰って良いッスか？」

新八「だから帰っちゃ駄目ですよ；」

目の前のジャンボテレサにルイージはため息を付き、銀時が戻ろうとするが再度新八が抑える。

ジャンボテレサ「また会ったなルイージ！リベンジさせて貰うぜ！此処には弱点の奴はないからな！」

ルイージ「（確かに、今回はユニコーンの銅像がない…）」

ジャンボテレサの言葉にルイージは周りを見て言う。

ルイージ「皆！トゲっぽいので攻撃して！そうすればあいつは１５匹のテレサにバラバラになるから！」

ジャンヌ「なら私の出番ね！」

そう言うとジャンヌはハルケギニアの制服にバリアジャケットを変えると呪文を唱え…

ジャンヌ「アイスニードル！！」

杖の先端から氷のトゲが現れ、それがジャンボテレサに命中すると弾け飛ぶ様に１５匹のテレサになる。

それにシルバーはサイコキネシスで動きを止めて、事前に氷属性の攻撃が出来る銃を貰っていたシャドウが連続で凍らして打ち落として行き、１５匹全部凍らせてたらそれを全てルイージは吸い込んだ。

明久「一気に出来ましたね」

ムッツリーニ「……俺たちの出番はなしだな…」

ルイージに駆け寄りそう言う明久の後にムッツリーニが呟く。

その後、ルイージ達はジャンボテレサと戦う前と同じ手順で行く。

銀時「俺…当分こう言うとこ行きたくねえ…」

ぜえぜえとシルバーソウルを持った銀時がそう言う。

ビビ「そうね…そろそろ屋上かしら?」

ルイージ「うん…」

ビビの疑問にルイージは鍵を持って言う。

ネオスに変身した明久とネクサスに変身したムッツリーニは上を見る。

ネオス「凄い力を感じるよ」

ネクサス「……確かに」

2人の言葉に全員が気を引き締め、屋上へ向かう。

そこには…黒尽くめの1人の女が立っていた。

ビビ「もしかして…あの人が犯人?」

ルイージ「らしいね…」

ビビの問いにルイージはそう答えた後にコスモスに変身する。

コスモス「あなたですか?兄さんを攫い、ジャンボテレサを復活させたのは?」

コスモスが近寄り問うが返されず、それにコスモスが首を傾げた時…

女「あっあぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！！」

一同「！？」

突然、女が叫び、全員が驚いている間に女の足から闇が出て、女を包み込む。

全員が警戒する中、闇が晴れると…漆黒のライダーがそこにいた。

ビビ「何あれ……？」

コスモス「さしずめ…仮面ライダーダークかな？」

その言葉と共にダークは両手を口に変えるとビビに襲い掛かる。

ビビは避けようとするが…

ビビ「（あれ？動きが遅い…）」

ネクサス「！」

何時もより早く動けない事にビビが驚いてる間にネクサスがビビを喰らおうとしていたダークを蹴り飛ばす。

ビビ「あっ、ありがとう」

グレイ「それにしても…何だ？奴があの姿になってから動きが…」

ネクサスにお礼を言うビビを見てグレイは自分の手を動かして呟く。

コスモス「僕達は何時も通りに動けるけど…」

ネオス「それじゃああのライダーは！」

ネクサス「……十区八苦、転生者」

新八「けど、何か様子がおかしくありませんか？」

神楽「おかしいって私等の動きは分かってるネ」

コスモスが手をグッパしながらそう言うとネオスはダークを見て、ネクサスがそう言う。

そんな中、新八がダークを見てそう言い、神楽が腕を回しながら言う。

新八「いや、僕達の動きじゃなくてあのライダーの様子ですよ。何か発狂した感じじゃありませんでした？」

銀時「そういやそうだな…ありゃあ普通じゃないな」

新八の言葉に銀時は最初の時を思い出して呟く。

グレイ「まさか…暴走してるのか？己の力に？」

レーティア「それで自我がないのかもね」

コスモス「だったら僕に任せて！フルムーンレクトで彼女の自我を取り戻させる。その為にはネオス、ネクサス！君達は彼女を抑えて！」

コスモスはそう言うと力を貯め始め、ネオスとネクサスはダークの攻撃を避けて、抑える。

カリバー「俺たちの力も使え」

ミラージュアギト「やってやら！」

Ｇ３－Ｘ「行くよ！」

ＮＥＷ電王「おう！」

シャドウ「カオスエメラルドの力もだ！」

力を貯めるコスモスに５人もそれぞれの力を収集させる。

νガンダム「こっちも押さえに入るよ！」

デスティニー「はい！」

ブリッツ「でござる！」

デスサイズ「やりますか」

そしてνガンダム達もダークを抑えに入る。

コスモス「はあぁぁぁぁぁぁぁぁぁ…」

力が溜まった後にコスモスはフルムーンレクトを放つ。

ダーク「うわぁぁぁ…」

それを受けたダークは最初はジタバタしていたがやがてそれは小さくなり、光った後に漆黒だったアーマーは白くなり、変身が解ける。

ネオス「おっと」

倒れ掛かった所をネオスが受け止め、地面に横たわらせる。

銀時「これで終わりか？」

ルイージ「そうだね…」

銀時の言葉にルイージは同意する。

ブリッツ「それで…マリオ殿はどこに？」

デスサイズ「全然見えないよな？」

周りを見て言うブリッツにデスサイズもそう言う。

1時間後、マリオは地下室の所で絵となって飾られていたのを発見し、ジャンボテレサは元の絵に戻したのは良いが…

マリオ『まさか壊れるとはな；』

オヤマー「すまんの～マリオ君；」

直るまでまだ絵の状態のマリオであった。

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

銀八「んじゃあ行くぞ～蛇八先生よろしく！」

蛇八「了解だ、まあ1つだけだかペンネーム『匿名希望』から『質問です。　マリオのことが好きな人を全員教えてくれませんか？』…ルイージに答えて貰うぞ」

ルイージ「ええっと、ピーチ姫でしょ、クリスチーヌでしょ、ビビアン（性転換薬で女になり済みとクリスチーヌと一緒に擬人化薬で擬人化している）でしょ、ヘキサさんでしょ、んでヘキサさんの世界の神であるスピカさんでしょ、それとロゼッタさん…だね」

銀八「との事です『匿名希望』さん、廊下に立ってなさい！」

蛇八「今回は此処まで！」

マリオ『いや～まさか絵状態が続くとはな；』

ルイージ「次の真王さんとのコラボじゃあ元に戻ってようね；」

ネス「感想を待ってます♪」

魔法少女まどか☆マギカ'　　龍が現れて人と融合したら思いっきり驚く（前書

ルイージ「今回は龍の骨さんの『魔法少女まどか☆マギカ'　』とのコラボだよ！」

マリオ『龍の骨とのコラボ第2弾だな』

フォックス「出すんだなあれ…」

スネーク「ちなみに相手側の小説での形式で行くぞ」

とある次元の本来の歴史とは違う魔法少女が住む世界。

「たくっ！今回の硬すぎだろ！」

俺は目の前の魔獣に悪態を付く。

まどかとさやかも攻撃はしてはいるが全然効いてない。

どうしようかと考えた時…

「！剣士様後ろ！」

「えっ？」

さやかの叫びに俺は後ろを見る。

すると…巨大な龍がいた。

「！？新手の魔獣かよ！」

それに俺は慌てるが龍は口に光りを集めた後に俺じゃなく、俺たちが戦っていた魔獣に攻撃を始める。

「あれ？私達には興味なしなのかな？」

「同士討ち？」

俺を飛び越え、おれたちが最初に戦っていた魔獣に攻撃を始める龍に俺の傍に来たまどかは首を傾げ、隣でもさやかが疑問を呟く。

どうしようかと思った時…

「スターダスト！行くよ！」

「「「え？」」」

いきなりの声に俺たち三人はした方を見ると空を飛ぶ仮面の戦士がいた。

そしてカードを取り出すと左腕の手甲に装填する。

「ユニゾンベント」

その音声の後に龍が咆哮すると光の球となり、仮面の戦士の鎧に吸い込まれると鎧が白銀に染まり、龍を模した感じに変わった。

「いっけぇぇぇぇぇ！」

そして、叫ぶと同時に両腕が青白く光ると十字組んで青い光線を放つ。

それは龍が攻撃していた所へ当たり、当て続けているとヒビが入り、最後には魔獣を貫いて爆発した。

「成る程…一点に集中させての攻撃か…なかなかやるな」

「ってか…誰？」

それに俺は感嘆の声を出し、さやかが誰もが思う疑問を呟く。

「つまりあんた…ネオスもとい吉井　明久は別の世界の出身者で何時の間にか俺たちの世界に迷い込んでいて、途方にくれていた時に俺たちが戦っている気配を感じて先にさっきの龍、スターダスト・ドラゴンだっけ?そいつを先行させてから自分も追いかけて、さっきの様になった…で良いんだな」

「うん…けれど魔獣か…大変だね…」

「これ以外でも大変だけどな…」

「?」

数分後、俺は仮面の戦士…仮面ライダーネオスと言う奴から変身を解いた明久から聞いた事を言って、明久はそれに頷き、遠い目をする俺に明久は首を傾げる。

「それにしても恭介君って木刀で戦うんだね…僕は別の世界に行ったけど君以外で木刀を使う侍がいたから珍しくはないけど」

「ほ～それは凄いな」

どう言う人か知りたいもんだと俺は思った後にまどかがおずおずと手を上げる。

「えっと…あの龍さん以外にもいるんですか?」

「うん、これが僕が契約してる皆だよ」

まどかの問いに明久は答えた後にあの龍、スターダスト・ドラゴンを含んだ7枚のカードを出して俺たちに見せる。

色々といるな、イルカとかスカラベとか土竜、あげくに豹とか鳥に光る奴とか…見ていて俺はある事に気づいた。

「ん？スターダスト・ドラゴンだけ、違うな」

裏側もそうだが表の部分も全然違う事を言うと明久は頭を掻いて言う。

「実はこのカードは他のカードのモンスター達のモデルとなったモンスター達と同じカードゲームのでさ…実は精霊が宿ってるんだ。その精霊と一緒に戦ってるんだ」

精霊とは驚きだと俺は心の中で驚くがまどかとさやかは綺麗と言っている。

確かにあの時もそうだったがキラキラ輝いていたからそう言えるなと心の中で頷く。

「元のって何？」

「ああ…これだよ。他のカードも見せてあげるよ」

俺が頷いてる間にさやかが明久にそう聞き、明久は7枚のカードを仕舞うとカードの束を出す。

それを俺やまどか、さやかは受け取って見て行く。

色々とカッコいいモンスターや可愛いモンスターが沢山いるな…少女や女性のモンスターをじ～と見てたら2人が黒いオーラを出すと思うのでそれだけ素早く見て他のをじっくり見る。

隣でまどかがこの服良いなと少女や女性型のモンスターの服を見て感想を言っていた。

「スターダストを除いた6体の元になったのって何？」

「ああ…これとこれとこれ、これとこれとこれだよ」

さやかの問いに明久はカードを俺が見ていたカードの束から6枚のカードを取ってそれを見せる。

見るが…3体を除いて元はなんと言えば良いか…まどかとさやかも同じ感じの様だ。

特にイルカ、ドルフィンウェーブと聞いたが元となったモンスターの外見が顔がイルカで体が人って…他は似た様なのもいるがまだましだな、除いた3体の内の1体である土竜、モールドリルの元となったモンスターがまどかの6体の中で気に入ったようだ。

豹、ブラックバスターとスカラベ、スカラベアッシュの元は普通にカッコいいな。

ちなみにそれと融合したネオスの鎧の元となったヒーローのを見せて貰ったが普通にカッコいいなと思った。

カードの束を明久に返すと不思議な壁が現れた。

明久が言うにこれが戻る為の道だとの事

「それじゃあ、魔獣退治頑張ってね！」

そう言うとネオスに変身した明久はその不思議な壁を通り抜けて消えた。

「不思議な奴だったな」

「そうだねお兄ちゃん」

後日だが、俺が起きると明久が見せてくれたカードの中にあった女性のモンスターの服を着たまどかがいた。

…何時の間に作ったんだ？

魔法少女まどか☆マギカ'　　龍が現れて人と融合したら思いっきり驚く（後書き）

と言う訳で龍の骨さんとのコラボでした！龍の骨さんどうでしょうか？

マリオ『それにしても見せたな…』

ルイージ「だね」

ネス「感想を待ってます♪」

豪快チェンジは色んな状況に対応出来るね　ｂｙガンダム（前書き）

マリオ『ユートピアとのコラボだ！…博士、早く直してくれよ；』

オヤマー「いや～マジで待っていてくれ；」

豪快チェンジは色んな状況に対応出来るね　ｂｙガンダム

ディケイドライバー「サモンライド！ユートピア！」

ディケイド「こんにちわ」

終「あれ？マリオじゃないな」

マリオ『俺は此処だ』

一夏「うおわ！？」

鈴「絵が喋った！？」

ルイージ「実は…」

～ルイージ説明中～

ルイージ「…と言う事」

椛「ふう～ん…それよりもドクターって人いるかしら？」

ドクター「私だけど？」

楓ＬＯＶＥズ「薬を見せてください！」

ドクター「えっ！？ちょ！あ～～れ～～～！」↑楓ＬＯＶＥズ

に連れて行かれる。

フォックス「連れて行かれたな；」

ガンダム「そうだね；」

終「それで…俺と一夏だけでレンジャーの力を試したいんだ」

マリオ『任せとけ、準備は出来ている。俺は戻る準備してるから』

～数分後～

ルイージ「と言う訳で、はい、これが君達が使うモバイレーツとレンジャーキーだよ」

終「ああ」

一夏「サンキュー」

ルイージ「ちなみにちょっとしたルールを用意してあるよ」

終「？どう言う奴だ？」

ルイージ「お互い最初はゴーカイジャーになってさ…自分達が持つレンジャーキーの中で6本選んでおいて、それ全部使い終えてゴーカイジャーの変身が解けた方が負けって奴」

終「成る程…」

一夏「面白そうだな」

千冬『どちらも頑張るんだぞ』

ヨッシー『よ～しよし！』

ブリッツ『可愛いでござるな～』

デスティニー『何で俺？』

ヘビアームズ『……』↑赤ちゃん達に芸を披露している。

楓『すいません皆さん；』

ルイージ「まあ、僕が移動してる間に考えてね」

一夏「ああ！」

終「分かった」

～ルイージ移動中～

ルイージ『準備良いかい？』

ゴーカイグリーン「ＯＫだぜ！」

ゴーカイブルー「俺もだ」

ルイージ『それじゃあスタート！』

ゴーカイグリーン＆ゴーカイブルー「豪快チェンジ！！」

Wモバイレーツ「マージレンジャー！！」

ガンダム『おっ、どっちともマジレンジャーになったね！』

シャア『しかも父と息子のだからな…少し終が押してるな』

マジレッド「くそっ！豪快チェンジ！！」

モバイレーツ「アーバレンジャー！！」

ガンダム『おおっと！此処でアバレブラックにチェンジした！』

シャア『このままだと不利と感じたようだな』

アバレブラック「ダイノスラスター！グランドインフェルノ！」

ウルザードファイヤー「ぐっ！」

ガンダム『此処で必殺技を使って終をゴーカイブルーに戻す！』

シャア『流石に地面からの攻撃は無理か』

ゴーカイブルー「豪快チェンジ！！」

モバイレーツ「ジュウーレンジャー！！」

ガンダム『終はここでドラゴンレンジャーに豪快チェンジした！』

シャア『武器では振り易さはドラゴンレンジャーだな』

楓『？何でですか？』↑イリアをあやしている

千冬『長い武器ほど重さが上がるからな…それに剣と短剣で戦うなら使う者や素材によって変わるが相手の懐に入るなら短剣が有利だからな』

ガンダム『おおっと！千冬さんの言葉を示す様にドラゴンレンジャーが押して行く！』

シャア『むっ、ここでアバレブラックは変える様だな』

モバイレーツ「ハーリケンジャー！」

ハリケンレッド「ドライガンを喰らえ！」

ガンダム『ハリケンレッドに変身してドライガンで攻撃！』

シャア『いきなりの攻撃に防御が間に合わずドラゴンレンジャーは吹っ飛ぶな』

ハリケンレッド「おりゃあ！」

ガンダム『そして追い討ちとばかりに疾風丸で切り裂く！』

ドラゴンレンジャー「やるな一夏！なら豪快チェンジ！！」

モバイレーツ「ゴーオンジャー！！」

ゴーオンブラック「カウルレーザー！！」

ガンダム『此処で終はゴーオンブラックに変身して遠距離攻撃！』

シャア『ハリケンレッドもドライガンで応戦はするが流石に接近戦が主だった分銃には不慣れか何発か貰ったな……ん？』

ゴーオンブラック「何！？」

ガンダム『おっと！スーツだけだ！スーツだけになって消えた！』

ゴーオンブラック「どこに…」

ハリケンレッド「超忍法！影の舞！」

ガンダム『おおっと！此処でハリケンレッド！ゴーオンブラックの後ろに現れて影の舞で連続攻撃！』

シャア『これにはゴーオンブラックは吹き飛んで戻った！』

ゴーカイブルー「やるじゃんか…豪快チェンジ！！」

モバイレーツ「ハーリケンジャー！！」

シャア『終はカブトライジャーになったな…これで終は残り2個、一夏3個だな』

カブトライジャー「超忍法！角いなずま！」

ハリケンレッド「うわぁ！」

ガンダム『角いなずまで攻撃！それでハリケンレッドはたまらずゴーカイグリーンに戻る！』

カブトライジャー「一発返したぜ」

ゴーカイグリーン「にゃろう…豪快チェンジ！！」

モバイレーツ「ギーンガマン！！」

ギンガレッド「炎のたてがみ！！」

ガンダム『おおっと！ギンガマンに豪快チェンジしてアースを使った！』

カブトライジャー「はっ！」

シャア『だが、ジャンプしたな…』

カブトライジャー「カブト雷撃波！！」

ギンガレッド「うわぁ！」

ガンダム『すかさず必殺技を炸裂させてすぐにゴーカイグリーンに戻すカブトライジャー！』

シャア『一気に後1つになったな…』

楓『そうですね…あれ？織斑先生？』

デスティニー『何時の間にかいないな…』

ゴーカイグリーン「この！豪快チェンジ！！」

モバイレーツ「ダーイレンジャー！！」

ガンダム『此処で最後の１つ！リュウレンジャーになった！』

リュウレンジャー「天火星！稲妻炎上波！！」

シャア『此処でリュウレンジャーのもっとも得意な技で攻めたな』

カブトライジャー「ぐっ！どはっ！」

ガンダム『ダメージ受けて戻った！！これで終も後１個！』

ゴーカイブルー「豪快チェンジ！！」

モバイレーツ「ラーイブマン！！」

シャア『終の最後はレッドファルコンか…』

レッドファルコン「行くぞ！」

リュウレンジャー「おう！」

ガンダム『それぞれ剣を持ってぶつかり合う！』

シャア『どちらも上手くぶつかり合うな…』

リュウレンジャー「この！」

レッドファルコン「たっ！」

ブリッツ『互角でござるな～フィン殿～拙者の頬は遊びの道具じゃないでござる～～～』

デスティニー『えっと…こうか？』↑フェアルのオムツを取り替えてる。

ヨッシー『高い高い～』↑擬人化して優に高い高いしている。

ヘビーアームズ『……』↑ルウラの頭を撫でている。

楓『ホントにすいません…皆さん、どこにいるんでしょうか？』

ジャスティス『４人とも、ベビーシッターなれるんじゃないか？』

フリーダム『そうだね…あっ！？何時の間にか進んでる！？』

ゴーカイブルー「はあはあ…」

ゴーカイグリーン「ぜえぜえ…」

ガンダム『どっちともぶつかって変身が解けた様だね』

シャア『どうなるのやら…』

千冬『…すまないがそれは中止してくれないか？』

ガンダム『えっ？』

千冬『一夏、黒谷、厄介な事が起きた』

ゴーカイブルー「えっ？」

ゴーカイグリーン「どうしたんだ千冬姉？」

マリオ『何があったのか？』↑戻ったので来た

千冬『ああ…知り合いから連絡があった』

ブリッツ『どう言う連絡でござるか？』

千冬『警告する。実は我がＩＳの設計図の書類が何者かに盗まれたのだ。しかもそれを悪用して無人ＩＳの軍団が作られたとのことだ。犯人と無人共を一掃して設計図を取り返してくれ』

マリオ『成る程…どうやら別世界に行ったらしいな…しかもネプテューヌ達がいる銀時の所か…』

ガルマドップ『ダブコラに続く！』

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

銀八「んじゃあ行くぞ～蛇八先生よろしく！」

蛇八「了解だ、ペンネーム『真王』から『真王「相変わらず銀さん怖がってるな」

ネプテューヌ「怖がってる銀さんも可愛いな」

真王「おいおい…『マリオさん絵に閉じ込められてどう思った?』」

ネプテューヌ「『ところでみんなの中でお化け怖い人いる?』」

真王「さて、またまたリクエスト始めるかな?」

『オイオイどうことだよ!俺の会社に変な奴が紛れてんぞ!しかもメッチャくちゃにぶっ壊して今でも立てこもってやがるし。誰でもいいからあの機械モドキをぶっ壊してくれないか!?(とある会社の社長より)』

『参加キャラ:銀時、神楽、新八、桂、エリザベス、レーティア、ジャンヌ、グレイ、ビビ、ネプテューヌ』

『登場敵キャラ:ダマグモキャノン(ボス)、ダマグモブラスト(ボス)、ダマグモバスター(ボス)、ダマグモグレネード(ボス)』

真王「ブラストはブラスタービームを、バスターはロケットランチャーを、グレネードはグレネード弾を装備しています。ではまた」『…それでは答えて貰おう」

マリオ「前回と同じ普通に何もなかったな…後、俺たちの中じゃあルイージ、ピーチ姫、リュカ、ディディー、デデデ、ピチューだな」

銀八「と言う訳で『真王』さん、ダブルコラボを楽しみにしてくだ

さい！最後のペンネーム『匿名希望』さんから『質問です。　ウルトラマンタイプの仮面ライダーに変身する皆様はウルトラマンに変身できますか。』」

マリオ「普通に出来るぞ」

蛇八「と言う訳で『匿名希望』廊下に立ってなさい！」

銀八「今回は此処まで！」

豪快チェンジは色んな状況に対応出来るね　ｂｙガンダム（後書き）

マリオ「と言う訳で次回は初のダブルコラボだ！」

ブリッツ「そう言えば…ドクター殿はセシリア殿たちに何を渡したでござるか？」

ドクター「…下のだよ」

獣耳や獣尻尾が生える薬（色んなシリーズ）：５ダース

どんな言語も話せるよ君：１ダース

スタイルが望んだ数値に出来るよ君：１ダース

吸血鬼になれるよ君：１ダース

解除薬：１０ダース

スカキャラになるよ君：１ダース

ブリッツ「…最後のネギま！？でござるな…」

デスティニー「どんだけだよ；」

ネス「感想を待ってます♪」

マリオ「と言う訳で本小説初のダブルコラボだ！」

ルイージ「どうなるんだろうね…」

ゴッド「行くぞ！！」

銀時「マジですか？」

マリオ「マジだ」

前回、何者かによりＩＳの設計図が盗まれ、その人物が銀女神（↑こちらなりの真王さんの所の世界名）の世界に来てしまったので銀時達のいる機動六課に来て事情を話したのだ。

ちなみに銀時以外にネプテューヌ、グレイ、ビビ、レーティア、ジャンヌのメンバーだけで他のメンバーは思いっきり遊びに出かけている。

一夏達も来ているが子供達は…前回ベビーシッターした４人＋ルイージが預かっている、

なお…今回来ているのは…

ウイング「……」

デスサイズ「いや～前回来た時はゆっくり観光出来なかったから良いね～」

サンドロック「良いのかな？；」

ナタク「奴等は正義か？」

ゴッド「師イイイ匠ぉオオオッ！！」

東方不敗「ゴッドぉぉぉぉぉぉ！！」

風雲再起『２人共、暴れまくっては；』

ターンＡ「僕初めてですよ～」

ＤＸ「俺も俺も」

ダブルオー「俺がガンダムだ！」

ピット「不安だ…」

上記のメンバーである。

銀時「ねえ、俺たちいらなくない布陣じゃねえ？特に今ぶつかり合ってる奴等とか？」

マリオ「いや、あいつ等には兵隊を倒して貰うから」

ＳＤガンダムメンバーを見て言う銀時にマリオはそう言う。

マリオ「んでまあ…早速来てくれたみたいだな…」

外を見て言うマリオにメンバーは外を見ると…大量の無人機・ストライカー、無人機・ブラスター、無人機・ジェネラル、無人機・ブラックキングの集団がいた。

銀時「多すぎなんですけどぉぉぉぉぉ！！！」

ジャンヌ「あんなに作られてたの！？」

グレイ「よく作れたもんだ…」

東方不敗「行くぞゴッド！」

ゴッド「おう！」

ダブルオー「根絶する！」

ナタク「やってやる！」

ウイング「任務を開始する」

デスサイズ「そんじゃあ行きますか」

ＤＸ「よっしゃあ！行くぜターンＡ！」

ターンＡ「はい！」

その集団に銀時がツッコミ叫び、ジャンヌは驚き、グレイは呆れた声を出す。

その後にＳＤガンダムメンバーが飛び出す。

マリオ「そんじゃあ親玉を潰しますか」

そう言うとマリオは見た目映画版メガトロンとそっくりなロボットを見る。

ジェラトロン「ほう？このジェラトロンに生意気な事を言うか？」

一夏「お前か！設計図を盗んだのは！」

マリオを見るジェラトロンに一夏が前に出て問う。

ジェラトロン「いかにも、ＩＳとは良い兵器だ…活用してやるからありがたく思え」

一夏「悪いけどさせるかよ！」

終「その通りだ！あれも使って行くぞ一夏！」

一夏「あれだな！」

ジェラトロンの言葉に一夏が叫んだ後に終がそう言うと一夏はやる事を理解して、前回から持っていたモバイレーツを取り出し、レンジャーキーを持って構える。

一終「「豪快チェンジ！！」」

モバイレーツ「「ゴーカイジャー！！」」

その音声と2人は変身した。

ゴーカイブルー「ゴーカイブルー！！」

ゴーカイグリーン「ゴーカイグリーン！！」

転生者女性陣「（えええぇぇぇぇぇぇぇ！？）」

ゴーカイジャーのブルーとグリーンに変身した一夏と終に（特に一夏を）見ていた転生者女性陣は心の中で驚きの声を上げる。

ゴーカイグリーン「ドーンと行くぞ！」

ゴーカイブルー「ああ！」

その間に2人はＩＳを機動させるとそのままジェラトロンへ向かって行く

マリオ「俺はウイング達を手伝うから、ピットは一夏達を！」

ピット「はい！…変身！」

ディケイドライバー「カメンライド！ディケイド！」

マリオの指示にピットは頷いた後にディケイドライバーにカードを装填してその音声と共に仮面ライダーディケイドに変身する。

ネプテューヌ「銀さん、どうせならあれを使ったら？デバイスを？」

銀時「えっ！？無理無理無理！！あれ使いたくねえよ！しかも思いっきり本家いるだろ！無理だってめっちゃ！絶対に痛い人って思われるから！！」

ネプテューヌの言葉に銀時はめっちゃ嫌がり拒否する。

それにセシリア達ＩＳチームと見てないビビ達は首を傾げる。

ネプテューヌ「嫌がってても相手は空中だからさ…」

銀時「だけどな…」

千冬「?何か切り札を持ってるのか?」

なおも説得しようとするネプテューヌだが銀時も渋る。それに千冬が聞いた時…ディケイドのライドブッカーからカードが出て来てディケイドの手に収まり、しばらくして絵柄が出る。

絵柄はシルバーブレイドを起動させた時の銀時だが若干アーマーが違っていた。

ディケイド「何これ?…使えって事かな?」

首を傾げながらディケイドはそのカードをディケイドライバーに装填する。

ディケイドライバー「フォームライド!シルバーブレイド・バージョン2!!」

銀時「おわ!?」

その音声と共に銀時の持っていたシルバーブレイドが強制的に起動し、銀色の魔力が銀時の体を包み込む。

そして収まるとそこには…銀と紅が交じり合ったアーマー…つまり簡単に言うと一夏の百式と箒の紅椿が上手い具合に融合させられたシルバーブレイドの新たなバリアジャケットを纏った銀時がいた。

銀時「おいいいいいいいい！！！何でいきなり起動してるの！？しかも何かバージョンアップって言うか混ぜた奴になってるんですけどぉぉぉぉ！！！！？」

ビビ「ええ！？何あれ！？」

ジャンヌ「思いっきり改造コスプレじゃない！」

レーティア「これは…」

セシリア「あれは…一夏さんと箒さんのが混ざってますわね…」

鈴「ホントね」

いきなりの起動とバリアジャケットが変わっている事に銀時は叫び、ビビ、ジャンヌ、レーティアは驚き、セシリアと鈴が銀時のを見て言う。

千冬「何だその一夏と篠ノ之のＩＳを混ぜた奴は！？」

銀時「俺が知るか！ってか何でいきなり！？あの三人、何時の間にか改良してたのか！！？」

ディケイド「ゴメン、それいきなり出たカードを入れて出た効果だよ」

千冬は驚いて銀時に問い詰め、銀時も叫び返し、製作者三人を思い浮かべて言い、ディケイドが手をパンと合わせ頭を下げる。

ネプテューヌ「さあ！銀さんなったからにはＧＯＧＯ！！」

銀時「あああもう…やってやらぁぁぁぁ！！」

ネプテューヌのＧＯサインに銀時はやけになって飛び出す。

椛「行くわよ楓」

楓「あっ、はい！」

シャルロット「遅れを取らない内に行こう！」

ラウラ「そうだな！」

それに楓達もＩＳを起動させて飛ぶ。

銀時「おりゃぁぁぁ！！」

ジェラトロン「むっ！」

ゴーカイグリーンとゴーカイブルーがジェラトロンと戦う場に銀時が乱入して斬りかかり、それにジェラトロンは受けて後ずさる。

ゴーカイグリーン「何だよそれ！？」

銀時「マジで聞かないで、こっち恥ずかしいんだよ（けれど…最初に使った時のよりアップしてるな…伊達じゃねえって事か…）」

驚くゴーカイグリーンに銀時はそう言い、内心は威力がアップしてる事に驚く。

そこに楓達も来て、ラウラとセシリアが自分達のＩＳに付いた遠距離攻撃のでジェラトロンを攻撃する。

ジェラトロン「なんの！」

それをジェラトロンはシールドを出して防ぐが…

シャルロット「破壊させて貰うよ」

すかさずシャルロットが灰色の鱗殻（グレー・スケール）でそのシールドを破壊する。

すかさず、鈴と椛、楓が接近して攻撃する。

ジェラトロン「ぐぬぅ…」

ディケイドライバー「ファイナル・アタックライド！ディ・ディ・ディ・ディケイド！！」

呻いたジェラトロンの前にカードの幻影がレールの様に現れ、それを潜って行く様にディケイドがキック態勢でジェラトロンに向かっていた。

ゴーカイブルー「一夏！」

ゴーカイグリーン「ああ！」

それにゴーカイブルーはゴーカイグリーンに話しかけた後にレンジャーキーをゴーカイガンとゴーカイサーベルに装填する。

ゴーカイガン＆ゴーカイサーベル「ファ～イナルウェ～イブ！！」

ゴーカイブルー&ゴーカイグリーン「はあぁぁぁぁぁぁ！！」

音声と共に2人はゴーカイガンとゴーカイサーベルを構えるとゴーカイスクランブルの態勢に入り、銀時も刀を構える。

ゴーカイブルー&ゴーカイグリーン「ゴーカイスクランブル！！」

銀時「ほわたぁぁぁぁぁ！！」

ディケイド「おりゃあぁぁぁぁぁぁぁぁ！！」

ジェラトロンにまずはディケイドのディメンションキックが決まると同時にゴーカイブルーとゴーカイグリーンのゴーカイスクランブルと銀時の斬撃がジェラトロンを切り裂く。

ジェラトロン「ばっ、馬鹿なぁぁぁぁぁぁ！！」

叫んだ後にジェラトロンは爆発し、それと共に何かが落ちるが、ディケイドがキャッチする。

楓「やりましたね！」

ディケイド「はいＩＳの設計図の書類」

千冬「確かに…」

降りて来た楓がそう言い、書類はディケイドから千冬に返される。

ＤＸ「終わったぜ～」

ターンA「ホントに沢山いましたから苦労しました～」

ウイング「任務完了」

グレイ「ふう…」

そこにSDガンダムメンバーとグレイ達が来る。

その後に少しパーティーをした後に元の世界に戻り、楓達は子供を迎えに言った後に帰ったのであった。

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

銀八「んじゃあ行くぞ～蛇八先生よろしく！」

蛇八「了解だ、まあ1つだけだかペンネーム『匿名希望』から『それと前のコメントで、ソニックのゲームを持っていると言っていたのですが、どんなゲームを持ってますか？

私は、「秘リン」、「暗黒の騎士」、「新ソニ（ソニック・ザ・ヘッジホッグ・」、「ソニックヒーローズ」、「ソニックカラーズ」、「ソニッククロニクル」です。あとは、「スマブラ」、「北京オリンピック」、「バンクーバーオリンピック」です！

あっ、「秘リン」とは、「ソニックと秘密のリング」の略です。

では、回答おねがいします。

では、執筆がんばって下さい！！！』…それじゃあ作者、答えてくれ」

鳴神　ソラ「私が持ってるのは『ソニックアドベンチャー２バトル』と『ソニックヒーローズ』と、『スマブラ』、『北京オリンピック』、『バンクーバーオリンピックＷｉｉバージョンのみ』です」

銀時「と言う訳で『匿名希望』さん！廊下に立ってなさい！」

蛇八「今回は此処まで！次回も質問を待っているぞ！」

と言う訳でダブルコラボでした！！

ルイージ「それにしても、シルバーブレイドバーションアップさせちゃって良かったの；」

そこは真王さんに聞かんとね…

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　銀の侍と４人の女神　―　第別訓パート９

スネーク「と言う訳で真王とのコラボ第９弾だな」

オリマー「頑張ろう明久君」

明久「はい！」

銀時「まったく、めんどくさいのが次々と来るな」

オリマー「大変だね；」

明久「ホントですよね；」

グレイ「まったくだ」

大きいビルを前で頭を掻く銀時にオリマーと明久はそう言い、グレイはため息を付く。

とある会社の社長『オイオイどうことだよ！俺の会社に変な奴が紛れてんぞ！しかもメッチャくちゃにぶっ壊して今でも立てこもってやがるし。誰でもいいからあの機械モドキをぶっ壊してくれないか！？』

上記の依頼で銀時はグレイ以外に神楽、新八、桂、エリザベス、レーティア、ジャンヌ、グレイ、ビビ、ネプテューヌのメンバーと共に遊びに来たオリマーと明久、ムッツリーニ、ソニック、ロイ、ピットのメンバーと共に目的のビルの前にいるのだ。

桂「しかし、機械モドキとは一体何だろうな…」

ロイ「…それには同意だけど…何でマリオさんの格好なんだよ？」

マリオの格好をした桂…じゃなくカツオがビルの中にいる機械モドキを考えてそう呟き、ロイが同意した後にカツオ姿の桂にツッコミ

を入れる。

新八「それで入りますか？」

銀時「そうだな…一体何が出るのやら…」

新八の問いに銀時は頭をまた掻いた後に一同は中に入る。

また、入る前に明久はネオスに、ムッツリーニはネクサスに変身する。

ビビ「最初に出るのはなんなのかしら…」

オリマー「あれの様だよ…」

ネオス「あれ？」

ビビの呟きにオリマーはそう言ってある方を指し、一同はその方向を見ると…

細い足にそれから出てる丸い体型の機械が混ざった様な生物、ダマグモキャノンがいた。

銀時「えっ？何あれ？虫？虫なの？」

神楽「奇妙な奴ね」

エリザベス『ホントですね』

オリマー「いかん！早く物陰に隠れるんだ！」

ダマグモキャノンに銀時は戸惑い、神楽が言ってエリザベスが同意した後にオリマーが慌てて言った後に、ダマグモキャノンには物陰となる場所へ、近くにいた桂とグレイの手を持って走る。

他のメンバーもそれに続いた後にダマグモキャノンの下部分から何か出た後に赤外線が出て…

ドドドドドドドドドドドド!!

銀時「うおっ!?」

ネプテューヌ「何あれ!?」

新八「銃弾を打ち出すって…」

ダマグモキャノンから銃弾が放たれ、物陰に隠れた銀時とネプテューヌは驚き、新八も目を丸くして言う。

オリマー「気を付けるんだ!ダマグモキャノンは銃を乱射して来るからこう言う物陰に隠れて攻撃を止めたその隙を突いて攻撃するんだ!」

ロイ「はい!」

レーティア「分かったわ!」

オリマーのアドバイスにロイとレーティアが答えた後にダマグモキャノンが銃弾を放つのを止めた瞬間…

ロイ「はっ！」

ビビ「喰らいなさい！」

ソニック「とうっ！」

ピット「やあ！」

ロイ、ビビ、ソニック、ピットの攻撃がダマグモキャノンを一刀両断し、ダマグモキャノンは爆発する。

ビビ「あっけなかったわね…これで終わり？」

レーティア「！危ない！！」

手をパンパンさせるビビがそう呟くとレーティアが鞭で咄嗟にビビの右手首に巻き付けると自分の所へ引っ張る。

すると、ビビがいた場所をビームが通り過ぎる。

ジャンヌ「さっきの攻撃は何！？」

ネクサス「……そこ！」

いきなりの攻撃にジャンヌは驚き、すぐさまネクサスがジェネレードフォームにフォームチェンジすると飛んで来た方にアローレイシュトロームを放つ。

その先にいたダマグモキャノンとはまた違うダマグモに炸裂する。

オリマー「あれは新種か?…見るからにブラストビームを放って来たから『ダマグモブラスト』と命名しよう」

新八「してる場合じゃないと思います…って!ミサイル来たぁぁぁぁぁぁ!!」

冷静に分析するオリマーに新八がそう言った瞬間に崩れかかるダマグモブラストの後ろからミサイルが大量に飛んで来る。

ジャンヌ「多過ぎる!」

レーティア「流石に全て落とせないわよ!」

ネオス「全員召喚!」

ネオスバイザー「アドベント」×7

ジャンヌが驚き、レーティアがそう言った瞬間、それにネオスは自分が契約してるモンスター、イルカのドルフィンウェーブ、スカラベのスカラベアッシュ、豹のパンサーバスター、鳥のバードエッジ、土竜のモールドリル、光り輝く人型のモススピア、最後にスターダスト・ドラゴンを呼び出すと呼び出したモンスター達と迎撃する。

オリマー「…あのダマグモはロケットランチャーを装備してるのか…『ダマグモバスター』とでも言えば良いだろうか…」

銀時「行くぞヅラ!」

桂「ヅラじゃない!桂…じゃなくてカツオだ!」

現れた新たなダマグモを見てオリマーがそう言った後に銀時は駆け出し、それに桂は言いながらも追走する。

ダマグモバスターの放つミサイルを避けながら接近して、2人はダマグモバスターを斬りさく。

2人の後ろでダマグモバスターが崩れ落ちた瞬間に2人にどこからかグレネード弾が飛んで来る。

カリバー（ソニック）「おっと！」

それをカリバーに変身したソニックがカリバーンとデルフを構え、黄金の魔方陣で防ぐ。

デルフ「おでれーた！まだいるんだな！」

カリバーン「やれやれと言いたいな」

オリマー「『ダマグモグレネード』だな…ホントこの世界は新種が多いな…」

ネオス「一気に決める！モールドリル！行くよ！」

ネオスバイザー「ユニゾンベント」

また現れる新種のダマグモにカリバーに握られたデルフがそう言い、カリバーンがため息交じりにそう言った後にオリマーがそのダマグモの名前を決めるとネオスがカードを装填し、モールドリルが頷くとモールドリルは光りの球となるとネオスの鎧に吸収される。

するとネオスの鎧部分が茶色に染まり、鎧が土竜を模した感じに変わり、左腕に展開すればドリルになる手甲『ドリルナックル』を装着された。

ネオスG「ネオスグランド！これで決める！」

そう言うとドリルナックルを展開し、ダマグモグレネードに突撃する。

ネオスG「ネビュラブレイク！」

技名を叫ぶと同時にネオスGはダマグモグレネードを貫き、着地するとダマグモグレネードは爆発する。

銀時「ある意味危険な奴だったな…」

桂「うむ…あんなのが外に出れば大混乱だったな」

ビビ「けど…なんで此処だけで暴れてたのかしら？」

グレイ「さあな…」

その後、社長にお礼と少しの謝礼を貰い、銀時達は戻ったのであった。

～オマケ～

蛇八「教えて」

生徒一同「銀八先生～蛇八先生～」

銀八「今回は１つだけだけど元気にやるぞ！ペンネーム『真王』さんから『真王「私の知らぬ間にバージョンアップって…でも面白いから許せる！」

ネプテューヌ「許すんかい！！」

真王「そんなわけで『ダブルコラボをした感覚はどうでしたか？』そしてまたまたリクエスト♪」

『最近私達の保管しているミルクの質が落ちていく気がするわ。そう言えばどこかの世界の乳牛族という種族が住んでいると言われてその生物の乳は極上品と言われていますわね。とりあえず乳牛族の母乳１０個分持ってきてくれませんでしょうか？（看護保育士より）』

『参加キャラ：銀時、神楽、新八、ネプテューヌ、ビビ、ジャンヌ、レーティア』

『参加敵キャラ：乳牛族（牛が義女化したイメージ。胸が凄くでかい）』

『回収アイテム：乳牛族の母乳×１０』

真王「アイテム回収クエストです。それではまた♪」』…これまた厄介なリクエストが来たもんだな…まあ、鳴神　ソラさん答える様に」

鳴神　ソラ「いや～真王さんの銀さんにユートピアさんの楓さん達のキャラを上手く表現するのに苦労しましたけれど他の小説の人はダブルでのコラボをやる時ってこんな心境なんだなと思いました」

蛇八「そんな訳で『真王』、次のコラボを楽しみにしてくれ！」

銀八「今回は此処まで！質問を待ってるぞ！！」

マリオ「色んなダマグモが出て来たな～」

ルイージ「次回はまた大変だよね；」

フォックス「ホントだな…」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　銀の侍と４人の女神　―　第別訓パート１０

ルイージ「真王さんとのコラボ第１０弾だよ！」

フォックス「何時の間にかめっちゃ書いてるよな～」

スネーク「今回はルルーシュ以外にマリオと同じ奴が登場するぞ！」

銀時「また面倒な依頼が来たんだよ」

ルイージ「そうなんですか？」

遊びに来たルイージに銀時はぼやいて言うとその内容を言う。

看護保育士『最近私達の保管しているミルクの質が落ちていく気がするわ。そう言えばどこかの世界の乳牛族という種族が住んでいると言われてその生物の乳は極上品と言われていますわね。とりあえず乳牛族の母乳１０個分持ってきてくれませんでしょうか？』

ルイージ「うわぁ…確かに僕達の様な男性には面倒な依頼ですね；」

銀時「だろ…一応ネプテューヌ、ビビ、ジャンヌ、レーティアがいるから大丈夫だが…」

神楽「銀ちゃん銀ちゃん、何で私が入ってないネ？」

ドクター「力加減が出来なさそうだからじゃないかな？；」

依頼内容にルイージはそう言い、銀時はため息を付きながらそう答え、神楽が自分はと聞き、ドクターがそういう。

新八「それ以前に…その乳牛族がどこの世界に住んでるのか分かりませんよ」

レーティア「そうよね…あなた達は知らないの？」

ドクター「残念ながら」

ブリッツ「知らないでござる」

ヨッシー「ですね」

新八の言った事にレーティアが同意した後に問われたドクターは肩をすくめ、ブリッツとヨッシーも言う。

デスティニー「って言うか…あの人に聞けば良いだろ？」

ヘビーアームズ『困った時のマリオ頼み』

聞いていたデスティニーがそう言い、ヘビーアームズが鳩を出して言う。

ビビ「あの人は知ってるの？」

ルイージ「まあ…聞いてみるよ……あっ兄さん、ちょっと頼みがあるんだ…」

ビビの疑問にルイージはそう言った後に携帯を取り出し、マリオにかけて依頼の事を話す。

ルイージ「…そうそう、知ってるんだね…えっ？そうなの…応援を寄越してくれるのは良いけど誰なの？…ふんふん、少し待てば来るんだね…分かったよ。ありがとう兄さん」

礼を言った後にルイージは通話を終える。

ジャンヌ「どうだったの？」

ルイージ「うん、場所を知ってて、少ししたら知り合いの人が来るからその人に伝えて置くってさ」

銀時「知り合い？……ルルーシュか？」

ジャンヌの問いにルイージはそう答えて銀時は思い浮かべて呟く。

数分後

？？？「此処か、銀女神の世界の機動六課は？」

その言葉と共に入って来た高校生ぐらいの少女にルイージは話しかける。

ルイージ「ええっと…君が兄さんの言っていたキョン子ちゃん？」

キョン子「そうだけど？あんたがマリオの弟さんか…後ちゃんはいらないから呼び捨てで頼む」

ビビ「（うそぉぉぉぉぉぉ！！？）」

ジャンヌ「（ええ！？もしかして涼宮ハルヒの二次創作でのキョン女性版のキョン子！？）」

ルイージの問いにキョンは肯定し、それにビビとジャンヌは驚く。

キョン子「色々と面倒な依頼と聞いてる…まっ、ハルヒのよりはマ

シかな…付いて来てくれ…案内するから…後、気を引き締めろよ」

レーティア「？どう言う事？」

キョン子の言葉にレーティアが首を傾げながら聞く。

キョン子「丁度この時期、乳牛族は繁殖期でさ…だから気が立っていて攻撃的だから…」

銀時「だから気を引き締めろか…」

キョン子の説明に銀時は納得した後に一同は乳牛族のいる世界に向かった。

銀時「確かに気を引き締めろと言われたが…」

走りながら銀時はそう呟いた後、後ろを見る。

銀時「気が立ち過ぎじゃねえ？」

キョン子「知るか、私もこんなにだとは思いもしなかったんだよ」

弓や剣、斧などを持った牛が義女化した女性の大群に銀時はそう言い、キョン子はそう言う。

ドクター「ルイージ君！コスモス！コスモスに変身するんだ！」

ルイージ「無理無理！追いかけられてたら無理ですよ！」

ジャンヌ「んじゃあ驚かせて一度止まらせる？」

ブリッツ「でも驚かせるにしてもどうするでござる！」

デスティニー「だったら！翻弄してやる」

ドクターの指示にルイージはそう言うとジャンヌが提案し、ブリッツがそう言うとデスティニーが飛び上がる。

そして高速で動き、乳牛族を翻弄する。

ルイージ「今だ！ＫＡＭＥ（カメンライド）ＮＲＩＤＥ！」

コスモスバックル「ライダーアップ」

注意が逸れたのでルイージはコスモスに変身するとフルムーンレクトを放つ。

それを受けた乳牛族は大人しくなる。

レーティア「それじゃあ話を付けに行くから」

新八「頼みます」

レーティアがそう言った後に神楽を除いた女性陣が乳牛族へ歩いて行く。

銀時達は座って待つ事にした。

数分後、銀時達は乳牛族の母乳１０個分持って帰ったのであった。

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

蛇八「と言う訳で始めるぞ」

銀八「ペンネーム『真王』さんから『真王「普通ダマグモ達って一撃でやられるもんなのか？」

レーティア「それは彼らが強いからよ」

真王「そうッスか。『マリオ達の中で変身できる物ってなんだ？というかマリオ達はそれぞれどんな半変身を持っているんだ？』そしてリクエスト」

『別次元の世界に住む冥王が現れたんだ！場所はキリタッタ荒れ地でうろうろしているそうなんだ。…ってかぶっちゃけ言うと冥王って言うより魔王の方が…ってなんか砲撃がギャアアアああああああああああああああああああああ！！！（通信が途絶えた）』

『参加キャラ：銀時、新八、神楽、桂、エリザベス、なのは、フェイト、はやて、ネプテューヌ、ノワール、ブラン、ベール、グレイ、ビビ、レーティア、ジャンヌ』

『登場敵キャラ：冥王（見た目はなのはにそっくりだが、どうもただならぬ雰囲気が漂っている）』

真王「まさかの別次元二次キャラ登場か！？ではまた」『…それでは答えて貰うぞ」

マリオ「俺達が変身出来るのは1人1人分かれるけど魔弾戦士、仮面ライダー、スーパー戦隊、ウルトラマン、セイザーXの5つだな」

銀八「との事です『真王』さん廊下に立ってなさい！」

蛇八「今回は此処まで！」

マリオ「皆！ついにＰＶが１万突破したぞ！」

フォックス「凄いな…」

ルイージ「この調子で行きたいね」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　銀の侍と４人の女神　―　第別訓パート１１

マリオ「ついに真王とのコラボは第１１弾まで来たな！」

ルイージ「今度は…また凄い事になりそうだね」

フォックス「だな」

銀時「さらに厄介な事が起こりそうだな」

新八「それには同意ですね」

明久「確かに」

キョン子「何で私が…」

キリタッタ荒れ地を神楽、桂、エリザベス、なのは、フェイト、はやて、ネプテューヌ、ノワール、ブラン、ベール、グレイ、ビビ、レーティア、ジャンヌとムッツリーニ、ソニック、テイルス、ナックルズのメンバーと共に歩いている中、銀時が呟き、新八と明久が同意してマリオの代わりにメンバーを連れて来たキョン子がぼやく。

なぜ彼等が此処にいるかと言うと…

『別次元の世界に住む冥王が現れたんだ！場所はキリタッタ荒れ地でうろうろしているそうなんだ。…ってかぶっちゃけ言うと冥王って言うより魔王の方が…ってなんか砲撃がギャアアアああああああああああああああああああ！！！（通信が途絶えた）』

と言う通信が来て、それを確かめる為に来ていたのだ。

銀時「どうせならマリオがくれば良かったのに…」

キョン子「そう言ってもあいつにはあいつの仕事があるからな…」

新八「ですよね…」

ビビ「それにしても…冥王って誰だろう?」

銀時のぼやきにキョン子はそう言い、新八が言った後のビビの一言にスマハツメンバーはなのはを見る。

なのは「何で私!?」

はやて「ああ~何かありえそうやな~砲撃って言ってたし」

フェイト「もしかしてなのはが…」

なのは「違うよ!!と言うかフェイトちゃんの傍に私いたよね!!」

視線が集まった事になのはは叫び、はやてはそれに頷いて、フェイトは距離を取ろうとしてなのはの言葉にそうだったと言う。

ナックルズ「けれどな…ほとんどマリオも言ってるからな…」

テイルズ「ホント誰なんだろうね…」

???「誰なんだろうねと言われたら…呼ばれて出ちゃうの~」

ナックルズとテイルズが言った後、突然の声に全員がなのはを見るがなのはは首を横に振る。

???「私はこっちなの~」

その言葉に上だと気づき、上を見ると…

ノワール「嘘…」

神楽「マジあるか？」

グレイ「これは…」

なのは「にゃあぁぁぁぁぁぁ！？何で！？」

ビビ「なのはちゃんがもう1人！？」

上空に浮かぶもう1人のなのはにメンバーは驚くがただならぬ雰囲気に明久とムッツリーニはそれぞれのライダーに変身し、他のメンバーも構える。

銀時「お前が冥王か？」

冥王「そうなの～」

はやて「見れば見るほど、なのはちゃんにそっくりやな…」

ベール「ホントにそっくりね」

桂「うむ…だが…」

エリザベス『強敵です！気を引き締めて！！』

キョン子「そうだな…」

銀時の問いに冥王は肯定し、はやてとベールは目を丸くし、桂とエリザベス、キョン子は構える。

冥王「いるのいるの、強敵が沢山いるの…さあ！楽しませるの！！」

そう言うと同時に冥王はアクセルシューターを放つ。

ビビ「喰らえ！約束（エクス）された！勝利（カリバー）の剣！！」

全員がそれを避けた後に神魔憑依（アバター・オブ・リンク）したビビがエクスカリバーを放つが…

シュン…

ビビ「えっ？」

冥王に当たる直前で消えてしまい、それにビビが驚いてる間に…

冥王「ディバインバズーカなの！！」

ビビ「きゃあぁぁぁぁ！！」

ビビの前に現れた冥王のディバインバスターより威力が大きいと思われる砲撃がビビに直撃する。

グレイ「妹！？この！“茨木の百鬼夜行（イバラギノヒャッキヤコウ）”！！」

ボボボボボボボボボボボボボボ！！

冥王「ほほう」

ビビが吹き飛ばされ、それにグレイが驚いた後に1秒にも満たない砲撃が冥王に向かって行き、それに冥王は感嘆の声を上げるが…

シュシュシュシュシュシュシュシュシュン…

グレイ「何？」

冥王「あ～あなたも転生者なの…まあ、妹って言ってたから当然か、なの」

グレイの砲撃もビビのエクスカリバー同様に消えて、それにグレイは眉を顰め、冥王はガッカリと言う感じに呟く。

キョン子「もしかしてこいつ…私達と同じ無効化能力者か！？」

ネオス「つまり先生と同じ！？」

ネクサス「……ある意味厄介な」

その様子にキョン子は冥王に届く前にビビとグレイの攻撃が消えた理由に気づき、ネオスが驚き、ネクサスは呟く。

なのは「だったら全力全開！！スターライト…」

フェイト「雷光一閃！！プラズマザンバー…」

はやて「響け、終焉の笛！！ラグナロク…」

なのは&フェイト&はやて「ブレイカアアアアアアアアアア

アア！！！！！」

そこになのは、フェイト、はやてが合体技で冥王に仕掛ける。

冥王「おっ、凄そうなのが来たの」

それに冥王は持っていた杖を前に翳すと…

ギュルルルルルルン

なのは「えっ！？」

フェイト「嘘…」

はやて「うち等の魔法を吸い込んだ！？」

ブラン「…魔法をドレインする効果を持っている様ね」

なのは達の合体技を吸収された事に放った三人は驚き、ブランが冷静に分析する。

冥王「鍛えて鍛えて鍛えまくっての旅でとある世界で手に入れた私の相棒『ストライクス・ハート』に魔法攻撃は無意味なの！」

ネオス「うわぁ…なんか先生みたいな人だな」

ネクサス「……師父より過激だが…」

胸を張る冥王にネオスは驚き、ネクサスは呟く。

銀時「だったら俺達だ！行くぞ新八！」

新八「はい！」

神楽「やってやるヨ！」

桂「いざ行かん！」

エリザベス『おお！！』

ソニック「俺達も行くぜ！」

テイルス「うん！」

ナックルズ「おう！」

ネプテューヌ「行こう皆！」

ノワール「ええ！」

ベール「そうですね」

ブラン「うん」

銀時が言った後に新八、神楽、桂、エリザベス、ソニック、テイルス、ナックルズ、ネプテューヌ達が冥王に向かって行く。

冥王「うふふ、ウェルカムなの～♪」

嬉しそうに冥王はそう言うと槍を取り出す。

冥王「必殺奥義！五月雨突き！！」

ソニック「！Ｓｈｉｔ！」

銀時「ぬおおお！！」

ネプテューヌ「うひゃあ！」

冥王の連続で突き出される槍にソニックはテイルスとナックルズの手を掴んで上に飛び、銀時達は慌てて避ける。

ジャンヌ「凄い…」

レーティア「そして強い…」

見ていたジャンヌは呟き、レーティアが呻く。

ネオス「ネクサス！」

ネオスバイザー「ユニゾンベント」

ネクサス「……致し方ない」

ネオスがスカラベアッシュとユニゾンし、鎧が赤くなり、スカラベを模した感じに変えた感じの仮面ライダーネオスフレアになり、ネクサスがウルトラマンノアの肩と足に仮面ライダークウガ・ライジングアルティメットフォームの鎧を纏った感じの最強フォーム、仮面ライダーネクサス・ノアフォームにフォームチェンジすると飛び出す。

ネオスF「はっ！」

ネクサスN「ふん！」

冥王「なの！」

ネオスジャベリンを振るうネオスFとネクサスNの攻撃を冥王は槍で受け止めてそれぞれぶつかり合う。

銀時「まだまだ！」

カリバー「はあぁぁぁぁぁぁ！！」

ネプテューヌ「私だって！」

そこに銀時とカリバー、ネプテューヌも加わり、冥王と戦う。

ビビ「あいたた…何でもありすぎでしょ…」

ジャンヌ「大丈夫？」

キョン子「これは…早めに止めるか…」

レーティア「けれどどうやっ……て……」

頭を抑えるビビにジャンヌは手当てしながら聞き、キョン子の言葉にレーティアはキョン子を見て、言葉を失う。

キョン子はどこからか取り出した机を引きずり、それを持って回転

し、ぶんぶん振り回すと…

キョン子「おりゃあぁぁぁぁ！！」

勢いを付けてに冥王に向けて投げる。

ネプテューヌ「うわ！？退避退避！！」

それに気づいたネプテューヌの言葉に冥王を除いた４人は慌てて離れ、冥王はいきなりの事に…かわしきれず…

ゴーーーン！！

新八「うわぁ…」

神楽「あれはきついアル…」

グレイ「と言うか…どこから出したんだ？あの机？」

顔面直撃な冥王に新八と神楽は鼻を押さえ、グレイはキョン子が投げた机をどこから出したのかに首を傾げる。

そして、冥王は地面に落ちる。銀時とネプテューヌが机を退かすと冥王は目を回していた。

ネオスＦ「鼻血流さないって…」

ネクサス「……頑丈…」

キョン子「させ、私はこいつを連れて行くから…」

ネオスFと通常フォームに戻ったネクサスがそう言うとキョン子が冥王の首を掴むと引きずりながら世界の壁を越える。

ビビ「……普通だと思ってたけど……」

ジャンヌ「うん…」

レーティア「あの2人と同じだから…強いわね…」

見送った三人は呆然と呟く。

新八「（また会いそうだな…）」

新八がそう思った後に全員は戻った。

ルイージ「と言う訳で真王さんとのコラボでした！」

スネーク「出すのか…」

冥王「なのなの♪」

フォックス「出てるし；」

ネス「感想を待ってます♪」

逃走中の始まり始まりだぜ～　ｂｙダブルゼータ（前書き）

マリオ「今回は葉月のリクエストだぜ！」

ソニック「色々と出るよな」

ファルコン「頑張ろう！」

逃走中の始まり始まりだぜ～　ｂｙダブルゼータ

ダブルゼータ「と言う訳で逃走中の始まりだ！」

ルイージ「いきなり過ぎる！！」

ガルマドップ「今回はこの！カービィのエアライドのシティトライアルを舞台に逃走中をやるので」

ガンダム「ちなみにメンバーは銀魂メンバーからは銀さん、神楽ちゃん、新八君、近藤さん、長谷川さん、桂さん、土方さん、スマブラメンバーからはマリオ、カービィ、ファルコン、フォックス、ルイージ、ピカチュウ、ポケモンメンバーからはぽちゃま（ポッチャマ）、ヒコザル、ミミロル、ナエトル、アチャモ、カービィメンバーからはソード、ブレード、ボルン署長、ナックルジョー、シリカ、ガス、ドゥ隊長の総勢２５名でやるぞ！」

ナックルジョー「まぁ、呼ばれたから来たけど…ルールは何だ？」

ガルマドップ「ルールは以下の通りさ」

・制限時間は３０分

・ハンターは初期は３人だが１部のミッションに失敗すれば増える可能性あり

・ミッションを受けるかは個人の自由

・１分間に４万円加担される

・ハンターから逃げ切れたら１２０万円、逆に掴まれば０円でリタイア

・ハンターへの攻撃は途中はとある場所で配給される特別なアイテム以外はなし

・連絡を取り合うのはあり、しかし着信音が鳴るのでハンターが近くにいる時は注意

ボルン「成る程…」

シリカ「やりがいがあるわね！」

ガス「そりゃあ良いんだけど…俺達の場合はどうなるんだ？特にカービィとかドゥ隊長とか」

ガルマドップ「そこは頑張れだね」

マリオ「そうなるよな」

ワドルドゥ「頑張るであります！」

カービィ「ポヨ！」↑自分の世界なので喋れない。

ガルマドップ「まあ、本格的な始まりは次回だけどね」

フォックス「連続的になるのね；」

ファルコン「まあ、時間的にそうなるだろうな…」

長谷川「１０分に付き1回って事か？」

近藤「じゃないの？」

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

銀八「と言う訳で始めるぞ」

蛇八「それじゃあペンネーム『プリニーラハール』から『更新お疲れさまッス。

いつも見てますが・・・感想を書くのにも困る始末なんで・・・

カイト「完全に不調だな」

うるせいです・・・

レオン「皆強いよね、と言うわけで質問、皆のレベルっていくらなの？」

エトナ「ちなみにレベル上限は９９９９よ」

前に書いたレベルって加減してたんじゃ？と思ったので。

アイリン「たしかあの魔王（マリオが吹っ飛ばした奴）のレベルは２５０位だったよ」

ラハール「ついでに変身後も書くのだ、と言うか作者！（こっち）オレ様の出番が遅いではないか！」

あう・・・

アイリン（バカ神、何か遺言は？）

いや・・・ん？え？遺言！？

アイリン（いや、多分殿下に殺されるから、あと、ゲームから出てきた殿下だから）

・・・せめて生かして・・・

ラハール（ゲーム）「超魔王十字斬！」↑ＬＶ９９９９

みゅぎゅゃぁぁああ！！！↑一億ダメージ食らった

フロン「更新待ってますー」『…何かあっちの作者、大変だな…」

蛇八「それについて作者の伝言『そこまで行くとは思いもしませんでした；』との事だ」

銀八「おいおい；」

蛇八「仕方ないだろ、作者はディスガイアをやった事ないからな…

まあレベルはこれだ」

マリオ：９９９９レベル

仮面ライダーゼロ（ウルトラマンゼロ）：９９９９９レベル

ルイージ：６０００レベル

仮面ライダーコスモス（ウルトラマンコスモス）：８０００レベル

ソニック：９９９９９レベル

仮面ライダーカリバー：９９９９９レベル

吉井明久：４００レベル

仮面ライダーネオス（ウルトラマンネオス）：７０００レベル

土屋康太（ムッツリーニ）：４００レベル

仮面ライダーネクサス（ウルトラマンネクサス）：７０００レベル

スネーク：５９００レベル

仮面ライダー王蛇：７０００レベル

ナックルズ：６９００レベル

仮面ライダーミラージュアギト：７６００レベル

テイルス：５０００レベル

仮面ライダーＧ３－Ｘ：７０００レベル

シャドウ：６９００レベル

イーグルセイザー：７９００レベル

シルバー：６５００レベル

仮面ライダーＮＥＷ電王：７５００レベル

蛇八「…上のがあの時いたメンバー＋αのレベルだ…」

銀八「『プリニーラハール』さん！廊下に立ってなさい！」

蛇八「次はペンネーム『真王』から『真王「冥王がレギュラー化するんのか？」

なのは「私はなんだか腑に落ちないの」

真王「ニコニコＲＰＧで冥王（九歳児の姿）名乗ってたろ？」

なのは「それは二次作の世界なの！！」

真王「まぁいいや、皆さんに質問『冥王とマリオがガチで戦ったらどっちが勝ちますか？』そして『マリオさんは魔王と冥王の強さの比率ってどれくらいだと思いますか？』そして一応リクエスト」』

…それでは答えて貰おう」

マリオ「僅かな差で俺の勝ちだった」

冥王「くやしいの～」

銀八「との事でマリオのギリギリの勝利だそうです…『真王』さん！廊下に立ってなさい！」

蛇八「今回は此処まで！」

逃走中の始まり始まりだぜ～　ｂｙダブルゼータ（後書き）

ガルマドップ「まあ、分けてやるけど、ミッションとか、誰から残すかを考える時間のつもりで他の人のを先にやって置く事を言って置くよ」

シャア「まあ、待っていてくれ」

ネス「感想を待ってます♪」

冥王「なの♪」

ツッコミトリオ「（繋げた！）」

逃走中の始まり始まりだぜ～　ｂｙダブルゼータ　その２（前書き）

フォックス「と言う訳で葉月のリクエスト続きだ」

スネーク「だな」

ダブルゼータ「用意万端だぜ」

逃走中の始まり始まりだぜ～　ｂｙダブルゼータ　その２

ガルマドップ「と言う訳で全員ジャンケンして…決まった1人があのハンターの檻を開けてしまうボタンが混じった3つのボタンの内、1つを押して貰うよ」

ガルマドップの言った先の４m先に

桂「もし開かなかったらどうなるのだ？」

ガルマドップ「ゲーム開始して2分立ってからハンター解放するよ」

ブレード「成る程、運よく開けなければ隠れる場所が作れると言う事か…」

と言う訳でジャンケンの結果…

ファルコン「私か…」

ファルコンが選ばれ、ファルコンは3つのボタンを見て考えた後…

ファルコン「これだ！」

右のボタンを押す。

……

ガルマドップ「どうやら押さなかった様だね…ゲームスタート！」

ガルマドップの言葉と共に25名は分かれる。
ちなみにメンバーがいたのは廃屋地区である。
代表で移動したメンバーの一部を表示
～森林地区～
銀さん「こう言う森の中なら分かりにくいだろうな」
土方「地下があるとはな…此処なら見つからないねえな」
～火山地区～
ナックルジョー「あっちいな…」
ヒコザル「ヒコ？」
～城～
神楽「こう言う所が見つかり難いもんアル」
ソード「（ミッションが起こるとすれば此処以外にないだろうな）」

～平原地区～

近藤「おお！此処なら見渡せるからハンターがくれば分かるな！」

～四層地区～

マリオ「させ…どうなるかな？」

アチャモ「チャア～」

～ゲームが始まって2分経過～

ガチャン

ハンター「……」

ハンター解放

～ビル地区～

ピリリリリリ！

ボルン「ん？メールか？」

ボルンは携帯を取り出してメールの内容を見る。

ボルン「ええっと『ハンターが解放された諸君達が見つからない事を祈ろう』…ハンターが解放されたなら此処に真っ先に着そうだな…」

そう言うとボルンは走る。

～海岸～

ハンター2「……」

解放されたハンターの1人が歩いていて…その先には…

長谷川「なあ…動かないとやばくないか？」

ぽちゃま「ポチャ？」

長谷川とぽちゃまが…

ハンター2「！」

それにハンター2が駆け出す。

長谷川「…って来たぁぁぁぁ！！」

ぽちゃま「ポチャ！」

ハンター2に長谷川は気づいたが遅かったので…

ポン！

長谷川「見てるんじゃなかった……」

長谷川・確保

～平原地区～

ピリリリリリリ！

近藤「何だ！？…あっメールか…ええっと…『３分４０秒に長谷川、海岸で確保』」

～城～

神楽「もう掴まったアルかあのマダオは…と言うか海岸って近いアルな…こりゃあ移動をした方が良いアルか？」

ソード「（どうするべきか…）」

ちなみにハンター２は…

～海岸～

ぽちゃま「ポチャァァァァァァァ」

ハンター２「……」

四層地区へ逃げるぽちゃまを追いかけていた。

ゲーム開始から5分立った時…空中庭園から逃走者達を見る影が…

～火山地区～

ピリリリリリリ

ナックルジョー「メールか……『空中庭園より君達を探すハンターが現れた』マジかよ;」

～ビル地区～

ボルン「『そのハンターに見つかった逃走者の元へ解放されてるハンターが向かう』…これは厳しいな…」

～森林地区～

シリカ「『だが、そのハンターや他のハンターに見つからないアイテムを廃屋地区にて配給される』…確実に見つかるわね…」

～四層地区～

新八「『効果は４０秒、欲しかったら向かえ』…ある意味難しいな……」

フォックス「向かってみるか…」

～廃屋地区～

冥王「暇なの暇なの～」

アイテム配給場所にて冥王がぶーたれていた。

ルイージ「すいません、アイテムください」

ガス「俺も！」

そこにルイージとガスが来る。

冥王「はいはい、スパイクロークなの」

それを２人が受け取った時…

ピリリリリリリリ！

ルイージ「何！？」

ガス「ええっと…『５分４５秒、空中庭園のハンターにより見つか

った近藤、平原地区にて確保』…」

～少し遡って平原地区～

近藤「だっ、大丈夫だ、こんな所見つかる訳ない…」

そう言ってる近藤だが…

ハンター4「……」

奴は見逃さなかった。

ハンター3「……」

そして近藤の元へハンター3が向かう。

近藤「あれ？来てる来てるの？；」

それに気づいた近藤がダッシュしようとするが…ハンター3がダッシュで来て…

ポン…

近藤「しまったぁぁぁぁぁぁぁぁ！！」

確保された。

～戻って廃屋地区～

ルイージ「急ごう！」

ガス「ああ！」

冥王「バイバイなの～～」

慌てて走る2人に冥王は手を振るとそこにフォックスとハンター1が…

フォックス「げっ！？」

ハンター1「……」

慌てて逃げるフォックスだが虚しく…

ポン

フォックス「タイミングを間違えたか…」

～四層地区～

ピリリリリリリリ！

新八「誰か捕まったのかな…『7分20秒にてフォックス、廃屋地区で確保』…フォックスさん」

～火山地区～

ナックルジョー「こりゃあ地下に行くべきか？」

そう言ってナックルジョーは火山の地下へ向かう。

～森林地区～

銀時「させ、どうするか？地下に行くべきか…」

そう考える銀時だったが…地下に潜む者がいた。

エピソードモード

～城～

エスカルゴン「陛下！地下に賊が！」

デデデ「何！？それはやばいゾイ！早く閉鎖に掛かるゾイ！」

エスカルゴン「ははっ！メタナイト卿！すぐに地下の閉鎖にかかるでゲス！」

メタナイト「分かりました」

エピソードモード終了

～森林地区～

ピリリリリリリリリリ

銀時「ん？…『地下に賊が現れた。これより全地区の地下を閉鎖する』…おいおい、入る前にかよ；」

～四層地区～

マリオ「『１０分には閉鎖するので逃走者はすぐに地下から出る様に、１０分過ぎれば閉鎖され、地下にいた者はリタイアとする』…成る程」

～森林地区・地下～

土方「やべ…早くでねえと…」

～火山地区・地下～

ナックルジョー「やばい早く出ないと！」
そう言って火山のスーパージャンプ台に乗るが…

～空中庭園～

ハンター４「……」

ナックルジョー「あっ、やばっ；」

ポン

～森林地区～

ピリリリリリリリリリリリ！

シリカ「えっと…『８分３秒にナックルジョーを空中庭園で確保』…何やってんの；」

～ビル地区～

ガス「監視のハンターがいたよな；」

ミミロル「ミィミィ」

ルイージ「ナックルジョー…火山の地下にいたんだろうね…それで焦って；」

～城～

神楽「バカあるな」

そう言う神楽だったがそこに…

ぽちゃま「ポチャァァァァ！！」

ぽちゃまが通り過ぎ…

ポン

神楽「……理不尽にも程がアルネ……」

神楽はぽちゃまを追いかけていたハンター2に確保された。

～森林地区～

銀時「何々…『9分45秒に神楽を城で確保…』おいおい捕まったのかよ…」

～四層地区～

新八「ええ!?神楽ちゃん捕まったの!?」

～森林地区～

土方「ふう～なんとか抜けたな…」

そして１０分になり、地下は閉鎖された。

スタート地点

神楽「悔しいアル～～～」

ゼータ「……とっと入れ」

ダブルゼータ「残念だったな!」

長谷川「残念」

近藤「とし～～～～!頑張れよ～～～～!!」

フォックス「ふう～」

ナックルジョー「どうなるんだ?」

ガルマドップ「続く!」

残り２０名

逃走中の始まり始まりだぜ～　ｂｙダブルゼータ　その２（後書き）

と言う訳で１０分経過するまでの経緯だよ～

ワリオ「誰が残るのやら…」

スネーク「だな」

ネス「感想を待ってます♪」

逃走中の始まり始まりだぜ～　ｂｙダブルゼータ　その３（前書き）

ダブルゼータ「続きだぜ！」

フォックス「悔しいよな；」

ガンダム「始まり始まり」

逃走中の始まり始まりだぜ～　ｂｙダブルゼータ　その３

～四層地区～

マリオ「１０分経って２０名か…」

新八「そろそろ何か着そうだな…」

新八の言葉が当たる。それぞれの地区にハンターが入った檻が出て来る。

～ビル地区～

ピリリリリリリリリリリ

ボルン「『２つ目のミッションの始まりだ』」

ルイージ「『それぞれのエリアにハンターが入った檻がある』」

ガス「『2分経つ前に檻の近くにあるボタンを押さないと2分後、その檻のハンターが解放され、君達を追う数が追加される』マジで！？」

～森林地区～

銀時「おっ、これだな…」

ポチッ

１０分３５秒、森林地区、銀時によりクリア

～四層地区～

マリオ「よっと」

ポチッ

１０分３６秒、四層地区、マリオによりクリア

～ビル地区～

ボルン「はあはあ…これだな」

ポチッ

１０分５０秒、ビル地区、ボルンによりクリア

ふう～と安心するボルンだったが…

ハンター１「……」

気を抜いたボルンの後ろにハンターが…

ポン

ボルン「あっ…しまった…」

～平原地区～

ピリリリリリリリリリリ

ブレード「むっ？『１０分５３秒にボルン、ビル地区で確保』

ピカチュウ「ピカッ！？」

丁度ボタンを押したブレードと一緒に行動していたピカチュウは驚く。

１０分５５秒、平原地区、ブレードによりクリア

～城～

ソード「良し」

ポチッ

１１分１秒、城、ソードによりクリア

ソード「「ハンターが出ない内に海岸の檻へ行かないと…」

そう言ってソードが移動しようとして…

ハンター２「……」

ポン

ソード「しまった！」

入り口前でハンターに見つかる。

～廃屋地区～

ピリリリリリリリリ！

土方「何だ？『１１分４秒にてソード、城で確保』か」

同時、廃屋地区、土方によりクリア

～火山地区～

シリカ「良し！これで海岸だけね」

ポチッ

１１分７秒、火山地区、シリカによりクリア

だが…

ポン

ハンター３「……」

シリカ「げっ」

～海岸～

ワドルドゥ「はあはあ…なんとか…」

ポチッ！ピリリリリリリリリ！

ワドルドゥ「うわ！…ええっと『１１分９秒にて火山地区でシリカを確保』」

～四層地区～

マリオ「『それと同時に全ての地区のハンター放出は阻止できた』」

アチャモ「チャア～」

～廃屋地区エリア～

土方「『だが、油断はするな、またこれと同じミッションが起こるだろう』…後半で起こりそうだな」

ナエトル「エトル」

～ビル地区～

ルイージ「何が起こるんだろうね…」

ガス「そうだな…」

ミミロル「ミィミィ」

そんな3人に…

ハンター1「……」

ハンターが迫る

ルイージ「やばい！」

ガス「逃げろ！」

ミミロル「ミィミィ！？」

２人と１匹は走るが…

ミミロル「ミィ！？」

ガシッ

～森林地区～

ピリリリリリリリリリ！

銀時「『１２分３秒にてミミロルをビル地区で確保』…減って来てるな…これで１６名か」

～ゲーム開始から１５分経過～

エピソードモード

エスカルゴン「陛下！今度は火山が噴火したでゲス！しかもそれで隣の森林地区や平原地区にも被害が！」

デデデ「何！？ただちに閉鎖ゾイ！」

エスカルゴン「聞いていたでゲスねメタナイト！」

メタナイト「はっ！」

エピソードモード終了

～平原地区～

ピリリリリリリリリリ

ブレード「今度は…『今度は火山が噴火した。それにより森林地区と平原地区が火に飲まれるのでただちに火山地区、平原地区、森林地区の３つのエリアを閉鎖する』」

ピカチュウ「ピカ！？」

～海岸～

ファルコン「『２０分には３つのエリアを封鎖するのでそのエリアにいる逃走者はすぐに出よ、即リタイアとなる』」

ワドルドゥ「なんと！？」

ぽちゃま「ポチャ！？」

～火山地区～

ヒコザル「うきゃあ！」

隠れていたヒコザルは慌てて出ようとするが…

ガシッ

ハンター３「……」

ヒコザル「ヒコ…」

～四層地区～

ピリリリリリリリ！

マリオ「『１６分３０秒にてヒコザルを火山地区で確保』」

新八「今の所の１５名か…一気に減りましたね」

アチャモ「チャモ…」

マリオ「…と言うか、俺達の所まったく来ないな…」

新八「確かに…」

～平原地区～

ブレード「行くぞピカチュウ！」

桂「ピカチュウ」

ブレード「いえ、あなたじゃありません！」

ピカチュウ「ピカ！！」

ブレードの言葉になぜかピカチュウのキグルミを着た桂が言い、ピカチュウが怒ると…

ハンター3「……」

そこにハンターが現れ、3人を狙う。

桂「ぬっ！ハンターだ！」

ブレード「逃げろ！」

ピカチュウ「ピカ！！」

3人は慌てて逃げるが…

桂「ぬお！？」

桂はこけてしまい…

ポン

捕まった。

～同時刻、海岸～

ファルコン「我々も注意しよう」

ワドルドゥ「確かに、この近くにハンターがいますしね」

ぽちゃま「ポチャ」

3人は移動しようとすると…

ハンター2「……」

ハンターが現れた。

ワドルドゥ「ハンターが来ました！」

ぽちゃま「ポチャ！」

ファルコン「2人共！逃げるんだ！」

そう言うとファルコンはハンターを避けると走る。

ハンターはファルコンを追いかける。

～ビル地区～

ピリリリリリリリ！

銀時「何だ？『１７分３０秒にて桂を平原地区にて確保、少しして１７分５０秒でファルコンを海岸にて確保』…１３人か…」

カービィ「ポヨ…」

ガス「捕まってるな…」

～ゲーム開始から２０分経過して森林地区、火山地区、平原地区閉鎖～

残り、銀時、新八、土方、マリオ、カービィ、ルイージ、ピカチュウ、ぽちゃま、ナエトル、アチャモ、ブレード、ガス、ワドルドゥの１３名

逃走中の始まり始まりだぜ～　ｂｙダブルゼータ　その３（後書き）

いや～大変です。

フォックス「確かに」

ワリオ「書き分けがな…」

スネーク「次でラストだな」

ネス「感想を待ってます♪」

逃走中の始まり始まりだぜ～　ｂｙダブルゼータ　その４（前書き）

スネーク「と言う訳で逃走中！ラストだ！」

ワリオ「どうなるんだろうな…」

冥王「始まるの～♪」

逃走中の始まり始まりだぜ～　ｂｙダブルゼータ　その４

ガルマドップ「いや～ついに１３人になったね～」

近藤「本当にどうなるんだ…トシ！頑張れよ！！」

檻の前でガルマドップが言い、近藤は叫ぶ。

ダブルゼータ「次は何だ？」

ガルマドップ「ふふふ」

ダブルゼータの問いにガルマドップは言う

～開始から２１分経過～

廃屋から３人の新たなハンターが…

～四層地区～

ピリリリリリリリリリ

マリオ「何々…『廃屋地区から新たなハンターが３人現れた』」

新八「マジですか！？」

アチャモ「チャモ！？」

～ビル地区～

銀時「『停止させる方法は１つある』」

ガス「『ビル地区に停止させるアイテムをばら撒いた』」

～海岸（廃屋地区近く）～

ワドルドゥ「『それを使えばハンターを停止させる事が出来る。見つけられればの話だが』…やばいであります！」

ぽちゃま「ポチャ！」

メールを読み終えたワドルドゥとぽちゃまは慌てて離れようとするが…

ポンポン

ハンター５「……」

ハンター６「……」

ワドルドゥ「やられたであります」

ぽちゃま「ポチャ…」

～ビル地区～

銀時「良し！見つけたぜ！」

ガス「同じく！」

ピリリリリリリリリリリ

ハンターを停止させるアイテムを見つけていたビル地区にいた銀時達は携帯の音に反応してメールを読む。

ルイージ「『２１分３０秒にて廃屋地区近くの海岸でぽちゃまとワドルドゥを確保』」

カービィ「ポヨ！？」

メールに驚くそんな彼等に…

ハンター１「……」

ハンター２「……」

２人のハンターが迫るが…

銀時「なんの！」

ガス「喰らえ！！」

銀時とガスが見つけていたランチャーみたいな停止アイテムでハンターを攻撃する。

ハンター1＆2「……」

それにより、2人のハンターは停止した。

～廃屋地区～

ピリリリリリリリリ

土方「なんだ？『22分40秒で銀時とガスの活躍により、ハンター2名が停止した』…」

ナエトル「エトル？」

ピカチュウ「ピカ」

ブレード「我々も早く離れよう」

冥王「まいど～なの♪」

4人とも、それぞれの避けれるアイテムを手に入れた後にメールを読んだ後…

ハンター3「……」

ハンター7「……」

ハンターが迫っていた。

土方「きやがった！」

ブレード「早速！」

そう言うと4人はスパイクロークを使うが…

土方「おい」

ピカチュウ「ピカッ！？」

なぜか2人だけ消えてない。

冥王「不良品もあるから気を付けるの♪」

土方「おせぇぇよ！言うのおせぇよ！！」

ピカチュウ「ビガァァァ！！！」

ポンポン

てへっとする冥王に土方とピカチュウが怒鳴っている間にタッチされる。

～牢屋～

ピリリリリリリリリリ

長谷川「『２３分１秒にて廃屋地区で土方、ピカチュウ確保』」

近藤「トシィィィィ！お前も捕まったの！？」

ナックルジョー「これで残りは９人か…」

～四層地区～

ピリリリリリリリリリ

マリオ「今度は何だ？『ミッション、空中庭園のハンターを除いたハンターを２８分になる前に停止せよ』」

新八「『さすれば、終了時の料金を２倍にしよう』…」

～ビル地区～

銀時「よっしゃあ！沢山手に入れたからやってやるぜ！」

ルイージ「そうだね」

ブレード「やりましょう！」

ナエトル「エト～」

それぞれそう言った後に行動する。

～海岸～

ガス「喰らえ！」

ルイージ「いけ！」

バスッ！

ハンター5＆6「……」

ブレード「良し！これで後2人」

～廃屋地区～

銀時「喰らえ！」

カービィ「ポヨ！！」

ボスッ！

ハンター3&7「……」

海岸でルイージとガス、廃屋地区で銀時とカービィが決める。

～四層地区～

マリオ「『23分40秒にて空中庭園を除いた今出ているハンターが停止された。これにより賞金を2倍にする』」

新八「『だが、28分に廃屋地区で新たなハンターが1人追加される。そのハンターをゲーム終了する前に停止するアイテムを当てれば3倍になる』…何か嫌な予感が…」

アチャモ「チャモ？」

～廃屋地区～

銀時「良し、補給しとくか」

カービィ「ポヨ」

ナエトル「エトル！」

冥王「バイバイなの～…うふふ♪」

ビル地区に走る銀時達を見送る冥王は妖しく笑う。

～２８分１０秒前～

銀時「何時でも着やがれ！」

ガス「こんだけあれば！」

ブレード「だが…油断しない方が良い…」

廃屋で今度はボール型停止アイテムを構えるマリオと新八、アチャモを除いた６名。

冥王「うふふ…待ち遠しいの～～」

ルイージ「どう言う事？」

カービィ「ポヨ？」

笑う冥王にルイージとカービィは首を傾げる。

冥王「だって…」

２８分になると同時に冥王はストライクスハートを構える。

冥王「私がハンターだもの？」

銀時「退避！！」

それに銀時が叫び、６名は回避行動に入るが…

冥王「喰らうの！ディバイィィィンバズーーカ！！」

カービィ「ポヨ！！？」

銀時「アーーーーーー！！」

ブレード「うわぁぁぁぁぁぁ！！」

冥王の放たれた攻撃にカービィ、銀時、ブレードの３名は飲み込まれ…

～四層地区～

新八「うわぁ！」

アチャモ「アチャァァァァァァ！！」

飛んで来た冥王の砲撃に新八は辛うじてかわすがアチャモが当たる。

ピリリリリリリリリ

マリオ「『２８分２秒にてカービィ、銀時、ブレード、アチャモが冥王の砲撃によりリタイア』」

転送されるアチャモを見ながらマリオはメールを飲む。

～廃屋地区～

ルイージ「最後の最後でめっちゃ凄い人がハンターなの！？」

ガス「やるきゃねえ！」

ナエトル「エト！」

冥王「さあ！抗って見るの！」

そう言うと冥王は砲撃を放って行く。

それを3名は避けて隙を窺う。

～四層地区～

マリオ「やってくれるな…」

新八「こっちにも飛んで来るからめっちゃ厄介ですね！」

2人は飛んで来る砲撃を避けながら会話する。

～ゲーム開始から２９分５０秒経過、ゲーム終了まで後１０秒～

冥王「どうする？もう１０秒だよ？」

肩を上下させて息を　する３名に冥王は言う。

ルイージ「どうする？」

ガス「こうなったらこれだ！」

ガスに聞くルイージにガスはある物を取り出す。

それにルイージとナエトルもある物を取り出すと…

冥王「なの？」

冥王の前から姿を消す。

冥王は周りをキョロキョロ探すが見当たらない。

すると…

パシュン！

冥王「えっ？」

背中の衝撃に背中を見ると、一部凍っていた。

～四層地区～

ピリリリリリリリリリリ！

マリオ「『ルイージによって冥王にアイテム命中、それと同時にゲームは終了、生き残った諸君等５名に初期の３倍の３６０万円をプレゼントする』」

新八「やったぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！」

マリオ「しかし…俺達、追われないで終わったな；」

新八「砲撃避けたりはしましたけどね；」

～廃屋地区～

ガス「やったなルイージ、ナエトル！」

ルイージ「ホントだよ！」

ナエトル「エトル！」

～牢屋～

銀時「よっしゃあ！良くやった新八！」

ボルン「凄いですな」

ブレード「ええ」

神楽「それにしても新八が捕まらなかったのはそんなに地味だったアルか？」

～四層地区～

新八「誰が地味じゃあぁぁぁぁ！！」

マリオ「うお！？いきなりどうした！？」

～スタート地点～

ダブルゼータ「いや～以外とやったな～」

ガルマドップ「まあ、見向きもされなかったメンバーもいたけど…これにて逃走中終了！」

逃走中の始まり始まりだぜ～　ｂｙダブルゼータ　その４（後書き）

と言う訳で葉月さんリクエストの逃走中でした！葉月さんどうでしょうか？

冥王「くやしいの！もっと修行するの！」

スネーク「やれやれ」

ネス「感想を待ってます♪」

IS<インフィニット・ストラトス>黒き牙と永遠の月　黒き牙と

スネーク「ユートピアとのコラボだな」

フォックス「どうなるのやら」

ルイージ「だね」

マリオ「終が消えた？」

呼んでばっかりだったので楓達の世界に初めて来て挨拶に向かったら千冬の言った事に驚く。

ちなみにマリオ以外に明久とムッツリーニにソニック、冥王、楓達の赤ちゃんのベビーシッターになっている４人が来ていて楓達の所に行っている。

千冬「ああ、こちらの更識が部屋にいった所、黒谷がいなかったそうだ」

一夏「ホントどこ行ったんだあいつ？」

楯無「心配だよ…」

マリオ「探索するなら俺達も手伝うぞ」

千冬が言った後に同じ部屋の一夏が首を傾げ、楯無がそう言うとマリオが手伝いを申し出る。

千冬「そうか、篠ノ之を除いた皆が探しに行くから付き合って欲しい」

マリオ「了解…って箒に何かあったのか？」

一夏「ちょっとな…」

千冬の許可を受けた後にマリオは箒について聞き、一夏は頬を掻く。

その後、ベビーシッター４人を除いたマリオ達と箒を除いた楯無を入れた一夏達と共に探索に入る。

冥王「それにしても暇なの～修行したいの～」

歩く冥王が槍を振るいながらそう言う。

ちなみに今は私服でピンク色のビスチェに短パンと言うラフな格好をしている。

明久「先生、大丈夫なんですか？」

マリオ「ん？あいつは大丈夫さ…それに俺と似た感じの奴だし」

ムッツリーニ「……修行バカ」

冥王を見て小声で聞く明久にマリオはそう答え、ムッツリーニがそう呟く。

ちなみにＩＳ女性陣は冥王のある一部を見て羨ましいと感じていた。

ソニック「Ｈｅｙ，それで終はどこにいるんだろうな？」

楓「ホントです」

マリオ「まあ…どうやら現れた奴等の後ろにいるのは確実だな」

ソニックの疑問に楓は同意し、マリオが前を見て言う。

すると目の前に終に同じ顔の大群が現れる。

楯無「えええぇぇぇ！？」

冥王「おお～やりがいのある大群なの♪」

目の前の大群に楯無は驚き、冥王はそう言った後にバリアジャケットを纏う。

冥王「全力突破！スターライト！バスタァァァァァァァァ！！！」

ストライクス・ハートを構えるとスターライトブレイカーを超える砲撃が放たれて、大群の大半を飲み込む。

鈴「すご…」

ラウラ「なんと言う…」

鈴は目の前の光景に口が塞がらず、ラウラは呆然と呟く。

マリオ「此処は冥王に任せていくぞ！」

冥王「任されたの♪」

そんなメンバーにマリオは指示し、冥王を除いてマリオ達は冥王が開けた場所を走る。

冥王「さあ！全力で相手してあげるの、そっちも本気出すの！」

冥王を背にして走るマリオ達は見覚えのある者を見つける。

一夏「終！」

セシリア「見つけたましたわよ！」

終を見つけ、駆け寄ろうとする一夏と楓達だが…

終「来るな！」

突然拒絶の言葉を吐くと同時に終はブラックファングを展開して攻撃して来る。

それをマリオは驚いてる一夏達の前に出てスーパーマントで回避する。

マリオ「いきなり過ぎるんじゃないか？」

終「来ないでくれ…俺はもう…」

スーパーマントを構えるマリオの後ろにいる一夏達に終は力なく言うと…

終の背中から翼が生えた。

楯無「ええ！？」

一夏「翼が！？」

マリオ「ドーン！」

終「がっ！？」

いきなり終の背中に翼が生えた事に一夏達が驚いてる間に何時の間にか終の背中に移動したマリオが終を地面に押し付ける。

マリオ「何お前？翼が生えた位で消えようと思った訳？」

終「別世界に住むあんたに何が分かるんだよ…」

終の背中に座り込むマリオに終は吐き捨てる。

マリオ「バッカじゃねえのそんな翼が生えた位で逃げようとするなんて…一夏達がお前を拒絶すると思うのか？それとも…周りから怖がれ、一夏達に何か行かないかを心配してか？」

終「……ああ…」

マリオがそういった後に最後に来た問いに終は短く答える。

マリオ「はっ、そんなの心の狭い奴等さ…ドーンと胸を張れよ、例え翼が生えようがお前は人間だ！」

楯無「そうだよ終！」

一夏「俺達は拒絶しない！」

楓「そうですよ終さん！」

椛「楓を泣かせるならやるわよ？」

ラウラ「同じく」

鈴「その通りだよ！」

セシリア「マリオさんの言う通り、あなたは人間ですわ」

ソニック「そう言うのなしで気楽に行こうぜ」

明久「そうだよ！差別反対！」

ムッツリーニ「……」

終「この状態の俺は…いて良いのか？」

マリオが言った後に楓達も続いて言いソニックと明久も言い、ムッツリーニは無言であったが同じで終はメンバーに聞き、全員頷く。

一夏「覚悟しとけよ終、千冬姉の待ってるぞ」

そう言ってマリオが終の背中から退いた後に一夏が終の手を掴んで起き上がらせる。

冥王「あっ、終わったの？こっちは全員倒したなの♪」

そこに無傷の冥王が来てそう言う。

マリオ「（しかし、何だったんだろうなあの終似の奴等は？）」

この後、終は千冬に説教されて出席簿アタックを喰らった。

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生～蛇八先生！」

蛇八「それじゃあ始めるぞまずはペンネーム『葉月』から贈り物だ『どうも、葉月です。一万ＰＶおめでとうございます！

吉継「それはめでたきことよ、メデタキナ。ソラに花束（バラや菊、百合など）とマリオの人形を送ってやろ」

三成「あと、お前に赤飯を贈ろう」

葉月「贈るもの多くね？？」』…と言う訳で作者」

鳴神　ソラ「ありがとうございます！これからも頑張ります！」

銀八「と言う訳で『葉月』さん廊下に立ってなさい！次でペンネーム『プリニーラハール』さんから『フロン「更新お疲れさまですー」

カイト「皆強いな・・・ん？作者立ってないなって・・・！」

・・・↑ボロボロで立てない

ラハール「全く！このバカが！」↑蹴ってる

・・・↑死にかけ

アイリン「（バカ神が死んだらどうなるか気になるけどやめとこう）シールドヒール」

あいたたた・・・今度は逃走中ですかって、何でいつまでも蹴ってんの。

ラハール「貴様が前にオレ様を遅く出したからだ！」

あう、それは謝ります・・・

レオン「ところで質問、あのピンクの生き物（逃走中に参加するカービイ）の言葉って皆分かるの？」

エトナ「そう言えばそうね、ちなみにアタシ達皆分からないわよ」

ラハール「今度から気をつけろ！このバカ作者！（もちろんこっちの事です）」

あうう・・・まあ、更新待ってます。』…と言う訳で代表でマリオに答えろ」

マリオ「別の世界なら普通に喋るけど…元の世界じゃあ分からないな…サトシなら分かるけど」

蛇八「と言う訳で『プリニーラハール』！そちらの小説頑張れよ」

銀八「今回は此処まで！」

と言う訳でユートピアさんのコラボでした～

フォックス「どう言う感想が来るのやら…」

スネーク「だな」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　銀の侍と４人の女神　―　第別訓パート１２

フォックス「真王とのコラボ第１２弾！」

スネーク「ギャラクシー編の宝探しの手伝いだな」

～バネバネスプリングギャラクシー～

『ぴょんぴょん跳ねて宝探し』

星船に乗り、お宝探しをする銀時達、次のギャラクシーは…

イーバ「惑星群（ギャラクシー）に着いたよ」

イーバある場所を指差す。

目の前にバネやスプリングがいっぱいあるギャラクシーであった。

ヴィヴィオ「うわぁ～～」

プリニー「バネやスプリングがいっぱいあるッスね～」

ビビ「それじゃあ早速「待った待った」…何よ？」

ヴィヴィオは目の前のギャラクシーに声をあげ、プリニーがそう言い、ビビが行こうと言おうとしてイーバに止められて眉を顰める。

イーバ「実はというと親友のルーバからね。なんでも凄い力で解決してる奴を聞いてね。そいつに応援を頼んだのさ」

新八「そうなんですか？」

イーバ「ああ、中々の人物だと聞いてね」

レーティア「誰かしら？」

神楽「それじゃあ今こっちに来てる顔がそうアルか？」

銀時「顔だぁ？」

イーバの言った事に新八は聞き、イーバは頷き、レーティアが首を傾げ、神楽が後ろを指し、それに銀時は後ろを見る。

後ろから来るは…

ビビ「マリオの顔型星船！？」

マリオ「お～～～い」

ルイージ「手伝いに来ました～」

ヨッシー「です～」

オリマー「凄いねこれ」

冥王「なのなの～♪」

ヴィヴィオ「あれ？なのはママがいる」

プリニー「ホントッス！」

ネプテューヌ「あ～～ヴィヴィオちゃんにプリニー、あの人はなのはさんじゃないんだよね；」

星船マリオに驚くビビにマリオとルイージにヨッシーとオリマーに冥王が手を振り、冥王にヴィヴィオとプリニーは驚き、ネプテューヌは2人に説明する。

銀時「あんた等が応援か？」

マリオ「ああ」

イーバ「と言う訳で頼んだよ」

銀時の問いにマリオは頷き、イーバの見送りの言葉と共にマリオと銀時達はギャラクシーに下りる。

バネバネスプリングギャラクシー

（ＩＢＧＭワンワンファクトリーギャラクシーｂｙスーパーマリオギャラクシー２）

ヴィヴィオ「わあ～ホント沢山ある！」

冥王「ぴょんぴょんなの～♪」

ビビ「和むわね…」

新八「お宝はどこにあるんだろうな…」

スプリングで跳ねるヴィヴィオと冥王にビビはそう言い、新八は周りを見る。

銀時「あれじゃねえ？」

マリオ「他のと違って組み込まれた感じじゃないからそうだろうな…」

神楽「それじゃあゼロに変身してひとッ飛びするね」

銀時が指した方にデカイバネがあり、マリオがそう言い、神楽が言う。

マリオ「ばか者、危険な場所じゃないのに使う訳ないだろ！…うんと…おっ」

神楽にそう言うとマリオは周りを見てある物を見つける。

ネプテューヌ「何これ？」

マリオ「これはバネキノコで…取れば…」

同じく気づいたネプテューヌにマリオはそう言うとマリオの体にバネが付く。

バネマリオ「バネマリオになれる…とう！！」

そう言うとバネマリオはぴょんぴょん跳ねた後に大ジャンプして、デカイバネ『スーパージャンパー』の所に着く。

バネマリオ「うんしょうんしょ！」

そして体で押して、下に落とすとバネマリオは着地する。

銀時「お宝ゲットだな」

バネマリオ「んじゃあ次行くか～」

冥王&ヴィヴィオ「お～（なの～）♪」

ビビ「…それ解きなさいよ」

銀時が言った後にぴょんぴょん行くバネマリオに冥王とヴィヴィオは元気良く返事し、ビビはバネマリオにそう言う

銀時「なんじゃありゃあ？」

進んだ先に奇妙なものを見つけ、銀時は止まる。

オリマー「バネの様なモンスターだね」

バネマリオ「任せろ」

ジャンヌ「と言うかまだ解いてなかったのね；」

オリマーが呟くとバネマリオはぴょんぴょん跳ねてスプリンダーに近づき、大ジャンプするとスプリンダーの頭上に頭突きする。

バネマリオ「さあ行こう」

ヴィヴィオ「お～」

冥王「ＧＯＧＯなの♪」

ネプテューヌ「跳ねてるのに凄いね」

銀時「あれ、頭が痛くないのかね？」

新八「さあ？」

ルイージ「痛くありませんよ」

ヨッシー「慣れてますからね～マリオさん」

オリマー「ホント凄いよね」

そのまま次へ行くバネマリオに元気なヴィヴィオと冥王は続き、ネプテューヌは関心の声をあげ、銀時は半回転して移動してるバネマリオに疑問の声が漏れ、新八はそう言い、ルイージ、ヨッシーとオリマーが言う。

銀時「新しいお宝が見つけたが…」

バネマリオ「レーザーポッドだな…早く走れば良いだけだ」

冥王「今度は私の出番なの～」

銀時とバネマリオは言った後に冥王がそう言うとバビュンと走るとすぐさまお宝『祝い爆弾』を持って帰る。

ヴィヴィオ「冥王さんすご～い」

冥王「えへんなの♪」

キラキラした目で冥王を見るヴィヴィオに冥王は胸を張る。

ビビ「凄い運動神経ね」

冥王「運動神経も良くないと力が強くなっても意味ないの」

プリニー「そりゃあそうッスけど速いッス」

ビビの言葉に冥王は言い、プリニーがそう言う。

マリオ達は手に入れたお宝を持って星船に戻ったのであった。

～スーパージャンパー～

価値：１７００円

見た目：バネ

イーバメモ：デカイバネだね。これは何の為に使うんだろうね

ドルフィンメモ：これを付ければ誰でも凄いジャンプが出来るジャンパーになれます！どんな事高い場所もジャンプ出来る様に！

～祝い爆弾～

価値：７００円

見た目：クラッカー

イーバメモ：祝う為の奴だね。こんだけ大きいとでっかい音が鳴るだろうね。

ドルフィンメモ：誰かを祝いたい時に役に立つ一級品！これで相手を祝いましょう！びっくりさせちゃいそうだけど

フォックス「と言う訳で真王とのコラボだったな」

スネーク「次もお宝探しだけどな」

ネス「感想を待ってます♪」

たけし伝説！クリスタルと三国志と超力パワー！　クリスタル９．５　オーレン

マリオ「龍の骨のコラボ第２弾、今度は『たけし伝説！クリスタルと三国志と超力パワー！』とのコラボだ！」

ルイージ「しかし丁度…前やったダイチ君が主人公の話と場所が同じだね；」

フォックス「ホントだな…」

デビル帝国と戦い、クリスタルを探す旅をする竜崎たけし一行。

これはその一行が江東へ行く途中の船の中であった出来事…

たけし
「させと…江東に次のクリスタルはあるかな」

たける
「まあ、行けば分かるけどな」

幸一
「そうだな」

男達３人が海を見ながらそう言うのをメイメイと桂花は見ている。

桂花
「平和よね」

メイメイ
「そうね…あれ？」

桂花がそう言って、メイメイが同意した時、ふと上を見る。

たけし達も何かに気づいたのか上を見る。

カザリ
「アンク！なんとかしてぇぇぇぇぇ！」

アンク
「出来るか！！お前1人ならともかくウヴァとガメルにメズールも掴まってたら飛べるか！」

ウヴァ
「ファイトぉぉぉぉ！！」

ガメル
「いっぱ～～～つ！！」

アンク
「CMに出てる人の様にそう言えば出来ると思うなぁぁぁぁぁ！！」

メズール
「と言うかこれ、私いない時に前にもやってないそれ！！」

カザリ
「やってるねぇぇぇぇぇぇぇ！！」

会話している間にグリード5人は船に落ちる。

たけし
「なっ、何だ！？」

落ちて来たグリード5人にたけし達は驚いてそれぞれの武器を構える。

メイメイ
「あなた達、デビル帝国の新手！」

アンク
「誰が悪魔の帝国だ！」

ガメル
「デビル？」

カザリ
「ガメル、それイカでビール（汗）」

メズール
「しかも、全然違うわよ；」

メイメイの言葉にアンクが否定し、ガメルがイカとビールを取り出してカザリとメズールにツッコミを入れられる。

ウヴァ
「おい、それよりも、あいつ等が持ってるのはオーレンジャーの武器じゃねえか？」

アンク
「確かにそうだな…おい！」

たけし
「何だ？」

ウヴァがたけし達の構える武器を見てそう言い、アンクは頷いた後にたけし達に声をかけ、たけしは警戒しながら聞く。

アンク

「お前等、オーレンジャーに変身出来るか？」

たける
「？何でいきなり？しかもオーレンジャーって？」

メズール
「どうやら、あの坊や以外はまだオーレンジャーになれない様ね」

メイメイ
「どう言う事ですか？」

アンクの問いにたけるは首を傾げ、メズールがたけしの手首にあるパワーブレスを見てそう言い、メイメイは問う。

アンク
「教えてやるよ…」

そう言うとアンク達はある物を取り出す。

たけし
「！オーレッドのフィギュアに似た奴が４個！？」

カザリ
「これはフィギュアじゃないんだよね」

ウヴァ
「こうやって使うんだよ」

たけしがアンク達の手にあるオーレンジャーのレンジャーキーを見て驚き、カザリが訂正して、ウヴァがそう言うと5人は構える

グリード
「豪快チェンジ！！」

モバイレーツ
「オーレンジャー！！」

その音声と共に5人のグリードの体に網状のスーツが装着される。

たけし
「嘘だろ…」

Aオーレッド
「オーレッド！」

Uオーグリーン
「オーグリーン！」

Gオーブルー
「オーブルー！」

Kオーイエロー
「オーイエロー！」

Mオーピンク
「オーピンク！」

Aオーレッド
「超力戦隊！」

Gオーレンジャー
「オーレンジャー！！」

たけしが驚いている間にオーレンジャーに変身したグリード達は名乗りを上げた。

たけし
「やるしかないか…行くぞ！超力変身！！！」

たけしは決意すると二つのブレスを同時に起動させる。

たけしの左腕のブレスが光りだし、たけしの体に網状のスーツが装着されると大人サイズとなり、たけしはオーレッドとなる。

Aオーレッド
「見せて貰うぞ。お前の実力を」

Tオーレッド
「やってやる！」

お互いにスターライザーを構えると飛び出す。

他のグリード達もそれぞれ武器の持つメンバーと戦う。

たける
「この！」

Gオーブルー
「ふん！」

幸一
「この！」

Uオーグリーン
「おりゃあ！」

上記の４人はお互いのぶつけ合い…

Kオーイエロー
「炸裂！超力バトン！」

桂花
「きゃあ！」

Mオーピンク
「疾風！超力ディフェンサー！」

メイメイ
「あう！」

KオーイエローとMオーピンクがそれぞれ、使える技を当てない程度に放つ。

Aオーレッド
「さっきデビル帝国って言ってたな？それがお前が戦う相手か？」

Tオーレッド
「ああ！俺は奴等より先に全てのクリスタルを集めなければならない！」

ぶつかり合う2人のオーレッドだが、Aオーレッドが Tオーレッドの言葉を聞いた後に弾き飛ばしてパンチする。

Tオーレッド
「ぐっ！」

Aオーレッド
「だったら鍛えろ！お前はまだまだ変身して浅い事が戦って分かる！」

膝を付くTオーレッドにAオーレッドがそう言うと他のメンバーも集まる。

Aオーレッド
「お前がオーレッドで仲間がオーレンジャーに選ばれたならこれを覚えておけ」

Tオーレッド
「何をだよ？」

Aオーレッドの言葉にTオーレッドは立ち上がりながら聞く。

Aオーレッドはキングスマッシャーを取り出すと5人はそれぞれの専用武器をキングスマッシャーに合体させ、1つにする。

桂花
「嘘！？」

メイメイ
「6つの武器が大きい1つの銃になった！？」

たける
「マジかよ」

Tオーレッド
「それが…さっき言っていた覚えておけの？」

Aオーレッド
「ああ、オーレンジャーの最初の必殺武器、それがこのビックバンバスターだ。これなら破られなければ、今のお前達にとっての心強い武器になるだろう」

そう言うとグリード達5人は変身を解くと同時に世界の壁に飲み込まれる。

アンク
『覚えておけ、お前は強くはなれるがお前が持つ力に縛られるな！己自身を鍛えろ！』

その言葉を残して…

たけしは変身を解いて膝を付く。

たけし
「（己自身を鍛えろ…）」

幸一
「俺達の武器をたけしに…」

たける

「だけどその間、俺達は無防備になるから鍛えろなのか？」

メイメイや桂花に支えられながらたけしはアンクの残した言葉を心の中で呟き、幸一やたけるは消えた場所を見て呟く

そんな訳で龍の骨さんとのコラボでした！龍の骨さんどうでしたか？

マリオ「似た感じの所でやったな」

ルイージ「確かに」

フォックス「相手側も丁度な…」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　銀の侍と４人の女神　―　第別訓パート１３

スネーク「真王とのコラボ第１３弾だ」

フォックス「次は面倒なギャラクシーだな…」

～レッドブルーイガイガギャラクシー～

『スピンしてトゲトゲチェンジ』

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　銀の侍と４人の女神　－　第別訓パート１３

前回、マリオ達の協力を受けて宝をゲットした銀時達、次の星は……

レッドブルーイガイガギャラクシー

（ＩＢＧＭレッドブルーパネルギャラクシーｂｙスーパーマリオギャラクシー２）

ネプテューヌ「う～～ん」

銀時「どう行くんだろうな？」

目の前のステージにネプテューヌと銀時は唸り、他の神楽、新八、桂、エリザベス、レーティア、ジャンヌ、ビビも困る。

ネプテューヌ「此処はマリオさんに頼もうかな」

銀時「あいつなら何か知ってるだろうしな…」

そう言うとネプテューヌはマリオにかける。

ネプテューヌ「マリオさん、私達今ある星にいるんだけどこの星の攻略法が分かんないんだよ。赤いのにトゲがあって進めなくて、手

伝ってくれない？」

マリオ『分かった！ちょっと待っててくれ』

1分後

マリオ「これか…」

ルイージ「これは…」

オリマー「なかなか凝ったステージだね」

来たマリオとルイージとオリマーが目の前のステージを見て呟く。

ちなみに冥王は星船でヴィヴィオと遊び中

ネプテューヌ「攻略法分かる？」

マリオ「ああ、前似た星に行った事あるから……よっと！」

マリオはスピンすると赤からトゲが無くなり、代わりに青にトゲが現れる。

新八「変わった！」

桂「成る程、回転をすればそれに反応して変わると言う事か…」

エリザベス『もう1回すれば元に戻ると言う事ですね』

マリオ「此処は1人1人か2人で行った方が良いな…俺が先に言っ

て休める場所に着いたら連絡するから来てくれ」

オリマー「分かったよ」

新八が驚いた後に桂が顎に手を当てて言い、エリザベスが続けて言う。

マリオはコースを見てそう言い、オリマーが返事する。

マリオが進んだ後に連絡が入り、銀時とルイージ、ビビとオリマー、新八とジャンヌ、桂とエリザベス、レーティア、ネプテューヌと神楽、と言う感じに行く。

銀時「疲れるな…」

レーティア「そうね…進みながらスピンしながらジャンプしてだし…」

ビビ「ホント疲れる…」

新八「この星は疲れるね…」

ジャンヌ「ホントだよ…」

神楽「酔いそうアル…」

エリザベス『交互でも大変ですね』

桂「日常ではあんまり回転はしないからな…」

ルイージ「まっ、まあ、もうすぐ着きますよ；」

オリマー「そうだよ」

マリオ「敵もあんまりいないから行けるな…」

メンバーが休みながらそう言い、そうやって進んだ先にあったのは…

ビビ「……ルービックキューブ？」

銀時「だな…」

桂「しかも進んだ道中にはなかったから…」

エリザベス『この星はこれだけの様ですね』

新八「どんだけぇぇぇぇぇぇぇぇ！！！」

ジャンヌ「あはは…；」

ネプテューヌ「けど、新しい技を覚えたよ！」

マリオ「そりゃあ良かったな♪」

ネプテューヌはスピンを覚えた。

その後、銀時達は『カラーズブロック』を持って帰ったのであった。

～カラーズブロック～

価値：２１００円

見た目：ルービックキューブ

イーバメモ：変わったブロックだね。しかも苦労してこれだけとはあいつ等も大変だったね。

ドルフィンメモ：カラフルなブロックでなんと回転出来る様で上手く一色に出来れば凄いと言われるでしょう。

フォックス「真王とのコラボでした！」

スネーク「大変だったな；」

ネス「感想を待ってます♪」

今回は恐怖の鬼ごっこだってさ　ｂｙデスサイズ　…お前が言うとあんまり恐怖

フォックス「葉月のリクエスト第2弾だ！」

スネーク「今度は恐怖の鬼ごっこと言う奴か…」

ルイージ「作者は知る為実物見たけど…」

スネーク「どう言う奴なんだ…」

ツッコミトリオ視聴中…

ルイージ「；」

フォックス「やばす；」

スネーク「こりゃあ作者が一番苦手な部類だな；」

ネス&リュカ「（ ゜Ａ ゜；）」

ソニック「始まるぜ！」

デネブ「葉月さんに言って置く！…希望してたのと離れるから謝る…ごめん！！」

白雷「…マジで離れてるからな…」

アンク「駄作になりそうだな…」

今回は恐怖の鬼ごっこだってさ　ｂｙデスサイズ　…お前が言うとあんまり恐怖

マリオ「此処どこやねん；」

銀時「いきなり過ぎる；」

新八「ですよね；」

なのは「何、何？」

見た事も無い建物内で男性陣３人はそう言い、なのはは震えまくっている。

そんな彼等の前に…全体が青い奴が…

なのは「みぎゃあぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！」

ドゴーーーーーーーーン！！！

出た瞬間に全体が青い奴はなのはのスターライトブレイカーに吹き飛ぶ。

新八「何今の！？」

銀時「と言うかいきなり過ぎる！！」

マリオ「…玄関は開かないな…」

新八「あんたも冷静に調べるなよ！」

新八と銀時はいきなりの展開に驚き、玄関のノブを回すマリオに新八はツッコミを入れる。

なのは「ひぃぃぃぃぃぃぃぃ！！」

銀時「落ち着けぇぇぇぇぇぇ！！流石に撃ちまくったら崩れる！！」

思いっきりテンパっているなのはに銀時は宥める。

その後、４人は脱出する為に行動するが…

なのは「ひぃぃぃぃぃ！！！」

行く先々で青い奴が出て来るのでなのはがスターライトブレイカーやディバインバスターを撃ちまくるので銀時や新八が宥め、マリオが調べては重要なアイテムを見つけたり…

なのは「っ！！？っ！！？」

新八「落ち着いてぇぇぇぇぇぇ！！」

銀時「撃ったら逆に出て来るから！！」

マリオ「溶接と…」

沢山の青い奴がいる牢になのはは発狂しかけて新八と銀時が抑え、マリオが扉があれば溶接して、出て来られない様にする。

新八「此処多すぎです！！」

銀時「早く出よう早く！」

なのは「嫌なの！！ホントにあの青いの怖いの！！」

マリオ「まったく…」

新八は叫び、銀時となのははは早く出たい一心で、マリオは冷静に調べる。

なのは「何食べてるのぉぉぉぉぉ！！！！！！＃」

銀時「せっかく出られると思ったのに…；」

新八「ですね；」

マリオ「景気良く吹っ飛んだな…」

せっかく出られそうだったのが青い奴がはしごを食べたのでなのははは吹き飛ばし、新八と銀時はがっくりとなり、マリオは青い奴を見て言う。

数分後

新八&銀時&なのは「出られたぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！」

マリオ「ふう～～なんとか出られたな」

出られた事に3人は歓喜し、マリオは帽子で顔を仰ぐ。

新八「さっさと離れましょう！」

銀時「そうだな！」

なのは「もうこりごりなの！」

マリオ「そうだな」

新八がそう言って、銀時となのは、マリオも同意すると…

ゼータ「うぉぉぉぉぉぉぉぉ！！！」

マーク？「落ち着けゼータ！！」

ゼータプラス「そうだぞ！！」

ダブルゼータ「おお、凄い凄い」

νガンダム「何こいつ等！！」

シャア「やばすぎにも程ありすぎるぞ！」

青い奴を吹き飛ばしてるゼータにマーク？とゼータプラスが宥めようとし、ダブルゼータも撃ちながら関心し、νガンダムとシャアも迎撃してる。

なのは「いい加減にするのぉぉぉぉ！！」

銀時「簡便してくれ；」

新八「同じく；」

なのはは叫び、銀時と新八はうんざりする」

マリオ「ちゃんちゃん」

デスティニー「マジでグダグダだよ！」

今回は恐怖の鬼ごっこだってさ　ｂｙデスサイズ　…お前が言うとあんまり恐怖

ルイージ「と言う訳でもう葉月さんのリクエストから現物とは離れてる恐怖の鬼ごっこでした；」

スネーク「ちなみに作者はこれを実物を見た後に震えながら書いたんだよな；」

フォックス「作者は昔っからこう言うの苦手だからな；」

ネス「感想を待ってます；」

リュカ「怖かった（Π－Π）」

IS<インフィニット・ストラトス>黒き牙と永遠の月　零の名を

フォックス「と言う訳でユートピアとのコラボだ！」

スネーク「前回の続編だな」

ルイージ「どうなるのやら…」

マリオ「ふう～」

冥王「迎撃完了なの」

千冬「すまないな手伝って貰って」

一息を付くマリオの隣で冥王がそう言い、千冬が近寄って言う。

終失踪事件から1週間が経ったが相変わらず終の顔をした奴等は現れ続けた。

マリオ達は残って楓達と共にその集団を迎撃している。

黒巣「けれど…あいつ等はホントなんなんだ?」

ウラタロス「そうだよね。流石にこうも連続となるとおかしいもんね」

一緒に来ていた黒巣がそう言い、ウラタロスが前髪を弄る様な仕草をしてそう言う。

モモタロス「奴等は何を狙ってるんだろうな?」

イブタロス「いや、狙いは黒谷　終ではないか?」

知恵の輪をやっているモモタロスにイブタロスはそう言う。

キンタロス「何でそう言い切れるんや犬の字？」

イブタロス「犬の字じゃない！…黒谷　終の顔をした集団が出て来るのだ。彼を狙ってるのは明らかだ」

キンタロスの問いにイブタロスはそう言う。

黒狼「兄さん、これから捜索に出るそうで行きますか？」

黒巣「ああ！」

と言う訳で楓、終、一夏、箒、セシリア、鈴、シャル、ラウラ、楯無のメンバーと共にマリオ達はそれぞれ…

楓と終を、それぞれを中心としたグループへ分かれた。

楓グループ：楓、セシリア、鈴、シャル、ラウラ、黒巣、イマジンズ、マリオ

終グループ：終、楯無、一夏、箒、ルイージ、黒狼、グリード５人

なお、冥王は何かあった場合の居残りとなった。

マリオ「……」

マリオは物陰を見た後に楓達の後を追う。

物陰で何かが頷いた後に終達を追いかける。

楓グループ

楓「それにしても…一体誰なんでしょうね…」

リュウタロス「そこが分かれば苦労しないよね～」

ジーク「しかし、まるで知ってる様な人物でないと作り出せないからな…」

楓が呟いた後にリュウタロスとジークがそう言う。

千冬『そちらはどうだ？』

マリオ「今の所、まだ見つかってない」

千冬『そうか…何か分かったら教えてくれ』

マリオ「ああ」

千冬と連絡してマリオはそう言った後に切る。

数分、歩き…

ラウラ「…！何か来るぞ！」

何かに気づいたラウラが叫んだ後、楓達の前に異形の怪物が現れる。

黒巣「イブ！」

イブタロス「タロスを付け忘れるな！」

デンオウベルトを装着する黒巣にイブタロスはそう答え、黒巣はボタンが赤と青の半分ずつに染められたのを押し…

黒巣「変身！」

デンオウベルト「ポリスフォーム」

その音声と共にイブタロスは黒巣に憑依し、黒巣がプラットフォームになるとその上にアーマーが装着される。

顔はG電王のデンカメンで、体は電王ソードフォームの左側が青に染まったフォームの『仮面ライダー電王・ポリスフォーム』に変身した。

電王ＰＦ「お前の時間を止めさせて貰うぞ！」

そう言うと電王ＰＦはデンガッシャー・ガンモードで攻撃する。

それにマリオ達も続く。

異形の怪物は電王ＰＦの攻撃を防いだ後に近寄って来たマリオ達を攻撃する、

鈴「おっと！」

シャル「当たんないよ！」

ラウラ「はっ！」

モモタロス「おらっ！」

キンタロス「ふん！」

鈴とシャルが避けた後にラウラとモモタロス、キンタロスが攻撃し…

セシリア「受け取りなさい！」

リュウタロス「バン！」

電王ＰＦ「オマケだ！」

セシリアとリュウタロス、電王ＰＦが後ずさった異形の化け物に追撃する。

マリオ「はっ！」

楓「これで！」

ウラタロス「オマケだよ！」

最後にマリオと楓、ウラタロスが攻撃する。

デンオウベルト「フルチャージ」

よろけた異形の怪物に電王ＰＦがエネルギーがチャージされたデンガッシャーＧＭを構え…

電王ＰＦ「これでエンドだ！」

叫ぶと同時にデンガッシャーＧＭから無数の赤と青の光線が発射さ

れ、異形の怪物に命中する。

『ワールドバニッシュ』が決まるとそのまま、怪物は倒れる。

倒れた怪人にマリオ達は近づき、顔を見る。

ウラタロス「仮面が付いてるね…では素顔を拝見…と」

ウラタロスが代表で言い、怪物の仮面を外すと…一同は驚く。

リュウタロス「うっそぉ!?」

鈴「マジ?」

セシリア「これは!?」

一方の終達

ルイージ「えっ!?それホントなんですか!?」

千冬『ああ…別の方で探していた彼等がそう言っている』

ルイージ「そうですか…分かりました」

楯無「どうしたの?」

千冬の連絡を受けたルイージはそう言った後に通話を終え、楯無が話しかける。

終「何かあったのか?」

ルイージ「うん…何でも、兄さん達の方で怪物が出て来て、迎撃して怪物の顔を見たら、別の人の顔が付いてたそうだよ」

カザリ「今度は別の人ね…」

メズール「とことん、調べないと行けないわね」

終の問いにルイージが答えた後にカザリは頭を掻き、メズールがそう言う。

終「ああ…ん？」

一夏「どうした終？」

箒「何か見つけたのか？」

同意した後に終は目の前を見て目を開き、一夏と箒が話しかけるが返さず前を見ている。

それに一同も前を見ると…

1人の少年が立っていた。

終「零…」

誰にも聞こえない程の呟きが終の口から漏れた後に少年は背を向けて走り出し、終はそれに反応して追いかける。

楯無「終君！？」

それにメンバーも慌てて追いかける。

物陰に隠れていた人物も他のメンバーより早く終を追いかける。

終「（あいつは…！）」

終は追いかける。現れた嘗ての相棒を…

ユートピアさん、こんな感じでよかったでしょうか？

フォックス「作者は悲劇は苦手だからな…」

スネーク「そうだな…」

ネス「感想を待っています♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　銀の侍と４人の女神　―　第別訓パート１４

スネーク「真王とのコラボ第１４弾！」

フォックス「今度もギャラクシー編のだけど…」

ネス「２色だけの星だね～」

～モノクロワールドギャラクシー～

『白黒世界の巨大生物』

ルイージ「兄さんまた？」

マリオ「まただな」

手紙を見て聞くルイージにマリオは言う。

イーバ『また会ったね。イーバだよ。実は次に行く星にちょっとヤバそうな奴がいるんだ。けど君たちなら簡単に出来そうだから呼んでおくよ。場所はモノクロワールドギャラクシーさ』

マリオ「行くぞ」

ルイージ「お～」

と言う訳で２人は手紙を見た後に冥王とヨッシー、ソニックとオリマーの４人と共にイーバの言うギャラクシーへ向かう。

モノクロワールドギャラクシー

（ＩＢＧＭフラッシュブラックギャラクシーｂｙスーパーマリオギャラクシー２）

マリオ「お～い」

ネプテューヌ「あれ？マリオさん？」

早速イーバに言われた星に着いたマリオ達は銀時、神楽、新八、ネプテューヌ、レーティア、ジャンヌ、ビビを見つけ、最初にネプテューヌが気づく。

銀時「何であんた等が？」

マリオ「イーバに頼まれた」

新八「そうなんですか？」

ルイージ「うん」

オリマー「しかし、ホントにモノクロだね…」

ヨッシー「ですね～」

銀時が聞いてマリオが答えた後に新八の質問にルイージが頷く。

隣でオリマーとヨッシーが周りを見て感想を言う。

神楽「そんじゃあ行こうアル！」

冥王「オーなの！」

と言う訳でメンバーは歩き出した。

途中でモノクロクリボー、モノクロパックン、モノクロトゲゾーが出て来るが、モノクロクリボーをマリオやビビ、ジャンヌが踏みつけ、オリマーがパンチで吹き飛ばし、レーティアと冥王が武器で吹き飛ばす。

モノクロパックンはルイージとネプテューヌがスピンで吹き飛ばし、モノクロトゲゾーはヨッシーが食べまくる。

ヨッシー「いや～食べ放題ですね～」

ビビ「よお～く食べれるわね；」

途中で『モノクロの羽』と『キッキングボール』を手に入れて奥へ向かう。

レーティア「広い場所に着いたわね…」

ジャンヌ「ホントだね」

オリマー「…出て来るね…ボスが」

神楽「マジアルか？」

レーティアとジャンヌが周りを見て呟き、オリマーがそう言い、神楽が驚くと認める様にゾウノアシを白黒にしたモノクロノアシが現れる。

ビビ「ホントに出てきたわね…」

冥王「それじゃあ攻撃するの！」

オリマー「奴は胴体の下部分にいれば安心だから吹き飛ばされない様にするんだ！」

銀時「了解！」

ビビはモノクロノアシを見て呟き、冥王は槍を構え、オリマーがそう言うと銀時と新八と神楽、マリオとルイージが走り、ソニックと美鈴の格好になったジャンヌ、ネプテューヌも続く。

銀時「くす玉を割る様に叩け！」

ソニック「ＯＫ！」

神楽「分かった銀ちゃん！」

新八「叩きまくります！！」

ネプテューヌ「行くよ！」

マリオ「おらららららら！！」

ルイージ「あたたたたたたた！！」

ジャンヌ「このこのこの！！」

８人が下で攻撃する中、モノクロノアシの周りではレーティアが鞭を振るい、冥王が槍で突きまくり、ヨッシーがバタ足キックで攻撃して、オリマーも張り付く様に捕まって片手でパンチしまくる。

ジタバタしていたモノクロノアシだったがいずれビクン！と震えた後にその体を爆発させる。

その後にサークルチェッカーが落ちて来る。

銀時「よっしゃあ！」

ネプテューヌ「それじゃあこれをもって帰ろうね」

そう言って今までゲットしたのを持って帰ったのであった。

～モノクロの羽～

価値：１００円

見た目：白い羽

イーバメモ：普通の羽だね。どう言う風に使うんだろうね

ドルフィンメモ：ただ白黒の羽。これで鼻をくすぐられたらたまらないでしょうね。私には鼻はないけど

～キッキングボール～

価値：１２００円

見た目：サッカーボール

イーバメモ：デカイボールだね。強く蹴ったら強そうだと思わないかい？

ドルフィンメモ：キックで飛ばすボールです！このボールに色んな物を込めてやるとスッキリするでしょう！

～サークルチェッカー～

価値：９００円

見た目：コンパス

イーバメモ：何かを計るための道具かね？円は書ける様だけど

ドルフィンメモ：円を書きたい時に便利な道具！これできっちりな円が書けますよ！

スネーク「と言う訳で真王とのコラボだな」

ワリオ「白黒な星を冒険したな」

クッパ「次は何が待っているのやら…」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　銀の侍と４人の女神　―　第別訓パート１５

スネーク「真王とのコラボ第１５弾！」

フォックス「今度は重力が変わる星か…」

ネス「どうなるのやら～」

～ピコピコ重力ギャラクシー～

『変わる重力の中での宝探し』

イーバ「ちょっとすまないけどまた手伝ってくれないかい？」

モノクロワールドギャラクシーから戻ってやって来た明久とムッツリーニが持って来た飲み物で休憩しようとするマリオ達にイーバがそう言う。

イーバ「次のギャラクシー何だがちょっと厄介な場所でね。一定時間立つと重力地点が変わるらしいんさ。あいつらだけじゃ不安だから手伝ってくれないかい？」

マリオ「良いぞ」

と言う訳で今度はヴィヴィオと遊ぶ冥王とヨッシーを抜き、桂とエリザベス、明久とムッツリーニを追加したメンバーで向かう。

ピコピコ重力ギャラクシー

（ＩＢＧＭあべこべ引力ギャラクシーｂｙスーパーマリオギャラクシー２）

新八「此処が次のギャラクシーですか？」

神楽「変わった特徴がなさそうな場所アルな…」

明久「確かにそうですね…」

ネプテューヌ「何があるのかな～」

新八と神楽、明久が周りを今いる星の感想を言い、ネプテューヌはお宝がどう言うのかにワクワクする。

マリオ「油断するなよ一定時間立つと重力地点が変わるそうだ」

そう言った瞬間、マリオ達は上へ向かう。

銀時「確かに…重力の向きが変わってるな」

桂「慣れないものだな」

エリザベス『早く行きましょう』

着地した銀時が言った後に桂がそう言い、エリザベスはそう言う。

この後、マリオ達と銀時達は進んで行くが途中で重力が変わってトラブルもあったりした。

ムッツリーニ「……！（ブバッ！）」

明久「ムッツリーニィィィィィィ！！」

ビビ「ちょっと止めてよ！」

ムッツリーニがある物を見て鼻血を噴き出してビビにかかりそうになったり…

マリオ「重い……」

レーティア「それ、失礼じゃない？」

ジャンヌ「そうだよ！」

新八「いや、誰だって複数に乗られたらそう思いますよ；」

オリマー「そうだね；」

マリオの上に銀時達が落ちたり…

桂「ぎゃあぁぁぁぁぁぁぁ！！」

エリザベス『桂さぁぁぁぁん！！』

ソニック「ソーリー；」

桂が落ちた所でソニックに踏まれたりなどあったが途中で『癒しのエンブレム』を見つけ…

ビビ「こっ、此処で最後ね」

ネプテューヌ「疲れたね」

ルイージ「お宝も見つかったね」

はあはあと肩を上下させるビビにネプテューヌは座り込み、ルイージが『クリスタルモドキ』を見て言う。

新八「それにしても…めっちゃ疲れましたね；」

銀時「こう言うの簡便して欲しいよな；」

ムッツリーニ「……まったくだ」

座り込む新八に壁に背を預けて言う銀時に鼻にティッシュを積めたムッツリーニがそう言う。

その後、調べ終えた後に星船に戻る銀時達であった。

～癒しのエンブレム～

価値：２００円

見た目：瓶のふた

イーバメモ：変わったお宝だね。絵を見ると癒されそうな感じがするね。

ドルフィンメモ：仕事や色んな事に疲れた人向け！描かれた絵を見て癒されましょう

～クリスタルモドキ～

価値：１５００円

見た目：ガラスの球

イーバメモ：不思議な球だね。クリスタルの様だけど違うね。

ドルフィンメモ：クリスタル？いいえ、モドキなのです。誰かを驚かしたい人はこれで驚かせて見ましょう。

フォックス「と言う訳で真王とのコラボでした！」

スネーク「なんと！今回の話で５０話になったぞ！」

ネス「いや～書いたねえ～」

リュカ「感想を待ってます♪」

『リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ』～攘夷戦争鎮魂歌～　－　第別訓：冥王ＶＳ

スネーク「今回は黒神が書いてる『『リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ』～攘夷戦争鎮魂歌～』よりゲストを呼ぶぞ！」

明久「タイトル通りね…」

ムッツリーニ「……始まり始まり…」

とある会場、その中心にマリオが変身した仮面ライダーゼロが立っていて、カードを装填する。

ゼロブレスレッド「サモンライド！黒神！！」

その音声と共に『『リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ』～攘夷戦争鎮魂歌～』の主人公の銀時とあちらのスバル、ティアナが召喚される。

銀時「えっ！？ここどこ！？」

スバル「いきなりなんですか？」

ティアナ「と言うか会場？」

ゼロ「ウェルカム！大乱闘スマッシュハーツブラザーズ出張版の世界へ」

驚いて周りを見る銀時とスバルにティアナ、そんな彼等にゼロが話しかける。

銀時「あんたは鳴神　ソラの所のマリオか！？」

ゼロ↓マリオ「ＹＥＳ！感想以外で初めましてだな！」

スバル「あっ、はい…それにしても…何で私達を？」

？？？「それはあなたと勝負したいからなの！！」

ティアナ「誰！？」

銀時の問いにマリオは変身を解いて言い、スバルは自分達を召喚したかに質問をし、いきなりの声にティアナはした方を見る。

そこには…冥王が立っていた。

ティアナ「なのは…さんじゃないわね…一部分がデカイし」

銀時「ラフな格好もな…」

スバル「誰ですか？」

冥王にティアナは最初なのはと間違えかけたが別人と出張する部分を見て言い、銀時は冥王の服装を見て呟き、スバルが聞く。

冥王「私は冥王なの♪スバルと戦いたくって呼んだの♪」

銀時「マジかよぉぉぉぉぉぉ！！？」

ティアナ「冥王！？何時もなのはさんをマリオさんが冥王って言ってるけど本人！？」

マリオ「最近になって加わったんだよ…それで本人がスバルと戦いたくって、作者が黒神から許可を貰い、こちらに召喚したんだよ」

スバル「成る程…」

冥王「受けてくれるの？」

名乗った冥王に銀時とティアナは驚き、マリオが呼んだ理由を説明し、スバルが納得した所に冥王が聞く。

スバル「……分かりました。受けて立ちます」

冥王「その言葉を待っていたの♪」

冥王を見て言うスバルに冥王は笑って言う。

銀時とティアナは舞台から観客席に移動する。

明久「あっ、初めまして、銀さんとティアナさんですね…僕、吉井明久って言います」

ティアナ「あっ、こちらこそ」

銀時「俺達の事知ってるんだな」

観客席にいた明久に挨拶され、ティアナは頭を下げ、銀時は言う。

明久「はい、僕の世界だと2人ともね」

銀時「えっ？そうなの？」

明久の言葉の意味に銀時は一瞬で理解して聞く。

明久は頷いてそうですと答える。

舞台でスバルと冥王が距離を取る。

そしてスバルは自分のデバイスを握って言う。

スバル「ティルヴィングエア、ペンドラゴブレイド、セットオン！！」

そう言うとスバルは蒼い光に包まれる。

そして、スバルの衣装はバリアジャケットになった。

させ、軽く黒神さんの所のスバルのバリアジャケットの外見について説明するがいつもの鉢巻はかけておらず、背中の肌が見える背中ぱっくりの蒼いコートに赤いネクタイをかけていて胸の部分は黒くて、背中の部分は肌が見えるエロかわいくてセクシーな蒼い軍服衣装（ミニスカ＋ニーソックス＋背中ぱっくり）……そう、これは『●レイブルー』の『●ン・キサラギ』のコートと『●エル・ヴァーミリオン』の衣装のコスプレと思わせる物になっている。

明久「何か色々とツッコミ所がある凄いバリアジャケットなんですけどぉぉぉぉぉぉぉぉぉ！！！？」

ムッツリーニ「……変わり過ぎにも程がある」

ティアナ「ですよね…」

銀時「ホントな…」

明久がツッコミ叫び、ムッツリーニが言うとティアナと銀時は同情の目でスバルを見る。

冥王「ふふふ、それがスバルのバリアジャケットなの、だったら私もホントのバリアジャケットを見せてあげるの！作者が黒神へのメッセージに私の設定に入れるのを忘れて送った武器でのを！」

明久「えっ！？あれが何時ものじゃないの！？」

ムッツリーニ「……メタな発言をするな」

ルイージ「けど、ホントのバリアジャケットって…」

冥王の言った事に明久は驚き、ムッツリーニが冥王にツッコミ、ルイージが首を傾げる。

冥王は結んでいた髪を下ろし、槍を取り出すと先を天へ向ける。

冥王「さあ、目覚めるの！私の初めての相棒！『レイジングジャベリン・バースト』、セットオン！！」

そう言うと冥王は赤い光に包まれる。

そして、ラフだった冥王の姿はバリアジャケットに変わった。

上は『●ッドイーター・バースト』の『橘●クヤ』の上部分で下は同じ『●ッドイーター・バースト』の『ワイ●ドガーネット』を着た感じのバリアジャケットになった。

明久「あっちも負けない位コスプレなバリアジャケットだったぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！」

銀時「おいいいいいいいいい！！何スバルに負けない格好をしてるのおおおおおおおお！！」

ティアナ「誰よ考えたの！！？」

それに明久と銀時は叫び、ティアナが叫んで聞く。

冥王「勿論私なの！あんまり多く着てても動きが遅くなるだけなの、こう言うのは機能重視なの！」

ティアナの問いに冥王は答えた後に鮮やかな紅色に染まったジャベリンとなったレイジングジャベリン・バーストを振る。

あっけに取られたスバルだったが引き締め、ティルヴィングエアとペンドラゴブレイドを構える。

スバル「まさか武器状態が待機形態のデバイスだったんですね」

冥王「これで驚いたら駄目なの、色んな世界に私の持つデバイスの様なデバイスを持つ人だっているの」

スバル「成る程…」

そう言うと2人は己の武器を構えて…

ガキン！！

ぶつかり合った。

スバル「蒼波一閃（そうはいっせん）！！」

ティルヴィングエアの刀身が蒼く光だし、そこから蒼い斬撃を神速に飛ばす。

冥王「なの！」

飛んで来た斬撃を冥王はレイジングジャベリンで振って防ぐ。

スバル「蒼波二閃（そうはにせん）！！」

防がれたスバルは今度は蒼波一閃（そうはいっせん）を2発放つ蒼波二閃で攻撃する。

冥王「なのなの！」

2つの斬撃に冥王はレイジングジャベリンを前方で回転させて防ぐ。

スバル「（凄い、この攻撃を防ぐなんて…）」

冥王「今度は私の番なの！二双魔神斬り（にそうまじんぎり）！！」

そう言うとレイジングジャベリンを早く振ると紅い×の字の斬撃が飛ぶ。

スバル「蒼波二閃（そうはにせん）！！」

スバルは蒼波二閃（そうはにせん）で冥王の攻撃を防ぐとカートリッジを1つ使用して冥王に接近する。

冥王「なの！？」

スバル「蒼風一閃(そうふういっせん)!!」

冥王が驚いてる間にスバルは蒼風一閃(そうふういっせん)を放つ。

冥王はレイジングジャベリンで防ぐと後ろへ吹き飛ぶ。

冥王「ふう…なかなかやるの」

スバル「あなたこそ、防ぐと同時に後ろに飛んで威力を軽減しましたよね？」

着地して手を振る冥王にスバルは消費した1発分のカートリッジを入れながら聞く。

それに冥王はおお～と関心した声を出す。

冥王「分かるんだ。あれは喰らってたらきつかったなの…今度はこっちの番なの！」

そう言うと冥王はスバルに接近して魔力とは違う力を纏わせる。

冥王「月紅斬(げっこうざん)!!」

スバル「！」

冥王の斬撃にスバルはペンドラゴブレイドで防いで冥王がやった様に後ろに着地する。

ティアナ「今の何？魔力じゃなかったわよ…」

明久「気だよ、魔力とはまた違う力」

銀時「覇気とはまた違うのか？」

ムッツリーニ「……似てはいるがまた違う…こっちも良く分からないが」

ルイージ「けれどそれを引いて…2人共…互角だ」

ティアナが首を傾げ、明久が簡単に説明し、銀時は前出会った別世界のスバルを思い出しながら聞き、ムッツリーニがそう言い、ルイージが冥王とスバルを見て言う。

冥王「それじゃあお互いに技を見せたし…ガチのぶつかり合いをしようか！」

スバル「はい！！」

そう言う会話をすると2人の姿が消え、一瞬だがわずかに見える刃と刃のぶつかり合いによる火花、紅と青の斬撃が出ては消える。

ティアナ「凄い…スバルがフェイトさんと模擬戦した時みたい…」

銀時「いや…あの時以上に速いぞあの2人！」

ルイージ「ホントに凄いよ冥王とスバルちゃん…」

ティアナは前見た時のを思い出しての驚きから呟き、銀時が否定してそう言い、ルイージが呆れ混じりの感嘆の声を上げる。

再び出た時は大技で決める様であった。

スバルは１１発もカートリッジを使用すると『ティルヴィングエマ』の刀身がさらに蒼く光りだし、宝玉から魔力が大量に溢れでて、それが螺旋を描くかのように刀身を包み、超高速回転をする。本来ならスバルが使うこの技のカートリッジは7発だが相手が冥王だから全力で迎え撃つ為にであろう。

冥王の方は目を閉じ集中するとレイジングジャベリンが気でさらに紅く染まり、中央に矢の様なのが出来る。そして冥王は縦に水平に構えるとレイジングジャベリンの中心の矢の様な光を引っ張り、弓矢を放つ様な体勢を取り、かっと目を開いて目の前のスバルを睨む様に見る。

スバル「受けて見て下さい！私の全力を！」

冥王「こっちも受けて見るの！私の全力突破を！」

お互いにそう言うと…

スバルは最大限に溜められた魔力を収束したティルヴィングエアを突き出す。

冥王は持っていた矢が大きくなった瞬間に紅く輝いた矢をレイジングジャベリンから放つ。

スバル「エア・アルテマ・ギガブレイカー！！」

冥王「全力突破！レイジング・ブレイカー！！」

スバルから巨大な螺旋に渦巻く蒼い閃光が放たれ、冥王から紅く燃え上がる様な矢が放たれる。

放たれた攻撃はお互いに中央でぶつかり合う。

銀時「ぐっ！」

明久「なんてパワーだ！」

それに観客席にいた銀時と明久は来る衝撃に踏ん張りながら耐える。

そして…

ドカーーーーーーーーン！！

ティアナ「スバル！」

明久「！」

爆風が起こり、２人のいる所に煙が立ち込める。

それにティアナは叫び、明久は身を乗り出し、銀時とムッツリーニ、ルイージは黙って見る。

そして…

スバル「引き分けですね…」

冥王「そうみたいなの…」

お互いに首元にティルヴィングエアとレイジングジャベリンを寸止めで止めて、言う。

マリオ「うんうん、凄かったな」

銀時&ルイージ「（と言うか、良く無事だったな…）」

2人の近くで頷く無傷のマリオに銀時とルイージはツッコミを入れる。

数分後

冥王「いや～戦えて良かったの～」

スバル「私も、冥王さんと戦えて良かったです」

ティアナ「ホント凄いぶつかり合いよ…」

銀時「マジでなのはと違うのが分かったな…」

お互いに握手しあう冥王とスバルにティアナは呆れ混じりの感嘆の声を出し、銀時は冥王の動きにうんうんと頷いていた。

冥王「それじゃあバイバイなの～」

スバル「はい！またやりましょうね！」

冥王が手を振り、スバルはゼロが出した壁を銀時とティアナと共に越えて自分の世界へ帰った。

と言う訳で黒神さん！いかがでしょうか？

ルイージ「と言うか作者：」

言うな！マジ言うな：

フォックス「明日の朝に黒神の方に今回の冥王の奴を送るから：」

ネス「感想を待ってます♪」

父が魔王で息子が勇者で！？　番外編（前書き）

ルイージ「今回はｓｉｂｕｇａｋｉさんとのコラボ第２弾！」

スネーク「しかもこの小説初のオリジナル小説とのコラボだ！」

フォックス「どうなるのやら」

父が魔王で息子が勇者で！？　番外編

これは…魔王（父）とピッケルがまだ森を彷徨っている時の話…（簡単に言うならあちら側のその３０での空白の６日の間のお話）

森を抜けようと歩く魔王（父）とピッケル、４日目の時に２人はある２人と出会う。

「父さん…何時森を抜けれるのさ…」

前を楽しそうに歩いている魔王（父）にピッケルは疲れた表情で聞く。

「歩き続けていればその内だ！」

「その内はホントに何時なのさぁぁぁぁぁぁ！！！」

魔王（父）の言葉にピッケルのツッコミは木霊した。

安心するんだピッケル君！ちゃんと出れるから……二日後に…

「安心出来るかぁぁぁぁぁぁ！！」

「こらこら今回は書いてるの別の人だから当たらない」

最後の一言にツッコミを入れるピッケルに魔王（父）はメタな発言をしながら宥めて…

「ん？」

「どうしたのさ父さん？」

魔王（父）が前方を見て何かに気づき、疲れた表情をしたピッケルが聞き、魔王（父）が見てる先を見ると…

冷や汗を流す緑服の人、そして、なぜか目立つ様に…火の玉をお手玉してる赤服の人がいた。

「何こんな所で火の玉をお手玉してるのぉぉぉぉぉぉぉ！！？」
「ホントだよね、兄さん、いきなり過ぎるよ；」
「いや～ルイージ、暇だったからつい」
「暇で森が燃えそうな事をするなぁぁぁぁぁぁ！！」
「ははは！面白い人だな！」
「その一言で済ませないでよぉぉぉぉぉ！！！！」

もう読者の皆様は分かっているだろうが、赤服の男、マリオにピッケルは本日3回目のツッコミを入れ、緑服の人、ルイージが冷や汗流しながらそう言い、マリオは火の玉を仕舞いながらそう言い、ピッケルは4回目のツッコミをいれ、そんなマリオに笑う父（魔王）に5回目のツッコミが入る。

「…苦労してるんだね；」
「はい、ホントにめっちゃ苦労してます；」

冷や汗を流すルイージにピッケルは涙を流して言う。

そんな2人を置いといて…

「「置いとかないでぇぇぇぇ！！」」

…ホントに置いといて、マリオと父（魔王）は目が合い…

「（戦いをするか？）」
「（良いですとも！）」

目で話し合った後に2人はお互いの手をぶつけ合う。

「「いきなり過ぎるんですけどぉぉぉぉぉ！！」」

いきなり戦いあう2人にルイージとピッケルはツッコミを入れるが2人は気にせずに戦いあう。

「……何か食べる？」
「喜んで；」

戦いあう2人を見ながらルイージは聞き、ピッケルは泣きながら答える。

「であぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！」
「あたたたたたたたたた！！」

その間にマリオと魔王（父）はぶつかり合いながら駆ける。

パンチしあったり、キックしたり、でこピンしあったり、将棋したり、囲碁をしたり、キックしたり、パンチしたり、でこピンしあったり…

「「待った！途中で違うの混ざってる！！」」

いや、おふざけ入るからこんな感じかなと；

「「いや、それでもふざけ過ぎでしょ！」」

ツッコミ2人からツッコミを受けてる間も2人の戦いは続く。

「大変だねピッケル君;」

「そちらこそ;」

戦いあう2人を見ながらルイージはそう言い、ルイージに渡されたおむすびを食べた後に水を飲んでピッケルがそう言う。

「「ぐふっ!!」」

そして、戦いあっていた2人の勝負は終わった…引き分けで…

「「クロスカウンター…」」

クロスカウンターした2人にルイージとピッケルはそう呟くとマリオと魔王（父）は倒れる。

数分後

「いや～なかなかやるね～」

「あんたもな」

「「いやいや!何で普通に体力全快に回復してるの!!?」」

けろりとして握手しあう魔王（父）とマリオにルイージとピッケルはツッコミを入れる。

「そんじゃあ、俺達は帰るか」

「もう帰るのかい?」

「ああ、行くぞルイージ」

「うん…ピッケル君、強く生きてね；」
「はい；」

土管を出して言うマリオに魔王は聞き、マリオは頷いた後にルイージに声をかけ、ルイージはピッケルに激励をかけた後にマリオの後に土管に入る。

「それじゃあ！行こうか！」
「うん…早く出たいよ…」

見届けた後、歩き出す魔王（父）にピッケルは肩をすくめた後に続く。

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

蛇八「させ、今回も行くか」

銀八「ああ、ペンネーム『真王』さんから『真王「同時に投降だと？やるな」

シャル「作者なんか違う」

真王「そうかい？質問ですが『ムッツリーニさんは何見てああなっ

た?』『マリオさんは食べれない食べ物はありますか?』の2本です。ではリクエスト!」』…と言う訳で言われた2人、答えなさい!」

ムッツリーニ「……重力変わる時に下着が見えた…」↑思い出し鼻血

マリオ「大丈夫か康太…特にないな…」

蛇八「と言う訳で『真王』、リクエストしてくれるのは嬉しいがなるべく1つでお願いするぞ」

銀八「今回は此処まで!」

父が魔王で息子が勇者で！？　番外編（後書き）

ｓｉｂｕｇａｋｉさんとのコラボでした！ｓｉｂｕｇａｋｉさんどうでしょうか？

マリオ「いや～面白い奴だった」

ルイージ「ピッケル君、ホント頑張れだよ；」

ネス「感想を待っています♪」

ＩＳ＆Ｉｔ；インフィニット・ストラトス＆ｇｔ；黒き牙と永遠の月　翼を持つ者

フォックス「と言う訳でユートピアとのコラボだ！」

１つ！マリオ達は終に似た顔の者達がなぜ出るのかを探りに捜索に出る！

２つ！マリオ達の前に現れた異形の怪物、そいつを倒すとまたも別の人物の顔であった。

そして３つ！終達の方では終がかつての相棒、零の姿を見つけ、追いかけてしまう！

スネーク「何でいきなりオーズの前置き；」

一夏「おい、終はいたか？」

箒「駄目だ、見つからない」

楯無「終君、どこに行ったんだろう？」

散らばって終を探していた一夏達は合流し、終について聞くが箒は首を振り、他のメンバーも同じで、楯無が不安そうに呟く。

マリオ「ルイージ！皆！」

そこに別の方で探していた楓達が来て、マリオが一夏達に声をかける。

ルイージ「兄さん！」

一夏「どうしたんですか？」

リュウタロス「さっきね！山田って人から連絡が来てさ！」

キンタロス「学園が大量の終やさっき戦った怪物に襲われとるちゅう連絡が来たんや！」

楓「今は織斑先生や明久君に冥王さんや椛さん達が防衛してるけど…すぐに来てくださいって言ってました！」

楓側のグループの言葉に一夏達は驚く。

ウヴァ「アンク！」

アンク「分かっている！変身！」

オーズドライバーA「タカ！クジャク！コンドル！…タージャードル～♪」

アンクがオーズ・タジャドルコンボに変身する隣で黒狼は自分のオーズドライバーに恐竜系メダルを装填する。

黒狼「変身！」

オーズドライバー「プテラ！　トリケラ！　ティラノ！　プットティラノ～ザウル～ス！」

黒巣「全員集合！んでもって変身！！」

デンオウベルト「ハイパークライマックスフォーム！」

黒巣はオーズ・プトティラコンボになり、黒巣は電王・ハイパークライマックスフォームになると3人して飛び上がる。

それに一夏達もＩＳを展開して続く。

マリオ&ルイージ「ＫＡＭＥＮＲＩＤＥ！」

ゼロバックル&コスモスバックル「ライダーアップ」

マリオとルイージもゼロとコスモスに変身すると飛べないグリード

達を2人ずつ掴んで向かう。

ネオス「なんて数だ！」

椛「口を動かす暇があるなら手を動かしなさい！」

デスティニー「この！」

ブリッツ「ござっ！」

龍騎「よっ！」

ヘビーアームズ「！」

ウイング「狙い撃つ！」

デスサイズ「おりゃあ！」

冥王「ディバイーーンバズーカ！！」

千冬「はっ！」

大量の集団にネオスは倒しながら呻いて切り裂いた椛がそう言い、デスティニーがアロンダイトで切り裂き、ブリッツが後ろから攻撃して、龍騎、ヘビーアームズ、ウイング、冥王が遠距離攻撃で大半を打ち落とし、デスサイズと打鉄を纏った千冬が切り裂いて行く。

電王ＨＦ「でりゃあ！！」

オーズＴＣ「ふん！」

オーズＰＣ「はっ！」

そこに電王ＨＦとオーズＴＣとオーズＰＣが来て加わり…

一夏「千冬姉ぇぇぇぇぇ！！」

そこに一夏達が合流し、それぞれ自分のメダルのコンボで変身したグリード４人を抱えたゼロとコスモスも来る。

千冬「遅いぞ」

セシリア「状況は？」

椛「数が沢山いて厄介なのよ…倒してもきりがない！」

シャル「そうなんだ…」

来た一夏達に千冬はそう言い、セシリアが聞くと椛がそう言い、シャルは飛んで来る集団を見てそう言う。

ゼロ「おっ？」

戦っていたゼロは突然、目の前にカードが現れた事に驚く。

そしてゼロはそのカードを見た後に千冬に言う。

ゼロ「千冬！あんたの新しい力だ！」

ゼロブレスレッド「ＩＳライド！白桜（しろざくら）！！」

千冬「なっ！？」

その音声と千冬が装着していた打鉄が消え、代わりに新たなＩＳが装着される。

一夏の白式と同じ形だが音声の通り、白い桜に思わせる桜色となっている。

千冬「こっ、これは！？」

ゼロ「あんたのＩＳだ。いきなり出て来たから性能は分かんないけどな」

千冬「いや、理解はした。どうやら白式と変わんない武装だからな」

ゼロがそう言うと驚いていた千冬はすぐに顔を引き締めた後に雪片弐型で来た敵を攻撃する。

楯無「それにしても…終君はどこに…」

楯無が蒼流旋で攻撃しながら終の事を呟いた時…

ネクサス「！」

終「っ」

終を抱き抱えたネクサスが現れた。

ネクサスに抱き抱えられた終は腕を押さえていた。

楯無「終君！」

ゼロ「ネクサス！やはり、頼んでおいて正解だったか…」

千冬「正解とは？」

傷付いた終に楯無は駆け寄り、ゼロは倒しながらそう言う。

ゼロ「奴等の親玉の狙いは終と思ってな…終に何かあった時の為にネクサスに終を見ていてくれと頼んでおいたんだ」

ネクサス「……師父、あれを」

千冬の疑問にゼロが答えると、ネクサスが飛んで来た方を見る。

そこには翼を生やした少年がいた。

その少年を全員が見ると、楓側のグループだったメンバーは驚く。

電王ＨＦ「あの顔！」

ウラタロス『あの怪物と同じ顔！？』

ラウラ「誰だあいつは？」

終「あいつは零…俺の嘗ての相棒だ…」

一夏「零…」

代表で電王ＨＦとウラタロスが声を出し、ラウラが呟くと終がその人物の名前を言い、一夏が呟く。

零「君よ、飛び立つのか？　我等を憎む世界へと　待ち受けるのはただ過酷な明日　逆巻く風のみだとしても。お前はそっちで生きていけるか？　ゼロ」

全員が見る中、零が何か詩の様な事を言うと同時に終へ向けてそう問う。

ＩＳ＆Ｉｔ；インフィニット・ストラトス＆ｇｔ；黒き牙と永遠の月　翼を持つ者

スネーク「と言う訳でユートピアとのコラボだ！」

フォックス「最後がリクエストされたので違ったり、千冬がオリジナルのＩＳを纏ったりだったな；」

ネス「感想を待ってます♪」

リュカ「大丈夫かな；」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　銀の侍と４人の女神　―　第別訓パート１６

スネーク「真王とのコラボ第１６弾だ！」

フォックス「古代遺跡か…」

ワリオ「どんなお宝が出るのやら…」

～古代の遺跡ギャラクシー～

『遺跡を守る者』

マリオ「おっ、今度も来たぞ」

ルイージ「そうなの？」

ルイージが聞くとマリオは手紙を見せる

イーバ『今回もお願いするけども実はある遺跡にお宝が眠ってるんだがそこにトラップと凶暴な守護獣がいるんだよ。なんでもそのお宝を守る番人もいるらしくて、手伝ってくれないかい？』

マリオ「行くか」

ルイージ「だね」

と言う訳でマリオ達は冥王とヨッシー、明久とムッツリーニ、オリマーと共に銀時達の下へ向かい、合流した後にネプテューヌ、グレイ、ビビ、レーティア、ジャンヌ、シャル、ギルシアと共にそのギャラクシーへ向かう

古代の遺跡ギャラクシー

（ＩＢＧＭこだいの遺跡ギャラクシーｂｙスーパーマリオギャラクシー２）

早速ギャラクシーへ着いたマリオと銀時達だったが…

銀時「何でいきなり大岩に追いかけられなきゃあ行けないんだよぉおぉおぉおぉ！！」

グレイ「叫んでる暇があるなら走れ！！」

ネプテューヌ「そうだよ銀さん！」

迫る大岩に銀時は叫び、グレイとネプテューヌがそう言う。

冥王「皆伏せるの！スターライトバスターぁぁぁぁぁぁぁ！！」

冥王がそう言ってストライクス・ハートを構えると砲撃を放ち、大岩を破壊する。

シャル「すごっ…」

ギルシア「これが冥王の…凄いな」

グレイ「ホント規則外だな…」

明久「もう1つのバリアジャケットもね…」

ビビ「えっ？どう言う事？もう1つのバリアジャケットって？」

冥王の砲撃に初めて見るシャルとギルシアは驚き、グレイが呆れた顔をする隣で明久も呆れた顔でそう言い、ビビがそう聞く。

ムッツリーニ「……見たら驚く…」

ジャンヌ「見たら驚くって？」

レーティア「どう言う事？」

ルイージ「ホントに見たら分かるよ」

明久「と言う訳でお願いします」

ムッツリーニの言葉にジャンヌとレーティアは首を傾げ、ルイージがそう言うと明久が冥王に言う。

冥王「しょうがないな…」

冥王は肩を竦めてやれやれとした後に髪を下ろし、待機状態のレイジングジャベリンを取り出す。

ビビ「何で髪を下ろすの？」

ジャンヌ「何で槍を出すの？」

冥王「見れば分かるの！レイジングジャベリン・バースト、セットオン！！」

首を傾げるビビとジャンヌにそう言うと冥王は赤い光に包まれる。

そして、ラフだった冥王の姿はバリアジャケットに変わった。

上は『●ッドイーター・バースト』の『橘●クヤ』の上部分で下は

同じ『●ッドイーター・バースト』の『ワイ●ドガーネット』を着た感じのバリアジャケットになった。

そして冥王は鮮やかな紅色に染まったジャベリンとなったレイジングジャベリン・バーストを振る。

ビビ「えぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！？」

ジャンヌ「嘘っ！？」

レーティア「これは…」

銀時「コスプレかよぉぉぉぉぉぉ！！！」

ギルシア「槍が待機形態とは…」

グレイ「変わってるな」

ネプテューヌ「それより、何でそんなバリアジャケット？」

ビビ、ジャンヌ、レーティア、銀時はそれに驚き、ギルシアとグレイはデバイスの形態に驚き、ネプテューヌがそう聞く。

冥王「あんまり多く着てても動きが遅くなるだけなの、こう言うのは機能重視なの！」

銀時「はあ…そうですか…」

マリオ「お～い、お宝見つけたぞ」

オリマー「中にあった様だよ」

冥王の言葉にそう言う銀時にオリマーと共に大岩の残骸を調べていたマリオが『グリーンストーン』を見せる。

その後、進んで行き、壁から矢が出たり、落とし穴があったりもあったがネオスに変身した明久やネクサスに変身したムッツリーニにシャルやギルシアが活躍してそれを避け、途中で『ドンドンハニワ』を手に入れた。

銀時「此処で最後か…何か出そうだな…」

オリマー「それは当たりだね」

広場に着いて銀時がそう言うとオリマーが上を見て言う。

すると…上からエンシェントガーディアン、エンシェントゴーレム（全長１０メートルある）が落ちて来た。

マリオ「この遺跡の守る者か…」

ネオス「一体は僕のスターダストに任せて！」

ネオスバイザー「アドベント」

ネオスはそう言うとスターダスト・ドラゴンを呼び出す。

ネオス「スターダスト！１体の相手は任せるよ！」

そう指示するとスターダスト・ドラゴンはエンシェントゴーレムと

組み合う。

銀時「んじゃあやるか！」

ゼロ「ああ」

銀時の隣でゼロに何時の間にか変身したゼロがカードを装填しながらそう言う。

ゼロブレスレッド「フォームライド！シルバーブレイド・バージョン2！」

その音声と共に銀時はバリアジャケットを纏う。

銀時「おいいいいいい！！何勝手に起動させてんの！？しかも何でお前がそのカード持ってるの！？」

ゼロ「いや、あったから使って見ようと…」

銀時「使うなよ！！ホント恥ずかしいんだよ！！」

シャル「変わったバリアジャケットね」

ギルシア「だが…強い力を感じるな…」

ゼロを掴んでブンブンする銀時にゼロはそう言い、銀時はさらに早く振る。

シャルは呆れた顔をし、ギルシアはバリアジャケットを見てそう言う。

ルイージ「兄さん来たよ！！」

銀時「しゃあねえ！行ってやらぁぁぁ！！」

ゼロ「ああ！」

エンシェントガーディアンが攻撃して来るのをルイージが言い、銀時とゼロは攻撃を避けると胸にX字に斬る。

ネクサス「行かして貰う」

それにネクサスがそう言うと赤く光り、ネクサスはウルトラマンネクサス・ジュネッスの肩と足に仮面ライダーオーズ・サゴーゾコンボの鎧を纏い、胸に仮面ライダーＢＬＡＣＫの鎧を纏った感じで胸にコアゲージがある『仮面ライダーネクサス・ジュネッスフォーム』となり、凄まじい光のエネルギーを纏った後に高速ラッシュする『オーバーレイインパルス』を2人が攻撃したエンシェントガーディアンの胸に炸裂させる。

それを受けたエンシェントガーディアンは爆発する。

ネオス「良し！行くよスターダスト！」

ネオスバイザー「ユニゾンベント！」

冥王「それじゃあ私も！」

それにネオスはカードを装填するとスターダスト・ドラゴンはエンシェントゴーレムを吹き飛ばした後に咆哮すると光の球となり、ネ

オスの鎧に吸い込まれると鎧が白銀に染まり、龍を模した感じに変わった『仮面ライダーネオススターダスト』に変わった。

ネオスSの両腕が青白く光り、冥王は目を閉じ集中するとレイジングジャベリンが気でさらに紅く染まり、中央に矢の様なのが出来る。そして冥王は縦に水平に構えるとレイジングジャベリンの中心の矢の様な光を引っ張り、弓矢を放つ様な体勢を取り、かっと目を開く。

ネオスS「マグネシウムソニック!!」

冥王「全力突破!レイジング・ブレイカー!!」

ネオスが技名を叫んで十字組んで青い光線を放ち、冥王は持っていた矢が大きくなった瞬間に紅く輝いた矢をレイジングジャベリンから放つ。

2つの光りはエンシェントゴーレムを貫くとそのまま後ろの壁を破壊する。

エンシェントゴーレムは胸にぽっかり穴を開けて爆発した。

銀時「やり過ぎ感がたっぷり出るな…」

グレイ&ギルシア「確かに」

銀時は地面から出て来た『古代の壷』を見た後に冥王とネオスSが開けた穴を見て呟くとグレイとギルシアは同意する。

その後、全員は星船へ戻った。

～グリーンストーン～

価値：２０００円

見た目：エメラルド

イーバメモ：綺麗な緑色の石だね。これの入った大岩を破壊した冥王って奴は凄いね

ドルフィンメモ：誰かにプレゼントしたい人向け！この輝きは良いですよ！

～ドンドンハニワ～

価値：３００円

見た目：赤いハニワ（どうぶつの森仕様）

イーバメモ：変わったハニワだね。動くし音も出すのは凄いね

ドルフィンメモ：騒ぎたい人にはお勧めの一品！ですが、寝る時も動くので注意ですね

～古代の壷～

価値：３０００円

見た目：縄文土器

イーバメモ：古い壷だね。歴史を感じさせるよ。けれど…明久と冥王はやり過ぎ注意だよ。ぽっかり穴を開けるのはね…

ドルフィンメモ：古代よりありし壷です！骨董品に趣味がある人には良いでしょう。

と言う訳で真王さんとのコラボでした！

スネーク「色んなトラップがあったギャラクシーだったな」

フォックス「ああ…」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　銀の侍と４人の女神　―　第別訓パート１７

スネーク「真王とのコラボ第１７弾だ！」

フォックス「幽霊船か…」

クッパ「ルイージの得意分野なのだ！」

ワリオ「幽霊退治での意味か？」

～テレサの幽霊船～

『幽霊船のお宝』

マリオ「あれは？」

古代の遺跡ギャラクシーのお宝を回収し終えたマリオと銀時達、そんな彼等の前に現れたのは…

銀時「おいおい勘弁してくれよ…。なんで宇宙に船があるんだ？しかもスッゲェへんな雰囲気あるし…。言っとくが決して怖いんじゃないぞ！ホントだからな！」

ヨッシー「分かってますよ」

オリマー「緊張してるんだね」

震えてる銀時にヨッシーとオリマーは温かい目で見る。

テレサの幽霊船

（ＩＢＧＭオバケの迷宮ギャラクシーｂｙスーパーマリオギャラクシー２）

今度はネプテューヌと冥王が来ないで新八、神楽、桂、エリザベス

を加えたメンバーで件の船へ来たのだが…

明久「あの…あんまり引っ付かないでください…」

ムッツリーニ「……怖いのなら戻った方が良い」

銀時「ばっ、ばっきゃろう！こっ、怖くねえよ、あれだ！震えない様にな…」

神楽「銀ちゃんが震えてるね」

明久の背中に隠れて震える銀時にムッツリーニはそう言い、銀時は震えながら言い、神楽がズビシと言う。

銀時「ばっ、バカ、これは武者震いだ」

そう言ってると…

テレサ「ばあぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！」

銀時「うぉぉぉぉぉぉぉぉ！！！」

テレサがいきなり現れて銀時は明久から飛び退る。

ルイージ「よっと」

そんなテレサをルイージがオバキュームで吸い込む。

新八「銀さん、もうルイージさんが退治しましたよ」

ギルシア「それよりタルに顔突っ込んで何してるんだ?」

銀時「ちょっとアトランティスの入り口を…」

明久「ないから!流石にないから!」

新八がタルに顔を突っ込んだ銀時に言い、ギルシアが聞くと銀時がそう返して明久がツッコミを入れる。

オリマー「おっ、お宝だが明かりの元となるのを手に入れたよ」

ヨッシー「これなら大丈夫ですね」

『明りの塔』を見つけたオリマーがそう言い、ヨッシーがそう言う。

明りの塔で前方を照らしながら進むマリオと銀時達…

桂「…通れぬ…」

エリザベス『邪魔してますね立派に…』

目の前の壁の入り口と思われる場所を塞ぐデブテレサに桂はそう言い、エリザベスが続けて言う。

ヨッシー「私の出番です!」

そう言うとヨッシーはデブテレサを舌で捕まえて食べてしまう。

シャル「すご…」

ヨッシー「ごっつあんです♪」

ビビ「良く食べれるわね…」

グレイ「そうだな…」

驚くシャルを尻目にヨッシーは口元を拭い、ビビとグレイが呆れ混じりの関心の声が口から漏れる。

レーティア「あっ、あれってお宝かしら？」

先に通ったレーティアがそう言って前を指すと通ったメンバーも見ると…

アトミックテレサの頭に『人面骨』があった。

銀時「さっきよりでかいんですけどぉぉぉぉぉぉぉ！！！！」

マリオ「こう言うのは攻撃あるのみだ！」

そう言うとマリオはファイアーボールで攻撃し、レーティアも鞭を振ってアトミックテレサを攻撃する。

命中すると怒ったアトミックテレサが突撃して来るが…

ルイージ「喰らえ！！」

オバキュームを構えたルイージが吸い込み始め、それに踏ん張るアトミックテレサだが…

ビビ「さっさと…」

神楽「入るアル！」

ジャンヌ「なさい！」

3人娘の蹴りによりオバキュームに吸い込まれ、『人面骨』は落ちる。

その後、テレサやデブテレサが出るが全員でルイージの方に飛ばしたり、ヨッシーに食べて貰って進んだ。

グレイ「そろそろ奥に近いんじゃなか？」

オリマー「そうだね…」

進んでいてグレイが前方を見て、オリマーがそう言うと広場へ出た。

すると…

キングテレサ「お前達か！俺様たちの船を暴れてる奴等は！」

王冠をかぶったキングテレサが現れた。

銀時「お宝を渡してくれたら俺達帰るからさ」

明久「銀さん；」

キングテレサ「誰がこれだけ荒らされてはいどうぞとお宝を渡すか！」

マリオ「まあ、正論だな」

ギルシア「確かに」

明久の後ろに隠れて言う銀時に明久は冷や汗を流し、キングテレサはそう言うとマリオとギルシアは頷く。

キングテレサ「行くぞ！！」

そう言うとキングテレサは周りの物を浮かばして銀時達を攻撃する。

ギルシア「フラグメント！パワー！！」

それを避けた後にギルシアが攻撃するが…

スカッ！

キングテレサが姿を消す。

キングテレサ「どこ狙ってるんだ？」

ギルシア「姿を消せるのか！？」

キングテレサ「そうだよ～ん。幽霊だから当然だ」

神楽「ホワタッ！！」

ビビ「この！」

再び姿を現したキングテレサにギルシアは驚き、キングテレサは笑いながらそう言い、来た神楽とビビの攻撃を避ける。

キングテレサ「無駄無駄！俺様に攻撃を当てるなんて不可能だよ～ん」

マリオ「それはどうかな？」

シャル「余所見注意よ」

ケラケラ笑うキングテレサにどこからかマリオとシャルの声が聞こえた後に…

キングテレサ「ぐぎゃあ！？」

キングテレサの頭がへこんだと思ったらキングテレサは地面に落ち、ルイージのオバキュームに吸い込まれる。

銀時「何々？何が起こったの？」

シャル「こう言う事よ」

銀時や他のメンバーが驚いてると、オバケマリオと左手に透明帽子を持って、右腕をハンマーに変えたシャルが現れる。

ルイージ「ああ！オバケキノコと透明帽子を使ったんだね！」

オバケマリオ「そう言う事だ」

シャル「便利ねえこれは…」

すぐさま気づいたルイージがそう言うとオバケマリオはそう言い、シャルはマリオに帽子を返しながらそう言う。

その後、『女神の名画』を持って帰ったのであった。

～明りの塔～

価値：８００円

見た目：ランタン

イーバメモ：明るい所を照らすのには良い物だね。しかもゆっくり見てるのも良いね

ドルフィンメモ：明るい所を照らしたい時や静かに見てて心を休めても良い一級品ですね。

～人面骨～

価値：１０００円

見た目：頭蓋骨

イーバメモ：人の顔をした骨だね。なかなかデカイ奴がいたもんだね。

ドルフィンメモ：どこかの星に住む巨人の骨でしょうか？色々と研究しないと分かりませんね。

～女神の名画～

価値：１００００円

見た目：モナリザの名画

イーバメモ：女性の絵だね。良く描けてると私は思うね

ドルフィンメモ：女神が描かれた名画ですね。この絵を見て拝んで見てはいかがでしょう？

と言う訳で真王さんとのコラボでした！

スネーク「銀時にはきついステージだったろうな」

フォックス「だな」

ネス「感想を待ってます♪」

魔界戦記ディスガイア　ＩＦ　義兄弟　～特別話～　プリニーストライキ（前書き）

スネーク「プリニーラハールのコラボ４回目だ！」

ルイージ「今度はね；」

フォックス「どうなるのやら…」

マリオ「それで…俺達を呼んだ理由は？」

突然、ラハールからの手紙にマリオはルイージに冥王とデスティニーとブリッツ、ソニック、テイルス、ナックルズ、シルバー、シャドウのメンバーと共に来たマリオはラハールを前に聞く。

ブリッツ「そう言えば…前来た時はプリニー殿達がいた筈なのに見えないでござるな？」

ルイージ「此処に案内したバールさん以外見えないけど…」

ラハール「そのプリニーでお前達を呼んだのだ…」

マリオ「どうしたんだ？」

ラハール「魔界中のプリニー共がストライキを起こしてバール以外のプリニーがプリニー界に行ってしまった！しかもプリニー共の目的は下克上と言っていた、プリニー共を止めるため手伝ってくれ！」

カイト「俺からも頼む！どさくさまぎれで爆弾盗んで行きやがった！しかも強力なのを！このままじゃ爆連発が使えない！」

レオン「ドイツカガエトナノスイーツトユビワヲヌスンデイキヤガッタ、サガシダシテヤツザキニシテヤル！」

アイリン「どいつだ・・・どいつがカイトの爆弾を奪ったー！見つけたらただじゃおかないわよー！」

デスティニー「おいいいいいい！！レオンが思いっきりカタゴトだぞ！後物騒にも程があるぞ！！」

ブリッツ「ストライキ起こすのは日ごろの扱いが悪いからではないでござるか；」

ルイージ「ああ～確かに、爆弾に使われてたしね…；」

シャドウ「早く行った方が良いだろうな…」

マリオ「そうだな…手伝うよ」

ラハール「助かる」

と言う訳でマリオ達は地球勇者とバール以外の全員と共にプリニー界へ

ゴードン「頑張るのだぞ！」

ジェニファー「私達はお手伝いしてるので」

そう言う言葉を背に…

～マリオ一行&ラハール一行移動中～

～プリニー界～

マリオ「此処がプリニー界…」

ブリッツ「綺麗でござるな～」

プリニー神「来たッスね！」

ソニック「Ｈｅｙ，誰だいあんたは？」

プリニー神「この世界の神ッス！！」

ラハール「お前を倒せば良いのだな！魔王玉！！」

デスティニー「いきなり攻撃した！！」

プリニー神「何の！」

ガキン！

ラハール「なっ！？」

フロン「戻って来ました！！」

マリオ「スーパーマント！」

戻って来た攻撃をマリオは別の方向へ飛ばす。

エトナ「ああ！あれ、アタシにレオンがくれた指輪！！」

シルバー「マジかよ！」

レオン「エトナヲマモルタメニ、ローゼンクイーンショウカイニツクッテモラッタユビワナンダ、ウマクコウゲキハトオラナイカモシ

レナイケド、ゼッタイウバイカエシテヤツザキニシテヤル！」

デスティニー「説明ありがたいけどカタゴトで分かり難いし元に戻れ！！」

エトナ「ちょっとあんた！お菓子はどうしたのよ！」

プリニー神「食べた美味かった」

エトナ「何ですって！！？よくもアタシがルイージに教えて貰った教えを元に作ったレオンにあげる筈だったお菓子をぉぉぉぉ！！」

ブリッツ「落ち着くでござる！！」

飛びかかろうとするエトナにブリッツは抑える。

マリオ「……遺言はそれだけか？覚悟は良いか？」（ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ）

アイリン「（なっ、何この威圧！？）」

レオン「（おっ、重い！！）」

フロン「（あわあわ！）」

エトナ「（何よこいつ！？）」

静かに構えるマリオに切れていたエトナやレオンにアイリン達はたじろく。

それだけ、今のマリオは彼等を落ち着かせる程であった。

プリニー神「くっ！行けッス！！」

プリニー神がそんなマリオに後ずさった後に素早く逃げ、プリニー軍団が突撃して来る。

マリオ「お前は俺を怒らせた…」

そう言うとマリオはハンマーを取り出すとプリニー達を吹き飛ばして行く。

全ての攻撃を避けてはプリニー達をハンマーで叩いて行く。

ラハール「オレ様達も続くぞ！！」

エトナ「ええ！」

レオン「エトナの指輪を取り戻ぉぉぉす！！！」

カイト「後、爆弾も！！」

アイリン「ええ！」

フロン「行きますよ！」

ナックルズ「やってやら！！」

シルバー「行くぜ！」

シャドウ「ああ」

テイルス「行こう！」

ソニック「さあせ！行くぜカリバーン！デルフ！」

カリバーン「ああ！」

デルフ「おう！」

デスティニー「ああ！」

ブリッツ「でござる！」

冥王「派手に行くの！」

マリオがプリニー隊と隊長と参謀と将軍と大王と戦うのをただ見ていたメンバーだったがラハールの言葉に全員動いて迎撃に当たる。

アイリンが誰か傷付けば回復すると同時に攻撃力を上げるブレイブヒールを使い、レジストスターで攻撃する。

ナックルズとレオンが殴り飛ばし、シルバーがカイトを援護し、シャドウとＧ３－Ｘに変身したテイルスがフロンやソニック、エトナ、ラハールを援護する。

冥王もレイジングジャベリンで攻撃し、デスティニーとブリッツはプリニー達を縛り上げる。

そして、１時間もしないうちにプリニーの軍隊は全滅した。

プリニー神「うそ～ん！？」

ゼロ「さあ、後はお前だけだ」

何時の間にかゼロに変身したマリオが静かにそう言う。

プリニー神「けど、こっちにはこれが…」

ゼロブレスレッド「アタックライド！スチールベント！」

プリニー神が指輪で防御しようとした瞬間、音声と共にゼロの手にエトナの指輪とカイトの爆弾があった。

プリニー神「あっ、あれ？」

ゼロ「確かにこれは全ての攻撃を防げるだろうが…流石に盗まれるのには効果は示さない様だな」

エトナ「アタシの指輪！」

カイト「俺の爆弾！」

戸惑うプリニー神にゼロがそう言うとエトナとカイトは自分の持ち物を取る。

ゼロ「さあ、神よ、お前の罪を数えろ」

静かにゼロがそう言うとプリニー神は震える。

プリニー神「ひっ、ひいいいいい！！！！」

ゼロはウルティメイトフォームになるとウルティメイトイージスを超弓状のファイナルウルティメイトゼロモードに変形させて構える。

ゼロＵＦ「反省しろ！ファイナルウルティメイトゼロ！」

ラハール「オマケだ！魔王玉！」

ゼロＵＦ&ラハール「合体技！サタンウルティメイトゼロ！」

プリニー神「ぎゃあぁぁぁぁぁぁぁぁぁッス！！」

２人の合体技を受けたプリニー神は吹き飛ぶと同時に☆となる。

それを見届けた後にゼロＵＦは変身を解く。

後日

～魔王城～

ラハール「この度は助かったぞ」

マリオ「気にするな」

椅子に座ってマリオに言うラハールに本人は手を振る。

ラハール「しかし、なぜ怒ったのだ？」

マリオ「そりゃあお前、大切な人の為に作った物を食べられたら怒るだろ？」

ちなみに、今、ルイージと冥王がエトナを手伝っている。

ラハール「他人のなのに、良く怒れるな」

マリオ「俺もしちゃった事があるからな…だからもし赤の他人がそうしたらな…」

ふ～んとラハールはそう言った後に虚空を見る。

と言う訳でプリニーラハールさんとのコラボでした～～

フォックス「マリオ、静かに怒ったな」

スネーク「うんうん」

ネス「感想を待ってます♪」

ゾンビゲーム　バイオハザードクロニクルズ　アナザーミッション　復讐者の新

ルイージ「今回は龍の骨さんとのコラボ第3弾！今回は『ゾンビゲーム　バイオハザードクロニクルズ』とのコラボだよ…ってかタイトル…」

ちょっとね…何か坂川さんの思いがね…

スネーク「やれやれ」

とある処理場、そこにある2人が来ていた。

ゼロ「此処か…」

カリバー「なあマリオ…なんで此処に?」

目の前の処理場を見て呟くゼロにカリバーは聞く。

ゼロ「聞こえたんだ…救いたかったという声が…それと頼まれた」

そう言うとゼロは進み、カリバーも後を追いかける。

進んで行き、マイクロ波燃却炉室に着くと2人は中に入る。

ゼロ「此処だ…」

カリバー「何があるんだ?」

ゼロは呟き、カリバーが聞くとゼロはウルティメイトブレスレッドを掲げる。

すると、ウルティメイトブレスレッドは光り輝き、当たりを包み込む。

それと同時に2人の前に光りが集まり、小蓮のクローン、ラフレシアへとなる。

ラフレシア「あなた達は何者？」

ゼロ「俺は仮面ライダーゼロ、そして後ろにいるのは親友の仮面ライダーカリバーだ…ラフレシアよ、俺達は坂川　亮の思いに心を打たれた神に頼まれ、お前を生き返らせる為に来た」

ラフレシア「あなた達が私を蘇らせる？なぜ？」

ラフレシアの問いにゼロはそう答えた後、ラフレシアの更なる問いをする。

ゼロ「本来ならば死者蘇生はしてはいけないもの…だが、俺はお前への坂川　亮の助けたかったと言う思いを無駄にしたくないから神の頼みを聞いた」

ラフレシア「ふん、どうせ上辺の「上辺じゃない！！」！？」

ラフレシアの言葉を遮り、ゼロは叫ぶ。

ゼロ「あいつの思いは嘘ではない。その証拠が…お前の下にあるそれだ」

そう言ってゼロはラフレシアの下を指す。

指した方には坂川のお守りである勾玉である。

ラフレシア「これは…」

ゼロ「彼のお守りだ…これにはお前を助けたかったと言う思いが詰まっている…分かるだろ、今のお前に…」

坂川のお守りを持って呟くラフレシアにゼロは言う。

ラフレシア「ホントに私を救おうと…そして、捨てないって言った事も…ホントだった…」

ゼロ「どうする？お前は彼の思いを聞き、それでも復讐したいか？」

お守りを持って呟くラフレシアにゼロが聞く。

ラフレシア「私は…会いたい、ホントにあいつが出来るか知りたい…」

その言葉にゼロは会話に参加してなかったカリバーを見て、カリバーはゼロがしたい事を理解して、７つのカオスエメラルドとカリバーンとデルフを構える。

ゼロはウルティメイトブレスレッドを掲げる。

ゼロ「究極の力と奇跡を起こす７つの混沌の宝石よ」

カリバー「聖剣に円卓の騎士が宿りし剣よ」

ゼロ＆カリバー「１つの魂を今現世に蘇らせろ！」

２人が唱えると同時にカオスエメラルドとカリバーンにデルフ、ウルティメイトブレスレッドは光り輝き、ラフレシアを新たな光りが覆い…

それが収まると、蘇ったラフレシアが立っていた。

カリバー「気分はどうだい？」

ラフレシア「最高ね。前より頑張れそうだわ」

ゼロ「それでは案内しよう。彼はまた新たな戦いをしている」

ラフレシア「分かったわ！」

ゼロは変身を解くと同時にウルトラゼロアイを装着し、ウルトラマンゼロとなるとラフレシアとカリバーを抱えて、坂川がいる洋館へと向かう。

ラフレシア「（坂川、待ってなさい！）」

坂川のお守りである勾玉を握り締め、ラフレシアはウルトラマンゼロの手の中でそう言う。

戦士と共に少女は向かう。

アンブレラの悪意と戦う男の下へと…

そんな訳で龍の骨さんとのコラボでした！！

ルイージ「良いの？」

あっちの感想でコラボの内容を言ったけどね…

スネーク「どう言う感想が来るのやら…」

ネス「感想を待ってます♪」

IS<インフィニット・ストラトス>黒き牙と永遠の月　女神の贈

スネーク「ユートピアとのコラボだ！」

フォックス「どうなるんだろうな…」

ワリオ「だな」

ゼロ「あいつがこいつ等の親玉か…」

楯無「と言うか、終君と同じ…」

ゼロは静かに呟き、楯無は零の翼を見る。

零は楓の方を見る。

零「女神の贈り物…」

そう呟くと翼を広げ、飛び去る。

終「待て零！」

楯無「終君！」

ゼロ「ネオス！ネクサス！」

ネオス「はい！」

ネクサス「……了承」

飛び去る零に終は追いかけ、楯無とゼロの指示にネオスとネクサスが終を追う。

千冬「私達も黒谷達を追うぞ！」

一夏「ああ！」

千冬の指示に一夏達も後を続く。

数分後、終を追いかけていた3人がとある村の前にいた。

千冬「お前達、黒谷は？」

降りた千冬が明久とムッツリーニ、楯無に聞く。

明久「すいません。この村の所で見失いました」

ムッツリーニ「……この近くにいるのは分かっている」

楯無「終君、何でかな？」

マリオ「今はあいつに聞くしかない…各自、この村で情報収集しよう。明久とムッツリーニ、黒狼とアンク、黒巣達は終の探索を頼む」

3人のを聞いて、楯無の言葉にマリオはそう言うとメンバーに指示する。

その後、マリオと千冬がその村の村長に会い、滞在を認めて貰った後に情報収集と終の探索を開始した。

そんな感じで1週間経ったが終の行方は分からなかった。

セシリア「しかし…」

村の中で待機しているセシリアはある方を見る。

村にある書庫でそこに楓と椛が篭り、一週間出てないのだ。

鈴「楓と椛、１週間も篭ってるよね…」

シャル「大丈夫かな…」

鈴とシャルが心配な顔で書庫を見る。

ラウラ「何も無ければ良いのだが…」

マリオ「……」

ラウラの言葉に戻って来て休憩中のマリオは考えていた。

その夜、書庫から楓と椛が出て来る。

だが、楓と椛の様子がおかしかった。

楓と椛が何かしようとした時…

マリオ「何をしようとしてるんだ？」

２人を前にマリオが現れて聞く。

その後ろに楯無を除いた一夏達と明久とムッツリーニ、黒狼とグリード、黒巣とイマジンズを除いたルイージ達がいた。

２人はＩＳを纏う。

鈴「ちょっ、ちょっと楓!?」

セシリア「どうしたのですか!?」

シャル「椛もだよ!ちょっと!」

ラウラ「どうしたのだ!?」

それに鈴達は戸惑う。

楓「プロジェクトノヴァ」

そう呟くと楓は無表情で椛は狂気に染まった笑みを浮かべて襲いかかろうとするが…

それは止まる。

マリオ「させ、そのプロジェクトノヴァとか何かあったか分からないが…お前等…目を覚ませや」

指関節をポキポキ鳴らし、マリオは静かに、そして声を低くして言う。

マリオ「どうせプロジェクトノヴァって最強の存在って感じのだろうが…お前等は最強じゃねえよ…世の中にはお前等以上の奴等は沢山いるんだよ」

放たれる威圧、それに一夏達は後ずさるが、かまわず楓と椛はマリオに向かって行く。

マリオ「言って置く。お前等は音梨　楓と椛、彼女達の大切な存在だ」

そう言うと同時に、飛んで来た2人の攻撃を避け、地面へ叩き付ける。

マリオ「今いるお前達はプロジェクトノヴァの者じゃなく、ＩＳ学園の生徒だ」

鈴&シャル&ラウラ&セシリア「楓（さん！）！」

静かに手を叩いてそう言うマリオの後に4人は楓と椛に駆け寄る。

一夏「すっ、すげぇ…」

箒「……」

一夏はその光景に呆然と呟き、隣で箒は震えていた。それに気づいた一夏は自分の胸に箒を寄せる。

ブリッツ「怖いでござるな；」

ルイージ「ホント兄さん…何に怒ったの？」

ブリッツは震え、ルイージはマリオに聞く。

マリオ「別に…彼女達を心配させたからだ」

楓と椛を介抱する鈴達を見てそう言うとマリオは輝く月を見る。

ウイング「それにしてもやり過ぎじゃないか？女の子を叩き付けるって」

デスサイズ「まあまあ；」

マリオ「男女平等だ」

ルイージ「微妙に違うよ兄さん；」

別の場所で

電王ＨＣＦ「この先から終の気配がするぜ！」

黒巣『急げモモタロス！』

電王ＨＣＦを先頭に空中をネオス、ネクサス、オーズＴＣとオーズＰＣに楯無、地表ではトライドベンダーに乗るオーズＬＣとライドベンダーに乗るオーズＧＣ、オーズＳＧＣ、オーズＳＣが行く。

着いた先には終と零がいた。

楯無「終君！」

着地した楯無が終に声をかけ、終はその声に一度振り返るが、零へ向きなおす。

終「零…」

零「…」

終はブレードのハデスを握り零はレイピアを持ちぶつかり合う。

楯無「終君」

ネオス「一体、2人は何で…」

心配な顔をする楯無の隣でネオスはぶつかり合う2人を見て誰もが聞きたい事を呟く

と言う訳でユートピアさんとのコラボでした！

ワリオ「マリオの奴；」

クッパ「言いたい事は分かるが；」

マリオ「事実を言ったまでだ」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　銀の侍と４人の女神　―　第別訓パート１８

スネーク「真王とのコラボ第１８弾だ」

ワリオ「今度は食べ物のギャラクシーか」

クッパ「それで相手はパンモドキ系統なのだ」

～ミートフードギャラクシー～

『激闘！キングパンモドキ』

マリオ「おっ、今度はヴィヴィオからか」

ルイージ「そうなの？」

マリオの言葉にルイージは聞き、中身を見る。

ヴィヴィオ『こんにちは、ヴィヴィオです。今私達がいるギャラクシーにおいしいお宝があるの！でもパンみたいなのが食べ物を持って行ってるんだけど、アレ一体何なのかな？』

マリオ「行くか」

冥王「行くしかないの」

ルイージ「何でいるの！？」

そんな訳でマリオは冥王とルイージに、ソニックとヨッシーにオリマーと共にヴィヴィオ達がいるギャラクシーへ向かった。

ミートフードギャラクシー

（ＩＢＧＭスイーツミステリーギャラクシーｂｙスーパーマリオギャラクシー２）

ヴィヴィオ「あっ、此処だよ～」

目的のギャラクシーに着いて歩いていると銀時、神楽、新八、ネプテューヌ、レーティア、ジャンヌ、ビビ、シャル、ギルシアといるヴィヴィオを見つけ、ヴィヴィオは手を振る。

冥王も手を振る。

銀時「よう」

マリオ「よう、それでお宝はどうだ？」

新八「それが…パンみたいな生き物が持って行っちゃって…」

オリマー「それはもしかしたらパンモドキだね」

ネプテューヌ「パンモドキ？」

銀時と挨拶を交し合った後に聞くマリオに新八が言い、オリマーが持って行った奴の名前を言う。

オリマー「ああ、パンモドキはお宝とか食料を自分の巣へ持って帰る習性があるんだよ。他にもパンモドキより大きいオオパンモドキと言う奴もいるんだ」

神楽「確かに小さい奴や大きい奴にさらに大きい奴がいたね」

ソニック「さらに大きい奴？」

ギルシア「ああ、さらに大きい、王様みたいなパンモドキがいた」

首を傾げるネプテューヌにオリマーはそう説明し、神楽が思い出してそう言うとソニックが神楽の言った最後に言った事を呟き、ギルシアがそう言う。

冥王「うんじゃあレッツゴーなの♪」

ヴィヴィオ「おー♪」

ヴィヴィオを肩車して言う冥王にヴィヴィオも言う。

シャル「仲良いわね」

ジャンヌ「確かに」

その光景にシャルとジャンヌはそう言う。

ビビ「羨ましい…」

ヨッシー「まあまあ、行きますよ」

指を銜えて呟くビビにヨッシーは背中を押して2人に続く。

ルイージ「あれだね…」

前方の光景にルイージは呟く。

そこにはパンモドキやオオパンモドキ、さらに大きいパンモドキがいた。

オリマー「確かに王様みたいなパンモドキだ…『キングパンモドキ』と命名しよう」

銀時「んで…どうやれば倒せれるんだ？」

キングパンモドキを見て呟くオリマーに銀時が聞く。

オリマー「奴等は背中を攻撃し続けていれば倒せれるよ…後、襲うとかそう言うのないから、倒せば巣からお宝出るよ」

レーティア「成る程…」

ソニック「んじゃあ行くか」

ヴィヴィオ「ねえねえ、試したい事があるからヴィヴィオが行って良い？」

オリマーの説明に誰もが頷いた時、ヴィヴィオが手を上げて言う。

ネプテューヌ「えっ？ヴィヴィオ、何をするの？」

ヴィヴィオ「見てて、行くよクリス！セイクリッド・ハート！セーーットアーーーーープ！！」

そう言うとヴィヴィオは大人モードになる。

マリオ「初めて見たな…この世界のヴィヴィオのあれ」

ビビ「（おぉぉぉぉぉぉ！？）」

ジャンヌ「（ヴィヴィオちゃん、なれたんだ）」

マリオが呟いた隣でビビとジャンヌが驚いていた。

銀時「んじゃまあ…大物任せたぞ」

ヴィヴィオ「うん！冥王さん！教えて貰った技を試させて貰うよ！！」

新八「技？」

冥王「ＧＯなの！」

銀時の言葉にヴィヴィオは頷いた後に新八が首を傾げ、冥王がＧＯサインを出す。

ヴィヴィオ「いっくよ！！」

そう言うとヴィヴィオは右手に力を入れ、魔力を集中させると右腕が虹色に光り輝く。

ヴィヴィオ「一点突破！ディバインブレーーーイク！！！」

キングパンモドキの上へジャンプし、そのまま技名を叫んだ後にキングパンモドキの背中に右腕を叩き付け、集束させた魔力を内部にたたき付ける。

ヴィヴィオ「これで終わりだよ」

着地すると同時にそう言うとキングパンモドキは呻いた後に倒れこんだ。

銀時「すごっ…」

ギルシア「ああ…」

あらかた、パンモドキとオオパンモドキを倒した銀時とギルシアはヴィヴィオのやった事に驚く。

神楽「今の何ね？」

冥王「ディバインブレイクは集束した魔力を相手の内部に直接叩き付ける防御無視な技なの。硬い奴や防御力が高い相手向けなの、けど凄いの、あの技は結構集束して一気に相手の内部に叩き込む技だから難しいのにもう習得したの」

銀時「（そりゃあな…実際に覚えたしな…）」

神楽の問いに冥王はそう言い、ヴィヴィオの技の覚えに銀時は以前の事を思い出してそう呟く。

ビビ「もしかして…他にも教えた？」

冥王「うん、色々と将来が楽しみなの～」

恐る恐る聞くビビに冥王は笑って言う。

その後、『太陽の目』、『肉塊』、『肉棒』、『南国棒』、『頑固板』を手に入れて星船に戻った。

～太陽の目～

価値：５００円

見た目：目玉焼き

イーバメモ：太陽の目みたいな食べ物だね。動いたら凄いね

ドルフィンメモ：けっして本物太陽じゃないんですが、そう付ける程太陽を思わせる物です。味もなかなかでしょうね

～肉塊～

価値：２０００円

見た目：ロースハム

イーバメモ：デカイ肉の塊だね。沢山作れるんじゃないかい？

ドルフィンメモ：沢山の人とパーティするには良い食べ物です。ぜひ、これでパーティをしてはいかがでしょう

～肉棒～

価値：１０００円

見た目：ソーセージ

イーベメモ：肉塊より小さい肉の塊だね。けれど簡単に食べれそうだね

ドルフィンメモ：焼いてもよし！茹でても良い食べ物ですね。お好みの調理を試して見ましょう。

～南国棒～

価値：８００円

見た目：バナナ

イーバメモ：南国を感じさせる物だね。後、滑りそうだね

ドルフィンメモ：食べた後に残った皮は立派な罠に使えそうですね…まあ、足がない私には分かりませんが…

～頑固板～

価値：５００円

見た目：クッキー

イーバメモ：頑固そうな板だね。他のと違って食べるのは苦労しそ

うだね

ドルフィンメモ：頑固者を奮闘させる食べ物ですね。これで抗議をして見ませんか？

と言う訳で真王さんとのコラボでした。

スネーク「そうだな」

ワリオ「ヴィヴィオ…強化されてるな；」

フォックス「良いのかな；」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　銀の侍と４人の女神　―　第別訓パート１９

スネーク「真王とのコラボ第１９弾！」

ワリオ「今度はデカイのかよ…」

クッパ「なのだ」

～デカデカワールドギャラクシー～

『巨大な者達を越えて』

マリオ「また着たぞ、今度はネプテューヌ達の方のプリニーからだ」

ルイージ「今度は何？」

ルイージはマリオの持つ手紙を見る。

プリニー『このギャラクシーは何もかもがでっかいッス！俺達からすれば怪獣ッスよ！早く手伝ってほしいッス！』

手紙を読んだ後にマリオはルイージの他に冥王とソニック、明久とムッツリーニ、オリマーが向かう。

デカデカワールドギャラクシー

（ＩＢＧＭでっかでっかギャラクシーｂｙスーパーマリオギャラクシー２）

マリオ「確かにデカイな…」

目の前の光景にマリオはそう呟く。

銀時、神楽、新八、桂、エリザベス、プリニー、ネプテューヌ、ヴィヴィオ、レーティア、ジャンヌ、ビビ、シャル、ギルシアのメンバーと合流したメンバーはプリニーの言った事を実感する。

彼等が見た前で巨大なデカクリボーやデカパタクリボーがいるのだ。

明久「それじゃあＫＡＭＥＮＲＩＤＥ！」

ネオスバックル「ライダーアップ」

明久がネオスに変身するとカードを取り出す。

ネオス「飛んでるのは頼むよ」

ネオスバイザー「アドベント」

その音声と共にスターダスト・ドラゴンが現れ、デカパタクリボーへ向かう。

ネオス「それじゃあムッツリーニ…」

ムッツリーニ「……あれか…」

スターダスト・ドラゴンを見届けた後にネオスはムッツリーニの方に向いて、ムッツリーニはやりたい事を理解して並ぶ

ネオス「起動（アウェイクン）！…んでもって試験召喚獣…サモン！！」

ムッツリーニ「……試験召喚獣…サモン」

ネオスが叫ぶと特別な空間を出て、ネオスとムッツリーニがそれぞれ構えた後にそう言うと明久とムッツリーニを小さくした召喚獣が出て来る。

ヴィヴィオ「うわぁ～」

プリニー「ちっちゃいッスね」

ギルシア「これは…」

シャル「マジで」

ヴィヴィオとプリニーは召喚獣に興味津々でギルシアとシャルは驚く。

銀時「どうするんだそいつ等で？」

エリザベス『どうするの？』

ネオス「それじゃあ頼むよ」

ムッツリーニ「任せろ」

そう言うと召喚獣はデカクリボーに向かって行き、ムッツリーニの召喚獣が相手の目を引いた後に、ネオスの召喚獣が脳天に木刀を叩き付ける。

それにより、デカクリボーは倒れる。

ネプテューヌ「おお～」

新八「あっさり倒しちゃったよ…」

桂「凄いものだ」

エリザベス『まったくです』

ネプテューヌと桂、エリザベスが関心して、新八が召喚獣を見て呟く。

ヴィヴィオ「凄いね♪」

冥王「なの♪」

オリマー「元気だね」

ヴィヴィオと冥王が言った後に手に『スペフォン』を握ったスターダスト・ドラゴンが戻って来る。

レーティア「あっちもしっかりしてるわね」

ジャンヌ「ホントだね」

その後、同じのが出たがギルシアとマリオが踏んだり、ネプテューヌとオリマーがスピンで倒したり、ルイージがルイージロケットで吹っ飛ばしたり、レーティアが駒の様に飛ばして倒して行く。

冥王「吹っ飛べなの」

そう言って冥王は土管から出たデカパックンを吹き飛ばして『プラズマバッテリーα』を手に入れたり…

銀時「ボーリングじゃあ！！」

ビビ「いっけぇぇぇぇ！！」

デカノコノコを甲羅の中に引っ込ませた後にボーリングの様に転がしてデカクリボーをストライクしたり…

ジャンヌ「ゴメンね」

ヴィヴィオ&ネプテューヌ「それ！」

デカハナチャンをジャンヌが美鈴にコスプレして、ヴィヴィオとネプテューヌが新しい技ヒップドロップをして倒す。

銀時「これで最後だな」

プリニー「そうッスね」

『石笛』を前にして銀時が言って、プリニーが周りを見て言う。

冥王「さあ、戻って遊ぶの♪」

ヴィヴィオ「お～♪」

と言う訳で手に入れたお宝を持って帰ったのであった。

～スペフォン～

価値：５０００円

見た目：携帯電話

イーバメモ：何かの通話する機械の様だね。もう１つあれば出来そうだね

ドルフィンメモ：遠くの人と話すにお勧めの一本です。ただし相手が連絡用のを持ってないと無理ですが…

～プラズマバッテリーα～

価値：１０００円

見た目：単１電池（赤）

イーバメモ：最初に見つけたのと似た奴だね。他にもあるんだろうね

ドルフィンメモ：これ１本で強いエネルギーを得ますがさらにあれば強力になります。

～石笛～

価値：５００円

見た目：ホイッスル

イーバメモ：石で出来た笛だね。オリマーって奴も似たのを持ってたね。

ドルフィンメモ：この笛で全隊進めとか！審判したい人には良いですね。

と言う訳で真王さんとのコラボでした！

フォックス「やれやれだな」

スネーク「ネプテューヌとヴィヴィオが新しいアクションを覚えてるな…」

ネス「感想を待ってます♪」

IS<インフィニット・ストラトス>黒き牙と永遠の月　希望の月

スネーク「と言う訳でユートピアとのコラボだな」

クッパ「今回はどうなるのだ？」

フォックス「だな」

終「はっ！」

零「ふん」

ぶつかり合う終と零。ハデスとレイピアをぶつかる度に火花を散らす。

そして飛ぼうとするのか翼を出すが、楯無はある事に気づいた。

楯無「あれ？何か終君の翼が最初見た時より少し…」

終も気づいてるのか自分の体を見る。

零「ゼロ、俺達は劣化してるんだよ」

終「何？」

電王ＨＣＦ「劣化？」

黒巣『どう言う事だ？』

零の言葉に終は眉を顰め、電王ＨＣＦは首を傾げ、黒巣は聞くが零は終を見たままだ。

零「それを止めるには女神の贈り物が必要だ」

オーズＰＣ「女神の贈り物？」

その頃、マリオ達の方では楓にある変化が訪れる。

鈴「なっ、何？」

セシリア「終さんと同じ様に翼が？」

ラウラ「椛の方も出たぞ」

シャル「どうなってるの？」

楓の左肩から白い翼を生えた事に鈴とセシリアも驚き、椛を見ていたラウラとシャルも椛から右肩から黒い翼を生えて驚く、そして2人は何処かへ飛んで行こうする。

マリオ「逃がすか！！ＫＡＭＥＮＲＩＤＥ！」

ゼロバックル「ライダーアップ」

飛んで行こうとする2人にマリオは叫んだ後にゼロに変身してゼロブレスレッドにカードを装填する。

ゼロブレスレッド「アタックライド！プリズムチェーン！！」

ゼロ「せいや！！」

音声の後にゼロの両腕に黄色の鎖が現れ、それをゼロは2人に向けて投げると椛は掴まるが、楓だけ現れた零・コピーが邪魔する。

ゼロ「しまった！」

椛を素早く引き寄せたゼロはそれに舌打ちした後にゼロ・コピーと零・コピーが現れる。

それに一夏達はＩＳを纏い、ウイング達も構えてコピー集団と戦う。

ゼロ「おい！起きろ！！」

頬を軽めにはたいて椛に呼びかけるゼロ、コスモスへ変身したルイージが近寄り、フルムーンレクトを放つと椛は呻いた後に目を開ける。

椛「私は……楓は！？楓はどこ！？」

コスモス「それが…君と同じく様子がおかしくなって…」

ゼロが鎖から椛を解放した後に椛は頭を抑えた後に楓について聞く。

椛「様子が……そう言えば…あいつがＩＳ学園から離れる時に言った言葉を思い浮かべたら突然頭が…」

ゼロ「……椛よ…お前はなぜ楓の言葉を聞かない？」

頭を抑えた椛がそう言うと、ゼロが突然そう聞く。

椛「なっ、何よいきなり？別に聞かなくても守れる…」

パチーン！！

し…と言う前に椛はゼロに頬をビンタされ、そして胸元を掴まれる。

ゼロ「守ると縛るを間違えるな!!今までお前は楓を守ってない!縛ってるだけだ!」

椛「守ってるわよ!」

ゼロ「守ってない!楓の周りを傷付けるのは楓が望んでるのか!?お前は何時か楓に大切な者を殺したと言う罪を背負わせる気か!」

椛「楓は背負わないわ」

ゼロ「背負う!お前を止められなかったと言う罪悪感と言う名の罪で何時か死ぬぞ!」

ゼロの言葉に反論する椛は続けて言うゼロの言葉に椛は言葉を無くす。

椛「そっ、そんな事…」

ゼロ「考えた事があるか?自分の行いで楓が自ら絶つかもしれない事を?…なぜそれをしないかはお前や皆がいるからだ。お前がいるから、そして優しいとお前を信じてるから!そんな楓の思いを踏みにじるのか?楓を思い、守るなら彼女の言葉を聞け!!」

ゼロの言葉に椛は顔を伏せる。

椛「私は…」

ゼロ「今すぐ変えろとは言わない…人は変われるがすぐに変えれる者も言えば変えれない者もいる…人間やどんな生き物でもある事だ」

椛「…やってやろうじゃん。楓をあんたが言う縛って守るじゃなく周りと協力して守ると言うのを！」

そう言うとＩＳを展開して椛は向かって行く。

続けて向かおうとするゼロの前にカードが現れ、ゼロがそれを掴むと絵柄が出る。

ゼロ「これは…椛、言ったからには周りに希望を与えろ！」

絵柄を見てそう言うとゼロはカードを装填する。

ゼロブレスレッド「ＩＳライド！ホープムーン！！」

椛「えっ？」

音声と共に椛のダークムーンの色とそして武装が変わる。

カラーリングは黒から黄色と白へと変わり、両腰に剣が２つ装着され、胸に緑色に輝く宝石が付いたＩＳスーツを纏い、背中に黄金の翼が羽ばたく。

椛「ＩＳが…変化した…ホープムーン」

千冬「私と同じ…」

変わった自分のＩＳに椛は驚き、千冬は白桜と得た同じ状況に斬りながら呟く。

他のメンバーも同じだったが、気を取られたセシリアに零・コピーが迫る。

セシリア「！抜かりましたわ！」

迫り来る攻撃にセシリアは目を閉じるが、その前に椛が立ち、背中の翼を自分の前に展開すると受け止める。

椛「喰らいなさい！」

翼の防御を解くと両腰の剣、バイトとバイスを取り、それで零・コピーを切り裂く。

椛「このＩＳで、守ってやろうじゃない！」

そう言うと椛は構えて突撃する。

終達の方では均等を保っていた。

終「零教えろ、女神の贈り物って何だ？」

零「……」

終の問いに零は無言であった。

オーズＧＣ「おい！何かしゃべろ！！」

それに見ていたオーズＧＣが叫ぶ。

零「カオスプロジェクト、ＺとＮ」

そう言うと零は飛び去る。

終「カオスプロジェクト…ZとN…」

ネオス「終さん、此処は戻りましょう」

ネクサス「……戻った方が良い」

楯無「そうだよ…終君、皆心配してるよ」

零の残した言葉を呟く終にネオスとネクサスが良い、楯無もそう言う。

マリオ達の方では…

シャル「なっ、なんとかなったね」

ラウラ「そうだな…」

一夏「ああ…」

それぞれが座り込んで言う中、椛はホープムーンを見る。

ネオス「先生！」

そこに終を連れたネオス達が来る。

千冬「黒谷、吉井達も戻ったか…」

楯無「あれ？楓ちゃんは？」

終を見る千冬に周りを見て楓の姿がない事に楯無は気づく。

ルイージ「それが…」

ヘビアームズ『どこか飛んで行った』

ルイージの後のヘビーアームズの言葉に終達は驚く。

千冬「一度情報交換するぞ…黒谷もな」

終「はい…」

千冬は指示の後に終を見て、終は頷く。

ＩＳ＆Ｉｔ；インフィニット・ストラトス＆ｇｔ；黒き牙と永遠の月　希望の月

と言う訳でユートピアさんとのコラボでした！

スネーク「また新しいＩＳ出したな；」

フォックス「しかも最近の遊戯王のモンスターに近いＩＳだな；」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　銀の侍と４人の女神　―　第別訓パート２０

スネーク「と言う訳で真王とのコラボ第２０弾だ」

クッパ「今度は悪戯コメットでの奴の様だな」

フォックス「だな」

～ガメーバの溶岩帝国～

『タイムアタック！溶岩城に忘れられた宝』

ネプテューヌ「ああ！！？」

星船で旅するネプテューヌ達、そんな中、お宝を見ていたネプテューヌが叫ぶ

ギルシア「どうしたネプテューヌ」

ジャンヌ「何かあったの」

ネプテューヌの叫びにギルシア、レーティア、ジャンヌ、シャルが来る。

ネプテューヌ「それが…あの時ガメーバから出たお宝…忘れて来ちゃったみたい；」

シャル＆レーティア＆ジャンヌ「えええぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！？」

ギルシア「それなら早く行った方が良いな…」

数分後…

ソニック「よう」

ムッツリーニ「……来たぞ」

明久「こんにちわ～」

ギャラクシーを前にソニックとムッツリーニ、明久が挨拶する。

冥王も来たがすぐヴィヴィオの所へ向かった。

イーバ「おや？マリオはいないのかい？」

明久「あ～～先生、その時、用事が入っちゃって…」

ソニック「俺達が代わりって訳だ」

ムッツリーニ「……それで、呼んだ理由は？」

周りを見るイーバに明久が頭を掻き、ソニックが言い、ムッツリーニが聞く。

イーバ「実はあいつらが回収するはずだったお宝を置き忘れちゃってね、取りに行こうとしたら悪戯者の彗星が出てきたんだよ。奴にお宝を取られる前に早くしておくれ」

ソニック「任せとけって！」

明久「分かりました」

ムッツリーニ「……任せろ」

そう言うと3人はネプテューヌ、ギルシア、レーティア、ジャンヌ、シャルのメンバーと共に向かう。

ガメーバの溶岩帝国

（ＩＢＧＭクッパの溶岩帝国ｂｙスーパーマリオギャラクシー２）

ソニック「さっさと行くぜ！」

そう言うと同時にソニックが走り、事前に変身したネオスとネクサスを含めたメンバーも後に続く。

来た事あるのでメンバーはどんどん早く進む。

ソニック「おっと」

ネオス「わっとと！」

ネクサス「……焦るな」

ネプテューヌ「だけど、時間制限があると大変だね」

ギルシア「確かに」

様々なトラップやスネークブロックを越え、時計を取りながら進み…

ドッサン「ここから先は通さんぞ！！」

ネプテューヌ達がガメーバと戦った玉座の間の手前にある巨大な扉の前でドッサンが大量のカロンを引き連れて待ち構えていた。

ギルシア「これは…まさに骨が折れるな…」

シャル「確かにそうね」

ネクサス「……確実に行く…加速……」

ギルシアが頭を掻いて呟き、それにシャルが同意した後にネクサスがそう呟くと姿が消え…

カロン達は吹き飛び、ドッサンの前にネクサスがいた。

ドッサン「なっ!?この!!」

それにドッサンが驚いた後に倒れるがネクサスは避け…

ソニック「とう!」

ネオス「だらっしゃ!!」

ネプテューヌ「ええい!」

ドッサンの背中にソニックが流星キック、ネオスはスターダストライダーキック、ネプテューヌがヒップドロップで攻撃して、ドッサンは壊れる。

すかさず、ソニックは置いてあったお宝『デカデカノコ』を取る。

ネオス「無事回収だね」

ギルシア「しかし…早かったな…」

レーティア「ええ…それもライダーの力？」

ネクサス「……元にしたので高速で動けるライダーのシステムを入れてるからな…」

ジャンヌ「へえ～」

ソニック「そんじゃあ長いは無用で帰るか」

ソニックがそう言うと全員、同意して星船に帰った。

イーバ「いや～すまないね」

明久「いえ」

ムッツリーニ「……問題ない」

星船に戻った明久達にイーバはそう言い、ムッツリーニもそう言う。

ソニック「それにしても、変わったキノコだな」

ネプテューヌ「これでガメーバは大きくなってたんだよ」

デカデカノコを触るソニックにネプテューヌがそう言う。

冥王「いや～楽しかったの～♪」

そう言って冥王が出て来る。

明久「何してたの？」

冥王「ヴィヴィオちゃんに技を教えまくってたの～彼女は飲み込みが早いから鍛えがいがあるの～」

その言葉を聞いたジャンヌは思った。

ジャンヌ「（…ヴィヴィオちゃん、聖王じゃなく冥王になりそう；）」

その後、ソニック達は帰った。

～デカデカノコ～

価値：３０００円

見た目：白キノコ

イーバメモ：ガメーバが巨大化するのに使っていたお宝だね。しかし、こう言うキノコがあると言う事はまた出て着そうだね。

ドルフィンメモ：これを使うとあら不思議！体が大きくなっちゃうんです！小さいとバカにされる人はその相手を懲らしめるのに良い

でしょうね。

スネーク「と言う訳で真王とのコラボだ」

フォックス「しかし、マリオの世界にあるのと似た効果のキノコだよな…」

クッパ「そうだな…」

ネス「感想を待ってます♪」

IS<インフィニット・ストラトス>黒き牙と永遠の月　新たな謎

スネーク「ユートピアとのコラボだ！」

フォックス「どうなるのやら…」

ワリオ「だな」

終「そんな事が…」

情報交換して、自分がいない間に起こった事に終は呟く。

ガンダム「それにしても…楓ちゃんに何が起こったんだろうね…」

シャア「だが、情報が少なすぎる。楓の場所も…その零が言ったカオスプロジェクトＺとＮの意味もな…」

援軍としてソニック、ノワール、スターゲイザー、フリーダム、ジャスティス、ダブルオーと共に来たガンダムが呟き、シャアが腕を組んで言う。

一夏「そうなんだよな…」

椛「楓…」

同じく腕を組んで悩む一夏、自分の新たなＩＳ、ホープムーンを見ながら椛は呟く。

スターゲイザー「ソノ楓サント関係アルカハ分カリマセンガ私ノレーダーデ此処カラ数ｍ先ニアル施設ヲ見ツケマシタ」

終「ホントか？」

ノワール「もしかしたらカオスプロジェクトについて分かるんじゃないか？」

マリオ「行く価値はあるだろうな…」

スターゲイザーの報告に終は聞いてスターゲイザーは頷き、ノワールがそう言って、マリオが顎に手を当てて言う。

セシリア「どうするのですか？」

千冬「……音梨に行き先が分からない以上、その施設を調べた方が良いな」

セシリアの言葉に千冬は少し考えた後にそう言う。

フリーダム「だったら僕達に任せてください」

スターゲイザー「情報収集ハ私ノ役目デス」

ジャスティス「その施設に情報があれば良いんだが…」

アンク「行って調べてからにしろ」

フリーダムとスターゲイザーがそう言い、不安そうに言うジャスティスにアンクが言う。

マリオ達と千冬達はスターゲイザーの言う施設へ向かう。

メズール「此処がその施設ね」

カザリ「確かに何かありそうだね」

目の前の施設にメズールとカザリがそう言う。
何かあると考え、用心する為にマリオ達は変身したままで進む。
鈴「不気味ね…」
ラウラ「しばらくは使われてないのだろうな…」
周りを見て呟く鈴の隣でラウラが施設の状況を見てそう言う。
スターゲイザー「確カニラウラサンノ言ウ通リ、最近、使ワレタ様子ハアリマセン…デスガ…」
シャル「？どうしたの？」
箒「何かあったのか？」
少し言葉を切るスターゲイザーにシャルと箒が問う。
スターゲイザー「…コノ奥カラ微弱ナノヲ１つ…私達ノ近クニ生命反応ガ多クアルンデス」
ウイング「何？」
カリバー「Ｈｅｙ，それっておかしくないか？」
カリバーン「奥となると、閉じ込められてるか、封印されてるかだな…」
スターゲイザーの報告にウイングは眉を顰め、カリバーが首を傾げ、

カリバーンがそう言う。

ネオス「それで僕達の近くにいるのは…」

ネクサス「……此処の元従業員か俺達が来るのを知って待ち伏せした奴か…」

ネオスとネクサスが言うと…物陰から零が出て来る。

終「零！」

ジャスティス「彼が…」

フリーダム「ホントに翼があるね…」

零に駆け寄ろうとしてコスモスが押さえ、ジャスティスとフリーダムが零を見て呟く。

ダブルオー「聞かせて貰う。カオスプロジェクトZとNとは何だ？」

ブリッツ「そんな簡単に話す訳が…」

前へ出て零に問うダブルオーにブリッツがそう言うが…

零「プロジェクトZは人間の細胞を中心にかつて世界を支配した生物の細胞を使い作り出した者、Nはその生物の細胞を使った人工生命体の事だ」

シャア「あっさり話したな…なぜ簡単に言うんだ？お前には重要じゃないのか？」

零はＺとＮの内容を言い、シャアは肩を竦めた後になぜ話したかを聞くが今度は零は答えない。

椛「楓は！楓はどこにいるの！」

セシリア「知ってるんなら教えなさいですわ！」

鈴「そうよ！」

シャル「楓はどこにいるの！」

ラウラ「教えないのなら力ずくで聞かせて貰うぞ」

そんな零に椛、セシリア、鈴、シャル、ラウラがＩＳを纏いて問うが零は答えず、代わりに零・コピーとゼロ・コピーが現れる。

ゼロ「答えない代わりにこれかよ！」

オーズＧＣ「任せろ！！」

構えるメンバーオーズＧＣが分身して５０体を相手にし、残った集団を他のメンバーも戦う。

零は戦うメンバーの間を通って外へ出る。

椛「っ！待ちなさい！」

千冬「逃がすか！」

それに気づいた椛と千冬が追いかけ、外に出るが…

椛「っ！？」

千冬「ぐわっ！」

突然現れた死神のようなゼロ・コピーとグリフォンのような零・コピーが現れ千冬や椛を吹き飛ばす。

ゼロ「カリバー！死神を頼む！俺はグリフォンを！」

カリバー「ＯＫ！行くぜデルフ！カリバーン！」

デルフ「おう！」

カリバーン「ああ！」

２体を見たゼロの言葉にカリバーは答えるとゼロはグリフォンのような零・コピーを、カリバーは死神のようなゼロ・コピーと戦う。

カリバーは死神ゼロ・コピーの鎌をカリバーンで防ぐとデルフで攻撃し、ゼロは襲い掛かるグリフォン零・コピーのひっかき攻撃を避けた後に腹にパンチを当てる。

オーズＳＧＣ「しつこい！！」

オーズＬＣ「確かに、どこから作ってるかなこの集団！」

オーズＡＣ「まったくです！」

一夏「終を困らせるなだよな！」

楯無「ホントだよ！」

終「お前等…ホントだよな！」

ゼロ・コピーを殴り飛ばすオーズＳＧＣにオーズＬＣが切り裂きながらそう言い、アベルザンパーを振るいながらオーズＡＣに一夏と楯無に終はハデスを振りながらそう言う。

ゼロ「これでトドメだ！」

カリバー「ＹＥＳ！」

それぞれ死神ゼロ・コピーとグリフォン零・コピーを吹き飛ばした後に必殺技を放そうとし…

ゼロ＆カリバー「！」

何かを感じ、止めると死神ゼロ・コピーとグリフォン零・コピーは吹き飛ぶ。

ヘビーアームズ「！」

ウイング「どうしたヘビーアームズ？」

施設内で攻撃を撃っていたヘビーアームズが何かを感じ、それにウイングが聞くと…

外に出たゼロとカリバーが来る。

コスモス「兄さん！」

ゼロ「皆！気を付けろ！」

ゼロに駆け寄ったコスモスを含め、施設内にいたメンバーにゼロは叫ぶ。

そして入って来たのは…

椛＆セシリア＆鈴＆シャル＆ラウラ「楓（さん！）！」

現れた楓に5人が叫ぶが楓は椛を見ると手を伸ばすと…

椛「えっ？」

箒「椛の翼が！？」

デスティニー「楓の方に！？」

楓の背中の翼に元々あった楓の翼の他に椛の翼が現れた。

椛はＩＳを解くと背中を見て、なくなっている事に気づき…

ゼロ「全員防御しろ！！」

ゼロの言葉と共に一夏達は吹き飛び、ゼロとカリバーは避ける。

ノワール「なっ！？何だ今の！？」

電王ＨＣＦ「何が起こったんだ！？」

スターゲイザー「サッ、サッキ楓サンカラ衝撃波ガ発生シマシタ」

デスティニー「マジかよ！」

吹き飛ばされ壁にぶつかったがなんとか起き上がったノワール、電王ＨＣＦが驚いた後に分析したスターゲイザーの報告にデスティニーは驚く。

そんな彼等に見向きもせず、楓は奥へ向かう。

全員も後を追いかけると奥にいた者に驚く。

そこにいたのは女性体の異形であった。

楓「母…」

それを見た楓の言葉に一同は驚き、ゼロがすぐさま、ゼロ・ウルトラフォームのスーツがミラーナイトの体と同じカラーリングになっている『仮面ライダーゼロ・ミラーフォーム』となるとバリアを張り、楓から放たれた衝撃を受け止める。

その間に楓はその異形の一部を持ち何処かへ飛び立った。

椛「楓…」

ゼロＭＦ「…この生物は零が言ったプロジェクトに関係してるだろうな…」

呟く椛の隣でゼロＭＦは異形を見て呟く。

スターゲイザー「デハ、情報を収集します」

フリーダム「僕達も」

そう言うとスターゲイザーとフリーダム、ジャスティスとブリッツ、ダブルオーとウイングが調べに行く。

千冬「一体…何が起ころうとしてるんだ…」

見届けた後、千冬は呟く。

異形を母と呼んだ楓、新たな謎が現れた。

IS<インフィニット・ストラトス>黒き牙と永遠の月　新たな謎

スネーク「と言う訳でユートピアとのコラボだ」

フォックス「新たな謎が出て来たな」

クッパ「なのだ」

ネス「感想を待っています♪」

スネーク「真王とのコラボ第２１弾だ」

フォックス「今度は隕石の落ちまくるギャラクシーか…」

クッパ「どうするのやら…」

～メテオバーンギャラクシー～

『隕石をかわしてお宝ゲット』

マリオ「おっ、イーバからまた手紙だ」

ルイージ「今度はどこのギャラクシーかな？」

内容を見てイーバの手紙と分かり、ルイージが横から覗き込む。

イーバ『次のギャラクシーは凄く厄介でね。隕石が絶え間なく降り続いてんだよ。あのギャラクシーにはお宝があるのに…、悪いけど手伝ってくれないかい？』

ルイージ「今度は隕石降りまくりのギャラクシー；」

マリオ「らしいな」

その会話の後にマリオはルイージ以外に明久、ムッツリーニ、冥王、ソニック、オリマーを連れて行く。

星船にて

マリオ「オッス、また厄介なギャラクシーに着いたな」

銀時「まったくだ、さっさと行きたいもんだ」

イーバ「頼んだよ」

銀時と軽く挨拶した後にイーバに見送られ、神楽、新八、桂、エリザベス、プリニー、ネプテューヌ、レーティア、ジャンヌ、ビビ、

シャル、ギルシアと共に行く

メテオバーンギャラクシー

（ＩＢＧＭマグマモンスターギャラクシーｂｙスーパーマリオギャラクシー２）

新八「いっぱい降り注いでますね；」

ネオス「変身しといて良かった；」

ネクサス「……同じく」

神楽「お前等ちょっとズルイネ」

着いた直後、降り注ぐ隕石に当たらない場所へ避難して呟く新八の隣で変身し終えたネオスとネクサスがそれぞれ言い、神楽が羨ましい顔で言う。

マリオ「まあまあ、注意して進もう」

ギルシア「それしかないな」

ビビ「そうよね」

そんな神楽を宥めた後にマリオがそう言い、ギルシアとビビも同意する。

冥王「隕石は私が破壊するから問題ないなの♪」

冥王がそう言うとアクセルシューターで破壊して行く。

桂「冥王殿がいると助かるな」

エリザベス『そうですね』

ジャンヌ「良く破壊できるわね…；」

桂とエリザベス、ジャンヌが言った後に全員歩き出す。

途中でバブルが出るがマリオがポンプで消したり、ソニックがデルフを使ったりして倒して行く。

銀時「おいおい…見つけたのは良いが…」

レーティア「この数はシャレにならないわね；」

このギャラクシーにあるお宝の1つである『鉱物王』を見つけたのは良いが、さっきより隕石が多く降り、冥王でも掃き切れない位である。

ソニック「よおし！此処は俺の出番だな」

ネクサス「同じく」

ソニックとネクサスがそう言うと早く走って冥王によって減った隕石を避けて行き、鉱物王を手に入れて戻る。

オリマー「2人ともやったね」

プリニー「凄いッス！」

ネプテューヌ「ホントだよ！」

オリマー、プリニー、ネプテューヌの褒め言葉にソニックは鼻を摩り、ネクサスはそれ程でもないと言う。

その後、ドッスンがいたが上を通り、途中であった『ファイヤークリスタル』を手に入れて進む。

シャル「走るのよ！！」

新八「何でこんな所だけ意図的に僕達に向けて多く降るのぉぉぉぉぉ！！？」

ビビ「喋るより走る！！」

神楽「急ぐアルぅぅぅぅぅぅ！！」

冥王「しつこいなの！」

最後らへんと思われる場所に来ると銀時とマリオ達に向けて隕石が

多く降り注ぎ、それに慌ててメンバーが走る。

マリオ「頑張れ！前方に終点と思われる隠れ場所を見つけたからそこに行くぞ！」

ネプテューヌ「賛成！」

ネオス「いっそげ！！」

マリオが叫び、ネプテューヌが代表で答えるとネオスが言う。

数分後、安全地帯にたどり着いたメンバーはそれぞれ座り込んだり、壁にもたれて息を整えていた。

ギルシア「ふう…ああ言うのはこりごりだな」

レーティア「確かにそうね…」

ジャンヌ「絶対に痩せた気がする」

シャル「確実に痩せたわね」

プリニー「ヘトヘトッス～」

銀時「そりゃあ誰も同じだ」

ネクサス「……それであれがお宝だろうか？」

それぞれ言った後にネクサスが奥を指して言うとそこにた『宇宙怪獣のキバ』があった。

ルイージ「やったね」

冥王「はあ～肩がこったの」

オリマー「あんなに撃ったしね；」

エリザベス『お疲れ様です』

ルイージが喜んだ後に冥王は腕を回し、オリマーとエリザベスがそう言う。

手に入れたお宝を持って全員は疲れた体を癒すのであった。

～鉱物王～

価値：２０００円

見た目：オリハルコン

イーバメモ：綺麗な鉱物だね。まさに鉱物の王に相応しい鉱物じゃないかい？

ドルフィンメモ：鉱物の中でも王とも誇れる鉱物です。これなら凄いのが出来そうですね。

～ファイヤークリスタル～

価値：１５００円

見た目：ルビー

イーバメモ：炎の様に染まった水晶だね。見てると心が熱くなりそうだね。

ドルフィンメモ：何か頑張りたい時にお守りに一番！これを見て…ファイヤー！！

～宇宙怪獣のキバ～

価値：２５００円

見た目：巨大な牙

イーバメモ：デカイ牙だね。宇宙怪獣らしいがどう言う奴なんだろうね。

ドルフィンメモ：宇宙怪獣の牙の１本！こう言うのとは遭遇したくありませんね。機械だけどゾクゾクしちゃいます

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

銀八「はい久々の質問コーナーだ」

蛇八「それじゃあペンネーム『匿名希望』から『質問です。　マリオとソニックが本気で戦ったらどんなことになるのでしょうか。（勿論全戦力を出して）』…言われた2人答えろ」

マリオ「引き分けが多いな最近」

ソニック「ＹＥＳ！全力でぶつかり合うと中々終わらないんだよな…確かに最大６時間もかかったけ？それで周りがボロボロでマスターハンドに怒られたよな…『修復する側の身にもなってくれ！＃』って言われたな」

銀八「との事です！『匿名希望』さん！廊下に立ってなさい！」

蛇八「今回は此処まで！」

と言う訳で真王さんとのコラボでした！

フォックス「隕石が大量に降ったんだな…」

スネーク「簡便したいものだな；」

ネス「感想を待ってます♪」

IS<インフィニット・ストラトス>黒き牙と永遠の月　カオス

スネーク「ユートピアとのコラボだ」

フォックス「異形の正体は…」

クッパ「んであっち側の新キャラ登場なのだ」

楓が異形の一部を持って行った後、マリオ達はフリーダム達の解析が終わるまで休憩していて、ドクターが来て、一夏達ＩＳメンバーの手当てを行なっていた。

マリオ「しかし…楓の奴、なぜ異形の一部を…」

千冬「謎としか言い様がないな」

ドクター「そうだね…」

腕を組むマリオの隣でドクターに楓に飛ばされる前にグリフォン零・コピーにより吹っ飛ばされた際に付いた腕の傷を手当して貰いながら千冬はそう言う。

一夏「後、どれ位であれが分かるんだ？」

ブリッツ「にんともかんとも…ジャスティス殿が戻らなければ…」

デスティニー「それ程、手こずってるんだな…」

箒に頭に包帯を巻いて貰っている一夏が聞き、ブリッツがそう言い、デスティニーは異形を見ながら言う。

デスサイズ「しっかし、新たなコピーが現れたな」

ヘビーアームズ『ホントホント』

ウイング「また新しいのを作られたら面倒だな」

ダブルオー「戦力なら負けないが複数だと手ごわいな」

デスサイズ、ヘビーアームズ、ウイング、ダブルオーが新たに現れた零・コピーとゼロ・コピーを思い出してそう言う会話をしていた。

セシリア「楓さん…絶対にやりますわよ！」

鈴「早く戻さないとね！」

椛「当然よ！」

シャル「絶対に！」

ラウラ「必ず嫁は取り返す！」

５人がそれぞれ行き込んでいると調べていたフリーダム、スターゲイザー、ジャスティスが来る。

フリーダム「皆！異形について分かったよ！」

スターゲイザー「他ニモ有リマシタガ先ズハ生物ニツイテヲ…」

ルイージ「異形の正体は？」

フリーダム、スターゲイザーが言うとルイージが代表で聞く。

ジャスティス「異形の正体は３００万年前の地層から発見されたカオスと呼ばれた生物で、もしかしたら零が言ったカオスプロジェク

トで使われた細胞とはカオスのではないかと俺達は思う」

千冬「なるほど…」

ソニック「カオス…何でそう言う名前が付いたんだ？」

フリーダム「まだ由来までは調べられてないんだ…」

終「そうか……ん？」

ジャスティスの説明に千冬が頷き、ソニックが首を傾げるとフリーダムが申し訳ない顔をし、終はある事に気づく。

零の言葉とジャスティスの推測で行き着いた。

終「まさか『女神の贈り物』はカオスの細胞か！？」

楯無「えっ？」

モモタロス「そういや、劣化を止めるには女神の贈り物が必要だって言ってたな…」

黒巣「それじゃあ、楓が持って行ったのって必要だったからか？」

終が叫び、楯無が驚いてる隣でモモタロスが思い出し、黒巣がそう言う

マリオ「…此処はメンバー分けした方が良いな…もし楓がＩＳ学園に来た場合のメンバーとドクターと共にこの研究所のデータ調べとカオスの細胞を調べるメンバー、そして楓を探すメンバーだな。Ｉ

Sメンバーは必ず後者だな」

腕を組んでいたマリオが纏めてそう言うとISメンバー以外でのメンバーは決まった。

IS学園に向かうメンバー：ヨッシー、黒巣、イマジンズ、ヘビーアームズ、ダブルオー、シャア、ウイング

データ調べ&カオス調べ：ドクター、黒狼、グリード5人、フリーダム、ジャスティス、ブリッツ、デスサイズ

楓を探すメンバー：マリオ、ルイージ、ソニック、明久、ムッツリーニ、ノワール、デスティニー、スターゲイザー、ガンダム、冥王、ISメンバー

と言う訳で楓を探すメンバーは探索に出たのは良いが…

ノワール「迷うってありか？」

マリオ「俺達、この世界の地理知らんからな；」

ソニック「YES」

デスティニー「俺達、来て短いからな…」

冥王「色々と退けるの？」

千冬「地理を変えたらさらに分からなくなるから止めろ」

歩いていてノワールの一言にマリオは頭を掻き、ソニックとデステ

ィニーが同意し、ストライクス・ハートを構える冥王に地冬が出席簿アタックを食らわす。

ちなみに歩くのはもしかしたら楓は飛んでいないで歩いてるのではと思ってのである。

スターゲイザー「アノ…近クニ建物ノ様ナ建築物ヲ見ツケマシタケド…」

明久「どうします？」

マリオ「……人がいれば道を聞くのに良いかもな」

スターゲイザーの報告に明久はマリオに聞き、少し考えてそう言うとスターゲイザーの案内の元、行くと館が見えた。

ソニック「古い感じがするな…」

カリバーン「何かありそうだな…」

デルフ「大御先祖、それ言ったら絶対ありそうだぜ」

椛「楓だったりして」

箒「まさか、そんな事…」

館を見て呟くソニックにカリバーンはそう言い、デルフが続けて言うと椛が言い、箒が否定して、扉を開けると…

楓「……」

終「いたんだなこれが…」

無言で立つ楓に終はそう言う。

マリオ「ソニック！冥王！」

ソニック「ＯＫ！」

冥王「了解なの！」

そんな楓にマリオとソニックはそれぞれの武器を構え、冥王はセットアップしたレイジングジャベリンを構える。

楓は右手にルシファーも持ち襲いかかる。

マリオ「でやっ！」

ソニック「とう！」

冥王「なの！」

３人で迎え撃ち、楓の攻撃を弾き返しては軽めの追撃を入れて行く。

ルイージ「こっちも準備しないと…ＫＡＭＥＮＲＩＤＥ！」

コスモスバックル「ライダーアップ」

ルイージはコスモスに変身し、強めのフルムーンレクトを放つ為に集中する。

ガンダム「何事もなければ良いんだけど」

ノワール「フラグ立てんな；」

そんな会話をしてる頃、別の場所で…

零「それでどうするんだ…アルベルス」

アルベルスと呼ばれた自身や終を生み出した科学者に零は話しかける。

アルベルス「そうだな…様子を見ておこう。どうするかをね」

彼はなぜ、こんな事をするのか、そしてカオスの詳細は…

と言う訳でユートピアさんとのコラボでした！

フォックス「アルベルスの口調や呼ばれ方が分からんな…」

スネーク「あっちにまだ出てないよな…」

クッパ「うむ」

ネス「感想を待ってます♪」

ベルさんウェルカム　ｂｙヘビーアームズ（前書き）

ヘビーアームズ『そんな訳でフランとレミリアさんの『魔法少女リリカルなのは～悪役面の主人公～』よりゲストを呼びます』

デスサイズ「いや～どうなるんだ？」

ウイング「さあな」

ベルさんウェルカム　ｂｙヘビーアームズ

ゼロブレスレッド「サモンライド！フラリア！！」

ルイージ「何で略されてるの！？」

フォックス「しかもマリオが言った略だし！」

ゼロ「知るか」

ベルさん『此処は？』

ヘビーアームズ『ベルさんウェルカム』

ベルさん『ヘビーアームズ！と言う事は…』

ゼロ「ようこそ！大乱闘スマッシュハーツブラザーズ出張版の世界へ！」

なのは「えっ！？何時の間に！？」

フェイト「どっ、どこ？」

アリサ「こっ、今度は何よ！」

すずか「えっ？えっ？」

女クロノ「あれ？」

女ユーノ「此処どこ？」

はやて「いっ、いきなり変わった！？」

ヴィータ「どうなってるんだ！？」

シャマル「どこなんでしょう？」

リニス「何で体が実体化してるんでしょうか？」

ルイージ「ベルさんＬＯＶＥズも来ちゃったぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！」

フォックス「これを上げるから喧嘩とか黒化しないでくれ」

っ、人数分用意されたのにぎっちり詰まったベルさん写真

ベルさんＬＯＶＥズ「おおっ！？」

ベルさん『何時の間に！？』

ヘビーアームズ『それにしても大変だったね』

ベルさん『ああ、まったくだ』

ウイング「さらに苦労しそうだな…ＳＴＳ編で」

ベルさん『止めてくれないか；』

ヘビーアームズ『大丈夫！フォローするから！』

デスサイズ「そうそう、良き理解者いるしな」

ベルさん『そちらは喋れて良いな…』

ガンダム「まあ、俺達はね…」

ヘビーアームズ『ベルさんは大変だよねＳＤになったら…』

ベルさん『うん…』

ウイング「そう言えば騒がしいな…」

デスサイズ「さっきフォックスに写真を貰ったから喧嘩はしないと思っただが…」

冥王「もうちょい腰入れるの！気を抜いたらすぐに弾き飛ばされるから踏ん張るの！」

なのは「はい！」

フェイト「頑張る！」

ベルさん『誰？なのはに似てるけど…』

ヘビーアームズ『冥王、修行マニアで暇が嫌いな人だよ』

ベルさん『はあ…またもや凄いな…』

冥王「どうせなら戦って見る？」

ベルさん「！」

ヘビーアームズ『ベルさん！こっちも手伝うよ！』

冥王「２人同時に来いなの！」

（冥王ＶＳベルさん＆ヘビーアームズが始まった）

すずか「なんか凄い事になってるね；」

アリサ「ホントね；」

リニス「ですが互角にやってます！」

女ユーノ「頑張れベルさん！」

女クロノ「負けるな！」

はやて「負けたら…うふふ♪」

ベルさん『負けるかぁぁぁぁぁ！！』

ヘビーアームズ『こっちもベルさんの友として守る！』

冥王「なははははは！！」

マリオ「…冥王の奴、本気出してないな」

ソニック「そりゃあベルフェは今は本気出せないしな」

フォックス「どうなるのやら…」

数分後

冥王「ふう、良き試合だったの」

ベルさん『こちらこそ』

ヘビーアームズ『危機一発！』

（引き分けに終わった様だ）

はやて「残念やな～」

リニス「確かにそうですね」

ベルさんＬＯＶＥズ「うんうん」

ゼロ「そろそろ帰すぞ～」

ヘビーアームズ『また遊びに来てね』

ベルさん『ああ』

（握手した後、ベルさんとベルさんＬＯＶＥズは帰って行った…ベルさんＬＯＶＥズはフォックスのお土産の写真を持って…）

ガンダム「ちゃんちゃん」

デスティニー「あんたが言うんかい！！」

ベルさんウェルカム　ｂｙヘビーアームズ（後書き）

と言う訳でフランとレミリアさんの所からのゲストでした～フランとレミリアさん、どうでしたか？

フォックス「ホントＳＴＳ編はどうなるんだろうな…」

スネーク「そうだな…」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　銀の侍と４人の女神　―　第別訓パート２２

スネーク「真王とのコラボ第２２弾！」

フォックス「今度はゴミ掃除か」

クッパ「らしいのだが…出て着そうなのだ；」

～スペースダクトギャラクシー～

『宇宙のゴミ捨て場の大掃除』

今回もイーバに呼ばれて星船に来たマリオ達

マリオ「今度は何だ？」

イーバ「これを見てくれれば分かるよ」

マリオの問いにイーバは手紙を見せる。それにマリオとルイージは見る。

パタマリアン管理人『もうこんなにゴミが多くてかなわんわ。だから何でも依頼を解決するあんたらに頼むわ。早くしぃや』

マリオ「今度はゴミ掃除か」

ルイージ「らしいね」

そんな訳でマリオはルイージとソニック、明久とムッツリーニと銀時、神楽、新八、桂、エリザベス、プリニー、ネプテューヌ、ノワール、ブラン、ベール、レーティア、ジャンヌ、ビビ、シャル、ギルシアとともに向かう。

オリマーと冥王も着ていたが、オリマーは銀時達が会った生物のデータを、冥王はヴィヴィオと遊ぶとの事で来ない。

スペースダクトギャラクシー

（ＩＢＧＭバトルロックギャラクシーｂｙスーパーマリオギャラクシー）

パタマリアン「まっとたぜ～ほな、この変の掃除頼むぜ。他にやるとこあるさかい」

着いた早々にパタマリアンはそう言うと別の場所に行く。

銀時「おいおい、めんどくさいな…」

新八「けれど銀さん、どうやらこの近くにお宝がある様ですよ」

神楽「オリマーに貰ったお宝探索機が早速役に立ったアルな」

頭を掻く銀時に新八は行く前にオリマーに渡された機械を見てそう言い、神楽がそう言う。

ノワール「それじゃあ早速するわよ」

ベール「けど…そう簡単には行かないそうよ」

ノワールがそう言った時にベールが言うと…イヴィルソルジャーとリッカーが現れる。

ギルシア「こいつ等は…」

シャル「また？」

ビビ「えっ？知ってるの？」

ジャンヌ「ちょっとね…ちゃっちゃっと……！？」

現れた集団にギルシアは構え、シャルが呆れた顔で言うとビビが聞き、ジャンヌがそう言って構えようとした時、隣からの殺気に驚く。

マリオ「成る程…こんだけ嫌な偽神気を放つとは…クソが付く程の偽神か…自分が強いと思ってる最弱な偽神か…」

ボキボキと指の関節を鳴らし、マリオが鋭い目でリッカーとイヴィルソルジャーを睨む。

それにリッカーとイヴィルソルジャーが後ずさるが1体のリッカーが鳴こうとして…

ドゴッ！

マリオ「喚くな、そして、俺と出会った事を後悔しろ」

地面に叩き付けて、そのまま上へ跳ねたリッカーや集団に低い声でマリオは言うとブレイブスラッシャーを取り出し、素早い速さでリッカーとイヴィルソルジャーを斬って行く。

レーティア「うそ…」

ギルシア「あっ、あっさり…」

ルイージ「ああ…兄さん怒ってるからさっさと掃除終わらせよう」

明久「そうですね」

ムッツリーニ「……この時の師父は止められない」

レーティアとギルシアが驚きの声が漏れるとルイージと明久、ムッツリーニはいそいそと掃除へ取り掛かる。

プリニー「ちょっ、ちょっと止めなくて良いんッスか!?」

ブラン「援護に行かなくて良いの?」

ルイージ「大丈夫だよ、あの時の兄さんは負けないから」

慌てて言うプリニーの後にブランが聞くとルイージがそう言う。

新八「けっ、けど…」

桂「彼の言う通りだ、我々が今入れば逆に足を引っ張るだろう…」

エリザベス『ってかもう終わりそうだし…』

渋る新八に桂がそう言い、エリザベスがマリオを見て言う。

沢山いたリッカーとイヴィルソルジャーの集団はもう残りわずかとなっていた。

どれもが塵が残らない程に倒されていた。

ベール「凄い…」

ビビ「…と言うか…殺気が凄過ぎない…」

圧倒的な光景にベルはそう呟き、ビビは震えながらそう言う。

ルイージ「兄さんは人の命を考えてない神や勝手に命を消して転生者を作る神を許さないんだ。それでそう言う者達を兄さんは偽神と呼んでいるんだ…」

ネプテューヌ「そうなんだ…」

シャル「ある意味、正義の味方ね…」

明久「先生は正義の味方じゃないよ…と言うかそう言う呼ばれ方は自分の世界以外じゃあ嫌ってる」

ムッツリーニ「……師父はただの配管工で旅人…そう言う人だ。だから俺達は出会った」

ルイージの説明にネプテューヌが言った後にシャルがそう呟くと明久が否定し、ムッツリーニがそう言う。

マリオ「おしまいっと…」

ブレイブスラッシャーを仕舞い、マリオは手をパンパンさせる。

マリオ「悪かったな…さあ！掃除しようぜ！このままだと怒られるし」

笑ってそう言うとマリオはゴミを掃除し始める。

銀時「そうだな」

ギルシア「ああ」

ネプテューヌ「うん！」

ブラン「そうね」

銀時とギルシア、ネプテューヌ、ブランがそう言うと他のメンバーも動く。

1分後、全てのゴミを銀時達は片付けていた。

ノワール「それにしても…ホントにゴミに紛れ込んでいたのね…」

目の前の『プラズマバッテリーβ』、『エロスノコ』、『オーガドライバー』『鉄切り』、『メモリーデータ』を見てノワールはそう言う。

パタマリアン「いや～あんがとさん♪それ等は持って帰ってええで～」

ほなと言ってパタマリアンの言葉を背に銀時達は去った。

～プラズマバッテリーβ～

価値：２０００円

見た目：単一電池（黒）

イーバメモ：最初に見つけたのと同じのだね。ホントに何種類あるんだろうね

ドルフィンメモ：エネルギーが詰まったバッテリーで同じのがあればさらに強力になります！

～エロスノコ～

価値：５００円

見た目：アレなキノコ

イーバメモ：これは…ある意味珍しいキノコだね。何の効果があるのやら…

ドルフィンメモ：色んな意味で珍しいキノコです！効果は実際に使ってください！

～オーガドライバー～

価値：２３００円

見た目：錆着いた歯車

イーバメモ：錆びてる歯車だね。使えるかどうか分からないね。

ドルフィンメモ：錆び付いた歯車で、錆びを落とせば使えるかもしれません！…私も錆びない様に錆び止めを塗って貰っとこう。

～鉄切り～

価値：７００円

見た目：ペンチ

イーバメモ：鉄を切るものだね。どう言う鉄が切れるのやら

ドルフィンメモ：鉄を切るには最適なお宝です！どんな鉄も一刀両断です！

～メモリーデータ～

価値：１０００円

見た目：メモリーカード（ＷＩＩ型）

イーバメモ：記録を取る為のカードの様だね。どれ位入るのやら

ドルフィンメモ：どんな記録も記憶出来るデータバンクですね。何を入れましょう。

真王さんとのコラボでした！

フォックス「マリオはな…」

クッパ「絶対にな…」

ネス「感想を待ってます♪」

IS<インフィニット・ストラトス>黒き牙と永遠の月　魂の泉

スネーク「ユートピアとのコラボだな」

フォックス「3局面での戦いだな」

ワリオ「だな」

マリオ「おりゃあ！」

楓「！」

館で楓と戦うマリオとソニック、冥王、マリオが攻撃して吹き飛ばす。

冥王「なかなかやるけど、本来の意識がなきゃあ無理なの」

レイジングジャベリンを構えて冥王は倒れた楓にそう言う。

楓「私は選ばれた存在なのに…」

マリオ「お前にとってはそうかもしれないが、俺にとってはただ縛られた存在に思えるよ」

椛「戻って楓！」

セシリア「あなたは私達の大切な人ですわ！」

鈴「選ばれたとか関係ないんだよ！」

シャル「そうだよ！」

ラウラ「戻って来い楓！」

楓の言った事にマリオはそう言い、椛たちが声をかける。

一方、ＩＳ学園の方は…

アクセルＢ「おりゃあ！」

ブレイド「であっ！」

ガタックＭＦ「来て早々、戦闘ってありかよ！」

電王ＡＦ「ぼやいとる場合じゃないで！」

シャア「その通りだ！」

エターナル「まったく、変身してる状態で行けますかね…この小説」

アビス「おっそろしい事言うなよ！」

ＩＳ学園で待機メンバーが合流したアクセルＢ、ブレイド、ガタックＭＦ、エターナルとアビスと共にコピー集団と戦っていた。

ダブルオー「はっ！」

ヘビーアームズ「！！」

龍騎「多いですね！」

ウイング「撃ち抜く！」

電王ＧＦ「バンバン！」

電王ＲＦ「けど、ホントに多いね！」

電王ＷＦ「しつこいにも程がある！」

ダブルオーと龍騎が切り裂き、ヘビーアームズとウイング、電王ＧＦが撃ってる中で電王ＲＦが来るゼロ・コピーを投げ飛ばし、電王ＷＦが攻撃を避けてカウンターを入れる。

そんな中…

零「増えているな…」

電王ＳＦ「あっ！てめえ！」

電王ＣＦ（クロノスフォーム）「零！何しに来た！」

現れた零に電王ＳＦが気づき、電王ＣＦが聞く。

零「単刀直入に聞こう。音梨　楓はどこだ？」

電王ＳＦ「誰が教えるかよ！」

電王ＰＦ「それに態々来て貰ったのだ…こんな騒動を起こしたお前を逮捕する！」

零の問いに電王ＳＦがそう叫び、電王ＰＦがそう言う。

さらに施設にて…

ドクター「これは…薬を作るにはまだ何か必要だな」

ブリッツ「そうなんでござるか？」

カオスの細胞を調べていたドクターは難しい顔をして手伝っていたブリッツが聞くとドクターは頷く。

フリーダム「複雑だな…」

ジャスティス「だが、着々とデータは集まってるんだ…」

メズール「そうね」

こちらもこちらで手間取っているが着々とデータを集めていた。

そんな時…

アルベルス「ほう、なかなか優秀な奴がいるんだな」

デスサイズ「誰だあんた？」

アルベルスが現れ、デスサイズがそう言う。

ドクターとブリッツ、フリーダムとジャスティス、黒狼とグリード達は構える。

アルベルス「私はアルベルス、カオスの細胞を渡してくれないかな？」

カザリ「もし渡さないって答えたらどうするのかな？」

手を差し出すアルベルスにカザリがそう聞くとアルベルスはパチンと指を鳴らすが…

シ～～～～～ン

ウヴァ「おい、何も来ないぞ」

ジャスティス「フェイクか？」

アンク「何がしたいんだ？」

アルベルス「？どうして来ないんだ？」

何も来ないのにウヴァはそう言い、ジャスティスが首を傾げ、アンクが訝しげな顔でアルベルスを見て、アルベルスは戸惑っていると…

Aリュウケンドー「お～いなんか大群いたけどやっつけといたぞ」

Aリュウガンオー「全滅させるのが大変だったな」

Aリュウジンオー「何だったんだ？」

Aリュウセイオー「そうだよな…」

Aリュウサイオー「まったく、美しくなかったよ」

Aリュウトウオー「大変だったねパール」

Aリュウレツオー「そうだな…」

Aリュウケンオー「アタイ達サイキョー！」

Aリュウアンオー「ふう、後でゆったりしたいもんだ」

フラン「全然だったね」

お空「うにゅ」

援軍で来た究極武装した魔弾戦士＋αがそう言って、それにアルベルスは冷や汗を流す。

ドクター「タイミング、間違えたのではないかな？」

デスサイズ「だよな…」

その様子にドクターとデスサイズはそう言う。

戻ってマリオ達

終「このまま行けそうだな」

一夏「そうだな…」

千冬「油断はするな…何かあると思うぞ」

ふらふらしてる楓に終はそう言い、一夏も同意すると千冬がそう言う。

コスモスがフルムーンレクトを放そうとした時…

マリオ「!?皆一箇所に集まれ!」

箒「なっ、何だ?」

楯無「えっ?」

突然のマリオの指示に箒と楯無が戸惑うがソニックはカリバーに変身して前に立つと魔方陣を張り、冥王もストライクス・ハートを構えると前方にシールドを張る。

マリオはゼロに変身してミラーフォームに変身すると2人と重なる様に鏡の盾を包み込む様に張る。

デスティニー「なっ、何が起こるんだ?」

スターゲイザー「!?楓サンヨリ強大ナエネルギー反応!」

ノワール「何!?」

楓「…魂の泉」

デスティニー、スターゲイザー、ノワールがそう言うと楓が呟くと同時にエネルギーが迸る。

スネーク「此処で終わるのかよ！」

フォックス「どうなるんだ？」

ネス「感想を待ってます♪」

色んな人がいるな～　ｂｙ明久（前書き）

スネーク「今回は榊の『元・闇魔の使い』と黒一文字の『バカとある兄妹と召喚獣』と『魔法先生ネギま！～第二の人生へと～』の２作品からゲストを呼ぶぞ」

フォックス「丁度な…ゲストの数的にも良いしな…」

ワリオ「うんうん」

色んな人がいるな～　ｂｙ明久

ゼロ「させ、ゲストを呼ぶか」

ルイージ「いきなりだね兄さん；」

ドクター「ホントだよ；」

明久「何で僕達も？；」

ムッツリーニ「……それで師父…誰を呼ぶんですか？」

マリオワールドの広い場所でゼロに変身したマリオがそう言い、ルイージ、ドクター、明久が言ってムッツリーニが聞く。

ちなみにフォックスとソニックもいる。

ゼロ「めっちゃ苦労してる人をだ…」

ゼロブレスレッド「サモンライド！榊！！」

ゼロはそう言い、カードを装填すると…

ウリエル「あれ？此処は？」

ウリエルが現れ、慌てて周りを見る。

ルイージ「ねえ兄さん、何でこの人？；」

ゼロ「いや、俺、朝霧や阿求達を呼ぼうと思ったんだけど…；」

慌ててルイージがゼロに小声で聞くとゼロも想定外だったのか戸惑っていた。

ウリエル「すみません。此処は幻想郷ですか？」

明久「いえ、此処はマリオワールドです。お姉さんはピットさんの仲間ですか？」

ウリエルの問いに明久はそう答え、逆に聞く。

ウリエル「私はウリエルと申しますがピットと言う人は知りません…逆に聞きますが朝霧　八雲って人を知りませんか？私は幻想郷に降りたつもりだったんですが…」

ゼロ「どうやら、その降臨と俺の召喚が偶然重なった様だな…まあ、ウェルカム、俺達の世界に」

ウリエルの問いにゼロはそう言うと歓迎の挨拶をする。

ウリエル「あの…私は朝霧様の元へ向かいたいのですが…丁度お土産もありますし」

ドクター「あ～～お土産なら此処のを持って行けば良いと思うよ；」

明久「だからのんびりしたらどうですか？」

ウリエルがそう言うと大体の事は2人から聞いてるドクターがそう呼び止め、明久がそう言う。

ルイージ「此処の果物やドクターのお薬を持って行けばきっと朝霧さんは喜ぶだろうな～～ドクターの薬は朝霧さんや神の人にも効くから、喜びそうな薬があると思うな～～」

フォックス「後、その朝霧って人の写真もあげるから」

ウリエル「いたせて貰います」

渋るウリエルにルイージが明後日の方向を向いてそう言い、フォックスが鞄にぎっちり詰まった朝霧の写真を見せるとウリエルは即答する。

ゼロ「まっ、まあちょっと遅れたが次のゲストは大勢だぞ」

ゼロブレスレッド「サモンライド！黒一文字！！」

ゼロがそう言うと音声と共に『バカとある兄妹と召喚獣』のルナ（セナ）・エスティードとクレス・エスティード、『魔法先生ネギま！～第二の人生へと～』の結衣咲（ゆいざき）シィとナギ・スプリングフィールド、青山詠春、アルビレロ・イマ、ジャック・ラカン、ゼクト、高町なのは、フェイト・テスタロッサ、八神はやてが現れる。

ルナ「此処どこ？」

セナ「（どこなんだろうね～？）」

明久「ようこそマリオワールドへ！」

クレス「何言ってるんだ明久？」

ナギ「おいおい、此処どこだ？」

ゼクト「召喚か？」

なのは「此処どこ！？」

ルナが周りを見て、明久が挨拶するとクレスが首を傾げ、ナギ、ゼクトも周りを見て、なのはが叫ぶ。

数分後

シィ「そうなんだ」

ルナ「だから明兄はああ言ったんだ」

シィとルナが代表でそう言い、ウリエルはシィは訝しげな目で見ていたがマリオは首を横に振るとウリエルは何か納得した顔をし、それにシィは首を傾げる。

マリオ「させと…訓練代わりの戦いをするかい？」

ナギ「おっ！良いぜ！」

ラカン「やってやろうじゃないか！」

マリオの言葉に真っ先にナギとラカンが食い付き、それに詠春とゼクトはため息を付く。

マリオ「組み合わせは俺＆明久＆ムッツリーニ＆ソニックＶＳ紅き

翼&なのは&フェイト&はやてだ」

なのは「あれ!?私も!?」

フェイト「私もいるよ」

はやて「うちも!?」

ゼクト「ワシは見るから入らん」

アル「私も」

マリオの言った事に驚くなのは、フェイト、はやての隣でゼクトとアルがそう言う。

ルナ「ちょっ、ちょっと明兄戦えるの!?」

クレス「後ムッツリーニも」

明久「大丈夫だよ」

ムッツリーニ「……俺達にも戦う術はある」

驚くルナの後にクレスが言うと明久はそう言い、ムッツリーニはネクサスベルトとエボルトラスターを見せる。

その後、バトルフィールドに移動する。

マリオ「させと…行こうぜソニック、明久、ムッツリーニ」

ソニック「ＯＫだぜマリオ！」

明久「行くよムッツリーニ！」

ムッツリーニ「……（コクン）」

ゼクトとアルを除いた紅き翼となのは、フェイトを見て、マリオがそう言うとソニックが答え、明久はムッツリーニにそう言うと２人はそれぞれの変身アイテムを構える。

明久「ＫＡＭＥＮＲＩＤＥ！」

ムッツリーニ「……ＫＡＭＥＮＲＩＤＥ」

ネオスバックル&ネクサスベルト「ライダーアップ」

その音声と共に明久はネオスにムッツリーニはネクサスに変身する。

ルナ「えぇぇぇぇぇぇぇぇ！？」

セナ「（カッコいいね～）」

クレス「あれがこの世界の明久達の力か…」

ウリエル「なかなか…まあ、朝霧様には遠いですね」

構えるネオスとネクサスにルナは驚き、彼女のもう１つの人格であるセナがそう言い、クレスは呟き、ウリエルはそう評価する。

ネオス「行くよ！」

ネオスバイザー「アドベント！ユニゾンベント」

そう言うとネオスはカードを装填するとモススピアを呼び出し、モススピアが光りの玉となり、ネオスの鎧に吸収されるとネオスの鎧部分が緑色にし、植物を模した感じに変えた感じの『仮面ライダーネオスグロー』となった。

ネクサスもジュネッスフォームとなる。

ルイージ「それじゃあ…レディーーーーゴー！！」

ルイージの宣言と共に両者飛び出す。

マリオ「おらららららら！！」

ラカン「ららららららら！！」

ナギ「だりゃりゃりゃりゃ！！」

マリオとナギ、ラカンがそれぞれの攻撃の連打を繰り出す。

ソニック「はっ！」

詠春「くっ！」

ソニックは詠春とぶつかり合い、若干押し…

ネクサスＺＦ「……」

フェイト「硬い！」

シィ「しかも力がある！」

ネクサスＺＦをフェイトとシィを相手に押している。

ネオスＧ「いけぇぇぇぇぇ！！」

なのは「にゃあぁぁぁぁぁ！！」

はやて「早すぎやぁぁぁぁ！」

残りのネオスＧが地面から木の鞭を出してそれでなのはとはやてを翻弄する。

アル「…凄いですね」

ゼクト「あ奴らもナギ達と似た様な感じじゃのう；」

その戦いぶりにアルとゼクトはそう言う。

詠春「雷鳴剣！」

雷を纏わせた刀でソニックに切りかかるがソニックはデルフで受け止め…

ソニック「グッドラック！」

詠春「ぐあっ！！」

隙のある腹に蹴りを叩き込む。

ネオスG「いっくよ！」

そう言うと同時に木の鞭が2人を攻撃した後にネオスGは飛び上がり…

ネオスG「いっけぇぇぇぇぇぇぇ！！」

なのは「にゃあぁぁぁぁ！！」

はやて「うちら何も出来ひんな…」

キックを叩き込む『フォレストアサルト』が決まるとはやてはポツリとそう言い、落ちる。

シィ「はあはあ…」

フェイト「ホントに強い…」

闇の魔法を使って戦うシィと高速戦闘に切り替えたフェイトだったが、ジュネッスフォームからノアフォームとなったネクサスに肩を上下させる。

2人にノア・パンチ→ノア・キック→ノア・エルボーとした後に纏まった所をノア・スパークで決める『ノア・コンビネーション』で決める。

ナギ「やるなあんた…」

ラカン「まったくだ」

マリオ「お前等もな…けど、これで決めるぜ！」

ナギ、ラカン、マリオがそう言うとスマッシュボールを割り…

マリオ「いやっはぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！！」

マリオファイナルを放つ。

ナギ&ラカン「でかっ！？」

巨大な炎の龍にナギとラカンがそう叫んだ後に飲み込まれる。

ルナ「……」

セナ「（デカかったね～）」

クレス「……流石は明久とムッツリーニの師匠…」

ウリエル「……」

フォックス「ようやるよ」

ルイージ「だね」

あまりの事にルナは呆然とし、セナはそう言い、クレスはそう呟き、ウリエルはじっと見て、フォックスとルイージは呆れた顔で言う。

数分後

明久「それじゃあそっちの試験召喚戦争頑張ってね」

ルナ「うん！」

ムッツリーニ「……雄二に勉強しとけと言わないと後が大変だぞ」

クレス「そうか…分かった」

ナギ「いや～あんたやるな」

マリオ「お前達もな」

ラカン「また戦いたいもんだな！」

シィ「次呼ばれた時は負けないわよ」

ソニック「頑張れよ」

詠春「ああ…」

アル「凄かったですね」

ゼクト「そうじゃな…」

はやて「うち等、マジで何もできひんかったな」

なのは「そうだね」

ドクター「まあ、修行あるのみだよ…体に負担が残る様な事をしな

いでね」

それぞれ言った後に黒一文字さんのメンバーはそれぞれ、元の世界に戻った。

ウリエル「色々とありがとうございます」

ルイージ「いえいえ」

ゼロ「それじゃあ戻すぞ」

そう言うとゼロは壁を出し、ウリエルはお土産が詰まった鞄を持って戻る。

ドクター「獣耳や獣尻尾が生える薬（色んなシリーズ）を5ダースにスタイルが望んだ数値に出来るよ君を1ダース、胃痛薬を3ダース…いや～沢山買って貰ったけど…渡すかな？」

ルイージ「さあ？」

そんな彼女を見送ってドクターは買って貰った薬の数を言い、ルイージはそう言う。

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

蛇八「と言う訳でペンネーム『真王』から『真王「うわぁ、イヴィルソルジャーとリッカー達が瞬殺…」

ネプテューヌ「あれにはさすがに参ったよ…」

真王「ではそんなマリオに、『偽神を嫌うきっかけはなんですか？』」

ネプテューヌ「確かにああいう神にあんな殺意を抱くのはきっとわけがあるんだよね。それじゃあ今度はリクエスト2ついくよ」『…と言う訳でマリオ、答えて貰うぞ」

マリオ「そりゃあな、色んな奴の命を勝手に消したり、そのまま責任を取らずに放置する奴や世界は自分の物と思ってる所が嫌なんだよ…」

銀八「と言う事です『真王』さん、廊下に立ってなさい！」

蛇八「今回は此処まで！」

色んな人がいるな～　ｂｙ明久（後書き）

と言う訳で榊さんと黒一文字さんからのゲストでした！2人ともどうでしょうか？

リュカ「朝霧さん…大丈夫かな？；」

クッパ「確かに…」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　銀の侍と４人の女神　―　第別訓パート２３

スネーク「真王とのコラボ第２３弾だな」

フォックス「これで７０話目だな」

クッパ「それで今回はめっちゃ速いようなのだ！」

～マッドスピードギャラクシー～

『暴走したお宝を止めろ』

マリオ「ギャラクシーの様子がおかしい？」

ルイージ「どうしたの兄さん？」

毎度の如く、イーバの手紙を見るマリオだったが眉を顰め、ルイージが聞くとマリオは手紙を見せる。

イーバ『次のギャラクシー何だがこりゃどうも様子が変なんだ。なんだかギャラクシーの障害物やモンスターたちが早く動いているみたいなんだよ。悪いけど早く手伝ってくれないかい？』

ルイージ「成る程…」

マリオ「んじゃあ行くか」

イーバの手紙の内容を理解したルイージにマリオはそう言った後、ソニック、ヴィヴィオに教えに行く冥王、明久、ムッツリーニと共に星船に向かい、そこで銀時、神楽、新八、桂、エリザベス、プリニー、レーティア、ジャンヌ、ビビ、シャル、ギルシアと共にその問題のギャラクシーへ向かう。

マッドスピードギャラクシー

（ＩＢＧＭマッドストーンギャラクシー ｂｙスーパーマリオギャラクシー２）

銀時「ホントに速いな…」

桂「うむ…異常過ぎるな」

目の前の光景に銀時と桂は呟く。

オニマス、ドッスンが凄い速さで動いている。

神楽「無理ゲーぽくないアルか？」

エリザベス『ってか一瞬でオワタでしょ』

プリニー「オワタッスね」

神楽、エリザベス、プリニーが無理と言う中…

マリオ「感じるぜ…嫌な偽神気を……」

レーティア「えっ！？」

ビビ「また！？」

ギルシア「おいおい…」

目を鋭くさせるマリオにレーティアとビビは驚き、ギルシアは簡便して欲しいと言う位にため息を付く。

シャル「それでどうするの？」

マリオ「此処は俺、ソニック、康太がやる…2人とも行くぞ」

ソニック「ＯＫ！」

ネクサス「了承」

シャルの問いにマリオはそう言った後、ソニックがそう言い、ネクサスに変身したムッツリーニが言うと3人は飛び出す。

新八「大丈夫でしょうかね？」

明久「大丈夫ですよ」

心配な新八に明久はそう言うとほらっと指す。

指した方には速いオニマスとドッスンを乗り越える3人が見えた。

ルイージ「兄さんは慣れてるからね」

ジャンヌ「そうだけど…凄いわね…」

ビビ「ホント、常識が通用しないわね…」

笑うルイージにジャンヌはそう言い、ビビは肩を竦める。

そしてマリオ達…

マリオ「お前達か！このギャラクシーの動きをおかしくしてるのは！」

目の前のお宝『超速度装置』を囲む６体のイヴィルマジシャンにマリオは叫ぶがイヴィルマジシャンは１体を残して突撃するが…

マリオ「てりゃあ！」

ソニック「はっ！」

マリオとソニックが５体のイヴィルマジシャンを切り裂くとネクサスが残った１体を切り裂く。

マリオ「ＫＡＭＥＮＲＩＤＥ！」

ゼロバックル「ライダーアップ」

その音声と共にマリオはゼロに変身するとカードをゼロブレスレッドに装填する。

ゼロブレスレッド「アタックライド！リペア！」

音声と共に暴走していた超速度装置は直り、ギャラクシーの速さが元に戻る。

銀時「おっ、元に戻ったみたいだな」

新八「そうですね」

目の前の光景に銀時と新八が呟くと超速度装置と『フリーズストーン』を持ってマリオ、ソニック、ネクサスが戻る。

マリオ「ほら、今回のお宝だ！」

ソニック「このお宝と魔導師みたいなモンスターが原因だったぜ」

銀時「成る程な…」

プリニー「それじゃあ帰りましょうッス！」

そう言うと全員星船に戻るのであった。

～フリーズストーン～

価値：２０００円

見た目：サファイア

イーバメモ：青い冷たそうな石だね。他のと似てるが変わってるね。

ドルフィンメモ：冷たい気分を味わいたいならこの石はいかがでしょうか？冷たくなると思います！

～超速度装置～

価値：２３００円

見た目：タイムウォッチ

イーバメモ：今回のギャラクシーの速さを上げていたお宝だね。それにしても良く行けたもんだね

ドルフィンメモ：速さを変えたいならこの一品！速くしたり遅くしたりとお得な一品ですが間違えた使用をしない様にしてください。

スネーク「と言う訳で真王とのコラボだ」

クッパ「良くやるのだ…ちなみに作者はミスしまくりだったのだ」

言うな；；

フォックス「でも事実だ」

ネス「感想を待ってます♪」

スネーク「真王とのコラボ第２４弾だ」

クッパ「今度は基地での戦いなのだ」

フォックス「しかも今回はな…」

～イヴィル大船団基地～

『ぶっ壊せ、イヴィル大船団基地』

コンパ「皆さ～ん！！」

アイエフ「大変よ！！」

マッドスピードギャラクシーから戻って来た銀時とマリオ達に星船にいたコンパとアイエフにヴィヴィオにヴィヴィオを教えていた冥王、ネプテューヌ、ノワール、ブラン、ベールが走って来る。

その後ろからグレイと神も来る。

銀時「どうしたんだ？」

ネプテューヌ「さっきね！宇宙パトロール隊長って人が来て…」

宇宙パトロール隊長『我々は宇宙パトロールの者だ。先日ある場所でなぞの宇宙船団が占拠しているのだ。我々の軍が奴らに全滅させられた。是非君達の力を貸してもらいたい。我々も援護する』

ネプテューヌ「だって！」

マリオ「成る程…占拠してるのは偽神の奴だな…感じるぜ…嫌な偽神気がな…」

目を鋭くさせるマリオだが、ビビ達はあの時感じた殺気を感じなかった。ヴィヴィオがいるからだろうか…

神「（ほほう、とてつもない殺気だな…）」

そんな中、神がマリオの中に渦巻く殺気を感じ取る。
と言う訳で星船にいたメンバーを入れてマリオ達はそこへ向かった。

イヴィル大船団基地

（ＩＢＧＭクッパＪｒ．の戦艦の港ｂｙスーパーマリオギャラクシー２）

マリオ「歓迎されてるようだな…」

神「そんじゃあ暴れるか？」

目の前のイヴィルソルジャー、リッカー、イヴィルマジシャンの大群を見てマリオがそう言うと神が聞き、マリオが頷くと…

マリオと神が大群の後ろに一瞬で立つと同時に大群は全滅した。

グレイ「なっ！？」

レーティア「嘘……」

ギルシア「一瞬…」

ジャンヌ&シャル&ビビ「……」

その光景にグレイは驚き、レーティアは口元を押さえ、ギルシアは呆然とし、ジャンヌ、シャル、ビビはポカーンと口を開く。

銀時「おいおいマジかよ」

新八「いっ、一瞬で全滅!?」

神楽「私等いらなくないアルか?」

ヴィヴィオ「2人共凄〜い!」

ネプテューヌ「そうだね」

ノワール「規則外過ぎるわ」

アイエフ「確かに」

ルイージ「リィーンさんの神様凄いな…」

銀時は頭を抑え、新八は驚き、神楽はその光景にポツリと呟き、ヴィヴィオは目を輝かせ、ネプテューヌは同意し、ノワールはため息を付き、アイエフは同意し、ルイージは関心交じりの呆れた声が出る。

マリオ「此処からは…」

神「俺様達のターンだ♪」

マリオと神とヴィヴィオと冥王とグレイ以外の一同「（それどこの地球（ほし）を清める宿命の騎士!?）」

指関節を鳴らした後にブレイブスラッシャーを構えるマリオがそう言って、大鎌を取り出した神が笑って続けるとヴィヴィオと冥王とグレイを除いた一同はツッコミを入れた後に彼等の後ろに獅子の顔を胸に持つ騎士が一瞬見えた。

そして宣言した通りに2人は駆け出し、軍団を倒して行く。

ベール「凄いわね」

ブラン「…一騎当千過ぎ」

コンパ「ホントに凄いですね～」

桂「うむ…あの2人は凄いな」

ソニック「マリオだし」

明久「そうだね…」

ムッツリーニ「……そして、あの神、やるな…」

ベールが言うとブランがそう言う隣でコンパと桂は関心し、ソニッ

クと明久がマリオと言う事で納得していて、ムッツリーニは神を見て言う。

ふっ飛ばしてる2人を追いかけて一同が追うと…

緑色で身体中触手を持ったマドロイドが現れたが…

マリオ&神「邪魔」

の一言の後に一瞬で2人により燃え尽きた。

銀時「強そうな奴だったんだけど…」

アイエフ「まっ、またもあっさり…」

ビビ「ってか邪魔って…」

プリニー「何か同情するッス」

エリザベス『確かに』

燃え尽きたマドロイドに銀時、アイエフは冷や汗を流して呟き、ビビはまたも口を開け、プリニー、エリザベスが同情の言葉を言う。

神「はっはっはっ！俺様たちを止めれるか！！」

マリオ「まったくだ！」

神は笑い、マリオがブレイブスラッシャーを振るいながらそう言う。

そして…奥に着くと…朱雀の様な合成獣・スザーグがいた。

マリオ「とことん腐ってるな…」

神「だが…俺様達に勝てるかな？」

それを見た2人がそう言うと…

スザーグの攻撃を避けた後にマリオが連続で切り裂いた後に…

神「フィニッシュ！」

大鎌で神がスザーグを一刀両断する。

着地した2人の後ろでスザーグが爆発してその場に『朱雀の奉玉』だけしか残ってない。

神「大暴れしたぜ☆」

マリオ「ふう～」

笑って言う神の後にマリオが一息を付く。

銀時「俺達、全然なかったな」

神楽「納得いかんアル」

新八「まあまあ」

その様子に銀時は呟き、不満げな神楽に新八は宥める。

ヴィヴィオ「神様もマリオさんもすご～い、私も頑張る！」

冥王「頑張るの！ヴィヴィオちゃんなら行けるの！」

プリニー「頑張るッス」

ビビ「ヴィヴィオちゃん、行かないでね；」

目をキラキラさせて言うヴィヴィオに冥王とプリニーは応援し、ビビはそう言う。

その後、星船に戻ったのであった。

～朱雀の奉玉～

価値：６０００円

価値：赤い勾玉

イーバメモ：朱雀の様な勾玉だね。しかし2人の行動がそんなに凄かったのかね？

ドルフィンメモ：四神の1体、朱雀の奉玉ですね。お守りとして持っていくと良いでしょうね。

リュカ「と言う訳で真王さんとのコラボでした」

スネーク「無双だったな」

フォックス「無双だな」

クッパ「うむ」

ネス「感想を待ってます♪」

三学年だよっ！ＢＳＡＡ学園！　別話！　同じ人がいると混乱は当然（前書き）

スネーク「と言う訳で今回は龍の骨の『三学年だよっ！ＢＳＡＡ学園』とのコラボだ」

フォックス「どうなるのやら」

マリオ「だな～」

零斗「はあ～今日は何もないな」

零斗は歩きながら、そうぼやく。

フランケン「別に良いだろ。何もない日位…」

それに一緒に歩いていたフランケンはそう言う。

他に、たけしとダイチ、キンジとアリアもいる。

零斗はふう～と息を吐いて前を見て、止まる。

たけし「どうした零斗？」

それにたけし達も前を見る。

オーズＳＧＣ「やった～～限定お菓子ゲット～～♪」

カザリ「いや、お菓子を手に入れたのは分かるけど何で変身して購入するの！？」

店からオーズＳＧＣが手に持ったお菓子を見て喜び、後から出たカザリがそんなオーズＳＧＣにツッコミを入れる。

アリア「カザリ！」

それにアリアは二丁のコルト・ガバメントを取り出し、カザリに発

砲する。

カザリ「ん?うひゃあ!?」

殺気を感じて見た先に銃弾が飛んで来ていて、カザリは足をそのまま体を後ろに反らす。

ダイチ「あっ、あれは!?」

零斗「マトリックス!?」

フランケン「いや、あれはただの上体反らしだろ;」

3人の会話の間に上体を反らしたカザリの上を銃弾が通り過ぎる。

オーズSGC「?どうしたのカザリ?」

カザリ「いや、いきなり見知らぬ人に銃弾を放たれたんだ…」

アリア「見知らぬだと!?あんたが私のママを!」

キンジ「待てアリア!」

首を傾げるオーズSGCにカザリはそう言うとアリアは怒り、キンジが抑える。

その様子に頬をポリポリするカザリはたけしとダイチに気づく。

カザリ「あっ!?君達はあの時の!?」

たけし「えっ！？」

ダイチ「もしかしてあんたは…あの時、リュウレンジャーに変身した奴といた方か？」

カザリ「そうそう！その時の！」

零斗「？お前等カザリと知り合いか？」

カザリに声をかけられ、たけしは驚き、ダイチが思い出して聞き、カザリがビシッと指し、零斗が聞く。

たけし「とある時にな」

ダイチ「俺も」

カザリ「あの時はいきなり空中だったから驚いたよ…それに僕は君が知ってるのとは別人だよ別人」

アリア「信じられるか！」

たけしとダイチの言った後にカザリがそう言った後にアリアに言うがアリアはまだ睨む。

ネロ「大変だぁぁぁ！！」

エリー「ダイチ君！暗黒流星団が…って何で此処にいるの！？さっき学園にいたのに！？」

そこに　ネロ達が来て、エリーがカザリを見て叫ぶ。

カザリ「ああ…分かっちゃったよ」

たけし「俺も」

零斗「暗黒星団の方のカザリか…」

エリー「えっ？えっ？」

その様子にカザリは肩をすくめ、たけしも同意して零斗が言うとエリーはどう言う事？と言う感じにダイチを見る。

カザリ「先に行くよ、ガメルは後から彼等と来てね」

オーズＳＧＣ「分かった～」

オーズドライバーを付けてオーズＳＧＣに言うカザリに言われた本人が答えた後、カザリはコアメダルを装填して、オースキャナーでスキャンする。

カザリ「変身！」

オーズドライバーＫ「ライオン！トラ！チーター！ラッタラッタ～ラトラーター♪」

不可思議な歌が流れるとカザリの周りにメダルが現れ、歌が終わると共にカザリは仮面ライダーオーズ・ラトラーターコンボへ変身する。

アリア「嘘…」

キンジ「すげぇ…」

ネロ「と言うか何さっきの歌？」

オーズＬＣ「歌は気にしないでね…それじゃあ行くよ」

そう言うと同時にオーズＬＣはチーターの部分を光らせた後に走る。

アリアと零斗を掴んで…

アリア＆零斗「何で！？」

オーズＬＣ「君は早く行きたいって顔で言ってたし、君はコラボ先の主人公だからだね」

フランケン「ちょ！後者メタ発言！！」

２人の問いにオーズＬＣがそう言うとフランケンがツッコミを入れるが姿はもうなかった。

シャロ「う～～～～ん」

ダイチ「どうしたシャロ？」

走り去ったオーズＬＣとオーズＳＧＣを見て唸り声を上げるシャロにダイチは聞く。

シャロ「実は呼ぶ前に暗黒流星団と戦う似た姿の人を見たんですよ」

たけし「マジで？」

ＢＳＡＡ学園にて…

オーズＴＣ「この！」

オーズＳＣ「喰らえ！」

タジャスピナーから火炎弾を放って影星達を倒すオーズＴＣと電気ウナギウィップで影星を纏めた後にボルタームウィップで攻撃するオーズＳＣがいた。

オーズＳＣ「多過ぎにも程があるぞ！」

オーズＴＣ「まったくだ！しかもこの世界にあいつ等がいるとはな…」

オーズＳＣがそう言うとオーズＴＣが自分達を見るこの世界のウヴァとカザリを見る。

すると…

ドーーーン！！

カザリ（龍の骨）＆ウヴァ（龍の骨）「ぎゃあぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！」

オーズＬＣ「あれ？何か轢いた？」

カザリ（龍の骨）とウヴァ（龍の骨）がオーズＬＣに突撃し、オー

ズＬＣは急停止して首を傾げる。

アリア「暗黒流星団のカザリ！お前を倒す！」

オーズＬＣ「何か複雑だな…自分じゃないけど…」

二丁のコルト・ガバメントを構えるアリアにオーズＬＣは頭を掻く。

オーズＧＣ「ぎゃあぁぁぁぁぁぁぁ！！」

すると別方向からオーズＧＣが走って来る。

オーズＬＣ「ウヴァ！？どうしたの一体？」

オーズＧＣ「勘違い女に追いかけられてたんだよ！…来たぁぁぁぁぁぁ！！」

自分の後ろに隠れるオーズＧＣにオーズＬＣは聞き、オーズＧＣはそう叫び、自分が走って来た方を見て叫ぶ。

ジャンヌ「待ってくださいウヴァ様～～～」

そう言って聖剣デュランダルを構える…ウエディングドレスを着たジャンヌが来る。

オーズＬＣ「誰ぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！？」

零斗「ああ…暗黒流星団のウヴァの追っかけ」

オーズＧＣ「だから追いかけてたのかよ！お前のあっち！」

ジャンヌを見て叫ぶオーズＬＣに零斗が言い、オーズＧＣが起き上がろうとするウヴァ（龍の骨）を指す。

ジャンヌ「はっ！こっちから私のウヴァ様の匂いが！…ウヴァ様～～フォックスさんから送られた写真の様にタキシードを！！」

オーズＬＣ＆オーズＧＣ「その格好の理由にフォックスが関わってたのかよぉぉぉぉぉぉ！！」

ウヴァ（龍の骨）「待てぇぇぇぇぇぇ！！」

ジャンヌ「待てませぇぇぇぇぇぇん！！」

２人が叫んだ後にウヴァ（龍の骨）は逃げ、ジャンヌはタキシードを持って追いかける。

たけし「おりゃあ！」

ダイチ「おりゃあ！」

オーズＳＧＣ「ふん！」

２人と入れ替わる様にたけし達が来て、影星達を迎撃して行く。

アリア「この！」

零斗「喰らえ！！」

カザリ（龍の骨）「おっと…流石に分が悪いね…」

アリアの銃撃と零斗の無数のパンチを避けた後にカザリ（龍の骨）は呟き、竜巻を起こすと姿を消す。

オーズＬＣ「逃げられたようだね」

アリア「くそっ！」

その光景に呟くオーズＬＣの隣でアリアは悔しがる。

オーズＳＣ「ウヴァ！ガメル！カザリ！」

オーズＳＧＣ「黒狼～」

オーズＧＣ「お前か…変身してるの」

オーズＴＣ「お前等が来ないから大変だったぞ」

オーズＬＣ「間に合ったから良いじゃない」

オーズＳＣが駆け寄り、オーズＳＧＣがお菓子を持って来て、オーズＧＣがオーズＳＣを見て言い、オーズＴＣが憮然とした口調で言うとオーズＬＣが肩を竦めて言うと世界の壁が現れ、５人を包み込む。

零斗「もう行っちゃったな…」

たけし「確かに…」

その様子に零斗とたけしは呟く。

なお、カザリ（龍の骨）はテルのお仕置きを喰らい、ウヴァ（龍の骨）はどうなったかは…原作者（龍の骨さん）しか知らない。

三学年だよっ！ＢＳＡＡ学園！　別話！　同じ人がいると混乱は当然（後書き）

と言う訳で龍の骨さんとのコラボでした～龍の骨さんどうでしたか？

フォックス「どうなったのやら～」

スネーク「おいおい；」

ネス「感想を待ってます♪」

IS<インフィニット・ストラトス>黒き牙と永遠の月　世界の再

スネーク「ユートピアとのコラボだ！」

フォックス「いきなりの楓の攻撃」

クッパ「そして女神の贈り物とは…」

ゼロＭＦ「何てパワーだ…」

館が吹き飛んだ後、バリアを解き、ゼロＭＦは楓を見て呟くと…

終「がっ！はっ！」

楯無「終君！？」

突然終が苦しみだし、楯無は慌てる。

ゼロＭＦ「これは…劣化が進んでいる！」

コスモス「えっ！？」

一夏「マジかよ！？」

終を見たゼロＭＦはそう言い、コスモスと一夏は驚く。

楓「朽ち果てろ…」

そんな終に楓はそう言うと飛んで行った。

ゼロＭＦはそんな楓の背中に何かを投げて貼り付ける。

一方のＩＳ学園

電王ＳＦ「こんにゃろ！」

龍騎「喰らえです！」

ウイング「撃ち抜く」

ヘビーアームズ「！」

電王ＧＦ「喰らえ！」

襲撃して来たコピー集団を倒して行き、零をダブルオーとアクセルＢ、ブレイドＪＦが挑んでいた。

ダブルオー「はっ！」

零「むっ…」

ダブルオーの斬撃を零は受け止めた後に後ろに飛ぶ。

ダブルオー「教えろ、女神の贈り物はカオスの細胞なのか？」

零「正確に言うなら加工されたカオスの細胞だ…だが、お前達に加工出来るか？」

ダブルオーの問いに零はそう言うと挑発する様に言う。

ダブルオー「成る程…」

ダブルオーは誰にも聞こえない声で呟く。

施設で…

カザリ「させ、あんた1人しかいないからどうする？」

ウヴァ「俺達相手に1人で挑むか？」

アンク「どうする？」

アルベルス「くっ…覚えておきたまえ！」

カザリとウヴァ、アンクの言葉にアルベルスは捨て台詞を吐き捨てると走り去る。

リュウアンオー「何だったんだ？」

リュウケンドー「だな」

デスサイズ「いや～相手にとってはバッドタイミング、こっちじゃあナイスタイミングで来たな～」

究極武装を解いて疑問を呟くリュウアンオーにリュウケンドーが同意するとデスサイズが話しかける。

フリーダム「ドクターさん！ダブルオーから連絡で女神の贈り物は加工されたカオスの細胞だそうです！」

ジャスティス「丁度カオスの細胞の加工の仕方も分かりました！」

ドクター「よし！大急ぎで作るぞ！」

フリーダム、ジャスティスの報告にドクターはそう言うとカオスの

細胞を摘出し、ジャスティスが表示したデータの通りに作って行く。

黒狼達はオーズに変身してアルベルスが再び来ない様に見張り、魔弾戦士達とお空、フラン、ブリッツ、デスサイズも同じ様に警戒する。

ドクター「こうやって！ああやって！んでもって！！」

ジャスティス「これで！ああで！それで！」

ドクターとジャスティスが素早い速度で作業を進める。

ドクター「出来た！！加工したカオスの細胞！」

ジャスティス「そしてそんなカオスの細胞を注入する専用銃！！」

カプセル状のそれを見せるドクターと銃を見せるジャスティス。

戻ってマリオ達

終「ぐっ！がっ！」

楯無「終君…」

千冬「まだなのか…」

苦しむ終を見て終の手を握る楯無、千冬は腕を組んで呟く。

マリオ「そろそろ来る筈だ…」

スターゲイザー「！エネルギー反応…コレハカオスエメラルドヲ使ッタエネルギー波デス！」

マリオが呟くとスターゲイザーがそう言う。

そして、光りが出た後にシャドウが現れる。

ソニック「シャドウ！」

シャドウ「待たせたね」

全員にシャドウはそう言うと銃を取り出し、加工されたカオスの細胞をセットして、終の腕に当てると注入する。

それをした事で苦しんでいた終の顔が安らぐ。

ノワール「おお！」

デスティニー「これで止まったんだな！」

シャドウ「ああ」

冥王「良かったの」

それにノワールは感嘆の声をあげ、デスティニーはシャドウに聞き、シャドウは頷き、冥王は安堵の息を吐く。

セシリア「楓さん…ホントどうして…」

鈴「ホントだよ…」

シャル「楓…何があったの…」

ラウラ&椛「……」

そして楓ＬＯＶＥズは今はどこかにいる楓を思い、それぞれ上を見る。

その頃、楓は緑色に輝く泉を見ていた。

楓「世界の再生…」

その泉を見て楓はそう呟いた。

世界の再生とは…楓はなぜおかしくなったのだろうか？

リュカ「と言う訳でユートピアさんとのコラボでした～」

クッパ「楓がおかしくなった原因は一体…」

スネーク「だな…」

ネス「感想を待ってます♪」

スネーク「ユートピアとのコラボ第２５弾だ！」

フォックス「タイトルのは…ああ、日本が冬だと反対側の国はクリスマスだと夏だからな…」

クッパ「確かにおかしくはないのだ」

～フローズンクリスマスギャラクシー～

『赤ハナのスノーキーをやっつけろ！』

マリオ「俺達を呼んだのは？」

銀時達の星船に来たマリオはイーバに聞く。

他に、ルイージとソニック、冥王、明久とムッツリーニが来ている。

イーバ「実はね、こいつが困ってるそうなんだよ」

そう言ってイーバが隣にいた星ウサギを前に出す。

星ウサギ「赤鼻のスノーキーがまた悪さをしてきたピョン。誰でもいいから退治してくれピョン」

マリオ「おいおい、この世界にもいるのか」

ルイージ「らしいね」

星ウサギの依頼にマリオは帽子を押さえ、ルイージは肩を竦める。

その後、銀時、神楽、新八、プリニー、ヴィヴィオ、レーティア、ジャンヌ、ビビ、シャル、ギルシアと共に行く。

フローズンクリスマスギャラクシー

（ＩＢＧＭホワイトスノーギャラクシーｂｙスーパーマリオギャラクシー２）

と言う訳で早速来た訳だが…

ヴィヴィオ「ひゃっほ～♪」

冥王「なの～♪」

神楽「うっほっほ～い」

到着早々、上記３人はスキーをした。

新八「何到着早々にスキーをしてるのぉぉぉぉぉ！！」

それに新八が早速ツッコミを入れる。

冥王「遊んだって良いと思うの」

ヴィヴィオ「楽しいよ～」

神楽「そうネ、今は出来ない事をやるのは当然アル」

シャル「いや、楽しむには良いけどね…」

ビビ「と言うか…ヴィヴィオちゃんと冥王さんは何でサンタルック？どこから用意したの？」

3人の言った事にシャルは頬をポリポリし、ビビがヴィヴィオと冥王の服を見て言う。

ちなみに今、ヴィヴィオは大人バージョンである。

冥王「ストライクス・ハートにはこうやって服を変える機能があるの」

ヴィヴィオ「それをクリスに入れて貰ったんだ～」

ストライクス・ハートを取り出し、服を何時ものバリアジャケットへ変えてサンタルックへ戻しながら言い、ヴィヴィオが楽しげに言う。

冥王「けどビビちゃん的には良いでしょ？」

ビビ「はい！」

新八「即答かよ！」

明久「目的はスノーキー退治なんですから…」

ギルシア「それと同時にお宝探しだな」

ムッツリーニ「……さっき1つは手に入った」

冥王の問いにビビは早く答え、それに新八がツッコミ、明久は苦笑して本来の目的を言い、ギルシアが付け加え、ムッツリーニが『幸せのくつ』を出して言う。

銀時「お～い敵退治手伝ってくれない？」

マリオ「色々と大変だよな」

ソニック「ＹＥＳ」

ジャンヌ「（いや、一掃した人がそう言う；）」

カチコチを倒しながら銀時はメンバーに話しかけ、スローマンの周りを回りながらマリオが言い、ソニックがスノーカボンを倒したソニックがそう言うとジャンヌが心の中でマリオにそう言う。

その後、『母想いの鈴』、『思い出の箱』』、『光繭』、『クリスマスの像』を手に入れる。

プリニー「それにしてもクリスマス関連のが多いッスね～」

ヴィヴィオ「これならクリスマス出来るね♪」

冥王「確かに出来るの♪」

プリニーは今まで見つけたお宝を見て呟き、ヴィヴィオは笑顔で言い、冥王も同意する。

ビビ「（それにしても…ヴィヴィオちゃん、強くなってるわね…）」

そんな中、ビビは冥王と会話しているヴィヴィオを見てそう呟き、さっきまでのヴィヴィオの戦いを思い浮かべる。

ヴィヴィオ『行くよ！アクセルスマッシュ！』

目の前に出した魔力弾を殴って飛ばし、カチコチ達を吹き飛ばすヴィヴィオ

ヴィヴィオ『ディバインレッグ！』

足に魔力を集束してスノーカボンへキックを叩き込むヴィヴィオ

ビビ「（…どんだけ教えてるのかしら；）」

見た事ないオリジナル技にビビは冥王を見て冷や汗を掻く。

マリオ「させ、そろそろだな…」

銀時「そろそろって…スノーキーが出る場所か？」

凸凹がある小惑星に乗ったマリオがそう言うと銀時が聞き、マリオは頷く。

そして次の小惑星に着いた時…

新八「銀さん！さっきまでいた小惑星が！」

銀時「何！？」

マリオ「あ～やっぱ同じだったか…」

新八の言葉に銀時はさっきまでいた小惑星を見て、マリオが呆れた顔で言う。

今までいた小惑星から雪がどんどんなくなって行くと中からスノーキーが出て来る。

神楽「頭だけアルか！？」

マリオ「こいつは鼻が弱点だ！鼻を狙え！」

神楽は落ちて来たスノーキーを見て驚き、マリオが言う。

ソニック「であっ！」

すかさずソニックがスノーキーの鼻に蹴りを叩きいれる。

明久「うわわわわ！」

冥王「一発！！」

怒って転がって来るスノーキーに明久は避けた後に冥王がレイジングジャベリンで鼻を突く。

さらに怒ったスノーキーが速くなって転がるがメンバーはなんとか避けた後に…

ヴィヴィオ「決めるよ！一点集中！シューティングバスター！！」

スノーキーの鼻に魔力を纏った左腕で殴り飛ばす。

殴り飛ばされたスノーキーは破裂すると『メインスター』が出て来る。

ヴィヴィオ「ヴィヴィオＷＩＮ♪」

冥王「ウィナー♪」

ヴィヴィオが腕を上げ、冥王がそう言う。

ギルシア「さっきの技はディバインブレイクと似てるが…」

冥王「違うの、シューティングバスターは防具破壊重視の技なの、一点に集中して叩き込んで破壊するの」

銀時「また、凄い技だな…」

マリオ「うんうん」

ギルシアが呟きに冥王はそう言い、銀時は呆れ、マリオは同意する。

その後、お宝を持って帰ったのであった。

～幸せのくつ～

価値：１０００円

見た目：プレゼント入り赤靴

イーバメモ：プレゼントが入った靴だね。中身は何だろうね

ドルフィンメモ：幸せを呼ぶくつです！これをもてば幸せになれるかも！

～母想いの鈴～

価値：８００円

見た目：ベル

イーバメモ：母への想いで詰まった鈴だね。鳴らしたら良い音色だね

ドルフィンメモ：母への想いたっぷりな鈴です！母親の前で鳴らして見ましょう！

～思い出の箱～

価値：２０００円

見た目：プレゼント箱

イーバメモ：思い出が詰まった箱だね。中身は気になるけどそのままにしとこうかね

ドルフィンメモ：思い出たっぷりの箱です！中身は色々な思い出が

詰まってるんでしょうね

〜光繭〜

価値：１４００円

見た目：クリスマスの飾り

イーバメモ：変わった光る繭だね。飾りとしては使えるそうだけどね

ドルフィンメモ：クリスマスツリーを鮮やかにしたい時に使える繭です！これを使って私も綺麗に…なるんでしょうか？

〜クリスマスの像〜

価値：１６００円

見た目：ツリーのフィギュア

イーバメモ：クリスマスを代表する像だね。上記のお宝を飾ればそのままクリスマスツリーに出来そうだね

ドルフィンメモ：クリスマスを元にした像です！これでクリスマスを迎えれるでしょう！

〜メインスター〜

価値：２０００円

見た目：星の飾り

イーバメモ：スノーキーの中から見つかったお宝だそうだね。これで星ウサギも安心するだろうね

ドルフィンメモ：メインとも言えるスター！これがなければクリスマスツリーはクリスマスツリーじゃないです！

リュカ「と言う訳で真王さんとのコラボでした！」

スネーク「今回はクリスマス関連のお宝ばっかだな」

フォックス「だな」

ネス「感想を待ってます♪と同時に作者が考えてる小説の予告なもんを公開！」

～予告～

それは幾つ物ある世界での本来の歴史とは違った流れを歩んだ龍騎士が歩む物語

真美「にーちゃんにーちゃん！ゆきぽを拾った！飼ってもいい？」

龍騎「何その子！？」

仮面ライダー龍騎こそ城戸　真司、ＯＲＥジャーナルの新人記者だったが今はＯＲＥジャーナルの編集長、大久保　大介の命令で７６５プロのダクションの龍騎となってプロデューサー仮面ライダーを勤めているが…

龍騎「ちょっとゆきぽちゃん、穴ほっちゃ駄目！あふぅも走り回らない！美希もちゃんと見て！」

個性豊かなメンバーに振り回されている。

龍騎「春香ちゃん！不用意にはるかさんを増やさないでって律子ちゃんに言われたでしょ！」

春香「あはは；」

色々と苦労したり…

律子「プロデューサーもしっかりしてください！」

龍騎「ホントゴメン；」

怒られたりもするが…

ドラグバイザー「ソードベント」

龍騎「しゃあ！行くぜ！」

ライダーの方も頑張る！

仮面ライダー龍騎～ライダーとアイドルとぷちどる日常～

巧「まあ…」

剣崎「良い事あるさ；」

真司「うん；」

日にち未定！

スネーク「…ホント作者は…」

フォックス「まだ別サイトで書いてるのにも終わってないのあるのに…」

……点数が全てじゃない　ｂｙムッツリーニ（前書き）

フォックス「と言う訳で黒一文字とのコラボだ！」

クッパ「試験召喚戦闘との事らしいな」

ネス「それと…ＰＶが２万突破！！」

リュカ「これからも頑張っていきますｍ（＿＿）ｍ」

……点数が全てじゃない　ｂｙムッツリーニ

ゼロ「と言う訳でお前等を呼んだんだが…」

千雨「いや、何がどう言う訳だよ師匠；」

ゼロに変身したマリオに千雨がツッコミを入れる。

他にルイージと明久、ムッツリーニに…

木乃香「はあ～せっちゃん可愛がるのはええな～」

月詠「ですね～」

刹那「……」

顔をツヤツヤさせた木乃香と月詠に地面に横たわった刹那がいた。

ルイージ「大丈夫？」

刹那「なっ、なんとか…」

ルイージの問いに刹那は起き上がりながら返す。

ゼロ「まあ、黒一文字のメンバーから試験召喚戦闘をやりたいそうだ」

千雨「ああ…だから私等を…」

ゼロの説明に千雨はそう言う。

ゼロ「と言う訳で召喚」

ゼロブレスレッド「サモンライド！黒一文字！」

その音声と共に結衣咲シィ、クレス・エスティード、ルナ・エスティード、黒一文字の吉井明久、坂本雄二が現れる。

ゼロ「よう」

シィ「こんにちわ」

明久「久しぶり！クレス君、ルナちゃん！」

ムッツリーニ「……そしてウェルカム、そっちの明久に雄二」

クレス「ああ」

ルナ「久しぶり！」

明久（黒一文字）「此処どこ！？」

雄二「おいおい、もしかして2人が言っていた異世界か？」

千雨「そうだよそっちの雄二、私は長谷川　千雨だ、よろしく」

挨拶するゼロにシィも返し、明久とムッツリーニも言ってクレスとルナも返し、明久（黒一文字）は周りを見て叫び、雄二も驚いていたが納得し、千雨がそう言って自己紹介する。

2分後

明久（黒一文字）「へえ～そうなんだ」

雄二「驚きだな」

シィ「それで…挑むのは私達5人と明久君とムッツリーニ君と千雨ちゃんと刹那ちゃんと木乃香ちゃんだね」

明久（黒一文字）と雄二は説明を理解した後にシィが対戦するメンバーを言う。

ゼロ「まあ、そちら側に応援するのを1人追加するが…ちょっと衝撃来るが気にするな」

ルナ「はい？」

ゼロブレスレッド「ファイナル・フォームライド！ル・ル・ル・ルナ！！」

ルナ「はうっ！？」

ゼロの言った事にルナは首を傾げてる間にゼロはカードを装填し、それにルナに小さい衝撃がした後に…

セナ「あれ～？」

ルナ「えっ！？」

明久「ルナにそっくりな人出た！？」

明久（黒一文字）「もしかしてセナ！？」

セナ「そうだよ～」

ルナの隣に現れたルナにそっくりな少女、セナにルナと明久は驚き、明久（黒一文字）はセナと気づき本人もそう言う。

クレス「何をしたんだ？」

ゼロ「特別なＦＦＲカード、この世界（小説と小説の感想）にいればルナとセナは分離した状態で黒一文字が望めばそっちでも２人は分離した状態で行けるのだ」

ルイージ「ああ、楓ちゃんと椛ちゃんを分けた奴ね；」

クレスの問いにゼロはそう説明し、ルイージは思い出して言う。

ルナ「と言うか何で私と同じ姿で性別？男の子だよセナは？」

明久「えっ！？そうなの？」

明久（黒一文字）「うん」

クレス「どうしてだ？」

ゼロ「さあ？」

ルイージ「って兄さんも分かんないの！？」

ルナの言葉に明久は驚き、明久（黒一文字）は頷き、クレスが聞くとゼロは両腕を上げて、分からない動作をするとルイージはツッコミを入れる。

雄二「姿がそっくりなのはやっぱ双子だからじゃないか？」

ムッツリーニ「……後、秀吉の様な感じ」

雄二を除いた黒一文字メンバー＆ムッツリーニを除いたマリオ一同「ああ～～」

雄二とムッツリーニの推測にメンバーは納得する。

マリオ「そんな訳でやるぞ…ちなみに召喚フィールドは蛇八先生がやるから」

蛇八「俺、こっちでもこうなるのね…」

マリオ「うん、んで対戦する順番はこの紙に書いた」

マリオがどこからともなく現れたスネークもとい蛇八を前に出し、蛇八がため息を付いた後にマリオは紙を出してみせる。

シィＶＳ木乃香

クレスＶＳムッツリーニ

ルナＶＳ千雨

明久（黒一文字）ＶＳ明久

雄二ＶＳ刹那

そんな訳で最初にシィＶＳ木乃香が始まる。

シィ＆木乃香「試験召喚（サモン）！」

蛇八により張られた召喚フィールド内で２人が叫ぶと同時に幾何学魔方陣が現れ、そこからそれぞれをデフォルメした召喚獣が現れ、それぞれの武器を構える。

雄二「ほお～近衛は盾か…」

明久「逆にシィさんは杖か…」

雄二と明久がそれぞれの感想を言った後に数字が表示される。

結衣咲シィ
総合評価
１２７２７点

ＶＳ

近衛木乃香
総合評価
１００００点

シィ「あれ！？何で私の点数が半分なの！？」

マリオ「自分の実力でやったのは良いけど流石に雷化をしてのテスト受けは反則と見なして半分にした」

クレス「そりゃあな…」

表示された自分の点数にシィは驚き、マリオがその訳を話してクレスはされて当然と言う風に頷く。

シィ「はあ…やってやる！」

木乃香「負けへんで～」

ため息を付いた後にシィはそう言うとシィの召喚獣は杖を構え、木乃香の召喚獣も盾を構える。

シィ「と言う訳で早速、スターライト～ブレイカァァー！！」

マリオと木乃香を除いた一同「いきなり大技！？」

初っ端から大技を出すシィにメンバーは驚き、木乃香は慌てず盾を構える。

ドカーーーン！！

明久（黒一文字）「これは流石に…」

雄二「いや、盾だからきっと相手の腕輪は…」

煙に包まれた所を見て呟く明久（黒一文字）に雄二は木乃香を見ていて腕輪の能力を推測して言う。

すると…光った盾を構えた無傷の木乃香の召喚獣が立っていた。

シィ「防いだんだあれを…」

木乃香「うちのは絶対防御や～盾を構えていれば後ろにいる人は全員無傷なんやで～～そんでもってお返しや～」

驚いた様子で言うシィに木乃香は腕輪の効果を言ってシィにそう返すと木乃香の召喚獣は盾から鎖を取り出し、それを振るうと盾は鉄球となり、それをシィの召喚獣に向けて投げる。

シィ「うぃ！？」

それにシィはあっけに取られた後に慌ててかわそうとするが避けきれずにシィの召喚獣は鉄球に潰される。

木乃香「連続攻撃や～」

そう言うと木乃香の召喚獣は鉄球を振り回してぶつけて行く。

明久（黒一文字）「うわぁ…」

雄二「容赦ないな…」

その様子に明久（黒一文字）は呟き、雄二は呆れた顔で言う。

結衣咲シィ
総合評価
０点

ＶＳ

近衛木乃香
総合評価
９６００点

シィ「うぅ…腕輪を使わせる以外に点数を削れなかった…」

木乃香「しょうがないって、シィさんって初めてやろ？次やられたらやばいと思うわ～」

項垂れるシィに木乃香はそう言う。

クレス「させ、次は俺か…」

ムッツリーニ「……負けない」

ルナ「お兄ちゃん頑張れ！」

セナ「頑張れ～」

明久「ムッツリーニガンバ！」

千雨「しっかりな！」

応援を受け、２人はシィと木乃香と変わると構える。

クレス＆ムッツリーニ「試験召喚（サモン）！」

２人の言葉と共に召喚獣が現れ、構える。

クレス・エスティード
総合評価
１２００１点

ＶＳ

土屋康太
総合評価
６４００点

明久（黒一文字）「うぇぇぇぇ！？」

雄二「ほお…こっちのムッツリーニやるな…」

表示された点数に明久は驚き、雄二は関心の声をあげる。

クレス「行くぞ」

ムッツリーニ「……いざ参る」

それぞれ言った後にぶつかり合う。

明久（黒一文字）「凄い…」

雄二「点数が2倍離れてるのにやってるな…」

素早い速さでそれぞれの攻撃を掃いて行くクレスとムッツリーニに明久はそう言い、雄二はムッツリーニの操作にまた関心の声をあげる。

クレス・エスティード
総合評価
６４００点

ＶＳ

土屋康太
総合評価
３２００点

クレス「これで決める！」

そう言うと腕輪が光り、クレスの召喚獣は連続で剣を突き出し、ムッツリーニの召喚獣を連続攻撃する。

それにより、ムッツリーニの召喚獣は倒れる。

クレス「秋沙雨…」

クレス・エスティード
総合評価
６３９０点

ＶＳ

土屋康太
総合評価
０点

クレスが技名を静かに言うとムッツリーニの点数は０になった。

ムッツリーニ「……無念」

明久「いや、良くやったよ」

千雨「そうそう、んじゃあ私だな」

ルナ「負けないわよ！」

セナ「頑張れ～」

クレス「気を抜くなよ」

明久（黒一文字）「頑張れ！」

それぞれ言葉を言った後に千雨とルナが前に出て、構える。

ルナ＆千雨「試験召喚（サモン）！」

そう言うと2人の召喚獣が現れ、点数が表示される。

ルナ・エスティード
総合評価
１１９２２点

ＶＳ

長谷川千雨
総合評価
４０００点

明久「へえ～ルナちゃんの召喚獣は魔法少女で長い杖か…」

明久（黒一文字）「んで千雨ちゃんはチャイナ服で…素手？」

雄二「いや！良く見ろこっちの明久！」

明久がルナの召喚獣を見て言い、明久（黒一文字）は千雨の召喚獣を見て首を傾げ、雄二が良く見る様に言い…

雄二「グローブを付けてるぞ」

明久（黒一文字）「それでも素手だよね！？」

付け加えた雄二の言葉に明久（黒一文字）はツッコミを入れる。

ルナ「変わってるわね」

千雨「舐めるなよ、こちとらこれでも勝ってるんだからな」

そう言うと千雨の召喚獣はダッシュしてルナの召喚獣を殴る。

ルナ・エスティード
総合評価
１１８００点

ＶＳ

長谷川千雨
総合評価
４０００点

千雨「おりゃりゃりゃりゃ！」

そのまま千雨の召喚獣は連続で殴っていく。

ルナ・エスティード
総合評価
１００００点

ＶＳ

長谷川千雨

総合評価
４０００点

雄二「ほお～ごり押しだな…」

セナ「ごり押しだね～」

ラッシュしてる千雨の召喚獣を見て雄二とセナは呟く。

明久（黒一文字）「何でルナは攻撃しないの？」

クレス「調べてるんだろうな…相手の戦法とか受けるダメージを…」

マリオ「だな」

明久（黒一文字）の疑問にクレスがそう言い、マリオも同意する。

千雨「今度はこれだ！」

千雨がそう言うと腕輪が光り、千雨の召喚獣は距離を取ると右腕が炎を纏い、ルナの召喚獣に向けて炎の竜巻を放つ。

ルナ「今だ！アクセルシューター！！特別大量バージョン！！」

そう言うとルナの召喚獣は横に避けた後に杖を千雨の召喚獣に向けると大量の魔力弾が千雨の召喚獣を囲む。

それに千雨の召喚獣は逃げ道を探すが見つからず…

ルナ「いっけぇぇぇぇぇぇ！！！」

ルナの言葉と共に全ての魔力弾は千雨の召喚獣に向けて飛んで行き…

ドカーーーン！！

爆発がおき、その場に黒漕げの千雨の召喚獣が目を回していた。

ルナ・エスティード
総合評価
８６００点

ＶＳ

長谷川千雨
総合評価
０点

千雨「あっちゃ…」

明久「どんまい」

明久（黒一文字）「やったねルナ！」

ルナ「うん！明兄も頑張ってね」

それぞれ声をかけた後に両方の明久が並ぶ。

明久（黒一文字）「不思議だよね。自分と戦うなんて」

明久「確かにそうだね…けど、手は抜かないよ！」

明久（黒一文字）「それはこっちのセリフだよ！」

お互いにそう言った後に構える

W明久「試験召喚（サモン）！」

お互いの召喚獣を召喚する。

吉井明久（黒一文字）
総合科目
３８４４点

ＶＳ

吉井明久（鳴神　ソラ）
総合評価
４０００点

雄二「なかなか良い勝負になりそうだな」

千雨「そうだな」

雄二と千雨が言った後に２人の明久は構えるが動かない。

クレス「動けないか…」

ムッツリーニ「……動いた方が負けると考えている」

その様子にクレスとムッツリーニはそう呟く。

お互いに相手を睨み、木刀を握る腕にさらに力を入れる。

そして…マリオがコインを取り出し、ピーンと上に弾き…

チャリン！

W明久「！」

落ちると共に木刀を振って、交差した後に振り切った態勢でいる。

そして…黒一文字の方の明久の召喚獣が倒れる。

吉井明久（黒一文字）
総合科目
０点

ＶＳ

吉井明久（鳴神　ソラ）
総合評価
１０点

明久「ふう～…ってかやっぱ痛いな…」

明久（黒一文字）「そうだね…」

お互いに痛みが入った場所を押さえると近寄り…ニッと笑いあった後に握手する。

明久「凄かったよ！頑張ってね！」

明久（黒一文字）「うん！」

雄二「んじゃあ俺の番だな…んで、俺の相手の桜崎はどこ行った？」

セナ「そう言えば～木乃香さんと月詠さんもいませんね～～」

握手しあいそう言う2人の明久を見た後に雄二が立ち上がり、周りを見て刹那の姿がない事に気づき、セナも木乃香と月詠がいない事を言うと…

刹那「おっ、遅れてすまぬ…；」

そう言って杖で体を支えながら刹那が来る。

その後から笑顔でツヤツヤの木乃香と月詠が来る。

雄二「だっ、大丈夫か？」

刹那「色々と慣れてるので大丈夫だ」

雄二「そっ、そうか…；」

雄二に声をかけられ、刹那はそう言い、雄二は冷や汗流しながら答える。

２人の明久と代わって立った後に構える。

雄二＆刹那「試験召喚（サモン）！」

その言葉と共に召喚獣が現れ、点数が表示されるが…

坂本雄二
総合科目
３９５８点

ＶＳ

桜崎刹那
総合評価
５００点

刹那＆木乃香＆月詠を除いた一同「えええぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！？」

刹那の点数に刹那と木乃香、月詠を除いたメンバーは驚く。

雄二「ちょっ！何で総合評価でそんなに低いんだよ！？普通に明久より頭良いと思ってたぞ俺は！」

Ｗ明久「おいこら雄二！！どう言う意味だよ！」

驚いて言う雄二にW明久が怒る。

刹那「そっ、それは…その…時間がなく…」

雄二「……ああうん分かった。深くは聞かん」

背中に白き翼を持ち、覇王大系リューナイトの月心の格好をした己の召喚獣と共に指をツンツンして顔を赤くする刹那に雄二は木乃香と月詠を見た後に理解し、顔を押さえて言う。

刹那「そう言ってくれると助かる…ぜは、桜崎　刹那…参る！！」

顔を赤くしていた刹那だったが顔をキリッと引き締めると刀を構えて突撃し刀を振るう、雄二の召喚獣は避けるが掠る。

坂本雄二
総合科目
３８００点

ＶＳ

桜崎刹那
総合評価
５００点

雄二「やるな…」

刹那「点数が全てではないと言う事だ雄二」

雄二「確かにそうだな」

刹那の召喚獣の動きに雄二は関心の声をあげ、刹那の言葉に雄二は口をニッとする。

雄二「（しかしあいつ…召喚獣の操作は明久よりかは劣るがありゃあ…リアルでの実戦に慣れてるからだろうな…）」

雄二は召喚獣を動かしながら刹那を見てそう心の中で呟く。

ルナ「凄いね刹那さん…」

月詠「そりゃあうち等の嫁ですからお姉さまは」

木乃香「せやな～」

クレス「いや…色々と違わないか」

千雨「あ～…あんまりツッコムと疲れるから止めとけ」

２人の戦いを見てルナが言った後、月詠と木乃香が胸を張っていい、クレスはそう言い、千雨が諦めた顔でクレスの肩に手を置いて言う。

坂本雄二
総合科目
１０００点

ＶＳ

桜崎刹那
総合評価
１００点

雄二「まさか此処まで減らされるとはな…」

刹那「そちらこそ…中々の努力家と分かる」

顎の汗を拭う雄二に刹那がそう言う。

雄二「これで決めてやるよ！」

刹那「拙者も！」

雄二と刹那がそう言うとお互いに駆け出し、刹那の召喚獣が刀を振り下ろすが…

雄二「この！」

その斬撃を横に避けた後に空いた腹にアッパーを決める。

坂本雄二
総合科目
１０００点

ＶＳ

桜崎刹那
総合評価
0点

雄二「ふう…」

刹那「流石はFクラスを代表する者だな」

雄二「そっちこそ、さっきのは危なかったぜ」

一息付く雄二に刹那が近寄って褒め、雄二も返す。

マリオ「なかなか良い勝負だったな」

蛇八「確かに」

マリオと蛇八がそう言った後に刹那は木乃香と月詠に連れて行かれ…

刹那「アァーーーーーーーーーーーーーー!!」

刹那の叫び声の後に木乃香と月詠の笑い声が響き、それにシィとルナと明久（黒一文字）は冷や汗を流し、明久とムッツリーニ、千雨、雄二、クレスは手を合わせる。

その後、話した後にシィ達は帰ったのであった。

……点数が全てじゃない　ｂｙムッツリーニ（後書き）

と言う訳で黒一文字さんとのコラボでした～黒一文字さん、どうでしょうか？

明久「あははは；」

ムッツリーニ「……あれはな…」

ネス「感想を待ってます♪」

IS&It;インフィニット・ストラトス>黒き牙と永遠の月　緑の光

スネーク「ユートピアのコラボだ」

フォックス「前回のユートピアのコラボは！」

1つ！楓の攻撃を止めた後、終が体の劣化で苦しむ！

2つ！劣化を止める為の女神の贈り物が加工されたカオスの細胞と分かる！

そして3つ！ドクターとジャスティスの活躍により終の劣化が止まる！

ワリオ「久々に出たなこれ…

ＩＳ学園で…

ダブルオー「ふん！」

零との戦いはまだ続いており、ダブルオーの攻撃を一歩避けた後に零は去って行く。

アクセルＢ「何だあいつ？」

ブレイドＪＦ「追いかけた方が良いんじゃないか？」

疑問詞を浮かべるアクセルＢにブレイドＪＦがそう言うと誰もが同意した時…

彼等の頭上を緑色の光が通り過ぎる。

ウイング「！」

シャア「何だあれは！？」

電王ＣＦ「これは…合流した方が良いな…」

電王ＲＦ「確かにそれには同意だね…どうせなら彼を追いかけながらね」

ウイングとシャアが驚き、電王ＣＦが言った後に電王ＲＦが出した意見に全員同意して零を追いかける。

施設の方では…

フリーダム「ドクターさん！」

ドクター「ああ！」

アンク「情報は出てるぞ…どうやら一点に目指してるようだぞ」

フリーダム達の方でも確認されていた。

ドクター「マリオ君達と合流しよう。もしかしたらこれの集まる場所に楓君はいるだろう」

黒狼「賛成です！」

そう言うとドクター達はマリオ達の方へ向かう。

マリオ達の方では…

マリオ「おいおい…」

一夏「マジかよ…」

箒「あれは一体…」

マリオ達も起きた出来事に驚いていた。

ピリリリリリリリ！

千冬「私だ…もしもし」

束『ちぃちゃ～～ん、束さんだよ～』

千冬「束か…なんだ?今起きてる現象についてか?」

束からかかって来た事に千冬はそう聞く。

束『鋭いね～～実は世界各地で緑の光がある一点を目指しているんだよ～今その場所のデータを送るね』

千冬「分かった…」

そう言って通話を終えると束より場所のデータが送られて来た。

千冬「行くぞ、私が先導する」

楯無「はい!」

ルイージ「はい!」

千冬の言葉の後にそれぞれ飛べる状態になるとその場所へ向かう。

飛んでいて…数分後

ドクター「マリオく～ん」

施設にいたドクター達が来てフリーダムによって運ばれてるドクターが代表で声をかける。

シャル「ドクターさん！」

ドクター「君達も気づいたんだね…あっ、そうそう終君、これを…」

そう言うとドクターは加工されたカオスの細胞のカプセルを終に渡す。

終「これは…」

ドクター「何かあった時の為の予備の薬だよ」

カプセルを見る終にドクターは言う。

零「待て」

そんな彼等の前に零が現れる。

終「零…」

ラウラ「邪魔をするか…」

アクセルB「お～い」

現れた零に終は零を見て、ラウラが睨むとそこにアクセルB達が来る。

零「俺と戦え！」

鈴「とうせんぼうか…」

シャル「つまりこの先に楓がいるんだね…」

終「（零の奴…なぜそんなに俺達と戦いたがるんだ?…倒されたいのか…倒されたい理由…まさか!）」

レイピアを構える零に鈴はシャルが呟いた後、終は考え、零の考えとある事に気づき、ドクターに渡された物とさっきシャドウに渡された物を握った後…

終「皆、此処は俺にやらせてくれ」

そう言うと終はハデスを握り、零とぶつかり合う。

その頃、楓の方では…

アルベルス「成る程…凄い事になってるな…」

アルベルスが来ていた。

そして楓に近づこうすると楓は振り返り、狂気じみた笑みを浮かべ…

アルベルス「!ぐっ、がぁぁ!!?」

突然、アルベルスはモンスターに変わった。

戻ってマリオ達…

終「この!」

零「ぐっ!」

終の斬撃に零は防御するが吹き飛ぶ。

超電王ＨＣＦ「何だ？あいつ動きが鈍くないか？」

楯無「そう言えば…」

見ていた超電王ＨＣＦが首を傾げ、見ていた楯無が呟く。

零「はあはあ…ぐっ！がっ！」

態勢を立て直そうとした零だったが突然、胸を押さえる。

ゼロ「やはりな…奴も終と同じ症状が…」

椛「だから苦しんでるのね…」

ゼロの言葉に椛は呟く。

終はそんな零に近づく。

零「俺を倒せ…ゼロ…」

苦しげに終を見て自分を倒す様に言う零だが、終はドクターから渡されたカプセルをシャドウより渡された銃にセットすると零の腕に当て、零に注入する。

零「ゼロ、お前…」

終「わりぃがお前のその願いは聞いてやらねえよ相棒」

胸を押さえる零に終はそう言うとモンスターとなったアルベルスが現れるが…

ゼロ「はっ！」

零と終に襲い掛かろうとしたアルベルスをゼロは蹴りで吹き飛ばす。

セシリア「何ですかあれは!?」

ゼロ「どうやら我を失っているな…」

ネオス「どうするんですか先生?」

アルベルスを見て驚くセシリア、呟くゼロにネオスは聞く。

ゼロ「ネオス、あのカードの準備をしといてくれ」

ネオス「えっ?あっ、はい」

ゼロの指示にネオスは戸惑ったが返事するとゼロは変身を解いて、マリオに戻るとアーカイブカードを取り出してテキストを読む。

マリオ「『オイデカブツ…こんなもんじゃ俺の魂は折れねーよ』

そう言うとマリオの手にはオルタリングの模様をスパークレンスの上部分にした感じのベルト、スパークリングが握られ、それをマリオは装着する。

マリオ「変身！」

マリオは叫んだ後に両手をスパークリングの前に振り下ろした後にスパークリングの中央が光り、マリオを光が覆い、それを振り切るとマリオは別世界の銀の侍魂を持つ侍が変身するウルトラマンティガ・マルチタイプが攘夷戦争時に銀時が着ていた白い鎧を纏っている感じの仮面ライダー、仮面ライダーティガに変身した。

一夏「なっ！？」

椛「別のに変身した！？」

ティガを見て一夏と椛が驚くとティガは飛び掛って来たアルベルスを逆方向に飛ばした後にウルトラフィクスでアルベルスの動きを止める。

その後、額のティガクリスタルに手を添えて発する金色の還元光線セルチェンジビームを放つ。

ティガ「今だ！」

ネオス「はい！」

ネオスバイザー「ミラクルベント」

ティガの言葉にネオスはカードを装填すると音声と共に、セルチェンジビームの色が虹色になり、アルベルスを包み込む。

光が収まると…そこには元に戻ったアルベルスが倒れていた。

終「爺！？爺だったのか！？」

零「どう言う事だ?」

マリオ「さあな…だが、行けば分かるだろ…」

アルベルスを見て驚く終に零が疑問を呟くと変身を解いたマリオがアルベルスが来た方向を見る。

アルベルスがモンスター化したのはなぜ…

リュカ「と言う訳でユートピアさんとのコラボでした」

フォックス「まさかのな…仮面ライダーティガって…」

スネーク「そうだな…」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　銀の侍と４人の女神　―　第別訓パート２６

スネーク「と言う訳で真王とのコラボ第２６弾！」

フォックス「海だな」

ワリオ「だな」

～アトランティスオーシャンギャラクシー～

『海の世界で大満喫』

マリオ「あれ？皆いないのか？」

星船に着いたマリオが周りを見て言う。

他に、ルイージと冥王、ソニック、明久とムッツリーニにクッパもいる。

イーバ「おや、あんた達、今日は呼んでないけど？」

ルイージ「まあ、そうなんですけど…」

明久「どうせならと言う事で…皆さんはギャラクシーに言ってるんですか？」

近寄って来たイーバにルイージは頬をポリポリし、明久が聞く。

イーバ「ああ、そう言えばお嬢ちゃんからあんた等の手紙を受け取ってたから渡すよ」

イーバはそう言うと代表でマリオに渡す。

ヴィヴィオ『こんにちは、ヴィヴィオです。マリオさん、冥王さん、私達今アトランティスオーシャンギャラクシーっていう星にいてみんなで満喫しています。一緒に海で泳ぎませんか？』

明久「へえ～行きますか？」

マリオ「そうだな……そうだ明久…」

ヴィヴィオの手紙を見た明久が聞くとマリオは頷いた後に少し考えて明久を見る。

アトランティスオーシャンギャラクシー

（ＩＢＧＭスカイビーチギャラクシーｂｙスーパーマリオギャラクシー２）

ヴィヴィオ「マリオさん達来ないかな～」

ウキウキとマリオ達が来るのを楽しみにしているヴィヴィオ

銀時「まあ、あいつ等に都合があるしな…」

新八「そうですね」

銀時と新八がそう言った時

？？？「ぎゃあああぁぁぁぁぁぁぁぁ！目が！目が燃える様に痛いいいいいいい！！！」

???2「アァーーーーーーーーーーーーー!!」

一同「!?」

いきなりの叫び声に一同は驚き、した方を見ると…

翔子「……此処には雄二に見せられない者が多い」

木乃香「ふう～水着姿のせっちゃんも良かったな～」

月詠「ですな～」

刀子「ホントね～」

砂浜をゴロゴロ転がる雄二とぐったりした刹那を背にする翔子にツヤツヤな木乃香、月詠、刀子が言う。

マリオ「よお～どうした固まって?」

ビビ「いや…（何このカオス?バカテスメンバー以外にネギまキャラやら型月のキャラや他にもいるってどんだけ～!?）」

後から来たアロハシャツとサングラスをかけたマリオがメンバーを見て聞き、ビビが答え、心の中で叫ぶ。

冥王「ヴィヴィオちゃんヤッホーなの♪」

ヴィヴィオ「あっ、冥王さん♪」

ぞろぞろ来た中で紅いビキニを纏った冥王がヴィヴィオに駆け寄り、ヴィヴィオも冥王に抱き付く。

明久「あ～あ、雄二の奴、覚悟しとけって言ったのに…」

雄二「聞いたが来ていきなり目潰しされる覚悟が出来るかぁぁぁ！！」

アデュー「落ち着け雄二；」

呆れた顔をする明久に起き上がった雄二は吼え、アデューが宥める。

銀時「誰？」

マリオ「明久達の友達、俺達だけじゃあどうよと思って呼んだ訳」

クッパ「それで被害が行ってる所があるがな…」

千雨「ですね」

銀時の問いにマリオは答え、クッパが一部を見て言い、千雨が同意する。

ムッツリーニ「……（ダバダバダバ）」

愛子「ムッツリーニ君しっかり！！」

ライダー「こりゃあ見事に鼻血が出てるね」

ファンタズムーン「そうだね～」

鼻血を噴き出して愛子、ライダー（Ｆａｔｅ／ＥＸＴＲＡの方）、ファンタズムーンの３人に介抱されてるムッツリーニ。

銀時「ああ…確かに行ってるな…」

ギルシア「…あいつは弱いよな…」

レーティア「そうね」

その様子に銀時はクッパの言葉に納得し、ギルシアとレーティアは鼻血を噴出してるムッツリーニを見て言う。

玲「アキ君、サンオイル塗ってくれませんか？」

姫路「あっ、明久君！私も！」

美波「アキ、うちもお願い」

赤セイバー「奏者よ、余を先にしろ」

キャス狐「ご主人様～私から～」

玉野「明久君！お願いします！」

明久「いや、皆、一斉には出来ないよ僕；」

雄二から離れた明久は明久で６人にサンオイルを塗って欲しいと頼まれていた。

秀吉「姉上、行かんのか？」

優子「後からでも頼めるでしょそう言うのは」

秀吉の問いに寝転がりながら優子は言う。

桂「ふむ…今初めて明久が銀時と同じだと分かるな」

エリザベス『そうですね』

銀時「おいこら、どこがだよ？」

ネプテューヌ「（あ～確かに似てるね）」

明久を見て桂はそう言い、エリザベスが同意して銀時はむすっとしてネプテューヌは心の中でそう言う。

ギルシア「……」

シャル「どうしたの？」

ジャンヌ「何で彼女達を見てるの？」

そんな中、ギルシアがネギまキャラを見ていて、シャルとジャンヌが話しかける。

ギルシア「いや…彼女達の中に転生者の匂いがするんだが…転生者なのか分からない」

レーティア「そうなの？」

頭を掻くギルシアにレーティアは首を傾げる。

マリオ「そりゃあそうだ…お前が感じたのは確かに転生者だ…だが、あえて言うなら真の転生者だ」

ジャンヌ「うわぁっ!?何時の間に!?」

ビビ「と言うか真の転生者って?」

グレイ「どう言う意味だ?」

ど~んと何時の間にかいたマリオにジャンヌは驚き、ビビとグレイが聞く。

マリオ「まあ、俺達の定義での呼び方だが…神に殺された訳でもなく、神に選ばれた訳でもない…自分の寿命を迎えて、前世の記憶を持ったまま新たな人生を歩む者達の事だ…まあ、ほとんどがお前達の言うアニメの世界の者が多い…中には半端な記憶で前世の姿のままでのもいるがな…お前達が言うアニメ世界の者は世界のご加護で前世の自分の相棒や持ち物がごくたまに持っている」

ビビ「はっ、はぁ…もう、凄いわね…」

マリオの説明にビビはアデューとアデューを取り合うあやかと千草、ネカネを見て脱力する。

ジャンヌ「そう言えば…釣りをしてるキングスカッシャーの隣で見てる女の子って誰?」

ジャンヌが指した方で釣りをしているキングスカッシャーの隣で明日菜やのどか、アーニャといる少女を見る。

マリオ「ネギだ…常識の無い転生者のせいでああなった子だ」

マリオの言葉に驚く転生者一同。

すると…

キングスカッシャー「うおっ!?おもてぇ!?こりゃあ大物だ!!」

アデュー「手伝うぞ」

神「んじゃあ俺様も」

ルイージ「僕も!」

ぐぐっ!と釣竿を引っ張るキングスカッシャーにアデューと神、潜って『オオフタガイ』と『アカノエダ』を持って出たルイージが手伝う。

アイエフ「何が釣れるの?」

コンパ「楽しみですね」

ノワール「また蛸じゃないわよね;」

ブラン「…こりごり」

それにアイエフは呟き、コンパがワクワクし、ノワールとブランは

嫌と言う感じに顔で表している。

４人「せえ～の！！」

そして、４人が勢い良く振り上げると…

ドパーーーン！！

ベール「あら？」

プリニー「デカイッスね…」

あやか「確かにデカイですけど；」

ネカネ「タイヤね」

明日菜「ホントにタイヤですね」

釣竿の先に付いた『腐った大車輪』を見て、ベールは口元を押さえ、プリニーが呟いた後にあやか、ネカネ、明日菜が言う。

キングスカッシャー「釣り師カモ、まさかのタイヤとは…ｏｒｚ」

真名＆楓「釣り師じゃないだろお前；」

千鶴「これはこれで凄いぞ」

美空「それ、フォローになってませんよ；」

シャル「（と言うかカモって；）」

ジャンヌ「（あのオコジョが！？）」

ビビ「（ホントに常識が通じないわ…）」

砂浜に膝と手を地面に付けるキングスカッシャーに真名と楓がそうツッコミ、ズレた発言をする千鶴に美空はそう言い、シャルとジャンヌは驚き、ビビは頭を抑える。

ネギ「かっ、カモ君大丈夫だよ！頑張れ！」

キングスカッシャー「姉貴…よし！もう1回チャレンジだ！」

明日菜「頑張りなさいよ～」

のどか「頑張って下さい」

アーニャ「まあ、期待してないけど」

キングスカッシャー「ひでぇなアーニャの嬢ちゃん；」

ネギの励ましにキングスカッシャーは釣竿をまた構え、明日菜とのどかが応援し、アーニャの言葉にキングスカッシャーはそう言う。

翔子「……この星は良い」

雄二「良いだろうな…この縄と目隠しを外してくれればもっと良いんだが…」

海を眺める翔子に両腕を縛られ、目隠しされた雄二がそう言う。

翔子「……此処には雄二に見せられない人が多い、特に2人」

雄二「お前な…」

ソニック「Ｈｅｙ，何してるんだよ？」

翔子の言葉に雄二が呆れた時、ソニックが話しかける。

雄二「縛られてます」

クッパ「霧島よ、大丈夫だろう…後で何かすればまた縛れば良いのだ」

そこにクッパが来て、呆れた顔で翔子に言う。

銀時「ぶはっ！」

マリオ「いや～お宝を手に入れたな～」

海に潜っていた銀時とマリオが『タイムトレジャー』を持ってくる。

明久「あっ、師匠！丁度良かった。さっきカモ君が今度はイカを釣り上げたからイカ料理の手伝いをしてください」

そう言った明久の後ろで大きいイカを前にふう～と汗を拭う動作をしてるキングスカッシャーとコスモス、ネクサスがいた。

銀時「大量に出来るな」

マリオ「だな」

その後、盛大なパーティーをしたのであった。

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

銀八「え～作者が忘れた事もあったので質問した人達遅れてすいませんでした！」

蛇八「それじゃあペンネーム『匿名希望』から『質問です。　マリオは帽子をとられると弱くなりますが、それはここのマリオにも当てはまりますか。　質問ですがサトシのことが好きな女の子とメスポケモンは誰がいますか？』…と言う訳で前者はマリオ、後者はライバルのシゲルに答えて貰うぞ」

マリオ「弱体化するな…今じゃあディバインバスターを殴り消せる位にしか…」

シゲル「なぜ僕が…まあ、分かってる時点で女性ではカスミ君だろ、フロンティアブレーンのリラに、フルーラとカノン、幻想郷の天子と幽香と言う女性だな…ポケモンではサトシがゲットしてる中でのメスのポケモン達とラティアスだな…」

銀八「と言う事です『匿名希望』さん、質問に返答するのに遅れてすいませんでした！」

蛇八「今回は此処まで！下でお宝を紹介だ」

～オオフタガイ～

価値：７５０円

見た目：ホタテガイ

イーバメモ：貝の一種だね。聞いた話によるとどんな攻撃も防げるようだね

ドルフィンメモ：大きな蓋を持ってる様な貝です！これでバクンとされたら…

～アカノエダ～

価値：７００円

見た目：サンゴ

イーバメモ：赤い枝だね。飾りに使えるだろうね。

ドルフィンメモ：枝ですが生きた生物なんですよね。これで成長し

たらどうなるのやら

～腐った大車輪～

価値：１０円

見た目：古タイヤ

イーバメモ：腐ってるね。これお宝じゃなくてゴミじゃないのかい？

ドルフィンメモ：誰かが捨てた車輪ですね。まったく、投棄されて
ホントに腐ってますね…ブルブル

～タイムトレジャー～

価値：１０００００円

見た目：宝箱

イーバメモ：宝箱だね。こん中には歴史的価値がある物が入ってるね

ドルフィンメモ：長い時も置かれた宝を詰めた箱です！この中には
ロマンが入ってますね…中身が気になりますが我慢しましょう。

リュカ「と言う訳で真王さんとのコラボでした～」

フォックス「色々な…」

スネーク「イカか…」

ネス「感想を待ってます♪」

ガチバトル！　マリオＶＳソニック（前書き）

スネーク「匿名希望からのリクエストだ！」

フォックス「まさかのな…」

クッパ「なのだ…」

ガチバトル！　マリオＶＳソニック

マリオ「させ、久々にガチバトルと行くかソニック」

ソニック「ＹＥＳ！ライダーなしので行くぜ！」

終点、そこでマリオとソニックがお互いの持つブレイブスラッシャーとカリバーンとデルフを構える。

そして、飛び出す。

マリオ「はっ！！」

ソニック「とうっ！！」

ぶつかり合った後に斬撃を繰り出して行く。

マリオ「ららららららららららららら！！」

ソニック「はあぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！」

弾いては切り込み、弾いては切り込みと繰り返すがどちらとも当たらない。

マリオ「おら！」

ソニック「てい！」

切り込んだ後、キックを繰り出し、ぶつかり合った後に距離を取る。

その後に技を出し合う。

マリオがファイア掌底でソニックを吹き飛ばせば、ソニックはスピンアタックでマリオを攻撃する。

態勢を直したマリオがスーパージャンプパンチで吹き飛ばせば、ソニックはそれを利用して流星キックを放つ。

地面に叩き付けられたマリオはスーパーマントで来たソニックの向きを変えるとポンプでソニックを吹き飛ばす。

ソニックは転がった後に駆け出し、マリオも駆け出すとお互いにパンチを繰り出し、クロスカウンターする。

転がりあった後にマリオはファイアーボールを連発し、ソニックはデルフとカリバーンで切り裂いて行く。

そしてソニックが近づいた後、マリオはブレイブスラッシャーで防ぐ。

そして、距離を取り合うと再び駆け出す。

22時間後

マスター「お前等…ガチでやりたいのはわかるが…使ってる場所の修理も考えてくれ！後時間も！」

マリオ&ソニック「すんませんでした」

勝負は引き分けに終わり、２人は正座でマスターの前で説教されていた。

マスター「お前達のガチバトルは長引く上に色々と修理しないと行けないんだから簡便してくれ；」

マリオ＆ソニック「はい」

その後、説教は１時間も続いたのであった。

ガチバトル！　マリオＶＳソニック（後書き）

こんな感じでどうでしょうか？

フォックス「他のでめっちゃ短いな；」

言うな、こっちだって自覚してるんだよ；

スネーク「胸張って言うな；」

ネス「感想を待ってます♪」

ＤＯＧ　ＤＡＹＳ　～銀色の巨人と百獣の戦士～　別話　『別世界のガオの戦士

スネーク「今回はディワールドから改名したゼロディアスの『ＤＯＧ　ＤＡＹＳ　～銀色の巨人と百獣の戦士～』とのコラボだ！」

マリオ「ちなみに俺は出ません」

アンク「代わりに出るのがな…」

ＤＯＧ　ＤＡＹＳ　～銀色の巨人と百獣の戦士～　別話　『別世界のガオの戦士』

「此処はどこだ？」

フロニャルドのビスコッティのミルヒオーレ姫に勇者として召喚された秋山和音、そしてフロニャルドへオルグを追って来たガオレンジャーの６人は突然現れた灰色のカーテンに飲み込まれ、知らない場所にいた。

「一体どこなんだ此処…」

「だが…安らぎを感じるな」

周りを見て首を傾げる走の隣で月麿は風を感じて言うと…

「ギャオオオン！！」

咆哮と共に突然レッドキングが現れる。

「おいシルバー…どこが安らぎを感じるんだ？」

「いや、ホントに感じてるんだが…」

「けど、暴れたらやばいので行きます！」

ジト目で月麿を見る岳に月麿は反論する隣で和音がそう言ってネクストに変身しようとした時、光りが現れ…

「ジュワ！！」

「えっ！？」

「あれって…」

「ネクサス…」

現れたウルトラマンネクサスアンファンスに冴、草太郎は驚き、和音は呟く。

「フォフォフォフォフォフォフォフォ！」

「キィィィィィィィィィ！」

するとレッドキングの隣にバルタン星人とエレキングが現れる。

「増援か！？」

「助けに行きます！」

驚く海に和音はそう言うと胸を輝かせるとウルトラマンネクストに変身する。

「シュア！」

「フォ！？」

現れたネクストにバルタンは驚いた後にネクサスを見る。

ネクサスは違うと言う風にブンブンと右手を前に出して振る。

「何だ？」

「様子がおかしいな…」

ネクサスとバルタンの反応に走と岳は呟く。

「……お前は何者だ？何処から来た」

「何処からって…それよりも怪獣と戦うんじゃないの？」

「……これは修行だ」

「修行！？」

ネクサスからのテレパシーに戸惑いながらネクサスは聞き、ネクサスの言葉にネクストは驚く。

「修行って何の？」

「……ウルトラマンの方に慣れて置く為のだ」

「慣れるって…どう言う事？」

「……中断、出て来て貰ってすまない」

ネクストの言葉にネクサスはそう言い、またも問うネクストに顔を逸らしてバルタン達にネクサスはそう言う。

バルタン達は気にしてないと言う風に手を振ると消える。

そして、2人のウルトラマンは光になると走達の元に行き、ネクサスは康太、ネクストは和音に戻る。

数分後

「つまり…君は仮面ライダーでもあるけどネクサスの戦い方に慣れる為に修行をしようとして俺が現れたと？」

「……その通りだ」

別の場所で修行していた明久とエルディ、チェスター・バークライトと合流して話していた。

「しっかし、まさか別世界の俺と同じガオレッドに会えるなんて思いもしなかったな」

「俺もまさか別世界の先代に会えるとは思いもしなかったよ」

「ホントだな」

エルディを見てそう言う走にエルディもそう言い、チェスターも同意する。

「それにしても、また別世界の人が迷い込むなんてさ…」

「私達以外にも来た人がいるの？」

「はい、スーパー戦隊の1人と言って置きます」

明久がそう呟くと冴が聞き、明久はそう言う。

「あの、修行を中断させちゃったお詫びに俺が相手を勤めて良いかな？丁度俺も強くなりたいと思って…」

「……最近、失ったからか？」

和音の申し出に康太はそう聞くと和音は少し黙ったが頷く。

「……分かった。俺もネクサスの前のオリジナルと戦って見たかった」

「オリジナルってどう言う事だ？」

康太の言葉に月麿が聞く。

「……俺や明久、師父に師父の弟が変身するウルトラマンはオリジナルのデータを元に作り上げられたオリジナルと同じ力を持つコピー…だが、オリジナルとほぼ変わらないし、強くなれる」

「つまり、人工のウルトラマン！？」

「これは驚きだ！？」

康太の説明に海と草太郎は驚く。

「そうだったのか…だったら頑張らないとね！」

「……俺もだ」

和音の言った事に康太はそう言うと和音は胸を輝かせ、康太はエボルトラスターを出し、鞘を抜く。

「シュア！」

「ジュア！」

ネクストとネクサスは変身すると構え、まずはパンチを繰り出す。

「セアッ！」

「トアッ！」

続けざまにキックを蹴り出す。

ネクサスはジュネッスになるとネクストもジュネッスにチェンジし、お互いにパーティクルフェザーを放つ。

「どっちとも凄いな…」

明久はその光景にそう呟く。

「ゼアッ！」

「ダアッ！」

お互いにコアインパルスを放つと中央でぶつかり合い、爆発する。

次にお互いにジュネッスブルーへチェンジした後、ネクサスは少し待ったをかける。

「？どうしたの？」

「……ちょっと試し」

首を傾げるネクストにネクサスは青い所が紫になったジュネッスヴァイオレットになる。

そして胸のコアゲージに右手を持って行き、光の玉が出来るとそれをネクストの胸に投げる。

その光がネクストの胸に吸い込まれるとネクストの青かった線が紫になり、ネクサスと同じジュネッスヴァイオレットになる。

「これは！？」

「……オリジナルにはないフォーム…特徴はこれ…」

驚くネクストにネクサスはそう言った後…

「えっ！？」

「消えた！」

ネクサスが突然消えた事に冴と草太郎は驚くが…

「！そこだ！」

ネクストは自分からして４時の方向にパーティクルフェザーを放つ。

放たれた攻撃は現れたネクサスに弾かれる。

「……これがジュネッスヴァイオレットの特徴」

「自分の気配を消すのと見えない敵の気配を探知出来る…」

「……そしてジュネッスブルーに劣るが速い動きを出来る」

ネクサスの言葉にネクストは自分の体を見て言い、ネクサスは付け加える。

「……そしてこれが必殺技」

そう言うとショートアームドネクサスからジュネッスブルーのソードモードより少し短いショートソードモードを形成、どこからともなく現れたバルタンが用意した大きい岩を見て、構えると…

スッ…

大きい岩の後ろに何時の間にか立ち、ショートソードモードを止めると…

ガラガラッ！

「大きい岩が！」

「一瞬でバラバラに！」

大きい岩がバラバラになったのに走と岳は驚く。

「……ショートソードレイ・シュトローム…一瞬で相手を切り裂く技」

「成る程…」

その後、ジュネッスヴァイオレットの練習を2人はした。

「ブライ！」

「どりゃあ！」

他のガオレンジャーの面々もエルディとチェスター、明久と共に修行をした。

「ありがとう土屋君」

「……こっちも感謝、だから頑張れ」

「俺達も修行を付けてくれてありがとうな！」

「いや、俺もありがとうございます！」

「ホントだよな」

世界の壁を背にし、互いに礼を言う和音と康太、その隣で走とエルディは握手している。

そして、7人のガオレンジャーはフロニャルドへ戻った。

と言う訳でゼロディアスさんとのコラボでした～どうでしょうか？

スネーク「と言うか、新しいフォーム付けて良かったのか？」

う～ん、使うかはゼロディアスさん次第だね

フォックス「だよな…」

ネス「感想を待ってます♪」

IS<インフィニット・ストラトス>黒き牙と永遠の月　巨大な黒

スネーク「ユートピアとのコラボだ！」

フォックス「前回のお話は！」

1つ！世界各地に緑の光が現れる。

2つ！急ぐマリオ達の前に零が現れ、終は戦う。

そして3つ！零に加工されたカオスの細胞を注入した後にモンスターと化したアルベルスが現れるがマリオと明久の活躍で元に戻った。

クッパ「ついに80話に付いたのだ…」

マリオ「そろそろ着くな…」

アルベルスをシャアとガンダムが持ち上げて運んで進むメンバーで先頭に立っていたマリオが言う。

進むと…泉の前に楓が立っていた。

椛&鈴「楓！」

セシリア「楓さん！」

楓を確認して椛と鈴、セシリアは出ようとするがダブルオーとデスティニー、ヘビーアームズが押さえる。

シャル「ちょっと待って…楓の背中の翼…大きくなってない？」

ラウラ「そう言えば…」

楓を見ていたシャルがそう言い、ラウラも気づいて楓の翼を見る。

ウイング「お前の目的は何だ？」

冥王「教えてくれると嬉しいの」

ライフルを構えて聞くウイングに冥王もレイジングジャベリンを突き付けて聞く。

楓「……私の目的は世界の完全な再生…」

ノワール「完全な再生だ？」

ジャスティス「どうしてそんな事をするんだ？」

一夏「ホントにどうしたんだ楓？」

楓の言葉にノワールはげげんとし、ジャスティスと一夏が聞くが今度は答えず、泉の方を向く。

ドクター「その泉はなんだい？」

楓「…この泉は魂の泉…」

ドクターの問いに楓はそう言うと楓は泉に身を投げる。

楓ＬＯＶＥズ「楓（さん）！！」

慌てて全員が駆け出そうとした時…

ドパーーーン！！

泉から何かが出て来た…それは背中に巨大な翼と額に楓が埋まっている巨大な異形だった

デスサイズ「でけぇ！？ななんじゃありゃぁッ！？」

デスティニー「でか過ぎだろ！」

異形にデスサイズとデスティニーが驚いた後に異形は無闇やたらに辺りを破壊し始める。

ネオス「うわぁ！？」

フリーダム「わとと！」

それに全員は回避する。

オーズＴＣ「この！」

ネクサス「……喰らえ」

ダブルオー「攻撃する」

オーズＴＣがタジャスピナーから火炎弾を放ち、それにネクサスはオーバーレイ・シュトローム、ダブルオーは射撃攻撃をする。

受けた時、楓の顔が苦痛に歪んだ。

椛「待って！あの異形を攻撃したら楓が苦しむは！」

電王ＨＣＦ「マジかよ！」

椛の停止に攻撃しようとしていたメンバーは攻撃を止める。

スターゲイザー「ドウヤラ楓サンハアノ異形ト同調シテルノデ我々ノ攻撃ヲ異形ニ与エルト楓サンニモ苦痛ガ行クヨウデス」

オーズＬＣ「実質的な人質って訳か…」

箒「ではどうすれば良いんだ！」

千冬「それに見るからにあの異形は強力になってるぞ！」

分析したスターゲイザーの言葉にオーズＬＣはそう言い、箒が叫び、千冬が避けながら言う。

ゼロ「どうすれば…ん？」

考えるゼロの前にカードが現れ、ゼロの手に握られると絵柄が付く。

ゼロ「これは…」

コスモス「兄さん、そのカードは？」

カードを見るゼロにコスモスも見る。

ゼロ「…試して見るか…セシリア！鈴！シャルロット！ラウラ！楯！」

セシリア「どうしたんですか？」

ゼロに呼ばれた5人はゼロに近寄り、セシリアが聞く。

ゼロ「賭けに出る。お前達の意識を今、楓の意識へ飛ばす」

鈴「出来るのそんな事！？」

ゼロの言葉に鈴が驚いて聞く。

ゼロ「このカードならな…どうする？」

シャル「やるに決まってる！」

ラウラ「ああ！」

椛「楓を戻す為にもね！」

セシリア「やりますわ！」

鈴「当然！」

ゼロの言葉に5人はそう答えた後、ゼロはカードを装填する。

ゼロブレスレッド「アタックライド！トランス！」

その音声と共に5人は倒れ、異形の動きが止まる。

終「動きが止まった…」

ゼロ「5人が今、楓を戻す為に彼女の意識へ飛んだ」

終の呟きにゼロはそう言う。

5人は無事に楓の意識を戻せるか…

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

蛇八「させやるぞペンネーム『ユートピア』から『終「・・・・・・（唖然）」

零「・・・・・・（呆れ）」

アルベルス「よく生きていたな、私は；」

楓（巨大モンスターの額にいるバージョン）「ぐがぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！」

質問、どんなキャラ達が居ますか？　詳しく教えないと楓が椛達に襲われます』」

銀八「俺も気になるな」

蛇八「え～スマハツではスマブラやKH、SDガンダムフルカラー劇場、ポケスペ、バカテス、東方以外に聖剣伝説４の主人公、テイルズ　オブ　ファンタジアの面々、武蔵伝？　ブレイドマスターの主人公にすばらしきこの世界の主人公がいます」

銀八「と言う訳で『ユートピア』さん！廊下に立ってなさい！」

蛇八「今回は此処までだ！」

IS<インフィニット・ストラトス>黒き牙と永遠の月　巨大な黒

リュカ「と言う訳でユートピアさんとのコラボでした」

クッパ「どうなるのだこの先！」

ネス「感想を待ってます♪」

スネーク「と言う訳で真王とのコラボ第２７弾！」

クッパ「今度はマグマのあるギャラクシーか…」

ネス「きついね～」

～マグマインフェルノギャラクシー～

『マグマを避けて進め』

マリオ「おっ、またイーバから手紙か…」

ルイージ「今度はどこのギャラクシー？」

イーバの手紙を見るマリオにルイージはそう言って覗く。

イーバ『次の星なんだけどあいつらじゃとてもじゃないがこの星の温度とモンスターに苦戦するだろうから手伝ってくれないかい？』

マリオ「成る程…」

ルイージ「どう言うギャラクシーかな？」

と言う訳でマリオとルイージにヨッシー、ソニックがギャラクシーに行き、冥王も付いて来たがヴィヴィオに教えるとの事で留守番で、マリオ達は銀時、新八、神楽、桂、エリザベス、レーティア、ジャンヌ、グレイ、ビビ、シャル、ギルシアと共にギャラクシーへ向かう

マグマインフェルノギャラクシー

（ＩＢＧＭマグマモンスターギャラクシーｂｙスーパーマリオギャラクシー２）

銀時「前回はさ…過ごすのに良かったけどよ…此処は地獄だろ！！」

着いた早々、銀時は周りを見て叫ぶ。

ビビ「あっ、熱い…」

レーティア「夏では地獄ね、此処；」

汗をダラダラ流しながらビビは呟き、レーティアはそう言う。

ルイージ「だからと言ってさ…水着はないと思うよ；」

冷や汗を流して、ビビにレーティア、ジャンヌとシャルを見てルイージは言う。

４人ともルイージの言う通り、水着姿でいた。

ビビ「きついんだもん！」

シャル「そうよ」

マリオ「服着ろ、俺がなんとかするから…ＫＡＭＥＮＲＩＤＥ」

ゼロバックル「ライダーアップ」

ビビとシャルの言葉にマリオはため息を付いた後にゼロに変身する。

４人が服を着た後にゼロはカードを装填する。

ゼロブレスレッド「アタックライド！フリーズベール！」

その音声の後、銀時達を冷たい風が包み込む。

神楽「おおっ！？熱さが収まったね！」

新八「凄いですね」

桂「うむ、快適だ」

エリザベス『ですね！』

グレイ「…さっさと行くぞ」

神楽達が言った後にグレイが言う。

道中、出て来たウーガン、ウーチャンを避けて行き、『メタルメダル』を手に入れて進む。

ギルシア「しかし…さっきのは凄かったな」

銀時「確かに、いきなり出て来てバクンってしそうだったしな」

ウーガンを思い出して言うギルシアに銀時は頷いて言う。

ヨッシー「あっ、お宝見つけましたよ」

前方を見てヨッシーは言う。

ヨッシーの言う通り、前方に『激怒の壷』があった。

神楽「早速ゲットアル！」

ビビ「あっ、何かいるか警戒しないと！」

走る神楽にビビがそう言った時、手の形をしたモンスター、ウーバンが出て来て、神楽に向けて叩きつける様に攻撃する。

神楽はそれに慌てて避けるがその直後にマグマのしぶきが出て神楽に向かって行くが…

ゼロ「ポンプ！放水だ！」

ポンプ「ラジャー！」

ソニック「ウォータードラゴン！」

すかさずゼロがポンプを取り出して放水し、ソニックがデルフを取り出して剣先から水の龍を出してマグマのしぶきを防ぐ。

銀時「大丈夫か神楽！？」

神楽「危なかったネ」

ヨッシー「取りましたよ～」

銀時が安否を聞き、神楽はそう言い、激怒の壷を持ったヨッシーが

来る。

ジャンヌ「どうやって取ったの？」

ヨッシー「口からジュースを出してあのモンスターの動きを止めて取りました☆」

グレイ「ジュース…」

ギルシア「ああ…」

レーティア「出せたわね…」

ジャンヌの問いにヨッシーはそう言い、グレイは呆れた顔をして、ギルシアとレーティアは思い出して呟く。

その後もゼロ、ソニック、ヨッシーにルイージのオバキューブから水を出してウーバンを止めて進む。

銀時「そろそろ奥に付くんじゃないか？」

新八「そうですね…歩きましたし…」

桂「お宝センサーも反応が高まってるな…」

歩きながら銀時は聞き、新八は歩いて来た距離を思い出して呟き、桂がオリマーに前に渡されたお宝センサーを見て言う。

レーティア「これは凄いわね…」

グレイ「呆れる程多いな…」

レーティアの呟きにグレイも呆れた顔で言う。

進んだ先で道をマグマを吐いてとうせんぼうするモンスター、ウーヴァーがいた。

ゼロ「どうやらこいつをなんとかしないと行けないようだな…」

ジャンヌ「それじゃあシャマッシュ、フォームチェンジ」

シャマッシュ≪オーライマスター、合言葉は？≫

ジャンヌ「水の精霊」

シャマッシュ≪ＯＫ、フォームチェンジ！≫

シャマッシュが言うとジャンヌの体が光る。

そしてジャンヌの姿はテイルズシリーズのウンディーネの姿になる。

ソニック「へえ～クレス達の所のウンディーネの姿にもなれるんだな」

ビビ「（ファンタジアのメンバーとも知り合ってるって…どんだけ広いのよ；）」

ソニックの言葉にビビは心の中で冷や汗を掻く。

そして、ゼロ達が近づくとウーヴァーはゼロ達に向けて吐き出す。

ゼロ「おっと！放水！」

ポンプ「ラジャー！」

ソニック「ウォータードラゴン！」

ジャンヌ「いっけぇぇ！」

ルイージ「発射！」

それを避けて、ゼロ達はそれぞれの水属性攻撃でウーヴァーを倒して行く。

シャル「最後はいただくわ」

シャルがそう言って右腕から水流を出すと最後のウーヴァーを倒す。

ソニック「やるな！」

シャル「まあね」

ソニックの言葉にシャルはそう言う。

そして奥に着き『クリスタルストーン』を持って帰ったのであった

～メタルメダル～

価値：１５００円～

見た目：メタル状のコイン

イーバメモ：鋼鉄で出来たメダルだね。なかなか硬くて何に使うんだろうね

ドルフィンメモ：メタルで出来たメダルです！お金としての価値はないですが鉱物マニアには受けそうですね

～激怒の壷～

価値：３０００円

見た目：鬼顔の壷

イーバメモ：怒ってる顔の壷だね。何に怒ってるんだろうね。

ドルフィンメモ：とてつもない顔を持った壷です。これを持ったらきっと…ガクガク

～クリスタルストーン～

価値：１００００円

見た目：ダイヤモンド

イーバメモ：綺麗な石だね。しかもメタルメダルとはまた違った硬そうな鉱物だね

ドルフィンメモ：水晶の様な石です！これはとても硬いので胸に入れて置けば護身用になる…かもしれません

リュカ「と言う訳で真王さんとのコラボでした」

スネーク「熱い所は勘弁だな」

フォックス「ホントだな…特に乱闘の時に熱い所はな…」

ネス「感想を待ってます♪」

……そっちが沢山の武器ならこっちは複数の姿で…　ｂｙムッツリーニ（前

スネーク「黒一文字とのコラボだ！」

フォックス「今回はシィがムッツリーニにリベンジを挑むそうだな」

クッパ「なのだ」

……そっちが沢山の武器ならこっちは複数の姿で…　ｂｙムッツリーニ

ゼロ「と言う訳でゲストを呼ぶぞ」

明久「そうなんですか？」

会場でゼロがそう言うと、ムッツリーニとルイージと一緒にいた明久は聞く。

ゼロ「ああ、と言う訳で召喚！」

ゼロブレスレッド「サモンライド！黒一文字！」

シィ「と言う訳で勝負よ！」

召喚されて早々にクレスといたシィはムッツリーニを指差して言う。

ムッツリーニ「……受けて立つ」

クレス「と言う訳で料理を振るって来いって言われた」

ルイージ「んじゃあ一緒にやろうか」

ムッツリーニが答える隣でクレスとルイージがそう会話した後に料理にかかる。

シィ「今度は負けないわよ！」

ムッツリーニ「……今回は違うので行く」

シィの言葉にムッツリーニはそう言った後に始まる前にマリオから借りたカードを取り出し、テキストを読む。

ムッツリーニ「……『その男、凄い銀色の男』」

そう言うとムッツリーニの手に左手にゴーカイセルラーが握られ、右手に持ったゴーカイシルバーのレンジャーキーをレンジャーモードのままでセルラーの内部にセットする。

ムッツリーニ「豪快チェンジ」

そう言うと共にゴーカイシルバーの描かれたボタンを押すことで、スキャンする。

ゴーカイセルラー「ゴーカイジャー！」

その音声と共にムッツリーニの姿は変わった。

シィ「嘘ッ！？」

その姿にシィが驚いている間に名乗る。

ゴーカイシルバー「ゴーカイ…シルバー」

静かに名乗った後にゴーカイスピアを構える。

マリオ「はじめ！！」

シィ「アデアット！」

マリオの開始の声と共にシィは自分のアーティファクトを呼び出すと呼び出した剣をゴーカイシルバーに投げ付けるがゴーカイシルバーはゴーカイスピアで弾いて行く。

シィ「キリエ、モード『双剣（ツインソード）』」

ゴーカイシルバー「変える…」

シィが双剣を構えるとゴーカイシルバーはゴーオンウイングスキーを取り出し、セルラーの内部にセットする。

ゴーカイシルバー「豪快チェンジ」

そう言って、ゴーオンゴールドとゴーオンシルバーの顔が描かれたボタンを押す。

ゴーカイセルラー「ゴーオンウイングス！」

シィ「はい！？」

その音声と共に変わったゴーカイシルバーの姿にシィはまた驚く。

その姿は右半分がゴールド、左半分がシルバーという姿の2人のレンジャーを合わせた戦士、ゴーオンウイングスへとなった。

ゴーオンウイングス「……ロケットブースター」

2本のロケットブースターを構えた後にシィとぶつかる。

シィ「くっ、その姿はややこしくない？」

ゴーオンウイングス「……それには同意」

ぶつかり合ってそう言うシィにゴーオンウイングスはそう答えると数回ぶつかった後に離れる。

シィ「キリエ、モード『弓（ボウ）』」

ゴーオンウイングス「豪快チェンジ」

ゴーカイセルラー「ジューレンジャー！」

シィが弓を構えるとゴーオンウイングスはドラゴンレンジャーに豪快チェンジする。

そして獣奏剣を吹いて気を集中する。

シィ「笛を吹いてるなら攻撃しなさいよ！」

そう言ってシィは矢を放つがドラゴンレンジャーのドラゴンアーマーが輝き、矢を弾き返す。

シィ「ふえっ！？」

弾き返された事にシィは驚いたが続けざまに矢を放つもことごとく弾き返して行く。

今度はアーティファクトの力で剣やら槍を出して投げて行くがそれも弾き返される。

シィ「なっ、なんてアーマーなの…」

ドラゴンレンジャーのドラゴンアーマーにシィはそう呟く。

ドラゴンレンジャーからゴーカイシルバーに戻ると今度はゴールドアンカーキーを取り出す。

ゴーカイシルバー「豪快チェンジ」

ゴーカイセルラー「ゴーカイシルバー！ゴールドモード！！」

ゴールドアンカーキーをゴーカイセルラーの下部の鍵穴にセットすることでキー自体が巨大化・変形してゴーカイシルバーに合体し、通常時の金色のゴーグルを覆い隠すように額のゴーグルがスライドする、そしてゴーカイスピアがアンカーモードとなった後に握り、名乗る。

ゴーカイシルバーＧＭ「……ゴーカイシルバー…ゴールドモード」

シィ「今度は顔いっぱいの鎧！？しかもまたややこしいパワーアップだな！！」

ゴーカイシルバーＧＭの姿にシィは叫ぶ。

シィ「（こうなったらキリエ……『闇の魔法』を使うよ）」

キリエ『（分かりましたが前にも言った通りおかしいと思ったらすぐに解除してください）』

シィ「（わかった）」

ゴーカイスピアを構えるゴーカイシルバーＧＭを見てシィはキリエに言い、キリエの言葉に頷いた後に準備にかかる。

シィ「キリエ、魔力放出５％」

キリエ『了解』

シィ「ディラ・アルクス・メラーネ…契約により我にしたがえ高殿の王。来たれ、巨人を滅ぼす燃ゆる立つ雷霆。百重千重と重なりて走れよ稲妻。『千の雷』固定――――」

キリエ『固定率９７％』

シィ「掌握！！」

ズドオォォォン……

そう言うと同時にシィは爆風に包まれるがそれが収まると…雷を纏ったシィがいた。

シィ「「術式兵装…『雷天大壮』！「ファ～イナルウェ～ブ！」…はい？」」

シィが言った瞬間、目の前にファイナルウェーブを発動したゴーカイシルバーＧＭがいて、ゴーカイスピアをシィから見て左に１回転させると鎧にある１５人の戦士の顔が現れた後に光の玉となってゴーカイスピアに吸収された後にゴーカイスピアの先端が青く光る。

シィ「えっ！？ちょっとまっ！」

ゴーカイシルバーＧＭ「ゴーカイレジェンドリーム」

待ったをかけようとするシィだがゴーカイシルバーＧＭは聞かず、彼の両隣にメガシルバー、ガオシルバー、マジシャイン、ボウケンシルバー、ゴーオンゴールド、ゴーオンシルバー、ゴセイナイトが現れ、それぞれの銃を構えて、ゴーカイシルバーＧＭがゴーカイスピアを突き出すと共にトリガーを引くとエネルギー弾が放たれ、それ等はドラゴンレンジャー、キバレンジャー、キングレンジャー、タイムファイヤー、シュリケンジャー、アバレキラー、デカブレイク、シンケンゴールドとなるとシィを攻撃して行き、最後にゴーカイシルバーＧＭがゴーカイスピアでシィを２回攻撃する。

それにシィは吹き飛び、バウンドした後に転がり…

シィ「きゅう～～」

眼を回していた。

マリオ「そこまで！勝者、土屋　康太！」

それを確認したマリオがそう言う。

数分後

シィ「うう～…」

ルイージ「良く食べるね；」

クレス「それもあるが…何があったんだ?シィの奴、思いっきりやけ食いをしているが?」

明久「何か切り札っぽいのを出したけどムッツリーニにその力を発揮する前に倒されちゃったからかな;」

がつがつとルイージとクレスが作った料理を素早い速さで食べて行くシィにルイージは冷や汗を流し、クレスが首を傾げると明久がそう言う。

ムッツリーニ「……美味しい」

マリオ「そうだな…まあ、もうちょい早めに出来る様にだな」

シィ「今度は勝つんだからね!」

もしゃもしゃと料理を食べるムッツリーニの隣でマリオが同意して、そう言うとシィはそう言ってペースを上げる。

ルイージ「…もうちょい作ろうか;」

クレス「そうだな…」

シィの様子にルイージはそう言うとクレスは同意してさらに料理を作るのであった。

なお、残った料理はあちら側のお土産となったのであった。

……そっちが沢山の武器ならこっちは複数の姿で…　ｂｙムッツリーニ（後

リュカ「と言う訳で黒一文字さんからのゲストでした！」

スネーク「と言うかムッツリーニの奴…」

フォックス「んで…またな…」

ネス「作者が考えてる小説の予告よこくなもん第2弾！」

～予告～

本来なら絶望が待っていた少女達に彼等は介入した物語

まどか「白い龍…」

見滝原市で少女達は出会うは光の巨人を模した2人の仮面ライダー

ネオス「助けられる命があるなら助けるんだ！」

魔女を絶望から解放する精霊の龍と契約せし心優しき少年、吉井明久

ネクサス「……未来ある女性を守るのは当然の行動だ」

寡黙なる少年、土屋　康太

様々な出会いと共に2人は魔法少女達と共にワルプルギスの夜と挑み、苦戦するが…駆けつけしは仲間と師の仲間達

ゼファー「行くぜ！」

コスモス「共に戦おう！」

そして、明久の新たな契約モンスター

ネオス「現れろ！希望皇ホープ！」

そして奇跡を起こすカードで魔法少女の想いを集まり作られた強化カード

ネオスバイザー「マギカサバイブ！」

仮面ライダーネオス&ネクサス　～魔法少女と仮面ライダー～

魔法少女に襲い掛かる絶望を砕け、ダブルライダー

日にち未定！

スネーク「ホントな…」

フォックス「思いつくよな（呆れ）」

ネス「感想を待ってます♪」

フォックス「ユートピアとのコラボだ！」

スネーク「前回のお話は！」

１つ！楓を見つけるが楓の翼が大きくなっていた！

２つ！楓は魂の泉に飛び込むと巨大な異形が現れる。

そして３つ！仮面ライダーゼロが楓の意思へセシリア、鈴、シャル、ラウラ、椛の意識を飛ばす。

クッパ「どうなるのだ！」

ネス「後、今回は作者が許可を貰って龍牙さんの所からグリード１人とコンボが登場します」

リュカ「龍牙さん！ありがとうございます！ｍ（＿＿）ｍ」

ホントに感謝します！！！

ゼロが使用したカードの効果で楓の意思の世界へ飛んだ5人は暗い空間を泳ぐ様に進んでいた。

セシリア「どこにいるんでしょう楓さん…」

鈴「楓を探して戻ろう！」

シャル「うん！」

ラウラ「ああ！」

椛「ええ…（楓！どこにいるの！）」

セシリアが呟いた後、鈴の言葉にシャルとラウラは頷き、椛も頷いて心の中で楓に呼びかける。

……じ……さ……

椛「！こっちよ！」

椛の頭に声がかすかに響き、椛はした方に4人に言って進む。

すると…5人が見た物は黒い球体に取り込まれている楓だった。

楓「駄目！来ては駄目です！逃げてください！そして私ごと倒してください！」

5人は近付こうとして5人に気づいた楓が叫ぶ。

セシリア「何言ってるのですか！絶対に助けますわ！」

鈴「その通りよ！絶対にそこから剥がしてあげるから！」

シャル「楓は僕達の大切な人だ！」

ラウラ「今度は我々が救う番だ！」

椛「絶対に助けるわ楓！」

そう言うと5人はＩＳを纏い、楓を取り込んでいる黒い球体を攻撃する。

一方の外では…

ゼロ「デアッ！」

電王ＨＣＦ「こんにゃろ！」

ヘビーアームズ「！！」

デスティニー「近づかせるか！！」

コスモスＦＦ「この！」

巨大な異形から別の異形が無限に溢れ出て来た。

ネオスとネクサス、ゼロと一部を除いたライダーは最強フォームと

なって蹴散らしているがまだ溢れ出て行く。

終「くそっ！どうすれば…」

一夏「あぶねえ終！」

1体を倒した終がそう呟いた時、一夏が終の後ろから迫る異形に気づき叫ぶ。

終「！」

楯無「終君！」

それに終は慌てて振り返るが攻撃は間に合わず、楯無が叫んだ時…

ドゴッ！！

異形の横から何かが飛んで来て、異形を吹き飛ばす。

終はいきなりの事に驚いたがオーズ達はそれ以前に吹っ飛ばした物に驚いていた。

オーズＧＣ「あれはコアメダル！」

オーズＳＧＣ「けど…あれ誰の？」

オーズＳＣ「前会った錬矢って奴のメダルと違うわね」

オーズＢＣ「それ以前に錬矢さんのは持ってるよ」

オーズGC、オーズSGC、オーズSCが3枚のコアメダルを見て言った後、オーズBCになってる黒狼がアベルコンボ用の悪魔系コアメダルを見せる。

自分の前にあるコアメダルに終は驚いていると終の前に現れたのは龍の意匠を持った全身に背中には不死鳥をイメージさせる翼を持った怪物であった。

怪物「危なかった少年、オレが咄嗟にオーズを受け継ぎし者に渡そうとしていたメダルを投げてなかったら死んでいただろう」

千冬「何者だ貴様は？黒谷を助けてくれたのは良いが何が目的だ？」

怪物が終にそう言った時、千冬が手に持つ雪片弐型を突き出して聞く。

怪物↓ヴァトル「申し遅れた、オレの名はヴァトル、別次元のグリードだ…まあ、正確に言うならコピーだと言って置こう。オーズの受け継ぎし者の新たな力を届け、共に行動しようと思ったら何やら大変な事になっているそうだな…少年よ、1つ問う…オレの欲望を使って見るか？」

ヴァトルは自分の名を名乗ると終にそう言って、自分のオーズドライバーを見せる。

終「…良いぜ、使ってやる。後、俺の名前は黒谷　終だ…黒狼、本来お前のを使わして貰うぞ」

オーズBC「はい！使ってください！」

ヴァトルのオーズドライバーを掴んでヴァトルにそう言うとオーズBCに言い、オーズBCがそう言うと終は目の前の3枚のコアメダルを掴んでヴァトルのオーズドライバーを装着し、『フェニックスコアメダル』『ドラゴンコアメダル』『ペガサスコアメダル』を装填してオースキャナーでスキャンする。

終「変身！」

オーズドライバーV「フェニックス！ドラゴン！ペガサス！フェ！ドラ！！サス！！！フェドラ♪フェドラサス♪」

不可思議な歌が流れると終の周りにメダルが現れ、歌が終わると共に終の姿は変わる。

頭が黒と赤でフェニックスを模した頭『フェニックスヘッド』に代わり、上半身が両肩が爪を模した様な金色の鎧に包まれ、両腕には龍の頭を象った様なガントレット『ブレスナックル』を装着した『ドラゴンアーム』、下半身が白い翼の様なパーツを着けた黒と白の色彩を持った『ペガサスレッグ』の終が変身したヴァトルの幻獣系メダルを使用した本来は龍の牙の次元に存在するオーズのコンボ『仮面ライダーオーズ・フェドラサスコンボ』へ変身した。

オーズFC「オォォォォォォォォォォォォォォォォォ！！！」

自らの体に沸き起こる力にオーズFCは叫ぶと何処からか小型の短剣『ストライクフェザー』が二枚現れ、オーズFCはそれを掴むとトンファーにして構えると異形を倒して行く。

ヴァトル「させ、オレもやりますか」

オーズＦＣを見た後にヴァトルは自分にやって来た異形を殴り飛ばしたり、漆黒の炎で焼いて行く。

箒「凄い…」

零「なんてパワーだ」

オーズＴＣ「良し…これで見る時間が出来た、あの娘と異形の繋がりを断ち切るか…」

箒と零がヴァトルの戦いぶりにそう呟いてる隣でオーズＴＣはタカヘッド・ブレイブの複眼を光らせると巨大な異形と楓を見る。

オーズＴＣ「……！見えた！」

そう言うと飛び立ち、巨大な異形の翼に近づいてメダジャリバーを取り出すとそれにデジモンの力を秘めたメダル、デジメダルを３枚装填してスキャンする。

メダジャリバー「ロイヤルナイツ！スキャニングチャージ！！」

その音声と共にメダジャリバーは金色に光り輝く。

オーズＴＣ「さっさとその娘を放せ！ロイヤルバニッシュ！！」

オーズＴＣはそう叫ぶと巨大な異形の翼の付け根部分を空間ごと切り裂く。

楓の意識内で…

椛「硬いわね…」

シャル「灰色の鱗殻（グレー・スケール）で破壊出来ないって…どれ程の強度を持っているのさ」

楓を取り込んでいる黒い球体を破壊しようとしているがとてつもない硬さに椛とシャルはそう言う。

すると…

ピシピシ！

あれ程までにヒビが入らなかった黒い球体にヒビが入って行く。

セシリア「入りましたわ！？」

鈴「さっきまで効いてなかったのに何で？」

ラウラ「考えてる暇はない！破壊するぞ！」

セシリアが驚き、鈴が疑問詞を浮かべるがラウラの言葉に５人はそれぞれの武器で楓を取り込んでいる球体を攻撃する。

ビキビキ…バキィン！！

椛「楓ぇぇぇぇぇぇ！！」

楓「椛さん！」

５人の攻撃に黒い球体は壊れ、椛が手を伸ばし、楓がその手を掴む

と辺りは光りに包まれる。

外で…

オーズＴＣが巨大な異形の翼の付け根を切り裂き、巨大な異形はそれに咆哮すると同時に額に埋まっていた楓が分離する。

すかさずネクサスが楓を受け止めると椛達の所へ運ぶ。

ゼロ「させ、デカブツ、これでお前への攻撃が可能になったな…」

見届けた後にゼロはそう言う。

決着は近い！

リュカ「と言う訳でユートピアさんとのコラボでした！」

クッパ「まさかの終を変身させるとは；」

スネーク「だな；」

ネス「感想を待ってます♪」

三学年だよっ！ＢＳＡＡ学園！　別話パート２！　仲良くなれないのは同じ存在

マリオ「龍の骨とのコラボだ！」

フォックス「今度はどう言う風になるのやら…」

ネス「だね～」

零斗「アリアに睨まれる？」

オーズＬＣ「そうそう、なんとかしてくれない？」

フランケン「と言うか何で変身した状態なんだよ！？」

零斗の家で再び来たオーズＬＣの相談事に零斗は眉を顰め、遊びに来ていたフランケンがツッコミを入れる。

他にダイチとたけしがオーズＳＧＣとオーズＧＣと共にゲームをしている。

フランケン「お前等もお前等で変身した状態で何ゲームしてるの！！？」

オーズＧＣ「しょうがないだろ、この世界には俺達がいる…しかも悪者でな…」

ツッコミを入れたフランケンにオーズＧＣが答え、落ち着いたフランケンはオーズＧＣが言いたい事に気づき、確かにと頷いた。

オーズＧＣ「ガメルは今の所情報はないが、アンクや俺、カザリは変身してない状態で出たら狙われるだろうしな」

フランケン「確かにそうだけど…」

オーズＧＣとフランケンはそう会話している間に零斗とオーズＬＣ

の会話は進んでいた。

零斗「アリアの睨みを無くしたい？」

オーズＬＣ「そうそう、分かってくれてるけど睨んで来るからなんとかならないかな？」

零斗「う～ん、アリアはこっちの世界のカザリのせいで同じ存在であるお前を信用出来ないんだろうな…」

オーズＬＣ「やっぱり…う～ん…」

零斗の言葉にオーズＬＣは腕を組む。

すると…

ダイチ「零斗さん！また暗黒流星団が暴れてるようです！」

たけし「またあいつ等か…」

電話していたダイチがそう言い、たけしは言う。

オーズＬＣ「んじゃあ今回はバイクで行きますか」

零斗「おお～、どんなバイクだ？」

オーズＬＣがそう言い、零斗は興味を持って聞く。

暗黒流星団が暴れてる場所では…

アリア「このこのこの！」

キンジ「落ち着けアリア！」

カザリ（龍の骨）「どこ狙ってるかな？」

アリアがカザリ（龍の骨）に銃弾を放つがカザリ（龍の骨）は避け、キンジが興奮してるアリアを宥めようとしていた。

そこに…

ドーン！

カザリ（龍の骨）「ぎゃあぁぁぁぁぁぁぁ！！」

オーズＬＣ「あれ？また轢いた？」

零斗「さあ？」

カザリ（龍の骨）を吹っ飛ばしたトライドベンダーに乗ったオーズＬＣが首を傾げ、零斗が言う。

カザリ（龍の骨）「くっ…また来た…がっ！！？」

オーズＳＧＣ「あれ？」

オーズＧＣ「こっちのカザリを轢いたか？」

ダイチ「俺は見てないな」

たけし「同じく」

オーズＦＣ「んじゃあ良いんじゃない？」

フランケン「お前ら轢き過ぎ！！」

カザリ（龍の骨）が起き上がろうとしてそれぞれライドベンダーに乗ったオーズＳＧＣとオーズＧＣが轢いて、首を傾げる２人に後ろに乗っていたダイチとたけしはそう言い、途中で合流したオーズＦＣが言うとフランケンが早速ツッコミを入れる。

アリア「またあんた！」

オーズＬＣ「まあまあ、流石にそれじゃあ無理だからこれでどうかな？」

アリアが睨むがオーズＬＣはアリアにホーミングランチャーを渡す。

フランケン「おいぃぃぃ！何渡してるの！？」

オーズＬＣ「途中で聞いた零斗のアドバイスを実行しました」

フランケンが早速ツッコミを入れ、オーズＬＣが言う。

アリア「確かに威力はありそうね…喰らいなさい！！」

アリアはカザリ（龍の骨）にホーミングランチャーを向けるとトリガーを引く。

カザリ（龍の骨）「流石に横に行けば避けれるよ」

カザリ（龍の骨）は飛んで来たミサイルを見てそう言うと横に行くが…

ドーーン！！

カザリ（龍の骨）「ぎゃあぁぁぁぁぁぁ！！」

ミサイルは少し機動を変えてカザリ（龍の骨）に命中する。

オーズＬＣ「それ、ロックオンした相手を逃がさない奴だから」

アリア「良いわね…カザリ覚悟！！」

零斗「オマケのマイティ真拳超絶奥義！電撃聖自在波（マイティ）！！」

オーズＬＣが言うとアリアが再度撃ち、零斗も電気の気弾を放つ。

カザリ（龍の骨）はそれに慌てて竜巻を出して消えるが、ミサイルと電気の気弾はどこかへ飛んで行き…最後に爆発音と共にカザリの叫び声が上がる。

アリア「やった！？」

オーズＬＣ「いや…きっと生きてるだろうね…しぶといから僕達って」

零斗「後、そう言うのフラグだから」

フランケン「フラグ言うな！」

アリアがホーミングランチャーを下ろしてそう言うとオーズＬＣは肩をすくめてそう言い、零斗が言うとフランケンがそう言う。

オーズＦＣ「終わったぞ」

ダイチ「ウヴァは楽勝だったな」

たけし「戦ってないじゃん。ガメルが投げた写真で飛んで来たジャンヌから逃げる為に去っただけだし」

フランケン「写真で来るってどんだけだよ！」

オーズＦＣがそう言い、ダイチがそう言うとたけしの言った事にフランケンはそう叫ぶ。

その後、オーズＬＣ達は帰った後…

キンジ「アリア…その武器の数は？；」

アリア「貰ったのよ…ラトラーターの奴に」

ガトリングガンや色んな武器の山にキンジは冷や汗を掻き、アリアがそう言う。

なお、前回同様にウヴァ（龍の骨）とカザリ（龍の骨）は受けたのであった。

ウヴァ（龍の骨）「ちきしょおおおおお！！」

ジャンヌ「ウヴァ様～～今度はこの服を～♪」

以上、ジャンヌに捕まったウヴァ（龍の骨）の一部のシーンでした。

三学年だよっ！ＢＳＡＡ学園！　別話パート２！　仲良くなれないのは同じ存在

リュカ「と言う訳で龍の骨さんとのコラボでした」

フォックス「ウヴァ（龍の骨）はこっちだとギャグキャラになるな…完全に；」

スネーク「そうだな…」

ネス「感想を待ってます♪」

魔法少女リリカルなのはＤＹＮＡＭＩＣ　Ｚの頭文字を持つ巨人（前書き）

スネーク「今回はｓｉｂｕｇａｋｉの『魔法少女リリカルなのはＤＹＮＡＭＩＣ』からゲストだ！」

フォックス「まさかのマジンガーとはな…」

クッパ「なのだ」

とある次元のミッドチルダで伝説の五大魔神の１人と言われてる兜甲児は目の前の光景にポカーンと口を開いていた。
隣で父である兜　剣造も驚いていた。

「なあお父さん…俺達、家にいたよな？」
「うむ…家にいて…謎の壁が現れて我々を通り過ぎたな…」

驚きから覚めた甲児が剣造の方を向いて聞き、剣造も頷いて此処に来る前の事を思い出して言う。

「あの壁は何なんだ？俺達をこんな草原の様な場所に飛ばして…」
「それは世界の壁だ…まれに現れ、人を別の世界や別の場所に飛ばす」

頭を掻いて呟く甲児の言葉に答えた声に２人は振り向くとそこに赤いフードを纏った人物が立っていた。
声からして男だろう。

「誰だお前は！」
「俺はマリオ…いきなりこんな形ですまないな」

構えて言う甲児にフードを退かしてマリオは頭を下げる。

「俺は兜　甲児」
「兜　剣造だ…我々が見た壁の事を知ってるのか？」
「ああ、あんた達を元の世界に戻す事も出来る」
「ホントか！」

「その前に…ちょっと仕事をさせて貰うけどな」

自己紹介した後の剣造の問いにマリオは頷いて、マリオの言った事に甲児は聞き、マリオは再度頷くと後ろを向く。

すると…甲児と剣造には見覚えのある怪物が現れた。

「なっ!?機鋼獣!?」

「なぜ!?機鋼帝国はもう!」

「馬鹿な常識のない転生者が作ったんだよ…俺はその処理に来ててな…偶然あんた達と出会った訳だ」

機鋼獣ガラダブラを見て驚く兜親子にマリオはそう言う。

「やばいぞ!カイザーはない!」

「安心しろ、俺が戦う」

焦る甲児にマリオはそう言うとウルトラゼロアイを取り出し、2人から離れると…

マリオ「ジュア!」

装着すると共にマリオの姿は変わって行き、最後にゼロスラッガーが装着されるとマリオはウルトラマンゼロに変身し、巨大化する。

「でけぇ…」

「なんと…」

機鋼獣ガラダブラと対峙するウルトラマンゼロに甲児と剣造は驚く。

「デアッ！」

構えた後、機鋼獣ガラダブラに駆け出し、パンチのラッシュを繰り出す。
それに機鋼獣ガラダブラは後ずさった後に両首から熱線を放つがウルトラマンゼロはバリアを張って防ぐ。
それに機鋼獣ガラダブラは胸部の大型ミサイルを発射しようとするが…

「させるか！」

ウルトラマンゼロは額のビームランプからエメリウムスラッシュを発射し、大型ミサイルに命中させる。

ドカーーーン！！

それにより大型ミサイルは爆発し、機鋼獣ガラダブラは自分のミサイルに自滅する。
甲児と剣造はゼロにより爆風から守られたので無事である。
甲児と剣造は戦ったウルトラマンゼロを見る。

「凄いなさっきの姿！」
「マジンガーに劣らない強さだな」
「ああ、ウルトラマンゼロは俺が目標とする者達の1人だからな」

ウルトラマンゼロから戻ったマリオに甲児は駆け寄り、剣造がそう言うとマリオはそう言う。

「させ、お前達を戻すぞ」

そう言うとマリオはゼロバックルを装着する。

「ＫＡＭＥＮＲＩＤＥ！」
「ライダーアップ」

ゼロバックルの右に付いてるレバーを引く事で音声と共に赤と青の二重のサークルを含むエネルギーの球体が現れ、その中でゼロの姿が形成され、マリオがそれと重なる事で仮面ライダーゼロに変身した。

「さっきと似てるな」
「仮面ライダーゼロ、ウルトラマンゼロを元にされた仮面ライダーさ」

仮面ライダーゼロを見て言う甲児に仮面ライダーゼロはそう言うと右手を別の方向に向けると世界の壁が出来る。

「これは私達を此処に飛ばした…」
「これを通り抜ければ元の世界に戻れる」
「そうなのか！ありがとうな！」
「いや…自分の世界でも頑張れよ、兜　甲児！」
「ああ！」

仮面ライダーゼロと甲児は握手しあった後に剣造と甲児は壁を通り抜ける。

それを見届けた後、仮面ライダーゼロも自分の世界へもどった。

魔法少女リリカルなのはＤＹＮＡＭＩＣ　Ｚの頭文字を持つ巨人（後書き）

ネス「と言う訳でｓｉｂｕｇａｋｉさんからのゲストでした～」

スネーク「話し合いじゃないな；」

クッパ「何か考え抜いてこうなったそうなのだ」

フォックス「さよか」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　銀の侍と４人の女神　―　第別訓パート２８

スネーク「真王とのコラボ第２８弾だ！」

フォックス「また古代遺跡だそうだな…」

クッパ「それで１００枚集めると…」

～古代の遺跡ギャラクシー～

『遺跡のパープルコイン』

マリオ「おっ、今度はネプテューヌから手紙だ」

ルイージ「今度は何？」

マリオがそう言った後に手紙を見て、ルイージが覗き込む。

ネプテューヌ『マリオさんマリオさん、実は古代の遺跡ギャラクシーで思い出したんだけど、ある石板に『紫の星降る時、紫なる黄金集めし時扉は開かれる』と書かれてたんだけどあれなんだろう？』

マリオ「あれか？」

ルイージ「あれじゃない？」

ネプテューヌの手紙の内容にマリオとルイージは顔を見合わせた後に冥王、リュウケンドーを連れて行き、ネプテューヌ、銀時、レーティア、ジャンヌ、ビビ、神楽、新八、ヴィヴィオ、プリニーと合流すると再び紫のコメットが降る古代の遺跡ギャラクシーへ行く。

古代の遺跡ギャラクシー

（ＩＢＧＭこだいの遺跡ギャラクシーｂｙスーパーマリオギャラクシー２）

マリオ「ネプテューヌが言った『紫なる黄金』はパープルコインだな」

銀時「パープルコイン？つまり紫色のコインか？」

ルイージ「うん、僕達の所だと１００枚集めればスターが出たけど此処じゃあきっとこのコインを辿った先にある扉が開くと思うんだ」

新八「成る程…で、目の前のヴィヴィオちゃんの良いんですか？」

着いて歩いて行く中でマリオがそう言い、銀時の問いにルイージがそう説明して自分の推測を言って、新八が納得した後に目の前のを見る。

ヴィヴィオ「スターダストレイン！！」

右手に魔力を集束した後に魔力弾を上に向けて投げると魔力弾が破裂し、雨の様に降り注いで目の前のカロンやミイラを吹き飛ばして行く。

冥王「凄いのヴィヴィオちゃん♪ホント、ヴィヴィオちゃんは覚えが良いの♪教えがいがあるの♪」

ヴィヴィオ「えへへ♪」

ビビ「ヴィヴィオちゃんがどんどん…」

神楽「逞しくなってるアルな…」

ジャンヌ「ホントに…」

探検家ルックな冥王がそう言い、大人バージョンで同じく探検家ルックなヴィヴィオの頭を撫でて、ヴィヴィオは嬉しそうに顔を緩ませる。

ビビはヴィヴィオの成長に戦慄し、神楽とジャンヌはしみじみと言う。

リュウケンドー「すっごいな冥王にこっちのヴィヴィオの奴」

ゲキリュウケン「行き過ぎな所もあるがな」

プリニー「そうッスね；」

リュウケンドーは関心の声をあげ、ゲキリュウケンはそう言いプリニーが同意する。

銀時「ホントな…」

マリオ「良いじゃないか育つのは」

新八「そうですけど…

3人が会話しているとシャドウが複数表れる。

リュウケンドー「交代だヴィヴィオ！今度は俺の番だ」

それを見てリュウケンドーはヴィヴィオの前に出て、ゲキリュウケンとキーブレードを構え、走り出すとシャドウを倒して行く。

銀時「やるなあいつ…」

ジャンヌ「まあ、そうだけど、シャドウはそんなにね…」

マリオ「５%…」

神楽「？何の数値あるか？」

その様子に銀時は呟き、ジャンヌがそう言うとマリオが呟き、それに神楽が聞く。

マリオ「あいつが出してる実力を１００%で現した内の数値だ」

レーティア「えっ？」

ビビ「ちょっ、ちょっと待って！流石にそれで勝てるなんて甘いわよ！」

ルイージ「甘いと言われても…リュウケンドーは本気を出すとね…」

マリオの言葉にレーティアは驚き、ビビがそう言うとルイージは頬を掻く。

マリオ「事情があるんだ…それよりもパープルコインを集めるんだぞ」

そう言うとリュウケンドーを先頭にパープルコインを集めて行く。

銀時「此処だな…」

マリオ「目の前のでこれで１００枚だ」

銀時が目の前の扉を見て呟き、マリオが１００枚目のパープルコインを取ると…

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

扉が開いて行き、その先には３つの玉が置かれていた。

リュウケンドー「へ～これがお宝か」

ヴィヴィオ「綺麗だね～」

それを見た後に銀時達は『レッド・グラッサー』、『ブルー・グラッサー』、『イエロー・グラッサー』を持って帰ったのであった。

～レッド・グラッサー～

価値：１０００円

見た目：赤ビー玉

イーバメモ：遺跡に置かれていた３つの玉の内の赤い玉だね。炎の様な模様だね。

ドルフィンメモ：遺跡にあったお宝の１つですね。燃え上がる様な炎の様に気持ちが燃え上がれます！

～ブルー・グラッサー～

価値：１０００円

見た目：青ビー玉

イーバメモ：遺跡に置かれていた３つの玉の内の青い玉だね。流れる水の様な模様だね。

ドルフィンメモ：遺跡にあったお宝の１つですね。川を流れる水の様に静かな気持ちになれます！

～イエロー・グラッサー～

価値：１０００円

見た目：黄色いビー玉

イーバメモ：遺跡に置かれていた３つの玉の内の黄色い玉だね。素早く駆ける雷鳴の様な模様だね。

ドルフィンメモ：遺跡にあったお宝の１つですね。素早く行く雷の様に元気一杯に走れ回れます！

リュカ「と言う訳で真王とのコラボでした」

スネーク「今回のお宝はピクミン２でバトル用にも使われたな」

フォックス「作者は弟とバトルしてチェリーで色々したな…」

ネス「感想を待ってます♪」

フォックス「黒一文字からのリクエストだ！」

スネーク「今回はシィ達が呼び出される訳じゃないんだな…」

クッパ「なのだ」

シィ「あいたたた…」

シィは腰を摩る。

詠春「此処は…」

明久（黒一文字）「いきなり穴に落ちたと思ったら…マリオさんに何時も呼ばれる場所だね」

周りを見る詠春に明久（黒一文字）が思い出して言う。

ゆり「此処どこ？」

結弦「俺達意外の皆は知ってるようだけど…」

秀樹「はっはっはっ！なんとかなるさ！」

なのは「確かになるかもしれないけど…」

初めて来た3人を見た後になのは周りを見る。

すると紫色の体を持った男と女や赤、黄、緑、青の集団が現れた。

フェイト「こいつ等は一体…」

ルナ「何だろう…」

セナ「分かんないけど～敵みたいだね～」

バルディッシュを構えるフェイトの後にルナとセナが言った後に集団は襲い掛かる。

詠春「はっ！」

クレス「この！」

詠春とクレスが迫った赤の敵を攻撃する。

明久（黒一文字）「うわとと…」

ゆり「この！」

明久（黒一文字）が緑の攻撃を避けた後にゆりがどこから出した銃で撃ちぬく。

隣で結弦と秀樹も同じ様に銃で攻撃している。

なのは「アクセルシューター！」

シィ「切り裂く大地！」

なのはとシィが魔法で青と紫の男を吹っ飛ばして行く。

ゆり「一体なんなのこの集団？」

明久（黒一文字）「聞かれても困るよ！」

撃ちながらゆりは呟き、明久（黒一文字）はそう言う。

？？？「奥義！獅子千烈破！！」

？？？「マーベラスコンビネーション！」

その言葉と共に剣士の格好をした2人が現れ、集団の一部を吹き飛ばす。

詠春「君達は？」

クレス（T）「僕はクレス、クレス・アルベインです」

ロイ「俺はロイ、ロイ・フェレだ！」

明久（黒一文字）「クレスと同じ名前！？」

クレス「これは驚きだ」

詠春の問いに現れた剣士2人の名乗りに明久（黒一文字）はクレス（T）を見て驚き、クレスはそんなに驚いてない様子で驚いていた。

明久「起動（アウェイクン）！」

ムッツリーニ「……試験召喚（サモン）」

そこに明久とムッツリーニが現れ、明久が召喚フィールドを形成するとムッツリーニが召喚獣を呼び出して吹っ飛ばして行く。

結弦「吉井がもう1人！？」

秀樹「分身したのか!?」

明久（黒一文字）「違うから!けどこれで呼べる!試験召喚(サモン)!」

ルナ「試験召喚(サモン)!」

セナ「試験召喚(サモン)〜〜」

結弦と秀樹が明久を見て驚き、明久が秀樹のボケに突っ込んだ後に召喚獣を呼び出し、ルナとセナも召喚獣を呼び出して戦いに加わる。

数分後、現れた集団を全滅させた。

明久（黒一文字）「疲れた…」

詠春「しかし…さっきの集団は一体…」

クレス（T）「それについては…」

ロイ「俺達の知り合いの落ち度さ…事情を説明するから付いて来てくれ」

座り込む明久の隣で詠春は呟いた時、クレスは頬をポリポリし、ロイが肩を竦めてそう言う。

ゆり「どんな事情かしら?」

クレス「行けば分かるだろう」

ゆりが呟くとクレスがそう言う。

スネーク「今回は此処までで事情は次に持ち込みだ」

リンク「ですね」

リュカ「どうなるんだろう？」

ワリオ「他の人のも書くので待ってくれ」

ネス「感想を待ってます♪

IS<インフィニット・ストラトス>黒き牙と永遠の月　絆の月、

フォックス「ユートピアとのコラボだ！」

クッパ「ついに決戦なのだ」

スネーク「そうだな」

椛「楓！起きて楓！」

楓「うっ、うう～ん」

早く起きた椛が楓の頬を軽めに叩き、楓は呻いた後に目を開ける。

楓「椛さん…」

セシリア「楓さん！」

鈴「起きたんだね」

シャル「良かった！」

ラウラ「以上はないか楓！」

楓「セシリアさん、鈴さん、シャルさん、ラウラさん…」

椛を見て呟いた後に椛を押し退けてセシリア達も楓を見て、楓は４人の名前を言う。

オーズＦＣ「どうやら戻ったようだな」

一夏「そうだな！」

箒「行けるか？楓？」

楓「そちらは終さんですね…はい！行けます！」

オーズＦＣが近寄って聞き、一夏が同意し、箒が聞くと楓はオーズＦＣを見た後に頷き、立ち上がる。

するとゼロの前に2枚のカードが現れ、ゼロが握ると絵柄が出る。

ゼロ「成る程…楓！お前と彼女達の絆を合わせろ！」

ゼロブレスレッド「ＩＳライド！タイムーン！」

そう言うとカードを装填し、音声と共に楓はエターナルムーンを纏った後に武装が変わる。

背中にエターナルムーンの翼以外に上にストライクフリーダムの翼の様にブルー・ティアーズを装着し、その下にホープムーンの翼を装着している。

肩に甲龍の崩山とシュヴァルツェア・レーゲのパンツァー・カノニーアを合わせた感じに合体して装着されている。

そして左腕にはラファール・リヴァイヴ・カスタムＩＩの灰色（グレー・スケール）の鱗殻を装着し、右手にルシファー、左手にゼウスを握っている。

楓「ふえっ！？」

電王ＨＣＦ「すっげえてんこ盛りだ！！」

オーズＦＣ「タイムーン…絆の月か…」

一夏「そうなのか？」

楯無「勉強しようね一夏君；」

楓はいきなり自分のＩＳの武装が変わった事に驚き、電王ＨＣＦは驚き、オーズＦＣは音声ので納得し、一夏はオーズＦＣに聞き、楯無はそう言う。

ゼロ「次に黒狼！タトバコンボになるんだ！」

オーズＢＣ「えっ！？分かりました！」

ゼロの指示にオーズＢＣはそう言うとメダルを変えてコンボチェンジする。

オーズドライバーＣ「タカ！トラ！バッタ！タ・ト・バ！タトバ！タ・ト・バ！！」

黒狼がタトバコンボになった後にゼロは出たカードを見て言う。

ゼロ「ちょっと衝撃来るぞ」

オーズ「えっ？」

ゼロの言葉にオーズは振り返ろうとするがする前に…

ゼロブレスレッド「ファイナルフォームライド！オ・オ・オ・オ・オーズ！！」

オーズ「うわ！？」

カードの効果が発動される。

オーズＴＣ「えっ！？」

オーズＬＣ「はい！？」

オーズＧＣ「嘘！？」

するとオーズは三分割されて、それぞれのコンボになる。

ヴァトル「おお～凄いな…少年、俺のドライバーを」

オーズＦＣ「ああ、俺もそろそろ自分のので戦う」

オーズＴＣ（アンク）「黒狼！コンボを変えろ！赤は恐竜、黄色は悪魔、緑は爬虫類だ！」

ヴァトルは関心の声をあげ、オーズＦＣに言い、オーズＦＣは変身を解いて終はヴァトルにオーズドライバーを、オーズＴＣにメダルを返してブレイブファングを纏う。

ヴァトルはオーズドライバーを装着した後にメダルを装填し、ＦＦＲされたオーズもアンクに言われたメダルに変えてスキャンする。

ヴァトル「変身」

オーズドライバーＶ「フェニックス！ドラゴン！ペガサス！フェ！ドラ！！サス！！！フェドラ♪フェドラサス♪」

オーズドライバーＣ１「プテラ！　トリケラ！　ティラノ！　プットティラノ～ザウル～ス！」

オーズドライバーＣ２「アモン！　ベリアル！　ルシファー！　ア・ベ・ル♪　アベル♪　ア・ベ・ル♪」

オーズドライバーＣ３「コブラ！　カメ！　ワニ！　ブラカ～ワニッ♪』

ヴァトルはオーズＦＣに変身し、オーズＴＣはプトティラコンボ、オーズＬＣはアベルコンボ、オーズＧＣはブラカワニコンボへチェンジした。

ゼロ「良し！一斉攻撃だ！」

ゼロの言葉と共にそれぞれが一斉攻撃する。

それに異形はダメージを与えて行くが光が異形に取り込まれると傷が消える。

デスティニー「傷が消えた！」

デスサイズ「ありゃあ泉を消さないと無理そうだな」

電王ＨＣＦ「そんじゃあ俺達の出番だな」

デンオウベルト「フルチャージ」

龍騎ＳＶ「そうですね」

ドラグバイザーツバイ「シュートベント」

ガタックＭＦ「おう！」

エターナル「行きますよ」

ロストドライバー「トリガー！マキシマムドライブ！」

アビス「了解」

アビスバイザー「ストライクベント」

アクセルＢ「決めますか」

エンジンブレード「エンジン！マキシマムドライブ！」

ブレイドＫＦ「はい！」

キングバイザー「スペード、１０、Ｊ、Ｑ、Ｋ、Ａ…ロイヤルストレートフラッシュ」

デスティニーが叫び、デスサイズがそう言った後、ライダー達は各々の武器を構え…

電王ＨＣＦ「必殺！俺達の超必殺技！ハイパーバージョン！」

電王ＨＣＦの言葉と共にそれぞれのライダーの技が放たれ、泉は沢山の技を受けて塞がれた。

ゼロ「良し！行くぞ皆！」

ゼロブレスレッド「ファイナルフォームライド！ウ・ウ・ウ・ウルトラ！」

コスモス「うわ！？」

ネオス「えっ！？」

ネクサス「むっ！？」

ゼロ「はっ！」

音声と共にゼロがスラッガーゼロとなり、ネクサスはエボルトラスターを大きくした感じのネクサストラスターに、コスモスはコスモプラックを大きくした感じのコスモスプラックになるとスラッガーゼロとネクサストラスターと合体し１つの矢となる。

そしてネオスは弓矢、ネオスアローとなると楓に握られ、矢となった３人が納まる。

楓「えっ！？」

スラッガーゼロ「楓！俺達を奴に向けて放て！」

驚く楓にスラッガーゼロが言うと楓は戸惑ったが椛やセシリア達が傍に集まり、安心させる為に頷き、楓も決めたのか矢を引っ張る。

オーズドライバー「スキャニングチャージ！」×５８

オーズ達もそれぞれ、必殺技の態勢に入り、巨大な異形は攻撃しよ

うとするが…

一夏「させるか！」

箒「動かせん！」

千冬「もうお前は終わりだ！」

終「そうだ！」

楯無「邪魔しないの！」

零「はっ！」

オーズ「セイヤー！！」

一夏達がそれぞれの武器で攻撃して足止めし、オーズ達が必殺技を決めてると同時に最後まで矢を引っ張った楓は異形を見る。

楓「いっけぇぇぇぇぇ！！」

そして放たれた矢は楓達の遠距離攻撃と共に巨大な異形に向かって行き…異形を貫いた。

リュカ「と言う訳でユートピアさんとのコラボでした」

フォックス「うわ！すっごい所で切るな！」

スネーク「次回に持ち越しか…」

ネス「だね～感想を待ってます♪」

銀魂ライダーディケイド　別話：ビックバン・ゼロ（前書き）

スネーク「今回は亀鳥虎龍の『銀魂ライダーディケイド』とのコラボだ！」

クッパ「どう言う風に行くのやら」

ワリオ「だな」

銀魂ライダーディケイド　別話：ビックバン・ゼロ

アルティメットショッカーによる世界崩壊を防ぐ為、十のライダーの世界を回る仮面ライダーディケイドになった神地　剣護は元いた世界の万屋の銀時や新八に神楽、村崎　詩樹にクウガの世界で出会い、Wの世界から同行してる仮面ライダークウガに変身する御坂美琴と共に世界を旅していた。

「これが次の世界か？」

銀時がスクリーンに描かれた絵を見て言う。

絵は中央に赤い帽子と青く輝く宝石の様なちょっと縦長な丸い球体があり、その下に複数のライダーが構えた感じである。

「何だこの世界…」

「クウガにアギト、電王にWにキバもいるわね」

「後、ディケイドもある」

剣護は絵を見て呟き、御坂が複数の中にある自分の変身するライダーと出会ったライダー達を見て言い、詩樹が絵のディケイドを見て言う。

「それじゃあ調べに行きます」

「そうだな」

新八の言葉に銀時が賛成した後に全員、外に出る。

「？今回は変わんないな…」

「そういや、何時もなら変わってるのになってないな」

自分の姿を見て言う剣護に銀時も頭を掻いて言う。

「銀ちゃん銀ちゃん、キノコが歩いてるネ」

「何言ってんの神楽…」

そんな中、周りを見ていた神楽が銀時の服の裾を引っ張って言い、それに呆れた顔をする銀時は神楽の見てる方を見て目を点にする。

「歩いてるわね」

「歩いてるね」

目の前を歩くこの世界の住民と思えるキノコの人に御坂と新八は呟く。

「あれ？あなた方は別世界から来たんですか？」

「えっ？分かるの？」

歩いていたキノコの人に話しかけられ、詩樹は驚いて聞く。

「はい、此処では見ない顔ですから。それに…別の世界から観光に来る人もいますので」

「はぁ…なんか別世界から来るのは普通なんだな此処だと…」

キノコの人の説明に剣護は頭を掻くと…

「大変だ！グロンギやダークローチが現れたぞ！」

走って来た同じキノコの人の言葉に剣護と御坂は走って来た方に駆け出す。

そこでは、武装した兵士がグロンギやダークローチの集団を通さない様にバリケードをしていた。

「ダークローチってこの世界の怪人？」

「いや、別の世界のだけど…今は倒すのが先だ」

御坂の問いに剣護は否定した後にディケイドライバーを取り出して変身しようとした時…

「はっ！」

「ウェイ！」

「デアッ！」

「うりゃりゃりゃりゃ！」

４人のライダーが現れ、グロンギとダークローチを攻撃する。

「クウガ！？」

「それにブレイドにディケイド！？」

その内の3人に御坂と剣護は驚き、その後に銀時達が来る。

「おいおい、この世界はホントにどんな世界？」

「色々いるアルね」

「あの3人のライダーと一緒にいるライダーがこの世界のライダーですかね…胸の奴がスクリーンに映ってたのと同じですし…」

銀時は頭を掻き、神楽がそう言い、新八がクウガとブレイドとディケイドと共に戦うライダーを見て呟く。

その間に残った集団にクウガとそのライダーは足を光らせ、ブレイドとディケイドはカードを使い、必殺技に入る。

「たあ！」

「デアッ！」

「ウェエエエエエイ！！」

「おりゃあ！」

クウガとそのライダーがキックした後、ブレイドはライトニングスラッシュ、ディケイドがディメンションスラッシュで切り裂く。

必殺技を受けた怪人達は爆発する。

「ご苦労様です！」

「ああ、そっちもご苦労様」

終わったのを確認してバリケードを作っていた内のリーダーと思われる兵士が敬礼し、ライダーが労う。

「させ、そこで見ている人方は俺に用か？」

そう言ってライダーは剣護達を見る。

数分後

「ゼロ？それが変身していたライダーの名前？」

「そうだ、仮面ライダーゼロが名前さ」

お互いの事情を話した後に剣護の疑問にゼロに変身していたマリオはそう言う。

「それにしても、ディケイドの事を悪魔とは呼ばないアルか？」

「あのね…僕がいるのにそう言う？」

「私達はディケイドが悪魔と信じてませんから」

神楽の問いにディケイドに変身していたピットは眉を顰め、ブレイドに変身していたリンクは苦笑して言う。

「けど来なかった?ディケイドを悪魔と言う雪のように白い髪で白い肌に闇のように黒いコートを羽織った二十代後半くらいの女の人?」

「ああ、来たよ……ディケイドである僕の方に」

御坂の質問にピットが答える…黒い笑顔で…

それに銀時達は顔を青くする。

「もうね。いきなり出て来てディケイドは悪魔と言うから怒ってつい激情態になってヤッチャッタ☆」

「おいいいいいいいい!!何やってんのあんたはぁぁぁぁぁ!!」

「と言うか激情態って何いいいいい!?」

黒い笑顔で言うピットに銀時が叫んで、詩樹が最後の所をツッコミを入れる。

「怒った時のディケイドの事か?」

「あ〜〜ピットの場合は別だ;」

「だがまあ…気を付けろ」

「?何にですか?」

首を傾げる剣護にクウガに変身していたエルディが冷や汗掻いて言

い、マリオの忠告に新八は聞くがマリオは何も言わない。
すると…全員をオーロラが包む。
「なっ、何ですか此処!?」
いきなりの事に新八が代表で言う。
「ディケイド!此処が貴様の墓場だ!」
「あっ、さっきの人」
ボロボロな状態で叫ぶ女性にピットがそう言った後に女性は消え、代わりに現れたのは…
ダークライダーと呼ばれるリュウガ、オーガ、ダークカブトと巨大な仮面ライダーアークであった。
「おいおいどうするんだ?」
「変身だろ普通に」
「だな」
木刀を構える銀時にマリオがそう言い、剣護が同意した後…
【ＡＴＴＡＣＫ　ＲＩＤＥ　ＢＵＬＳＵＴ】
その音声と共に銀時達の後ろから銃撃が放たれ、４人を攻撃する。

「大丈夫か？」

「ああ、丁度だなディエンド！」

「ディエンドもいるんだな」

「Wや他の奴等もいるアル！」

ディエンドライバーを構えたディエンドにマリオはそう言い、剣護はディエンドを見て呟き、神楽がディエンドの隣にいるアギト、龍騎、ファイズ、響鬼、カブト、電王、キバ、W、オーズを見て言う。

「それじゃあ俺達も行くか」

「そうね」

「行くぞ」

そう言ってそれぞれ構える。

「「「「「変身！」」」」」

「KAMENRIDE！」

【KAMEN　RIDE　DECADE】

【TURM　UP】

【ライダーアップ】

それぞれの音声と共に剣護とピットはディケイドに御坂はクウガにエルディはクウガの究極の姿とも言えるクウガ・ライジングアルティメットフォームに、リンクはブレイドに、そしてマリオはゼロに変身する。

それぞれダークライダーとアークに４人に分かれて戦う。

リュウガには龍騎とディエンド、キバとアギト

オーガにはファイズ、ブレイド、響鬼、Ｗ

ダークカブトにはカブト、クウガＬＡＦ、電王、オーズ

そしてアークには剣護ディケイドとピットディケイド、ゼロとクウガが行く。

「はっ！」

「ふっ！」

リュウガにドラグセイバーを持った龍騎とザンバットソードを持ったキバが最初に駆け出し、それぞれ振るうとリュウガはドラグセイバーで受け止めた後に弾き飛ばすが…

「よよよよよ！！」

龍騎が小ジャンプして足をバタ足の要領で振り、リュウガに連続キックを叩き込む。

「ディエンドパンチ！」

そこにディエンドがパワーを集束した右手をどてっぱらに放つ。
リュウガは吹っ飛んだ後にドラグシールドを装着するが…
「シールドブレイカー！」
アギトがすかさず剣を突き出してリュウガのドラグシールドを破壊する。
【ＦＩＮＡＬ　ＶＥＮＴ】
吹っ飛んだリュウガはファイナルベントのカードを装填してドラグブラッカーを呼び出す。
【ＦＩＮＡＬ　ＦＯＲＭ　ＲＩＤＥ　ＫＩ　ＫＩ　ＫＩ　ＫＩＶＡ】
「痛みは一瞬だ」
「やっぱりか」
ディエンドがそう言ってキバの背中に銃口を向け、キバはそう呟いた後に打ち抜かれてキバアローにＦＦＲする。
それを龍騎が握る。
「私なんですね」
その間、リュウガは浮かび上がり、必殺技の態勢に入っていた。

【ＦＩＮＡＬ　ＡＴＴＡＣＫ　ＲＩＤＥ　ＫＩ　ＫＩ　ＫＩ　ＫＩ　ＶＡ】

「行きますよ～」

「おう！どんと行くぞ！」

ディエンドがＦＡＲカードを装填し、龍騎がキバアローを引き、キバがそう言うとリュウガがドラゴンライダーキックを放つ。

「キバって行くぜ！」

その言葉と共にディエンドファングが放たれ、リュウガとドラグブラッカーを撃ち抜き、爆散させる。

「はっ！」

一方のオーガと戦うファイズ、ブレイド、響鬼、Ｗは最初にファイズがファイズエッジで斬りかかり、オーガストランザーで防ぐ。

「火炎魔神剣！」

【ＬＵＮＡＲ・ＴＲＩＧＧＥＲ】

「よっと！」

響鬼の音撃棒から放たれた炎の剣圧とルナトリガーになったＷが変化する弾丸をオーガを攻撃する。

「ぜやっ！」

「たっ！」

オーガが怯んだ所をブレイドとファイズが斬りかかる。

オーガは必殺技を出そうとしてエクシードチャージしようとするが…

「させないよ！」

ＷＬＴがオーガストランザーを持つオーガの手を攻撃する。

【ＥＸＣＥＥＤ　Ｃｈａｒｇｅ】

そこをファイズポインターを装着したファイズが飛び上がり、オーガはファイズポインターから放たれた赤い光線が打ち込まれ、赤い円錐に捕獲され…そして、飛び蹴りの体勢でファイズは円錐に飛び込み…

「はぁぁぁぁぁぁ！！」

クリムゾンスマッシュを決め、オーガの背に着地すると同時にΦの紋章と共に爆発する。

「ふん！」

「はっ！」

次にダークカブトと格闘戦でカブトがぶつかりあう。

「はぁぁぁぁぁ！！」

そこにライジングアルティメットドラゴンロッドを持ったクウガＬＡＦが割り込み、ダークカブトにＬＡドラゴンロッドを叩き込む。

「おりゃあ！」

「せいや！！」

続いてデンガッシャーを持った電王とメダジャリバーを持ったオーズがダークカブトに斬りかかり、その後にカブトがとび蹴りを決めて必殺技の態勢に入る。

【ＯＮＥ　ＴＷＯ　ＴＨＲＥＥ】

スイッチを押した後にゼクターホーンを戻す。

「ライダーキック」

【ＲＩＤＥＲ　ＫＩＣＫ】

ゼクターホーンを右から左へと送り、再び元の位置へと戻す。

カブトゼクターからエネルギーが逆った後にカブトの角に行き、最後に右足に纏われ、カブトは走る。

「喰らえ！」

よろけながら立ち上がるダークカブトに回転した後に右回し蹴りを炸裂させる。

それを受けたダークカブトは吹っ飛んだ後に爆発し、カブトは右人差し指を天に突き刺す。

「たあ！」

「トアッ！」

【ＡＴＴＡＣＫ　ＲＩＤＥ　ＢＵＬＳＵＴ】

最後のアークにクウガとゼロがとび蹴りを決め、後ろから2人のディケイドが攻撃する。

「それじゃあ決めようか」

「ああ…ん？」

ピットディケイドがクウガのＦＦＲカードを取り出して言い、剣護ディケイドがそれに同意するとライドブッカーから3枚のカードが飛び出し、それを剣護ディケイドが手に持つとゼロの絵が浮かび上がった。

「これは…良し！」

【ＦＩＮＡＬ　ＦＯＲＭ　ＲＩＤＥ　ＫＵ　ＫＵ　ＫＵ　ＫＵＵＧＡ】

【ＦＩＮＡＬ　ＦＯＲＭ　ＲＩＤＥ　ＺＥ　ＺＥ　ＺＥ　ＺＥＲＯ】

「ちょっとくすぐったいよ」

「また!?」

「ちょっとくすぐったいぞ」

「んじゃあ行くか!」

それぞれＦＦＲカードを装填するとクウガはクウガゴウラムにゼロはスラッガーゼロに超絶変形すると剣護ディケイドはスラッガーゼロを握る。

【ＦＩＮＡＬ　ＡＴＴＡＣＫ　ＲＩＤＥ　ＫＵ　ＫＵ　ＫＵ　ＫＵＵＧＡ】

まずはクウガゴウラムがアークに突進すると後ろに移動し、ピットディケイドが走り、ジャンプすると同時にキック態勢に入る。

【ＦＩＮＡＬ　ＡＴＴＡＣＫ　ＲＩＤＥ　ＺＥ　ＺＥ　ＺＥ　ＺＥＲＯ】

音声と共に剣護ディケイドは光を纏い、ピットディケイドとクウガゴウラムがアークにディケイドアサルトを決めると同時に剣護ディケイドは瞬時にアークに接近した後に右↓左と左右から斬る『ディケイドスパーク』を決めてＸ字にアークを切り裂くとアークは爆発した。

倒し終えると共にメンバーは４人と剣護達が出会った場所に出た。

「もう行くのか?」

「ゆっくりして行けば良いのに…」

「もう此処での役目は終えたからな…それに本来行く筈の世界じゃないし」

電王に変身していた黒巣が聞き、Wのジョーカーサイドのネスが呟くと剣護はそう言う。

「世界救うの頑張れよ」

「応援してますから！」

「応援してくれるのは良いけど…何でカブトだけ変身したまま？」

「…事情があるんだ」

カブトとWのサイクロンサイドのリュカの後に銀時はカブトを見て聞き、カブトは目を反らす。

「それじゃあ」

「ああ」

マリオと剣護は握手しあった後に剣護は銀時達に言う。

「行くか、次の世界に」

そう言って剣護達は次の世界へ向かう。

銀魂ライダーディケイド　別話：ビックバン・ゼロ（後書き）

と言う訳で亀鳥虎龍さんとのコラボでした！亀鳥虎龍さんどうでしょうか？

フォックス「色々と…ピットがヤッチャッタな」

スネーク「と言うか知らなかったんだな…」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　銀の侍と４人の女神　―　第別訓パート２９

スネーク「真王とのコラボ第２９弾だ！」

フォックス「これで９０話突破だな」

ネス「いや～ホントこう書いてると楽しいよね～」

～プラズマストームギャラクシー～

『激突！イヴィルクラウドマン』

マリオ「おっ、イーバからの手紙だ」

ルイージ「今度はどこかな？」

毎度の如く、イーバの手紙にマリオはそう言うとルイージはそう言ってマリオが開いた手紙を見る。

イーバ『次のギャラクシー何だけどあのトラップはちょっと苦戦しがちだね。手伝ってくれないかい？』

マリオ「トラップ？」

ルイージ「何だろうね？」

と言う訳でマリオはルイージとクッパ、冥王とリュウケンドーと共に星船へ向かい、銀時、新八、神楽、桂、エリザベス、ヴィヴィオ、プリニー、グレイ、ビビ、レーティア、ジャンヌ、ギルシア、シャル、リアス、イッセー、レオン、カイム、ユウカ、ナリアと共にそのギャラクシーへ向かった

プラズマストームギャラクシー

（ＩＢＧＭイナズマの雲海ギャラクシーｂｙスーパーマリオギャラ

クシー2）

銀時「……んでトラップを回避出来るのは良いが…」

ギャラクシーに着いてマリオとルイージが以前行ったギャラクシーにあったトラップだったので注意して進んでる中、銀時は前を見る。

マリオ「だらららららららら！！」

リュウケンドー「はあぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！」

マリオとリュウケンドーがチビベゴマー、トゲベゴマー、スパー、プラズマスパーを倒して行く。

リアス「流石は『赤き異常殺し（チートブレイカー）』…強いわね」

ナリア「ホントね」

ユウカ「隣にいる奴もね」

ジャンヌ「けれど、リュウケンドーはあれで5%だそうよ」

マリオの強さにリアスは感嘆の声をあげ、ナリアがそう言うとユウカはリュウケンドーを見て言い、ジャンヌはそう言う。

カイム「5%って…馬鹿な！？」

レオン「そうは見えないぞ!?」

ルイージ「まあね…リュウケンドーはとある事情から本気を出したら吐血しちゃうんだ…」

イッセー「血を吐くのか!?」

クッパ「それでもまだマシなのだ。リュウケンドーは最初なんて本気を出せば体中に傷が出来る程の呪いを受けていたからな…」

ギルシア「体中に傷が出来る呪い!?」

シャル「つまり、吐血するのはそれの後遺症?」

カイムとレオンが驚き、ルイージが言うとイッセーはリュウケンドーを見て言い、クッパがため息を吐くとギルシアはクッパの口から出た言葉に驚き、シャルが聞くと2人は頷く。

クッパ「リュウケンドーは我輩達の次元で初めての受け継ぎし者なのだ…悪魔が襲来し、大切な者が利用され、それで近くにいたリュウケンドーは悪魔により生きてるのが不思議な程の重傷を受け、呪いを受けた」

ルイージ「けれどリュウケンドーは究極の力も使って悪魔を倒し、大切な人を助けたんだ…ホントあの時は死んじゃうんじゃないか、皆が不安になってたよ」

レーティア「それは…」

ビビ「んで訓練はして、あの強さ?良く出来たわね…」

クッパとルイージの説明にレーティアは口を押さえ、ビビはリュウケンドーを見て言う。

グレイ「……（何だこの感じる気配は…）」

グレイはグレイで聞きながら自分達以外に感じる力に眉を顰める。

マリオの方でも感じていたが違っていた。

マリオ「（おいおい、この気配…あの人が来てるのかよ…）」

驚きながらもマリオはスパーを倒す。

その途中で『プラズマバッテリーΩ』、『電灯玉』を手に入れた。

新八「奥には何がいるんでしょうね…」

神楽「ボスに決まってるアル」

銀時「そうだろうな…」

プリニー「そうッスね」

シャル「けど銀時…此処に来るまで何か変じゃなかった?」

新八と神楽の会話に銀時、プリニーがそう言うとシャルが通って来た道を見て聞く。

冥王「確かにボロボロになってたの。誰かが通った後だと思うの…
それで魔力を地面に叩き付けて…」

ヴィヴィオ「へえ～そう言う技もあるんだね～」

ヴィヴィオに新しい技を教えながら冥王はそう言い、ヴィヴィオは
そう言う。

マリオ「はあ～言っとくが作った本人には近寄らん方が良いぞ…特
にビビとかグレイにジャンヌ達」

グレイ「…まさか知り合いか？」

やるせない顔で言うマリオにグレイが聞き、マリオは頷く。

ナリア「他にもいるの？」

冥王「ガウェインとかキョン子さんのどっちかなの？」

マリオ「違う違う、俺達の大先輩だ」

レオン「大先輩って言うと…転生者殺しか？」

マリオ「まあ…真の転生者殺しって言うならそうだろうな…」

一同「？」

ナリアが聞き、冥王が他の2人を言うとマリオは手を振って言い、
レオンが聞くとマリオはふうと息を吐くと一同は首を傾げる。

そして着いた時には中央に浮いてる全身雲で出来たモンスター、イヴィルクラウドマンを見てる男がいた。

ビビ「（あれ？どっかで見た様な…）」

ナリア「（なんだったけ？）」

その男に様々なアニメやマンガを見ていたメンバーは首を傾げる。

そして気づいたのか男は振り返り、マリオは見ると顔をぱ～と光らせる。

男「マー君！久しぶり！！」

マリオ「久しぶりですね…銀次先輩…」

ナリア「（もしかして…ＧｅｔＢａｃｋｅｒｓ－奪還屋－の天野銀次！？）」

ビビ「（うっそぉぉぉぉ！？）」

タレ銀になる男、銀次にマリオは疲れた表情で張り付いた銀次に言い、ナリアとビビは驚く。

タレ銀「いや～何か分かんない内にこの星に来て、あのモンスターと戦ってたんだけど俺の攻撃と属性が同じだから無理だったんだよ～」

マリオ「はいはい、俺が終わらせますんで…」

タレ銀「そうそう、あいつ攻撃する時がチャンスだから」

マリオ「了解」

冥王「足場作りするの！ヴィヴィオちゃん！」

ヴィヴィオ「は～い！…ドーン！！」

タレ銀の言葉にマリオはそう言い、会話を終えた後に冥王がヴィヴィオに言い、ヴィヴィオは地面を強く叩く。

すると、イヴィルクラウドマンのいる広場に岩が出て来て、足場を作る。

マリオ「させ、一瞬で終わらせますか…」

そう言うとマリオは岩の足場をぴょんぴょん飛んで行き、それにイヴィルクラウドマンは攻撃しようとするが…

ザン！

マリオ「じゃあな…偽神に弄ばれた命よ」

イヴィルクラウドマンを一刀両断したマリオはそう言ってブレイブスラッシャーを仕舞う。

銀次「おっと」

落ちて来たサンダーインパクターを銀次が受け止めると地面に降ろす。

銀次「と言う訳で初めまして！天野　銀次で～す！」

マリオ「大先輩だ」

元気良く挨拶する銀次にマリオはそう言う。

銀時「あっ、こちらこそ、俺坂田銀時と言います。そちらの後輩さんに世話になってます」

銀次「お～同じ銀なんだね～いや～気が合いそうだよ！」

名乗る銀時に銀次は笑って言う。

ビビ「（なっ、何だ普通じゃない）」

イッセー「（注意する程の人じゃないよな…）」

銀次「あっ、そうそう、転生者の人は俺に触れないでね。ただの人になるから」

ビビとイッセーが心の中で呟くと銀次がそう言う。

桂「ふむ、マリオ殿、どう言う事だ？」

マリオ「この人には俺と冥王と同じ能力もちだけどもう1つあるんだよ…『神や転生者をただの人にする程度の能力』…この人に触れられたり、攻撃を受けた神や転生者は文字通り、何の力もない存在になるんだよ」

エリザベス『成る程』

リアス「だから…」

桂が聞き、マリオが答えるとエリザベスは納得し、リアスは銀次と会う前にマリオが言った忠告に納得する。

その後、銀時達は星船に戻るのであった。

マリオ「後、この人は外見は若いがちょっとした原因で不老不死で１京以上生きてるからな…」

一同「えええぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！？」

戻る途中でマリオの発言にビックリするが…

～プラズマバッテリーΩ～

価値：２０００円

見た目：車のバッテリー

イーバメモ：今まで見つけたバッテリーと違う形のお宝だね。エネルギーが沢山ありそうだね

ドルフィンメモ：エネルギーが沢山詰まったバッテリーです！これ

で新たなエネルギーを得られるかも！

～電灯玉～

価値：７００円

見た目：豆電球

イーバメモ：変わったお宝だね。灯りには丁度良い形で連れて来た兄ちゃんが持つと付いたのには驚いたね

ドルフィンメモ：灯りに良いお宝です！そしてこれの暖かさにゆったり出来そうですね！

～サンダーインパクター～

価値：３０００円

見た目：雷発生装置

イーバメモ：雷を作る装置だね。しかし何の為に作ったんだろうね…

ドルフィンメモ：雷を自動的に発生させる装置です！これを使えば電気を沢山作れますので節電に良いでしょうね。

リュカ「と言う訳で真王さんとのコラボでした」

スネーク「新しい奴出たな」

フォックス「そうだな」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　銀の侍と４人の女神　―　第別訓パート３０

スネーク「と言う訳で真王とのコラボ第３０弾だ」

フォックス「ついに３０も来たな」

ネス「ホントだね～」

ワリオ「今回は砂漠か…」

～アラビアンサンドギャラクシー～

『砂の中の怪物』

リアス「はい、ええ…分かったわ」

プラズマストームに戻って休んでる銀時達の前でリアスは誰かと通話していて、通話を終えるとマリオ達を見る。

リアス「アテナスから指令が下ったわ。この近くのギャラクシーでイヴィルが潜伏しているの。地形的に奴らが有利そうだけど、協力してくれないかしら？」

マリオ「良いぜ！」

銀次「任せてよ！」

冥王「私はヴィヴィオちゃんを鍛えるの」

リアスの言葉にマリオと銀次は快く受け、冥王はそう言う。

と言う訳で新八、神楽、桂、エリザベス、ヴィヴィオ、プリニー、冥王を抜いて、ネプテューヌと後から来たソニック、明久とムッツリーニが加わった後にそのギャラクシーへ向かう。

アラビアンサンドギャラクシー

（ＩＢＧＭ流れる星砂ギャラクシーｂｙスーパーマリオギャラクシ

1-2)

目的のギャラクシーに着いた後に…

マリオ「ファイアー!!」

ネオスG「喰らえ!」

ソニック「はあ!!」

銀次「いっけぇ!」

銀時「ほわたっ!」

サボテンダーとイヴィルコブラの集団と戦っていた。

ネプテューヌ「いきなり過ぎるよね!」

イッセー「まったくだよな!」

ネクサス「……けれど、挑む相手を間違えた」

ネプテューヌとイッセーがそう言った後、ネクサスが周りに倒れたサボテンダーやイヴィルコブラを見て言う。

Aリュウケンドー「しかし、いきなり砂の中から出るとはな…」

ジャンヌ「と言うかサーフィンをしない；」

シャル「良く出来るわね；」

アクアリュウケンドーになり、シャークボードに乗って言うＡリュウケンドーにジャンヌとシャルはそう言う。

レオン「しかし、ホントに砂漠だらけだな…」

クッパ「だが…お宝の反応はあるな…埋まってるだろうな」

タレ銀「それじゃあ掘りながら進もう」

マリオ「銀次先輩、頭に乗らないでください」

周りを見て言うレオンにクッパはお宝探査機を見て言い、マリオの頭に乗ったタレ銀がそう言って、マリオは地面に降ろす。

その後、ネオスＧやギルシアの力もあって『守護獣の像』、『魔神瓶』、『呪い仮面』をゲットしたのであった。

ギルシア「しかし、あの蛇は沢山出て来るな…」

レーティア「ホントにね」

グレイ「音が聞こえたが…あれで操られてるんだろう…」

カイム「もしかして相手は蛇使いか？」

ネオスG「厄介ですね」

ギルシアが汗を拭って言い、レーティアも同意した後にグレイがそう言い、カイムとネオスGがそう言う。

マリオ「んで…そろそろ痺れ切らして出て来た様だな」

目の前を見てマリオはそう言う。

すると目の前に砂嵐がおき、それが収まるとカート・ジーサに似た6つの腕とコブラの頭を持つ少々機械チックなモンスター、イヴィルジーサが現れた。

そしてイヴィルジーサは持っていた笛を吹くとイヴィルコブラが現れる。

銀時「どうやらこいつが大ボスの様だな」

ビビ「んじゃあちゃっちゃっと倒しましょう」

ナリア「そうだな」

マリオ「いや、此処は銀次先輩に任せて雑魚を退治するぞ」

ルイージ「えっ？」

ユウカ「無理でしょ流石に、相手は耐電かもしれないのに？」

その様子に銀時は言い、ビビとナリアが飛び出そうとしてマリオが止め、ルイージが驚いた後にユウカはそう言う。

マリオ「耐電でも、無理だ…あの人の雷は誰にも防がれない」

そう言うと同時に…

ドピシャァァァァァン！

いきなりの雷が落ちた様な音にマリオを除いたメンバーはした方を見ると…倒れたイヴィルジーサの上に立つ銀次がいた。

マリオ「どんな電気防御も貫く『防御殺しの迅雷』だからな…」

その様子にマリオは静かにそう言う。

リアス「一瞬…」

グレイ「（気づかなかっただと…）」

イッセー「マジで；」

ビビ「（マジで常識通じないわ…）」

銀次「お～い終わったよ～」

それにリアス達は驚き、銀次が笑いながら『蛇笛』と『曲剣』を持って来る。

Aリュウケンドー「蛇は倒しといたぞ」

ネプテューヌ「楽々だったね」

クッパ「操り主がいないと駄目らしいな」

Aリュウケンドーとネプテューヌ、クッパがそう言う。

その後、メンバーは星船に戻るのだが…

タレ銀「助けて～」

銀時「すっごい程砂鉄が付いてるんですけどぉぉぉぉ!?」

マリオ「そういや、砂漠って砂鉄があったけ…」

砂鉄が沢山付いたタレ銀を転生者組み以外で助けるのに苦労したのであった。

～守護獣の像～

価値：２５００円

見た目：スフィンクスの像

イーバメモ：どうやら守護していた動物の像らしいね。変わった動物だね。

ドルフィンメモ：誰かが作った守護獣の像です！これがあれば守られてるかも

～魔神瓶～

価値：１０００円

見た目：魔法のランプ（カラだけど）

イーバメモ：どうやら魔神が入っていたランプの様だけど、もういない様だね。リュウケンドーが言うに誰かが解放したんじゃないかとの様だけど

ドルフィンメモ：魔神が入っていた瓶です！一体どんな魔神だったんでしょうね～

～呪い仮面～

価値：１７００円

見た目：ツタンカーメン

イーバメモ：呪いがかけられた仮面の様だね。しかし変わった顔だね。誰をモデルにしたのやら

ドルフィンメモ：呪いがかけられた仮面です。一体誰が付けたんでしょうね。私はメカですけど嫌ですね

～蛇笛～

価値：２０００円

見た目：蛇操りの笛

イーバメモ：ボスが持っていたお宝だね。これで蛇を操れるそうだけど、どんな蛇が来るのやら

ドルフィンメモ：蛇を操る笛ですね。これを吹いて蛇を操りましょう！

～曲剣～

価値：２２００円

見た目：カート・ジーサが持ってた剣

イーバメモ：蛇笛と同じくボスが持っていたお宝だね。なかなか変わった形の剣だね

ドルフィンメモ：熟練者が使っていたと思われる剣です。これを使いこなすのに苦労しそうですね。

リュカ「と言う訳で真王さんとのコラボでした」

フォックス「今回はな…」

スネーク「次は何が待っているのやら…」

ネス「感想を待ってます♪」

スネーク「黒一文字のリクエスト続きだ」

フォックス「何で現われたのかが解明されるな」

ワリオ「だな」

クレス（T）「此処だよ」

ロイ「俺達の此処、イメージワールドで住む家、スマブラ荘だ」

明久（黒一文字）「デカイ…」

クレス（T）とロイに案内されて着いた建物に明久（黒一文字）が代表で言う。

ロイ「ほら、疲れてるだろうし入れ」

シィ「それは良いんだけど…「あれは気にすんな」」

ロイに背中を押される中でシィが木の方の吊られてる女性を見るがロイが遮って中に押し込む。

マスター「ん？ロイにクレス、そっちは終わったのか？後、その人達は？」

ロイ「ああ、終わったぜ」

クレス（T）「雑魚キャラ軍団と戦っていたんですよ。こっちの明久君とムッツリーニ君と知り合いだったから事情を説明すると同時に連れて来たんです」

パソコンを操作していたマスターが顔を上げて2人に聞き、ロイが答えた後にクレス（T）がシィ達を見て言う。

マスター「ああ…確か前マリオが招待した人達か…すまないな内の妹の不祥事に巻き込んでしまって；」

ゆり「さっき木に吊られてた人？」

結弦「何をしたんだ？」

思い出してそう言った後に立ち上がってマスターは頭を下げる。

ゆりがシィが入る前に言おうとした女性を思い出して言い、結弦が聞く。

マスター「いやぁ…ちょっとしたトレーニングのを調整してくれと頼んだのだが、あの妹は…何か新しいのを考えてそれを組み込んで失敗して雑魚キャラ軍団が出て来ちゃうと言う事態を起こしてな…」

頭を押さえて説明するマスターの後に外からマジすいませんでしたから解いて～と言う声がしたがメンバーは無視した。

タブー「はい、ジュースはいかが？喉渇いてると思って…」

ルナ「あっ、すいません」

セナ「ありがとうございま～～す」

秀樹「頂こう」

お盆に人数分の飲み物を持って来たタブーにそれぞれお礼を言った後に受け取る。

なのは「それでどうしたんですか？」

マスター「複数が出て行ってな…マリオ達に協力して貰い、減らして貰ってるのだ…エラーだから倒せばその場で消えるからな」

フェイト「あの…マスターさんは出ないんですか？」

ジュースを飲んで一息を付いたなのはが聞き、マスターがパソコンを操作しながら言うとフェイトが聞く。

マスター「出て行きたい所だが…クレイジーが失敗したエラーを消すのに手が離せないのだ」

詠春「それなら妹さんにやらせれば良いんじゃないですか？原因を作った人なんでしょう？」

ふう～と息を吐くマスターに詠春がもっともな事を言う。

マスター「罰を与えてる所だから駄目」

タブー「あの子は時間を置いとかないとね」

マスターと苦笑して言うタブーにいけず～と言う声が外から発されるがスルーする。

明久（黒一文字）「それで今はどうなんですか？」

マスター「クレス達の所が終わってさっき、フォックスとスネークが終わり、リンクとファルコも終わったそうだ…後はマリオ達の方

なんだが…」

スネーク「マスター！大変だ！」

明久（黒一文字）の問いにマスターがそう答えた後にスネークとフォックスが慌てて入って来る。

マスター「どうしたスネーク！」

スネーク「マリオ達の方で雑魚キャラ軍団が増殖してると連絡が入ったんだ！応援を寄越してくれとの事だ！」

マスター「分かった！クレスとロイ、ムッツリーニとこっちの明久は応援に行ってくれ」

ロイ「分かった！」

マスターの問いにスネークが答え、マスターが指示を出すとロイが答えた後に言われたメンバーは出る。

シィ「私も行くわ」

ゆり「それじゃあ私達も行くわよ！」

結弦「俺達もか！？」

秀樹「ほら行くぞ！」

シィが言った後にゆりもそう言って結弦が驚いた後に秀樹に襟を掴まれて連行される。

マスター「あっ！ちょっと待て！」

タブー「マスター、今は修復が先よ」

マスター「むぅ…」

出て行くシィ達にマスターが慌てて停止しようとするがタブーにそう言われ、マスターは唸る。

…マリオ達が呼ぶ程の数とは…

ネス「と言う訳でまだまだ続くよ」

ウルフ「何体位いるんだよ…」

マルス「だね」

リュカ「感想を待ってます！」

フォックス「ユートピアとのコラボだ」

スネーク「バカンスだな」

銀次「よ～し行こう！」

ギル「ぷっ♪」

スネーク＆フォックス「出たぁぁぁぁぁぁ！！」

マリオ「皆～そろそろ海に着くぞ～」

終「そろそろか」

サングラスとアロハシャツを着たマリオの言葉に楯無、簪の2人に抱き付かれた終は呟く。

あの事件から数日経った。

あの場にいた楓、終、一夏、箒、セシリア、鈴、シャル、ラウラ、楯無は千冬の計らいで温泉と海に出かける事になりそれに簪、本音、虚にイリア、フィン、フェアル、ルウラ、優の楓達の子供達も参加し、マリオの運転の元、まずは海へ向かっていた。

他に後ろでルイージが運転する車で黒狼とグリードメンバーに冥王、マリオの大先輩である銀次と魔弾戦士メンバーとフランとお空、デスティニー、ブリッツ、擬人化＋女の子化したヘビーアームズもといスィンクス・サーロッズ、デスサイズ、ウイングも来ている。

ちなみに上でネオスとネクサスに変身した明久とムッツリーニもいる。

なお、零はあの後、一人、旅に出た。

本音「おお～～海だよ～～」

海に着いて早々、本音がそう言う。

マリオ「それぞれ着替えろよ～」

リュウケンドー「皆良いな…俺は変身したままだよ」

一夏「だったら解けば良いじゃないか？」

リュウケンドー「事情があるので無理」

マリオがメンバーに言い、ビーチパラソルを立ててるリュウケンドーがそう呟き、聞いた一夏がそう言うとリュウケンドーはそう返す。

鈴「さあ！行くわよ！フィン！見といてね活躍を！」

ラウラ「ルウラ！親である私の活躍を見てくれ！」

セシリア「負けませんわよ！シャルさん、お互いにイリアやフェアルに見せましょう！」

シャル「うん！」

椛「さあ楓！優に私達の愛を見せましょう！」

楓「みっ、皆さんお手やらかにお願いします；」

水着に着替えてボールを構えた鈴の後にラウラ、セシリア、シャル、椛が燃えて言い、楓が冷や汗流して言う。

ブリッツ「いや～フィンちゃん達のお母さん達、燃えてるでござるな～」

デスティニー「と言うか燃え過ぎだろ；」

スィン『そう言えば、皆寂しかったんじゃないかな？』

本音「ホントだよ～～～世話するの大変だったけど～～～帰って来た皆が～～～それぞれの親の中で安心してたよ～～～その後はもう皆たっぷり可愛がってたよ～～～」

タレ銀「それは凄いね～」

冥王「なの」

その様子にビーチバレーの間の子供達の面倒をよろしくと託されたブリッツは抱えたフィンに言い、ルウラを抱えたデスティニーが冷や汗を流して言い、イリアを片手で器用に抱き抱えてスィンはプラカードで疑問を出して、頼まれていた本音がそう言い、フェアルや優をあやしてるタレ銀がそう言うと冥王が同意する。

デスサイズ「もうちょい左だ！」

アンク「後ろだ！」

カザリ「もう少し右！」

ウヴァ「下がり過ぎだ！」

ガメル「上～」

ウイング「おい、誰だ上と言った奴？」

一方、ウイング達はスイカ割りをしていて、メンバーの指示に割る役のウイングがツッコミを入れる。

箒「だが事実だぞ」

一夏「プトティラとなったギルが持って飛んでるぞ；」

オーズＰＣ「ぷっ♪」

箒が言った後に一夏が冷や汗を流して、新しく入った恐竜系グリードのギルが変身してるオーズプトティラコンボを見て言う。

ウイング「おいこら！持つな！」

ヴァトル「良いじゃんか難易度アップって事で♪」

ウイング「それで済ませるな！」

怒鳴るウイングにヴァトルがノリノリで言い、ウイングはそう言う。

なお、なんとか割れたのであった。

終「賑やかだな」

ルイージ「うん、賑やかだね」

黒狼「賑やかですけど…」

ビーチバレーとスイカ割りをしているメンバーを見て言う終にルイ

ージと黒狼が同意した後に終を見る。

黒狼「べったりですね」

ルイージ「ホントだね」

終「で、そろそろ」

簪「放さないから…」

楯無「私も放さないよ♪」

終「はぁ」

両側を楯無と簪にくっ付かれ終はため息を付く。

虚「お嬢様ったら…」

メズール「微笑ましいから良いじゃない」

その光景に虚がそう言った後にグリードの中で人間態になってるメズールが言う。

楓「はあ…皆さん張り切り過ぎです」

ビーチバレーを優達を見ていたブリッツ達と明久とムッツリーニと交代して楓は一人歩いていた。

楓「あれ？」

そして歩いていて楓は洞穴を発見した。

楓「何でしょうあの洞穴？」

リュウケンドー「何かありそうだな」

オーズＰＣ「ぷ？」

首を傾げる楓の隣で何時の間にかいたリュウケンドーとオーズＰＣが呟く。

楓「何時の間にいるんですか！？」

リュウケンドー「いやあ…暇だったもんで…お前もメンバー交代で一緒に来たんだよな？」

オーズＰＣ「ぷ！」

いきなりいた事に楓は飛び退り、リュウケンドーが訳を言った後にオーズＰＣが頷く。

楓が見つけた洞穴は一体…

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

銀八「久々のです！」

蛇八「と言う訳で読むぞペンネーム『真王』から『真王「またチートキャラが増えとる！？」

レオン「しかも触れただけで普通の人に成り下がるとこも驚いたぞ…」

ユウカ「称号をつけるなら『防御殺しの雷帝（ガードブレイク・ライディン）』ね」

真王「だな。『もしかして銀次さんと師匠のジルバの強さはどっちが上ですか？』」

全員「イヤジルバだろ？」

真王「イヤ一応聞いてみた。『銀二さんに悩みはあります？例えば能力とかの』」

リアス「砂鉄の件で？」

真王「まぁな。んじゃ銀河編は終わったので違うリクエストを出そう」』…と言う訳で2人共答えろ」

マリオ「師匠に決まってるだろ、銀次先輩のもう1つの能力は転生者や神だけにしか効かないし、師匠はさらに速く行けるからな…」

銀次「砂鉄のもあるけど…やっぱり、雷帝モードになった後だと俺に触れた人がビリビリになったりかな？」

銀八「そんな訳で『真王』さん！新章頑張って下さい！」

蛇八「今回は此処まで！」

ＩＳ＆Ｉｔ；インフィニット・ストラトス＆ｇｔ；黒き牙と永遠の月　ひと時の

リュカ「と言う訳でユートピアさんとのコラボ新章です」

スネーク「と言うか…ギル、『ぷ』しか言ってないしプトティラだったな」

フォックス「そうだな」

ネス「感想を待ってます♪」

スネーク「今回は黒龍の書いたマリオに世界を紹介された世界へ行ったダークエリザベスの後の話だ」

ネス「この話の後にね」

リュカ「うん」

ダークエリザベスはマリオに紹介された世界を見事制服した。

ダークエリザベスが世界を征服した後、城を建てて世界の住人達に敬われている。

『『ダークエリザベス！！ダークエリザベス！！』』

城の前にはダークエリザベスを賞賛するたくさんの人達がいた。

そしてその城の部屋の一つにダークエリザベスはいた。

ダークエリザベスは窓から自分を賞賛する人々を見ていた。

ギリアス「絶景だね。ダークエリザベス」

ダークエリザベスの後ろからギリアスが現れる。

ダークエリザベスはギリアスを一瞥すると、また視線を人々に戻してボードで話す。

ダークエリザベス『ああ、凄い光景だ』

ダークエリザベスの雰囲気はしみじみしているような感じだった。

ダークエリザベスはこの力をどんどん付けながらこの世界を征服した。

しかし、制服した後の事をまったく考えていなかったダークエリザベスは制服した責任を取るためにこの世界を平和にした。

平和になったのはほんの偶然なのだが、結局この世界を平和にしたダークエリザベスは新たな警察のような人々の生活を守る組織を作ったり、素晴らしい政治を作った。

ギリアス「まったく、随分変わったもんだね・・・君は」

ダークエリザベス『それはお前もだろ』

ギリアス「そうかい？」

ギリアスは可笑しそうに言う。

ダークエリザベスもこの世界を制服していくうちにかなり丸くなったが、それはギリアスも同じだった。

ギリアスも自分のした研究をやるだけやって、自分の目的を全て終わらせた。

その後、どう生きようか考えた末にダークエリザベスのサポートをする事を決めた。

それにより、征服したこの世界に有益な物を次々と作り出した。

人々の役に立つ喜びを知ったギリアスもダークエリザベス同様丸くなった。

ギリアス「それで、どうするんだい？」

ダークエリザベス『何がだ?』

ダークエリザベスは怪訝そうな顔をする。

ギリアス「いやなに。まだ心残りがあるように見えてね」

ダークエリザベス『ふん。長年の付き合いと言うやつか』

ボードでは不服そうな事を言っているが、どこか嬉しそうにも見えた。

自分の悩みを分かってくれた事に嬉しいのだろう。

ギリアス「それで、君の心に残っている事はなんだい?」

ダークエリザベス『転生者殺しだ』

ギリアス「ああ、彼か」

ギリアスは思い出したように言い、同時に納得したような顔になる。

ギリアス「つまり、彼と決着が付けたいと言う事だね?」

ダークエリザベスは頷く。

ギリアス「なら、そのための場所を用意しておこう。それと、あの時現れた坂田銀時の仲間達も観客として呼んでおこう」

ギリアスは立体的な液晶画面のようなバネルを出し、そこにあるボ

タンを押しながら操作する。

ギリアス「よし、彼等に招待状と日時を送ったよ。まァ坂田銀時とその仲間を呼ぶのは彼等に任せたけどね。あ、決闘の時間は三日後にしといたよ」

ギリアスは立体パネルを消しながら言う。

ダークエリザベス『そうか。さすがだな。俺の考えを良く分かっている』

ギリアス「まァ君の相方を長い間やってきたからね」

ギリアスはクスッと笑みを浮かべながら言う。

ダークエリザベス『少し付いて来い。奴との決闘の前に試した技がある』

ギリアス「なら、無人世界に転移するよ」

ギリアスとダークエリザベスの足元に魔方陣が現れ、そのまま二人は無人世界に転移する。

★

二人は無人世界に転移した。

そして二人の前には全長十メートルはある巨大な岩があった。

ギリアス「君の新しい技を試すならコレが最適だろ？」

ダークエリザベス『上等だ。危ないから下がっていろ』

ギリアスは「分かった」と言いながら後ろに下がる。

そしてダークエリザベスはボード構え、力を溜める。

ダークエリザベス『ぬぉぉぉオオオオオオオオ！！！俺のこのボードが真っ赤に燃える！！』

ダークエリザベスの持っているボードが真っ赤に燃え上がり、その炎は物凄い力を秘めていた。

ダークエリザベス『勝利を掴めと轟き叫ぶ！！爆熱！ゴットボードボンバーーーーーーーーーー！！！！』

ダークエリザベスはジャンプして炎を纏ったボードを岩に叩き付けた。

そして岩は爆発し、木っ端微塵に壊れた。

ギリアス「ほぉ～かなり凄いね、コレは」

ギリアスは腕で飛んでくる石つぶてから目を守りながらダークエリザベスに近づく。

ダークエリザベス『それに俺は奴と戦った時よりも遥かに強くなった！次こそ奴を倒す！』

ダークエリザベスは握り拳を作りながら自分を鼓舞する。

ギリアス「期待しているよ」

ダークエリザベス『それにしても、お前は良いのか？』

ギリアス「ん？何がだい？」

ギリアスは首を傾げながら聞く。

ダークエリザベス『今更言うのもなんだが、お前は本当の性別は女だったろ？』

ギリアス「そうだよ。でも、私は私を転生させた神の遊び心せいで男にさせられた。でも、本当になんで今更そんな事を？」

ギリアスは不思議そうな顔で言う。

ギリアスは本当は女だった。

男として転生された時から自暴自棄のような状態になり、自分の大好きだった研究に打ち込む事で何とか精神を安定させていた。

そう言う事もあって、ダークエリザベスはギリアスを仲間にしたのである。

今では女に戻る事を諦め、一人の研究者として生きる事を決めた。

自分の研究で女に戻ろうとしたが、神に与えられた呪いのせいでそ

れも無理だった。

ダークエリザベス『奴等なら、もしかしたらお前を元に戻してくれるからもしれないぞ。俺としては長年相棒を務めてきてくれたお前には元自分の取り戻して欲しいと思っている』

ギリアス「それは、無駄な希望と言う物だよ。神の力が絶対なのは君も知っているだろ？」

ダークエリザベス『一応奴等に会ったら、聞くだけきいておく』

ギリアス「期待はしないよ」

ギリアスはやれやれと言う風に言う。

そして話を終えた二人は城に転移した。

さァ、ダークエリザベスと最後の戦いだ！！

ダークエリザベスと決着を付け、彼等と仲間になるのだ！！

ネス「んで黒龍さんのコラボに続く！」

フォックス「だな」

スネーク「させ、戦いはどう言う風に行くのやら…」

リュカ「だね」

スネーク「と言う訳で黒龍のコラボだ！」

フォックス「んでギリアスの神の呪いを解く為に明久がな…」

ワリオ「だな」

ギリアスがマリオに招待状を送った3日後…

広いコロシアムの様な場所で中央にダークエリザベスが中央に立っていた。

ギリアスも観客席で待っていた。

ダークエリザベス『……来たか…』

遠くを見てダークエリザベスは呟く。

ダークエリザベスが見ている方でウルトラマンゼロ、ウルトラマンコスモス、ウルトラマンネオス、ウルトラマンネクサスが飛んで来た。

ネオスの手には銀時達もいた。

それぞれウルトラマンゼロを除いたメンバーは観客席に向けて飛び、光となり、ギリアスの隣に行くとルイージ、明久、ムッツリーニに戻り、隣で銀時達もいた。

そしてウルトラマンゼロは光となると同時に仮面ライダーゼロとなるとダークエリザベスの前に着地する。

ダークエリザベス『良く来たな』

ゼロ「挑まれたからには挑むのが俺の流儀でね」

2人は距離を取り、円を書く様に歩く。

銀時「何か凄い事になってるな…」

ソラ（黒龍）「確かに」

その光景に銀時とソラ（黒龍）呟く。

ギリアス「どちらとも、良いかい？」

ゼロ「良いぜ」

ダークエリザベス『同じく』

ギリアスの問いに問われた2人が答える。

ゼロ「んじゃあ！」

ダークエリザベス『行くぜ！』

そう言うと2人はぶつかり合う。

ゼロの蹴りをダークエリザベスはプラカードで防ぎ、ライトセイバーで来た所をゼロはゼロスラッガーで防ぐ。

ゼロ「させ、熱く行きますか！」

そう言うと同時にゼロの姿はゼロ・ウルトラフォームのスーツがグレンファイヤーの体と同じカラーリングになっている『仮面ライダ

ーゼロ・グレンフォーム』となった。

ゼロＧＦ「ファイヤースティック！！」

火炎の棒状の武器、ファイヤースティックを取り出すとダークエリザベスのライトセイバーとぶつかり合う。

ソラ（黒龍）「クウガと同じ様にフォームチェンジ出来るんだな」

神楽「聞いてないネ」

新八「あの時は僕達を送るだけだったからそりゃあ聞いてないよ；」

フォームチェンジしたゼロＧＦにソラ（黒龍）は軽く驚き、神楽の言い方に新八はそう言う。

桂「しかし…ダークエリザベスは強くなっているな」

エリザベス『そうですね』

ギリアス「そりゃあね、ダークエリザベスは此処に来てさらに強くなったしね」

桂はゼロＧＦとぶつかり合うダークエリザベスを見てそう呟き、エリザベスが同意した後にギリアスがそう言う。

ダークエリザベス『うりゃあ！！』

ゼロＧＦ「うおっ！」

ダークエリザベスは口と目から同時にビームを放ち、それにゼロＧＦは吹き飛び、滑りながら着地する。

ダークエリザベス『そんでもって！ジュワ！』

追撃とスペシウム光線をゼロＧＦの地面に放ち、ゼロＧＦはそれにより起きた爆風に飲み込まれる。

アリア「押されてる…」

リリス「大丈夫なんでしょうか？」

その様子にアリアが呟いた後にリリスがそう言うと爆風からビームが飛んで来る。

ダークエリザベス『ぬおっ！』

それにダークエリザベスは吹き飛ぶ。

ビームが放たれた爆風の中からゼロ・ウルトラフォームのスーツがジャンボットの体と同じカラーリングになって、ジャンボットを模したアーマーが新たに加わっている『仮面ライダーゼロ・ジャンフォーム』が現われた。

ゼロＪＦ「なかなか効いたぜ」

ダークエリザベス『そう言いながら余裕だな…』

ゼロＪＦ「お前こそ」

立ち上がるダークエリザベスにゼロＪＦがそう言い、ダークエリザベスがそう言うとゼロＪＦはそう返す。

ゼロＪＦ「ジャンブレード！」

ゼロＪＦが右腕のアーマーから剣を出すとダークエリザベスのライトセイバーとぶつかり合う。

セイバー「２人共…なかなかやりますね」

ライダー「そうですね…」

ヤミ「………」

セイバーとライダーが感嘆の声を出し、ヤミはじぃっと見る。

ダークエリザベス『決めるぞ転生者殺し！』

ゼロＪＦ「ああ！」

ダークエリザベスの言葉にゼロＪＦは返すとウルトラフォームになり、ダークエリザベスはボード構え、力を溜める。

ダークエリザベス『ぬぉぉぉオオオオオオオ！！！！俺のこのボードが真っ赤に燃える！！』

ダークエリザベスの持っているボードが真っ赤に燃え上がり、その炎は物凄い力を秘めていた

ゼロ「はあぁぁぁぁぁぁぁぁぁっぁぁぁぁっぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ

ぁぁぁ！！！！」

そしてゼロも右手にエネルギーを集束してダークエリザベスの炎に負けない青い炎を作り出す。

ダークエリザベス『勝利を掴めと轟き叫ぶ！！爆熱！ゴットボードボンバーーーーーーーーーーー！！！！！』

ゼロ「ゼロ！ファイアーーーーーーーーー！！しょうてぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇい！！！！」

ダークエリザベスはジャンプして炎を纏ったボードを、ゼロは右手の青い炎をお互いに叩き付ける。

エネルギーがぶつかり合い、最後に爆発が起きる。

ライホース「ぬぅ！」

アリス「凄い爆風だな」

明久「どっちが…」

ギリアス「…」

それぞれが出来た爆風に吹き飛ばされない様に踏ん張る。

そして収まると…お互いに膝を付いたゼロとダークエリザベスの姿があった。

ギリアス「これは…」

ルイージ「…兄さん」

お互いに立ち上がろうとして…

ダークエリザベス『ぐっ…！』

ダークエリザベスは再び膝を付き、ゼロは肩を上下させながらゼロツインソードを構えてダークエリザベスの首に突き付ける。

ゼロ「勝負…ありだ…」

ダークエリザベス『ああ…さっきので全てやった…お前の勝ちだ』

ゼロがそう言うとダークエリザベスも自分の負けを認める。

ゼロからマリオに変身を解くとマリオはふう～と地面に座り込む。

ルイージ「兄さ～～ん！」

そこにルイージと銀時達が駆け寄る。

ダークエリザベスの方にもギリアスが駆け寄る。

マリオ「大丈夫だ…ダークエリザベス、やっぱり俺が見込んだ通りの男だな！」

ダークエリザベス『ほう、そう言ってくれると嬉しいものだ』

笑って言うマリオに同じ様に座り込んだダークエリザベスがそう言

う。

ダークエリザベス『転生者殺し、聞きたい事がある』

マリオ「ん?聞きたい事?」

ダークエリザベス『…神の呪いを解く事は出来るか?』

ダークエリザベスの言葉にマリオはギリアスを見る。

マリオ「彼女の呪いを解いて欲しいのか?」

ダークエリザベス『…知ってたのか?ギリアスがホントは女だと言う事を?』

銀時「えぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ!?」

ソラ（黒龍）「マジか?」

マリオの言葉にダークエリザベスは驚いた様子でそう言い、銀時やソラ（黒龍）達は驚く。

マリオ「ああ、俺は偽神の気配が分かるからな…解く方法はある…お前には借りがあるからな…それを返すつもりで彼女の呪いを解こう」

ダークエリザベス『借りだと?何時俺は作った?』

マリオの言葉にダークエリザベスは首を傾げながら聞く。

マリオ「最初に会った時、お前は常識のない転生者達を倒してただろ?あの後は楽に輪廻へ戻す事が出来た」

ダークエリザベス『さよか…んでどう解くんだ?』

ダークエリザベスの問いにマリオはカードを取り出す。

マリオ「このライダーの力なら行けるが…明久、お前が変身しろ」

明久「ええ!?僕ですか!?先生がなるべきじゃ?」

マリオにカードを渡された明久は戸惑いながら聞く。

マリオ「俺は疲れてる…それにそのカードはオリジナルと似た者の方が良い」

明久「分かりました!…ギリアスさんの呪いが解けるなら頑張ります!ギリアスさん!その呪いから解き放ってあげますね!」

ギリアス「あっ、ああ…」

マリオの言葉に明久はガッツポーズをした後にギリアスに向かって言い、ギリアスはその言葉に心臓が速くなるのを感じ、戸惑いながらそう言う。

明久はカードに向き直るとテキストを読む。

明久「オマエの幻想をぶち殺す!」

そう言うと明久の左手首にディケイドライバーの真ん中部分のバッ

クルだけにし、中央をCDプレイヤーにCDを入れる様にカードを装填する構造になっていて、色はビリジアンのブレスレッド『ディブレイカードライバー』装着された。

それと同時に明久の腰に現れたベルトの左側に装備されたカードを入れるケース『ライドブッカー』から明久は1枚のライダーカードを取り出すとディブレイカードライバーのカード挿入口を開いた後に構え…

明久「変身！」

カードを挿入し、カードを挿入したまま閉じる

ディブレイカードライバー「カメンライド！ディブレイカー！！」

その音声と共にゼロの幻影を含んだ10つのライダーの幻影が現れ、重なると同時に明久の姿は変わり、左右に3枚、計6枚のカード装甲が差し込まれる。

姿は顔はクウガとブランク状態の龍騎にカード装甲がないディケイドが混じったのに左右に3枚、計6枚のカード装甲が差し込まれた感じで目はディケイドと同じ形で色は赤、体はクウガとアギトを混じったのにディエンドの中央が角ばってない胸のアーマーを合わせた感じ、メインカラーはビリジアンと黒であった。

明久は別世界の幻想殺しが変身する『破壊者（ディケイド）』と『終焉者（ディエンド）』と並ぶ『幻想滅殺者』の仮面ライダー『仮面ライダーディブレイカー』に変身した。

ディブレイカー「行きますよ！」

そう言うとディブレイカーはギリアスを見つえ…

ディブレイカー「だらっしゃあ！！」

ギリアスの胸へパンチをし、ギリアスの中にある神の呪いを破壊する。

ギリアス「あっ…」

自分の中にあるそれが破壊されるのを確認した瞬間、ギリアスは光に包まれ…

神楽「マジアルか…」

セイバー&ヤミ「……」

神楽は呆然と口を開き、セイバーとヤミは敵を見る様な目で光が収まった後のギリアスの一部分を見る。

今のギリアスの容姿は白銀のような肩までである綺麗な髪。

少し吊り目がちだが、間違いなく相当な美女。

妖美な感じが大人女性と言う所を強調させている。

プロポーションは抜群で、出るところは出て、締まる所は締まっていると言う感じである。

胸はE～Fで、１００センチ代はありそうだ。

銀時「ちょっとぉぉぉぉぉぉ！！！色んな意味で変わり過ぎなんですけどぉぉぉぉ！！」

桂「うむ、驚きだな」

エリザベス『めっちゃビックリだ！』

ダークエリザベス『それには俺も同意』

銀時は叫び、桂は目を開いて、エリザベスがそう言うとダークエリザベスもそう言う。

ムッツリーニ「……鏡をどうぞ」

ギリアス「戻れた…元の私の姿に…」

明久「良かったですねギリアスさん！」

ムッツリーニが何時の間にか出した鏡を見てギリアスは自分の体を抱き締め、変身を解いた明久が笑顔で言う。

ギリアス↓エリア「ありがとう…後、エリア・スティールが本名だからそっちで呼んでくれ」

明久「はい！エリアさん！」

ダークエリザベス『良かったなギリアス…いやエリア』

ルイージ「良かったねエリアさん」

マリオ「良かったな…それとダークエリザベス、よろしくな」

ダークエリザベス『……ああ』

エリアは明久にそう言い、明久も笑顔で言い、ダークエリザベスとルイージが祝福し、マリオも言った後にダークエリザベスに手を差し出し、それにダークエリザベスは少し間を空けて握る。

★

ダークエリザベス『……良いのか？』

エリア「何がだい？」

帰るウルトラマンゼロ達を見送りながらダークエリザベスは隣で見てるエリアに話しかけ、エリアは首を傾げる。

ダークエリザベス『気になるのだろう？吉井　明久の事が』

エリア「ああ…彼を見てると心がな…ドキドキが速くなる。この気持ちは何なんだろうな？」

ダークエリザベスの言葉にエリアは胸に手を当て、頬を赤くして聞く。

ダークエリザベス『調べれば良いさ、科学者だろう？』

エリア「……そうだな」

ダークエリザベスの言葉にエリアは去って行くウルトラマンネオスを見て頷く。

その後、ダークエリザベス達が遊びに来る様になったのであった。

と言う訳で黒龍さんとのコラボでした！！

フォックス「ディブレイカーの登場だな…」

スネーク「あ～確かに明久と当麻も似てるな…」

クッパ「性格とか鈍感さとかもな…」

ネス「感想を待ってます♪」

スネーク「と言う訳で黒一文字の続きだ！」

フォックス「させさせ」

クレス「どれ位増えてるんだろう…」

マリオ達の方で増殖したとの事でクレス（T）達と共に向かうシィ達は…

シィ「これ…シャレにならんでしょ…」

シィが目の前の光景に代表で呟く。

マリオとソニック、クッパが大量の雑魚キャラを吹っ飛ばしているが…他にも１０００体以上いた。

W明久「多すぎぃぃぃぃぃぃ！！」

マリオ「おお来たか！」

W明久の叫びにマリオが雑魚キャラを吹き飛ばしながら言う。

なのは「多すぎですよ！何ですかこの数！」

クッパ「うむ、最後の1体になった所でその1体から増殖しまくってこうなったのだ」

ソニック「しかも、今も増殖中だ」

フェイト「この数…きついですね」

シィ「しかも増殖中って言うのがきついわね」

なのはの言葉にクッパが説明し、ソニックが付け足して言い、フェイトとシィは眉を顰める。

マリオ「だが、増殖元を叩けばこいつ等も一緒に消滅する筈だ」

明久（黒一文字）「その増殖元は？」

ソニック「青い奴なんだけど…紛れ込んでどれがどれだが…」

ゆり「分かんないって訳ね」

結弦「マジか…」

秀樹「大丈夫だ！倒していればいずれ行き着くだろ！」

セナ「増えてるから～～凄くかかると思うよ～～」

クレス「そうだな…逃げる奴がそうだろうが…」

マリオの言葉に明久が聞き、ソニックがそう言って肩をすくめ、ゆりは眉を顰め、結弦が絶句する隣で秀樹がそう言うとセナがそう言い、クレスは顎に手を当てて大群を見て呟く。

すると…

ドーーーーン！！

詠春「何だ！？」

突然別方向から飛んで来た光線に雑魚キャラが吹き飛ぶ。

ダークエリザベス『援護は必要か？』

マリオ「ああ、丁度必要だ」

エリア「大丈夫か明久…明久が２人！？」

プラカードを出して聞くダークエリザベスにマリオは頷き、エリアはＷ明久を見て驚く。

ルナ「ネオスの方のアキ兄…知り合い？」

明久「うん、ＫＡＭＥＮＲＩＤＥ！」

ネオスバックル「ライダーアップ」

明久（黒一文字）「うえぇぇぇぇ！？変身した！？」

クレス「そう言えば見るの初めてだったな」

ゆり「大きいわね…」

セナ「そうだね～」

ルナが明久の方を向いて聞き、明久は頷いた後にネオスに変身し、それに明久（黒一文字）が驚き、クレスが言ってる隣でゆりとセナはエリアの一部分を見て呟く。

ダークエリザベス『さっきあっちに逃げてる青い奴を見つけた』

マリオ「増殖元はそれだ！ネオス！」

ネオス「はい！」

ネオスバイザー「アドベント！ユニゾンベント」

ダークエリザベスの言葉にマリオがそう言った後にネオスは頷いた後にバードエッジを呼び出し、バードエッジは鳴いた後に光の玉となってネオスの鎧に吸収されるとネオスの鎧部分がピンクに染まり、鳥を模した感じに変えた感じの『仮面ライダーネオスエアー』へと変わった。

ネオスE「いっえぇぇぇぇぇ！！」

ネオスEは風を右腕に集中して鳥を模した風の弾丸として相手に放つ『エアーストーム』を繰り出し、ダークエリザベスが指した方へ飛んで行き、その進路上にいた雑魚キャラ軍団を吹き飛ばして行くと１０００体以上もいた雑魚キャラ軍団が消えた。

マスター「それは大変だったな；」

数分後、エラーを消して一息を付いたマスターが詳細を聞いてそう労う。

ルナ「それで戻れますか？」

マリオ「大丈夫大丈夫、ちゃんと戻せるから」

結弦「良かった…」

タブーが出したジュースを飲んで一息付いた後にルナは聞き、マリオは答えると結弦は安堵の息を吐く。

フォックス「あっ、セナ、これ明久に好意を寄せるメンバーに渡してくれ」

セナ「何これ～？」

どん！とフォックスがセナの前に置かれた９つもあるケースにセナは聞く。

フォックス「ああ、明久のコスプレとか色々と詰まった写真だよ写真、ちゃんと渡してくれよ。ちゃんとシィの分もあるから」

セナ「分かった～」

フォックスの言葉にセナは頷く。

クレス「それで何時戻る？」

シィ「もう少ししてからで良いんじゃない？またリベンジするからね！」

ムッツリーニ「……何時でも受けてたつ」

クレスの問いにシィは言った後にムッツリーニにそう言い、ムッツリーニもそう返す。

なのは「すっかりライバル意識だね」

フェイト「ホントだね…それにしても…」

明久「あの…エリアさん、何で抱き付いてるの？」

エリア「いっ、良いじゃないか」

なのははシィに苦笑してフェイトはある方向に向き、エリアに抱き付かれてる明久は聞き、エリアは顔を真っ赤にして言う。

ダークエリザベス『初々しいな…』

明久（黒一文字）「（絶対、ＦＦ団に狙われそうだな；）」

その様子にダークエリザベスはプラカードでそう言い、明久（黒一文字）は心の中で呟いた。

その後、ドクターの薬や料理にフォックスの写真をお土産にシィ達は帰ったのであった。

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

銀八「と言う訳で行くぞ俺の所のペンネーム『黒龍』から『黒龍「いや～エリア惚れちゃいましたね～」

銀時「つうか、ダークエリザベスとマリオ凄いよな」

ソラ「そうだな」

アリス「私としてもアレは中々だと言えるな」

アリア「見て良かった・・・」

リリス「そうですね。ただ、やっぱエリアさんのアレがかなりショッキングでした・・・」

神楽「ムカつくアル！！」

セイバー「これからは牛乳を・・・」

ライダー「あなた達は・・・・・・まぁ私が何か言っても怒りを煽るだけですね」

ヤミ「トランスを使えばああなる事も可能です」

新八「いや、何であなた達は一部分の話しかしてないんですか！！」

ライホース「女心と言うものか・・・」

黒龍「じゃあまたコラボ依頼します。っと、その前に質問です」

1．マリオに質問。もし、転生する前から強い力を持った転生者が現れた場合はどうするんですか？

2．ルイージに恋路を抱いている人はいるんですか？

3．ソラやアリスと並び立つクールキャラはそちらにいますか？ちなみにソラはクールボケも時々します。

黒龍「じゃあ質問も終わった所で、コラボ依頼です」

『次はマリオ達が銀さんのいるリリカルなのはの世界に来ると言う話です。行くメンバーと内容はそちらに任せます。もし、リクエストが欲しい場合は言ってください』

黒龍「今度のコラボも楽しみにしています」

桂「最後にマリオ殿！俺から攘夷志士タオルを贈ろう！！これを首にかけ、共に攘夷志士なろうぞ！！」

エリザベス『それでは！』と言う訳で答えなさい！」

マリオ「そう言うのはあんまりいないな…いたとしても常識のある奴が多いからな、変に変えなければ輪廻へ戻さない…後、桂サンキュー！使わして貰うぜ！」

ルイージ「デイジーだけです！」

蛇八「そうだな、メタナイト卿やムッツリーニだろ、アイクが主だな…」

銀八「と言う訳で『黒龍』！小説頑張るように！」

蛇八「と言う訳で此処まで！」

リュカ「と言う訳で黒一文字さんとのコラボでした」

フォックス「どう言う反応を見せてくれるのやら」

スネーク「オマエな…」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカルボーボボ　爆闘！ハジケ対戦　ＥＸ話　エンドレス組み手なんて簡単だ

スネーク「今回はｓｉｂｕｇａｋｉの『リリカルボーボボ　爆闘！ハジケ対戦』とのコラボだ！」

フォックス「と言うかタイトル…匿名希望にリクエストされたのを入れる気か？」

クッパ「何でも、どう絡ませようかと考えてて丁度来たからこれは良いなと思ったそうだぞ」

ワリオ「さよか…」

ゼロ「と言う訳でゲスト召喚だ！！」

明久「またいきなり過ぎる！！」

スマブラ荘でゼロの言った事に明久は叫ぶ。

ちなみに他にルイージにフォックス、ダークエリザベス、エリア、ムッツリーニと明久ＬＯＶＥズとムッツリーニＬＯＶＥズに秀吉と雄二に霧島がいる。

秀吉「それで呼び出す者達は何なんじゃ？」

ゼロ「まあまあ、来てからのお楽しみだ」

ゼロブレスレッド「サモンライド！ｓｉｂｕｇａｋｉ！」

秀吉の問いにゼロがそう言うとカードを装填する。

すると…ボーボボ一行にあっちのスバルとティアナが召喚されるが…

ボーボボは少年時代の姿でビキニを着たティアナをスバルが写真を撮っていた。

ルイージ「ボーボボが『リリカルボーボボ　爆闘！ハジケ対戦』での自分の今の状態になってるぅぅぅぅぅぅ！！」

フォックス「しかもティアナにいたっては感想の状態になってるぅ

うううううううううう！！」

ダークエリザベス『何このいきなりの展開！？』

ティアナ「何なのよ！！？」

スバル「ティア～それじゃあ駄目だよ～」

ティアナ「あんたも気づけ！」

ビュティ「此処どこ！？」

それにツッコミメンバーはツッコミ、ティアナは体を抱き締め、スバルがズレた注意してティアナはそう言い、ビュティは周りを見る。

数分後

ボーボボ「成る程、それで拙者達は呼ばれたので御座るな」

自己紹介をした後にティアナが用意された私服を着て、それぞれジュースを飲んで一息付いた後にマリオの説明にボーボボが納得する。

マリオ「ただ話すだけではつまらないだろうし、ちょっと俺達の訓練をやって見ないか？」

ボーボボ「ならばやって見せようで御座る！」

首領パッチ「やってやるよ！！」

天の助「んで、それ何？」

ヘッポコ丸「教えてくれませんか？」

マリオの問いにボーボボと首領パッチが意気揚々と答え、天の助とヘッポコ丸が聞く。

マリオ「１００人組み手のエンドレス組み手」

ルイージ「倒されるまで何人雑魚キャラ軍団を倒せるかを競えるんだ」

スバル「やりがいありそうだね！」

ソフトン「鍛えるのに良いな」

マリオが言った後にルイージが説明し、スバルがそう言った後にソフトンが腕を組んでそう言う。

首領パッチ「そんじゃあ早速行くぜ！」

ルイージ「あっ！待った！今行くと！」

首領パッチが走り出し、ルイージが止め様と停止の声をかけるが間に合わずに首領パッチは行ってしまい…

首領パッチ「ぎゃらぱぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！」

ヘッポコ丸「何があった！？」

首領パッチの叫び声にヘッポコ丸が叫ぶ。

冥王「もう、折角良い調子だったのに…」

ズルズルとボロボロの真っ黒焦げになった首領パッチを引き摺ってレイジングジャベリンを使ってのバリアジャケットを纏った不満げな冥王が来る。

ビュティ「首領パッチ君!?どうやったらそうなるの!?」

ヘッポコ丸「と言うかなのはさんの様だけど誰!?」

冥王「私は冥王なの、このトゲトゲ君が突然レイジング・ブレイカーを前に出て来たの」

ティアナ「飲み込まれた訳ね…」

驚くビュティとヘッポコ丸に冥王は自己紹介して首領パッチが真っ黒焦げの理由を話し、ティアナは顔を押さえて言う。

ソフトン「（この者…他の者と同じ様に出来る）」

ソフトンは冥王を見て呟く。

明久「まったく、冥王の前に出るなんてさ…ねえムッツリーニ?」

そう言って明久はムッツリーニの方を向くと…

ムッツリーニ「……（ドクドク）」

鼻血を流して倒れたムッツリーニがいた。

ヘッポコ丸「何があったぁぁぁぁぁぁ!?」

明久「ムッツリーニぃぃぃぃぃぃ!!」

それにヘッポコ丸は驚き、明久はすぐにムッツリーニを介抱させる。

愛子「えっと…」

フランシス「いや～なんでだろうね?」

ファンタズムーン「ホントだね♪」

ビュティ「あんた等が原因だよ!!」

何時の間にかビキニ姿になってる3人にビュティがツッコミを入れる。

明久「まったく困ったもんだよ、ねっ?」

赤セイバー「そっ、そうだな（ささっ）」

キャス子「まったくです（ささっ）」

姫路「ホントですね（ささっ）」

美波「そっ、そうね（ささささ）」

優子「ホントよ（さっ）」

玉野「ねえ～（さっ）」

玲「困ったもんですね」

エリア「そうだな」

葉月「？」

天の助「ちっちゃい子以外の人達も今一瞬やろうとしてたよ！！！」

明久「ってか姉さんとエリアさんはもう着てるし！！！」

秀吉「姉上；」

ダークエリザベス『おいおい；』

後ろでに回すメンバーとビキニを着ている玲とエリアに天の助がツッコミ、明久も入れ、秀吉とダークエリザベスは冷や汗を流す。

雄二「お前等な…真面目にやれよな…」

ティアナ「そう言うあなたが一番大丈夫なの；」

霧島により目隠しされ、厳重に縛られて転がされた雄二にティアナは冷や汗を流す。

数分後

マリオ「と言う訳で2人ずつでやるぞ…組み合わせは俺&ボーボボ、天の助&ヘッポコ丸、ソフトン&ルイージ、フォックス&スバル、

明久&ティアナ、田楽マン&冥王、ダークエリザベス&首領パッチでちなみに俺が言ったのと反対の順で」

田楽マン「俺も！？」

落ち着いた後にマリオが言った組み合わせに、蚊帳の外だった田楽マンは驚く。

首領パッチ「足引っ張るなよ！」

ダークエリザベス『オマエがな』

首領パッチが言った後にダークエリザベスがそう返し、２人は１００人組み手のやる戦場に向かう。

３０秒後

首領パッチ「すんませんでしたｍ（＿＿；）ｍ」

黒こげになった首領パッチがダークエリザベスに土下座して謝る。

雄二「ああ威張ったわりに全然吹っ飛ばしてなかったな」

霧島「……ほとんどダークエリザベスがやった後にボム兵で自爆して終了」

ダークエリザベス『まったく』

雄二と霧島が首領パッチの土下座理由を言い、ダークエリザベスは息を吐く。

ちなみに倒した数は６０体その内首領パッチは2体しか倒せてない。

マリオ「んじゃあ2番手の田楽マンと冥王」

田楽マン「頑張るのら～」

冥王「頑張るの」

首領パッチ「どうせ俺より終わるだろ」

マリオの言葉に田楽マンと冥王はそう言い、拗ねた首領パッチがそう言う。

2分後

冥王「はあ～ちょっと物足りないけど良いか」

田楽マン「頑張れたのら～」

首領パッチ「何で！？」

冥王の後に田楽マンは言い、首領パッチは叫ぶ。

ヘッポコ丸「そりゃあ首領パッチ、田楽マンは落ちて来たアイテムを上手く使って冥王を援護したからだろ」

ボーボボ「ビームソードやらクラッカーランチャーをバンバン使ってたで御座る」

ソフトン「お前はほとんど無視してたからな」

首領パッチ「ｏｒｚ」

ヘッポコ丸、ボーボボ、ソフトンの言葉に首領パッチは崩れ落ちた。

ちなみに2人が倒した数は３０５体、冥王は２５５で田楽マンは５０体

マリオ「んじゃあ次、明久とティアナ」

明久「はい！それじゃあ、ランスターさん、頑張ろう！」

ティアナ「ええ（ああ…マジメに出来るのは良いわね（Π－Π））」

明久の言葉にティアナは頷いた後に内心、感動の涙を流す。

そして2人は戦場に移動する。

１分３０秒後

ティアナ「ス～バ～ル～～～～あんたって奴はぁぁぁぁぁぁぁ！！」

スバル「ギブギブ！！」

スバルにプロレス技をかけるティアナの姿がいた。

秀吉「まさかバリアジャケットに細工しておるとは；」

姫路「何時の間にしたんでしょうね；」

さっきまでの明久とティアナのエンドレス組み手に秀吉と姫路は冷や汗を流す。

雑魚キャラを倒すのは順調だったがスバルがどこからかスイッチを取り出し、それを押したらティアナのバリアジャケットが突如、田ボの服に変わり、それにティアナが戸惑っている間にアウトになってしまったのだ。

ちなみに2人が倒した数は１６０体で2人で丁度半分ずつ倒した。

フォックス「次は俺とのだな」

スバル「見せてあげるよ！私の鉢巻真拳を！」

美波「どうなるんだろう…」

優子「ホントね」

フォックスとスバルのコンビでどれ位行くんだ！？

キャス子「次回に続きます♪」

ビュティ「続くのこれ！？」

リリカルボーボボ　爆闘！ハジケ対戦　ＥＸ話　エンドレス組み手なんて簡単ｄ

ワリオ「と言う訳で続く事になったな…」

ウルフ「そうらしいな」

クッパ「どうなるのやら…」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　～銀女神鎮魂歌～　―　第別訓パート３１

スネーク「と言う訳で真王とのコラボ３１弾だ！」

フォックス「今回からタイトルも変えてだな」

ワリオ「コロシアムだな」

マリオ「ん？イストワールから？」

ルイージ「へえ～どんな内容かな？」

手紙を見たマリオにルイージはそう言った後に内容を見る。

イストワール『こんにちは、イストワールです。マリオさんの噂は聞いております。ところで私が作り出したドッペルゲンガーでマリオさんの戦ったことのあるモンスターと対戦してみませんか？ちなみに銀さん達もよしですよ』

マリオ「良し！やって見るか！」

ルイージ「それじゃあ行こう」

その後にクッパとソニック、明久とムッツリーニとダークエリザベスとエリア、冥王、銀次と共に向かう。

イストワール「良く来てくれました」

マリオ「こちらこそ、呼んで下さりありがとうございます」

イストワールとマリオが握手をしている間、ルイージ達も来ていた銀時、新八、神楽、ネプテューヌ、ノワール、ブラン、ベールと話していた。

なお、冥王はヴィヴィオに会いに行った。

ちなみにエリアに神楽とブランは一部分に敵意を出す。

イストワール「それでマリオさんが戦って貰うのはこの人達です」

イストワールがそう言うと画面に文字が映る。

マリオが戦うモンスター

ノコブロス、カーメン、ドガボン、将軍ヘイホー、ファイアパックン、オズモーン、パラレラー、クッパ

クッパ「我輩入ってるぅぅぅぅぅ！！」

マリオ「まあ、確かに俺と戦っただからな」

表記された事にクッパは驚き、マリオは苦笑する。

イストワール「それでパートナーも入れて良いですよ」

マリオ「それじゃあソニック、来てくれ」

ソニック「ＯＫ！」

イストワールの言葉にマリオはそう言い、ソニックは了承する。

中央に２人が来た後、銀時達は観客席に移る。

銀時「しっかし、イストワールも色々制限付けるな」

タレ銀「そうだね～」

椅子にもたれて言う銀時にタレ銀が隣で同意する。

イストワールが2人に言った事…

マリオ：ジャンプとハンマー以外の技や武器使用禁止、変身もなし

ソニック：体術と剣以外の技や魔法使用禁止、同じく変身もなし

上記のがイストワールに2人が言われた事である。

ダークエリザベス『これはなかなかの縛りだな』

エリア「色々問われるね」

明久「あの…何で抱き締められてるんですか？」

ムッツリーニ「……鈍すぎる」

ダークエリザベスはそう言い、エリアが明久をぎゅっと抱き締め、それに戸惑う明久にムッツリーニはため息を吐く。

ネプテューヌ「ライバルとしてどう思う？」

クッパ「ふん、こんなのマリオには良い修行になるのだ」

ノワール「あっさり言うわね」

ベール「それ程信頼してるんですね」

ブラン「なかなかね」

ネプテューヌの問いに鼻息を噴いてクッパはそう言い、それにノワールはクッパを見て、ベールは笑って言い、ブランも言う。

ソニック「さあせ！行こうぜカリバーン！デルフ！」

カリバーン「ああ」

デルフ「おうよ！頑張って行こうぜ！」

マリオ「いっちょ！やりますか！」

2人が準備完了と同時に最初に赤、黄、緑、黒の覆面と甲羅を纏ったノコノコ、ノコブロスが現われた。

そして、緑を一番下に黄色、黒、赤の順に乗ると甲羅の中に入り、マリオとソニックに突撃して来る。

マリオ「おっと！」

ソニック「ＹＥＳ！」

それを2人は防御してダメージを軽減する。

マリオ「今度はこっちの番だ！ジシーンアタック！」

マリオはそう言うとハンマーを力強く振り上げた後に強く叩くと地面が揺れる。

新八「うわわわわ!?」

神楽「地震アル!?」

来た地震に新八は地面に座り込み、神楽は椅子に掴まる。

それによりノコブロス達はバランスを崩して倒れこむ。

ソニック「行くぜ!」

それにソニックは丸くなると力を溜め…

ソニック「はっ!」

スピンアタックをしてノコブロス達を攻撃する。

それを受けたノコブロス達は消えて行く。

ソニック「楽勝だね」

指を振るソニックがそう言った後に広場が変形する。

銀時「ええ!?こんな機能あるの!?」

タレ銀「凄いな〜」

それに銀時が驚き、タレ銀が関心してる間に広場はどこかの遺跡の中へと変わる。

すると中央に何かが現われる。

銀時「スタンドか！？スタンドなのか！？」

明久「銀さん震え過ぎ；」

エリア「あれは何なんだろうね」

現われたそれに銀時は椅子の後ろに隠れ、エリアから離れようとしたが諦め、そのままの状態になってる明久が冷や汗を掻き、エリアがそう言う。

浮いていたそれは鉄格子の上の足場に移動すると周りから何かが集まり、そこにはワンワンの飾りが付いた帽子を被った亀、カーメンがいた。

マリオ「させ、第2ラウンドの始まりだな…先手必勝のハンマーナゲール！」

マリオがそう言った後ハンマーを強く持って後ろに体を引き、戻すと同時にカーメンにハンマーをぶつける。

ソニック「今度は俺だ！ダブルソードビーム！」

次にソニックがデルフとカリバーンを振ってビーム上の刃でカーメンを攻撃する。

カーメンは腕を上に上げると鉄格子が開き、そこからワンワンが現われる。

それをした後にカーメンは傍にあったコウラをマリオに投げる。

マリオ「おっと」

それにマリオは防御する。

マリオ「ワンワンに攻撃される前に…ツラヌキナグーリ！」

マリオはワンワンに近づくと防御無視のハンマー攻撃をしてワンワンを倒す。

ソニック「行くぜ！流星キック！」

次にソニックは高くジャンプした後にキックの体制で落下してカーメンに攻撃する。

その後にカーメンが何かを唱えると空中に巨大ワンワンが現われ、地面に落ちると揺れて、マリオ達の上に石が落ちて来る。

マリオ「おっと！」

ソニック「よっ！」

2人が防御した後にカーメンにも石が落ちて地面に落ちる。

新八「出した本人にもダメージ行ったぁぁぁぁぁぁ！？」

ノワール「そう言うのもあり！？」

新八とノワールがツッコミを入れてる間にマリオとソニックがそれ

ぞれ、ガツーンナグーリとぐるぐるパンチを決める。
受けたカーメンは目を回しながら消えて行く。

マリオ「このまま行くぜ！」

ソニック「ＹＥＳ！」

その後、２人はドガボンをあっさり倒し、将軍ヘイホーは電球を壊した後に防御無視の攻撃で倒し、ファイアパックンとオズモーンにパラレラーを全体攻撃で倒して行く。

クッパ「…次は我輩か…」

銀時「そうらしいな」

ダークエリザベス『させ、どう言う戦いを見せてくれるのやら』

クッパは呟く隣で銀時はそう言い、ダークエリザベスはそう言う。

マリオ「させ、次のクッパで最後だな」

ソニック「そうだな」

デルフ「この調子で行こうぜ相棒！」

３人が言った後に雰囲気も変わり、周りがバチバチと火花を散らすと中央にクッパを大きくしたクッパが現われた。

神楽「デカイアルな」

ネプテューヌ「ホントだね」

それに神楽とネプテューヌは驚く。

マリオ「ドッペルクッパと呼ぶべきだな…ドッカーンナグーリ！」

それを見て呟いた後にマリオはガツーンナグーリより強い攻撃を繰り出す。

ソニック「チャージ斬りだ！」

力を溜めた後にソニックはデルフとカリバーンで斬る。

ドッペルクッパはスターの杖（勿論レプリカ）を取り出すと衝撃波が2人に向かって行く。

マリオ&ソニック「くっ！」

衝撃波に2人は防御をするが少し吹き飛ぶ。

ベール「ちょっと手こずってますね」

ダークエリザベス『そりゃあほとんどガードはしているがダメージを受けてるからな』

ドッペルクッパに攻撃をしている2人を見て、ベールの言葉にダークエリザベスはそう言う。

明久「大丈夫ですよ。先生にソニックは勝ちますから！」

ムッツリーニ「……明久の言う通り、師父達は勝つ」

エリア「はう…」

顔を真っ赤にしているエリアから離れた明久が強く言い、ムッツリーニも同意する。

タレ銀「そうだよ、マー君なら後もう少し、と言うかもう終わりそうだし」

タレ銀がそう言った後、銀時はマリオ達を見る。

ソニック「フィニッシュ！」

マリオ「ドッカーンナグーリ！！」

ソニックが斬った後にマリオが力強く振る事でドッペルクッパは呻いた後に倒れ、姿が消える。

イストワール「しゅう～りょ～う。なかなか良いバトルでした」

マリオ「こっちも良い勝負を出来たからありがとう」

ソニック「ＹＥＳ！」

２人に近寄るイストワールにマリオとソニックは笑顔で言う。

リュカ「と言う訳で真王さんとのコラボでした」

フォックス「なかなかだったな」

スネーク「そうだな」

ワリオ「思いっきりマリオストーリーの技だったな」

ネス「感想を待ってます♪

IS<インフィニット・ストラトス>黒き牙と永遠の月　肝試し

スネーク「ユートピアとのコラボだ！」

フォックス「楓が見つけた洞穴は何なんだろうな…」

クッパ「そうなのだ…」

IS&It;インフィニット・ストラトス>黒き牙と永遠の月　肝試しよう♪

マリオ「ふ～む、まさか洞穴があるとはな…」

一同が楓の見つけた洞窟を前にマリオが入り口を見て呟く。

ルイージ「それでどうする？」

楯無「肝試ししよう♪」

マリオ「う～ん…時間はまだあるから探検出来る時間はあるからな…んじゃあ参加するメンバーは言ってくれ」

聞くルイージに楯無がそう提案し、マリオは時間を見た後にそう言う。

リュウケンドー「んじゃあチェンジするか」

そう言うとリュウケンドーはアクセルラーを取り出し、一番上の列の星のマークのボタンを押す。

リュウケンドー「レディ！　ボウケンジャー、スタートアップ！」

左腕の上でアクセルラーを滑らせ、ゴーゴータービンを回転させる。

それと共にリュウケンドーの姿は変わる。

ボウケンレッド「熱き冒険者！ボウケンレッド！！」

終「スーパー戦隊になれるのか！？」

虚「変わってる」

本音「うわぁ～～かっこいいね～～」

ポーズを取るリュウケンドーもといボウケンレッドに終は驚き、虚はそう言い、本音は褒める。

ボウケンシルバー「んで、組み合わせはどうするんだ？」

不動「お前もなってるんかい！！」

ルビー「カービィ；」

組み合わせについて聞くカービィもといボウケンシルバーにファルコもとい不動はツッコミを入れ、ルビーは冷や汗を流す。

マリオ「そうだな…」

簪「勿論私…だよね？」

楯無「私でしょ？」

終「はぁ…」

考えるマリオに簪と楯無は終にさらに抱き付き、終はため息を吐く。

楓ＬＯＶＥズ「（楓（さん）となるのは私（あたし）―（僕）だ！）」

楓「あの…皆、怖いよ；」

バチバチと睨み合う楓ＬＯＶＥズに楓はそう言う。

マリオ…こっちの身の為にも考えてくれ；

ウイング「（作者が出て来たな；）」

デスサイズ「（結果次第じゃあ感想で血の雨が降るしな…）」

メタな発言をウイングとデスサイズが心の中で呟いてる間にマリオは良しと言った後に発表する。

組み合わせ

ボウケンレッド＆オーズ（ギル）ＰＣ

冥王＆スィン

楓＆椛

不動＆フラン＆お空

一夏＆箒

終＆楯無＆簪

明久＆本音

康太&虚

ラウラ&鈴

シャル&セシリア

ボウケンシルバー&ルビー

チルノ&ルーミア

ウイング「何で3人な所があるんだ?」

マリオ「いや…俺の勘がそうしろと言っているんだよ…」

ウイングの問いにマリオはそう言う。

ルイージ「それで大体どれ位で行くの?」

マリオ「そうだな…30秒経ったら行く…でどうだ?」

チルノ「そんじゃあ!アタイが先頭だ!」

ルーミア「やれやれ」

ルイージが入る時間を聞き、マリオが言った後にチルノが元気良く洞穴に入り、ルーミアも肩を竦めた後に続く。

マリオ「……そろそろ30秒だな」

ボウケンレッド「それじゃあ俺達だ！アタック！」

オーズＰＣ「ぷっ！」

時計を見て言うマリオにボウケンレッドが言った後にオーズＰＣと共に洞穴に入る。

終「…（何かあるな……何なんだ？）」

終が洞穴を見て何かあると感じてる間に冥王＆スィン、楓＆椛、ラウラ＆鈴、シャル＆セシリア、不動＆フラン＆お空、一夏＆箒と入って行く。

一夏「しかし暗いな…」

箒「ホントだな／／／」

ライトで前方を照らして言う一夏に一夏に抱き付いた箒が顔を赤くして言う。

一夏「ん？箒、あれ？」

箒「？」

前方を見ていた一夏に声をかけられ、幸せだった箒はそう言われて前を見る。

すると、楓と椛の後に行き、自分達より前に行ったメンバーがいた。

不動「一夏達か」

一夏「どうしたんです？」

箒「…楓はどうした？」

一夏達に気づいた不動が声をかけ、一夏が聞き、箒は椛に聞く。

椛「それが…消えたのよ…」

ラウラ「我々が目を一瞬放した間に楓の姿がなくなったのだ」

一夏「マジかよ！？」

フラン「それで探してるんだけど見つからないんだ」

お空「うにゅう…呼んでも返事が来ないの」

椛とラウラの言葉に一夏が驚いた後、フランとお空が言う。

その後、来たメンバーと共に楓を探した。

そんな楓はと言うと…

楓「あいたたた…」

足を抑え、歩けない状態の楓がいた。

楓「此処はどこなんでしょう…あれ？」

周りを見ていた楓はふとある物とそれを見ている者達を見つける。

ボウケンレッド「あれ？楓？」

オーズＰＣ「ぷっ？」

石版の様な物を調べていたボウケンレッドとオーズＰＣが楓に気づき、近づく。

楓「２人共、何で此処に？」

ボウケンレッド「歩いてる時にギルが此処に通じる道を見つけてた。来た時にあの石版の様なのあったから調べてる時に楓が来たって訳だ…こりゃあ手当てしないとな…一通りデータと写真も撮ったし…合流しよう。皆心配してると思うし」

オーズＰＣ「ぷっ！」

ボウケンレッドが楓の問いに答えて、楓の足を見てそう言った後に抱き抱え、オーズＰＣと共に来た道を行く。

３人が見つけた石版は一体…

ＩＳ&Ｉｔ；インフィニット・ストラトス＆ｇｔ；黒き牙と永遠の月　肝試しと

フォックス「と言う訳でユートピアとのコラボだったな」

スネーク「３人が見つけた石版は一体…」

ワリオ「だな」

ネス「感想を待ってます♪」

スネーク「黒龍とのコラボだ！」

フォックス「しかも今回で１００話目だ！」

ネス「来たね～ついに」

クッパ「これからも頑張るのだ！」

銀時「しっかし、どこにあるんだろうなジュエルシード…」

新八「そうですね…しかもそれぞれ散らばってますし…」

なのはが学校に行っている間、ジュエルシードを探す銀時と新八。

他に新撰組とライダーに近藤の肩にユーノもいる。

近藤「ユーノ君、ジュエルシードをなんとか探せないのか？」

ユーノ「流石に発動しないとジュエルシードは魔力を発しませんから…」

土方「つまり、発動しないと分からないか…」

山崎「後手になっちゃうんですね…困りましたね」

近藤の問いにユーノは困った顔をして、土方はタバコを吸いながら言い、山崎もユーノと同じく困った顔をする。

沖田「どうせなら公園にまた行って見るのはどうです？もしかしたらもう１個あったりするんじゃないッスか？」

近藤「確かに可能性は無くないな…」

ライダー「それでは行って見ます？」

銀時「手がかりねえからな…行って見るか」

沖田の提案に近藤は顎に手を当て、ライダーは銀時に聞き、銀時は頭を掻きながら言う。

そしてメンバーは新撰組と会った公園に来た。

来て…

マリオ「よう」

ソニック「Ｈｅｙ，また会ったな」

明久「こんにちわ」

ムッツリーニ「……」

リュウケンドー「また海鳴に来るとはな…」

赤セイバー「むっ？奏者の知り合いか？」

キャス子「サーヴァントもいますね」

フランシス「いや～良い海だね～」

ファンタズムーン「だね」

マリオ達と出会ったのであった。

２分後

近藤「つまり、ちょっとした事で知り合った万屋の知り合いか？」

銀時「ああ、サーヴァントやそこの鎧着た奴以外な」

お互いに自己紹介し、近藤はマリオ達を見て聞き、銀時はそう言う。

新八「それにしても…何で此処に？」

マリオ「ちょっとな…此処に偽神のせいで来た奴等がいる気配を感じてな…」

ライダー「偽神…確かあの時言っていましたがそれは一体？」

明久「神様の中で人の命を勝手に散らしたり、道具だと思っている存在の事です」

銀時「んで…この世界にいると？」

新八の問いにマリオは頭を掻いて言い、ライダーは聞くと明久が言い、銀時が聞くとマリオが頷いた時…

ユーノ「！ジュエルシードが発動した！しかも複数！」

マリオ「おいおい、この気配は…発動させたのは馬鹿な奴だな…康太！」

ユーノは海の方を見て叫び、マリオは眉を顰めた後にムッツリーニに振り向く。

ムッツリーニ「……了解、ＫＡＭＥＮＲＩＤＥ」

ネクサスベルト「ライダーアップ」

ムッツリーニはネクサスに変身するとすぐジュネッスフォームとなり、メタフィールドを海鳴を包むように形成する。

それと同時に人気がなくなる。

近藤「これは！？」

マリオ「ネクサスが作り出せるフィールド、メタフィールドだ。これで俺達と今発生しているジュエルシード以外はいない」

銀時「すげぇな…」

リュウケンドー「来るぞ！」

風景が変わった事に近藤は驚き、それにマリオが説明、銀時が感嘆の声を上げた時、リュウケンドーがゲキリュウケンとキーブレードを構える。

？？？「ウォオオオオオオオオオオ！！」

すると海から咆哮が上がった時に水柱が立ち、そこから全体が燃えてる巨人が現われる。

沖田「何ですかありゃあ？」

マリオ「仮面ライダーコアだ、厄介な奴を呼び出してくれるな…K

ＡＭＥＮＲＩＤＥ！」

明久「ＫＡＭＥＮＲＩＤＥ！」

ゼロバックル＆ネオスバックル「ライダーアップ」

ソニック「変身！」

沖田がバズーカを構えながら聞き、マリオが言った後に明久とソニックと共に変身する。

そして、コアがゼロ達に気づき、飛び上がると拳を振り上げる。

ゼロ「散開！」

銀時「わかってる！！」

ゼロが叫び、銀時が答えると共にコアの攻撃を避ける。

フランシス「それ！」

キャス子「氷天よ。砕け！！」

沖田「オマケでさ」

ネクサス「……同じく」

フランシスが２丁拳銃でコアを攻撃し、キャス子が凍り属性攻撃の呪符を投げた後に沖田がバズーカで、ネクサスがパーティクルフェザーで追撃する。

銀時「ほわたっ！」

ゼロ「デヤッ！」

近藤「なんの！」

リュウケンドー「おりゃあ！」

赤セイバー「喰らえ！」

ネオス「でええい！」

土方「この！」

新八「わたっ！」

カリバー「オマケだ！」

ファンタズムーン「おりゃあ！」

山崎「喰らえ！」

その後に銀時、ゼロ、近藤、リュウケンドー、赤セイバー、ネオス、土方と新八、カリバーが切り裂いた後に杖を構えたファンタズムーンとミットを構えた山崎が叩き付ける。

コア「ヌォォォォォォォォ！」

それぞれの攻撃を受けたコアは地面に倒れこむ。

新八「やったんですか！？」

ゼロ「いや、まだだ！」

新八が叫んだ後にゼロが言うとコアは咆哮すると同時に受けた所が修復される。

キャス子「しつこいですね」

フランシス「宝具で決めるかい？」

ゼロ「いや、宝具を使うのは此処では得策じゃない。こっちを使え」

キャス子は眉を顰め、フランシスが自分の宝具を使おうとしてゼロに止められた後にカードを渡される。

フランシス「なんだいこれ？」

ゼロ「念じろ、具現せよと…他のサーヴァント達もだ」

フランシスの問いにゼロはそう言い、フランシスや赤セイバー達は集まった後に言われた言葉を念じるとカードが輝き、５人の手にレンジャーキーが装填されたゴーカイガンとゴーカイサーベルが握られる。

フランシスとキャス子がゴーカイガン、赤セイバーとライダーがゴーカイサーベル、そしてファンタズムーンがゴーカイサーベルとゴーカイガンと言う感じだ。

5人は現われたそれに戸惑ったが頭に流れたイメージに従い、それぞれのシリンダーを倒す。

ゴーカイガン&ゴーカイサーベル「ファ～イナルウェ～イブ！！」

音声の後に5人はそれぞれ溜めをした後に…

フランシス&キャス子「はっ！」

まず、フランシスとキャス子がゴーカイガン2丁でコアを攻撃し…

赤セイバー「ふん！」

ライダー「たっ！」

すかさず赤セイバーとライダーが手に持った2本のゴーカイサーベルでコアを切り裂き…

ファンタズムーン「いっくよ！」

最後にファンタズムーンがゴーカイガンで銃弾を放った後にゴーカイサーベルから斬撃を放って前に打った銃弾と合体させてコアを攻撃する。

ゼロ「ゴーカイスクランブル…んで行くぞリュウケンドー！カリバー！」

ゼロブレスレッド「ファイナルフォームライド！ゼ・ゼ・ゼ・ゼロ！！」

リュウケンドー「おう！」

カリバー「ＯＫ！」

ゼロが言った後に音声と共にスラッガーゼロに超絶変形するとリュウケンドーが元気良く返事した後にゼロスラッガーを掴み、カリバーはデルフとカリバーンを構える。

銀時「えぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！？」

近藤「ねえトシ！思いっきり人体構造無視してるよねあれ！？」

土方「落ち着け、近藤さん、俺も戸惑ってる」

その光景に銀時は驚き、近藤は慌てて聞き、土方はそう返す。

リュウケンドー「行くぜ！魔弾龍！ウルトラライダー！そして剣士！３つの力を１つに！」

その間にリュウケンドーはそう言うと同時にツインエッジゲキリュウケンにファイナルキーを差し込む。

リュウケンドー「ファイナルキー！発動！」

ツインエッジゲキリュウケン「ファイナルクラッシュ！」

カリバー＆デルフ＆カリバーン「約束（ツインエクス）された！勝利（カリバー）の双剣！！」

カリバーがコアを貫いた後にリュウケンドーは光を纏い、コアに近づく。

リュウケンドー「三位一体！閃光魔弾斬り！！」

カリバー&デルフ&カリバーン「約束された！勝利の双剣！！」

カリバーがコアを貫いた後にリュウケンドーがツインエッジゲキリュウケンで切り裂き、次にスラッガーゼロでコアを切り裂く。

ぐら付くコアにリュウケンドーはツインエッジゲキリュウケンを分離させた後にスラッガーゼロを放し、マダンダガーを掴むとコアに向ける。

リュウケンドー「ジュエルシード！封印！」

そう言うと同時にマダンダガーのドーム状の部分からダガースパイラルチェーンと言う光のカノン文字がコアを胸を貫くと光の玉が現われ、それをリュウケンドーは掴む。

リュウケンドー「封印完了！」

そう言うリュウケンドーの手には5つのジュエルシードが握られていた。

そしてコアのいた方には伸びた男がいた。

ゼロは近づくとライダーカードやアタックライドカードじゃないカードを取り出すと男の額に貼り付ける

すると男は消えて行く。

銀時「何ださっきのカード？」

ゼロ「転生者を輪廻へ戻すカードさ…まあ、家族が入れば前世の記憶と神様に貰った力だけが消えるけどな」

銀時の問いにゼロはそう答える。

近藤「いや～まさかいきなり5個も手に入るとは！良かった良かった！」

沖田「しかもこれさっきの様子じゃあ海にあったんじゃないッスか？」

新八「でしょうね。ある意味良かったね」

ユーノ「はい！」

リュウケンドーの手にある5つのジュエルシードを見て近藤は笑い、沖田がコアの出る様子を見て言い、新八が同意してユーノに言い、ユーノは頷く。

リュウケンドー「んじゃあこれ預けとくぜ、封印はちゃんとされてるからな」

銀時「ああ…」

マリオ「それと…常識の無い転生者と会った場合の輪廻へ戻すカードを渡して置くよ…変に使うなよ」

リュウケンドーが銀時に5つのジュエルシードを渡し、マリオはメ

ンバーにそれぞれ数枚輪廻へ戻すカードを注意を言ってから渡す。

ムッツリーニ「……師父」

マリオ「ああ…それじゃあな」

明久「何かあったらまた来ますね」

そう言うとマリオ達は帰って行った。

銀時「んじゃあ俺達も戻るか」

近藤「そうだな」

銀時達も高町家に帰った。

なお、学校から帰って来たなのははジュエルシードを5個も手に入れた事に驚いていたのであった。

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

蛇八「と言う訳で始めるぞ、まずはペンネーム『匿名希望』さんから『確かに答えてました。　本当にすいません？　質問ですがマリオが今まで戦ったヤツで一番強かったのは誰ですか？』…と言う訳

で答えなさい！」

マリオ「師匠に決まってるだろ」

銀八「はやっ！？」

マリオ「師匠以外考えられないからな」

銀八「そうか…そうかい…『匿名希望』さん！廊下に立ってなさい！次！ペンネーム『ロムスカ王』さんから『質問です。もしウチのエンズとそっちのゼロが戦ったら、エンズの力はどれくらい通用しますか？遠慮なく答えてください。』と言う訳で答えろ！」

マリオ「ゼロだな、エンズの変身者である皇魔はまだまだ伸びてる途中だからゼロ」

蛇八「との事だ…『ロムスカ王』、頑張って皇魔成長させる様に！」

銀八「今回は此処まで！」

リュカ「と言う訳で黒龍さんとのコラボでした！」

フォックス「と言うか…海の奴、しちゃって良いのか？」

スネーク「作者も悩んだ結果ああしたらしいぞ」

クッパ「ある意味…ブレイクなのだ；」

ネス「感想を待ってます♪」

魔界戦記ディスガイア　ＩＦ　義兄弟　～特別話２～　対決！バール＆超魔王バール

スネーク「今回はプリニーラハールとのコラボだ！」

フォックス「今回はプリニーの中でレベルが高いバールとの戦いの様だが…」

ワリオ「他にもな…」

マリオ「おっ、ラハールからの手紙だ」

ルイージ「今度はラハールさんから？」

マリオの言葉にルイージが言った後に手紙の内容を見る。

ラハール『マリオ達の実力がが気になる、と言うわけでバールと戦え』

バール『どう言う訳ッスか！？』

ラハール『謎の城を見つけたからそこで戦ってこい』

ルイージ「…バールの入ってるね；」

マリオ「まあ、そうだな…」

と言う訳でマリオはルイージとリュウケンドーにチルノとクッパを連れて手紙と共に同封されていた謎の城へ向かう。

マリオ「此処か…」

クッパ「うむ、そのバールと言う奴はどう言う奴なのか楽しみなのだ」

目の前の城を見て、マリオは呟き、クッパはそう言う。

リュウケンドー「お前は？」

プリニー「映像を送る役ッス！」

ルイージ「ご苦労様」

城の前にいたプリニーにリュウケンドーは聞くとカメラを持ったプリニーはそう言い、ルイージが労いの言葉をかける。

その後、メンバーは中に入った。

中は床と壁と明かりしかなかった。

中央でバールが立っていた。

マリオ「よう、大変だなお前も」

バール「まったくッス」

マリオの言葉にバールがため息を吐いた時…地面が揺れる。

チルノ「おっとっと」

リュウケンドー「何だ？」

いきなりの揺れにチルノはよろけたが留まり、リュウケンドーは周りを見る。

すると、バールの後ろに稲妻が迸り、玉となった後に…

バールを大きくしたプリニーが現われる。

ルイージ「何あれ!?」

超魔王バール「……」

リュウケンドー「おいおい、何だあれ?」

クッパ「ふん!大きい癖のデカブツが堂々と立ってるとはな…」

マリオ「んじゃあ見せてやろうぜ…俺達の実力を!」

クッパとマリオがそう言うと同時に超魔王バールはメンバーに襲い掛かる。

それを避けた後にマリオとクッパが超魔王バールに駆け出す。

マリオ「クッパ!」

クッパ「うむ!」

マリオの言葉にクッパは頷いた後にマリオを掴んだ後に…

クッパ「ふん!」

超魔王バールに投げ付ける。

マリオが超魔王バールにキックを入れた後にクッパの方に戻り…

クッパ「どりゃあ!」

再びマリオを投げ付け、今度は頭突きを決める。

超魔王バール「……！」

それに超魔王バールは後ずさるが2人に襲い掛かる。

それを2人は避けるとクッパはドリルクローで切り裂き、マリオはどこからか出したひまんパタコウラでどてっぱらを攻撃する。

クッパ「マリオ！行くぞ！」

マリオ「ああ！」

後ずさった超魔王バールにクッパはそう言うとマリオは答える。

クッパはスマッシュボールを取り出すと握り潰し、ギガクッパになるとマリオはトゲが付いてる前の尻尾の部分を抱え込むとマリオはブンブン振り回す。

振り回されていたギガクッパは炎を吐き出すと回転していたので炎の竜巻を生み出す。

マリオ&ギガクッパ「合体技！ダイナミックフレア！」

そのまま2人は炎の竜巻を纏って超魔王バールに突撃する。

超魔王バールはギガクッパの巨体で吹き飛ばされた後に炎に包み込まれ…

ドカーーーン！！

爆発した。

リュウケンドー「俺達の出番なしだったな」

チルノ「確かに」

ルイージ「それでどうする？」

バール「無理ッス」

それを離れて見ていたメンバーはそう言う。

爆発を背にクッパとマリオは腕をトンと軽めにぶつける。

数分後、ラハールの城で

ラハール「まさかあんな事が起こるとはな…」

マリオ「確かに」

アイリン「と言うか、あんな技ってあり？」

クッパ「ふん、あんなの屁ではないわ」

ラハールの言葉にマリオは同意し、アイリンがそう言うとクッパが鼻息をふんと鳴らす。

ちなみにルイージはアイリン以外のメンバーに料理を教え中、リュ

ウケンドーとチルノはレオンとカイトと共にちょっとした修行中

アイリン「それにしても、2人は絆が深いですね」

クッパ「違うのだ」

マリオ「クッパの言う通りだ」

アイリンは言った後に2人の言葉に目を丸くする。

マリオ「ライバルだから…」

クッパ「お互いに分かるのだ」

お互いに不適に笑い合う2人にラハールは分からんと呟いた。

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

銀八「と言う訳で始めるぞ」

蛇八「それじゃあペンネーム『ユートピア』から『終「コアって、コアって」

一夏「あぁ、あのデカいだけのライダーか」

終「そう言えるお前が凄いよ」

真谷「質問だ。オメガRはそっちから見てどう思う?」

終「ある意味知りたくないがな」『…と言う訳でこの3人に答えて貰おう」

エルディ「ある意味、クウガ位だよな」

ネス「エターナル以上だよね～」

リュカ「エターナルとは別の意味で凄い;」

銀八「と言う訳で『ユートピア』さん!廊下に立ってなさい!」

蛇八「次はペンネーム『黒龍』から『黒龍「じゃあ最後に質問です」

1.マリオに質問。もうすぐこっちの小説で転生者（マリオにとっては常識がない奴）が出る事についてどう思いますか?

2.それでもし、その常識のない転生者が主要キャラの一人で、好き勝手していたらこちらに来て教育とかしますか?

3.うちのソラについてそちら皆さんはどう思いますか?あ、答える人数は好きで良いです。』…と言う訳で答えなさい」

マリオ「1は普通にそっちに行って輪廻へ戻す勢いだな、んで2は…そう言うの止めると本心で言うならそのままにしとくがまだするなら輪廻へ速攻へ戻す、まあ家族いるなら前世の記憶と貰った能力を消す。3はクウガの力とキーブレードを持っている面白い男だな」

リュウケンドー「俺と同じ名前で同じキーブレードを持ってる人だな」

フォックス「ファルコと同じ、何時か性転換する人」

ファルコ「おい！」

ソニック「自分の心に真っ直ぐな男だぜ」

銀八「との事だ。『黒龍』！マリオが行きかねない転生者を出したらやばいので注意しとけ！」

蛇八「今回は此処まで！」

リュカ「と言う訳でユートピアさんのコラボでした！」

スネーク「ある意味な…」

フォックス「マリオとクッパはな」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　ＳｔｒｉｋｅｒＳ　～銀女神鎮魂歌～　―　第別訓パート３２

スネーク「真王とのコラボ第３２弾だな」

フォックス「ホント良く来れたよな」

クッパ「うむ」

ネス「んでもってＣＶが３万突破！」

ワリオ「これからも突っ走って行くからな～」

～グライダーレーシングギャラクシー～

『チャレンジ！バードレース！』

マリオ「おっ、イーバから手紙だ」

ルイージ「久々だね」

マリオがイーバの手紙を見て、ルイージがそう言った後に２人は手紙を見る。

イーバ『久しぶりだね？イーバだよ。実はあんた達に挑戦したいという鳥がいるんでね。遊んでみないかい？』

マリオ「ああ、あれか」

ルイージ「頑張ろうね」

内容にマリオは鳥の単語で思い出し、ルイージが言った後に冥王、チルノと共に星船に行き、そこで銀時、ヴィヴィオ、新八、ネプテューヌ、コンパ、アイエフ、ビビ、ジャンヌと共に目的のギャラクシーへ向かう。

グライダーレーシングギャラクシー

（ＩＢＧＭジャングルグライダーギャラクシーｂｙスーパーマリオギャラクシー２）

銀時「密林地帯のギャラクシーか…」

目の前の光景を見て銀時は呟く。

マリオ「それじゃあ挑戦してくるから」

チルノ「頑張れ！」

マリオはそう言って、グライバードに近寄り、グライバードに掴まり、他の鳥達も飛ぶ準備をする。

コンパ「どうするんですか？」

ルイージ「兄さんがグライバードを上手く指示して行くんだよ」

アイエフ「ふう～ん」

ジャンヌ「あっ、丁度行くようだよ」

コンパの疑問にルイージが簡単に説明し、アイエフが納得すると同時にジャンヌが言った瞬間、マリオと鳥達は飛び出す。

その後をカメラを持ったＳＵリュウケンドーが追いかける。

ルイージ「させ、このテレビで見ようね」

新八「何時の間に用意してたの！？」

何時の間にか置いていたテレビに新八が驚いてる間にルイージは電源を入れるとグライバードに掴まるマリオが映る。

そのまま上手く飛んで鳥と距離を取って行く。

ヴィヴィオ「うわぁ～マリオさん上手く飛ぶね」

冥王「ホントなの」

ネプテューヌ「しかもギリギリの所を飛んだりもしてるね」

その様子にヴィヴィオは目を輝かせ、冥王も同意し、ネプテューヌは見て言う。

銀時「リュウケンドーも当たんない様に飛んでるな…」

アイエフ「まあ、そりゃあ撮る側も注意しないとね」

銀時とアイエフがそう会話している間にマリオは密林を抜けて、ゴールへ一直線の様だ。

コンパ「あっ、もうゴール前ですね」

ビビ「そして見るからに1位ね」

コンパが見て言い、ビビが腕を組んでそう言う。

そしてマリオは星型ゴールを通り抜けた。

ジャンヌ「1位でゴールしたね」

新八「うん」

その様子にジャンヌは言い、新八は頷く。

その後、マリオとSUリュウケンドーが戻った後に銀時達も挑戦して戻ったのであった。

リュカ「と言う訳で真王さんとのコラボでした！」

クッパ「マリオはレース系も強いのだ」

ワリオ「特にカートだけどな」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカルボーボボ　爆闘！ハジケ対戦　ＥＸ話　エンドレス組み手なんて簡単だ

スネーク「ｓｉｂｕｇａｋｉとのコラボ続きだ」

ワリオ「付け加えるなら匿名希望のリクエストでもあるな」

クッパ「前回はスバルとフォックスがやろうとした所で終わったのだな」

フォックス「させ、やるとするか」

スバル「頑張るぞ！だからティア！その姿で応援してね！」

ティアナ「と言うか何時の間にチアガールの格好をさせてるのよ！！」

戦場に向かうフォックスの後にスバルが何時の間にかチアガール姿のティアナにそう言い、ティアナは自分の姿にそう言う。

天の助「どう思う？」

ボーボボ「やっぱり大量に行くのではと拙者は思うでござる」

ビュティ「確かにふざけてる所もあるけど実力はあるしね」

スバルの背中を見て聞く天の助にボーボボがそう言い、同意しながらビュティはそう言う。

２分後

フォックス「……」↑ヤムチャ状態

ルイージ「フォックスぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅ！！」

ビュティ「超ボロボロだ！」

戻って来て早々に上記の状態になるフォックスにルイージは駆け寄り、ビュティは驚く。

ティアナ「あんたは何やってんのよぉぉぉぉぉ！」

スバル「ギブギブギブ！！？」

そして後から来たスバルにティアナは彼女を裏向けにした後に乗っかった後にスバルの足をぐい～とのけぞる様に引っ張り、それにスバルは地面に手をパンパンさせる。

なぜ、フォックスがヤムチャ状態でスバルがティアナにプロレス技をかけられてるかと言うと…

最初は順調に倒していたのだが、途中でスバルがハジケ変身を使い…田ボ…ではなくボーボボの姉であるブブブーブ・ブーブブに変身して、雑魚キャラもろともフォックスを奥義で巻き込んでしまったのだ。

ちなみに４００体でフォックスが２１０でスバルが１９０である。

ムッツリーニ「……恐ろしい」

美波「と言うかあれ…女性としてはないと思うわ；」

愛子「だよね。流石に引いちゃうよ；」

霧島「……雄二、私達の子はあんな風にならない様に育てましょう」

雄二「いや、俺を縛ってる時点でな…」

復活したムッツリーニが言った後に女性陣はそれぞれ冷や汗を流し、霧島の言葉に雄二はため息を吐く。

エリア「次はソフトンとルイージの番だな」

玲「そうですね」

天の助「何時の間にかチアガールになってる！？」

明久「姉さんにエリアさん、何時の間に早着替え覚えたの！？」

ダークエリザベス『やれやれ』

何時の間にかチアガールなエリアと玲に天の助と明久はツッコミを入れ、ダークエリザベスは肩を竦める。

ソフトン「お互いに頑張ろう」

ルイージ「はい！」

そう言った後に2人は戦場に向かう。

戦場

ソフトン「バビロン真拳奥義！バビロンの裁き」

ルイージ「地獄突き！」

やって来る雑魚軍団をお互いの技でフォローしあい、倒して行く。

ソフトン「（倒して行く毎に強さが増して行くな…確かに修練には手頃だ…そして耐久力の維持にも向いているな）」

雑魚キャラを倒しながらソフトンは心の中でそう考えた。

ソフトン「（また…）」

ルイージ「危ないソフトンさん！」

ソフトンの後ろに来た雑魚キャラをルイージは投げ飛ばす。

ソフトン「（連携とお互いのフォローをどう出来るかも考えなきゃあ無理だな）…フォローをありがとう」

ルイージ「いえ」

心の中で呟いた後にルイージに礼を言い、ルイージもソフトンにそう返した後に雑魚キャラを吹き飛ばす。

5分後

ソフトン「すまないなルイージ、まさかボム兵があるとは」

ルイージ「いえいえ」

謝るソフトンにルイージはそう言う。

あの後、倒していたのだが…ソフトンがルイージをフォローする際にルイージの前にボム兵が出現して奥義がそれに当たって爆発して

しまい、ルイージは雑魚キャラと一緒に吹き飛んだのだ。

ちなみに倒した数は７００体でソフトンが３６０、ルイージが３４０である。

雄二「流石だな…」

姫路「凄いんですけど…」

優子「どうもね…」

葉月「ピンクのグルグル頭さん凄いです！」

ソフトンに雄二は褒め、姫路と優子は頬をポリポリ掻き、葉月は素直に感嘆の声を出す。

ヘッポコ丸「次は俺達の番だな」

天の助「おう！見せてやろうぜ俺達の実力を！」

ヘッポコ丸の言葉に天の助は強く言う。

次はヘッポコ丸と天の助！どう行くのやら…

首領パッチ「どうせすぐ終わるでしょ」

ボーボボ「お前は黙っとけ！」

首領パッチ＆田楽マン「ぎゃぼ！！」

やさぐれた首領パッチにボーボボは田楽ショットを放ち、首領パッチと田楽マンは壁にぶつかる。

フランシス「まだまだ続くぞ」

ビュティ「続くんだ；」

リリカルボーボボ　爆闘！ハジケ対戦　ＥＸ話　エンドレス組み手なんて簡単だ

リュカ「まだまだｓｉｂｕｇａｋｉさんのは続きます」

スネーク「次のヘッポコ丸と天の助はどうなるのやら」

クッパ「なのだ」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　～銀女神鎮魂歌～　―　第別訓パート３３

スネーク「真王とのコラボ第３３弾で初の長編だ！」

ワリオ「お宝か…」

クッパ「なのだ」

マリオ「デンヴィー・ジョーズ？」

銀時「なんだそりゃあ？」

銀女神の世界に遊びに来ていたマリオ、ソニック、リュウケンドー、ギル、チルノ、ルイージ、クッパ、銀次、冥王とその場にいた銀時、新八、神楽、桂、エリザベス、月詠、ヴィヴィオ、プリニー、ネプテューヌ、ノワール、ブラン、ベール、コンパ、アイエフ、グレイ、ビビ、レーティア、ジャンヌ、シャル、ギルシア、リアス、イッセー、カイム、アンヘル、レオン、ユウカ、ナリア、レイン、森羅、蒼馬、紅也、さくら、タバネ、ガレーナ、レシア、ヤルオ、ルシアス、ルーシア、アルテス、チフユのメンバーは咲夜の言った事にマリオと銀時が代表で聞く。

咲夜「２００年前のミッドチルダで～、伝説の魔法海賊と言われている人物だよ～。ユー君と無限書庫で本読みしている中、『デンヴィー・ジョーズ伝説』の本を見つけてさ～、本によるとある島にお宝を隠したんだって～、それでさ…デンヴィー・ジョーズのお宝を手に入れな～い？」

銀時「んじゃあがっぽり大もうけと行きますか！」

神楽「すこんぶ買いまくるネ！」

新八「思いっきり無駄遣いだろそれ！」

レーティア「そうね；」

アンヘル「他に使い道あるだろう…」

蒼馬「何なんだろうなお宝は？」

紅也「さあな」

リュウケンドー「お宝探しか…どう言う冒険が待ってるんだろうな！」

ギル「ぷっ！」

チルノ「ワクワクするね」

ヴィヴィオ「ホントだね～」

冥王「ヴィヴィオちゃん、こう言うのは気を引き締めないと行けないの」

レイン「（と言うか外見と性格が合ってねー…）」

グレイ「お宝探しか…」

ビビ「行こうよお姉さま！」

それぞれが興味を出す中、マリオは立ち上がってどこかに行く。

銀次「あれ？マー君は行かないの？」

マリオ「いえ、俺はちょっと会いたい人…と言うか神がいるので後

から合流します。それでは…」

そう言ってマリオはゼロに変身するとどこかへ飛んで行く。

ヤルオ「ホント変わった人だおｗｗｗ」

クッパ「それでは行くのだ」

リュウケンドー「だったら俺の友達を呼んで良いか？」

ネプテューヌ「良いと思うよ」

森羅「（と言うか友達ってどう言う奴なんだろうな…）」

と言う訳でその場にいたメンバーはデンヴィー・ジョーズがお宝を隠した島の近くにある港町へ向かう。

ギルシア「それで…隣にいるのがお前の知り合いか？」

ついて早々に合流したリュウケンドーの友達を見てギルシアは言う。

その人物はソラの髪を銀髪にし、ＺＡＰの隊員服を着た少年である。

一部のメンバー「（こんなキャラいたっけ？）」

リュウケンドー「紹介するよ！こいつは…」

ソロ「俺はソロ、ちなみに名前の由来は孤独って意味じゃないからな俺とこいつの名前を混ぜた感じで作った」

銀時「はっ？名前を混ぜた？」

リュウケンドーが紹介しようとする前にソロが名乗り、銀時はソロの言葉に首を傾げる。

ルイージ「ああ、兄さんの変身するライダーの元になった子なんだよソロは」

ソロ「おっ、もう分かったのか」

新八「元になった？」

コンパ「教えてくれませんか？」

ソロ「秘密だ」

アイエフ「それはないんじゃない？」

ジャンヌ「（もしかして…ウルトラマンゼロ！？）」

納得した顔で言うルイージにソロは少し驚いた顔で言い、新八とコンパが首を傾げてる隣でジャンヌはその正体に気づく。

ソロ「まあ、よろしくな」

ベール「よろしくね」

桂「よろしくだソロ殿」

それぞれ自己紹介した後にメンバーはさっそく行くための船と情報

を手に入れようとするが、住人達曰く『そこは呪われた島だ』『伝説の怪物の島だ』とデンヴィー・ジョーズの島を怖がっていう。

チフユ「呪われた島か…」

タバネ「しかも伝説の怪物とかがいるそうだね～」

月詠「どうも住民達は怖がっておるようじゃ」

ソニック「これじゃあ船を手に入れられないんじゃないか？」

顎を摩るチフユの後にタバネと月詠が言い、ソニックはそう言う。

レイン「どうする？」

銀時「そうだな…」

レインの問いに銀時は腕を組んだ時…

？？？「そこのお前らか？デンヴィー・ジョーンズの島の情報を集めてる奴等は？」

そんな一同に話しかけるは1人の男であった。

銀時「誰だあんたは？」

ジャック「俺はジャック・スパイレーツだ…まさか俺と同じ様に行こうと思ってる奴等がいるとはな」

リュウケンドー「それじゃあ…パーレイしないか？きっとお互いに

良い事だと思うし」

銀時の問いにジャックが自己紹介した後に一同を見て、リュウケンドーの言葉にジャックはヒューと口笛を吹く。

ヴィヴィオ「パーレイって？」

プリニー「確か交渉の合い言葉だったッス」

銀時「おいおい、俺達に断りなしに言うなよ」

ソロ「けど、きっと相手も出して来たと思うぞ交換条件を」

話し合うジャックとリュウケンドーを見てヴィヴィオがリュウケンドーの言った事を呟き、プリニーが答え、銀時は頭を掻き、ソロがそう言う。

幾らか話した後にリュウケンドーが戻って来る。

リュウケンドー「お宝を半分くれるなら一緒に行かせてやるで船に乗せてくれるだってさ」

クッパ「まあ、そうなるのは当然なのだ」

ノワール「そうね」

ブラン「どうする？」

リュウケンドーから出されたジャックの条件にクッパは頷き、ノワールも同意した後にブランが銀時に聞く。

銀時「まあ、他に当てがないんだし良いぜ」

ジャック「決まった様だな…んじゃあ付いて来い」

銀時の言葉にジャックはそう言って付いて来る様に手を振る。

エリザベス『どう言う島なんでしょうね？』

桂「まあ、行けば分かるであろうが…注意が必要だな」

イッセー「まあ、当然だよな」

レオン「腕が鳴るな」

ガレーナ「そうだな」

エリザベスの疑問に桂はそう言い、イッセーも同意した後にレオンとガレーナがそう言う。

デンヴィー・ジョーズの島で待ち受けてるのは一体…

スネーク「始まったな長編が」

リュカ「名前だけしか出てない人もいるけど…次回でセリフ出すんだよね；」

ワリオ「何かすまん；」

ネス「感想を待ってます♪」

IS<インフィニット・ストラトス>黒き牙と永遠の月　ダークヒーロー

スネーク「ユートピアとのコラボだ」

フォックス「今回は新キャラ登場」

クッパ「そしてな…」

ドクター「これで大丈夫だよ。2日は杖で歩く事になるけど我慢してくれたまえ」

楓「はい、ありがとうございます」

あの後、海から旅館へ行き、マリオの連絡で来たドクターが楓の足の治療をしたのであった。

マリオ「それにしても石版か…」

デスサイズ「何かありえそうだな…」

マリオとデスサイズはボウケンレッドもといリュウケンドーが撮った写真に映る石版とデータを見て呟く。

リュウケンドー「一応、ハザードレベルも計って見て、そこまで危険と言うレベルじゃなかったけど…」

マリオ「何かを封印してると言う可能性もあるのか…」

カービィ「何なんだろうね?」

ファルコン・ハート「考えるのも良いが…あっちは良いのか?」

リュウケンドーの言葉にマリオは腕を組み、カービィが写真を取って言う中、ファルコン・ハートがフランとお空に掴まれながら自分達の隣で争う彼女達を見る。

セシリア「何で楓さんを見てなかったんですか！」

鈴「そうよ！選ばれたならちゃんとしなさいよ！」

椛「あなた達も見てなさいよ！と言うか目を反らしてるんじゃないわよ」

シャル「それはキミも言えるでしょ！」

ラウラ「その通りだ」

ぎゃあぎゃあと争う楓ＬＯＶＥズに座っていた終は立ち上がる。

終「お前ら！責任を押し付けてんじゃねえよ！と言うか押し付ける事態間違えてるだろ！ちょっと頭冷やせ！！」

楯無「あっ！終！」

簪「…待って」

激怒した後に終は外に一人行き、楯無と簪が終を追う。

マリオ「まあ、終の言う通り、頭を冷やせ、子供達が怯えるじゃないか」

マリオの言葉の後、ブリッツ達があやしてるイリア達を見てセシリア達は黙ったが静かにいがみ合う。

箒「一夏、あ～ん」

一夏「あ～ん」

ルイージ「君達は君達でようやるね；」

冥王「なの」

オーズＰＣ「ぷっ？」

その隣で普通に食べさせあいしてる筈と一夏にルイージは冷や汗を流し、冥王も同意してオーズＰＣは首を傾げる。

一方、洞穴の話題に出ていた石版でそれは起きていた。

何もなかった石版からは一人の女性が笑われると不適な笑みを浮かべ飛ぶと石版は粉々に砕けた。

終の方では…

終「たくっ、あいつ等は…」

ぷんぷんしながら終は歩いていた。

終「（しかし、あの時感じたのはマジで何なんだ？）」

暫くそれを考えながら終は一人歩いていると…

終「！？」

殺気を感じて飛び去る様に自分のいた場所から離れるとそこに攻撃

が来る。

終「なんだ!?」

ＩＳを纏って構える終の前に出たのは…

終「ゼロ?…いや、違うな」

ウルトラマンゼロに似たダークロプスゼロであった。

ダークロプスゼロ「黒谷　終発見、抹殺する」

終「おいおい、マジかよ」

楯無「終!」

簪「大丈夫?」

ダークロプスゼロの言葉に終が呟いた瞬間、楯無と簪が来る。

終「良いタイミングと言うか悪いタイミングと言うか…」

終がそう言った瞬間、ダークロプスゼロが襲い掛かる。

終「この!」

ダークロプスゼロのダークロプスゼロスラッガーを受け止めた後に
終は弾き飛ばす。

楯無「喰らえ!」

簪「オマケ」

そこに楯無と簪の蒼流旋（そうりゅうせん）と春雷（しゅんらい）での攻撃がダークロプスゼロを攻撃する。

それにダークロプスゼロが後ずさった瞬間…

???「おらぁぁ！」

突然、何かが割り込んでダークロプスゼロを攻撃する。

終「ゼロ？マリオか？」

楯無「けど…鎧を纏ってないよ？」

その人物に終は仮面ライダーゼロと思って言うが楯無が気づいた事を言う。

ダークロプスゼロ「ウルトラマンゼロ…」

ウルトラマンゼロ「まさかお前とまた会うとはな…ダークロプス」

名を言うダークロプスゼロに口元を拭う動作をしてウルトラマンゼロは構える。

そしてぶつかり合い、キックやパンチを繰り出すがダークロプスゼロはさっきの楯無や簪にさっきのウルトラマンゼロの攻撃を受けたのでウルトラマンゼロが押していた。

ウルトラマンゼロ「デアッ！」

ダークロプスゼロ「ぬうっ！」

ウルトラマンゼロのキックをどてっぱらに受けたダークロプスゼロは不利と感じたのか逃げる様に飛んで行く。

ウルトラマンゼロ「逃がすか！！」

それにウルトラマンゼロはゼロスラッガーを胸のカラータイマーの左右に装着するとゼロツインシュートを放つ。

それは飛んで行くダークロプスゼロに命中し、爆発する。

ウルトラマンゼロ「へっ！おい、大丈夫か？」

終「あっ、ああ」

それを見届けた後にウルトラマンゼロは鼻を拭う動作をした後に終に話しかけ、終は戸惑いながら返す。

ウルトラマンゼロ「させと…何でこいつがこの世界にいるかだな」

楯無「そいつって何？」

飛び散ったダークロプスゼロの欠片を拾い、見るウルトラマンゼロに楯無は聞く。

ウルトラマンゼロ「こいつはとある奴が作り上げた戦闘ロボットだ…もういない筈なんだがな…」

答えた後にウルトラマンゼロは上を見上げて呟く。

その頃、終達がダークロプスゼロと戦闘を行っている頃、こちらでも戦いが始まっていた。

ゼロ「この！」

リュウガンオー「ドラゴンショット！」

リュウジンオー「ふっ！」

リュウセイオー「この！」

ピカチュウ「ピッカ！」

リュウトウオー「ええい！」

リュウサイオー「この！」

冥王「なの！」

突然現われた無人機の集団に迎撃に掛かっていた。

リュウアンオー「いきなり過ぎるのもほどがあるな」

リュウレツオー「まったくだよな！」

本音「それは良いんだけど～～あっちはどうする～～」

リュウアンオーとリュウレツオーが言った後に本音がある方向を見て言う。

楓ＬＯＶＥズ「……」

まだいがみ合う楓ＬＯＶＥズがいた。

ネオス「まだやってるの！」

ネクサス「……ほっとく、倒すのが先」

その様子にネオスは叫び、ネクサスは放置を言って無人機を撃破する。

楓「大丈夫でしょうか皆さん…やっぱり私も…」

ドクター「君は足を怪我してるんだから駄目だよ」

スィン『はい、君達で止める』

行こうとする楓にドクターがストップをかけ、スィンがイリア、フィン、フェアル、ルウラ、優を楓に抱き付かせる。

リュウケンドー「大丈夫だって…ん？」

オーズＰＣ「ぷ～～！」

宥めるリュウケンドーはある気配を感じ、オーズＰＣも感じたのかある方向へ唸り声を出す。

すると石版から現われた女性が現われた。

デスティニー「誰だあんたは？」

銀次「何か…感じる」

デスサイズ「気を付けろ、何かあるぜ」

アロンダイトを構えるデスティニーと構える銀次にデスサイズが全員に注意を呼びかける。

リュウケンドー「誰だあんたは？」

女性「私は…そうね……」

リュウケンドーの問いに女性は名乗ろうとして途中で言葉を切ると考える動作をして…うんと頷いた後に口を開く。

シルク「シルク、シルク・ソングと名乗りましょうか、その女の子に会いに来たの」

シルクは笑って言う。

現われた女性、シルク…彼女の目的とは…

リュカ「と言う訳でユートピアさんとのコラボでした！」

スネーク「名前は作者が考えてくれと言われたがこうなったな…」

フォックス「ホントな…」

ネス「感想を待ってます♪」

万事屋奇譚幕　別話：別世界の万屋（前書き）

スネーク「今回は亀鳥虎龍の『万事屋奇譚幕』からのゲストだ！」

マリオ「そして、作者が別サイトで書いてるオリライダーも登場させるぜ」

ネス「どうなるんだろうね～」

リュカ「ホントだね；」

万事屋奇譚幕　別話：別世界の万屋

ゼロ「させ、ゲストを呼ぶとするか」

明久「今度はどんな人なんだろう」

ダークエリザベス『そうだな』

スマブラ荘でゼロの言葉に明久とダークエリザベスはワクワクし、ムッツリーニとエリア、ルイージ、リュウケンドーも待つ。

ゼロブレスレッド「サモンライド！亀鳥虎龍！」

その音声と共に『万事屋奇譚幕』の坂田　銀時、志村　新八、神楽の他、あちらでの万屋メンバーである上条　当麻、インデックス、阿良々木　暦、戦場ヶ原　ひたぎ、黄崎　日月が現われる。

銀時「何此処！？」

ゼロ「ウェルカム、スマッシュ ハーツブラザーズ出張版の世界へ」

新八「どう言う事？」

神楽「何かエリーの黒いのいるネ」

銀時や他のメンバーが驚く中、ゼロの言葉に新八は呟き、神楽がダークエリザベスを見て言う。

数分後

銀時「はあ…そう言う事か…」

変身を解いたマリオの言葉に銀時は頬をポリポリ掻く。

明久とエリアとダークエリザベスは当麻とインデックス、暦と話したり、ムッツリーニとルイージは戦場ヶ原と黄崎と料理の話しをしている。

リュウケンドーの姿に神楽が興味を持って見ている。

当麻「しっかしこの世界にも仮面ライダーがいるんだな…」

暦「世界が広いって分かるな」

明久「けど僕達の方も驚いてるよ」

ダークエリザベス『別世界のライダー、色々といるもんだな』

インデックス「ホントだよね」

エリア「調べてみたいものだな」

当麻が仮面ライダーゼロの事を言った後に自分の世界の仮面ライダーを思い出して呟き、暦がそう言うと明久とダークエリザベスがそう言い、インデックスが同意した後にエリアがそう呟く。

ムッツリーニ「……こうすると良い」

黄崎「成る程」

戦場ヶ原「勉強になります」

ルイージ「僕達も勉強になるよ」

こちらもこちらで料理の事で盛り上がっている。

盛り上がっている時…

ドカーーン!!

銀時「うぉっ!?」

当麻「何だ!?」

いきなりの揺れに全員が外に出ると銀時達には見覚えのあるショッカー戦闘員が集団でいた。

マリオ「やれやれ、どこのショッカーだよ」

銀時「たくっ、飽きない奴等だ」

明久「戦いましょう!」

呆れる顔をするマリオと銀時の後に明久が言った瞬間、オーロラが現われ、それが消えるとそこにいたのは…2人の少年と…

当麻「俺!?」

インデックス「トーマがもう1人!?」

上条「あれ!?此処どこ!?あいつ等に追われてたと思ったら…ってか、何でヴェンとヴァニタスもいんの?」

ヴェン「俺達も分かんないけど…」

ヴァニタス「ああ、とりあえずは前にいる集団を倒すか」

当麻とインデックスが現われた上条にヴェンは頭を掻き、ヴァニタスがそう言うと同時にヴェンはダブルドライバーを青色に染め、中央にエンブレムが入ったドライバー、ハーツドライバーをヴェンが腰に装着するとベルトになり、ヴァニタスの腰に同じのが装着される。

ガイアメモリK「キー!」

ガイアメモリB「ブレード!」

そしてヴァニタスがガイアメモリ、キーメモリのを、ヴェンがガイアメモリ、ブレードメモリのスイッチを押した後にそれぞれ掲げる。

ヴェン&ヴァニタス「変身!」

そしてガイアメモリをそれぞれ、ヴァニタスが右に、ヴェンが左に装填して開く

ハーツドライバー「キー!ブレード!」

ヴァニタスは黒い闇に包まれ、ヴェンが白い光に包まれるとそれは1つになる。

2つの闇と光が混ざったそれが晴れると同時にそこには…1人の戦士が立っていた。

その戦士はWとブレイドを混ぜた感じで左が緑、右が黒で胸にハーツドライバーに付いてるエンブレムが描かれている。

その右手にはキングダムチェーンをX状に2本掛け合わせ、アルテマウェポンの様な真ん中に一本の剣が通った、細い棒のようなものが翼状に広がっているな剣、ハーツキングダムを握った仮面の戦士。

ハーツ「俺達は仮面ライダーハーツ！さあ！光と闇の鼓動を聞け！」

銀時「あいつもハーツなの！？」

神楽「驚きネ！」

新八「同じ名前のライダーもいるんですか！？」

マリオ「うんいるよ」

2人が変身したライダーに銀時、神楽、新八など自分の世界の仮面ライダーを知ってるメンバーは驚いてる間に上条も左手首にディブレイカードライバーを装着し、腰に現れたベルトの左側に装備されたライドブッカーから上条は1枚のライダーカードを取り出すとディブレイカードライバーのカード挿入口を開いた後に構え…

上条「変身！」

カードを挿入し、カードを挿入したまま閉じる

ディブレイカードライバー「カメンライド！ディブレイカー！！」

その音声と共にハーツとゼロの幻影を含んだ１０つのライダーの幻影が現れ、重なると同時に明久の姿は変わり、左右に３枚、計６枚のカード装甲が差し込まれ、上条は仮面ライダーディブレイカーに変身した。

ダークエリザベス『あいつがオリジナルか…』

エリア「そうらしいな」

明久「僕達も行くよムッツリーニ！ＫＡＭＥＮＲＩＤＥ！」

ムッツリーニ「……了解、ＫＡＭＥＮＲＩＤＥ」

ネオスバックル&ネクサスベルト「ライダーアップ」

ディブレイカーを見てダークエリザベスとエリアは呟き、明久とムッツリーニはネオスとネクサスに変身する。

マリオ「んじゃあ行くぜ！」

銀時「そうだな！」

そう言うと同時に４人のライダーとマリオ達は駆け出す。

ハーツ「はっ！」

ディブレイカー「こんにゃろ！」

ハーツがハーツキングダムを振るい、後ろでディブレイカーがライドブッカーＳＭでショッカーを切り裂く。

銀時「ほわたっ！」

神楽「アチョー！」

マリオ「はっ！」

ダークエリザベス『ふん！』

当麻「おりゃあ！」

リュウケンドー「喰らえ！」

黄崎「えい！」

離れた場所で銀時とダークエリザベス、リュウケンドーが斬り、神楽、マリオ、当麻が格闘戦でやり、黄崎が魔力を通した銃で、雷の弾丸を放つ雷銃（レールガン）でショッカー戦闘員を吹き飛ばす。

ルイージ「よっと！」

ネオス「喰らえ！」

ネクサス「……」

そして暦と戦場ヶ原、エリア、インデックスを守る様にネオスとネクサスがショッカー戦闘員を吹き飛ばす。

ハーツ（ヴァニタス）「決めるぜ」

ハーツはそう言うと2本のガイアメモリをハーツドライバーから外して両腰のマキシマムスロットに装填する。

ハーツドライバー「キー！ブレード！ツインマキシマムドライブ！！」

その音声の後にハーツキングダムは光ると2つに別れ、左手にヴェンのキーブレード『フレッシュブリーズ』が、右手にはもう1つのキーブレード『ダークバイター』が握られる。

ハーツ「キーブレード！ダブルアワーズ！！」

そう言った後に2つのキーブレードをショッカー戦闘員の集団に向けて投げ、回転する2つのキーブレードは複数のショッカー戦闘員を吹き飛ばす。

ディブレイカードライバー「ファイナルアタックライド！ディ・ディ・ディ・ディブレイカー！！」

ディブレイカーも決めようとFARカードを装填し、カードの幻影に向けてライドブッカーGMを構え…

ディブレイカー「喰らえ！」

ディメンションシュートを放ち、ショッカー戦闘員を打ち抜く。

銀時「ラストおおおおおお！！」

当麻「喰らえ！」

黄崎「はっ！」

そして最後の1体を銀時と当麻、黄崎が倒す。

それと同時にディブレイカーとハーツはオーロラが包み込み、2人のライダーは元の世界に戻された。

暦「なんで現われたんだ？」

マリオ「さあな、まさかこうなるとはな」

当麻「まったくだな」

ルイージ「それじゃあパーティする？」

暦「良いですよ」

神楽「食べまくるネ！」

インデックス「トーマ！食べまくろうね！」

当麻「そうだな」

戦場ヶ原「太って豚になるわよ」

新八「いや！流石にそれは行き過ぎ！」

明久「そうですよ；」

その後にルイージの提案のパーティをした後に銀時達は戻ったのであった。

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

蛇八「させ今回も始まるぞ！」

銀八「それじゃあペンネーム『矢部野　和麻呂』さんから『お久しぶりです

五郎
「そういやこの作品ってポケモンあんま出てこないな
・・・ピカチュウの電撃の俺の稲妻の対決がしたい・・・
ミュウツーやネスやリュカと俺の超能力比べがしたいな・・・・」

木野
「そういえば貴方は短編でしたね
ならクロス出来そうですね・・・
あ、出来れば私もお願いします」

・・・、なんだか回を重ねるごとにカオスになってる気がするぞ？

質問です、みなさんのお歳はいくらですか？

五郎
「俺からもだ、ネスとリュカ、お前らはどんな超能力が使える？」『と言う訳で『魔界戦記ディスガイア　ＩＦ　義兄弟　～第九話　天使と悪魔と人間と～アナザーバージョン』で明かされてるマリオとルイージにソニック達を除いたメンバーとネスとリュカ答えろ」

ドクター「私は３０歳だよ」

明久「原作と同じ年齢です」

ムッツリーニ「……同じく」

フォックス「２０歳だ」

ファルコ「俺もだ」

バート「４０歳ですよ」

リュウケンドー「１６歳だぞ、ちょっと成長してるんだ」

ネス「１０才でスマブラで使うの以外に回復技やテレパシーにテレポートが使えるよ」

リュカ「僕もネスと同じです」

黒狼「１０才です」

黒巣「１６歳だぞ」

蛇八「ちなみに俺は４０歳だ、ちなみにドクターのお陰で普通に生きてるから一気に老けてないからな」

銀八「何言ってんの…『矢部野　和麻呂』さん！そっちの小説頑張って下さい！」

蛇八「今回は此処まで！」

万事屋奇譚幕　別話：別世界の万屋（後書き）

リュカ「と言う訳で亀鳥虎龍さんのコラボでした！」

フォックス「まさかのな…」

ワリオ「ちなみにこっちのハーツのセリフはこっちで初公開なんだよな…」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂ライダー～異世界鎮魂歌～　第１７．５訓：永遠の攻撃は多彩です

スネーク「今回は黒龍とのコラボだ！」

フォックス「ってかタイトル…」

クッパ「どうなるのだ」

リリカル銀魂ライダー～異世界鎮魂歌～　第１７．５訓：永遠の攻撃は多彩である

時の庭園でソラ（黒龍）は目の前の状態に頬をポリポリ掻き、フェイトは戸惑う。

リュウケンドー「いきなりだよな」

ソロ「まったくだな」

タレ銀「だね～」

マリオ「まったくだ」

明久「此処って…」

ムッツリーニ「……時の庭園」

マリオ一行が突然現われたのだ。

神楽「久しぶりアル！」

桂「また会ったなマリオ殿」

エリザベス『久しぶり』

ヤミ「あなた達も飛ばされたんですか？」

神楽、桂、エリザベスが言った後にヤミが聞く。

マリオ「まあな、何でまた飛ばしたのかは大体検討が付いてるけど」

リュウケンドー「そうなのか？」

マリオが疲れた顔で言うとリュウケンドーは聞き、マリオは頷いた後にナナシが来る。

フェイト「あれ？ナナシなんで来たの？」

ナナシ「いえ、プレシア様に反応の見て来いと言われまして」

リリス「大丈夫です。この人達は私達の知り合いです」

アリス「こいつ等は荒らしはしないさ」

ナナシ「そうですか…ではプレシア様にはそう言って置きます」

フェイトの問いにナナシが言った後にリリスとアリスの言葉にナナシはそう言った後に一礼して戻る。

明久「誰？」

アルフ「ナナシだよ。プレシアの使用人で家事をこなせるんだよ」

明久の問いにアルフが答えた後、マリオは考え込んでいた。

ソラ（黒龍）「どうした？」

マリオ「いや…なあ、皆を案内してくれないか？俺は俺でちょっと調べたい事あるから」

タレ銀「マー君？」

ソラ（黒龍）の問いにそう言うとマリオはそそくさと離れ、タレ銀はマリオの背中を見る。

それにソラ（黒龍）達は首を傾げるがリュウケンドーが言う。

リュウケンドー「なあなあ、あんたの話を聞かせてくれよ、俺と同じキーブレードの使い手なんだって！ほら！」

ソラ（黒龍）「お前もか？しかもチェーンと同じ…」

アリア「まさか他にいるとはな」

リュウケンドーの見せたキーブレードにソラ（黒龍）とアリアは驚いた後にセイバーが前に出る。

セイバー「ならばあなたの力を見せて欲しい」

リュウケンドー「ＯＫ！」

ゲキリュウケン「鳴神、無茶はするな」

神楽「もう１つの剣が喋ったアル！？」

セイバーが剣を構えるとリュウケンドーもゲキリュウケンとキーブレードを構え、神楽はゲキリュウケンを見て驚く。

そんなソラ（黒龍）達がリュウケンドーとセイバーのを見ている間、

マリオはある所に来ていた。

マリオ「させと…」

壁を触り、何かを探す様に横歩きして行き…

マリオ「おっ！此処だな」

壁が動き、秘密の道が出来る。

マリオ「こうしたら何か…」

言い続けて後ろから来た紫の雷をマントで別の方向へ飛ばす。

そしてマリオは、殺気を放つプレシアが見る。

プレシア「あなた何者？何で知ってるのかしら？」

マリオ「何、ちょっとした事でな…それに済まないな、こうしないと隠れてる奴等が行動しないと思ってな…」

プレシア「？どう言う事？」

近寄るプレシアにマリオはそう言った後に謝り、プレシアはマリオの後半の言葉に首を傾げた瞬間…

プレシア「！？」

自分とマリオと違う殺気にプレシアはプロテクションを張ろうとしてマリオがマントで飛んで来た攻撃を跳ね返す。

マリオ「おいおい、５人ってどんだけ狙ってるんだ?」

目の前の武装した５人の男にマリオは呆れた顔をする。

男１「貴様何者だ?マリオの様だが転生者か?」

マリオ「俺は俺だ。転生者じゃねえが…お前らの知ってる歴史とは違う道を歩んだ者と言って置こう。後、お前らと一緒にすんな」

そう言うとマリオはカードを取り出し、テキストを読む。

マリオ「『２６のメモリを操る不死の戦士』」

そう言うとマリオの腰にロストドライバーが装着され、マリオは右手に持ったエターナルメモリのスイッチを押す。

エターナルメモリ「エターナル!」

そしてロストドライバーに装填した後に構える。

マリオ「変身」

ロストドライバー「エターナル!」

マリオが言うと同時にロストドライバーが展開され、マリオは仮面ライダーエターナルに変身する。

男２「仮面ライダーエターナルだと!?」

男３「どう言う歴史を歩んだんだこいつ！？」

それに転生者達は驚いてる間、エターナルは静かにオリジナルである大道　克己がするポーズをして言う。

エターナル「さあ、輪廻へ戻りな」

男４「誰が戻るか！」

それに転生者達はエターナルに襲い掛かるが、エターナルはエターナルエッジで攻撃を返しては武器を破壊して行く。

男５「どっ、どうなってやがる！？」

男１「俺達の武器が！」

エターナル「黙れ、常識を考えろ」

そう言うとエターナルはオーシャンメモリを取り出してエターナルエッジに装填する。

エターナルエッジ「オーシャン！マキシマムドライブ！」

エターナル「ライダーウェーブ！はっ！」

音声と共にエターナルは技名を叫び、エターナルエッジを振るうと刃から波が出現して、転生者達を包み込む。

男１「ひぃぃ！」

エターナル「逃がさん」

技を避けて逃げようとする転生者1人にエターナルはそう言うとルナメモリと本来はないメモリ、ダークネスメモリを腕部分のマキシマムスロットに装填する。

マキシマムスロット「ルナ！マキシマムドライブ！ダークネス！マキシマムドライブ！」

エターナル「ダークネスフィスト」

右腕を突き出すと同時に闇の手が現われ、転生者を掴むと地面に叩き付ける。

男4「ぐっ、貴様…！」

エターナル「俺と会った事が残念だったな」

ライダーウェーブを受けた中で3人より丈夫なのか、起き上がった転生者にエターナルはそう言うとジョーカーメモリを腰のマキシマムスロットに装填する。

マキシマムスロット「ジョーカー！マキシマムドライブ！」

エターナル「ライダーパンチ」

男4「うぉぉぉぉぉぉぉ！！！」

突っ込んでくる転生者にエターナルは右手にエネルギーを集束させ、攻撃を避けた後に転生者のどてっぱらに炸裂させる。

それを受けた男は崩れ落ちる。
それを確認してエターナルはカードを取り出すと転生者5人の額に貼り付けると5人は消える。
プレシア「何なの？」
エターナル「転生者だ…ほとんど此処は常識のないのが多いのか…一応他にいないか見て置くか」
プレシアにそう言うとエターナルは本来ないメモリ、ソウルメモリを取り出し、マキシマムスロットに装填する。
マキシマムスロット「ソウル！マキシマムドライブ！」
エターナル「ソウルサーチ」
そう言うとエターナルの目が緑色に輝き、エターナルは周りを見る。
エターナル「（今の所さっき輪廻へ戻した集団以外はなしか…ん？）」
エターナルは周りを見て、ふと、見つけた通路へ目を向けると走り出す。
プレシア「待ちなさい！」
それにプレシアは慌てて追いかける。

そしてプレシアがエターナルに追い付くとエターナルはカプセルに入ったフェイトそっくりの少女を見ていた。

プレシア「アリシアがどうかしたの？」

エターナル「プレシア・テスタロッサ…」

プレシアの問いに答えず、エターナルはプレシアが言ったアリシアを見ながら名を呼ぶ。

プレシア「！？なぜ私の名前を！？」

エターナル「アリシア・テスタロッサをジュエルシードで蘇らせるな…いや、ジュエルシードはもう必要ない」

驚いてるプレシアにエターナルはアリシアを見ながらそう言った事にプレシアは驚く。

プレシア「どっ、どう言う事！？と言うかあなたはなぜジュエルシードの事を！？」

エターナル「俺は今、魂が見える状態になっている…アリシア・テスタロッサの体に彼女の魂はあるが…他にアリシア・テスタロッサの魂を守り、修復してる転生者の魂を感じる」

プレシア「！？」

エターナルの言葉にプレシアは驚く。

エターナル「数日後に目を覚ますだろう…修復してる転生者の魂の

お陰で…この転生者の魂に何もなければの話だが…」

プレシア「さっきの様に輪廻へ戻すの？」

エターナルの言葉にプレシアは殺気を発して言う。

エターナル「安心しろ、俺は常識のない転生者だけを輪廻へ戻す…此処にいるのは、1人の魂を救おうとする魂だけだ…この魂もいずれ、彼女を守る守護霊となる」

エターナルはそう言うとジーンメモリと本来ないメモリ、リペアメモリとブレイクメモリとアイメモリを取り出してマキシマムスロットに装填する。

マキシマムスロット「ジーン！マキシマムドライブ！！リペア！マキシマムドライブ！ブレイク！マキシマムドライブ！アイ！マキシマムドライブ！」

エターナル「オペレーションハンド、少し我慢してくれ」

プレシア「何を？」

目を水色に輝かせ、エターナルはそう言ってプレシアを見た後に赤く輝く右手でプレシアの体に1回触れ、その後白く輝く左手でプレシアのお腹に手を当て、集中すると同時にプレシアの体が白く輝く。

そして収まった後にプレシアは驚く。

プレシア「なっ、体が軽く感じる…」

エターナル「メモリの力で病気を治した…母親がいなくなっては娘達も困るだろ?」

驚いてるプレシアにそう言うとエターナルは歩き出す。

エターナル「プレシア・テスタロッサ…ジュエルシードを集めるなら覚悟しろ。その力を狙っている者もいるからな」

プレシア「……」

去るエターナルの背をプレシアは見続ける。

エターナル「……」

セフィロス「……」

そして出たエターナルはセフィロスと出会い、お互いに見た後に構え…

エターナル「彼女達に手を出すな」

セフィロス「フッ、安心しろ」

そう言葉を交わした後に構えを解き、エターナルは変身を解きながらセフィロスの横を通り、セフィロスは横目でマリオを見た後、その後ろ姿を見なかった。

リュウケンドー達の方では…

リュウケンドー「いや〜やるなお前」

セイバー「あなたこそ、良き試合でした」

握手を交わしていた。

ソロ「引き分けとはな」

ソラ（黒龍）「なかなかだったな」

リリス「そうですね」

それを見ていたソロとソラ（黒龍）、リリスがそう言った後にマリオが来る。

明久「あっ、先生どこ行ってたんですか？」

マリオ「ちょっとな～」

ムッツリーニ「……それでそろそろ戻るんですか？」

明久の言葉にマリオはそう言い、ムッツリーニは目の前のオーロラを見て聞く。

神楽「もう戻るアルか？」

マリオ「ああ」

タレ銀「ただ話してたけど楽しかったよ～」

アリア「私もだ（ニコッ）」

タレ銀「（あれ？何か怖い；）」

桂「また会えてよかったぞ」

明久「こちらこそ！」

ムッツリーニ「……天道　ソラの写真数人分」

アリス「サンキューだ」

ソロ「また話そうぜ」

ヤミ「ええ」

リュウケンドー「頑張れよ！そっちの俺（ソラ）！」

ソラ（黒龍）「お前もな」

セイバー「また試合出来る日を楽しみにしてます」

それぞれ別れの挨拶をした後にマリオ達は戻ったのであった。

～オマケ～

蛇八「教えて」

生徒一同「蛇八先生！銀八先生！」

銀八「今回は逆バージョンをやってみた…と言う訳でペンネーム『

ユートピア』さんから『終「色々あるんだな」

真谷「ディブレイカーか」

終「明久とムッツリーニに質問、ライダーの力は何時手に入れた？」

真谷「頑張れよ」』と言う訳で言われた2人答えなさい」

明久「僕とムッツリーニは中学3年生の時に先生からライダーの力を貰いました」

ムッツリーニ「……自衛と周りの者を守る為に渡された」

蛇八「との事だ『ユートピア』！そちらの小説頑張りなさい！」

銀八「今回は此処まで！」

リュカ「と言う訳で黒龍さんとのコラボでした；」

スネーク「色々とやってるな…エターナルで；」

フォックス「オリジナル技を出してるな；」

クッパ「反応が怖いのだ」

ネス「感想を待ってます♪」

魔法先生ネギま！　～第二の人生へと～　第別話：残党討伐（前書き）

スネーク「黒一文字とのコラボだ！」

クッパ「タイトル通りなのだ」

ルイージ「だね；」

魔法先生ネギま！　～第二の人生へと～　第別話：残党討伐

タカミチ「それで…来るのかい？」

シィ「もう少し待てば分かるよタカ君」

タカミチの言葉にシィはそう言う。

そして…オーロラが出た後に

マリオ「オッス」

冥王「来たの～」

タレ銀「この世界か～」

明久「こんにちわ～」

ムッツリーニ「……」

ソニック「Ｈｅｙ，来たぜ」

マリオやソニック、冥王、タレ銀になってる銀次に明久とムッツリーニが来る。

タカミチ「この人達？」

シィ「うん、知らない人が２人…と言うかなのはちゃん大人バージョン！？」

冥王「冥王なの、髪を下ろした方が良いかな」

タカミチの問いにシィは頷いた後に冥王を見て驚き、冥王は髪を下ろす。

その後、お互いに自己紹介し、タカミチが言う。

タカミチ「完全なる世界の残党討伐をしてますが中に僕と師匠には倒せない相手がいるので皆さんに手伝って欲しいんです」

マリオ「OK。その依頼、やるよ」

ソニック「んじゃあ早速教えてくれ」

タカミチ「あっ、はい！」

タカミチに教えて貰った後にそれぞれ分かれて討伐しに向かった。

マリオ&ソニックの場合

マリオ「あ～流石にこれはやりすぎかね？」

ソニック「転生者と戦ってる内に魔法使いを簡単に倒せる様になったんだろうな」

カリバーン「しかし、良く集まった者達だな」

デルフ「ですな」

目の前に積まれた人の山を見て言うマリオにソニックが言い、カリバーンとデルフは人の山を見てそう言う。

銀次＆冥王の場合

冥王「ディバイーンバズーカ！！」

こちらはこちらで沢山の残党を冥王が吹き飛ばしていた。

中には防御する輩がいるが…

銀次「喰らえ！」

銀次が放つ電撃に破られては倒されて行く。

冥王「ちょっと？歯ごたえなさすぎなの、もうちょい抗って見るの！！」

銀次「いや、流石に俺達じゃあ無理じゃない；」

冥王がストライクス・ハートを構えながら言い、銀次が冷や汗掻いて言う。

明久＆ムッツリーニの場合

ネオス「この！」

ネクサス「……遅い」

2人もそれぞれの武器を活用して倒していた。

ネオス「それにしても、此処の世界の完全なる世界ってまだいるんだね！」

ネクサス「……俺達の世界ではな…」

ネオスジャベリンを振るって残党を吹き飛ばすネオスに手刀で気絶させながらそう言う。

数分後

マリオ「大体の奴は送り届けたぞ」

ソニック「これで良いのか？」

タカミチ「あっ、はい十分過ぎる程；」

マリオとソニックの言葉にタカミチは彼等が倒した数に冷や汗を掻き、敵に回したくないなと心の中で思っている隣で再戦をしていたムッツリーニとシィが帰って来る。

シィ「また負けた！！」

ムッツリーニ「……冷や汗ものだった」

シィ「どこが！」

タレ銀「ホント、仲良いね～」

ぎゃあぎゃあ言い合っている2人を引き離した後にマリオ達は自分

の世界に戻るのであった。

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

蛇八「と言う訳で始めるぞ」

銀八「と言う訳でペンネーム『黒龍』から『黒龍「っで、コレもお願いなんですが、マリオ達は最後までプレシアとアリシアの事は知らないと言う感じでお願いします。それと、神はジェルシードを使わないのでそこん所もお願いします。最後に質問します」

1．そっちのソラを好きな女性は何人ですか。できれば誰だか教えてください。

2．マリオに質問。他の作品で自分の最高のライバルは誰ですか？

黒龍「それじゃあコラボお願いします」』…それではカブトとマリオ！答えなさい！」

カブト「そうだな…あいつはカイリに明久達の所じゃないネギま世界のエヴァ達だろ、後はとある世界のＦａｔｅの世界での女ランサーや女ギルだな」

マリオ「う～～ん、誰もが最高のライバルとしか言い様がない！…

後、黒龍、俺もう知ってるから…そいつにな…（黒い笑顔）」

蛇八「（怖いな…）との事だ…『黒龍』…次のお前とのコラボでマリオの怒りが爆発するのでその約束は守れない事を言って置く！」

銀八「今回は此処まで！…しかしマリオを怒らせるってどんな事したんだ？」

蛇八「かくかくしかじか」

銀八「そりゃあな…」

魔法先生ネギま！　～第二の人生へと～　第別話：残党討伐（後書き）

リュカ「と言う訳で黒一文字さんとのコラボでした！」

スネーク「何か、シィとムッツリーニがぶつかりあってるな；」

フォックス「ライバル関係だな」

ネス「感想を待ってます♪」

スネーク「黒龍とのコラボで…うわぁ…；」

フォックス「だな」

クッパ「ヤッチャッタなのだ」

男「これで俺の計画は狂わずに済んだ。後はなのはを…それにしても、何かダルイな…」

海鳴市でプレシアと出会った男ははあはあと息を吐きながらそう呟いて笑みを浮かべていたが…

？？？「何勝ち誇ってるワケ？」

男「！？」

いきなりの声に驚いた瞬間

？？？「メガトンパンチ！」

男「ぐはっ！？」

背中から来た衝撃に男は吹き飛び、地面に倒れると振り返り…驚いた。

殴った人物、それは…銀髪の長い耳を持ち、白い鎧を身に纏った男…

男「ブロント…だと！？」

ブロントさん「さんを付けろ！デコ助！！」

腕を組んで男を睨むブロントさんに男は驚く。

ブロントさん「お前さ、上手く言って調子にノッテルだろうがマリオにはほとんど筒抜け、オレァがいるからお前のは失敗した」

男「なっ、何を証拠に…ガハッ！？」

ブロントさんの言葉に男は喋ろうとした瞬間、吐血する。

男「なっ、何をした！？」

ブロントさん「何言ってるの？因果応報って知らないのお前？それお前自身がかけた奴よ？」

驚いてブロントさんに問う男だが、ブロントさんは冷めた目で見ながらそう言う。

時の庭園にて…

？？？「ママ！ママ！」

プレシア「うっ、ううん」

聞き覚えのある声に男に病気をまた付けられた眠っていていたプレシアは目を開け…驚いた。

それは自分の娘…アリシアの姿があった。

プレシア「アリシア？な「バカっ！」（バチン！）！？」

何でと聞こうとしてアリシアに叩かれた事にプレシアは叩かれた頬を押さえてアリシアを見る。

自分の体がマリオに治して貰った時と同じ様に軽かったがアリシアに叩かれた事で気づいてない。

アリシア「大体の話はブロントさんってママの病気を治したマリオさんの知り合いに聞いたよ！ママが悪い病気にかかっていたのを助けてくれた人なのに何で信じないの！？」

プレシア「アリシア…」

アリシアの言葉にプレシアは顔を伏せる。

アリシア「それでママ、話変わるけど…妹はどこ？」

プレシア「妹？」

アリシアの言葉にプレシアは首を傾げる。

アリシア「ほら、約束したじゃん、誕生日に妹が欲しいって」

その言葉にプレシアは思い出した。

思い出して、涙が溢れ出す。

プレシア「ごめんなさい！ごめんなさい！アリシア！」

泣き出すプレシアにアリシアは抱き締める。

アリシア「（ありがとうマリオさん、ブロントさん）」

抱き締めながらアリシアはそう心の中で呟く。

そんなアリシアとプレシアを1人の女性が嬉しそうに見ていた。

戻ってブロントさんの所

ブロントさん「それ程でもない」

男「誰に…言って…るんだ…」

カメラ目線で言うブロントさんに男は息絶え絶えに言う。

男「でも…どうやって…俺の力…を」

ブロントさん「オレァ『邪な考えを持つ神や転生者の力を放った奴に返す結界を張る程度の能力』があるのよ。最初はなかったがヴァナ・ディールにお前と似た考えの奴が来てピンチの際に生まれた。この次元は俺の能力で覆ったから悪さなんてもう出来ニィ、解除はオレにしか出来ニィ。しかも黄金の鉄の塊であるから壊せねえ…しかもアリシアはオレが復活させたからもうお前の計画はボロボロ」

男「なっ!?そんな事して良いと思ってるのか!?」

ブロントさんの言葉に驚いていた男だったが最後の言葉に叫ぶ。

ブロントさん「人を病気にさせた奴が何言ってるワケ?それにオレはマリオにアリシアとプレシアの名前と姿に事情を聞いただけで此処の歴史はしらニィし、頭もそんなに良くニィ、けどな困った奴がいるなら助けるのがナイトの役目、特にお前の様な奴から守るのはメイン盾として当然の行為!完　全　論　破!」

ブロントさんの言葉に男は口を呆然と開く。

ブロントさん「後、おめえはもう終了の運命（さだめ）なワケよ」

男「なっ、何……を……」

ブロントさんの言葉に男は言おうとして自分に向けられた殺気に自分が相手にした相手を間違えたと分かった。

マリオ「お前は越えては行けない一線を越えた…」

男「あっ、あぁ……」

凄い殺気を放つマリオに男は心から、魂から逃げろと訴えられるが体が動かない。

マリオ「『言ったはずだぜ、半人前にはまだ早いってな。』」

そんな男に気にせず、マリオはカードを取り出し、テキストを読んだマリオの左手に白いガンハットが、右手にはSと書かれたガイアメモリ…スカルメモリが握られ、腹部にはロストドライバーが現れた。

スカルメモリ「スカル！」

マリオ「変身」

ロストドライバー「スカル！」

音声と共にマリオの姿は仮面ライダースカル』に変身し、そして左手の帽子をゆっくりと被った。

そして、ロストドライバーからスカルメモリを抜き、マキシマムスロットに装填する。

マキシマムスロット「スカル！マキシマムドライブ！」

スカル「ふん！」

音声と共にスカルの胸から骸骨のオーラが現われ、それと共にジャンプする。

男「あ…ああ…」

スカル「はぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！」

動けない男にスカルは骸骨のオーラをシュートして、ぶつける。

男「ぎゃぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！！！」

男の絶叫はスカル達がいる次元の転生者達に響き渡った。

スカル「お前の行き先は輪廻ではなく永遠の牢獄だ」

気絶した男にスカルはそう言うと転生者達に額に引っ付けるのとは違う黒いカードを貼り付ける。

男「ぎゃぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁっぁ！！！」

男はまた絶叫しながら地面へ吸い込まれる様に消えて行く。

スカル「……ふう、鳴海　荘吉に申し訳ないな…」

かぶりを振った後にマリオはスカルから変身を解いて歩き出す。

それにブロントさんは続こうとして突然、ある方向を向き、口を開く。

ブロントさん「マリオの怒りを受けたくない奴はあいつがやった行為をやらないべし！そうするべし！！と言うか意地悪するのは止めるべし！」

そう言うとブロントさんは立ち去って行く。

ちなみに…

銀時「何か出番が少なかったな」

銀次「何言ってるの？」

新八「銀さん、次ですよ」

銀時達はトランプしていたのであった。

リュカ「と言う訳で黒龍さんとのコラボでした；」

ネス「それと…黒龍さんより前の人すみませんｍ（＿＿；）ｍ」

スネーク「いやぁ…マジでマリオのは受けたくないな」

クッパ「まったくなのだ；」

ルイージ「感想を待ってます；」

IS<インフィニット・ストラトス>黒き牙と永遠の月　負傷する

スネーク「ユートピアとのコラボだ！」

クッパ「シルクと言う奴は何者なのだ？」

リンク「気になりますね」

リュウケンドー「楓に何のようだ？」

シルクと名乗った女性にその場にいたメンバーはシルクを囲む。

それぞれが警戒し、何時でも攻撃出来る様に構えた時！

リュウケンドー「！」

ブリッツ「ござっ！？」

デスサイズ「かっ、体がうごかねえ…っ！」

オーズＰＣ「ぷっ！ぷっ！」

体が動かない事にメンバーは驚き、その間にシルクは楓に一瞬で近付くと手を掴み楓はシルクの目を見ると気絶した。

シルク「邪魔よ」

楓に抱き付いてるイリア、フィン、フェアル、ルウラ、優を乱暴に剥がそうとした時…

銀次「やめろ！！」

動けないが銀次は電撃を放ち、シルクを攻撃する。

シルク「っ！」

それにシルクは痺れた瞬間、メンバーは動ける様になり、ブリッツとデスティニーが子供達を掴み、リュウケンドー達が攻撃をしようとした時…

リュウケンドー「！またかよ！」

シルク「悪いけど、遊んでる暇はないの」

動けないメンバーにそう言うとシルクは出て行く。

そんな事が起きてるのを知らない外では楓ＬＯＶＥＳは相変わらず連携がろくに取れずにいた。

ウイング「全然ダメだな」

オーズＬＣ「このままじゃあ格好の餌食だね」

オーズＴＣ「バカやろ！思いっきりフラグだろ！」

その様子にウイングがそう言い、オーズＬＣが呟いた言葉にオーズＴＣが言った瞬間、それを示す様に五人が無人機に攻撃されそうになった時…

終「間に合え！！」

終が割り込んで5人が受けそうだった攻撃を受けてしまう。

楯無＆簪「終！？」

ウルトラマンゼロ「間に合え！」

後から来て力なく墜ちる終に楯無と簪の叫び、ウルトラマンゼロが地面に落ちる前に終をキャッチする。

ゼロ「ウルトラマンゼロ！来てたのか！？」

ウルトラマンゼロ「ああ、今はこいつ等を倒すぞ！」

一夏「お前等！いがみ合ってるから邪魔だ！」

箒「戦わないのなら去れ！」

ゼロが現われたウルトラマンゼロに驚き、ウルトラマンゼロは終を楯無と簪に預けるとそう言い、一夏にそう言われて５人はそれぞれ勝手に行動する。

数が減って来た時、楓を抱えたシルクが現れる。

楓ＬＯＶＥズ「楓（さん）！！？」

ゼロ「誰だあいつは？」

シルク「ばいばい♪」

そう言うとシルクは楓を抱えて逃げようとする。

セシリア「待ちなさい！」

椛「楓を放しなさい！」

それに楓ＬＯＶＥズは追いかけようとするが…

鈴「あれ？」

シャルロット「うっ、動けない…」

ラウラ「これは…私のと似た奴か！？」

動きを止められてしまいシルクはれるとそのまま連れ去った。

箒「何者なんだ？あの女は？」

一夏「わかんねえけど…楓が目的だったって所だな」

無人機が去る中、箒と一夏はシルクの去った方を見る。

リュウケンドー「皆！」

そこにリュウケンドー達が来て、ドクターは終に近寄り、治療を開始する。

楓が連れ去ったシルクの目的とは…

～オマケ～

蛇八「教えて」

生徒一同「蛇八先生！銀八先生！」

銀八「と言う訳でペンネーム『黒龍』から『黒龍「じゃあ質問します」

1．アリスについてどう思いますか。答えられる人だけで結構です。

2．アリアについてどう思います。こちらも答えられる人だけで結構です。

3．マリオより強い人を教えくれませんか？

黒龍「じゃあまた」』…それじゃあ答えて貰うぞ」

ルイージ「1はホントにドSな子で2は何でもできる子だね」

フォックス「1、2共通で俺の写真を貰ってくれる子だな」

ネス「1は今後どう言うドSな事をしてくれるかで、2は何時か猫耳を付けそう」

リュウケンドー「どっちともあっちの俺（ソラ）の大切な仲間だな！」

マリオ「師匠に銀次さんにブロンドさんだな」

蛇八「との事だ『黒龍』！廊下に立ってろ！」

銀八「今回は此処まで！」

リュカ「あわわ、楓さんが！」

クッパ「ううーむ、どうなるのだ？」

フォックス「ホントだな」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　～銀女神鎮魂歌～　―　第別訓パート３４

スネーク「真王とのコラボ第３４弾で長編２回目だ！」

フォックス「ジャックと会った銀時達」

ネス「どうなるんだろうね～」

させ、前回、銀時達と別行動をしているマリオはと言うと…

マリオ「此処がメテンズギルドか…」

ひろばを歩きながら赤いフードを纏ったマリオは歩く。

周りはそんなマリオを見て、騒いでいる。

歩き続け、神々の宮殿に着いたマリオは宮殿へ入り、その中の大きなドーム状の部屋に入り、自分を見て、分かっていたと言う様に座っているアテナスにマリオは口を開く。

マリオ「いきなりの来訪をすまない…用件はあんたに偽神…いや、ネオのさらに深い事情を聞きに来た。メテンズギルドの長よ」

その頃、銀時達はジャックの船に乗って航海に出ていた。

ヴィヴィオ「1！2！3！」

冥王「もう少し腰入れるの！」

船の上で冥王が持ったサンドバッグをヴィヴィオがパンチングして修行していたり…

リュウケンドー「はぁぁぁぁぁぁ！！」

チフユ「ふん！」

タバネ「頑張れ～」

ヤルオ「どっちもやるねｗｗｗｗ」

リュウケンドーとチフユが剣の修行をして、それをヤルオとタバネが見ていた。

タレ銀「う～～～」

カイム「ん？どうした？」

アンヘル「海を見て唸っているが困った事があるのか？」

海を見て唸っているタレ銀にたまたま通りかかったカイムとアンヘルが聞く。

タレ銀「俺の電撃ってさ…色々と強過ぎて海にもし入っちゃったらどうしようかと考えてさ…」

カイム「ああ…」

アンヘル「それは…」

タレ銀の言葉にカイムとアンヘルは納得する。

そこに、クッパとイッセーが来る。

クッパ「おお！そこにいたのか銀次」

タレ銀「あれ？どうしたの？クッパさん？」

イッセー「何かあんたに渡したい物があるんだってさ」

アンヘル「渡したい物？」

タレ銀が聞いて、代わりに答えたイッセーの言葉にアンヘルが首を傾げてる間にクッパは銀次にそれを渡す。

それは…アギトのオルタリングの中央をウルトラマンダイナのカラータイマーにして、金色の部分を銀色にし、右を赤、左を青に染めた感じであった。

銀次「これって？」

クッパ「『ダイナリング』でウルトラライダーの1人『仮面ライダーダイナ』に変身するベルトなのだ。マリオが知り合いに頼んで作っていた中でそれをお前用に仕上げた物なのだ。変身してる間はもし電撃を発しても体に残らない様にしてるのだ」

銀次「おお！？これならあれに悩まない！ありがとうございます！」

クッパの説明に、銀次は感謝の言葉を言う。

ジャック「ヨ～ホ～ヨ～ホ～、海賊暮し～♪」

ヴィヴィオ「それ何の歌？」

ジャック「俺が作った海賊の歌だ」

舵を握って歌うジャックに汗を拭いながらのヴィヴィオの問いにジャックはそう答える。

ジャック「それにしてもちっちゃいのに良くやるな」

ヴィヴィオ「うん！冥王さんやママの様に強くなるんだ！」

ジャック「そりゃあ凄いこった」

舵を取りながらさっきの練習を見ていたジャックがそう言い、ヴィヴィオは笑顔で言い、ジャックはそう言う。

ジャック「のどかわいたな…。ちょっとラムとって来てくれないか？」

ネプテューヌ「ラム？ラムネのこと？」

ジャック「ちげーよ。ラムは海賊用語で酒なんだよ」

すぐ傍にいたネプテューヌにジャックは頼み、首を傾げるネプテューヌにそう説明するとネプテューヌは言われた通りに酒を持って来る。

ジャック「あんがとさん…はあ～何時も通りうめえな」

ネプテューヌ「ラッパ飲みで飲むんだね」

ジャック「まあな」

手に取った酒の蓋を開けるとそのまま飲み、口元を拭うジャックに

ネプテューヌはそう言い、ジャックはそう言った後に前を見る。

グレイ「……」

ギル「ぷっ？」

部屋で本を読んでるグレイは自分をじっと見るギルに眉を顰める。

グレイ「何だ？」

ギル「ぷっ！」

本を閉じ、話しかけたグレイにギルはボールを取り出し、グレイに渡す。

グレイ「…遊べと？」

ギル「ぷっ♪」

グレイの問いにギルは嬉しそうに頷く。

グレイ「…他のメンバーと遊べば良いだろ？」

ギル「ぷっ！ぷっ！ぷっ！」

グレイの言葉にギルはどこからかスケッチブックを取り出すと絵を描いて見せる。

グレイ「リュウケンドーはチフユと剣のトレーニングしていてチルノはガレーナとレオンと戦っていて、ルイージはレシアやアルテス、

シャル、ジャンヌに料理を教えてるのか…」

ギル「ぷっ！」

絵を見て言うグレイにギルは頷く。

はあ…と息を吐いたグレイは立ち上がり…

グレイ「ちょっとだけだぞ」

ギル「ぷっ！」

グレイの言葉にギルは嬉しそうに頷く。

ルーシア&ルシアス&ノワール「（ってか、外見とギャップありすぎだな…ギルって；）」

たまたま通りかかった3人はギルを見てそう思ったのであった。

そして真夜中、相変わらず歌を歌いながら舵を取っているジャック。

すると…

ジャック「ん？」

突然、船が動きが止まってしまう。

ネプテューヌ「あれれ？止まっちゃったよ」

銀時「おいおいどこかおかしくなったのか？」

ジャック「そんな訳ないだろうが、ちゃんと出る前にチェックしたんだ」

レイン「それじゃあ他に原因がありそうだな」

ナリア「調べた方が良いわね…」

ブラン「…それに賛成…」

ソロ「んじゃあどこから調べる？」

それに気づいた銀時達が来て、銀時の言葉にジャックはそう言い、レイン、ナリア、ブラン、ソロがそう言った後に突然、デンヴィー・ジョーズの部下だった亡霊たち、デッドパイレーツと海賊霊がパイレーツ、エアパイレーツ、エイミングキャノン、エルモスと共に襲いかかってきた。

銀次「何あれ！？」

ジャック「きっとデンヴィージョーズの部下だった亡霊集団だろう！」

リュウケンドー「ハートレス達までいるぞ！」

ソロ「こりゃあ…簡単に行く航海じゃないな」

紅也「それじゃあ…倒そう！」

銀次が驚いて叫び、ジャックはそう言い、リュウケンドーはデッド

パイレーツと海賊霊と共に現われたハートレスを見て叫び、ソロがウルトラゼロランスを構え、紅也が言うと同時にそれぞれ分かれる。

銀次「早速使うよ！ＫＡＭＥＮＲＩＤＥ！」

ダイナリング「ライダーアップ」

銀次が叫ぶと同時にダイナリングからウルトラマンダイナを模した光が出た後に銀次に重なり、それが消えると同時に銀次の姿はダイナの胸をアギトの胸を模した鎧がカラータイマーを除いて覆い、足部分がＧ３－Ｘの足アーマーに似たのを纏った『仮面ライダーダイナ・フラッシュフォーム』に変身した。

ダイナ「いっけぇぇぇ！」

変身すると共にダイナは電撃でデッドパイレーツと海賊霊の一部を吹き飛ばす。

ダイナ「おお！？ホントに電撃が纏わり付かない！」

ソロ「感動してる暇はねえぞ！」

自分の手を見てジーンと感動するダイナにウルトラゼロランスでパイレーツを吹き飛ばしながら注意し、ダイナも気を取り直して倒して行く。

ギルシア「それにしてもこいつ等はどうしても俺達を進ませたくないようだな」

アイエフ「確かにこの様子じゃあそうよね！」

レーティア「ご苦労様よね！」

エイミングキャノンを殴り飛ばしながらギルシアは襲い掛かって来た奴を見て言い、アイエフとレーティアがエルモスや海賊霊を倒しながら言う。

リアス「はっ！」

エリザベス『どっせい！』

月詠「はっ！…しかし空中にいる奴等は厄介じゃな」

リアスとエリザベスと共にデッドパイレーツを倒しながら月詠は上にいるエアパイレーツを見る。

ジャンヌ「だったら…「俺の仲間に任せろ！」…はい？」

ジャンヌが言おうとしてソロの言葉に目を点にする中、ソロは剣を取り出す。

ソロ「ゼロライザー起動！頼むぜ！バキシム！カブトザキラー！」

ゼロライザー「ゼロライザー！モンスロード！」

ソロの言葉と共に剣、ゼロライザーが光り輝くとゼロライザーから光のカードが2枚飛び出し、それがソロの前に来るとそれ等は一角超獣バキシムとカブトザキラーが現われる。

ビビ「うっそぉ…」

神楽「あいつ、キャロと似た奴だったアルか！？」

イッセー「マジかよ！」

ソロ「あいつ等を倒してくれ！」

ビビと神楽、イッセーが驚いてる間にソロは2体にそう指示し、2体は頷いた後にバキシムは鼻先の高熱弾でカブトザキラーは腕から光弾を放ってエアパイレーツを落として行く。

ジャック「そろそろ追い払えるだろうな」

レオン「んじゃあこのままの勢いで行くぜ！」

ガレーナ「そうだな」

剣を振るいながらデッドパイレーツを倒して行くジャックの言葉にレオンとガレーナが言った瞬間…海の上なのに地震が起きた。

ルイージ「うわったったった！？」

レシア「何だ！？」

アルテス「これは一体！」

ルイージは慌ててバランスを取り、他のメンバーも手短な場所に掴まったり踏ん張る中、レシアとアルテスが叫ぶとデンヴィー・ジョーズの亡霊たちはその直後何かを察して撤退した。

ソロ「あいつ等逃げて行くぞ」

桂「どう言う事だ？」

銀時「あいつ等去った？」

プリニー「隠れていた自分もなんですけど…銀さん全然戦えてないッスね；」

ソロと桂が逃げて行く亡霊たちを見て、ひょこと顔を出した銀時にプリニーは冷や汗を掻く。

ジャック「どうやらやっこさん方が逃げたのは…」

グレイ「何か知ってるのか？」

ジャックの呟きにグレイが聞いた時…

オーズＰＣ「ぷっ！」

オーズＰＣがグレイを掴もうとした何かをメダガブリューで切り裂く。

それは…何かの触手であった。

銀時「なんじゃこりゃあ！？」

ジャック「…噂は聞いてた程度だが、本当に実在したみたいだ…クラーケンがな！」

それを見た銀時が驚き、ジャックはそれを見て叫んだ瞬間！
両側からジャックの言うクラーケンの触手が現われる。
新八「ええ！？」
リュウケンドー「でかっ！？」
エリザベス『イカ焼きが何個も出来そうですね』
桂「そうだな」
森羅「言ってる場合か！」
咲夜「そうだよ～」
さくら「どうするレン君！」
レイン「そりゃあ攻撃しかないだろ！」
それに新八とリュウケンドーが驚き、エリザベスと桂の言葉に森羅が叫んで咲夜が言った後にさくらの問いにレインがそう言って攻撃して追い払おうとする。
だが、クラーケンの反撃によって…
ジャック「あ、まずい…」
クッパ「落ちるのだぁぁぁぁ！！！」

新八「うわあああああああああああ！！！」

プリニー「ギャアアアアアアアアアアアアッス！！！」

ヴィヴィオ「きゃあああああああああ！！」

冥王「ヴィヴィオちゃん！」

全員「うわああ！！！」

ソロ「ちっ！」

船は破壊され、銀時達は海に投げ出される。

そんな中でソロはカブトザキラーとバキシムを戻すと懐からある物を取り出し、装着する。

数時間後…

とある島の砂浜にネプテューヌは倒れていて、その近くに変身が解除された空と銀次もいる。

ネプテューヌ「うっ、うう～ん」

最初にネプテューヌが呻いた後に起き上がる。

ネプテューヌ「此処は…」

周りを見てネプテューヌはある事に気づいた。

ジャックが言っていた自分達が目指す島の特徴を見つけた。

ネプテューヌ「此処って…もしかして」

そしてネプテューヌはジャックから教えて貰った名前を言う。

ネプテューヌ「伝説の海賊・デンヴィー・ジョーズが財宝を隠したとされる島・死者達の宝島（デッドマンズチェストアイランド）！」

クラーケンによって船を破壊され、銀時達と離れてしまったネプテューヌ達、これからどうなる？

リュカ「と言う訳で真王さんとのコラボでした！」

スネーク「遭難してしまったメンバーの運命は！」

ネス「感想を待ってます♪」

ＩＮＡＺＵＭＡＮ　ＦＲＥＥＤＯＭ　ＳＯＬＤＩＥＲ　～自由の戦士～　『別世

スネーク「矢部野　和麻呂の『ＩＮＡＺＵＭＡＮ　ＦＲＥＥＤＯＭ　ＳＯＬＤＩＥＲ　～自由の戦士～』の主人公ともう１人をゲストとしたお話だ」

フォックス「させ、どうなるのやら」

ルイージ「だね」

「ん…」

『新人類帝国ファントム』と戦う自由の戦士、渡　五郎は目を開け、一瞬の光に目を瞑り、慣れた後に開く。

すると、五郎の目には知らない天井が目に入った。

「（俺は…確か新人類帝国と戦う旅をしている時、突然オーロラの様なのが出て来て…俺を通り抜けたと思ったら）」

「目が覚めたか？」

その声に五郎は隣を見るとベッドに腰掛けた男がいた。

「あんたは？」

「私は木野　薫、君もオーロラによって知らない場所に来た口だろ？」

五郎は木野の言葉に驚いた後に頷く。

「あっ、目が覚めたんですね」

「ピカ」

そこにピカチュウを肩に乗せたサトシが来る。

「君は？此処はどこなんだ？」

「それについて説明する人の所に案内する為に来たんですよ」

五郎の問いにサトシはそう言った後に付いて来て下さいと言うと2人はそれに従い、サトシの後を付いて行く。

そして着いた先でのマスターの言葉に五郎は驚くが木野はやはりと納得していた。

「あんたは信じられるのか？」

「まあね。それで戻れるんですか？」

「ああ、此処には今はいないがあなた方をそれぞれの世界に戻せる人物がいるが少し待ってくれ」

まだ驚きが覚めない五郎が木野に聞き、木野はそう返した後にマスターに聞くとそう言われる。

「さて、ちょっと聞くが五郎、君はサナギマンもといイナズマンだね」

「！？何であんたがそれを！？」

マスターの言葉に五郎は驚いて聞く。

「私達の所には様々な戦士のデータがあって、その中で君の体に異常がないかを調べてる時にその中の1人であるイナズマンのデータが一致したんだよ」

「そうだったのか…」

「と言う事は私のもあると言う事ですか？」

「察しが良いね。木野　薫殿、仮面ライダーアナザーアギト」

マスターの言葉に五郎は納得し、木野の言葉にマスターが言うが…
木野は首を傾げる。

「仮面ライダー？」

「ああ、君の変身する戦士の１つの呼び名だよ」

木野の問いにマスターはそう言う。

「別世界の人が来たってホント？」

そこにネスが来て、その後にリュカが来る。

「この子達は？」

「ああ、スマッシュブラザーズでの君と同じ超能力者さ。ちなみに君の敵とは違うからね」

「そりゃあ流石に子供までは…」

五郎の問いにマスターはそう言い、五郎は頭を掻く。

「君は見た所、まだイナズマンとして戦いは浅いだろ？年齢は下だ

が彼等は仮面ライダーで君より戦いは慣れている。どうだい？彼等と訓練して見るかい？」

「う～ん」

マスターの言葉に五郎は呻く。強くなるのは良いがその訓練相手が自分より下の子供だと抵抗感がある。

「大丈夫だよ！変身すれば身長伸びるし♪」

「それは関係ないと思うけど…けど、僕も大丈夫ですから」

「そう言うなら…分かった！胸を借りるぜ！」

ネスとリュカの言葉に五郎はそう言う。

と言う訳で終点で五郎と一緒にと言われて五郎と組む事になった木野、ダブルドライバーを装着したネスとリュカに電気だからとピカチュウとサトシがいた。

「サイクロン！」

「ジョーカー！」

「「変身！」」

ネスとリュカがそれぞれのガイアメモリを起動させるとダブルドライバーに装填し、開く。

「サイクロン！ジョーカー！！」

その音声と共にネスとリュカを風が包み込み、収まると2人は1人の仮面ライダー、仮面ライダーWに変身していた。

それを見た後に五郎は目を閉じ集中し、五郎の目がゆっくりと開くと目が光り出し、叫んだ

「剛力招来(ごうりきしょうらい)！」

すると五郎の体が白い繭の様な物に包まれる

そして繭が弾けて、サナギマンが現れる

「サナギマン！！」

「これが五郎の…では私も」

五郎がサナギマンになるのを見てそう言うと木野は腹部に両腕を交差し、叫んだ

「変身！！」

すると木野が光に包まれた…そして収まると木野はアナザーアギトに変身していた。

「んじゃあ行くよ！」

「ピカチュウ！先手必勝の１０万ボルト！」

「ピッカチュウ！！」

Wが言った後のサトシの指示にピカチュウは１０万ボルトをサナギマンに放ち、それは直撃する。

するとサナギマンの体に亀裂が入ってゆく。

「超力招来（ちょうりきょうらい）！」

そう叫ぶとサナギマンの体が弾けて…

そして弾けた所に立っていたのはサナギマンではなく、水色の体で頭に角の様な物が生えたイナズマンだった

「俺は自由の戦士！！イナズマン！！」

イナズマンがそう名乗った後にアナザーアギトはWに向かって行く。

Wはアナザーアギトの攻撃を掃いて行き、ピカチュウはイナズマンと戦う。

「サンダーブラスト！」

「ピカチュウ！エレキボール！！」

「ピカチュビ！！」

イナズマンの放った電気の球体にサトシの指示にピカチュウは尻尾から同じく電気の球体を作り出してイナズマンのサンダーブラストと相殺する。

「ピカチュウ！１０万ボルト！」

「ピ～カチュウウウウウ！」

「逆転チェスト！」

ピカチュウの放った１０万ボルトをイナズマンは跳ね返し、ピカチュウに当たる。

「ピカッ！」

「ピカチュウ！大丈夫か！？」

「ピカ！」

サトシの言葉にピカチュウは答える。

「いっくよ！」

「なかなか…」

Wの連続攻撃にアナザーアギトは呟く。

するとイナズマンのサンダーブラストがWに飛んで行く。

「おっと」

「どうやら、次は彼と戦うようだね」

Wはそれを避けるとアナザーアギトがそう言って離れる。

「行くよ！イナズマン！」

「ああ！」

Wはそう言うとイナズマンも力強く答え、お互いにぶつかり合った後に…

「ＰＫファイヤー！」

「逆転チェスト！」

Wが放った攻撃をイナズマンは跳ね返すとWは避け…

「ＰＫフリーズ！」

「サンダーブラスト！」

Wが放った攻撃をサンダーブラストで相殺すると連続で飛んで来たサンダーブラストに…

「サイマグネット！」

バリアを張り、その攻撃を吸収する。

「これで最後だ！」

「よお～し！行くぞ」

イナズマンの言葉にWはエクストリームメモリが飛んで来て、それをダブルドライバーに装填する。

「エクストリーム！」

その音声の後にWはサイクロンジョーカーエクストリームに強化変身するとエクストリームメモリを閉じた後に再度開く。

「エクストリーム！マキシマムドライブ！」

「とうっ！」

ＷＣＪＸがマキシマムドライブした後にイナズマンはジャンプすると空中で静止し、そのまま前転の様な回転をし、少しずつ速度を上げ、周りに電気のバリアを置き、最後には超能力者の目でも捉えきれないほどの高速回転をする。

そしてＷＣＪＸは飛び上がり、電撃の玉を放つとそれを自分にぶつけ、加速し、イナズマンも体当たりする。

「サンダーダブルエクストリーム！！」

「大車輪稲妻アタック！！」

ドカーン！！

技名を叫ぶと同時に中央でぶつかり合って、爆発する。

「うおっ！」

「「うわぁ！」」

爆風の中から変身が解けた3人が落ちて来る。

数分後、木野とドクターの治療を受けてる3人がいた。

「いてて…互角か…」

「いや～良かったね」

「うん」

木野に受けた所にシップを張られながらそう言い、絆創膏を張ったネスがそう言うとリュカも同意する。

「五郎さん、新人帝国との戦い、頑張ってください」

「ああ！」

ネスの言葉に五郎は力強く答えた後に握手する。

その後、木野と五郎は戻って来たマリオの手により元の世界に戻ったのであった。

INAZUMAN FREEDOM SOLDIER ～自由の戦士～『別世

スネーク「と言う訳で矢部野　和麻呂とのコラボであった」

フォックス「なかなかな…」

ソニック「感想を待ってるぜ♪」

魔法少女まどか☆マギカ'　世界が違えばその流れも違う（前書き）

スネーク「龍の骨とのコラボだ！」

フォックス「前回やった魔法少女まどか☆マギカ'　とのだな」

クッパ「どうなるのやら」

「それにしても此処は魔獣とかがいるんだね」

「？どう言う事だ？」

今日、遊びに来た明久の言葉に俺は聞く。

「いや…実はと言うと僕の世界にもまどかちゃん達がいるんだ…まあ、違いがあるとすればマミさんに弟はいなかったし…」

「俺がいないって事だな？」

明久の後半の言葉に先に俺が言う。

それに明久は頷いた。

「後、これこっちの世界でのだけど…オフレコだよ」

そう言うと明久は俺の耳元でごにょごにょ話す。

その内容に俺は驚き、こっちの世界では大丈夫なのか？と言う不安が来るが…

「まっ、まあそう言うのは起こったって話は聞いた事ないから大丈夫だろう」

「そうだね…それにしてもホントこの世界は凄いよね」

顔を振ってその不安を消し、明久は新聞を見て言う。

「やっぱ魔獣と共存してる事は不思議か？」

「いや、似た世界を知ってるからそんなにじゃないけど、こう公に共存してると言うのにね」

成る程、明久の世界じゃあそう言うのはないのか…

「お兄ちゃん！」

「こんにちわ剣士様～」

「誰？」

明久の世界について納得してるとまどか達が来た。

「ああ、ほむら、こいつは吉井　明久、お前がいない時に出会った別世界の人さ」

「こんにちわ」

「ねえねえ明久さん！またあのカードを見せてくれませんか！」

ほむらに明久を紹介し、明久が言った瞬間にまどかが近寄り、前回見せて貰った…確か遊戯王だっけ？そのカードをまた見せて欲しいようだ。

「良いよ」

そう言うと明久はカードの束を出し、全員に見える様に中央にカードを置いて行く。

「何時見ても凄いよね～」

「確かに」

「これは…なかなか」

それぞれカードを手に取り、見ている中、俺もカードを見ていて、あるカードに気づく。

「何だこの黒いカード？前はなかったぞ」

「ああ、それはモンスターエクシーズだよ。シンクロモンスターとはまた変わった召喚方法をするんだ」

ほう、また興味深いな…色々と見ていて、その中の１枚に目が行った。

「Ｎｏ．３９　希望皇ホープ？」

「それってさ、僕の世界にあるアニメだと主人公のエースモンスターとも言えるモンスターなんだ…それとそのカードにもスターダストと同じ精霊が宿ってるんだ」

そりゃあ凄いな、効果もなかなかだな…

「希望って付くから、何か希望を運びそうだな」

「うん、実際にこのカードは希望を運んだよ」

マジでか、明久の言葉に俺は驚いた。

「前見た龍さんと同じ様に融合するんですか？」

「うん、まあ、その場合はこのカードを使ってのだけど」

まどかの問いに明久は遊戯王とは違うカードを取り出す。

サバイブ…マギか？…それと一瞬だが、俺には明久の後ろにまどかが大人に成長した感じの女性が見えた気がした。

その後、色々と話した後に明久は帰った。

帰る時にちょっと明久の世界のまどか達について聞き、今は平和に過ごしてるんだなと安心した。

後、次の日、ほむらやさやかまでコスプレして来る様になった…ホントお前ら良く出来たな

魔法少女まどか☆マギカ'　世界が違えばその流れも違う（後書き）

ネス「と言う訳で龍の骨さんとのコラボでした～」

スネーク「ホントな…」

フォックス「あっちはどう進んで行くのやら」

リュカ「感想を待ってます！」

ほぼオールキャスト！皆でバカ騒ぎ！（前書き）

フォックス「今回はプリニーラハールのリクエストだ！」

スネーク「パーティだなパーティ」

ルイージ「だね」

ほぼオールキャスト！皆でバカ騒ぎ！

ピーチ城前

マリオ「……」

ルイージ「何待ってるの兄さん？」

腕を組んで何かを待ってるマリオにルイージは話しかける。

マリオ「ああ、客が来るのを待ってるんだ」

リュウケンドー「そうなのか？」

マリオの言葉に来たリュウケンドーが聞く。

それにマリオは頷くと…

ルイージ「ねえ兄さん…客って落ちて来る子達の事？」

上を見上げて言うルイージの言葉にマリオとリュウケンドーも上を見上げると…

複数の人がいた。

ルイージ「落ちてるよ！？」

ソロ「何が起きてるんだ！？」

スネーク「人が落ちてるぞ」

フォックス「マジかよ！」

それにぞろぞろとメンバーが来る。

ゼロ「飛べる奴は来い！」

それに何時の間にか変身してたゼロがそう言うと騒ぎに来たメンバーも空中移動が出来るメンバーが変身して落ちて来る人達を受け止めていく。

（それぞれの表記をかぶってるキャラは名前の前に作品の名前が付きます）

兄弟ラハール「なっ、なんだったのだ？」

魔王ラハール「こっ、怖すぎだろ；」

ナイトサバイブ「危なかったな」

ウイングナイトサバイブ「何でいきなり落ちてきたんだ？」

9プリニー「いきなり下に穴が開いてビックリしたッス」

ディケイド「そりゃあ大変だったね；」

龍騎サバイブ「いや～やりますね～プリニーラハールさん」

ドラゴンナイトサバイブ「やり過ぎ感あるけどな；」

ぜえぜえと息を吐くWラハールにナイトサバイブこそ錬打がそう言い、ウイングナイトサバイブこそグリーンの問いに9プリニーがそう言うとディケイドこそピットに龍騎サバイブこそヨッシー（今は擬人化してるので城戸　竜）とドラゴンナイトサバイブこそレッドがそう言う。

ネオス「それにしても大変だったね；」

魔王明久「本当だよ、ありがとうございます」

ネクサス「……問題ない」

魔王ムッツリーニ「……あれはきつい」↑鼻を押さえてる

アイリン「？」

雄二「（何かこの2人、明久とムッツリーニに似てるな）」

ネオスと魔王明久、ネクサスとアイリンを見て鼻を押さえてる魔王ムッツリーニを見て雄二はそう思った。

カズマ「此処どこだ？」

ブレイドＫＦ「それは後で話すよ；」

ギャレンＪＦ「何で落とすのかね…」

ミア「（此処どこ？）」

周りを見るカズマにブレイドＫＦこそリンクはそう言い、ギャレンＪＦは頭を掻き、ミアは戸惑う。

ちなみに来ているのは以下の通り

バカと魔王：ラハール、エトナ、堕天使フロン、プリニー、プリニール、明久、雄二、康太、秀吉、瑞希、美波、翔子、優子

９＋プリニー：エニクス、プリニー（触覚付き）

ＩＦ義兄弟：ラハール、エトナ、フロン、カイト、レオン、アイリン、ゴードン、ジェニファー、サーズデイ、バール

テイルズ：ミア、カズマ、カノンカ、シロ

落ち着いた後にマリオがこう言う。

マリオ「どうせだ。皆もこれからパーティに参加しないか？」

魔王明久「パーティ！」

美波「うわぁ…何だろう」

姫路「楽しみですね」

兄弟ラハール「ふむ、良いな」

兄弟フロン「楽しみですね♪」

カノンカ「うわぁ～楽しみだねシロ♪」

シロ「そうですね」

ルイージ「それじゃあ案内するよ」

マリオの言葉にプリニーラハールのメンバーはそれぞれ楽しげに話し、ルイージの言葉に一部がはーいと言う。

その後、それぞれ一部のキャラが変身を解き、落ちて来たメンバーと共にピーチ城へ向かう。

それぞれ楽しむ姿は分けて見せよう。

ほぼオールキャスト！皆でバカ騒ぎ！（後書き）

リュカ「と言う訳でプリニーラハールさんのコラボで分けてやります」

クッパ「んでまあ最後は…」

スネーク「だな；」

ネス「感想を待ってます♪」

万事屋奇譚幕　別話2：2つのH／同じ名前のライダーとの出会い（前書き）

スネーク「亀鳥虎龍からのゲストだ」

フォックス「ってかこの世界で大丈夫なのか？普通にこの小説が危ない気がするんだが…」

ワリオ「まあ…な…」

クッパ「ちなみに分けてやる事になった」

ネス「祈っとこう」

彩子「あの…零さん」

零「言いたい事は分かるわ」

エクス「此処はどこなんだろうね」

森河探偵事務所のメンバーは目の前の光景にエクス以外は戸惑っていた。

零「私達、事務所にいたわよね？」

彩子「はい、それでオーロラが出て…」

エクス「どうやら僕達は別世界に飛ばされたようだね」

零の問いに彩子は頷いてさっきまでの出来事を思い出してエクスが言う。

すると…彼等の前に謎の生物が現われる。

彩子「何ですあれ！？」

エクス「見た事無い生物だ…」

零「ドーパントの力で生み出された奴かしら？エクス！行くわよ」

彩子が驚き、エクスが顎を摩ってる隣で零はそう言ってドライバー

を装着した瞬間…

？？？「はっ！」

彼等の前に変わった剣を持った仮面ライダーが現われ、その内の１体、フラッドを倒すと言う。

Ｋハーツ「俺達は仮面ライダーハーツ！さあ！光と闇の鼓動を聞け！」

彩子「仮面…ライダー！？」

零「しかも…ハーツ！？」

エクス「まさか別世界に僕達と同じ名前のライダーがいるとはね」

名乗りに彩子、零は驚き、エクスも驚いた眼でＫハーツを見る。

Ｋハーツ（ヴェン）「名乗っておいてなんだけど…アンヴァースに言って意味あるか？」

Ｋハーツ（ヴァニタス）「決め台詞を言うのはお決まりだろ」

左側の目が光ってそう言うと右側の目が光ってそう言う。

エクス「それでどうする零？」

零「えっ？…ああ」

その会話を聞いていた零はエクスの言葉に一瞬困った後に加勢する

のかしないのかを聞いたのだと分かり…

零「行くに決まってるでしょ？」

【ＳＯＮＩＣ】

エクス「言うと思ったよ」

【ＴＨＵＮＤＥＲ】

零の言葉にエクスはふっと笑った後にそれぞれのメモリを起動させ…

零＆エクス「変身！」

【ＴＨＵＮＤＥＲ・ＳＯＮＩＣ】

音声と共に二人は、仮面ライダーハーツ（表記はＴハーツ）へ変身したのである。

ちなみにエクスの体は彩子が受け止めている。

Ｋハーツ（ヴェン）「仮面ライダー！？」

Ｔハーツ「一私（僕）達は仮面ライダーハーツ！さぁ、己の闇と向き合え！！」

Ｋハーツ（ヴァニタス）「しかも同じ名前か…面白いな」

名乗るＴハーツにＫハーツの左側が驚いてる間に右側は興味を持つ。

そしてＴハーツが向かって行った後にＫハーツも続く。

Ｔハーツがスクラッパーを倒す隣でＫハーツがブルーザーやシューゲイザーを倒して行く。

Ｔハーツ（零）「やるわね彼等」

Ｔハーツ（エクス）「それじゃあメモリを変えよう」

Ｔハーツ（零）「そうね」

【ＤＡＮＣＥＲ】

エクスの言葉に零も答えるとソニックからダンサーメモリへ変える。

【ＴＨＵＮＤＥＲ・ＤＡＮＣＥＲ】

メモリを変える事でＴハーツはサンダーダンサーへ変わるとダンサーファンを持って踊る様に攻撃する。

Ｋハーツ（ヴェン）「メモリチェンジが出来るんだな」

Ｋハーツ（ヴァニタス）「んじゃあこっちはツインマキシマムだ」

ＴハーツＴＤのそれに感嘆の声を上げるとＫハーツはメモリを抜いて左右の腰のマキシマムスロットに装填する。

【ＫＥＹ・ＢＬＡＤＥ・ＴＷＩＮＭＡＸＩＭＵＭＤＲＩＶＥ】

その音声の後にハーツキングダムは光ると2つに別れ、左手にヴェ

ンのキーブレード『フレッシュブリーズ』が、右手にはもう1つのキーブレード『ダークバイター』が握られ、ハーツは体を回転させる。

Kハーツ「キーブレード！ツインサイクロン！！」

技名を叫ぶと同時に自分の回転を止めると同時に2つのキーブレードを投げると2つのキーブレードは竜巻を起こし、アンヴァースを吹き飛ばして行く。

そして収まると同時にアンヴァースは消滅していて、2つのキーブレードは途中でハーツキングダムに戻るとKハーツの手に収まる。

それを見た後にKハーツは変身を解き、黒と白の混じった光に包まれ、それが分かれるとヴェンとヴァニタスになる。

TハーツTDも変身を解き、エクスが起き上がった後に零はヴェンとヴァニタスに近寄る。

零「聞きたい事があるんだけど…」

ヴァニタス「此処はどこか…だろ？…付いて来い。此処で話すより良い」

零の言葉にヴァニタスが言い歩き出し…ヴェンもほら…と零の背中を押し、彩子とエクスも付いて行く。

その頃、別の場所で零達と同じ世界の人物が来ていた。

万事屋奇譚幕　別話2：2つのH／同じ名前のライダーとの出会い（後書き）

クッパ「分けてやる事にしたのだ」

フォックス「んで次回は…ジョーカーと…幻想殺しだな」

ネス「感想を待ってます♪」

HERO' s EPISODE～ヒーローズエピソード～ 番外編第1話「別世

スネーク「今回はケンの『HERO' s EPISODE～ヒーローズエピソード～』とのコラボだ！」

フォックス「行くメンバーは？」

ルイージ「兄さんにソニックにピットに明久君とムッツリーニ君、ソロとリュウケンドーとギル」

アンク「個性ありすぎなメンバーだろ！特に後半2人！」

カザリ「ちなみにそれぞれ表記でコラボ先のはHでこっちはSだよ」

HERO's EPISODE～ヒーローズエピソード～ 番外編第1話「別世

とある次元にある文月バーベナ学園にて…

統夜「今の所平和だな」

H明久「そうだね」

くあ～と欠伸をした統夜にのびのびとしたH明久がそう言う。

すると…

ドカーーーン!!!

秀吉「何じゃ!?」

優子「校庭からしたわよ!」

いきなりの揺れと音に誰もが驚き、窓から校庭を見る。

すると…犬神家状態なマリオとソニックに積み重なったソロとリュウケンドーとギル、そして頭を摩っているピットにS明久とS康太がいた。

H明久「何か凄い事になってるぅぅぅ!?」

雄二「ってか明久とムッツリーニがいるぞ!?」

H康太「……どう言う事だ?」

その光景にH明久が驚いた後に雄二がS明久とS康太を見て驚き、H康太は首を傾げる。

S明久「あっ！？先生！」

S康太「……ソニックも埋まってるな」

その後、埋まったマリオとソニックは起きたソロとリュウケンドーにギル、ピットとやって来た統夜達の手により発掘されたのであった。

マリオ「いや～マジで助かった」

ソニック「センキュー」

統夜「いや…ホントにいきなりだったから説明するの大変だった」

顔の拭きながらマリオはそう言い、ソニックがお礼を言うと統夜は疲れた顔で言う。

ちなみに…

ギル「ぷっ♪」

美波「うっ、上手いわね／／／」

姫路「ほっ、ホントですね／／／」

はやて「うっ、上手過ぎや／／／」

翔子「…はぅ／／／」

優子「外見の割りにやるわね／／／」

ギル「ぷっ！」

ソロ「『外見の割りは失礼だ』だとさ」

秀吉「良く翻訳出来たのう／／／」

ギルが描いた絵に女性陣は顔を赤らめ、優子の言葉に怒って言うギルの言葉を訳したソロの言葉に同じくギルから絵を貰った秀吉が言う。

ちなみに女性陣が貰った絵の内容については…コラボ先であるケンさんに任せます。

S明久「こっちの秀吉が女の子になってるなんて…」

S康太「……驚きだ」

H明久「あっ、やっぱり驚くよね」

H康太「……そして半端ない」

まだ驚きから冷めてないS明久の隣で写真を取ってるS康太を見てH明久は苦笑し、H康太は一部を見てそう言う。

ピット「ってか色々とツッコミ所あるね…」

ダイチ「確か別世界のなのは達と知り合いだっけ?」

リュウケンドー「そうそう、皆仲良いよな～」

ソロ「だな」

ピットはクラスを見て、ダイチの問いにリュウケンドーは頷いて答えた後に周りを見て言い、ソロが同意したのを見て…

遊輔「（あいつ等…鈍いんだな恋愛関係…）」

そう心の中で呟いた時…

ドカーン!

マリオ「うぉ!」

統夜「今度は何だ!?」

全員が慌てて外を見ると…肩まである銀髪、瞳が赤、背中から一対二翼の翼が生え、皮膚の色がドス黒いカオスルシファーの集団がいた。

達哉「何だあいつ等!?」

統夜「コピールシファーの強化体か?」

マリオ「行くぞ!ルイージ!ソニック!ソロ!明久!康太!ピット!ギル!」

ソニック「ＯＫ！」

ルイージ「分かった！」

ピット「行こう！」

ソロ「やってやるぜ！」

Ｓ明久「行こう！」

Ｓ康太「……ああ」

ギル「ぷっ！」

それにマリオ達は飛び出し、ソニックはカリバーンを構え、ルイージはコスモスバックル、ピットはディケイドライバー、Ｓ明久はネオスバックル、Ｓ康太はネクサスベルト、ギルはオーズドライバーを装着し…

ソニック＆ピット「変身！」

ディケイドライバー「カメンライド！ディケイド！」

ギル「ぷっ！」

オーズドライバー「プテラ！トリケラ！ティラノ！プットティラノ～ザウル～ス！」

ルイージ＆Ｓ明久＆Ｓ康太「ＫＡＭＥＮＲＩＤＥ！」

コスモスバックル&ネオスバックル&ネクサスベルト「ライダーアップ」

ソニックはカリバー、ピットはディケイド、ギルはオーズPC、ルイージはコスモス、S明久はネオス、S康太はネクサスに変身するとマリオ、リュウケンドー、ソロと共に着地する。

統夜「俺達も行くぞ!」

統夜の言葉の後にH明久、達哉、遊輔、たけしとダイチも続く。

遊輔「行くぞ!クリムゾンフレイム!」

達哉「行くぞ…ラピスブレイブ!」

H明久「行くよ!アストラルフリーダム!」

ダイチ「気力転身!オーラチェンジャー!」

たけし「超力変身!」

たけしはオーレッドに変身し、ダイチはリュウレンジャーに変身し、遊輔はクリムゾンフレイム、達哉はラピスブレイブ、H明久はアストラルフリーダムを起動させた。

そして統夜は両手に手の甲の部分に蒼(右)と金(左)の丸い宝石を備えた蒼い生地のフィンガーレスグローブの『エナジークリスタル』を嵌め、アドヴァンスバックルを腰に装着しベルト部にある左右のハードポイントに白と黒の双銃の『アドヴァンスフューラー』

をセットし、アドヴァンスフォンに起動コード「０００」を入力してＥＮＴＥＲを押すと「ＳＴＡＮＤＩＮＧ　ＢＹ」という音声が響いた後…

統夜「ウェイクアップ…アドヴァンスメサイア！！」

アドヴァンスバックルのバックル部にアドヴァンスフォンをセットし「ＣＯＭＰＬＥＴＥ」の音声が響いて上には蒼いパーカーを着て下は黒い長ズボンを穿き、七ヶ所（胸部、両肩、両腕、両足）に真紅のプロテクターを装備したバリアジャケットを展開した。

そして着地するとマリオ達と共に構える。

マリオ「そうだ統夜、お前のリクエスト、答えてやるよ」

統夜「えっ？」

マリオの言葉に統夜は思わず声が漏れたのを気にせず、マリオはカードを取り出し、テキストを読む。

マリオ「『息子と大切な者を守る為、男は命を削ってでも戦い抜いた』」

読み終えるとマリオの右手にキバットバット?世が握られ、自分の左手を噛ませると腰にダークキバットベルトが装着される。

マリオ「変身」

そして?世をベルトに装着するとマリオは仮面ライダーダークキバに変身した。

統夜「おお！仮面ライダーダークキバ！！」

ダークキバ「させ、行くぞ！」

興奮する統夜の肩を叩いた後にダークキバの言葉の後に全員が走る。

H明久「喰らえ！」

ネオス「いっけ！」

H明久とネオスはお互いに背中を預けあい、敵を倒して行く。

コスモス「この！」

リュウレンジャー「おりゃ！」

リュウケンドー「はっ！」

オーレッド「てあっ！」

コスモスとリュウレンジャーは相手の攻撃を受け流して攻撃して行き、リュウケンドーとオーレッドはお互いの背を預け、敵を斬る。

達哉「てい！」

オーズPC「ぷっ！」

ネクサス「……オマケ」

遊輔「喰らえ！」

ディケイド「うりゃりゃりゃりゃ！」

達哉はオーズＰＣとネクサスの援護を受けて倒して行き、遊輔とディケイドが斬って行く。

ソロ「喰らえ！」

零斗「マイティ真拳奥義！瞬獄殺！」

そして何時の間にか駆けつけた零斗と共にソロはウルトラゼロランスを振るって戦っていた。

ダークキバ「行くぜ！」

？世「ウェイクアップ２！」

ダークキバ「おりゃあ！」

統夜と共にカオスルシファーを倒して行く中、ダークキバがキングスバーストエンドを決めると別のカードを取り出す。

ダークキバ「『漆黒の外套と金色に輝くベルトだけが、彼の砕けた心を繋ぎ止めていた。』」

読み終えると共にダークキバのベルトがオーガドライバーへ変わり、オーガフォンに起動コード「０００」を入力してＥＮＴＥＲを押すと「ＳＴＡＮＤＩＮＧ　ＢＹ」という音声が響いた後…

ダークキバ「変身」

オーガドライバーのバックル部にオーガフォンをセットすると「ＣＯＭＰＬＥＴＥ」の音声が響いてダークキバの体に金色のフォトンブラッドが伝わり、フォトンフレームが展開されるとダークキバは仮面ライダーオーガに変身した。

統夜「おお！？今度はオーガに！」

アドヴァンスフューラーで撃ちまくっていた統夜はそれに驚いてる間にオーガはオーガストランザーを手に取り、柄にミッションメモリーを装填して長剣モードに変化させた後にカオスルシファーをなぎ払うとオーガドライバーのＥＮＴＥＲを押す。

オーガドライバー「ＥＸＣＥＥＤ　ＣＨＡＲＧＥ」

音声と共にオーガの身長の３倍もあるエネルギーの刃、オーガ・ストラッシュが展開され、それをオーガは振るってカオスルシファーを倒して行く。

オーガ「んでもって最後！」

そう言うとオーガは新たなカードを取り出す。

オーガ「『黒き龍を従えし、鏡の世界の黒龍の騎士』」

読み終えると共にベルトはＶバックルに変わり、オーガの手にはリュウガデッキが握られる。

オーガ「変身！」

そしてVバックルにリュウガデッキを装填する事で鏡像が現われ、それが重なるとオーガは仮面ライダーリュウガに変身していた。

リュウガ「さ～ら～に特別サービス」

そう言うとリュウガがあるカードを引き、ブラックドラグバイザーが黒い炎に包まれるとブラックドラグバイザー・ツヴァイへ変わり、龍の口部分を開き、そこに引いたカード、サバイブをセットする。

Bドラグバイザー・ツヴァイ「サバイブ」

その音声と共にリュウガは黒い炎に包まれ、収まると仮面部分が少し長くなり、体に装甲が追加されたリュウガ・サバイブに強化変身した。

統夜「マジかよ！すっげえ！？」

リュウガS「行くぜ！」

Bドラグバイザー・ツヴァイ「アドベント」

感嘆の声をあげる統夜を尻目にリュウガSはドラグブラッカー改め、ブラックドラグランザーを呼び出すとバイクモードにしてカオスルシファーをふっ飛ばしていく。

統夜「ようし！…ターゲットマルチロック……いけぇ！！」

それを見た後に両手のアドヴァンスフューラーを仕舞い、右手にハドロン砲、左手にEモードに切り替えたAMランチャー、AMネオ

フェザーからは光の弾、胸部にあるＡＭコアから拡散構造相転移砲とスーパーカリドゥス、両腰の部分にスーパークスフィアスを改良・発展した砲身が上下に銃身が二つある強化型レールガンのＡＭクスフィアスを一斉発射した。

Ｂドラグバイザー・ツヴァイ「ファイナルベント」

リュウガＳ「行くぜ！ブラックドラゴンファイヤーストーム！」

統夜の一斉射撃の後にリュウガＳが残ったカオスルシファーを火炎弾と突進で倒した。

ターンすると同時にリュウガＳはブラックドラグランザーの頭を撫でた後に統夜にサムズアップし、統夜もサムズアップする。

数分後

統夜「もう帰るのか？」

マリオ「ああ、楽しかったぜ」

オーロラを背にするマリオ達に統夜はそう聞き、マリオはそう言う。

マリオ「頑張れよ統夜！」

統夜「ああ！」

Ｓ明久「そっちの僕！頑張ってね！」

Ｈ明久「うん！」

ソロ「頑張れよ！」

零斗「おう！」

ルイージ「悪戯はほどほどにね；」

ダイチ「何のことやら…」

ピット「目を反らすな；」

お互いに握手しあった後にマリオ達はオーロラを越えて帰るのであった。

HERO' s EPISODE～ヒーローズエピソード～ 番外編第1話「別世

リュカ「と言う訳でケンさんとのコラボでした！」

フォックス「こっちのギルは絵が上手いんだな；」

スネーク「そうだな；」

ギル「ぷっ！」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカルボーボボ　爆闘！ハジケ対戦　ＥＸ話　エンドレス組み手なんて簡単だ

フォックス「と言う訳でｓｉｂｕｇａｋｉの続きだ！」

スネーク「復活したかフォックス！」

フォックス「いきなりだったからな…」

天の助「と言う訳でやるぞヘッポコ丸！」

ヘッポコ丸「おう！」

そう言って2人は戦場へ向かう。

ビュティ「天の助君、気合入ってるね」

ティアナ「ホントね」

それを見た2人はそう呟く。

天の助「行くぞヘッポコ丸！俺達の友情奥義を見せてやろうぜ！」

ヘッポコ丸「おう！」

天の助の言葉にヘッポコ丸は力強く答える。

ヘッポコ丸&天の助「協力奥義！ぷるぷる皐月ジェット！」

サングラスをかけたヘッポコ丸が天の助の上に乗り、天の助がダッシュすると同時に連続で雑魚キャラを倒して行く。

天の助「おらおら！とこ屁組のお通りじゃぁぁぁぁぁ！！」

天の助が走る度に雑魚キャラは吹っ飛び、上の奴にはヘッポコ丸が攻撃する。

優子「凄そうな奥義だけど…」

美波「ちょっと…」

姫路「あれは…少し」

赤セイバー「かっこ悪いな」

キャス狐「不良ですね」

霧島「もう少し…」

首領パッチ「容赦ない言葉が俺にもなぜか来る！！」

それを見ていた女性陣の言葉に首領パッチは胸を押さえてゴロゴロ転がる。

ティアナ「（ああ…こう言う人が増えて欲しい…）」

それにティアナは心の中で涙を流すのであった。

6分後

天の助「見たか！これぞとこ屁組の力じゃぁぁぁぁぁぁ！！」

ヘッポコ丸「ふぅ…」

ビュティ「お疲れ、へっ君」

ヘッポコ丸「ありがとう」

とこ屁組と書かれた旗を持って叫ぶ天の助の隣でビュティにタオルを貰うヘッポコ丸。

ちなみに2人が倒した合計は１０００人

マリオ「俺達も負けられないな！」

ボーボボ「その通りでござる！拙者達の力を見せよう！」

そう言うと2人は戦場へ駆け出す。

ビュティ「大丈夫かな？」

スバル「確かにボーボボさんは子供状態だしね」

首領パッチ「終われ終われ終われ終われ終われ終われ終われ終われ」

田楽マン「こっちはこっちで祈ってる！」

ファンタズムーン「うわぁ…；」

ムッツリーニ「……無理だろうな」

明久「そうだね」

秀吉「早く終わるなんてありえなさそうじゃしな」

雄二「そうだな」

心配するビュティにスバルはそう言う隣で首領パッチが祈っていて、田楽マンが驚き、ファンタズムーンや他のメンバーが冷や汗掻く中、ムッツリーニと明久、秀吉、雄二が言う。

戦場

ボーボボ「ビームソード乱れ斬り！」

マリオ「あたたたたたたたたた！！」

ボーボボは手に入れたビームソードで雑魚キャラ軍団を吹き飛ばして行き、マリオはパンチやキックで吹き飛ばして行く。

ボーボボ「マリオ殿！避けるでござる！」

マリオ「とう！」

スマートボムを持ったボーボボの指示にマリオはその場を避けるとボーボボの投げたスマートボムが雑魚キャラ軍団を一掃する。

ボーボボ「今度はこれだ！」

今度はモンスターボールを取り、投げると中からグラードンが出て、雑魚キャラを吹き飛ばして行く。

首領パッチ「何であんなのが出るの！！」

ソフトン「取らなかっただけだろ」

ダークエリザベス『そうそう』

首領パッチ「きびしぃ！！」

その様子に叫ぶ首領パッチにソフトンとダークエリザベスがズバッと言い、首領パッチは叫ぶ。

１６分後

マリオ「なかなか行けたな」

ボーボボ「いやぁ面目ない」

１５００体倒した所でボーボボが吹き飛ばされ、終了した。

ちなみにマリオは８００、ボーボボは７００である。

天の助「凄いぜボーボボ！」

ヘッポコ丸「ホントです！」

ソフトン「中々だったぞ」

それに天の助とヘッポコ丸が駆け寄り、褒めて、ソフトンがそう言う。

マリオ「さて、疲れただろ?ご飯を食べた後に送るぜ」

ボーボボ「よっしゃあ！」

首領パッチ「ご飯だご飯だ！」

スバル「ご飯♪」

ティアナ「あんたね…」

マリオの言葉にボーボボと首領パッチ、スバルが喜んだ後にティアナは頭を掻く。

その後、姫路の料理に一部（首領パッチと田楽マン、ソフトン、ダークエリザベス、フォックス、スバル）が当たったがドクターにより介抱された後にボーボボ達は帰ったのであった。

リリカルボーボボ　爆闘！ハジケ対戦　ＥＸ話　エンドレス組み手なんて簡単だ

リュカ「と言う訳でｓｉｂｕｇａｋｉさんとのコラボでした～」

スネーク「良く行けたな」

クッパ「大体がマリオがフォローしたからなのだ」

ネス「感想を待ってます♪」

万事屋奇譚幕　別話3：出会いしJとD／桐札と幻想滅殺者（前書き）

スネーク「亀鳥虎龍の続きだ！」

フォックス「今回はな…」

クッパ「タイトル通りなのだ」

万事屋奇譚幕　別話3：出会いしJとD／桐札と幻想滅殺者

符美「此処どこかしら？」

零達と同じ世界にある大江戸警察署の警視である桐札　符美は困っていた。

とある密売の情報を聞き付け、行われるであろう工場へ向かったが、そこに何もなく、まさか罠と思った時にオーロラが現われ、それが通り過ぎた後、符美は知らない場所に立っていた。

符美「（此処は水都じゃないわね…誰か詳しい人いないかしら…）」

立ってるだけじゃあ仕方ないで歩き、とある公園でベンチに座り、考えていて…

符美「あら？」

ふと、符美の目にある人物が入った。

吹寄「ほら、約束の奢りのジュース買えよ」

上条「はいはい、分かってますって」

自動販売機の前に立つ、吹寄にジュースを買わされていた上条であった。

符美「（彼は…聞いてみましょうか）」

知ってる人物がいて、少し考えた後に符美は立ち上がり、２人に近寄る。

符美「ちょっと話してる所悪いけど…教えてほしい事があるの」

上条「あっ、はい」

吹寄「…何ですか」

声をかけられた２人は符美の方に振り向き…

符美「実は…」

【ＭＡＧＭＡ】

符美が聞こうとした瞬間、符美に聞き覚えのある音声がした後…

上条「吹寄！」

吹寄「！？」

符美「っ！」

上条が吹寄をお姫様抱っこし、符美と共にその場を飛び退ると、自動販売機に火炎弾が命中する。

上条「何だ！？」

吹寄「かっ、上条／／／」

いきなりの事に燃える自動販売機を見て驚く上条だが、吹寄は顔を赤くする。

符美は飛んで来た方を見る。

そこには…異形の怪物、マグマドーパントがいた。

符美「ドーパント！」

上条「吹寄、そこの人頼む！」

吹寄「あっ、ああ／／／」

符美が驚いてる間に上条は吹寄を下ろした後にそう言い、ディブレイカードライバーを装着し、カードを構える。

【ＫＡＭＥＮ　ＲＩＤＥ】

上条「変身！」

【ＤＥＢＲＥＡＫＥＲ】

音声と共に上条の周りに１０人のライダーの幻影が現われた後に上条と重なり、カード装甲が差し込まれると仮面ライダーディブレイカーに変身していた。

符美「仮面ライダー！？」

吹寄「え？」

その姿に符美が驚き、吹寄は何で知ってるのかに驚く。

【ＡＴＴＡＣＫ　ＲＩＤＥ　ＢＵＬＳＵＴ】

その間にディブレイカーはライドブッカーＧＭでマグマドーパントを攻撃する。

それにマグマドーパントは後ずさるがさっき符美達を攻撃した火炎弾で攻撃する。

それにディブレイカーは突き進む。

符美「あっ！」

危ないと言おうとして…符美は目の前の事に目を開く。

ディブレイカーに当たり掛けた火炎弾が当たる前に消滅するのだ。

それにマグマドーパントが驚いてる間にディブレイカーはパンチを入れる。

【ＡＮＯＭＡＲＯＣＡＲＩＳ】

ディブレイカー「うおっ！」

音声の後に飛んで来た攻撃にディブレイカーは避ける。

そして見た方にはアロマロカリスドーパントがいた。

吹寄「もう1体いたのか！？」

符美「あなたは此処にいて！」

驚いてる吹寄に符美はそう言った後にファーストドライバーを装着し、ジョーカーメモリを取り出す。

【ＪＯＫＥＲ】

符美「変身！」

そしてファーストドライバーにジョーカーメモリを装填して開く。

【ＪＯＫＥＲ】

その音声と共に符美は仮面ライダージョーカーに変身した。

ディブレイカー「ジョーカーって！？Ｗのメモリを何で！？」

ジョーカー「あいつは私がやるわ！君は最初の奴を！」

驚いてるディブレイカーにジョーカーはそう言うとアロマロカリスドーパントに向かって行く。

ディブレイカー「良し！…あっ、その前に！」

【ＫＡＭＥＮ　ＲＩＤＥ　ＣＡＬＩＢＵＲ】

ディブレイカードライバーにカードを装填すると音声と共に光の三原色で構成されたライダーの幻影が現れた後にカリバーとなる。

ディブレイカー「カリバー！吹寄を頼む！」

カリバー「オーライ！護衛は任しとけ！」

ディブレイカーの指示にカリバーがそう言った後にディブレイカーはまたカードを装填する。

ディブレイカー「と言う訳で変身！」

【ＦＯＲＭ　ＲＩＤＥ　ＰＨＡＮＴＯＭ　ＮＡＣＨＴ】

その音声と共にディブレイカーの姿は白色のライダースーツの上に無限の開拓地と呼ばれる世界にある鋼鉄の孤狼を模した鎧を纏った仮面ライダー、仮面ライダーディブレイカー・ファントム・ナハトフォームとなった。

ＤファントムＮＦ「喰らえ！！」

レイヤード・クレイモアで火炎弾を相殺しつつ、マグマドーパントを攻撃した後に…

ＤファントムＮＦ「決めるぜ！」

【ＦＩＮＡＬ　ＡＴＴＡＣＫ　ＲＩＤＥ　ＰＨＡ　ＰＨＡ　ＰＨＡ　ＰＨＡＮＴＯＭ】

そう言うと同時にマグマドーパントに突撃しつつチェーンガンで攻撃、さらにレイヤード・クレイモアで追撃。その後、飛び上がって落下しつつエネルギーを集束して鎧の色が赤くなった後、ダレイズ・ホーンで打ち上げてリボルビング・ブレイカーでトドメを刺す『ナ

ハト・ブレイク』を決める。

ジョーカー「私も決めるとしますか」

アロマロカリスドーパントの歯での銃撃を避けて攻撃しながらジョーカーはDファントムNFを見てそう言った後にジョーカーメモリを抜いてマキシマムスロットに装填する。

【JOKER　MAXIMUMDRIVE】

ジョーカー「ライダーパンチ！」

アロマロカリスドーパントの懐に飛び込んだ後にジョーカーは技名を叫び、エネルギーが集束した右腕を叩き込む。

それぞれ爆発が起きた後に壊れたメモリと使っていたと思われる者達が倒れていた。

上条「あんた…仮面ライダーだったんだな」

符美「そう言う君もね」

吹寄「上条！」

お互いに変身を解いて言う2人にカリバーと共に吹寄が来て、倒れてる2人に気づく。

吹寄「こいつ等は…」

上条「知ってるのか吹寄？」

吹寄「ああ…前に御坂に伸されたスキルアウトだ」

上条の問いに答えた吹寄の言った事にまたあいつか…と頭を掻く。

上条「けど、何でこいつ等あんな怪人に?アンヴァースとは違ったけど…」

符美「さっきのはドーパントよ…そのアンヴァースって何かしら?」

倒れた男達が持っていたメモリの残骸を摘まんで呟く上条に符美はそう言って聞く。

吹寄「上条、一度あいつ等の所へ行かないか?」

上条「そうだな…ちょっとある所で説明しますから付いて来てくれませんか?」

符美「分かったわ…私は桐札　符美よ」

上条「上条　当麻です」

吹寄「吹寄　制理です」

お互いに自己紹介した後に上条の案内の元、ある所へ向かう。

万事屋奇譚幕　別話3：出会いしJとD／桐札と幻想滅殺者（後書き）

フォックス「と言う訳で亀鳥虎龍の符美と上条の出会いだな」

スネーク「次で合流するな」

ネス「感想を待ってます♪」

ほぼオールキャスト！皆でバカ騒ぎ！　バカと魔王編（前書き）

フォックス「プリニーラハールの続きだ！」

ルイージ「それで今回はバカと魔王キャラの会話だよ」

クッパ「どう言う会話になるのやら」

ほぼオールキャスト！皆でバカ騒ぎ！　バカと魔王編

魔王明久「凄いや！」

魔王雄二「料理も凄く豪華だな」

魔王美波「ホントね！」

お城の中に案内された中で魔王明久は周りを見て言い、魔王雄二は料理を見て言い、魔王美波は同意する。

魔王秀吉「しかも美味い！」

魔王姫路「ホントですね」

魔王ラハール「うむ！最高だな！」

堕天使フロン「はい♪」

魔王エトナ「ホントね」

そして魔王秀吉が料理を食べて叫び、魔王姫路、魔王ラハール、堕天使フロン、魔王エトナも食べて言う。

魔王優子「一体誰が作ったのかしら？」

ゼフィランサス「知りたい？」

魔王プリニー「ぎゃぁぁぁ！いきなり出て来ないで欲しいッス」

魔王優子の言葉にどこからともなくゼフィランサスが現われて聞き、
魔王プリニーが飛び退って言う。

ごめんごめんと謝った後にゼフィランサスは言う。

ゼフィランサス「作ったのはルイージとリンクにこっちの明久君に
その他大勢」

魔王明久「最後纏めた!!?」

魔王美波「と言うかアキは料理出来るの!?」

ゼフィランサスの言葉に魔王明久はツッコミ、魔王美波は驚く。

ゼフィランサス「えっ?普通に出来るよ…それで女装のラハールさ
んやら」

魔王ラハール「ん?何だ?」

ゼフィランサス「確か女装が好きなんだよね?」

魔王ラハール「そうだぞ」

ゼフィランサスの言葉にすぐに答える魔王ラハールにゼフィランサ
スはニコッと笑った後に…

ゼフィランサス「此処にさらに女装の深い道に入れる物…「何薦め
てるんだ己は!!」」

魔王ラハールに何かを勧めようとするゼフィランサスにサイサリスがツッコミの蹴りを入れる。

サイサリス「まったく…このバカ兄貴は…」

魔王明久「（あっ、何か気が合いそうだこの人と）」

はあはあと肩を上下させるサイサリスに魔王明久はそう言う。

サイサリス「お前たち、楽しんでるか？」

魔王霧島「……ええ…」

魔王優子「感謝してるわ」

サイサリス「そうか…」

ゼフィランサス「はい、一気一気」

魔王ラハール「うぐうぐ…」

サイサリス「目を離した隙に飲ませてんじゃねえよ！！」

サイサリスの問いに魔王霧島と魔王優子が答えてる間に何時の間にか復活したゼフィランサスが魔王ラハールに薬を飲ませていて、それにサイサリスは今度は回し蹴りのツッコミを入れる。

明久「どうしたの？」

秀吉「何かあったようじゃが？」

そこに明久と秀吉、康太、愛子、ファンタズムーン、フランシスが来る。

サイサリス「こっちの明久に秀吉か…バカ兄貴がな…ってか大丈夫…か？」

魔王ラハール「うう…まずかったぞあれ」

魔王ラハールと魔王雄二と魔王康太を除いたバカと魔王メンバー「えぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！？」

魔王雄二「ぎゃあぁぁぁぁぁぁぁ！！目がぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！」

魔王霧島「……雄二には見せられない」

魔王康太「……！？（ブシュウ！）」

康太「……無念（バタッ）」

愛子「ちょ！？こっちのムッツリーニ君とそっちのムッツリーニ君大丈夫！？」

ファンタズムーン「ありゃりゃ；」

フランシス「こりゃあ輸血しないとな」

サイサリスが2人に言ってる途中で魔王ラハールの事に気づいて安否を聞こうとした時、そこにはボンキュボンで長身（雄二よりちょい上）な女性になった魔王ラハールがいて、それにバカと魔王メン

バーは驚き、魔王雄二は魔王霧島に目潰しされ、W康太はそれぞれ魔王ラハールの成長する際にボタンが弾け飛んで見えた胸元に鼻血を噴出し、愛子とファンタズムーン、フランシスは輸血の準備をする。

それに魔王ラハールは慌てて胸元を押さえる。

ゼフィランサス「良し！（グッ）」

サイサリス「おいぃぃぃぃぃ！！！何他者様のキャラを性転換しとるんじゃャバカ兄貴ぃぃぃぃぃぃぃ！！」

ゼフィランサス「え〜だってバカ騒ぎだからこう言うのもありかな〜と、後やっぱ男の人が女物着れる様になるにはこれでしょ（キラキラ）」

ガッツポーズするゼフィランサスにサイサリスはゼフィランサスを掴んでゆっさゆっさと揺らしながら叫び、ゼフィランサスは物凄く輝いた笑顔で言う。

魔王美波「なっ、何よあれ…」

魔王エトナ「私等より上ってどうなのよ…」

それに魔王美波と魔王エトナは嫉妬して魔王ラハールの胸を見て、魔王ラハールはもじもじと顔を赤くする。

プリニール「何か女の子っぽくなってない？…；」

ゼフィランサス「ああ、女の子に近くなる薬も入れたから（笑顔）」

サイサリス「しかもキャラの性格を変えようとするなぁぁぁぁぁ！＃」

プリニールの言葉にゼフィランサスがそう言い、サイサリスがツッコミのラリアットをゼフィランサスに決める。

堕天使フロン「服どうします？」

魔王ラハール「うむ、どこかないか？」

康太「……安心しろ、服ならある」

堕天使フロンの問いに魔王ラハールはそう聞き、復活した康太がそう言うと出したのは…

っ、赤セイバーの服、紫バージョン

明久「何時の間にセイバーの服を作ったの！？」

魔王ラハール「おお！なんと凛々しい…」

明久が驚いてる間に魔王ラハールは服を見てそう言い、堕天使フロンと共に試着室に向かう。

魔王明久「苦労してるね；」

明久「そっちもね；」

走るゼフィランサスを追いかけるサイサリスを見て魔王明久は苦笑

してそう言い、明久も苦笑する。

サイサリス「んで…元に戻るのか？」

ゼフィランサス「う～ん、プリニーラハールさん次第かな？」

サイサリス「おい！」

ステイメン「お兄ちゃん；」

ほぼオールキャスト！皆でバカ騒ぎ！　バカと魔王編（後書き）

スネーク「と言う訳で今回はバカと魔王側だったな」

ガンダム「と言うかＧＰ－０１；」

シャア「苦情来ないか心配だぞ；」

ネス「感想を待ってます♪」

IS<インフィニット・ストラトス>黒き牙と永遠の月　謹慎の兵

スネーク「ユートピアとのコラボだ！」

フォックス「前回ので終が負傷した！」

クッパ「しかも楓が連れ去られたのだ！」

ワリオ「奴の目的は一体！」

マリオ「ドクター、終の容態は？」

ドクター「完治にはしばらくかかるよ…けれどもしゼロ…ソロが助けなかったらさらにやばかったであろう状態だったよ」

楓が攫われ終が負傷してから一夜明けた。

あの後、明久、ムッツリーニ、ギルを除いたグリード達面々と黒狼に冥王、デスサイズ、ウイング、リュウケンドーとチルノとルーミアを除いた魔弾戦士のメンバーが捜索に出て、他のメンバーは宿で待機していた。

ルイージ「ちょっ！皆落ち着いて！」

スィン『喧嘩していても状況は変わんないよ！；』

ブリッツ「落ち着くでござる！」

セシリア「放してくださいまし！」

鈴「あの時ラウラが能力を使えば逃げられなかったのに！」

ラウラ「あの状況で使えるか！お前たちがしっかりしていれば！」

シャル「それじゃあ僕達が悪い訳！」

椛「何よ！」

マリオ「あいつ等…」

ソロ「まだ争ってるのかよ…」

ルイージとブリッツの停止の言葉の後の楓ＬＯＶＥズの言葉にマリオは頭を抑え、ソロは呆れた顔をする。

ドクター「荒れてもしょうがないが…流石にけが人や子供もいるのに…」

本音「大丈夫かな～」

ドクターはスヤスヤ眠る楓達の子供を見てそう言い、本音は不安げな顔で隣で言う。

終は別の部屋で簪と楯無、虚が見ている。

一夏「お前らいい加減にしろ！」

箒「これからの事を考えろ！」

それにキレた一夏と箒も加わり止めようと入ったようだ。

セシリア「邪魔しないでくださいまし！」

鈴「そうだよ！これは私達の問題だよ！」

椛「そうよ！黙ってて！」

一夏「！お前ら！！」

箒「聞いて置けば！」

3人の言葉に一夏はブチ切れ、箒も憤慨すると言い争い始める。

チルノ「皆喧嘩ばっかりじゃダメだよ！」

デスティニー「言い争ってるばかりじゃあ進まないだろ！」

リュウケンドー「デスティニーの言う通りだ！落ち着け！」

それに3人は慌てて止めに入る。

お空「うにゅ…」

フラン「マリオ…」

マリオ「そろそろ止めるか…」

お空とフランにマリオは立ち上がり…

終「いい加減にしろお前ら！！」

マリオ「…バカが…」

隣で寝ていた終の叫びにマリオはふう～とため息を吐いて移動する。

そこで包帯を体中に巻かれて頭にもされている終がふうふうと息を荒げて立っていた。

終「お前ら…何で誰も他の人に任せて此処で言い争ってるんだよ！行けよ！」

どうやら明久達に探索を任せて此処で言い争っているメンバーに終は腹を立てた様だ。

すると終は傷ついた体を引きずりながら行こうとする。

楯無「ちょっ！ちょっと終君！無理だよその体で！」

簪「…動いちゃダメ…」

虚「そうですよ！」

一夏「3人の言う通りだ終！」

ルイージ「その体じゃあ壊れるよ！」

終「言い争うだけで助けに行かない奴にどうこう言われたくない！」

それに楯無、簪、虚が止めて、一夏とルイージも言い、終はそう叫ぶ。

マリオ「まあ、確かにそうだな…これ以上、喋ってるより探した方が良いだろうな…謹慎してちょっと頭を冷やせ…」

そこでマリオも口を開いてそう言って、終は頷く中、次の瞬間、マリオの言葉に凍る。

マリオ「……終…お前は此処でしばらく謹慎しろ」

終「えっ……？」

なぜ？と終は思った後にマリオに体を軽く小突かれ…崩れ落ちる。

終「ぐっ！」

マリオ「お前…前回のコンボの負担が抜けてないだろ？…知らない内にその負担でこんな体になってるんだからな…」

楯無「？どう言う事？」

慌てて終を抱き抱える楯無はマリオの言葉に首を傾げる。

マリオ「本来、オーズのコンボは装着者に負担を与えてしまう。受け継ぎし者である黒狼はそう言うのはないが他の者…ましてや終は鍛えているが普通の人だ。見るからに幻獣系コンボは他のコンボを遥かに超える力を持つ分、負担も遥かに多い…例え数日は経っただろうがこれだけとはな…」

簪「けど…何で？」

一夏「普通は楯達じゃないのか？」

説明するマリオに簪と一夏がなぜ楯達はないのかを聞く。

マリオ「探索で動けるのがやっとの者より、元気良く動ける者のが良いだろう…後、いい加減にしろお前ら」

マリオはそう言った後、殺気を出した事に誰もが悟った。終以上にマリオも怒ってる事に…

マリオ「誰のせい？そんなの全員の責任だ。俺だって素早く行けただろうが敵を見過ごした。そうやって責任を押し付けるな！ああ言うのは全員の責任だ！後、そこの５人！！お前たちは楓が大切ではないのか！！」

セシリア「なっ！？」

鈴「大切に決まってるじゃない！」

椛「そうよ！」

ラウラ「聞き捨てならないな」

シャル「何でそんな事聞くんですか！」

マリオの最後の言葉に楓ＬＯＶＥズは詰め寄るが…

マリオ「ならばなぜ探索するメンバーに加わらなかった！」

そう言われて楓ＬＯＶＥズは言葉が詰まる。

マリオ「言い争いしたいならそう言うのは終わってからにしろ！」

そう言うとマリオは手をパンとさせると…

どこからともなくマジックハンドが出て来て終を掴んで現われたベッドに拘束する。

終「なんじゃこりゃあ!?」

??「私のお手製のだよ」

驚いてる終にどこからともなく声がした後…

束「ヤッホー♪」

一夏「束さん!?」

まさかの人物の登場に一夏達は驚く。

マリオ「あの後、終を動けない様にする為に連絡して来て貰った」

束「いや〜いきなりだったからビックリしたよ〜」

マリオの言った後に束は頭を掻いてそう言う。

ネクサス『……師父、こちらネクサス、相手の動きを発見せし』

マリオ「良し!ドクター、簪、楯無に本音は終の監視と楓達の子供の面倒を頼む。後の皆は行くぞ!」

束「いってらっしゃ〜い」

ネクサスの連絡にマリオはそう言うと束の見送りの言葉と共に終の監視に言われた人を除いて出て行く。

その頃…

楓「うっ…」

楓は目が覚めると十字架に掛けられ目の前にはシルクが立っていた。

シルク「おはよう、それじゃあ…」

楓「!?」

挨拶をした後にシルクは楓にキスをすると楓は何かを吸い取られる感覚に陥った。

楓「（なっ、何ですか!?）」

シルク「うふ…あなたの魂、良いわね。吸わせて貰ったわ」

驚いてる楓にシルクは放すと楓の口元を押さえて赤らめた頬で言った後に楓は気絶した。

リュカ「と言う訳でユートピアさんのコラボでした！」

スネーク「どうなるんだろうな…」

クッパ「それよりもなぜシルクが封印されていたのが疑問なのだが…」

ネス「感想を待ってます！」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　～銀女神鎮魂歌～　―　第別訓パート３５

スネーク「真王とのコラボ第３５弾だ！」

ワリオ「航海に出たがクラーケンのせいで船を壊されたな」

フォックス「それで流れ着いたみたいだな」

ネス「どうなるんだろうね…」

ネプテューヌ達が目的の島に着いてる頃、メテンズギルドにて…

マリオ「やれやれ…こりゃあ大変だな…」

目の前のメテンズギルドに今いる人員の集団を見てマリオは過振りを振る。

ネオの深い事情についてアテナスから聞こうとしたが条件としてメテンズギルドの団員達を鍛えて欲しいとの事だ。

マリオ「こりゃあ…大変だな…どうせなら見られてないのに慣れると言う事でこれをやるか…」

マリオはそう言った後にカードを取り出す。

マリオ「『従者と侍の力を１つにした黄金の王の新たな姿』」

そう言うと同時にマリオは仮面ライダーキバに変身し…

キバット「全員集合！！」

次にキバットがフエッスルを鳴らすとキバにガルルセイバー、バッシャーマグナム、ドッガハンマーが吸収された後に左腕にタツロットが装着されると左腕がガルルフォーム、右腕がバッシャーフォーム、胸がドッガフォームとなり、それ以外はキバ・エンペラーフォームとなったドガバキエンペラーフォームになる。

最後にキバＤＧＢＫＥＦはザンバットソードを取り出すともう１つ、恐竜が描かれたディスク『恐竜ディスク』を取り出し、それをザンバットソードのもち手へ嵌めると…ザンバットソードの刀身が恐竜の顔へとなった『キョウリュウザンバットソード』へと変わり、キバＤＧＢＫＥＦは襟に金の縁取りが成された赤い陣羽織を纏った『仮面ライダーキバ・ハイパードガバキエンペラーフォーム』通称、超キバヘフォームチェンジとなった。

メテンズギルド「なんじゃそりゃあぁぁぁぁぁぁぁ!?」

その姿にメテンズギルドの団員達は驚きの声を上げる。

超キバ「さあ!超キバって行くぜ!」

その間に超キバはキョウリュウザンバットソードを構えて向かって行く。

戻ってネプテューヌ達…

ネプテューヌ「そんじゃ行こう!」

ボウケンレッド「そうだな」

銀次「皆と合流しないとね!」

起きて変身した空もといボウケンレッドと銀次の言葉の後に3人は行動を開始する。

ココが目的の島と理解したネプテューヌ達はすぐにみんなと合流することにした。

その頃の銀時達…

銀時「か〜め〜は〜め〜波ァァァァァ！！！」

ソロ「いきなり何やってんだよ！！」

起きて早々にかめはめ波を出す練習をしてる銀時にソロはツッコミを入れる。

ちなみに周りにはネプテューヌと銀次、ボウケンレッドを除いたメンバーがいる。

此処までいるのは全てソロの活躍があったからであった。

銀時「いや、ヴィヴィオとネプテューヌが出来たし、そろそろ俺も出来る様にと…」

ソロ「おいおい…そんなに出したいんだったら魔力を出す様にして見ればどうだ？あんた出来るんだろ？」

銀時「成る程！」

ソロは呆れた顔で銀時の言った事にそんなアドバイスを送り、銀時は目を瞑り、魔力を操っていた時の感覚を思い出すように集中し…

銀時「か〜〜〜め〜〜〜」

静かに構えると両手の中から銀色の光の玉が現れ…

銀時「は～～～め～～～」

それはどんどんと大きくなって行き…

銀時「波ァァァァァ！！！」

ドキュウウウウウウウウウウンッ！！！！

突き出すと同時に巨大な砲撃が発射され…

ドゴォォォォォォォォォォォン！！！

遠くからキノコ雲ができた。

ジャック「何だ！？」

神楽「地震あるか！？」

ギル「ぷっ！？」

それにメンバーは起きて周りを見る。

銀時「……（@口@；）」

撃った本人である銀時はあんぐり状態になっていた。

ギルシア「どうした銀時？」

銀時「ハ…ハハハハハ…ナンデモナイヨ～～…」

ギルシアの問いに銀時は驚きのあまり片言で返事をするしかなかった。

全員が起きた後に移動を開始した。

ネプテューヌ「しつこい！」

ボウケンレッド「はっ！」

銀次「喰らえ！」

こちらネプテューヌ達は現れるデッドパイレーツ達やこの島の原生生物たちに邪魔されながらも進んでいた。

ボウケンレッド「これ程までいるってな…」

銀次「それだけ隠すのに良いって事だね！」

ボウケンジャベリンでチェスターモンキーとチェスターコングを吹き飛ばしながらボウケンレッドに銀次はポイズンフラワー、サバギンを電撃で倒して行く。

すると…

ヴィヴィオ「助けて～～！！」

プリニー「ヘルプッス～！！」

冥王「2人には手を出させないの！ディバインバズーカ！！」

ドドーン！！

ヴィヴィオとプリニーの助け声の後に冥王の言葉と共に3人の前を閃光が通り抜けて行く。

冥王「あれ？皆いたの？」

リアス「無事の様ね」

ボウケンレッド「そっちもな」

ビビ「誰？」

ソロ「リュウケンドーだよ」

シャル「他の力もあるの！？」

ルイージ「うん」

合流したメンバーが会話している間にジャックは周りを見てある物を見つける。

ジャック「おっ？あれは…」

クッパ「？何を見つけたのだ？」

そんなジャックにクッパは話しかける。

ジャック「みろよ、アレが財宝の隠し場所にふさわしい場所だ」

そう言ってジャックは怪しい洞窟を見る。

リアス「あそこに…」

イッセー「まあ、行って見ないとね」

ジャック「気をつけろ、絶対に罠があるぞ」

ボウケンレッド「確かに、その可能性はあるな」

新八「そうですね」

リアス、イッセーが言った後にジャックがそう注意し、ボウケンレッドと新八も同意した後に一同は洞窟に入る。

銀時「あぶなっ！？」

グレイ「…飛び出す槍か…」

壁から出て来た槍を避け…

神楽「あいた！？」

ボウケンレッド「ガブガブだな」

神楽「とって欲しいアル！！」

ガブガブに神楽がかまれたり…

ネプテューヌ「わぷっ！」

レーティア「きゃっ！かかっちゃったわ…」

ジャンヌ「も～、びしょ濡れだよ～、しかも透けちゃったし…」

ギル「ぷっ？」

途中でみずなみの飛沫で女性陣が困ったり…

銀時「火の玉ぁぁぁぁぁぁ！！」

新八「銀さん落ち着いて！」

チフユ「根性出さんか！」

チルノ「氷龍符！アイシクルドラゴン！」

ソニック「ウォータードラゴン！」

コンパ「銀さん、倒しましたよ」

出て来たバーンソウルに銀時が逃げようとして新八とチフユに止められてる間にソニックとチルノが倒したり…

新八「うおわっ！？」

ナリア「危なッ！？何あのキラーモドキ！？」

ダンガンを撃って来るダンガン大砲、ダンガンバズカーに新八、ナリアは撃たれたのを避けた後に…

冥王「喰らうの！」

レオン「はっ！」

レイン「このっ！」

ヤルオ「オマケだおｗｗｗｗｗ」

冥王とレオン、レインとヤルオがダンガン大砲、ダンガンバズカーを撃破する。

ノワール「落石よ！」

クッパ「ふん！」

ギルシア「はっ！」

ブラン「…粉砕した」

紅也「良く出来るな；」

岩が落ちて来た時はクッパとギルシアが粉砕する。

蒼馬「しかし長いね」

森羅「確かにそうだな…」

咲夜「その分～罠や敵も多いね～～」

エリザベス『危ないよ！』

月詠「降りるのじゃ！！」

クッパ「大丈夫なのだ、こいつは手荒に扱わなければ爆発せんのだ」

蒼馬が汗を拭ってそう言い森羅も同意してビッグボンバーの上に乗った咲夜にエリザベスと月詠が慌てて言い、クッパはそう言う。

進んで行くと体中に藤壺が付いてる男が立っていた。

ボウケンレッド「誰だあいつ？」

ギル「ぷっ？」

男「此処から先へは言ってはダメだ」

ジャック「おいおい、まさかあんたはビル・ターラーか？」

ボウケンレッドとギルが首を傾げてる間にその男は忠告し、ジャックはその顔を見てそう言う。

ビル「あんたは俺を知ってるのか？」

ジャック「靴ひも（ブーツストラップ）ビル、微妙に聞いた位だ」

クッパ「ふむ、それでそのビルとやら、さっきの行ってはならないと言うのはなぜだ？」

ビルの問いにジャックは肩を竦めてそう言った後にクッパが聞く。

ビル「この先の船にいる船長に関わるな」

桂「ふむ…すると船長は亡霊となっているのか」

アルテス「まあ、大体は予想出来てたけど」

銀時「わりぃが俺達はお宝を手に入れたいんでね」

ビルの忠告に桂は顎を摩ってそう言うとアルテスは肩を竦め、銀時はそう言ってビルの隣を通り、他のメンバーも続く。

ビル「あまり船長に関わるな！船長の…ダッチマンの秘密を知ってはならん！」

そんな彼等の後ろからビルは最後の忠告をする。

一番奥へ進むと、財宝がありそうに思えるボロ着いているがかつて２００年前にデンヴィー・ジョーズが愛用していた海賊船・ダッチマン号が不気味な雰囲気で包まれていた。

ジャック「あそこだな」

プリニー「な～んかいやな雰囲気がするッス～…」

オーズＰＣ「ぷっ！」

チルノ「出て来たわね」

ボウケンレッド「どんなのが待ち受けてるのやら…」

ビルの言うダッチマン号にいる船長の秘密とは…

リュカ「真王さんとのコラボでした！」

デネブ「長らく待たせてゴメン！」

スネーク「しかし、銀時達に待ち受けてるのは一体…」

ネス「感想を待ってます♪」

ダンボール少年セイタ　『セイタとソロとネスとリュカ』（前書き）

フォックス「今回は龍の骨の『ダンボール少年セイタ』とのコラボだ！

スネーク「待たせたな！」

ワリオ「んで行くメンバーは…成る程な…」

ダンボール少年セイタ　『セイタとソロとネスとリュカ』

神社にお参りに行った木村セイタ、だが、彼は神社を掃除道具を探してる際に見つけたケースの中に複数のＬＢＸと共にあった腕輪を付けた瞬間、有名な武将が女性となったパラレルワールドの戦国時代へ飛んでしまう。

事情を話した後に突如、等身大のＬＢＸが襲い掛かる。

危うい所を腕輪が光り、セイタは持っていたグラディエーターと同じ鎧と武装を纏い、なんとか危機を回避したのであった。

そんな彼はある人物達と出会う。

セイタ「はあ…帰れるかな…」

用意された部屋で寝転がりながらセイタはそう呟く。

セイタ「（けど、何で等身大のＬＢＸがこの時代にあって、しかも俺を狙ったんだ？）」

先日襲ったデクーの集団にセイタは考えるが如何せん、情報が全然ないのだ。

う～～んとセイタが唸っていると…

ヒデヨシ「セイタ！大変よ！あなたの着ているのと似た人が３人倒れてたの！」

セイタ「えっ！？」

部屋に来たヒデヨシの言葉にセイタは驚く。

数分後、謁見の間

ノブナガ「貴様達はどこから来た？」

ソロ「此処より凄く遠い場所から来た」

ネス「同じく」

リュカ「はい」

ヒデヨシ「それじゃあセイタと同じミソラタウンって場所？」

ノブナガの問いにソロが答えてネスとリュカがそう言った後にヒデヨシの問いに３人は首を横に振る。

ミツヒデ「と言う事はセイタと同じ出身者ではないと言う事か？」

ソロ「ああ」

その後、色々話した後に解散した。

セイタ「ソロ達も別の世界から来たの？」

ソロ「ああ、ＬＢＸなんて聞いた事ないからな」

ネス「こっちも同じくね」

リュカ「セイタさんは何で？」

屋敷の縁側でセイタが聞くとソロとネスは頷き、リュカがなぜセイタがいるかを聞く。

それにセイタは頭を掻いた後に話す。

ソロ「そりゃあ…」

ネス「うわぁ…」

リュカ「大変ですね；」

それに3人がそう言った瞬間！

ソロ「！あぶねえ！！」

セイタ「えっ！？」

ソロがセイタを掴み、その場を離れ、ネスとリュカも離れるとその場をマシンガンの弾丸が放たれる。

セイタ「デクー！またか！」

ソロ「あれが…」

ヒデヨシ「セイタ！」

放たれた方にいたデクーの集団にセイタは叫び、ソロが静かに見る

とそこにヒデヨシが来る。

ネス「良し！行こうリュカ！」

リュカ「うん！」

ヒデヨシ「危ないよ！」

ソロ「安心しろ、あいつ等は戦士だ」

セイタ「えっ？」

前に立つネスとリュカにヒデヨシがそう言うとソロがそう言う。

セイタが驚いてる間にネスはショドウフォン、リュカはテンソウダーとカードを取り出す。

ネス「一筆奏上！！

ネスは目の前に火と書いた後に反転させ、ボタンを押すと同時にネスは赤いスーツを纏い、顔に書いた火がマスクとなる。

リュカ「チェンジカード！天装！！」

テンソウダー「チェンジ！ゴセイジャー！」

そしてリュカもテンソウダーにチェンジカードを装填し、ネスが纏ったスーツとは違うのを纏い、顔をカードに描かれていたマスクが覆う。

それと同時に2人の身長は大人の男性と同じ身長になる。

ヒデヨシ「うそ…」

セイタ「凄い…」

目の前に立つ姿と身長が変わった2人を見てヒデヨシとセイタは呟く。

ネス↓シンケンレッド「シンケンレッド、参る！！」

リュカ↓ゴセイレッド「嵐のスカイックパワー！ゴセイレッド！！」

それぞれ名乗った後にシンケンレッドはシンケンマル、ゴセイレッドはスカイックソードを構え、デクーに向かって行く。

セイタ「（あの時の様に戦うにはどうすれば…）」

セイタは集中すると手に持っていたグラディエーターと腕輪が光り出し、セイタを包んだ。

光が晴れると、セイタはグラディエーターの鎧に、右手にグラディウス、左手にラウンドシールドを持った姿になっていた。

セイタ「なれた…また」

ソロ「良し！行くぞ！」

自分の姿を見て呟くセイタにソロは肩を叩いた後にウルトラゼロランスを持つ。

はい！と答えた後にセイタとソロもデクーと戦うシンケンレッドとゴセイレッドに加わる。

ゴセイレッド「はっ！」

シンケンレッド「たっ！」

セイタ「この！」

ソロ「ぜあっ！」

それぞれ持つ武器でデクーを切り裂いて行く。

ゴセイレッド「コンプレッサンダーカード！天装！」

テンソウダー「スパーク・スカイック・パワー」

デクーの一部が一塊になった瞬間にゴセイレッドはテンソウダーにカードを装填するとゴセイレッドの上に黒い雲が現われ…

ゴセイレッド「いっけぇぇぇぇぇ！！」

ゴセイレッドが振り下ろすと同時に雷がデクーの集団に直撃する。

シンケンレッド「烈火大斬刀！！」

そしてシンケンレッドはシンケンマルを烈火大斬刀へ変えるとデクーをなぎ払う。

ソロ「はっ！」

セイタ「喰らえ！」

ソロがウルトラゼロランスでデクーの1体を貫いた後にセイタがデクーの1体の頭を刺して攻撃する。

ヒデヨシ「凄い…」

それを見ていたヒデヨシは戦う4人の姿を見て言う。

セイタ「これで…最後！！」

最後の1体を切り裂き、セイタははあはあと肩を上下させる。

ソロ「やったな」

セイタ「はい…」

ソロがそう言うとセイタは疲れながらもそう言った後にどこからともなくオーロラが現われ、ゴセイレッド、シンケンレッド、ソロを通り過ぎると、3人の姿はなかった。

ヒデヨシ「消えた！？」

ミツヒデ「何があった！」

驚いてるヒデヨシとセイタにミツヒデが駆け寄る。

セイタ「（何か分からないけど…凄かったな…）」

セイタは話してるヒデヨシとミツヒデの会話を聞きながら上を見上げる。

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

蛇八「と言う訳で始めるぞ…ペンネーム『黒龍』から『黒龍「すみませんが、作品の方向性を変えて欲しくはないので、こう言うお願いします。すみませんが、これを守ってコラボしてくれるのを望みます。じゃあ最後に質問です」

1．うちの小説で出た善悪無縁についてどう思いますか？答えられる人だけで良いです。

2．なんでマリオはハーレムを作る転生者が許せないんですか？ハーレムは大抵の男は夢見る事だと思いますよ？

3．クッパに質問。ピーチ姫を攫っては悪事を働いていた以前の自分をどう思いますか？

黒龍「今回はここまでです。コラボ楽しみにしています」』…と言う訳で答えて貰うぞ」

ブロントさん「条件がなかったら速攻で輪廻へ送りたくなる汚い転生者の１人」

マリオ「ですな…ハーレムって何?俺は能力で人の気持ちを操ろうとする奴が許せないだけだよ」

クッパ「我輩にしては『良く生き残れたな…』としみじみ思う思い出なのだ…」

銀八「との事だ…『黒龍』!あんまりマリオやブロントを怒らせる奴を出し過ぎない様に注意しろよ!」

ブロントさん「さんを付けろ!!デコ助!」

銀八「いや俺デコ助じゃないし;」

蛇八「今回は此処までだ;」

ダンボール少年セイタ　『セイタとソロとネスとリュカ』（後書き）

リュカ「と言う訳で龍の骨さんとのコラボでした！」

マリオ「良かったな」

ネス「いや～色々とね～」

スネーク「彼の物語がどうなるかホントに気になるな」

ネス「感想を待ってます♪」

万事屋奇譚幕　別話４：２つのＨとＪと２つのＤ／それぞれのライダーの出会い

スネーク「亀鳥虎龍のコラボ最後だ」

フォックス「これ、思いっきり別サイトの小説のネタバレが豊富だよな…」

ワリオ「だな」

ヴァニタス「此処だ」

1つの建物を背にしヴァニタスは言う。

零「『光闇探偵事務所』…探偵事務所!?」

彩子「あなた達、探偵なんですか!?」

ヴェン「まあね」

看板を見て驚く零と彩子にヴェンは笑い、エクスは興味深そうに建物を見る。

その後、3人はヴェンとヴァニタスと共に中に入る。

佐天「あっ!2人共お帰り」

御坂&黒子&初春「お邪魔してま～す」

ヴェン「4人共来てたんだな」

入って早々にソファーに座っていた、佐天　涙子が2人に言い、御坂　美琴、白井　黒子、初春　飾利が言う。

零「此処の従業員?」

ヴァニタス「長髪の少女の佐天以外はそこの御坂は事件に首突っ込

みまくりの一般人、そこの黒子と初春は風紀委員（ジャッジメント）さ」

御坂「ちょっと！私の紹介どうなのよ！」

黒子「事実ですわよお姉さま」

ヴェン「首を突っ込んでるよな？…探偵始める前だった俺達もそうだけど；」

初春「すいません、フォロー出来ません；」

零の問いに答えたヴァニタスの言葉に御坂が噛み付き、黒子はそう言い、ヴェンはそう言い、初春は申し訳ない顔をする。

ぐぬぬとする御坂に佐天や零達は苦笑すると…

上条「うい～す」

吹寄「邪魔するぞ」

そこに上条と吹寄が入り…

零「桐札警視！？」

符美「あなた達は探偵事務所の！？」

上条「この人警視なのか！？」

零と符美はお互いに驚き、上条も驚いてる間に御坂と吹寄は睨み合い、黒子はハンカチをかみ締め上条を睨み、それにヴァニタスはた

め息を吐く。

数分後

ヴァニタス「成る程な…」

上条「そんな事が…」

符美と零からの情報を聞いた上条達は驚いていた。

御坂達も驚いてる所に…

御坂妹「お邪魔しますとミサカは言って入ります」

ヴァニタス「御坂妹か」

上条「どうしたんだ？」

そう言って入って来た御坂妹にヴァニタスと上条が話しかける。

御坂妹「ある倉庫で見た事無い男がスキルアウトに変な取引を行っていると言う情報を見つけたとミサカは報告します」

ヴェン「見た事ない男？」

御坂妹の言葉にヴェンは首を傾げた後に…

符美「…ねえ、もしかしてこんな男？」

それを聞いた符美がある写真を取り出す。

御坂妹「おお！その人ですとミサカは驚いて言います！」

ヴァニタス「もしかしてさっきの密売の奴か？」

符美「ええ…」

ヴェン「それじゃあ行こうぜ！」

上条「あんなもんは此処にあっちゃ行けねえよ！」

驚いてる御坂妹を尻目にヴァニタスの問いに符美は頷き、ヴェンと上条が右拳を左手をぶつけてパンと鳴らして言う。

佐天「そんじゃあ行こう！」

黒子「ですわね」

御坂「そうね」

上条「案内頼むぜ御坂妹」

御坂妹「了解です！とミサカは期待に答えて案内します」

そう行った後にメンバーは向かう。

とある倉庫、そこである事が行われていた。

黒子「風紀委員（ジャッジメント）ですの！取引はそこまでですの」

黒子の言葉の後に符美達もドライバーを装着する。
それに男とスキルアウトはメモリを取り出す。
【ＭＡＧＭＡ】
【Ｔ－ＲＥＸ】
【ＶＩＯＬＥＮＣＥ】
【ＡＲＭＳ】
【ＢＩＲＤ】
【ＭＡＳＱＵＥＲＡＤＥ】
【ＯＧＲＥ】
音声と共にスキルアウトは様々なドーパントに、そして取引を行っていたと思われる男は鬼の様なドーパント、オーガドーパントへなる。
【ＳＯＮＩＣ】
【ＴＨＵＮＤＥＲ】
【ＫＥＹ】
【ＢＬＡＤＥ】

【ＪＯＫＥＲ】

【ＫＡＭＥＮ　ＲＩＤＥ】

零＆エクス＆ヴェン＆ヴァニタス＆符美＆上条「変身！」

【ＴＨＵＮＤＥＲ・ＳＯＮＩＣ】

【ＫＥＹ・ＢＬＡＤＥ】

【ＪＯＫＥＲ】

【ＤＥＢＲＥＡＫＥＲ】

音声と共にそれぞれのライダーに変身し…どこからともなくエクスプロージョンメモリが飛んで来て彩子と初春が支えたエクスの体を吸収した後にＴハーツの手に収まりドライバーに装填される。

【ＸＰＬＯＳＩＯＮ】

Ｔハーツは仮面ライダーハーツサンダーソニックエクスプロージョンになる（以下、ハーツＴＳＸ）。

そしてジョーカーもジョーカーメモリを抜き…

ジョーカー「それじゃあ私も！」

【ＣＹＣＬＯＮＥ】

サイクロンメモリを取り出し、それをスロットに挿し込み、横に倒

した。

【ＣＹＣＬＯＮＥ】

音声と共に、ジョーカーの体が徐々に黒から緑へと変わり、首にはマフラーが付いた仮面ライダージョーカーサイクロンへ強化変身した（以下、ジョーカーＣ）

ジョーカーＣ「それじゃあ…」

ドカーーン！！

それぞれが行こうとした瞬間、何かが倉庫の屋根をぶち破り、両者の中間に落ちる。

彩子「何！？」

佐天「もしかして新しい敵ですか？」

それにメンバーが驚いてる間に煙が収まり…そこには…

仮面ライダー「あいたたた…」

Ｋハーツ&ディブレイカー「フォーゼ！？」

頭を摩っている白いロケットの様な仮面を纏ったライダー、仮面ライダーフォーゼにＫハーツとディブレイカーは驚く。

ジョーカーＣ「知り合い？」

ディブレイカー「まあ、はい…」

フォーゼ「はあ…まったくロケットの凄過ぎだよ…」

ジョーカーCの問いにディブレイカーは曖昧に答えた後にフォーゼはため息を付いた後に変身を解き、野比　のび太に戻る。

彩子「子供!?」

Kハーツ（ヴェン）「のび太!後ろを見ろ!」

のび太「えっ?うひゃあ!?」

まさかの変身者に彩子は驚き、Kハーツの言葉にのび太は後ろを見て驚いた後にディケイドのカードを持って念じる。

すると…のび太の腰にディケイドの変身アイテム『ディケイドライバー』が出現する。

のび太「変身!」

【KAMEN　RIDE　DECADE】

ディケイドのカードを翻し、ディケイドライバーに装填すると電子音が響き…

のび太の左右に6で計12のライダーの影が現れて、のび太に重なると姿が変わり、のび太の身長は成人男性位に伸び、顔に7枚のカード装甲が刺さると共に灰色だった部分が鮮やかなマゼンタになる。

のび太は仮面ライダーディケイドに変身した。

ジョーカーC「この世界にまだいたの？」

ディブレイカー「そんじゃああれ行くぞ」

ディケイド「はい！」

ジョーカーCが驚いてる間にディブレイカーはあるカードを取り出し、ディケイドもディエンドライバーを取り出して似たカードを装填する。

【【KAMEN RIDE ALL RIDERS】】

その音声と共にディケイド側にはクウガ、アギト、龍騎、ファイズ、ブレイド、響鬼、カブト、電王、キバ、W、オーズ、フォーゼの12人のライダーが…

ディブレイカー側にはゼロとカリバーに…

体がウルトラマンネクサスアンファンスで腕はキバEF、足はブレイドKFを元にし、顔はWFJとアギトを会わせた感じで体の色は銀色の仮面ライダー『仮面ライダーオリジン』

白いライダースーツの上にガンダムダブルオーライザーをモチーフにした鎧が装着され、顔はWの額の部分をダブルオーランザーの額の奴にし、目を青くして顔全体を白くしたのに覆われた仮面ライダー『仮面ライダーダブルオー』

白いライダースーツと所々に赤い爪の様な模様が入ったアーマーが

装着され、顔をライガーゼロシーザー・ザ・キングを模した仮面が覆っている別世界にあるゾイド系ライダーの中でも最強の力を持つライダー『仮面ライダーシーザー』

体はクウガと響鬼を混ぜた感じで顔は龍騎とキバを合わせた感じのライダー『仮面ライダーアバター』

リューナイトゼファーを人型にし、目の部分を緑色のウルトラマンゼロの目にした感じであった。その手にはゼファーの武器である『飛翔の剣』と『炎熱の盾』を持ったライダー『仮面ライダーゼファー』

銀色のライダースーツの上に無限の開拓地と呼ばれる世界にある漆黒の羅刹機を模した鎧を纏ったライダー『仮面ライダー羅刹』

黒色のライダースーツの上に黒き亡霊を模した鎧を纏っているがただし顔だけは目が鋼鉄の孤狼と白銀の堕天使の目と同じ形になっているライダー『仮面ライダーファントム』

以上の9人のライダーが現われた。

すると…ディブレイカーのライドブッカーからあるカードが飛び出す。

ディブレイカー「何だこのライダー？呼べって事か？」

それを見て呟くディブレイカーの言葉を肯定する様にカードは光る。

ディブレイカー「良し…」

ディブレイカーはそのカードを装填する。

【ＫＡＭＥＮ　ＲＩＤＥ　ＳＴＯＲＭ】

その音声と共に光の三原色で構成されたライダーの幻影が現われ、それ等は１つになるとライダーではなく１人の女性となり、その人物にハーツＴＳＸと彩子は驚く。

ハーツＴＳＸ（零）「艶子！？」

彩子「姉さん！？」

まさかの人物にそれぞれが驚いてる間に艶子は微笑んだ後にファーストドライバーを装着し、右手にストームメモリを構える。

【ＳＴＯＲＭ】

艶子「変身！」

【ＳＴＯＲＭ】

音声の後に彼女の体が徐々に竜巻に包まれ、竜巻が晴れたと同時に“二本の触覚に黄色い複眼、右胸にＳのマークが描かれた青いボディの仮面ライダー”が出現した。

ディブレイカー「あれが…仮面ライダーストーム」

ストーム「さあ、心の闇と向き合え！」

ディブレイカーが呟いた後にストームが己のセリフを言い…

Kハーツ「さあ！光と闇の鼓動を聞け！」

ハーツTSX「さぁ、己の闇と向き合え！！」

その後に2人のハーツはセリフを言う。

電王「そんじゃあ行こうぜ！！」

ファントム「ショウ・ダウンだ！」

電王とファントムが言うと同時に全てのライダーが駆け出し、ドーパント集団とぶつかり合う。

ゼファー「トルネードアタック！！」

ブレイド「ウェイ！」

カリバー「はっ！」

アバター「ハァァァァ！」

W「はっ！」

カブト「ふん！」

剣を持つゼファーとブレイドが切り裂いた後にアバターとカリバー、Wとカブトが続く。

クウガ「たっ！」

アギト「はっ！」

羅刹「ふん！」

シーザー「喰らえ！」

クウガ、アギト、羅刹、シーザーが己の拳で吹き飛ばし…

ファントム「ジャックポット！」

響鬼「よいしょ！」

ゼロ「デアッ！」

龍騎「だりゃあ！」

ファイズ「ふん」

電王「おりゃあ！」

ファントム、ゼロ、ファイズが遠距離攻撃し、響鬼、龍騎、電王が近距離攻撃をする。

その中でＫハーツとディブレイカーとディケイド、ジョーカーＣとハーツＴＳＸとストームがオーガドーパントと戦う。

Ｋハーツ「はっ！」

ディケイド「この！」

ＫハーツとディケイドがハーツキングダムとライドブッカーＳＭでオーガドーパントを切り裂き…

ジョーカーＣ「はっ！」

ディブレイカー「おりゃあ！」

ジョーカーＣとディブレイカーがパンチを繰り出し、吹き飛ぶ。

オーガドーパントは口から火を吐くが…

ジョーカーＣ「させないわよ！」

それをジョーカーは風の壁を作り、攻撃を防いだ。

ハーツＴＳＸ「はっ！」

ストーム「てあっ！」

すかさずハーツＴＳＸとストームが飛び越え、とび蹴りを決める。

【ＫＥＹ・ＢＬＡＤＥ・ＴＷＩＮＭＡＸＩＭＵＭＤＲＩＶＥ】

【ＸＰＬＯＳＩＯＮ】

【ＣＹＣＬＯＮＥ】

【ＳＴＯＲＭ】

【【【MAXIMUMDRIVE】】】

【【FINAL ATTACK RIDE】】

【DE DE DE DEBREAKER】

【DE DE DE DECADE】

6人のライダーは飛び上がった後にキック体制に入る。

Kハーツ&ディブレイカー&ディケイド&ハーツTSX&ジョーカーC&ストーム「シックスライダーキック!!」

迫る6人ライダーにオーガドーパントは悪あがきと火炎弾を発射するが止めれずに6人ライダーのキックを受けて倒れる。

ライダー達が着地すると同時にオーガドーパントは爆発し、その場に男と壊れたガイアメモリが残った

フォーゼ「ライダーロケットパンチ!!」

ダブルオー「俺が!俺達がガンダムだ!!」

オリジン&オーズ「いや、俺(僕)達は仮面ライダーだから;」

周りでもフォーゼとダブルオーが最後のドーパントを倒し、ダブルオーの言葉にオリジンとオーズがツッコミを入れていた。

零「お別れだね」

ヴェン「そうだな」

スキルアウトは警備員（アンチスキル）に運ばれ、主犯の男は縛られてその場に置かれていた。

ヴァニタス「頑張れよ」

符美「ええ」

エクス「君達も頑張らないと手に入らないよ」

御坂&吹寄「なっ！？／／／」

御坂妹「確かにとミサカは同意して今後も強く行きたいと心に決めます」

上条「？」

零とヴェンが握手している中、ヴァニタスは符美にそう言い、エクスの言葉に御坂と吹寄は顔を赤くして、御坂妹はグッと手を握り締め、黒子はきぃ～とハンカチをかみ締め、まあまあと初春が宥める。

零「それにしても…良いの貰っちゃって？」

そう言って零は上条から渡されたストームのライダーカードを取り出す。

上条「やっぱ身近な人が持っといた方が良いでしょ」

のび太「そうですよ！」

上条とのび太の言葉に零はさっき消えたストーム、艶子の顔を思い出してありがとうと言う。

その後、零達は元の世界に戻ったのであった。

万事屋奇譚幕　別話４：２つのＨとＪと２つのＤ／それぞれのライダーの出会い

リュカ「と言う訳で亀鳥虎龍さんとのコラボでした」

フォックス「色々と出し過ぎ；」

スネーク「だな」

ネス「感想を待ってます♪」

ほぼオールキャスト！皆でバカ騒ぎ！　ＩＦ義兄弟編（前書き）

スネーク「プリニーラハールのコラボ続きだ！」

フォックス「今回はＩＦ義兄弟編だな」

ネス「だね～」

ほぼオールキャスト！皆でバカ騒ぎ！　ＩＦ義兄弟編

兄弟ラハール「ぬぅ…なんとか回復出来た…」

フロン「凄かったですね；」

ジェニファー「ホントに大変だったわね」

別世界の女体化した自分を見てのダメージからなんとか回復した兄弟ラハールは椅子にもたれ、フロンは冷や汗を流し、ジェニファーはそう言う。

ブリッツ「大丈夫でござるか？」

そこにブリッツとデスティニーにジャスティスとフリーダム、スターゲイザーにノワール、テイルス、シャドウ、ゴールド、リュウケンドーが来る。

カイト「うん、大丈夫だよ」

レオン「やあ、そっちは何で？」

デスティニー「ちょっとな…ジャスティスが挨拶したいって…」

ジャスティス「ブリッツが世話になったからね」

アイリン「そんなに世話にはなってないけど…（ホント、色んな世界の人がいるわね）」

カイト、レオンが言った後、レオンの問いにデスティニーはそう言い、ジャスティスがそう言う。

アイリンは周りを見て驚く。

ゴールド「それにしてもシャドウの旦那、奥さんを連れて来れば良かったのによ～」

シャドウ「彼女にもやる事があるんだ…」

アイリン「はい！？」

兄弟エトナ「奥さんいるの！？」

このこのと肩でツンツンするゴールドにシャドウは静かに言ってジュースを飲み、アイリンと兄弟エトナは驚く。

ゴールド「ちなみに娘さんもいるんッスよ～」

ゴードン「なんと！？」

フロン「誰なんですか！？」

？？？「パパ～」

ゴールドの言葉にゴードンとフロンが驚いた後にシャドウに白くて長い尻尾と細長い瞳孔など、どことなく猫のような印象を持つ小柄な少女が抱き付く。

シャドウ「ナノナノ、急に抱き付かない方が良い」

ナノナノ「は～いなのだ」

バール「えっと…その子が娘さんッスか？」

ゴールド「そうそう」

アイク「義理の娘だが…シャドウはわが子の様に大切にしている」

カイト「うわぁ！？」

リュウケンドー「いきなりだな～アイク」

背中に抱き付いてるナノナノにそう言いながら頭を撫で、ふにゅ～と嬉しそうに撫でられてるナノナノを見てバールが聞き、ゴールドが言った後にアイクがにゅっと出て来てそれにカイトが驚き、リュウケンドーはそう言う。

ゴールド「ある時に俺とシャドウの旦那にアイクの大将ともう2人と別世界に飛んである人達と出会ったんッスよ～その中の1人がシャドウの旦那の奥さんで…もうね、男らしい言葉で奥さんの心を射抜いてさらに今のクールに熱血漢を加えたセリフで自分の娘と言って種族を越えた公認の夫婦なんだよな～」

フロン「ふぉぉぉ！凄いです！物凄い愛を感じます！！」

兄弟エトナ「ふ～ん見かけに寄らずやるじゃん」

シャドウ「それは余計だ」

自分の様に話したゴールドの話にフロンは興奮して、兄弟エトナの言葉にシャドウはそう言う。

ジェニファー「一緒に住んでるの？」

シャドウ「いや…行った世界で彼女にはやるべき事がある。色々と彼女はやるから」

テイルス「まあ、世界と世界を繋ぐ装置で時たまこうやって来てるんだよ」

フロン「ふぉぉぉぉ！！凄まじく！凄まじい愛です！」

ジェニファーの問いにシャドウがそう言い、テイルスが付け加えるとフロンは興奮する。

兄弟ラハール「おい、止めろ」

デスティニー「だな」

兄弟ラハールの言葉にデスティニーは同意した後に止めに入る。

ちなみに…

サーズデイ「アナタモ色々ト苦労シテルンデスネ」

スターゲイザー「ソウデジョウカ？」

ノワール「（似てるなこいつ等…）」

サーズデイとスターゲイザーの会話をノワールは聞いていた。

ほぼオールキャスト！皆でバカ騒ぎ！　ＩＦ義兄弟編（後書き）

リュカ「と言う訳でＩＦ義兄弟編でした」

スネーク「ホントな…」

クッパ「何時の間にか越えていたカップリングなのだ」

ネス「感想を待ってます♪」

ＩＳ＆Ｉｔ；インフィニット・ストラトス＆ｇｔ；黒き牙と永遠の月　戦士の覚醒

スネーク「ユートピアとのコラボだ！」

フォックス「今回で真犯人が分かるぞ！」

ネス「そして久々登場のあの人も…」

マリオに謹慎を言われ、何も出来ない終は何時の間にか眠っていた。

そして夢の中で赤い人の形をした何かが終を見ていて、終の右手を指す。

終「（何だこれ…？）」

自分が何かを持っていることに終が気が付いた瞬間、そこで覚めた。

楯無「終！大丈夫！？」

簪「何もない？」

終「ああ…どうしたんだ？」

顔いっぱいに出る楯無と簪に終は引きながら聞く。

拘束は解かれていた。

束「いやさ…しゅ君が寝てしばらくしたら突然、しゅ君を光が包んでね～…んで消えたらね…」

ドクター「君の傷が全てなくなってたんだ…」

束とドクターがそう説明し、終はそう言われて体を見ようとして右手に何かを握ってる事に気づき見ると…

終「これは…」

手に持っていたのはゴーカイブルーのレンジャーキーとモバイレーツだった。

だが、これは前に使用していたのは返還していたのでなぜと思ったが終はそれを握り締め…

ドクター「マリオ君から終君が回復したら案内して欲しいと言われたから行く覚悟はあるかい？」

終「ああ！」

束「頑張ってね～」

本音「行ってらっしゃ～い」

虚「頑張って下さい」

終「いや、束さんと虚は分かるが本音、お前は…分かった。そしてすまない」

ドクターの問いに終は力強く答え、束と本音、虚がそう言い、終は本音の声をした方を一瞬見て顔を逸らして言う。

終「あの、何で本音が楓達の子供の乳母に；」

ドクター「いやさ…フィンちゃん達が泣き出してなかなか泣き止まないからお腹が空いてると分かって哺乳瓶を用意しようと思ったら束君が本音君に私のポケットから何時の間にか取っていた『胸が大

きくなる君』を勧めてさ；」

冷や汗を流す終にドクターも冷や汗を流して言う。

ちょっと時間が過ぎたがドクターと楯無、簪と共に終は合流に向かう。

楓の方では…気を失っている楓をじぃ～と見ているシルクは見ていた。

楓「うっ、う～ん」

呻いた後に楓は目を開く。

シルク「気が付いた？ゴメンなさいねいきなり吸っちゃって」

起きた楓にシルクはそう謝った後に楓を十字架から解放する。

シルク「はい、お茶」

楓「あっ、ありがとうございます」

そしてどこからか出したちゃぶ台と湯飲みを出すとお茶を注ぎ、それを楓に渡し、楓は受け取った茶をいきなりの事に戸惑いながらも飲む。

楓「美味しいです」

シルク「そう」

暫く飲んだ後、シルクは口を開く。

シルク「私はね…昔は人だったんだ。後から魂を吸う今の状態になったんだ…まあ、こうやってあなたと会えたんだけどね」

楓「そうだったんですか…」

シルクの言った過去に楓は悲痛な顔になる。

シルク「あなたがそんな顔しなくて良いんだよ」

それにシルクが安心させる様に笑った瞬間…

ガギッ！

突然シルクの後ろに誰かが現われ、構えた盾でシルクを狙っていた銃撃を防ぐ。

？？？「何狙っているワケ？」

いきなりの事に戸惑うシルクと楓を気にせずにその人物は放った方向に言う。

そして現われたのは…

楓「赤い…ディケイド？」

赤いディケイド激情態に楓は一瞬、前会ったピットと思ったがすぐに否定した。

赤いディケイド「貴様…ブロント！」

ブロントさん「さんを付けろ！ディケイドの面をかぶって汚す汚い転生者ぁぁぁ！！」

？？？「その通りだ、貴様は彼の仲間にオリジナルを愚弄している」

憎憎しげに言う赤いディケイドにブロントさんは叫び、その後に仮面ライダーガウェインが現われてブロントさんの隣に立つ。

キョン子「おい、早く離れるぞ！」

シルク「えっ？ちょっと…」

楓「なっ、何がなんだか…」

そして現われたキョン子が2人の背中を押してその場を離れる。

ディケイドクリムゾン「誰が汚い転生者だ、俺はディケイドクリムゾン、神だぞ？」

ブロントさん「何言ってるワケ？お前が神？偽神の間違いでしょう」

ガウェイン「貴様は歴史を悪い方向にむりやり改変しようとした。そんな輩が神だと…威張るな！」

名乗ったディケイドクリムゾンはブロントさん、ガウェインの言葉に殺気を出す。

ディケイドクリムゾン「俺の目的の為に小娘を消そうと思ってあの

女を解放してやったのに殺さないから自ら出たが…そんな口を言うお前らから殺してやる！」

ガウェイン「出来るかな？…ルルーシュ・ランページが命ずる！能力を使うな！」

ディケイドクリムゾンの咆哮にガウェインが静かにそう言い、片目を紫色に光らせるとディケイドクリムゾンにそう言う。

言葉を聞き、その目を見たディケイドクリムゾンはしまったと思った後に能力を使おうとするが何かに止められる。

ディケイドクリムゾン「きっさまらぁぁぁぁぁぁぁぁ！！」

ガウェイン「行くぞブロントさん」

ブロントさん「ｈａｉ！」

怒りに叫ぶディケイドクリムゾンに2人は構えると突撃する。

その頃、マリオ達は…

一夏「何でレンジャーキーとモバイレーツが…」

こちらも終と同じ様に一夏の手にもモバイレーツとゴーカイグリーンのレンジャーキーが握られていた。

箒「どうなっているんだ？」

マリオ「これは…」

リュウケンドー「これってもしかして…」

終「皆！」

ＩＳメンバーが困惑し、マリオ達はそれにもしかしてと思った後に終達が来る。

一夏「終！？お前動いて良いのか？」

終「ああ…一夏もか…」

鈴「一夏もって…」

セシリア「もしや終さんも？」

一夏の問いに終は頷いた後に一夏の手に握られた奴を見てそう言い、鈴が言った後のセシリアの問いに終はモバイレーツとレンジャーキーを取り出して見せる。

シャル「何で？」

ラウラ「どうなっているのだ？」

マリオ「今は探索するのが先だ…だが、この先から発する気で首謀者が分かった」

首を傾げるシャルとラウラにマリオはそう言った後に物凄い殺気を出す。

それにＩＳメンバーが驚いた後にそこにキョン子に押された楓とシルクが来る。

楓ＬＯＶＥズ「楓（さん）！」

冥王「あっ、キョン子ちゃんなの♪」

銀次「久しぶり♪」

マリオ「キョン子、お前も来てたんだな」

キョン子「ああ、それよりも向こうでブロントさんとガウェインが偽神と戦っている」

楓ＬＯＶＥズはすぐさま駆け寄り、冥王と銀次が駆け寄り、マリオがそう言うとキョン子が指して言う。

マリオ「良し！皆行くぞ！」

リュウケンドー「ああ！」

黒狼「はい！」

ソロ「行くか！」

マリオの言葉にリュウケンドー、黒狼、ソロが答えた後に全員が走る。

首謀者を倒す為に…

？？？「どうやら…行かなきゃ行けない様だな…」

リュカ「と言う訳でユートピアさんとのコラボでした！」

スネーク「選ばれるとはな…一夏と終が…」

ワリオ「そうだな…」

クッパ「リュウケンドー達と同じ存在へなったか…」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　～銀女神鎮魂歌～　―　第別訓パート３６

スネーク「真王とのコラボ第３６弾だ」

フォックス「クライマックスに近づいてるな」

ネス「どうなるのやら～」

超キバ「ふう…根性あるな…」

顎を摩った後に目の前で構えてるメテンズギルドの団員達にそう言う。

変身を解くとマリオは別のカードを取り出して読む。

マリオ「『アギトの中で幻影の名を持つアギト』」

そう言うと同時にベルトが装着され…

マリオ「変身！」

そう言うとマリオの姿は光に包まれ、収まるとマリオは仮面ライダーミラージュアギトへ変身した。

ミラージュアギト「んじゃあ行くぜ！」

そう言うとミラージュアギトは駆け出す。

ミラージュアギト「（こりゃあ…間に合いそうにないな…）」

そう心の隅で考えてすぐに今に集中する。

その頃のネプテューヌ達

銀時「何処にあるんだ？」

ネプテューヌ「お宝お宝～♪」

ダッチマン号を捜索するネプテューヌ達。

ボウケンレッドとギルは外を見るとの事で別行動している。

ビビ「ホント広いわね」

新八「何か出ませんよね」

銀時「止めてくんない新八；」

エリザベス『そう言ったら出ちゃうと思いますよ』

タバネ「まあ、今は歩き回ろう～」

周りを見て呟くビビに新八がそう言うと銀時は冷や汗を流し、エリザベスはそう言った後にタバネの言葉にネプテューヌ達は行動する。

ギルシア「静かだな…」

ソロ「ビルが忠告していたからうようよしてると思ったんだがな…」

神楽「ちょっと残念アルよ」

銀時「俺的にはあんまり戦いたくないよ」

ルイージ「大丈夫ですよ銀さん；」

ジャック「それよりも目的の奴を探すぞ」

周りを見て呟くギルシアとソロの後ろで神楽はブーたれ、銀時はルイージの後ろで言い、ルイージが宥め、ジャックがそう言う。

色々と探索した後、銀時達はある部屋に着いた。

ジャック「どうやら船長室のようだな…」

神楽「おお！！」

周りを見てジャックが呟いた後に一緒に見ていた神楽がある物に気づく。

神楽「銀ちゃんお宝沢山アルよ！」

銀時「マジか！」

銀次「凄い…」

神楽に言われて銀時達は中に入り、銀次が神楽が指した方にあった大量のお宝を見て驚く。

ヴィヴィオ「あれ？これなんだろう？」

そんな中、ヴィヴィオは大量のお宝の中で厳重に閉ざされている宝箱が一つ見付けた。

ヤルオ「変わったお宝だおｗｗｗｗ」

ギルシア「どれどれ…鍵がかけられてるな…」

メンバーも気づき、ヤルオが言った後にギルシアが開け様とするが開かない。

レーティア「それじゃあ鍵があるのかしら?」

銀時「捜して見るか…」

桂「此処は爆破して…」

アイエフ「他のが吹き飛ぶわよ!」

銀時達はその宝箱の開け方に苦戦しているのをヴィヴィオが見ていると…後ろからふとした気配に気づき、振り返るとタコを人型にさせて左腕にカニのハサミ、右足にカニの足をつけたかのような姿の男、デンヴィー・ジョーズがいた。

デンヴィー「小娘ども、俺の船でなにをやっている?」

ヴィヴィオ「きゃあぁぁぁぁぁぁぁぁぁ!!」

デンヴィーの姿を見て叫ぶヴィヴィオの悲鳴に銀時達は振り返る。

デンヴィー「とっとと大人しくしていろ、さもないとこの小娘がどうなっても知らないぞ?」

ヴィヴィオ「あ…グぅ…」

構えようとする銀時達にデンヴィーはヴィヴィオの首を掴み、ヴィ

ヴィオは息苦しさに呻く。

それに銀時達は悔しげに武装を解き、その後、デンヴィーの部下達により縄で縛られて部屋に閉じ込められてしまう。

ヴィヴィオ「ゴメンね。ヴィヴィオのせいで」

冥王「ヴィヴィオちゃんは悪くないの」

咲夜「そうだよ～」

ベール「それにしても…さっきの人達って…」

ブラン「…きっとあれがビルの言っていた船長…」

クッパ「うむ、見るからに一番偉い奴の風格であった」

ビビ「それでどうする？これやけに私達の力を封じるんだけど…」

ショボーンとするヴィヴィオを冥王と咲夜が慰め、ベールはさっきのデンヴィーを思い出し、ブランが言った後にクッパが同意して、ビビは縄を見る。

銀次「そう？あっさり抜けられたけど？」

ノワール「はやっ！？」

コンパ「ふえ～どうやって抜けたんですか？」

銀次「いや～長く生きてるとこう言う縄の抜け方を覚えちゃうもん

だよ」

レイン「長くって…」

手をコキコキさせる銀次にノワールとコンパは驚き、苦笑して言う
銀次の言葉にレインは首を傾げる。

ジャンヌ「そう言えば宇宙旅した後に加わったメンバーは知らない
わよね…」

リアス「この人は途方もなく長く生きてるのよ」

イッセー「1京以上も生きてるそうだぞ」

宇宙から後で加わったメンバー「えええぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！
？」

ジャンヌが言ってリアスとイッセーの言った事に宇宙から後で加わ
ったメンバーが驚いてると…

エリザベス『そう言えばジャックとグレイさんの姿が見えないんだ
けど？』

月詠「そう言えば…いないのう…」

エリザベスが周りを見てプラカードを出し、月詠も気づくと…

ジャック「大丈夫かお前ら？」

ボウケンレッド「助けに来たぞ」

オーズＰＣ「ぷっ！」

グレイ「待たせたな…」

森羅「無事だったのか」

アルテス「と言うか何時の間に…」

扉を開けて入って来るジャックとボウケンレッド、オーズＰＣとグレイに森羅はそう言い、アルテスが呟く。

ジャック「嫌な予感感じてあの場を離れてたんだよ」

グレイ「こいつが離れたのでなぜと思って付いて行ったらな…」

ボウケンレッド「俺達はその後合流した訳」

オーズＰＣ「ぷっ！」

４人が言った後に銀時達を開放して甲板に出るとデンヴィーとその船員達がいた。

デンヴィー「ハッハッハ～、飛び方を知らない小鳥がなにをしに来たー？」

ジャック「飛び方を知らない？練習しとけばよかった。だが今からでも遅くないぜ？」

銀時「お宝は貰って行くぜ船長さんよ」

クッパ「その通りなのだ！」

高笑いするデンヴィーにジャックと銀時が言ってクッパが言った後にメンバーは構える。

デンヴィー「奴らを止めろ！！絶対に“あれ”を渡すな！！」

船員「ハイ船長！！」

デンヴィーの指示にサンゴ、サメ、貝類、魚類生物などを無理やり人にさせたかのような姿のダッチマン船員が答えた後に、デッドパイレーツ、海賊霊と共に襲い掛かる。

ボウケンレッド「ボウケンジャベリン！！」

ルイージ「おりゃあ！」

ダイナ「喰らえ！」

ボウケンレッドがデッドパイレーツを切り裂き、ルイージがハンマーでダッチマン船員を吹き飛ばすとダイナが海賊霊を吹き飛ばす。

するとダッチマン戦闘員だけ起き上がって再び襲い掛かる。

レオン「なっ！？」

ガレーナ「こいつ等は不死身なのか？」

突如起き上がった事にレオンとガレーナは驚いたがすぐさま吹き飛

ばして行く。

デンヴィー「こいつ等、一筋縄では行かないか…」

銀時達の強さを知ったデンヴィーはそう呟いた後に海の方を向く。

デンヴィー「海の悪魔よ！奴らに絶望を与えるのだ！！」

そう言うとデンヴィーの叫びと共にクラーケンが現われた。

銀時「また出やがった！」

ソロ「んじゃあそろそろ俺のビッグバンタイムだ！」

それに銀時が叫んだ後にソロは左腕に付けていたウルティメイトブレスレットからウルトラゼロアイを取り出し…

ソロ「ジュワ！」

装着するとソロを光りが包み、２本のゼロスラッガーが飛び出し、ソロの周りを飛び回っていく内にソロの姿はウルトラマンゼロになると２本のゼロスラッガーが頭に装着され、巨大化する。

銀時「うそぉぉぉぉぉぉぉぉん！？」

蒼馬「マジか！？」

ウルトラマンゼロ「デアッ！！」

銀時と蒼馬に他のメンバーが驚いてる間にウルトラマンゼロはクラ

ーケンとぶつかり合う。

リアス「空中飛行可能な人はウルトラマンゼロを援護してクラーケンと戦うわよ！」

ダイナ「分かった！」

ルイージ「うん！ＫＡＭＥＮＲＩＤＥ！」

コスモスバックル「ライダーアップ」

リアスの指示にダイナとルイージが答えた後にルイージはコスモスに変身した後に飛び出す。

デンヴィー「まさかあんな奴がいるとはな…」

ジャック「さあせ、大将、勝負と行こうか」

ウルトラマンゼロを見てデンヴィーが呟いた瞬間、ジャックが現われる。

デンヴィー「スパイレーツ！」

ジャック「よう！海の使いがどっちか上か決めようか？」

デンヴィー「俺は海の覇者・デンヴィー・ジョーズだ！！！」

そう言うと2人はぶつかり合う。

ジャック「この！」

デンヴィー「ふん！」

２人の剣がぶつかり合い、突き出したり、切り裂いたりと相手を攻撃してはかわす。

ジャック「こんにゃろ！」

デンヴィー「ぐぉ！？」

かわした後にジャックはデンヴィーのどてっぱらにキックするとデンヴィーは吹き飛び、その際、デンヴィーの懐から黒いカギがヴィヴィオとプリニーにとこに落ちる。

ヴィヴィオ「これは…カギ？」

プリニー「あの宝箱のカギッス！」

ボウケンレッド「ヴィヴィオ！」

拾い上げた鍵を見て呟くヴィヴィオにプリニーがそう言った後にボウケンレッドがあの宝箱を取り出し、２人に投げる。

すぐさまヴィヴィオは船長室の宝箱に鍵を入れて開けた。中に入っていたには金貨……ではなく心臓だった。

ヴィヴィオ「これって…心臓？」

プリニー「うぇ…」

ヴィヴィオとプリニーが目を丸くするとジャックと戦っていたデンヴィーはそれに気づく。

デンヴィー「小娘ぇ、俺の心臓をどうするつもりだ？」

宝箱に入っていた心臓は一体…デンヴィーの秘密と関係あるのか？

リュカ「と言う事で真王さんのコラボでした」

スネーク「どうなるんだ？」

ワリオ「だな」

ネス「感想を待ってます♪」

スネーク「黒龍とのコラボだ！」

リュカ「それで…どうなるんだろう？」

ワリオ「まったくだ…」

ブロントさん「……」

ブロントさんは険しい顔で海鳴を見ていた。

マリオ「ブロントさん」

ブロントさん「…何だ？」

そんなブロントさんにマリオが話しかける。

マリオ「あの善悪無縁は自分がプレシアとアリシアの事をなかった事にしたのを忘れてました」

ブロントさん「やっぱり、んでアリｓいあとプｒえシアは？」

マリオの報告にブロントさんは聞く。

それにマリオは首を横に振る。

マリオ「世界の修正力により、アリシアはしばらく復活出来ないのとプレシアは思い出しましたが病気が…そしてどちらとも、夢の中で何で幸せを掴むのを阻止するのかに泣いてました…」

ブロントさん「…ホントに一部の転生者は汚い。何で家族の幸せを奪う！だから俺は嫌いなんですわ！他人から貰った能力を自分のだと思ったり、何の修行もせずに使おうとするのがさらに汚い！」

マリオの報告にブロントさんは地面にパンチして唇を噛む。

マリオ「ブロントさん、俺達は神ではない。人です」

ブロントさん「分かってるがそれでも許せにぃ！！俺の怒りは有頂天ですわ！」

マリオの言葉にブロントさんはガンガンとぶつけ、ぐっと手を握り締める。

マリオ「この世界の彼女達は銀時達に任せましょう。彼等なら幸せを掴ませますよ…俺だって手を貸したいですけどね…」

ブロントさん「ホントになさけにぃ…メイン盾でもあるブロントさんは深い悲しみに包まれた…」

マリオの言葉にブロントさんはそう言う。

そして立ち上がるとブロントさんは自分達を見ている転生者達を見る。

ブロントさん「ホントに此処は多いですね…常識のある奴はいにぇのか？」

マリオ「助かるんですけどね…『時を喰らおうとした者の力を受け継いだ者』」

ブロントさんは嘆く様に言うと同意する様にマリオは言った後にカードを取り出してテキストを読む。

腰にベルト、ガオウベルトが装着され、右手にマスターパスが握られた後…

マリオ「変身」

ガオウベルト「ガオウフォーム」

音声と共にマリオが仮面ライダー牙王となる。

ガオウガッシャーをすぐにソードモードにすると挑んで来た転生者の1人を斬る。

ブロントさん「生半可なナイトにはまねできないホーリー！！」

隣でもブロントさんがホーリーで転生者を吹き飛ばす。

そして牙王はガオウベルトの青いボタンを押すとセタッチする。

ガオウベルト「ドラゴンフォーム」

音声と共にアーマーが青い龍をイメージした物に変わり、デンカメンも電王ＧＦのデンカメンを青くしたのに変わった『仮面ライダー牙王・ドラゴンフォーム』となった。

転生者「なんじゃそりゃあ！？」

牙王ＤＦ「ふん！」

驚く転生者に牙王ＤＦは刀身がさらに長くなったガオウガッシャーＳＭを振り回し、吹き飛ばす。

次々と挑んで剣を持って挑んで来る転生者をなぎ払う。

ブロントさん「ハイスラぁ！！」

隣でブロントさんも素早く振るって攻撃する。

ガオウベルト「フェニックスフォーム」

今度は赤いボタンを押し、牙王ＤＦはアーマーが不死鳥を模したアーマーへ変わり、デンカメンは電王ＷＦのデンカメンを赤くしたのに変わった『仮面ライダー牙王・フェニックスフォーム』となった。

牙王ＦＦ「撃ちまくる」

すぐさまガオウガッシャーをガンモードにすると連続で遠くにいる転生者を打ち抜く。

そして倒れた転生者にカードを投げて貼り付けると一部を除いて輪廻へ戻して行く。

牙王ＦＦ「死んで行くよりはマシだろう」

まだ残っている転生者達にそう言った後に攻撃が飛んで来る。

ガオウベルト「トータスフォーム」

音声と共に牙王ＦＦはアーマーが黒い亀を模したアーマーを変わり、デンカメンは電王ＲＦのデンカメンを黒くしたのに変わった『仮面ライダー牙王・トータスフォーム』となった後にガオウガッシャー

をシールドモードにすると全て防ぐ。

牙王ＴＦ「決めるぞブロントさん！」

ブロントさん「ｈａｉ！」

牙王ＴＦはそう言った後にドラゴンフォームに戻るとお互いに剣を構える。

牙王ＤＦ「合体技！『ドラゴンフィスト』！」

ブロントさん「バラバラに引き裂いてやろうか！」

連続で残った転生者を切り裂き、着地すると同時にマリオ達を襲おうとした者達は倒れていた。

ブロントさん「どうせなら…銀時を鍛えにぃか？」

マリオ「そうですね…」

一部を輪廻へ戻し、そしてそれぞれを家に転送した後にそう会話するマリオとブロントさんがいた。

銀時「あれ…何か俺の知らない所で何か鍛えるか鍛えないかの話し合いがされてる気がする…」

悪寒がして起き上がって言った後…

銀時「ないだろうな…」

そう言って再び寝る銀時であった。

リュカ「と言う訳で黒龍さんとのコラボでした」

スネーク「色々と制約があったから大変だったな…」

フォックス「一応行けたか？」

ネス「感想を待ってます♪」

三学年だよっ！ＢＳＡＡ学園！　別話パート３！　フランケンの特訓を手伝おう！

スネーク「龍の骨とのコラボだ！」

フォックス「タイトル通りだな」

ネス「だね～」

三学年だよっ！ＢＳＡＡ学園！　別話パート３！　フランケンの特訓を手伝おう

オーズＧＣ「と言う訳で俺達もフランケンの特訓を手伝うぞ！」

フランケン「いきなり過ぎるぅぅぅぅ！？」

突如来たオーズＧＣの言葉にフランケンはそう叫んだ。

オーズＬＣ「まあ、唐突だろうけど君には得になると思うよ？僕達は色々と特徴を持つから」

オーズＦＣ「だから胸を借りろ」

零斗「確かにそうだな…色々と対処出来る様になるだろうな…」

フランケン「それは良いんだが…」

オーズＬＣとオーズＦＣの言葉に零斗は頷き、フランケンも納得した後にオーズＳＧＣとオーズＰＣと遊ぶ少女を見る。

フランケン「誰あれ？」

オーズＴＣ「あいつはショカ、あいつも一応グリードだ」

たけし「いや、何で一応；」

メズール「あの姿じゃあ誰も信じないでしょ」

フランケンの問いにオーズＴＣがそう言い、たけしがツッコミ、人

間態のメズールが苦笑してそう言う。

黒狼「まあ、ともかく、良い修行になると思いますよ。オーズは色んな戦法がありますから」

フランケン「そうか…」

零斗「覚えておいて損はないから良いぜ♪」

フランケン「お前が返事するなよ、そりゃあ俺も良いけど；」

黒狼の言った後にフランケンは考え、零斗が了承してそれにツッコミを入れた後にフランケンもグリードメンバーの訓練を了承する。

オーズＬＣ「させ、フランケンは剣を使うから回転斬りを覚えたらどうかな？」

フランケン「回転斬り…つまり回転しながら斬る…」

オーズＧＣ「俺の様な分身して周りから一斉攻撃するのを防ぐのと同時に攻撃出来る技だ」

零斗「ライトニングソードを出す要領でやれば全範囲に攻撃出来る様になるから結構良いかもな…」

オーズＬＣの言った事にフランケンは呟き、オーズＧＣが言った後に零斗がそう言う。

メズール「相手の技を受け止めて跳ね返すと同時に攻撃するカウンターも良いんじゃない？」

ダイチ「ああ～確かに良いよな」

一刀「そうだな」

メズールの提案にダイチや一刀は同意した後にグリード集の提案した事をやる事にした。

フランケン「良し…」

フランケンはレイピアを構え、集中するとレイピアは青く光り出し…

フランケン「でりゃあぁぁぁ！！」

勢い良く回転すると円状の青い光りが放たれるが２ｍで消える。

零斗「短いな…」

黒狼「けど、出来ただけで凄いですよ！」

タツヤ「まあ、範囲広げられる様にするのが今後の修行だな」

次にカウンターの修行をする事に…

フランケン「けどよ…難しくないか？」

オーズＬＣ「確かに難しいけど慣れれば大ダメージを与えられるよ」

オーズドライバーを装着したショカを前にして言うフランケンにオーズＬＣはそう言う。

ショカ「かっかっ！」

フランケン「と言うかショカって子は『かっ』しか喋れないの！？どっかの子とかぶってない！？」

オーズＴＣ「言うな」

オーズＰＣ「ぷっ？」

ショカの言葉にフランケンはすぐさまツッコミを入れ、オーズＴＣは目を反らし、それにオーズＰＣは首を傾げる。

ショカ「かっ！」

オーズドライバーＳ「タカ！イマジン！ショッカー！タ・マ・シー！タマシー！タ・マ・シー！ライダーーーーダマシー！！」

音声と共にショカはオーズタマシーコンボへ変身する。

オーズＧＣ「まぁ、と言う訳でこいつの必殺技をカウンターしろ」

フランケン「いやいやいやいやいや！最初っから必殺技って難易度高いだろ！！」

オーズＴＭＣ「かかっかっ！」

オーズドライバーＳ「スキャニングチャージ！」

フランケン「俺はＯＫ出してないんだけど！！」

オーズGCの言葉にフランケンがツッコミを入れた後にオーズTMCがスキャンニングチャージをして魂ボンバーの構えをしてフランケンがツッコミを入れるが遅く…

オーズTMC「かっか！！」

フランケン「うぉおおおおおお！！！」

オーズTMCが放った魂ボンバーをフランケンは避けた。

零斗「避けたら修行にならないだろう」

フランケン「もうちょい低くしろ！」

黒狼「まあまあ；」

呆れる零斗にうがーとフランケンは吼え、黒狼が宥める。

黒狼「次は普通の攻撃とかでしましょう；」

フランケン「頼む。流石にきつい；」

その後、フランケンは黒狼達の協力のおかげで、カウンターもなんとか出来る様になり、回転斬りでエネルギー波の範囲を広げられる様になったのであった。

～オマケ～今日のウヴァ（龍の骨）さん

ジャンヌ「ウヴァ様～今度はこの怪盗の服を着てくださ～い」

ウヴァ「どこまでやらせる気だぁぁぁぁ！！」

カザリ（龍の骨）「嵌ってるね…」

ガメル（龍の骨）「？」

～オマケ2～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

銀八「いや～久々の質問です」

蛇八「まったくだな…ペンネーム『黒龍』から『黒龍「今回はこんな感じでお願いします。それと質問です」

1．マリオに質問。あなたの最も大切なモノはなんですか？

2．ルイージに質問。マリオが一番憤慨したなんですか？

3．グリード達に質問。何故完全体になろうとしないんですか？

黒龍「今回はここまでです。次回も楽しみにしています」』…と言う訳で答えろ」

マリオ「そりゃあ仲間もそうだが1番は家族だな」

ルイージ「やっぱり偽神に対してもあるけど…僕が利用された時は再起不能にしちゃう程ね…」

アンク＆ウヴァ「俺達全員もう完全体だが？」

カザリ「それに正確に言うなら僕達はコピーで別にコアメダルなくても完全体の姿でもいられるんだよね～」

ギル「ぷっ」

ショカ「かっか」

銀八「との事だ…『黒龍』！廊下に立ってなさい！」

蛇八「今回は此処まで！」

三学年だよっ！ＢＳＡＡ学園！　別話パート３！　フランケンの特訓を手伝おう

リュカ「と言う訳で龍の骨さんとのコラボでした」

フォックス「大会はどうなるんだろうな～」

クッパ「そうなのだ」

ネス「感想を待ってます♪」

銀魂ライダーディケイド　別話2：ロード・ゼファー&ラス・オブ・ネオス（前

スネーク「亀鳥虎龍とのコラボだ」

ネス「それで今回はディエンド一行がね～」

クッパ「明久達の世界に行くのだな」

銀魂ライダーディケイド　別話2：ロード・ゼファー&ラス・オブ・ネオス

世界を旅する剣護達と違う道で旅をしている焔崎　灯華達、彼女達が来た世界は…

灯華「着いたわね」

目の前の光景を見て灯華は言う。

沖田「んで此処はどこの世界なんッスか？」

雨祢「見るからに普通の街だけど…」

周りを見る沖田と雨祢に灯華が口を開こうとした時…

？？？「ぐあぁぁぁぁぁぁぁぁ！！」

沖田「何だ？」

いきなりの悲鳴に沖田が言った後に3人はした方へ向かう。

すると…そこに倒れた男と対峙する仮面ライダーがいた。

沖田「何でいあのライダー？」

雨祢「見た事無いライダーね」

そのライダーはカードを取り出すと男の額に貼り付ける。

すると男の姿は消え、カードも燃えて消えた。

沖田「なんでいあのライダー？」

雨祢「見た事ないわね…」

沖田と灯華が言った後にそのライダー、ネオスは3人を見る。

数分後

灯華「仮面ライダーネオス？」

明久「うん、それが僕の変身していたライダーなんだ」

変身を解いて歩きながらの明久の説明の後のライダー名に灯華はそう言い、明久が頷く。

雨祢「それにしても転生者ね…」

沖田「聞いてる限りじゃあ弄りがいのある相手ですな」

明久「ホントに先生が言う常識のある人が出て来て欲しいよ」

頬に指を当てる雨祢に沖田がドSな顔で言い、明久はため息を吐く。

アデュー「おっ、明久じゃないか」

明久「アデュー、買い物帰り？」

そんな明久にお買い物袋を持ったアデューが声をかけ、明久も気づ

いて聞く。

アデュー「まあな…それにしてもそこの3人は？」

答えた後にアデューは灯華達を見て聞く。

アデュー「へぇ～世界を旅するか…」

自己紹介した後にアデューは驚きの声を上げて言う。

アデュー「2つの世界を移動したりはしたけど世界を渡り歩いて旅するなんて初めて聞くな」

沖田「んでこん人もライダーッスか？」

明久「はい、僕のと違うですけどね」

まだ驚きが覚めないアデューを指して聞く沖田に明久はそう言う。

すると…

アデュー「ん？」

沖田「何ッスか？いきなり暗くなったけどもう夜になるんスか？」

明久「いや、これは結界だ！」

いきなり周りが暗くなった事にアデューと沖田は周りを見て、明久が叫んだ後…

ショッカー戦闘員「イー！！」

いきなりショッカー戦闘員が数人現われて5人を囲む。

アデュー「何だこいつ等？」

沖田「いきなり過ぎッスね」

雨祢「まったくね…行きましょうアカリ！」

キーメモリ「キー！」

灯華「そうねレイン」

ディエンドライバー「カメンライド！」

雨祢&灯華「変身！」

ファーストドライバー「キー！」

ディエンドライバー「ディエンド！！」

音声とともに2人は仮面ライダーキースとディエンドに変身する。

明久「僕達も行こう！」

アデュー「ああ！見せてやるぜ！」

明久はネオスバックルを装着し、カードデッキを構え、アデューも左腕の篭手からミストロットを取り出す。

明久「カメンライド！」

ネオスバックル「ライダーアップ」

アデュー「リュートランス！ゼファーーーーーー！！！」

明久がネオスに変身し、アデューがミストロットを右腕に付けてる機械『リューブレス』に装填し、それを付けた右腕を天にかざすと暗雲が現れそれより出た稲妻がりゅーブレスに当たると炎の龍が出てアデューの周りを回ると炎のドームを形成する。

そして炎のドームが吹き飛ぶとアデューの姿はリューナイトゼファーを人型にし、目の部分を緑色のウルトラマンゼロの目にした感じであった。その手にはゼファーの武器である『飛翔の剣』と『炎熱の盾』を持った仮面ライダーゼファーに変身した。

沖田「色々と凄い変身ですな」

ディエンド「それじゃあ行きましょう！」

ゼファー「おう！」

沖田がそう言った後にディエンドの言葉にゼファーが答えた後に５人は駆け出す。

ゼファー「トルネードアタック！！」

竜巻を起こすかの様にショッカー戦闘員を攻撃した後に別のショッカー戦闘員にぶつける。

ネオス「喰らえ！！」

ネオスもネオスジャベリンで振るい、ショッカー戦闘員を吹き飛ばす。

ディエンドライバー「アタックライド！ブラスト！！」

ディエンド「喰らいなさい！」

ウェポンズキー「ソード」

キース「はっ！」

ディエンドがディエンドライバーで打ち抜き、その後ろでキースがウェポンズキーをソードモードにして斬る。

ショッカー戦闘員がナイフを取り出したがそれは柄しかなかった。

ショッカー戦闘員「イー！？」

ネクサス「……五月蝿い」

それに驚くショッカー戦闘員に何時の間にかいたネクサスがそう言って殴る。

沖田「お～まだいたんッスね」

それに沖田はショッカー戦闘員にどこからか取り出した拷問道具で攻撃していた。

ディエンド「それじゃあ、そろそろ決めますか」

そう言ってディエンドはさっき出て来た2枚のカードをディエンドライバーに装填する」

ディエンドライバー「ファイナルフォームライド!ゼ・ゼ・ゼ・ゼファー!ネ・ネ・ネ・ネオス!!」

ディエンド「痛みは一瞬よ」

ゼファー「えっ?」

ネオス「ああ…」

ディエンドの言葉にゼファーが疑問詞を浮かべるがネオスは読めたのかディエンドに背を向ける。

そしてディエンドライバーで打ち抜かれた2人はゼファーはリューナイト・ゼファーのカラーリングの飛翔の剣、ゼファーソードに超絶変形し、ネオスは弓矢、ネオスアローとなるとゼファーソードをキース、ネオスアローをディエンドが持つ。

ディエンド「行くわよレイン!」

キース「ええ!アカリ!」

ディエンドライバー「ファイナルアタックライド!ゼ・ゼ・ゼ・ゼファー!ネ・ネ・ネ・ネオス!!」

それぞれ言った後に音声と共にキースは飛び上がり、ゼファーソードの上に立ってそのままショッカー戦闘員に突撃する『ディエンドドーン』で吹き飛ばし、ディエンドは現われた光の矢をネオスアローの弦と共に引っ張り、最大限に引っ張った光の矢を放つ『ディエンドシューティング』で残ったショッカー戦闘員を吹き飛ばす。

明久「次の世界、頑張ってね」

灯華「そちらもね」

結界が消えた後、明久と灯華が握手し、アデューと雨祢と握手していた。

灯華「お礼をありがとね」

雨祢「それじゃあ」

沖田「あばよッス」

そう言って灯華はネオスとゼファーのライダーカードを取り出して見せた後に2人と共に別の世界に旅立ったのであった。

アデュー「別世界のディエンド、凄かったな」

明久「ホントだね…それでアデューは大丈夫なの？」

腕を組んで言うアデューに明久は聞くとアデューはあっ！？と声を上げた後に慌てて帰る。

それに明久とムッツリーニは苦笑する。

銀魂ライダーディケイド　別話2：ロード・ゼファー&ラス・オブ・ネオス（後

リュカ「と言う訳で亀鳥虎龍さんとのコラボでした！」

スネーク「ゼファーのも付いたな；」

フォックス「ホントだな」

クッパ「出て来たショッカー戦闘員は？」

あっち側のと言って置きます。

ネス「感想を待ってます♪

ほぼオールキャスト！皆でバカ騒ぎ！　９＋プリニー編（前書き）

スネーク「今回はプリニーラハールとのコラボだ！」

ネス「んでタイトル通りの９＋プリニー編だよ～」

ピット「複雑だ…」

ほぼオールキャスト！皆でバカ騒ぎ！　9＋プリニー編

ピット「あのさ、君さっきの酷くない？」

エニクス「そうかな？（笑顔）」

ピット「鮮やかな笑顔で誤魔化さない；」

こちらエニクスとピットが話していてプリニー（触覚付き）はネスとリュカと話していた。

ネス「君は苦労してるね～」

プリニー（触覚付き）「ホントーッスよ…あ、このサラダ美味いッス…ってかあの人天使ッスか？」

リュカ「そうだよ」

ネスの言葉にプリニー（触角付き）は頷いた後に置いてあったサラダを食べた後にピットを見て聞き、リュカは頷く。

プリニー（触角付き）「はぁ…通りで翼があるんッスね～」

ネス「しかも女神様の親衛隊隊長」

プリニー（触角付き）「はいぃぃぃぃぃ！？」

納得しているプリニー（触角付き）はネスの言った事に驚きの声をあげる。

プリニー（触角付き）「あの人…偉い人なんッスね…色々と大変でしょ？」

リュカ「まあ…確かに…」

プリニー（触角付き）の問いにリュカは遠い目をする。

ネス「ピットってさ、複数の人に好意を寄せられてるんだよね～」

プリニー（触角付き）「そうなんッスか…エニクスさんと違うッスね～」

ネス「本人飛べない天使だけどね～」

リュカ「（ガタガタブルブル）」

プリニー（触角付き）とネスがかんらかんらと笑ってる時、リュカは2人の後ろを見て震えていた。

プリニー（触角付き）「どうしたんッスか？」

ネス「……ああ、読めたよ」

気づいたプリニー（触角付き）がそう聞き、ネスは後ろを振り返る。

ディケイド激情態（ピット）「覚悟は出来てるかい？（ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ）」

そこに、悪魔となった天使がいた。

ピチューン！

ネス「アーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー」

プリニー（触角付き）「何で俺までぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！？」

その後、その場に残ったのは悪魔によってヤムチャ状態になったネスとプリニー（触角付き）がいた。

※ちなみにこの小説ではピットは怒って変身するとディケイドは激情態になり、ピットの激情態は目が白くなって額のが緑色となる目と額のカラー違いのディケイドになるのだ。

エニクス「（…怒らせない様にしよう；）」

エニクスはそれを見て心に誓った。

ガノン「何だ？ネスの奴、ピットが怒る事でも言ったのか？」

ワリオ「どうせあいつの気にしてるのを言ったんじゃねえ？」

そこにおでんを作っているガノンが来てネスとプリニー（触角付き）を見て言い、おでんを食っていたワリオがそう言う。

エニクス「あ～何か飛べないとか言ってたよ」

ワリオ「そりゃあな…」

ガノン「怒るだろうな…」

エニクスの言葉にワリオとガノンは言う。

エニクス「そんなに気にしてるの？」

ワリオ「ああ、最近にもなってさらにな…」

ガノン「色々と世間で気にしていたのが公式認定になった様な武器があいつのゲームで出るからな」

プリニー（触角付き）「それメタ発言ッス！」

エニクス「あっ、生きてたの？死んでたと思ったよ」

プリニー（触角付き）「酷いッス！」

エニクスの言葉にワリオは頷き、ガノンがそう言ってプリニー（触角付き）が起きてツッコミを入れて、笑顔で言うエニクスにプリニー（触角付き）が怒るのを見てガノンとワリオは思った。

ガノン「（あいつ…フォックスとは別の意味で腹黒いな…）」

ワリオ「（あいつの場合はファルコ限定だがこいつは全開で言ってるな…）」

エニクス「あっ、それください。この子にはなしで」

プリニー（触角付き）「だから酷いッス！」

ガノン「安心しろ、ちゃんとやるから」

ピット「あっ、僕も！」

リュカ「僕もください！」

ネス「同じく…」

その後、色々と話したのであった。

ほぼオールキャスト！皆でバカ騒ぎ！　９＋プリニー編（後書き）

リュカ「と言う訳で今回は９＋プリニー編でした～」

スネーク「腹黒いな…」

ワリオ「ああ、話してるたんびにな…」

ガノン「けどピットを怒らせない程度に止めてるな…」

ネス「感想を待ってます♪」

IS<インフィニット・ストラトス>黒き牙と永遠の月　豪快な海

スネーク「ユートピアとのコラボだ」

クッパ「今回はな…」

ワリオ「ぶっ潰すだな」

フォックス「うんうん」

ディケイドクリムゾン「ちぃ！こいつ等は！」

目の前で自分の攻撃を避けるガウェインとブロントさんにディケイドクリムゾンは苛立つ。

マリオ「ガウェイン！ブロントさん！」

そこにマリオ達が来る。

ガウェイン「マリオ、来てましたか」

ブロントさん「何をしてたワケ？」

マリオ「事情は聞きました。此処からは俺達も…」

２人が気づいてマリオが言おうとした時、終と一夏が前に出る。

終「いや、此処は…」

一夏「俺達がやる！」

黒狼「僕もやりますよ」

？？？「そんじゃあ俺達もだ」

ディケイドクリムゾン「誰だ！」

終、一夏が言い、黒狼も前出て言った後にどこからか声がしてディケイドクリムゾンが叫ぶとオーロラが現われ…

ピット「通りすがりの仮面ライダーで…」

士「お前の様な理不尽な奴を破壊する破壊者だ！覚えておけ！」

ディケイドクリムゾン「なっ！？」

現われたピットと士にディケイドクリムゾンは驚いて士を見る。

士「人様の真似したからには覚悟しろよ」

そう言った後、5人はそれぞれの変身アイテムを出す。

一夏&終「豪快チェンジ！」

モバイレーツ「「ゴーカイジャー！」」

音声と共に2人の姿は変わり、終はゴーカイブルー、一夏はゴーカイグリーンに変身する。

士&ピット「変身！」

ピットディケイドライバー「カメンライド！ディケイド！！」

士ディケイドライバー「ファイナルカメンライド！ディ・ディ・ディ・ディケイド！！」

音声と共にピットはディケイドに…

士は顔や体はディケイドコンプリートフォームだが、額にカブトの角、肩がアームド響鬼の肩アーマー、胸にキバをイメージさせるコウモリの形をした胸アーマーに腹にはブレイドを思わせるスペードの腹当、ベルトにはケータッチに変わってクウガのアークルのようなパーツが付き、電王のソード・ロッド・アックス・ガンの電仮面が脚部に、足首には龍騎サバイブのものと思われるパーツ、そしておそらく腕のパーツはアギト・シャイニングフォームでファイズ・ブラスターフォーム時の背部飛行ユニットが変形したショルダーキャノンが付いた『仮面ライダーディケイド・パーフェクトフォーム』に変身した。

黒狼「変身！」

オーズドライバーC「クワガタ！カマキリ！バッタ！ガーッタガタガタキリッバ、ガタキリバ♪」

黒狼はオーズGCとなると分身し、2人を除いて分身オーズGCがメダルを別のに変えてスキャンし、残った片方はモバイレーツとレンジャーキーを取り出す。

オーズドライバーC1「クワガタ！カマキリ！バッタ！ガーッタガタガタキリッバ、ガタキリバ♪」

オーズドライバーC2「ライオン！トラ！チーター！ラッタ♪ラッタ～ラトラーター♪」

オーズドライバーC3「サイ！ゴリラ！ゾウ！…サゴーゾ、サッゴーゾ！！」

オーズドライバーC４「タカ！クジャク！コンドル！…タージャードル～♪」

オーズドライバーC５「シャチ！ウナギ！タコ！…シャシャシャシャウタ、シャシャシャシャウタ♪」

オーズドライバーC６「タカ！イマジン！ショッカー！タ・マ・シー！タマシー！タ・マ・シー！ライダーーーーダマシー！！」

オーズドライバーC７「プテラ！　トリケラ！　ティラノ！　プットティラノ～ザウル～ス！」

オーズドライバーC８「コブラ！　カメ！　ワニ！　ブラカ～ワニッ♪」

オーズドライバーC９「アモン！　ベリアル！　ルシファー！　ア・ベ・ル♪　アベル♪　ア・ベ・ル♪」

オーズドライバーC１０「エビ！カニ！サソリ！エカサ～リ！エカサ～リ！！」

オーズドライバーC１１「フェニックス！ドラゴン！ペガサス！フェ！ドラ！！サス！！！フェドラ♪フェドラサス♪」

オーズドライバーC１２「シャウトモン！バリスタモン！ドルルモン！シャバル！シャバルゥゥゥゥー！！シャバル！！」

オーズドライバーC１３「タカ！トラ！バッタ！タ・ト・バ！タトバ♪タ・ト・バ♪」

オーズＧＣ「豪快チェンジ！」

モバイレーツ「ゴーカイジャー！」

今、黒狼が出来るエビを模した顔で青い目の『エビヘッド』に腕はカニを模した『カニアーム』で足はサソリを模した『サソリレッグ』の甲殻類コンボ『エカサリコンボ』と頭がシャウトモンＸ３の頭を模したヘッドで緑色の目の『シャウトヘッド』、腕は肩のバリスタモンとドルルモンの顔を無くした『バリスタアーム』、足はシャウトモンＸ３の足『ドルルレッグ』の本来は攻撃に使うデジメダルのを使ったデジモン系コンボ『シャバルコンボ』を含んだコンボが並び、オーズＧＣが変身したゴーカイレッドもゴーカイブルーとゴーカイグリーンの真ん中に立つと１８人の戦士はディケイドクリムゾンに構える。

楓「凄い…」

楯無「うわぁ…」

シルク「こんなの、見た事ないわ…」

並び立つ１８人に楓達は驚いてみる。

ディケイドクリムゾン「なっ、何だその姿は!?そんなの知らないぞ!!?」

ディケイドＰＦ「歴史が違えば、知らないのは仕方がない」

ディケイド「と言う訳で、君の力、破壊させて貰うよ」

ゴーカイレッド「派手に行きましょう！」

ゴーカイブルー&ゴーカイグリーン「ああ！」

後ずさるディケイドクリムゾンにディケイドＰＦがそう言い、ディケイドが言った後にゴーカイレッドとゴーカイブルーとゴーカイグリーンが駆け出す。

ディケイドクリムゾン「ちっ！」

それにディケイドクリムゾンは銃撃を放つが3人は気にせずにレンジャーキーを取り出す。

ゴーカイレッド&ゴーカイブルー&ゴーカイグリーン「豪快チェンジ！」

モバイレーツ「「「ハーリケンジャー！」」」

ゴーカイレッドはハリケンイエロー、ゴーカイブルーはカブトライジャー、ゴーカイグリーンはハリケンレッドに豪快チェンジする。

カブトライジャー「超忍法！角いなずま！」

先にカブトライジャーが角から稲妻を放すとディケイドクリムゾンは受けた後に…

ハリケンレッド「疾風流あわせ奥義！」

ハリケンイエロー「大空大地斬り！！」

そこに空がけをしたハリケンレッドと獅子すべりをしたハリケンイエローが同時にディケイドクリムゾンを切り裂く。

ディケイドクリムゾン「貴様等！！」

ハリケンレッド＆ハリケンイエロー＆カブトライジャー「うわぁ！」

ディケイドクリムゾンはライドブッカーＳＭを振って３人を吹き飛ばすが…

ぱさっ…

ディケイドクリムゾン「何！？」

そこには３人のスーツしかなかった。

ディケイドクリムゾン「どこ行った！？」

ディケイドＰＦ「３人だけだと思うな！」

周りを見るディケイドクリムゾンはディケイドＰＦの声に前を見ると…

ディケイドＰＦ「はっ！」

ディケイド「うりゃりゃりゃりゃ！」

ディケイドクリムゾン「ぐお！」

２人のディケイドの斬撃がディケイドクリムゾンに炸裂した後に…

オーズ「はっ！」

オーズＧＣ「ふん！」

オーズＬＣ「てあっ！」

オーズＰＣ「たあ！」

メダジャリバーを構えたオーズとカマキリソードを構えたオーズＧＣ、トラクローを展開したオーズＬＣ、メダガブリューを持ったオーズＰＣが連続攻撃し…

オーズＴＣ「はっ！」

オーズＳＧＣ「ふん！」

オーズＳＣ「てい！」

オーズＴＭＣ「喰らえ！」

そこにオーズＴＣの火炎弾攻撃とオーズＳＧＣのバゴーンプレッシャーの後にオーズＳＣの水流弾とオーズＴＭＣの魂ボンバーで吹き飛ぶ。

オーズＢＣ「はっ！」

オーズＥＣ「よいしょ！」

オーズＡＣ「てい！」

オーズＦＣ「たあ！」

オーズＳＹＣ「おりゃあ！」

追撃とオーズＢＣの蹴り、オーズＥＣのカニアーム、オーズＡＣのアベルザンバーの斬撃、オーズＦＣのパンチ、オーズＳＹＣのハイアドモスフェリックプレッシャーが決まる。

ディケイドクリムゾン「ぐぬっ！貴様等！」

モバイレーツ「「「ガーオレンジャー！！」」」

胸を押さえるディケイドクリムゾンに音声が聞こえると共に…

ガオレッド「ガオメインバスター！ノーマルモード！」

ガオシルバー「ガオハスラーロッド！ガンモード」

ガオレッドに豪快チェンジしたゴーカイレッドとガオシルバーに豪快チェンジしたゴーカイブルーがそれぞれの遠距離武器で攻撃した後に…

ガオブルー「シャークカッター！ザージングラッシュ！！」

すかさずガオブルーに豪快チェンジしたゴーカイグリーンがシャークカッターで高速で斬りつけまくるザージングラッシュをディケイドクリムゾンに決める。

ガオレッド＆ガオブルー＆ガオシルバー「豪快チェンジ！」

モバイレーツR「タイムレンジャー！！」

モバイレーツB「ジューレンジャー！！」

モバイレーツG「ダーイレンジャー！！」

音声と共にガオレッドはタイムファイヤー、ガオシルバーはドラゴンレンジャー、ガオブルーはタイガーレンジャーに豪快チェンジした。

タイムファイヤー「ディフェンダーソード！」

ドラゴレンジャー「獣奏剣！」

タイガーレンジャー「白虎真剣！」

3人はそれぞれの剣を取り出すと連続で切り裂く。

タイムファイヤー&ドラゴレンジャー&タイガーレンジャー「はっ！」

ディケイドクリムゾン「ぐおっ！」

3人の蹴りが命中し、ディケイドクリムゾンが倒れてる間に3人は豪快チェンジする。

タイムファイヤー&ドラゴレンジャー&タイガーレンジャー「豪快チェンジ！！」

モバイレーツR「ゴーオンジャー！！」

モバイレーツB「ボーケンシャー！！」

モバイレーツG「ゲーキレンジャー！！」

音声と共にタイムファイヤーはゴーオンレッド、ドラゴレンジャーはボウケンレッド、タイガーレンジャーはゲキレッドに変わる。

ディケイドクリムゾン「ぐっ！」

ボウケンレッド「デュアルクラッシャー！！」

ゲキレッド「激技！砲砲弾！！」

ゴーオンレッド「カンカンマンタンガン！！」

起き上がりフラフラなディケイドクリムゾンにそれぞれの戦隊の必殺武器と技を構える。

ボウケンレッド「ＧＯ！」

ゲキレッド「はっ！」

ゴーオンレッドー「Ｇ－ＯＮ！」

それぞれの咆哮と共にデュアルクラッシャーからドリル型のエネルギー弾、ゲキレッドの手からゲキタイガー、カンカンマンタンガンからキシャモス、ティライン、ケラインのエネルギー弾が放たれ、ディケイドクリムゾンに炸裂する。

ディケイドクリムゾン「この愚民共が！！」

鈴「まだ生きてるの！」

ラウラ「しぶとい奴だ」

爆風の中から飛び出したディケイドクリムゾンに鈴は驚き、ラウラがそう言った後に赤いケータッチを出しディケイドクリムゾンコンプリートへ変わる。

ディケイドＰＦ「やれやれ…止めは譲るから決めて来い！」

士ディケイドライバー「アタックライド！ゴーカイサーベル！」

呆れた口調で言った後にディケイドＰＦはカードを装填するとゴーカイブルーの手にさらに４つのゴーカイサーベルが握られる。

ゴーカイレッド「行きますよ！」

ゴーカイブルー「ああ！」

ゴーカイグリーン「おう！」

それぞれ返事した後にゴーカイレッドの前にゴーカイサーベル、シンケンマル、ロードサーベル、日本刀、ファルコンソードが刺さるとゴーカイレッドは近づき、腕を組むと同時に両隣にシンケンレッド、ゴーオンレッド、バルイーグル、レッドファルコンが現われ、腕を組むのを解くと４人のレッドはゴーカイレッドと同じ動作をした後にゴーカイレッドと重なる。

ゴーカイレッド「レッドレイジ！！」

そして飛び出すと同時にディケイドクリムゾンＣＦを連続で切り裂く。

ゴーカイグリーン「今度は俺だ！」

その次にゴーカイグリーンが言うと両隣にグリーンサイ、オーグリーン、グリーンレーサー、ゴーオングリーンが現われる。

ゴーカイグリーン「グリーンブレイヴ！！」

足踏みすると同時に４人の緑の戦士がゴーカイグリーンと重なった後にゴーカイグリーンはゴーカイガンから銃弾を放つとそれはディケイドクリムゾンＣＦのドライバーを破壊する。

ディケイドクリムゾンＣＦ「しまった！」

ゴーカイブルー「トドメだ！」

ドライバーを破壊された事にディケイドクリムゾンＣＦが焦った後にゴーカイブルーがそう言い、５つのレンジャーキーを差し込む。

ゴーカイサーベル「「「「「ファ～イナルウェ～イブ！！」」」」」

ゴーカイブルー「五刀流ブルースラッシュ！！」

音声の後にゴーカイブルーは５本のゴーカイサーベルを振るとゴセイブルー、マジブルー、ハリケンブルー、シンケンブルー、ギンガ

ブルーが現われ、順番にディケイドクリムゾンＣＦを攻撃した後に…

ゴーカイブルー「たあ！！」

最後にゴーカイブルーがディケイドクリムゾンＣＦのケータッチを破壊する。

それと同時にディケイドクリムゾンＣＦの変身が解ける。

偽神「ばっ、馬鹿な…この俺が…」

楓「もう降参してください。あなたは…」

マリオ「止めろ楓、こいつは大罪を犯した」

震える偽神を優しく説得しようとする楓を遮ってマリオは黒いカードを取り出し…

マリオ「輪廻ではなく永遠の牢獄がお前のゴールだ」

そう言うとマリオは偽神の額に黒いカードを貼り付ける。

偽神「ぎゃあぁぁぁぁぁぁぁ！！！」

絶叫すると同時に偽神は地面に消える様に吸い込まれる。

セシリア「やり過ぎではないですか？」

ブロントさん「あれでも優しくしたつもりですだけど？」

ガウェイン「確かに、それに…奴は楓を人質にしようと考えていただろう」

シャル「分かるの？」

セシリアの問いにブロントさんはそう言い、ガウェインは腕を組みながらシャルはそう聞く。

ガウェイン「ああ言う輩を見て来た事があるからな…」

終「そうだな…」

ガウェインの言葉に変身を解いた終がそう言う。

マリオ「まあ、戻ろう。子供達が待ってるぞ」

楓「あの…シルクさんはどうするんですか？」

銀次「彼女は利用された感じだし大丈夫だよ」

キョン子「そうそう、私達はそこまで鬼じゃないし」

マリオがそう言うと楓が心配そうにシルクを見て聞き、銀次とキョン子が安心させる様に言った後、ガウェインと士、ブロントと別れ、一同は宿へ戻ったのであった。

ＩＳ＆Ｉｔ；インフィニット・ストラトス＆ｇｔ；黒き牙と永遠の月　豪快な海

リュカ「と言う訳でユートピアさんとのコラボでした！」

スネーク「ちょっと終わりが違う方になっちゃったな；」

フォックス「流石にな…；」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　ＳｔｒｉｋｅｒＳ　～銀女神鎮魂歌～　－　第別訓パート３７

スネーク「という訳で真王とのコラボ第３７弾で長編ラストだ！」

モモタロス「いよいよクライマックスだぜ！」

フォックス「だな」

ワリオ「んでな…」

マリオ「ふう～…終わった…」

アテナス「お疲れ様です」

伸びたメテンズギルドのメンバーを見て顎の汗を拭うマリオにアテナスはそう言う。

マリオ「なかなか骨のある奴等だった。常識のない転生者が見習えと言いたい程訓練されている」

アテナス「褒めて頂き光栄です」

マリオの言葉にアテナスはそう言う。

マリオ「させ、事情を聞いた後…行けるかな…」

アテナス「でしたら…事情を話すのと同時にちょっとした物を…」

頭を掻き、困った顔をするマリオにアテナスは口を開いてそう言う。

戻って銀時達…

ヴィヴィオ「この心臓は何かな？」

デンヴィー「ちっ！」

ジャック「うおっ！」

宝箱にあった心臓を持って不思議がるヴィヴィオ。

それにデンヴィーは舌打ちした後にジャックを吹き飛ばし、亡霊故の瞬間移動でヴィヴィオは捕まえる。

デンヴィー「それを渡せ！」

ネプテューヌ「（あの心臓って…もしかして…）」

ジャック「（ビルの言っていた秘密ってのはあれか…）」

必死に守りたがるデンヴィーの態度からあれはデンヴィーの心臓じゃないかと疑い出すネプテューヌ達。

その時…

大砲の飛ぶ音と爆発音が聞こえる。

ボウケンレッド「何だ！？」

クッパ「ぬぅ！この船のではないぞ！」

グレイ「別の大砲か…」

ビビ「なっ、何なの？」

いきなりの事にみんなが戸惑っているとダッチマンの一員の一人が慌てて来る。

ダッチマン船員「船長！外に変な海賊船がありやす！！」

デンヴィー「何！？船を外に出せ！」

報告にデンヴィーはそう言った後に船が動き出し、外に出る。

チルノ「変な海賊船ってどこ？」

ダイナ「あれじゃないかな？」

洞窟の外は大嵐が起きており、チルノは周りを見て、戻って来たダイナが前を指して言う。

そこには3隻の船があり、桂はどこからか望遠鏡を出してみる。

桂「あれは…まさか宇宙海賊、春雨か！」

ソニック「ＷＨＡＴ！いきなり現われて何が目的だ？」

桂の驚きの後にソニックが見ながらそう言う。

すると前の1隻の先端に船長と思われる男、キャプテン・ギーダが現われて叫ぶ。

ギーダ「デンヴィー・ジョーズ！貴様の心臓を貰い受け、俺達の奴隷となるがいい！！」

銀時「えっ？どう言う事？」

クッパ「説明してくれると嬉しいのだがな…」

ギーダの言葉に銀時はそう呟き、クッパが腕を組みながら言う。

ギーダ「何だ？貴様等は知らないのか？心臓を人質に取るとデンヴィーを意のままに（強制的に）命令できるんだぞ！」

ボウケンレッド「だったらなおさら渡せないな」

ヴィヴィオ「そうだよ！」

ネプテューヌ「それはさせないよ！デンヴィー船長！一緒にあいつ等をやっつけよう！」

ボウケンレッドが言った後にヴィヴィオも宝箱を閉じ、ネプテューヌがそう提案するが…

デンヴィー「宝を奪いに来た貴様らの命令など受けぬわ！！」

ソロ「まあ、そりゃあそうだよな…」

デンヴィーの言葉にウルトラマンゼロから戻ったソロが頭を掻いてそう言うとジャックは一つのパーレイを持ちだす。

ジャック「だったらこれでどうだ？『俺達はもうお宝に手をつけない。そしてあの船を撃退するために共同戦線する』それでどう？」

銀時「エエエエエエエ！！？」

デンヴィー「むっ…」

ボウケンレッド「船長、海の支配者ならああいう輩に暴れまわれるのは船長にとって嫌だろ？」

ジャックのパーレイに銀時は驚き、デンヴィーはそれに顔を顰めるがボウケンレッドがそう言う。

デンヴィー「……確かにそうだな…良いだろう」

ボウケンレッド「交渉成立だな…ギル！これを元の場所へ！」

オーズＰＣ「ぷっ！」

デンヴィーは顔をしかめたまましぶしぶ承諾し、ボウケンレッドはオーズＰＣに心臓の入った宝箱を渡してオーズＰＣは船内へ入る。

デンヴィー「野郎ども！錨をあげろぉ！真の海の支配者がどっちなのか思い知らしめてやるのだぁ！！」

ダッチマン船員団「おぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉ！！！！！」

デンヴィーの声にダッチマンの船員達は答えると銀時達も含めて走る。

サメの船員「おいテメェ！サボってないで手伝え！」

プリニー「やってるッスよ！！」

ジャンヌ「にゃあ！！？何処触ってるの！？」

イカの船員「あ、ワリぃ…」

森羅「よしそこだ撃て！」

サンゴの船員「いってる暇があったらこっち手伝え！！」

春雨の3隻の船にダッチマン号が挑もうとした時…

ドドーン！

3隻の内の1つに砲弾が飛ぶ。

デンヴィー「おい！誰が撃った！」

ノワール「撃ってないわよ！」

ベール「あれじゃないかしら？」

デンヴィーの問いにノワールが答え、ベールが春雨の船団の右側の方を指して言う。

すると…船のボディが虹色のガレオン船で船のヘッドがハルバードの砲台、船のリアが白いバーストエンジン、船の右サイドが虹色のハルバードの右翼、船の左サイドは虹色のハルバードの左翼、そして船トップがグレートフォックスの主砲の海賊船が春雨の1隻を攻撃していて、乗っているのは…

グレイ「あれは…」

ルイージ「兄さん！？」

ボウケンレッド「他の皆もいるな…」

海賊服を着たマリオ、スネーク、フォックス、海賊服を着たフランとお空とファルコン・ハートの3人、ピット、リンク、海賊服を着たヨッシーにルイージは驚き、ボウケンレッドが言う。

マリオ「遅れてすまん！」

スネーク「此処からがショータイムだ！」

フォックス「1隻は任せろ！」

マリオ、スネーク、フォックスが言った後に春雨の1隻とマリオ達が乗る船が戦いを始める。

もう1隻はクラーケンが攻撃している。

デンヴィー「よーし！相手の船長が乗ってる船へ乗り込め！」

ダッチマン船員「了解！」

デンヴィーの指示に舵を持つダッチマン船員が答えてギータの乗っていた船へ横付けする。

銀時「乗り込むぞ！」

咲夜「いっくよ～～」

ボウケンレッド「おう！」

ネプテューヌ「乗り込め！！」

デンヴィーとジャックの後に銀時、咲夜、ボウケンレッド、ネプテューヌの後に数人が乗り込む。

そして、ギータと対面する。

銀時「あんたか親玉か！？」

ギーダ「その通り！おれの名はキャプテン・ギーダ！勝負だ白夜叉！！俺と紅桜の力見せてくれるわ！！」

新八「紅桜を持ってる！？」

銀時の問いにギーダは答えて紅桜を構え、それに新八は驚く。

ボウケンレッド「何であろうと突っ込むだけだ！」

ジャック「そうだな」

ソロ「俺達のビックバンは止められねえぜ！」

キーブレードを構えて言うボウケンレッドにジャックは同意し、ソロがゼロライザーを構えてギーダへ駆け出す。

最初にボウケンレッドとソロが斬りかかり、ギーダに防がれた後に…

銀時「ほわたっ！」

ネプテューヌ「喰らえ！！」

ギーダ「ぐおっ！」

懐に入った銀時とネプテューヌの攻撃にギーダは後ずさった後にジャックとデンヴィーが向かう。

ジャック「そんな刀に頼ってる割りにゃあ弱いなあんた」

デンヴィー「そんな奴が俺の心臓を狙うなど片腹痛いわ！」

ギーダ「貴様等…！」

周りでレオン、コンパ、アイエフに神楽と月詠、新八達が宇宙海賊春雨船員を倒して行く中で不適に笑うジャックの後にデンヴィーの言葉にギーダは怒る。

銀時「余所見は…」

ネプテューヌ「禁物だよ！」

ギーダ「！がはっ！」

そんなギーダに銀時とネプテューヌがそう言ってギーダを吹き飛ばし…

ボウケンレッド「レッドゾーンクラッシュ！！」

ソロ「ビックバンスラッシュ！」

ボウケンレッドとソロの必殺技が炸裂し…

ジャック「さっさとこの海から…」

デンヴィー「去れい！！」

最後にギーダはジャックとデンヴィーの蹴りが炸裂して海に落ち…
1隻を壊したクラーケンに捕まる。

ボウケンレッド「グッジョブ！」

そんな2人にボウケンレッドはサムズアップする。

ジャックは返し、デンヴィーはふんと鼻を鳴らす。

ジャック「そんじゃあ此処でお別れだな船長」

デンヴィー「ああ…」

夕日が輝く中、マリオ達の乗っていた船、スマッシュ号にフランとお空、ファルコンハートとクッパに監視され、厳重に縛り上げた春雨の船員とギーダを背にジャックはダッチマン号に乗ったデンヴィーにそう言い、デンヴィーは短く言う。

ルイージ「それにしても兄さん…何時の間にこの船を…」

マリオ「ちょっとな…メテンズギルドの長からのお礼」

レーティア「メテンズギルドに行ってたの！？」

ギルシア「用事ってそう言う事か…」

ジャックとデンヴィーが話してる間にルイージはこの船の事を聞き、マリオはそう言い、レーティアは驚き、ギルシアは出る前に言ったマリオの言葉に思い出して呟く。

デンヴィー「覚えておけ、海の支配者はデンヴィー・ジョーズだとな」

ジャック「そうかい？なら俺はあんたを超えてやるぜ。じゃあな」

デンヴィーの言葉にジャックは不適にそう言うとマリオは舵を動かし、ダッチマン号から離れる。

ヴィヴィオ「さようなら～」

冥王「達者でなの～」

ギル「ぷ～」

離れて行くダッチマン号にヴィヴィオと冥王とギルは手を振る。

銀時「お宝がっぽりがぁ…」

ネプテューヌ「銀さん、もう諦めようよ…」

落ち込んでいる銀時にネプテューヌは宥める。

スネーク「お宝？デンヴィーのお宝じゃないが…あるぞ」

スマッシュ号に乗っていた者＋春雨を除く一同「えっ？」

それが聞こえたスネークがそう言うと銀時達は呆然とし…

銀時「うおぉぉぉぉ！？」

ビビ「うっ、うそ…」

レイン「マジかよ…」

ピット「此処に来る前に試運転で此処とは違う世界でね…」

ファルコン・ハート「立ち寄った島にあったんだよ…」

フラン「凄かったよね～」

お空「ホントだね～」

チルノ「そっちもちょびっと冒険してたんだね」

案内された先のスマッシュ号の貨物室に置かれたお宝の山に銀時達は驚き、ピットとファルコン・ハートがそう言い、フランとお空が笑顔で言い、チルノはそう言う。

ボウケンレッド「それじゃあこれの半分、約束どおりジャックに…これで船がまた出来るだろ？」

ジャック「そりゃあ助かる」

タバネ「そう言う約束だったもんね～」

チフユ「そうだな…」

ボウケンレッドの言葉にジャックは笑い、タバネとチフユが言う。

ヨッシー「これでめでたしめでたし」

リンク「ご都合主義ですね；」

ルイージ「メタ発言しない；」

後ろでそう言う会話があったが些細である。

その後、ジャックはお宝を持って別れ、銀時達はデンヴィーのお宝じゃないが別のお宝を手に入れられたのであった。

リュカ「と言う訳で真王さんとのコラボでした～」

ワリオ「大変だったな…」

クッパ「うむ…」

ネス「感想を待ってます♪」

スネーク「黒龍とのコラボだ！」

ネス「今回は言って置きます…黒龍さん…そっちのキャラにトラウマ作ると思います！」

クッパ「そりゃあな…」

善悪　無縁は歩いていた。今日も自分を狙いに来るだろうと思う転生者を殺す為に…

しかし…

無縁「（なかなか来ないな…）」

なかなか来ない襲撃に頭を掻く。

本等なら誰かが来てもおかしくないと無縁は考えている。

そして前を見て理解した。

無縁「ああ…あんた達が原因か…転生者殺しさん方」

マリオとブロントさんを見て無縁はそう呟く。

マリオ「善悪　無縁、お前の行為に許されないものだ」

ブロントさん「さっさと輪廻へ戻りぃ」

無縁「いや…と言ったら？」

構えるマリオとブロントさんに無縁は聞く。

マリオ「無論…強制的に送る」

ブロントさん「お前調子に乗った結果がこれだよ」

無縁「んじゃあ…逃げる」

殺気を出すマリオとブロントさんに無縁はメンドくさそうな顔をした後に逃走する。

マリオ「待てルパ～ン！」

無縁「誰がルパン！？ってか殺気出してた人がボケるな！！」

マリオの言葉に無縁は走りながらツッコミを入れた後にマリオはカードを取り出す。

マリオ「余裕があるかを確かめる為だ。『バラの花言葉は‘愛’愛と共に散りたまえ』」

テキストを読むと同時にライダーブレスが出現し、そこへ金色のコーカサスオオカブト型カブティックゼクターが飛翔する。

マリオ「変身！」

叫ぶと同時にゼクターがライダーブレスに自動的に装着し、９０度回転すると走るマリオの体に金色の装甲が纏い、仮面の両目が青く輝いた。

カブティックゼクター「チェンジ・ビートル！」

音声と共にマリオは仮面ライダーコーカサスに変身した。

無縁「まずっ…」

コーカサス「ハイパークロックアップ」

ハイパーゼクター「ハイパークロックアップ」

その姿に無縁はそう呟いた後にコーカサスはハイパークロックアップを発動し、無縁を連続で攻撃する。

ハイパーゼクター「ハイパークロックオーバー」

その音声と共にコーカサスはハイパークロックアップから戻ると同時に無縁は地面に崩れ落ちる。

無縁「それ…卑怯に近いよね…」

コーカサス「お前が貰った仮初めの力はさらに卑怯に近いと思うぞ？俺でもオリジナルとあんまり戦いたくはないな」

地面に這い蹲る無縁にコーカサスはしゃがんで無縁の顔を見て言う。

ブロントさん「まあ、これでお前は終わりだよ」

無縁「そうかな？それにこれは俺の能力だよ」

そう言うと無縁の姿が消える。

マリオ「させ…計画通りに転移してくれたな」

ブロントさん「これにはブロントも同情の言葉を送る」

変身を解いたマリオの言葉にブロントさんはそう言う。

転移した無縁はと言うと…

無縁「ホント、もう戦いたくないな…」

無縁がそう言って、さっきのマリオを頭に浮かべた後に音にその方向見ると…

男がこっちに歩いていた。

無縁「何？俺に何の用？」

男「ああ……お前に悪夢をプレゼントしにな…」

グサグサグサ！

無縁がその男に聞くと男が静かにそう言った途端、無縁は体の様々な箇所からの衝撃にした方を見る。

無縁「これは…」

ドライバーだった。しかも良く自分が使う物と同じのに無縁が気づいた後に…

グサグサグサグサグサ！！

どんどん自分のいたる所にドライバーが刺さって行く。

男「どうだ?お前が相手にした奴にやった行為をされるのをよ」

無縁「なっ、何なんだ!?何をしたんだ!?」

タバコを吸って静かに言う男に無縁は叫んだ後に…

グサグサグサ!!

無縁「!!?あああぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ!!」

さらにドライバーが刺さり、無縁が叫んだ時…

???「1分経ったよ…」

どこからともなく声がした後に周りの光景にヒビが入り、割れる。

銀次「良い夢…見たかな?」

無縁「!?」

何時の間にか自分の肩にポンと触れてる銀次がおり、無縁は慌てて離れて、自分が傷付いてない事に気づく。

無縁「幻術か!?お前がしたのか!?」

銀次「うん、ホントは知り合いの技だけどね…」

無縁の言葉に銀次がそう言った後に自分の後ろからの殺気に無縁が振り返ると…

ストライクス・ハートを構えてる冥王がいた。

無縁「なっ、のは…？」

冥王「能力を使わないと人と話せない卑怯者さん…受けてみるの私の全力突破を…」

無縁に冥王は無表情で言う。

無縁「（やばい！あれは受けるのは…）」

そう言って無縁は能力を発動しようとするがなぜか出せないのに気づいた後…

冥王「スターライト！バスタァァァァァァァァァ！！」

ゼロ距離からの砲撃に無縁は飲み込まれる。

そして終わった後には…ボロボロの無縁しかいなかった。

銀次「うわぁ…；」

冥王「お仕事完了なの…さっさっとこいつを家に戻すの」

無縁の状況に銀次は冷や汗を流し、冥王は無表情で無縁を無縁の家へ転送する。

冥王「あ～～良い気分しないの！修行なの！」

銀次「ほどほどにね…；」

うが～と吼える冥王に銀次はそう言う。

その後、無縁は夢で冥王の砲撃を見る様になり、魘されるのであった。

リュカ「と言う訳で黒龍さんとのコラボでした；」

スネーク「大丈夫かね；」

フォックス「だな：」

ネス「感想を待ってます♪」

気力少年ダイチ！俺と四人の探偵と気力修行！　一　グリードとの再会（前書き

フォックス「龍の骨とのコラボだ！」

スネーク「前回やった気力少年とのコラボだな」

ルイージ「あれはね…」

気力少年ダイチ！俺と四人の探偵と気力修行！　一　グリードとの再会

とある次元の世界、恋姫の世界に飛ばされ、今は船で江東へ向かう
気力少年ダイチとその仲間達、それは彼等が江東に着いた直後のお話

ダイチ
「何か前やった時のを最後を少し変えただけだな…」

すいません、そこは突っ込まないでくれると嬉しいです；

斗真
「誰に話してるんだダイチ？」

しょっぱなにナレーションにツッコミを入れるダイチに斗真が訝しげに聞く。

ダイチ
「悪い悪い…それで着いたな江と…う？」

Ａリュウレンジャー
「よう」

前を見て言おうとしたダイチは手を上げて挨拶するＡリュウレンジャーに途切れた。

木里
「何でいるんだ！？」

オーズＬＣ

「いや～また来ちゃったんだよね～；」

オーズＳＧＣ
「お菓子食べる？」

ショカ
「かっかっ！」

美希
「あっ、これはどうも～」

木里
「いやいや！いきなり現われたのに何貰ってるの！」

Ａリュウレンジャーに木里は船であった奴と分かって言うと何時の間にか隣にいたオーズＬＣが頬をポリポリ掻き、オーズＳＧＣとショカに勧められてお菓子を貰う美希に木里はツッコミを入れる。

如月
「もしかしてあの時の猫さん達ですか？」

オーズＬＣ
「うん、僕はカザリ、んでもう１人はガメル、そこの女の子はショカって言うんだよ。ちなみにリュウレンジャーに変身してるのはアンクでドラゴンレンジャーに変身していたもう１人はウヴァって言うんだ」

斗真
「成る程…」

如月の問いにオーズＬＣは答えて自己紹介して、斗真が納得している間にダイチはＡリュウレンジャーと間合いを取る。

Ａリュウレンジャー
「また手合わせするか？」

ダイチ
「船の所でしたけど…やってやる！気力転身！」

そう言ってダイチがリュウレンジャーになるとお互いに構えた時…

Ｗリュウレンジャー「！はっ！」

殺気を感じ取ったＷリュウレンジャーが飛んで来たナイフを弾く。

すると周りにコットポトロの集団が現われる。

Ａリュウレンジャー
「やれやれ…」

Ｄリュウレンジャー
「やるっきゃないか…」

周りで木里達もそれぞれの武器でコッチポトロと戦っていて、ドラゴンレンジャーＺとドラゴンレンジャーも背中を預けあって戦っていた。

Ａリュウレンジャー
「おりゃあ！」

Dリュウレンジャー
「だりゃあ！」

双龍剣を持って戦うAリュウレンジャーの後ろえDリュウレンジャーがスターソードとスターカッターでコットポトロを撃退して行く。

オーズTMC
「かっか！」

オーズSGC
「うおぉぉぉぉぉ！！」

オーズTMCがメダジャリバーを振るい、オーズSGCがドラミングしてコットポトロを複数浮かべてぶつけて行く。

木里
「やるわね…あの2人」

オーズLC
「どうも！」

そんな2人を猛虎槍で倒していた木里はオーズTMCとオーズSGCを見てそう言い、オーズLCがトラクローで切り裂きながら言う。

Aリュウレンジャー
「決めるぞ！気力ボンバーだ！」

Dリュウレンジャー
「おう！」

纏まった所をAリュウレンジャーが言い、Dリュウレンジャーも同意した後に気力弾を作り…

Wリュウレンジャー
「気力ボンバー！！」

同時に放ってコットポトロ達を吹き飛ばす。

ドラゴンレンジャーZ
「そっちは終わったみたいだなダイチ」

Dリュウレンジャー
「いや、俺こっち；」

ドラゴンレンジャー
「同じのに変身してるから間違えるのは当然だな」

Aリュウレンジャー
「それを言うならお前もだろ」

そこにドラゴンレンジャーZがそう言ってAリュウレンジャーを見て言い、Dリュウレンジャーは自分を指して言い、ドラゴンレンジャーの言葉にAリュウレンジャーはツッコミを入れる。

美希
「撃退出来たね！」

オーズSGC
「撃退完了！」

オーズＴＭＣ
「かっか！」

如月
「けど…何でゴーマの戦闘員が…」

斗真
「そうだな…」

美希とオーズＳＧＣとオーズＴＭＣが言った後に如月はなぜいたのかに疑問を持ち、斗真も同意して腕を組む。

Ａリュウレンジャー
「まあ、頑張れよ」

ドラゴンレンジャー
「じゃあな」

そう言うとグリードメンバーはオーロラを越えて消えた。

ダイチ「まあ、調べる前にまずは腹ごしらえするか！」

そう言って歩き出すダイチだが食事をする前にある事に巻き込まれるがそれは本編をお楽しみにである！

気力少年ダイチ！俺と四人の探偵と気力修行！　―　グリードとの再会（後書き）

リュカ「と言う訳で龍の骨さんとのコラボでした！」

スネーク「本編ではな…」

フォックス「大変だよな…」

ネス「感想を待ってます♪」

ほぼオールキャスト！皆でバカ騒ぎ！　テイルズ編（前書き）

スネーク「プリニーラハールとのコラボだ！」

フォックス「今度はテイルズだ！」

ワリオ「だな」

カズマ「大丈夫かあいつ等；」

ミア「ホントね；」

さっき運ばれて行ったメンバーにカズマとミアは心配する中、そこにファルコン・ハートとなったファルコとフランとお空にエインが来る。

ファルコン・ハート「まあ、ドクターが見るから大丈夫だ」

フラン「そう言う事はこっちでもあるからね～」

カノンカ「それにしても倒れた理由は何ですか？」

ファルコン・ハートとフランが言った後にカノンカが聞く。

エイン「何でもクレイジーさんが葉月さんと言う方から貰ったレシピにある激苦の飲み物と激すぱの飲み物に激辛の食べ物を紛れ込ませていた様です」

ミア「それを食べたから倒れたのね；」

エインの言葉にミアは冷や汗を掻く。

なお、入れた本人は逆さ吊りを受けている。

シロ「あの…エインさんが言っていた物と思われてるのを平然と食

べてる人がいるんですけど…」

カズマ&ミア「はぁ!?」

シロの言葉にカズマとミアは驚き、ファルコン・ハート達はもう誰なのか分かっていたのかああ～と悟った顔でシロの見ている方を見る。

マリオ「これはすっごくスッパイ!…これはこれで苦くてこの料理は辛いな!」

ルイージ「そう言いながら平然と食べるね兄さん…」

う～んと唸りながら飲んだり食べたりしているマリオにルイージはツッコミを入れる。

カズマ「平然と食べてる!?」

ミア「どんな胃の持ち主よ…」

ファルコン・ハート「まあ、あいつは過去に色々な…」

驚いているカズマとミアにファルコン・ハートは呆れた顔で言う。

そんな3人と一緒にいたフランとお空にカノンカ、シロはわいわいと話していた。

カノンカ「へえ～不動さんって言うんだ～」

フラン「今の姿じゃあファルコン・ハートって名前だけど私達は何

時も通りに呼んでるんだ～」

お空「うにゅう♪呼び慣れてる方が良いもんね～」

シロ「お2人とも仲が良いんですね」

お空「だって大好きだもんね♪」

フラン「うんうん♪」

エイン「ちなみに私もです」

カノンカ「そうなんだ♪」

楽しく話しているとそこに霊夢とレミリア、紫と萃香が来る。

お空「あっ、レ☆ミ☆リ☆ア」

レミリア「う～☆ってさせんな！！」

霊夢「それなら乗らなきゃ良いんでしょうが」

レミリア「う～；」

お空の言葉につい反応して笑顔で言うレミリアに霊夢は呆れた顔で言い、レミリアは涙目になる。

カノンカ「涙目になってる人ってフランちゃんのお姉ちゃん？」

フラン「そうだよ～♪」

シロ「面白い人ですね」

カノンカの問いにフランは笑顔で言い、シロはそう言う。

レミリア「霊夢～私のカリスマってどこ行ったかな？（Π－Π）」

霊夢「この小説で言うならもうないわね」

レミリア「う～（Π－Π）」

涙目になってるレミリアに霊夢はズバッと言い、レミリアはウルウルと涙を流す。

魔王明久「うわムッツリーニ！？どうしたの！？」

魔王康太「……あれは萌える…」

別の場所でこう言う会話があったが霊夢は無視してレミリアの頭を撫でる。

霊夢「はいはい泣かないの」

レミリア「う～♪」

萃香＆紫「……」

ファルコン・ハート「お前等な…」

ご機嫌なレミリアを見て良いなと指を銜えて羨ましそうに見てる萃

香と紫にファルコン・ハートが呆れる。

カズマ「それにしても来て良かったな～カノンノも連れて来れれば良かったな」

ミア「そうね…」

ジュースを飲むカズマの言葉にミアは同意してフラン達と楽しく会話しているカノンカにミアは目を細める。

ミア「（カノンノ、カノンカは元気に育ってるよ、下の子がいたらフランちゃんやお空ちゃんの様な感じだったんだろうな…）」

そんなカノンカ達を見ながらミアは今はいない自分の妻へ心の中でそう呟き、微笑んでカノンカ達を見る。

紫「ちなみに不動は元々男でフランとお空の婚約者よ」

ミア&カズマ「えっ！？」

紫の言葉にミアとカズマは驚いたが…

そしてパーティはいよいよ終わりに…

ほぼオールキャスト！皆でバカ騒ぎ！　テイルズ編（後書き）

リュカ「という訳でテイルズ編でした～」

スネーク「次はな…」

フォックス「あれだな…」

カービィ&ヨッシー「いただきます」

バクッ！ババババババババババ（魂が削られる音～）

リュカ「2人共！？」

クッパ「ムチャシヤガッテ…」

ネス「感想を待ってます♪

IS<インフィニット・ストラトス>黒き牙と永遠の月　川とスイ

スネーク「ユートピアとのコラボだ！」

クッパ「今回はある意味ギャグ回なのだ」

ネス「だね～」

千冬「まったく…また休みの為の計らいがまた騒動に巻き込まれるってどう言う事だ？」

束の連絡で来た千冬は事情を聞くと楓達は特に休息が出来なかったため千冬が呆れ気味にそう言うとシルクを見た後にふうと息を吐く。

千冬「私は旅館の近くの川で休むから今度こそゆっくり休む様にするんだぞ」

そう言うと千冬は川への休息へ向かった。

マリオ「何も起きなきゃ良いんだがな…」

ルイージ「兄さんそれフラグだよ；」

終「川か…」

ふうと息を吐くマリオにルイージはツッコミを入れてる間、終は顎を摩って呟いた後…

千冬「…で、黒谷、なぜお前たちもいる？」

終「面白そうだと思って」

千冬の問いに終はそう返す。

ちなみに今は楓達以外に終に呼んでも良いと言われて明久とムッツ

リーニに呼ばれたバカテスメンバーとネギま!?メンバー、黒狼、グリード達がいる。

明久「他にもバーベキューをしようと思ってるんですよ！」

ムッツリーニ「……師父達はそれの準備中、アデューとフランシス達はそれの手伝い」

明久がそう言い、ムッツリーニがそう言う。

愛子「それにしても呼んでくれてありがとうございます！」

あやか「呼んでくださり感謝します」

終「なに、多い方が楽しいからな」

雄二「確かにそうだな…」

一夏「と言うかあんた…大丈夫か；」

愛子とあやかがお礼を言って終はそう言い、霧島に縛られて目隠しされた雄二に一夏は聞く。

雄二「見えるか？」

一夏「見えないな…」

霧島「……此処には雄二に見せられないのが多い」

返された問いに一夏はそう言い、雄二のロープを握る霧島がそう言

う。

姫路「そう言えば…此処に来る前にお菓子のワッフルを用意」

明久「第1回っ！」

楓「異世界争奪戦っ！」

鳴滝姉妹「スイカ割り対決！！」

秀吉＆ムッツリーニ＆キングスカッシャー＆刹那「イェーッ！」

姫路が言い終える前に明久、楓、鳴滝姉妹が必死に叫び、それに秀吉、ムッツリーニ、キングスカッシャーと刹那が合いの手する。

いきなりの事に終と楓を除いたＩＳメンバーと姫路とあやかはいきなりの事に目を丸くし、知ってるメンバーととある時に食べた事のある終と楓はガタガタと震える。

雄二「明久！ルールの説明だ！」

明久「オッケー！ルールはとっても簡単！スイカを早く割った６人がスイカを食べれて後の人は姫路さんのお菓子を食べるんだ！ちなみに小さい子は含まないよ」

シルク「成る程…」

椛「へ～やりがいありそうね」

何時の間にか拘束を解いた雄二が明久に指示し、明久のルール説明

にシルクや椛達はやる気満々で…

木乃香「（絶対勝つんや！！」

終「（食べたくねえ！）」

楓「（ゴメンなさい皆さん、本気で行きますね）」

一夏「（あの2人の反応を見るからにお菓子は×ゲームか？）」

姫路の威力を知るメンバーは別の意味でやる気満々であった。

最初の数人にＩＳメンバーがやる事で1番手は終である。

終「行くぞ」

ガメル「頑張れ～」

ギル「ぷっ！」

ショカ「かっか！」

棒を構えて目隠しした終にガメルとギル、ショカが応援した後に終は歩き出す。

争奪戦なので誰も声を出さないので己の感で一歩一歩と歩き…

終「！そこだ！！」

振り下ろした。

バカーン！！

終「（手ごたえあり！…だが、硬いな…）どうだ？」

ウヴァ「砕いたな…」

カザリ「砕いたね…岩を…」

何かを砕いたのを感じ取り、終は聞くとウヴァは呆れた口調で言い、カザリが終が砕いたのを言う。

目隠しを外して終は自分の叩いた場所を見ると転がらない様にと置かれていた岩の1つが粉々になっていた。

終「外したか…」

一夏「次は俺が行くぜ！」

残念がり下がる終の次に一夏が名乗り出て目隠しをする。

箒「頑張れ一夏！」

一夏「おう！」

箒の言葉に一夏は力強く答えた後に…木刀を構えて…

一夏「おりゃあぁぁぁ！！」

ズバーン！！

一直線にスイカを真っ二つにした。

一夏「どうだ！！」

千冬「ばか者！木刀でやってどうする！」

束「いっ君凄いね～」

明久「まあ、綺麗に真っ二つだから分けとくね；」

雄二「ああ；」

目隠しを外して自信満々に言う一夏に千冬は千草が出したハリセンで叩き、まだいた束が拍手し、明久はスイカを持ってそう言い、冷や汗を掻いた雄二が答える。

新たにスイカを置き、次に楓がやるがフラフラに動いていた。

楓「どっ、どこに…きゃ！」

バシャーン！

フラフラ歩いていた楓が、石に躓き、川に落ちてしまう。

セシリア「楓さん…はうっ！（ブシュウ！）」

シャル「だいじょう…ぶっ！（ブシュウ）」

ラウラ&鈴&椛「うっ！（ブシュウ）」

シルク「これは…（ツー）」

慌てて駆け寄るセシリアとシャルだが川に落ちてしまい楓の服が透けそれにより楓ＬＯＶＥズと楓が気になっていたシルクは鼻血を出す

ムッツリーニ「……無念！（ブシュウ！）」

愛子「ムッツリーニ君！」

刹那＆雄二「ぎゃあぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！目がぁぁぁぁぁぁぁ！！」

霧島「……雄二に見せられない」

木乃香「やな～」

月詠「見せませんどえ～」

それにムッツリーニも下着を見てしまい倒れてしまい、愛子が介抱し、刹那と雄二はそれぞれ好意を寄せられてる者達からの目潰しに目を抑えてゴロゴロ転がる。

ガメル「メズール、何で目を塞ぐの？」

ショカ「かっ？」

ギル「ぷっ？」

メズール「今は見せられないのよ」

本音「大変だね～」

虚「ですね」

メズールが精神が幼いグリードメンバーの目を隠し、フィン達を見てる本音と虚は転がってるメンバーを見て言う。

終「今度こそ！」

秀吉「待てい！棒ではないぞそれ！」

美波「ほぼ剣じゃない！！」

ヴァトル「ゴーカイサーベル使うなよ；」

意気込む終に秀吉と美波、ヴァトルがツッコミを入れる。

セシリア「楓さん！私とユニゾン・インしましょう！」

雄二「おい待て！それ別の奴だぞ！！」

シャル「させるか！」

シルク「私が！」

ラウラ「させん！」

そして楓に飛びかかろうとするセシリアの言葉に雄二はツッコミを入れて、それをシャルが止めて、今度はシルクが飛びかかろうとし

てラウラ達とバトルを開始する。

アンク「やれやれ…ん？」

それに呆れて頭を掻くアンクだったがある事に気づく。

アンク「（何だ？この欲望の気配は…）」

明久「あれ？どうしたのアンク？」

周りを見るアンクにスイカを分けた明久が来る。

アンク「いや…」

そう答えたがアンクは警戒する。

そんなアンクが感じた欲望を持つ椛、セシリア、鈴、シャル、ラウラを見ている影があり、何が目的だろうか…

ＩＳ＆Ｉｔ；インフィニット・ストラトス＆ｇｔ；黒き牙と永遠の月　川とスイ

リュカ「と言う訳でユートピアさんとのコラボでした！」

スネーク「最後に出た影は一体…」

クッパ「何者だろうな…」

ネス「感想を待ってます♪

スネーク「真王とのコラボだな」

フォックス「今度はロボット騒ぎか」

マリオ「ちなみに俺は出ない」

ネプテューヌから手伝って欲しいと言う連絡が来た用事があるマリオに変わり、明久とムッツリーニ、ソロとカービィとリュウケンドーが合流場所であるプリニー工場へ向かった。

ネプテューヌ「あれ？マリオさんは？」

ソロ達が着いて早々にネプテューヌは聞く。

ちなみに他にノワール、ブラン、ベール、ネプギア、ユニ、ロム、ラムがいる。

リュウケンドー「用事があって来れないから俺達が代わりに手伝いに来たんだ」

ノワール「そうなの？」

カービィ「うん、だから頑張るよ！」

ネプギア「お願いします！」

ソロ「ああ！それで手伝って欲しいって言うのは？」

リュウケンドーの言葉にノワールは聞き、カービィが元気良く言い、ネプギアが頭を下げた後にソロが力強く答えた後に聞く。

ラム「実はね～…プリニー教育係さんからこう依頼されたんだよ」

プリニー教育係『プリニーの中にどうも見慣れない奴が混じってるんだが、アレどう見てもロボットじゃん。そんなわけだからあとよろしく』

明久「…つまり、プリニーに似たロボットがいるから倒せば良いんだね？」

ベール「そう言う事なんです」

ムッツリーニ「……ちゃっちゃと終わらせる」

ソロ「そうだな」

ラムが話した内容に明久はそう聞き、ベールは頷き、ムッツリーニとソロが言った後に明久とムッツリーニは変身してプリニー工場に入る。

ネオス「相手はロボットだから…もしかしたら使えるかな？」

ブラン「使えると言うのは？」

ふと今回の事で顎に手を当てて呟くネオスに聞こえたブランが話しかける。

ネオス「ああ…ちょっとね」

ソロ「お喋りはそこまでだ…来たぜ」

頭を掻くネオスにウルトラゼロランスを構えたソロが言う。

そこにプリニーロボット２０体が来る。

ネオス「そんじゃあ行くよ！」

ロム「……カード？」

ネオスはカードを１枚取り出し、それにロムが首を傾げてる間に…

ネオス「１人の魔法少女の姿を借り、現われろ！Ｎｏ．３４！電算機獣テラ・バイト！！」

そう言うと同時にカードが光り、ネオスの前に光りが集まると、どことなく電子をイメージした服を纏った少女が現われる。

ベール「あら…」

ノワール「召喚！？」

ユニ「って言うか獣じゃなくて少女じゃない」

ネオス「そこは気にしないで…テラ・バイトの効果発動！相手を操れ！バグ・ウィルス」

ベールとノワールが驚いてる間にユニのツッコミにネオスはそう言った後に指示し、テラ・バイトは手に持ったビームガンでプリニーロボットの１体を撃つとそのプリニーロボットは隣にいたプリニーロボットを攻撃する。

ネプテューヌ「同士打ちか…色々とえげつないね…」

ネオス「まあ、手下の様な扱いだけに聞くんだよ」

ネクサス「……今のうちにやるぞ」

ネオス「そうだね…テラ・バイトは操れるなら操って攻撃出来るなら攻撃して」

テラ・バイト「（こくっ）」

ネプテューヌの言った事にネオスは頬をポリポリと掻き、ネクサスの言葉にネオスは同意した後にテラ・バイトに指示した後に動く。

ソロ「おりゃあ！」

ネプテューヌ「てい！」

ネプギア「ええい！」

ソロがウルトラゼロランスで吹き飛ばし、ネプテューヌがネプギアをフォローする様に動く。

ノワール「この！」

カービィ「スマッシュパンチ！」

ユニ「喰らいなさい！！」

ノワールとユニが武器を振るう隣でカービィはスマッシュパンチで吹き飛ばし…

リュウケンドー「おりゃあ！」

ブラン「えい」

ラム「やあ！」

ロム「……えい」

キーブレードとゲキリュウケンの二刀流で戦うリュウケンドーとブランとロム、ラムがそれぞれフォローしあう。

ベール「ええい！」

ネクサス「……遅い」

テラ・バイト「……」

ベールとネクサス、テラ・バイトがそれぞれの攻撃を避けたプリニーロボットを倒して行く。

リュウケンドー「これでラスト！」

そしてリュウケンドーが最後の1体を倒すとん～とネプテューヌは背伸びする。

ネプテューヌ「お疲れ様！」

カービィ「ねえねえ！此処の料理食べてみたいから案内してくれない！」

ノワール「良いけど…お金あるの？」

リュウケンドー「大丈夫！ちゃんとお金はあるから平気だ！」

カービィのお願いにノワールはそう聞き、リュウケンドーがそう言う。

ベール「それじゃあ報告した後に行きましょうか」

ムッツリーニ「……此処の料理はどんなのやら…」

その後、メンバーは料理を食べに行き、カービィの食べっぷりにネプテューヌ達は驚くのであった。

リュカ「と言う訳で真王さんとのコラボでした！」

スネーク「思いっきりネタバレだな」

フォックス「そうだな…」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂ライダー～異世界鎮魂歌～　第２１．５訓：冥王の怒りは触れてはいけない

スネーク「黒龍とのコラボだ！」

フォックス「タイトル通り、冥王関連」

ワリオ「やれやれだな」

冥王「むう…」

マリオ「不満か？」

ブロントさん「その気持ち、分かります」

不満げな顔で目の前を見る冥王にマリオは聞き、ブロントさんも不満げな顔で言う。

彼等の前で無縁と常識のない転生者達が戦っている光景であった。

銀次「それにしても…能力が消えてるのに戦えてるね…」

ブロントさん「まあ、少ししか使えないのは見てて確定的に明らか…」

何でだろうと首を傾げてる銀次にブロントさんはそう言う。

冥王「させ…何発撃てばトラウマ出来るかな？」

そう言ってストライクス・ハートを構えた冥王に３人は離れる。

冥王「全力突破！スターライト・バスター！ガトリングバージョン！！！」

そう言うと同時にストライクス・ハートから連続で砲撃が放たれる。

無縁&常識のない転生者ズ「ぎゃあぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！」

連続で撃たれた砲撃は無縁と常識のない転生者達を飲み込む。

冥王「バスターバスターバスターバスターバスターバスターバスターバスターーーーー！！！」

タレ銀「ストップ！冥王ちゃんストップ！！」

ブロントさん「流石に撃ち過ぎ！早く止めて！」

まだまだ撃そうとする冥王にタレ銀とブロントさんが止めに入り、冥王が収まった後にマリオ達は常識のない転生者を輪廻を送った後に真っ黒こげになった無縁に近づく。

ブロントさん「（ツンツン）びくともしませんね」

マリオ「これは流石に同情するな…」

無縁をツンツンしながら言うブロントさんと呆れた顔で無縁を見て言ったマリオの後に…

タレ銀「…返事がない。どうやら屍のようだ」

無縁「死んでないから！」

タレ銀の言葉に無縁はツッコミを入れながらガバッと起き上がらせる。

無縁「と言うかさっきの何!?砲撃なのに連続!?危うくまた少しの間だけ悪夢見そうだったぞ!」

冥王「だったらなが～く見られる様にゼロ距離をガトリングの如く放つの」

叫ぶ無縁に冥王が無表情でストライクス・ハートを無縁の鼻先に突き付ける。

無縁「俺オリ主なのになんでこんな目に遭うんだ!?」

ブロントさん「お前…まだ言ってんのか?オリ主と言うよりオリキャラ（笑）ですね」

タレ銀「さっきの砲撃でおかしくなったの?」

無縁「オリキャラ（笑）って何!?しかも痛い人を見る目で見ないでくれない!」

マリオ「事実だろ?」

冥王「事実痛い人なの」

ブロントさんとタレ銀の言葉に無縁は叫び、マリオと冥王が両断する。

無縁「なんだと!今は調子が悪いが俺は強いんだ!」

ブロントさん「能力がですね。お前自身弱いよ」

タレ銀「ホントに病院に行った方が良いよ」

無縁の叫びをブロントさんが一蹴し、タレ銀がそう言う。

フルフルと震える無縁を見てる時…

マリオ「！てい！」

無縁「ぐえっ！？」

気づいたマリオが無縁を蹴り飛ばし、無縁は蹴られながら転移するのを見ながら４人は避ける。

そこに魔力弾が来る。

マリオ「やれやれ…まだいるか…」

ブロントさん「汚い忍者より性質が悪い！」

目の前の常識のない転生者達にマリオはかぶりを振り、ブロントさんは叫ぶ。

マリオ「では…『死を背負うことこそが我々の使命だ。そう言って彼は戦場に向かった。』」

カードを取り出してテキストを読むとマリオの体を黒き鎧が覆い、最後にマリオは右手に現われた仮面を静かに装着し『仮面ライダーＧ４』に変身した。

右手に専用銃『ＧＭ－０１改四式』を持つと飛んで来る魔力弾を打

ち抜き、常識のない転生者を打ち落とす。

Ｇ４「安心しろ、ゴム弾だ…人によるが気絶程度に抑えられている」

意識をない転生者達にそう言うと次に向かう

銀次「喰らえ！！」

ブロントさん「ハイスラッ！！」

隣では銀次とブロントさんがなぎ払っている。

冥王「今回は私の怒りが爆発してるの！レイジングジャベリン・バースト！セットオン！」

そして冥王は物凄いオーラを出しながらレイジングジャベリン・バーストを構えると連続で常識のない転生者達を連続で攻撃して行く。

冥王「五月雨突き（さみだれづき）！二双魔神斬り（にそうまじんぎ）！月紅斬（げっこうざん）！！！」

鬱憤を晴らす様に冥王はどんどん技を出して行く。

銀次「うわぁ…；」

ブロントさん「これはシャレにならんでしょ；」

Ｇ４「こりゃあ早く終わりそうだな…」

それに銀次、ブロントさんは冷や汗を掻き、Ｇ４はそう呟く。

数分後、冥王により転生者の山が出来たのであった。

銀時「ねえねえ、お宅のお連れさん、何かあったのか？」

翠屋でお茶を飲んでるマリオに銀時は聞く。

冥王「どんどん持ってきてなの！」

美由紀「あっ、はい！」

そこに、翠屋のメニューを大量に食う冥王がいた。

ちなみに今は髪を下ろして魔法で目の色を変えている。

マリオ「まあ…ちょっとしたな」

銀次「うん、ちょっとね…」

ブロントさん「アレ見てるとお腹いっぱいになります；」

銀時「確かに…」

苦笑するマリオと銀次の隣で言ったブロントさんの言葉に銀時は納得する。

なお、冥王が食べた分はマリオが払いました。

リュカ「と言う訳で黒龍さんとのコラボでした」

フォックス「大食いだったんだな…」

スネーク「と言うか砲撃をガトリングで放つって…」

ネス「感想を待ってます♪」

HERO's EPISODE～ヒーローズエピソード～ 番外編第2話「そ

スネーク「ケンとのコラボだ！」

フォックス「悩んでる統夜達にな…」

ネス「ちょっとしたアドバイス～」

HERO' s EPISODE～ヒーローズエピソード～ 番外編第2話「それは愛する人、統夜の使う力、魂を喰らう蒼炎の力を知った事で悩んでいた。」

とある日、はやてと文乃、千世、希、プリムラ、カナ、エステル、優子、秀吉、咲夜、華琳、雪蓮、シャル、メアリ、所轄統夜ラバーズは悩んでいた。

文乃「困ったわね…」

はやて「そうやな…」

何で悩むかは彼の蒼炎の力を危惧して誰かが彼を暗殺しようとする者が現われるのではないかと言う事である。

優子「どうすれば良いかしら…」

カナ「私達に出来る事ってあるかな～」

誰もがう～んと唸ってた時…

？？？「何を悩んでるの？」

はやて「ん？なのはちゃ…ん？」

かけられた声にはやてが振り向いて驚く。

顔はなのはだが格好とかスタイルが知ってるのと違うからだ。

華琳「あなた何者?」

雪蓮「どこから来たのかしら?」

華琳と雪蓮がその女性の中にある強さに身構える。

冥王「私は冥王!マリオの仲間と言えば分かるかな?」

秀吉「なんと!?前に来た仮面ライダーに変身したお方の仲間じゃのか?」

咲夜「と言うか何でなのはそっくり?」

冥王の名乗りに秀吉はマリオ達を思い出して言い、咲夜が聞く。

冥王「偶然なの。世の中には似た人がいたっておかしくないの」

千世「それは…」

エステル「そうですけど…」

希「にゃあ…」

冥王の言葉に千世、エステル、希は顔を見合わせる。

シャル「それにしても…何で話しかけたの?」

プリムラ「何で?」

冥王「悩んでいたからなの…どうしてかな？」

メアリ「それは…」

シャルとプリムラの問いに冥王はそう言った後に聞き、メアリは周りの皆を見た後に自己紹介してさっきまで悩んでいた事を言う。

冥王「成る程なの…そういう時はあんまり1人にさせない方が良いの、それ以外では本人が道を踏み外さない様に見守るの。そしてその人の背中や帰る場所を守ってあげるの」

優子「確かに暗殺とかは1人の時に狙って来るもんね」

はやて「やな…」

プリムラ「帰る場所を…」

秀吉「守るか…たしかにそうじゃのぉ…」

冥王の言葉にプリムラと秀吉が呟き、他のメンバーも冥王の言葉をかみ締めていた。

違う所で統夜も悩んでいた。

統夜「どうやれば…叩き落せるんだ…」

う～んと唸ってセイラのような歪んだ存在を絶望の淵に叩き落とす事に統夜が悩んでいた所に…

マリオ「よう統夜」

ルイージ「こんにちわ」

そこにマリオとルイージが来る。

統夜「あんた等か…他の皆はいないのか？」

マリオ「明久と康太にリュウケンドーとギル達はこの世界の明久達に会ってるよ」

ルイージ「それにしても…統夜君は何悩んでるの？」

周りを見て言う統夜にマリオはそう言い、ルイージがそう聞く。

統夜「あっ、分かります？」

ルイージ「遠くから見てもね…」

マリオ「まあ、聞く前に…」

統夜の言葉にルイージは苦笑し、マリオが言う前に3人はその場を飛び退り…今までいた場所を攻撃が来る。

統夜「何だ！？」

マリオ「やれやれ…転生者か…」

驚く統夜にマリオは頭を掻きながら現われた集団を見て言う。

マリオ「狙いは統夜か…」

統夜「マジかよ…俺何かやったか？」

マリオ「怨みは何も無くても、狙うのは成り代わろうとするか、力を恐れてだな…どうやらこの場合は後者のようだな…」

静かに言うマリオに統夜は聞き、マリオは表情を見て言う。

現われた者達は統夜達の世界にやって来た数名の転生者で統夜の持つ蒼炎の噂を聞き恐怖を抱き始末しようとこうして動き出したのだ…

マリオ「やれやれ…統夜、此処は任せろ」

そう言うとマリオはゼロバックルを装着する。

マリオ「カメンライド！」

ゼロバックル「ライダーアップ」

叫ぶと同時に聞こえてきた音声の後にマリオは仮面ライダーゼロに変身し、ゼロブレスレッドにカードを装填する。

ゼロブレスレッド「アタックライド！イリュージョン！」

音声と共にゼロは5人に分身し、それぞれ別々のカードを取り出す。

ゼロ1「『強さは別格だがな』」

ゼロ2「『言ったはずだぜ、半人前にはまだ早いってな。』」

ゼロ３「『桜吹雪の中で彼が大見得をきると、戦場はさながら舞台のようであったという。』」

ゼロ４「『バラの花言葉は‘愛’　愛と共に散りたまえ』」

ゼロ５「『心優しき仮面の戦士、その素顔に秘めた思惑を知る者はなかった。』」

そう言うと同時にそれぞれ別々の変身ツールを持ち…

ゼロ１「変身」

デンオウベルト「ネガフォーム」

ゼロ１はデンオウパスとデンオウベルトで『仮面ライダーネガ電王』に…

スカルメモリ「スカル！」

ゼロ２「変身」

ロストドライバー「スカル！」

ゼロ２はスカルメモリとロストドライバーで仮面ライダースカルに…

キ～～ン

ゼロ３は音叉を鳴らした後に額に持っていき…

ゼロ３「カブキ！」

叫ぶと同時にその姿は『仮面ライダー歌舞鬼』に…

ゼロ４「変身」

カブティックゼクター「ヘンシン、チェンジ・ビートル」

ゼロ４はライダーブレスとカブティックゼクターで仮面ライダーコーカサスに…

ゼロ５「変身！」

グレイブバックル「オープンアップ」

そしてゼロ５はグレイブバックルで『仮面ライダーグレイブ』に変身した。

統夜「凄い…さっきウルトラマンの様な仮面ライダーに変身したと思ったら劇場版ライダーに変身って…」

目の前に並び立つ５人のライダーに統夜は驚きの言葉が口から漏れた。

そして５人のライダーは走る。

グレイブ「たっ！」

ネガ電王「とあっ！」

グレイブとネガ電王がそれぞれグレイブラウザーとネガデンガッシ

ャーで転生者達を吹き飛ばし…

歌舞鬼「おりゃあ！」

2人により吹き飛んだ転生者を歌舞鬼が複数の組縄で縛って上へ投げるとそこをスカルがスカルマグナムで撃ち落として行く。

コーカサス「ハイパークロックアップ」

ハイパーゼクター「ハイパー・クロック・アップ」

そして落ちる所をコーカサスがハイパークロックアップでまた高く打ち上げる。

ハイパーゼクター「ハイパー・クロック・オーバー」

コーカサス「そろそろ決めよう」

統夜「俺もやるぜ！」

止めを決めようとする所でアドヴァンスメサイアを起動させた統夜が来る。

スカル「それじゃあ行くか…『火竜のウロコと熱き魂でできたこの装甲、冷やせるものならやってみろ。』」

スカルがそう言うとカードを取り出してテキストを読むとスカルの体に、装甲『アクセルテクター』が装着され手には、ドリルが先端に付いたツール『デュアルクラッシャー』が出現するとスカルを他のライダーが支える。

スカル「決めるぞ統夜！」

統夜「ああ！…ターゲットマルチロック！」

スカル「デュアルクラッシャー…ドリルヘッド！！」

統夜はエネルギーを集束し、デュアルクラッシャーのドリルヘッドが回転を始める。

スカル＆歌舞鬼＆グレイブ＆コーカサス＆ネガ電王「コラボレーション！」

統夜「フルバースト！！」

それぞれの叫ぶと共に統夜の一斉放射とスカル達の放った一撃が１つとなって転生者達へ炸裂した。

スカル達は落ちて来る転生者達の額にカードを投げ付けて貼り付けると転生者達は消えて行った。

統夜「何したんだ？」

ネガ電王「輪廻へ送ったのさ」

統夜の問いにネガ電王はそう言うと１人に戻り、変身を解く。

統夜「この先、ああ言う輩が俺を狙ってくるのかね…」

マリオ「まったく困ったもんだな…」

ため息を吐く統夜にマリオも疲れた表情で言う。

マリオ「まっ、そう言う奴等に負けるなよ統夜！」

統夜「ああ！」

それぞれ力強く握手した後にはやて達と冥王が来て統夜ラバーズが帰る場所を守ると言い、それに冥王に驚いていた統夜はまた驚いたが頼んだ！と言った後にちょっとしたパーティをした。

統夜「何だそれマリオ？」

マリオ「ザビッシュパイって奴でこれがなかなか美味いんだよ」

H明久「どれどれ…ぐばっ！？」

S明久「この世界の僕ぅぅぅぅぅ！？」

ルイージ「あれ、激まず料理なんだよ；」

雄二「良く食べれるな；」

S康太「……これを食べた大食い2人とその他数名が倒れた」

H康太「……恐ろしい…」

ちょっとしたハプニングもあったが…

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

蛇八「久々のキャラ質問！ペンネーム『黒龍』から『黒龍「こんな感じでお願いします。あ、そう言えば無縁」

無縁「なんだ？」

黒龍「悪夢は見る」

無縁「そんなの見るわけねぇだろ。あんな攻撃で」

黒龍「やっぱりですか。じゃあ最後に質問します」

新八「皆さんに質問です！最近読者から罵詈雑言が絶えません！！しかもこっちやって来て攻撃までしてきます！！なんとかしてください！！」

黒龍「ルイージに質問なんですけど、ロリコン落ちしたぱっつぁんを見てどう思いますか？」

神楽「マリオに質問ネ。このロリコンダメガネはバカな転生者より性質悪いからいっその事鉄拳制裁して欲しいねネ」

新八「ちょっとォォォォォォ！！！あんたらドS過ぎでしょ！！」

神楽「うっさいアルエロザル」

ドカッ！！

新八「ゴハッ！！」

新八は神楽に殴られた。

黒龍「次のコラボも楽しみにしています」『…ホントに新八の奴は大変だな；」

マリオ「流石にやり過ぎだろう；」

ピット「確かに攻撃とかね…」

ネス「マジやばいから新八さんに強く生きて欲しいね；」

リュカ「うん；」

ルイージ「何で新八君ばっか！後！新八君の扱いがマジ酷い！！」

マリオ「新八よりも神楽、お前に鉄拳制裁しようか？＃」

蛇八「（怖いな…）…『黒龍』！こっちだと無縁がギャグキャラでちょっと長編の最後が変わると言う事を言って置くぞ！」

銀八「今回は此処まで！」

HERO'ｓ　EPISODE～ヒーローズエピソード～　番外編第2話「そ

リュカ「という訳でケンさんとのコラボでした～」

フォックス「と言うか最後:;」

スネーク「葉月から貰った奴出たよ:;」

ワリオ「だな:;」

ネス「感想を待ってます♪」

東方欲望録～全ては欲望を満たすため～＆レッツゴー仮面３　極・スピンオフ！

スネーク「今回はフロストの『東方欲望録～全ては欲望を満たすため～』の名無と錬矢含むグリード集と仮面３の『レッツゴー仮面３　極・スピンオフ！　ショート茶番劇場２０１１』より魅空と天子（ガメル）と星（カザリ）にフヨウがゲストで出るぞ！」

フォックス「んでタイトル…」

ワリオ「だな…」

ゼロ「と言う訳でゲスト呼ぶぞ！」

明久「いきなりですね；」

ウヴァ「それは良いが…」

東京ドームの様な場所で言うゼロに明久は冷や汗を流して隣でウヴァはある人物を見る。

ギル「ぷっ？」

首を傾げるギルだがその姿はグリード態ではなく、紫の地面に流れ付く程の髪に紫の瞳、プテラノドンを模した髪飾りを付けてスタイルはボン・キュ・ボンな体を黒のタンクトップの上に袖なしトリケラのレリーフが入った紫のジャケットを羽織り、白い短パンを履いていてティラノザウルスの尻尾が生えた美少女の姿であった。

ウヴァ「何でギルがこうなった！？」

カザリ「ほら、マリオの質問に魅空はどう答えたか覚えてる？」

アンク「確かどんなに妄想しても美少女に擬人化出来ないだったか？」

メズール「この結果がこれよね」

ショカ「かっか♪」

ギル「ぷっ♪」

ウヴァの叫びにカザリがそう返し、アンクがそう返し、メズールが苦笑して、じゃれてるショカとギルを見る。

ゼロ「と言う訳で召喚！」

ゼロブレスレッド「サモンライド！フロスト！仮面３！！」

音声と共にフロストさんの所の名無と錬矢を含んだグリード集、そして仮面３さんの所の魅空に天子と星（ガメル　カザリ）とフヨウが召喚される。

ゼロ「ウェルカム！スマッシュ ハーツブラザーズ出張版の世界へ」

黒狼「こんにちわ錬矢さん」

錬矢「おう！久しぶりだな」

ゼロが言った後に黒狼が錬矢に駆け寄り、錬矢は笑った後に握手する。

Fウヴァ「ようそっちの俺達、これ俺が育てた野菜類だ」

ウヴァ「ありがたく貰ってやるよ」

カザリ「見事なのうかウヴァだよね」

Fカザリ「そうだね…」

星「ねえねえ！何で僕だけ憑依してる人の名前！？後こっちのガメルも！」

アンク「理由言うなら…楽だからのと3人ともカザリと打つのがめんどいからだ！」

Fカザリ&星「何そのメタな理由！？」

カザリ「見事なツッコミだね～」

ウヴァに野菜を渡すFウヴァを見てカザリがそう言い、Fカザリも同意する中で星がそう聞き、アンクの言葉にツッコミを入れるFカザリと星にカザリが言ってる間…

天子「メズール～～」

メズール「良し良し、こっちのガメルは女の子だからカワイイわね」

Fメズール「そうね」

ガメル「お菓子喰う？」

Fガメル「食べる～」

天子「俺も～」

こちらはほのぼのしていた。

魅空「んで俺達を呼んだ理由何？後、そこの美少女は誰？」

アンク「ギルだ」

魅空が前半、変身を解いたマリオに聞き、後半はギルを見て聞き、
それにアンクが言う。

魅空「……ワンモア？」

アンク「ギルだ」

魅空「……ワンモアプリーズ？」

アンク「だ・か・ら！ギルだ！！」

アンクの一言に固まってもう2回聞く魅空にアンクは叫ぶ。

仮面3側一同「はいぃぃぃぃぃぃ！？」

ウヴァ「驚くよな…」

カザリ「まあ、当然の反応だよね…」

驚いてる魅空達を見てうんうん頷くウヴァとカザリでギルはとこと
こと魅空に近づく。

ギル「ぷっ？」

魅空「……」

一瞬の停止の後…

魅空「ぐばっ！？」

フヨウ「魅空！！」

星「飛んだ！？」

カザリ&Fカザリ「何で！？」

ギルの首傾げに魅空は吹き飛び、それにフヨウと星は驚き、Wカザリがツッコミを入れる。

魅空「くっ！なんて威力だ！」

Fアンク&アンク「訳わからん」

錬矢「んで？ホントに呼んだ理由は？」

マリオ「ああ、名無と魅空に黒狼と戦って貰おうと…無論コンボで」

Fアンク&魅空「はあ！？」

起き上がって鼻を拭う魅空にWアンクがツッコミ、錬矢が聞き、マリオの言葉にFアンクと魅空は驚く。

魅空「待て待て！俺はコンボ長時間無理だし後メダルとか！」

Fアンク「名無も同じだ…長時間は無理だぞ」

魅空が手を振り、Fアンクが顔を渋くする。

マリオ「だから此処へ呼んだんだよ…此処はオーズの負担を無くすのとデメリットを無くす為の力を知り合いの常識のある神様に頼んで張って貰った建物だからな…後、メダルは魅空へはこっちのを貸すから」

Fアンク「おい、そう簡単にメダルを貸すってな…」

マリオ「勿論、終わったら返して貰うさ」

魅空「報酬は？」

星「君も何聞いてるの！そう言うの無いでしょ！」

マリオ「あるよ」

Fカザリ&星「あるの！？」

マリオの言葉にFアンクはそう言い、マリオがそう返すと魅空がそう聞き、星がツッコミを入れる。

マリオ「2人が戦うこっちにしかないオーズのコンボのメダルをどっちにも渡す」

名無「興味深い！そっちにしかないコンボを是非見てみたい！」

魅空「そうだな…「ちなみにお前の方はスピンオフのだから本編じゃないぞ」…ちぇ」

そんな訳で2人はそれぞれ必要なメダルを貸して貰った後に変身した。

ＦオーズＬＣ「確かに普段来るのを感じないな」

ＫオーズＧＣ「おお！長時間いられるって良いな！」

変身してしばらくして名無が変身したＦオーズＬＣは手を動かし、ＫオーズＧＣは腕を回しながら嬉しそうに言う。

黒狼「行きますよ」

そう言って黒狼は右側に赤色のメダル、シャウトモンメダル、真ん中に青色のメダル、バリスタモンメダル、そして左側にオレンジ色のメダル、ドルルモンメダルを装填する。

黒狼「変身！」

オーズドライバーＣ「シャウトモン！バリスタモン！ドルルモン！シャバル！シャバルゥゥゥ！！シャバル！！」

オースキャナーでスキャンし、叫ぶと同時に歌が響き、頭がシャウトモンＸ３の頭を模したヘッドで緑色の目の『シャウトヘッド』、腕は肩のバリスタモンとドルルモンの顔を無くした『バリスタアーム』、足はシャウトモンＸ３の足『ドルルレッグ』の本来は攻撃に使うデジメダルのを使ったデジモン系コンボ『仮面ライダーオーズ・シャバルコンボ』へ変身した。

ＦオーズＬＣ「それがそちらにしかないコンボ！」

ＫオーズＧＣ「んじゃあ行くぜ！」

ＦオーズＬＣが歓喜の声を上げてる間にＫオーズＧＣが分身してオーズＳＹＣに突撃する。

オーズＳＹＣ「行きます！」

そう言うと右手にＶ字型のブーメランが出現する。

オーズＳＹＣ「ビクトライズブーメラン！」

出現したそれをオーズＳＹＣは投げると向かって来たオーズＧＣを攻撃する。

ＫオーズＧＣ「おっと！」

ＦオーズＬＣ「今度はこちらだ！」

ブーメランを本体ＫオーズＧＣが避けた直後にＦオーズＬＣが向かって来る。

オーズＳＹＣ「おっと！」

来たトラクローをメダジャリバーで押さえた後にそれぞれ後ろへ飛び退る。

オーズＳＹＣ「此処からがシャバルコンボの特徴を見せます！」

ＦオーズＬＣ「それは楽しみだ」

ＫオーズＧＣ「ってかどうするんだ？」

FオーズLCはワクワクし、KオーズGCが首を傾げてる間にオーズSYCは右腕に付けている3つのメダルを入れる『クロスカテドラル』に2枚のメダル、メタリックイエローのメダル、スターモンズメダル、黄色のメダル、スパロウモンメダルを装填するとオースキャナーでスキャンする。

クロスカテドラル「スターモンズ！スパロウモン！X5！！」

音声と共にオーズSYCコンボの左腕にスパロウモンの体を模したレーザーガン『スパロウガン』を右手にスターソードが握られ、背中にスパロウモンの翼『スパロウウィング』が装着され、顔がシャウトモンX5の顔を模した顔へと変化する。

KオーズGC「はい！？マジかよ！」

FオーズLC「まさか3枚以上のコアメダルを使ったコンボなのか！？」

変化したその姿と3枚以上のメダルを使ってのコンボに2人のオーズが驚くが外野も驚いていた。

星「嘘！？何あのコンボ！？」

錬矢「こりゃあ驚きだな…」

Fメズール「5枚を使うコンボって…」

マリオ「まだあの姿以外にあるぞ」

Fウヴァ「そりゃあ凄いな！見てみたいもんだ！」

Fカザリ「そうだね」

ガバッと前に乗り出す星に錬矢も表情では出してないが目が驚きを表していて、Fメズールの言葉にマリオがそう言い、Fウヴァは興奮して言い、Fカザリも見ながら言う。

アンク「ちなみに此処で分けるぞ」

星&Fカザリ&カザリ「そうなんだ!!?」

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生!蛇八先生!」

蛇八「それじゃあペンネーム『ユートピア』から『終「誰だって悩みなんかあるだろ」

楓「そう、ですね」

終「まっ、解決するのはそいつ自身だ。マリオに質問、色々言うが、お節介だって言われた事無いか?」

楓「グリードの皆さんにケーキ持っていきますね」↑ケーキ持ってそちらへ』…ケーキについてはグリード集は凄く喜んでたぞ」

銀八「それじゃあマリオ答えなさい！」

マリオ「そりゃあ関わったからにはそのままにしないで手伝うから時たま言われるな」

銀八「との事です！『ユートピア』さん！そちらも頑張って下さい！」

蛇八「次はペンネーム『ケン』から『統夜「また一つ・・・教わったな・・・」

はやて「冥王さん・・・ありがとな・・・」

二人はマリオと冥王に礼を言った。

瑞希「明久君！？しっかりしてください！！」

美波「アキ！！死んだら駄目よ！！」

小蓮「明久・・・死んじゃいやだよ！！」

早苗「明久様！しっかりしてください！！」

明久ラバーズは倒れている明久を介抱していた。

統夜「災難だな・・・明久・・・質問するか・・・マリオに質問だ。スーパーマリオＲＰＧに出て来たマロやジーノと遊んだりしている

か？」

はやて「私は・・・ルイージに質問や。スーパーマリオ６４にてパワースター全１２０枚入手に挑戦してみたいですか？」

俺からは・・・マリオに質問だ。マムーやカジオー、クリスタラーのようなボスキャラに対してどう思っていますか？』…と言う訳で答えろ！」

マリオ「そりゃあ遊んでるぞ～後、３番目は常識の無い転生者より強敵だった」

ルイージ「あはは…兄さんがしてるのをやると大変だから機会があればね；」

銀八「との事です『ケン』さん、そっちの小説頑張って下さい！！」

蛇八「今回は此処まで！」

東方欲望録～全ては欲望を満たすため～&レッツゴー仮面3　極・スピンオフ！

ネス「と言う訳で分けてやります」

スネーク「あんまりないだろうな…オリジナルのオーズ系ライダーで3枚以上のコアメダルを使うのはいるけどオーズで3枚以上使って変化するコンボはあんまりないだろうな…」

フォックス「だな…」

リュカ「感想を待ってます！」

ほぼオールキャスト！皆でバカ騒ぎ！　ラストパーティー編（前書き）

スネーク「と言う訳でプリニーラハールのリクエストでラストだ！」

フォックス「色々とあったな…」

クッパ「ホントなのだ；」

ほぼオールキャスト！皆でバカ騒ぎ！　ラストパーティー編

シン「こんにちわ」

マスター「おお！君がシンだね。話は聞いてるよ。座標設定を手伝うよ」

シン「ありがとうございます！それでこっちの皆は？」

マスター「ああ、楽しんでるよ」

神様メンバーが話してる間…倒れていたメンバーも復活してプリニーラハールメンバーがそろそろ帰るのでパーティーもそろそろ終わりに近づいていた。

リュウケンドー「そろそろ帰るんだな」

レオン「まあね」

チルノ「また修行しようね～」

カイト「ああ！」

白蓮＆文＆早苗＆大妖精「……」

ゴードン「（何やら見ている人達がいるな…何でだろう？）」

ジェニファー「（もしかして…）」

リュウケンドーとレオン、チルノとカイトが話してるのを羨ましそうに見てる4人にゴードンは首を傾げ、ジェニファーはそれを見てくすりと笑う。

ピーチ「は～い皆ケーキ出来たわよ～」

そう言ってケーキを持ってピーチが来た。

マリオ「おっ！待ってました！」

それにマリオが喜び、スマブラメンバーも喜んだが…ピーチの後ろから魔王姫路や姫路にアイリンが来た事で数人集まる。

ルイージ「（ちょ！やばくない？）」

フォックス「（ああ、ピーチ姫は料理はめっちゃダメだがケーキは超一流なのにあのメンバーじゃあやばいぞ！！）」

魔王明久「（確かに、思いっきりやばい！）」

雄二「（どうするんだ！マリオさんに食べて貰うか？）」

魔王雄二「（何！？姫路の料理を食べれる奴がいるのか！？）」

康太「（……思いっきり平気だ）」

魔王秀吉「（ぬう…関心すれば良いのか呆れれば良いのか分からぬのう…）」

クレス「（普通に呆れの方かな？）」

それぞれ知ってるメンバーが話してる間…

カズマ「美味そうだな」

エニクス「食べよう食べよう」

マリオ「おう、美味いから食べろよ♪」

威力を知らないカズマとエニクスがマリオに勧められて一口食べる。

パクッ

バタン！

ババババババババババババババ（魂が削り取られる音～）

ミア「カズマ!?」

プリニー（触覚付き）「何があったッス!?」

ドクター「いかん!」

倒れて痙攣する2人にミアとプリニー（触角付き）は驚き、ドクターが介抱する。

カノンカ「もしかして…」

シロ「料理が凄いんですか?」

チェスター「アーチェ並みなんだよあの娘たち;」

クレス「ピーチ姫はケーキだけ一流なんだけどね;」

それを見ていたカノンカとシロが冷や汗を流してるとチェスターとクレスが言う。

魔王ラハール「（やっ、やばいぞ、あっ、あっ、あれは!!（ガタガタブルブル））」

魔王プリニー「（餅つく…じゃなくて落ち着くッス殿下!）」

魔王エトナ「（けど、あれをマリオに全て食べて貰えば良いじゃない?）」

スネーク「（確かにそうだが…）」

震える魔王ラハールに魔王プリニーが宥め、魔王エトナがもっともな事を言うがスネークはマリオを見る。

マリオ「他の皆も食べろよ～」

笑顔でケーキを食べるマリオにピーチ姫は頬を真っ赤に染めて見ている。

ヨッシー「行きますよ!」

カービィ「おう!」

秀吉「（特攻する気じゃ!）」

優子「（ちょっとアンタ達！危ないわよ！）」

魔王優子「（そっ、そうよ！あれはやばいわ！）」

鉢巻を巻くヨッシーとカービィに秀吉が言った後に優子と魔王優子が止めに入るが…

大食いには！食べ物あるなら食べなきゃならない！ｂｙ大食いコンビ

ヨッシー&カービィ「うおぉぉぉぉぉぉぉ！！！」

バクバクバクバクバク！

ヨッシー&カービィ「うまっ！ごばっ！！？」

バタン！

ドバババババババババババ（魂がドリルで削られる音）

心のポエムを浮かべた後にヨッシーとカービィは勢い良く食べて倒れた後にドクターに介抱される。

クッパ「（勇気ある者達に敬礼！）」

ネス「（そして合掌（一人一））」

運ばれるカービィとヨッシーをクッパと一部のメンバーが敬礼し、ネスと一部が合掌する。

幽々子「2人共…それなら私もね」

妖夢「幽々子様！？」

紫「さっ、流石に止めといた方が良いわよ幽々子；」

ミスティア「そうだよ；」

ルーミア「止めた方が良いぞ同士」

2人がした様に鉢巻を巻く幽々子に妖夢は驚き、紫、ミスティア、ルーミアがそう言う。

大食い仲間がやったならやらなきゃ大食いが廃るわｂｙ幽々子

幽々子「では…」

モグモグモグモグ

幽々子「私、起きたらミスティアを（ピーな意味で）食べるわ…はふぅ…」

パタリ

ババババババババ（魂が削られる音～）

2人がやった様な心のポエムを言って上品に沢山食べるとそう言い残して倒れる。

妖夢「幽々子様ぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！」

紫「幽々子ぉぉぉぉ！それ死亡フラグ！！」

ミスティア「と言うか何で言い残すのが私を食べる事！？」

ルーミア「見事な塵ざまであったぞ同士」

妖夢が駆け寄り、紫とミスティアがツッコミを入れてる間にルーミアは涙を流しながら敬礼する。

サイサリス「おりゃあぁぁぁぁ！！」

ゼフィランサス「おふっ！？」

こっちでは残ったケーキをサイサリスが掴んでゼフィランサスに食わせていて、食べさせられた本人は倒れた。

マリオ「…何で皆倒れたんだ？」

ピーチ「きっとあまりにも美味しいから倒れたのね～」

アイリン「（そうじゃないけど…やっぱり本家いるとダメね；）」

デスティニー「（あんた等は…）」

ダークエリザベス「（正直、食べなくて良かったな）」

エリア「（確かに、こっちの明久が食べなくて良かった…）

首を傾げるマリオにピーチはそう言い、アイリンは冷や汗を流して

デスティニーがツッコミを入れる。

倒れたメンバーが復活した後に別れの時が来た。

明久「頑張ってね僕！」

魔王明久「うん！」

康太「……検討を祈る」

魔王康太「……そちらもな」

魔王ラハール「これで気にせずに着れるぞ～」

ゼフィランサス「ははは、喜んで貰えて光栄だよ～」

レオン「また遊びに来てね」

カイト「歓迎するからね」

リュウケンドー「ああ！」

スターゲイザー「オ元気デ」

サーズデイ「ソチラコソ」

ノワール「頑張れよ」

ピット「頑張ってね」

エニクス「うん」

プリニー（触覚付き）「はいッス！」

クレス「大変だろうけど頑張ってね」

カズマ「ああ！」

ミア「（変わんないわね…こちらのクレス達も…）」

それぞれ別れの挨拶をした後に元の世界に戻ったのであった。

シン「それでは」

マスター「お互いに頑張ろう」

そして送った本人のシンも帰った後にそれぞれ後片付けするのであった。

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

蛇八「と言う訳でやるぞペンネーム『武田軍兵士　清坂　剣麻』から『美己「マリオ以外に質問しますっとミサカは問います。・・・・・混ぜ御飯（マリオが食ったアレ）を食べれますかっとミサカは問います」』…答えよう」

マリオ以外「無理（です）（だ！）（だよ！）！！」

銀八「との事です。『武田軍兵士　清坂　剣麻』さん！廊下に立ってなさい！」

蛇八「今回はここまで！」

ほぼオールキャスト！皆でバカ騒ぎ！　ラストパーティー編（後書き）

フォックス「と言う訳でプリニーラハールのリクエストだ！」

リュカ「色々楽しかったね」

ネス「うんうん」

シャドウ「ハプニングもあったが…」

ゴールド「感想を楽しみにしてるぜ♪」

IS<インフィニット・ストラトス>黒き牙と永遠の月　謎のヤミ

スネーク「ユートピアとのコラボだ！」

フォックス「今回また楓が！」

ワリオ「と言うか主人公なのに攫われ過ぎじゃね？」

ネス「本編でもね～」

明日菜「意外だったわね」

長瀬「そうだな…」

さっき見た事に明日菜は呟き、長瀬が同意する。

終は森が近くにあると聞き目を輝かせながら狩りだー！と叫び森に入って言ったのだ。

一夏「しゅ、終の意外な一面を見たな」

箒「ああ…」

束「何を取るのやら～」

千冬「…普通のを頼むぞ」

楓「何を持ってくるんでしょう？」

終の行動に唖然としていた楓達もそれぞれ口々に何を取って来るのかを話し合う。

数分後

終「お～い鮭が取れたぞ～」

キングスカッシャー「何で熊も一緒なんッスか！？」

熊に乗って帰って来た終にメンバーは唖然としてキングスカッシャーがツッコミを入れる。

終「仲良くなったんだよ。なっ？」

熊「（コクコク）」

熊の頭を撫でながら言う終に撫でられてる熊は頷く。

あやか「あら？音無さんどうしました？」

それにあっけに取られていたあやかが顔を赤くして少しモジモジしてる楓に気づいて聞く。

楓「ちょっ、ちょっとお手洗いに行きます」

セシリア「そっ、それでは私も」

鈴「あたしも」

シャル「僕も」

ラウラ「私も」

椛「同じく」

シルク「私も」

一夏「待てい！」

カザリ「絶対それ以外に目的あるよね！？」

千雨「はいはい待っとけ」

思いっきりお手洗い以外に目的を持ってるだろう楓ＬＯＶＥズを一夏が止め、カザリと千雨が手伝って足止めしてる間に楓は森に入って行く。

千冬「まったく、お前達はもうちょいプライバシーを考慮しろ！」

楓ＬＯＶＥズ「はい…」

千冬に正座させられ、楓ＬＯＶＥズは頭を垂れるが不満ですと表すオーラを出している。

姫路「それでお菓子どうします？」

明久「先生達が来たらスイカと一緒に食べようか」

秀吉「色んな意味でうやむやになったしのう…」

雄二「此処は腹を括るか…」

姫路の問いに明久がそう提案し、秀吉と雄二は顔を見合わせて言う。

優子「それにしても遅いわね…」

霧島「……数分は立っている」

美空「確かにこれは遅すぎだと…」

優子は森を見て呟き、霧島が腕時計を見て言い、美空が言ってる途中で…

楓「きゃあぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！」

森から楓の悲鳴が聞こえた。

楓ＬＯＶＥズ「楓（さん）！！」

明日菜「あっ、ちょっと！」

ネギ「行きましょう！」

それに素早く楓ＬＯＶＥズが動き、ネギの掛け声の後に全員が後を追う。

そして着いた先には蜘蛛のヤミーと刀のヤミーが居た。

ウヴァ「何だあのヤミー！？」

カザリ「あんなヤミーは見たことないよ！」

終「一夏！」

一夏「ああ！」

2体のヤミーにウヴァとカザリが驚いてる間に終と一夏はモバイレーツとレンジャーキーを取り出す。

終＆一夏「豪快チェンジ！」

モバイレーツ「「ゴーカイジャー！」」

音声と共に2人は変身を終えた後に終と一夏はゴーカイジャーに豪快チェンジし終は刀のヤミー、一夏は蜘蛛のヤミーと戦い出す。

黒狼「僕も行きます！変身！」

オーズドライバーC「タカ！トラ！バッタ！タ・ト・バ！タトバ！タ・ト・バ！！」

黒狼もオーズに変身するとどこからともなく屑ヤミーが現われる。

メズール「屑ヤミーも出るなんて…まさかこの世界にオリジナルのグリードがいるの！？」

アンク「（あのヤミーから感じる気配…俺がさっき感じた欲望と同じ！ぬかった！）」

屑ヤミーと戦うオーズを見ながらメズールは現われた屑ヤミーに驚き、アンクは2体のヤミーの気配を見て舌打ちする。

ウヴァ「俺たちも行くぞ！」

ヴァトル「それ賛成！」

カザリ「行くよ！」

ヴァトル達も変身してオーズを援護する。

ゴーカイブルー「豪快チェンジ！」

モバイレーツB「ジェーットマン！！」

一方、刀ヤミーと戦うゴーカイブルーはブラックコンドルにブリンガーソードを構えて刀ヤミーの刀とぶつかり合い、ブラックコンドルは相手のどてっ腹にキックした後にジャンプし…

ブラックコンドル「コンドルフィニッシュ！！」

必殺技を炸裂させるが刀ヤミーは後ずさるだけだった。

ブラックコンドル「浅いか…豪快チェンジ！」

モバイレーツB「ラーイブマン！！」

それにマスク内で眉を顰めた後に今度はレッドファルコンに豪快チェンジした後にファルコンセーバーを構えてぶつかる。

ゴーカイグリーン「豪快チェンジ！」

モバイレーツG「アーバレンジャー！！」

そして蜘蛛ヤミーと戦うゴーカイグリーンはアバレブラックに豪快チェンジするとダイノスラスターを構えて蜘蛛ヤミーを攻撃する。

アバレブラック「ダイノスラスター！グランドインフェルノ！！」

ダイノスラスターを地面に突き刺すと蜘蛛ヤミーに向かって火柱が起こり、蜘蛛ヤミーを攻撃する。

それを受けた蜘蛛ヤミーは後ずさるが口から蜘蛛糸を発射する。

アバレブラック「豪快チェンジ！」

モバイレーツG「ダーイレンジャー！」

アバレブラック→リュウレンジャー「炎上波！」

最初に飛んで来たのを避けた後にアバレブラックからリュウレンジャーに変身すると飛んで来た蜘蛛糸を炎上波で焼き尽くす。

そして双竜剣を構え駆け出す。

あやか「音無さんは？」

長瀬「ダメだ見えねえ…」

真名「…」

椛「楓～！！」

そしてこちらは楓を探すが楓の姿が見当たらなかった。

キングスカッシャー「！あぶねえ！」

椛達、楓ＬＯＶＥＳをタランチュラのようなヤミーが襲いかかろうとしてるのをキングスカッシャーが気づき、シールドブーメランで

牽制し、避けたタランチュラヤミーにキングスカッシャーと変身した明久とムッツリーニが対峙する。

ヤミーを生み出した人物は一体…そして消えた楓の行方は…

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

蛇八「と言う訳でやるぞ！ペンネーム『武田軍兵士　清坂　剣麻』から『美己「マリオ以外の人に質問っとミサカは問います。　腐留苦去主の味はどうでしたかっとミサカは問います」美己「それとマリオ宛にあの面々から腐留苦去主が送られましたっとミサカは追加報告をおこないます」』…今思い出しても食べたくない…」

大食いトリオ「完敗です…」

ルイージ「あれ…きつい…」

フォックス「オヤジが見えた…」

霊夢「小町が見えたわ…」↑食べさせられた

魔理沙「魅魔様が見えたぜ」↑同じく

ネス&リュカ&ガンダム&シャア「ｏｒｚ」

ゼータ「……」↑ピクリとも動かない。

マーク？「ゼータぁぁぁぁぁぁぁぁ！？」

ゼータプラス「ピクリとも動かない！」

マリオ「美味かった（≧∀≦）ｂ」

銀八「マリオすげぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！？…『武田軍兵士清坂　剣麻』さん、××料理は程々に！」

蛇八「今回は此処までだ…うぷっ」

銀八「そんなにきつかっただな；」

ＩＳ＆Ｉｔ；インフィニット・ストラトス＆ｇｔ；黒き牙と永遠の月　謎のヤシ

リュカ「と言う訳でユートピアさんとのコラボでした！」

フォックス「ホントにな…」

スネーク「どうなるんだ！」

クッパ「なのだ！」

ネス「感想を待ってます♪

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　～銀女神鎮魂歌～　－　第別訓パート３９

スネーク「真王とのコラボ第３９弾だ」

リンク「今回は学校ですか…」

フォックス「だな…」

リュカ「真王さんへ、もう１つ終わるまで次のコラボ依頼は待っていてくださいｍ（＿＿）ｍ」

～マッドスクールラビリンスギャラクシー～

『脱出せよ！悪魔の学校迷路！』

マリオ「う～ん」

ルイージ「どうしたの兄さん？」

唸っているマリオにルイージは話しかける。

マリオ「これ…」

持っていた手紙を見せる

イーバ『うちの若い子達が捕まってしまったんだ。しかもここの警備は偉く頑丈でね。侵入者には容赦ないんだよ。けどあんたたちなら出来ると思うね。頼んだよ』

ルイージ「これなら行きゃなきゃ？」

マリオ「それがな…別件…常識のない転生者関連で至急来て欲しいってね…」

マジ困ったと言う顔をするマリオにルイージはう～んと腕を組む。

リュウケンドー「お～い」

ソロ「何があったんだ？」

そこにリュウケンドーとソロが来て…

イーバ「おや？マリオはどうしたんだい？」

数分後、イーバの前にルイージとソニック、リュウケンドーにソロ、明久とムッツリーニがいた。

ルイージ「兄さんは別件で来れないから…」

ソニック「俺たちが変わりに行くぜ！」

イーバ「あんた達も頼りになるし…頼んだよ！」

そう見送られ、銀時、新八、神楽、桂、エリザベス、ネプテューヌ、ネプギア、ジャンヌ、ビビ、ナリア、ヴィヴィオ、プリニーはギャラクシーへ向かった。

マッドスクールラビリンスギャラクシー

（ＩＢＧＭオバケの迷宮ギャラクシー…ｂｙスーパーマリオギャラクシー２）

明久「学校みたいなギャラクシーだな…」

新八「しかも迷路みたいだね…」

着いて歩く中、明久が周りを見て言い、新八がさっきまでの道を思い出して言う。

ヴィヴィオ「あっ、何かいるよ」

歩いていたヴィヴィオが気づいて前を指して言う。

すると…ライトを付けて移動しているケイビーがいた。

桂「ふむ…見るからに奴に見つかると入り口に戻される感じだな…」

ビビ「そんでもってあれはきっと決まったルートを回るタイプね」

ムッツリーニ「……任せろ」

ケイビーを見て言う桂とビビの後にムッツリーニがそう言うとすぐさまケイビーの後ろに回りこんで手刀入れて倒す。

銀時「忍者だ…」

新八「忍者ですね」

神楽「思いっきり忍者ネ」

それを見て3人はそう感想を言う。

ちなみに今のムッツリーニの姿は初期の召喚獣の服装である。

ネプギア「凄いですねムッツリーニさん！」

ムッツリーニ「……本名を呼ぶ人が少ない…！」

ネプテューヌ「あはは；」

ネプギアの言葉にムッツリーニはそう言い、ネプテューヌは苦笑いする。

その後、『時の針』を入所する。

ケイビーを倒しながら進むメンバーは次にノゾークの対処にかかっていた。

ナリア「どうする？」

ジャンヌ「さっきの奴より厄介そうね」

ムッツリーニ「……問題ない」

ナリアの問いにジャンヌがそう呟くとムッツリーニは何かの動作をした後に…

ドカーーーン！！

ノゾークの近くが爆発してそれにノゾークは倒された。

桂「なんと！？素早く移動して奇妙な箱を踏んだだと！？」

エリザベス『えぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！？』

プリニー「どうやったら動けるんッスか？」

ムッツリーニ「……ただ早く動くだけに修行しただけだ」

明久「本家の人もいるしね～」

リュウケンドー「んじゃあ行くか」

その後、『全知の書』を入手し、進んで行くと…

銀時「おいおい、あれじゃあ進めねえぞ」

ルイージ「そうですね」

目の前の通路を塞いでいるソウジーに銀時は頭を掻き、ルイージは腕を組む。

ソニック「ん?あのベルは何だ?」

ふと、周りを見ていたソニックがソウジーの近くにあるベルを見つける。

ソロ「もしかしたら…」

ゼロブレスレットを取り出し、それを投げる。

ベルに命中するとベルが鳴り、隣の扉から子供達が波にように出てきてソウジーは巻き込まれていく。

ソロ「これで進めるな」

ヴィヴィオ「凄い倒し方だったね～」

戻って来たゼロブレスレットを戻しながら言うソロにヴィヴィオはそう言う。

その後、『子供達の夢』を手に入れた後に…

ネプテューヌ「はい、もう大丈夫だよ」

星の子「ありがとう！！」

プリニー「それじゃあ脱出ッス！」

ソニック「ＹＥＳ！」

囚われていた星の子達を助けた後に出て行こうとすると…

？？？「ぎゃおおおお！！！！！」

銀時「…うん、分かってたよ」

明久「そう簡単には行かせてくれないか…ＫＡＭＥＮＲＩＤＥ！」

ムッツリーニ「……ＫＡＭＥＮＲＩＤＥ！」

咆哮に銀時はため息を吐き、明久とムッツリーニはそれぞれ変身する。

そして咆哮した張本人オウオウが通路を壊しながら来る。

ソニック「走れ！」

ソニックの声の後に全員が走る。

ウルトラマンゼロ「それにしても…硬いな…」

すぐさま人間大のウルトラマンになったソロはぼやく。

さっきワイドゼロショットを放ったがオウオウはそのまま突き進むのだ。

ネオス「ホントに攻撃を与えてるのに…」

ネクサス「……丈夫だな」

リュウケンドー「確かに」

それぞれの攻撃を当てながら3人は眉を顰める。

ネプギア「どうします！？」

ルイージ「今は逃げるしかないよ！」

星の子を抱えながらネプギアは聞き、ルイージはそう返す。

来た道を戻って全力で行く。

エリザベス『いっそげいっそげ！』

新八「もうすぐ出口です！」

エリザベスと新八の後に全員ギャラクシーから脱出した。

ビビ「ふえぇ…危機一髪」

ジャンヌ「ホントに…」

ぜえぜえと息を吐きながらビビとジャンヌはそう言う。

桂「奴はどうやらギャラクシーからは出て来れない様だな…」

神楽「良かったアルよ…」

桂が言った後に神楽は安堵の息を吐く。

その後、メンバーはそそくさと戻ったのであった。

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

蛇八「と言う訳でペンネーム『武田軍兵士　清坂　剣麻』から『美己「必殺料理人の姫路瑞希と吉井晶が吉井明久に特別料理を作りましたっとミサカは吉井明久に念仏を唱えます」

幸村「某から質問がありもうす！！　某の宇治真田丼を食べてみたいでござるか！！！？」

＊宇治真田丼

丼に団子を載せ、その上に大量の小豆をかけたモノ。

姫路瑞希「明久君。　ちゃんとタベテクダサイネ」
吉井晶「アキ君。　残さず食べるのですよ。　ネエサンタチガココロヲコメテツクッタモノデスカラ」
・・・・後半の声は幻聴である。『…うわぁ…」

マリオ「食べたい！」

大食いトリオ「大食いとして！」

冥王「う～ん、興味あるの」

明久「……」↑チーン

雄二「明久ぁぁぁぁぁぁぁ！！」

銀八「『武田軍兵士　清坂　剣麻』さん！××料理はマリオだけに送ってください！」

蛇八「今回は此処まで！」

～時の針＝

価値：７００円

見た目：時計の針

イーバメモ：時計のパーツの様だね。持っている時計の針が壊れた時に変えられるね。

ドルフィンメモ：先が見る時間は過去か未来か?そんな感じのを感

じますね。

～全知の書～

価値：２５００円

見た目：辞書

イーバメモ：色んな事が載ってるね～これで調べられない物はないかもね

ドルフィンメモ：様々な記録を持ったまさに全知！知りたい時はこれで調べましょう！

～子供達の夢～

価値：１２５００円

見た目：３ＤＳ

イーバメモ：何かの機械だね～まあ若い子達が遊べるから良いね～

ドルフィンメモ：子供達のと言って良いほどの機械です！色々と出来るようですね…あっ、私の顔で遊ばないでください

リュカ「と言う訳真王さんとのコラボでした！」

ソロ「大変だったな」

リュウケンドー「だな」

ネス「感想を待ってます♪」

スネーク「黒龍とのコラボだ」

クッパ「色々とな…」

スネーク「んで長編だな」

マリオ「さてと…どうする？」

ブロントさん「ですね」

マリオ達は集まっていた。

無縁については銀さん達が解決するだろうと考えてるのでそれぞれ、無縁をどう翻弄するかを考えているのだ。

冥王「と言うか許可あればとっとと輪廻へ戻したいの」

銀次「うわぁ…；」

マリオ「言いたい事が分かるがな…」

ぶーたれる冥王に銀次は冷や汗を流し、マリオは肩を竦めた時

？？？「すいません。マリオさんですよね？」

その声に4人は振り返る。

すると1人の男がいた。

ブロントさん「何話しかけて来てる訳？」

銀次「君は…転生者だね？」

銀地「私は真田銀地と言います。あなた方に話があります」

ブロントさんが言った後に銀次が聞き、銀地は自己紹介した後に頭を下げる。

銀地「一緒に無縁と言う悪党転生者を倒してくれませんか？」

その言葉に冥王を除いた3人は頭を寄せ合う。

銀次「どう思う？」

マリオ「彼は平穏を望んでいる者だがどうも理由がある様だな…」

ブロントさん「どうする訳？俺は別に良いが」

冥王「ＯＫＯＫ、一緒に行くけど他にいるの？」

小声で話してる3人に構わず冥王が了承し、そう聞く。

銀地「はい、仲間は広場に集まってるので付いて来てください」

そう言うと銀地は歩き出し、冥王も続く。

マリオ「んじゃ、行きますか」

ブロントさん「…おぃ」

銀次「まあ行こうか、ブロントさんも行く気だったんでしょ？」

マリオも続き、呆れた顔をするブロントさんに銀次は苦笑して肩を

叩いた後に続き、ブロントさんも歩き出す。

銀次「そう言えば…君は何で無縁を？」

歩いている中、銀次がそう聞く。

銀地「私は彼が怖いんです」

マリオ「成る程…（それ以外にもあるな…）」

銀地の言葉にマリオは彼の中に無縁以外の恐怖を感じ取った。

そして銀次の言う仲間がいる広場に着くと殺気立った転生者達が有無を言わさずに攻撃してくる。

銀地「（すいません…）」

銀地はその光景を辛そうな顔で見ていた。

転生者１「やったぞ」

転生者２「これでかつる！」

？？？「ハイジャックフォーム」

高笑いする転生者達だったが、音声と共に煙から何かが飛び出すとそれは一部の転生者を吹き飛ばした。

転生者達が驚いている間に煙が晴れ、現われたのは無傷の銀次達と『仮面ライダー幽汽・ハイジャックフォーム』に変身したマリオが

立っていた。

冥王「ディバイーンババズーカ！！」

ブロントさん「ホーリー！！」

銀次「はあぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！」

驚いてる転生者達に冥王の砲撃、ブロントさんの聖なる魔法、銀次の電撃が炸裂する。

幽汽ＨＦ「さて、手を出したのはそっちだから手加減はなしだぜ？」

鞭を構えて幽汽ＨＦはそう言った後に全員が転生者達を追い詰めて行く。

？？？「お前ら動くな！！…この女がどうなってもいいのか？」

その言葉に幽汽ＨＦ達は動きを止めるとした方を見ると檻に閉じ込められたピーチ姫を連れて男がやって来た。

ブロントさん「…おいぃ；」

銀次「また攫われたの；」

冥王「どんだけなの…」

その光景にブロントさんと冥王は呆れ、銀次はなんとも言えない顔をする。

幽汽ＨＦ「誰だお前は？」

伊藤「俺は黒田（くろだ）　伊藤（いとう）！オリ…こぺっ！？」

幽汽ＨＦの問いに伊藤は自信満々に自分の名前を言い、続けて言おうとして頭に何かが落ちて、伊藤が頭を押さえてる間に幽汽ＨＦは鞭でピーチ姫の檻を引き寄せる。

伊藤「独楽？動くなって言ったろう！！」

幽汽ＨＦ「ああ、動くなと言われる前に投げた奴だが？」

自分の頭に落ちた物を見て叫ぶ伊藤に幽汽ＨＦはいけしゃあしゃあとピーチ姫を檻から出して言う。

冥王「さて、やられる覚悟はあるの？負け馬さん？」

伊藤が呻いてる間にほとんどの転生者を輪廻へ戻したり、能力や記憶を無くしたので伊藤に味方はいない。

ストライクス・ハートを伊藤の喉元に突き付けて冥王は冷たく言う。

伊藤「ちっ！覚えてやがれ！！」

そう捨て台詞を吐いた後に伊藤は転移する。

幽汽ＨＦ「姫、キノじいの心配事を増やさないでくださいね」

ピーチ「ゴメンなさいねマリオ」

はあ…とため息を付きながら言う幽汽ＨＦにピーチは謝る。

ブロントさん「奴と長く戦う面倒な事になると感じた俺は深い悲しみに包まれた…」

銀次「ホントだね…」

銀地「すいませんでした…」

冥王「良いの良いの、そっちだって守りたい子がいたからでしょう？」

ブロントさんと銀次は肩を竦めて、謝る銀地に冥王は笑顔で言う。

幽汽ＨＦ「ホント…厄介な事になりそうだ…」

無縁以外の面倒ごとに幽汽ＨＦは頭を掻いた。

～オマケ～

蛇八「教えて」

生徒一同「蛇八先生！銀八先生！」

銀八「んじゃあやるぞペンネーム『武田軍兵士　清坂　剣麻』さんから『江○島「なかなかの強者がそろっておるようじゃの、塾生達にもよい刺激になるわい」

「わしが男塾塾長江田○平○であーーーーる！！！」

訳、わしから質問がある。お主達はわしが塾長をしている男塾の

男達をどう思う。
　その声で塾とその周辺の建物の窓が全て割れた。』…おいおい；」

マリオ「熱い人達だ！」

冥王「真っ直ぐなの！」

ブロントさん「騎士も惚れ惚れする男気があるな」

ルイージ「義の持ち主だね」

ガウェイン「転生者に見習わせたい精神を持つ人達だ」

蛇八「との事だ『武田軍兵士　清坂　剣麻』、廊下に立ってなさい！」

銀八「んじゃあ次！ペンネーム『真王』さんから『真王「ふむ、巨大なものから逃げるのはアドベンチャーに欠かせないものなのだよ」ネプギア「それって奥スクロールで巨大な岩とかモンスターとかから逃げるところですか？」

真王「クラッシュバンディクーでな。ちなみにモチーフは５のメチャクチャクラスルームな」

ネプギア「あ、質問があります。『私達女神候補生をどう思いますか？』」

真王「んじゃこっちも、『もしかしてリリ銀パーティに参加したいって人いますか？要望があるなら助っ人か対戦キャラとして出ます

よ？』『ほぼ同じというかキャラかぶっているムツリをどう思いますか？』ではリクエスト」』…と言う訳で答えろ！」

マリオ「磨けば姉と並ぶかそれ以上に行くと思える可能性を秘めた子達だな」

銀次「あっ！俺助っ人キャラで！」

ブロントさん「ｈａｉ！【俺は】【対戦キャラ】で」

ワリオ「俺は助っ人キャラで…ちなみにこの作品での俺はオナラとか下品な事しないからな！やらないでくれよ！」

アンク「（ちゃんと言わないと何かしそうだからか…）俺は対戦キャラでだ」

カザリ「僕は助っ人で！」

ウヴァ「俺はアンクと同じ対戦キャラだ！」

チルノ「あたいは対戦キャラだ！」

ムッツリーニ「……俺はあそこまでスケベではない！」

フォックス「まあ、内のこいつは下着を見ただけで倒れちゃう子だからな…ちゃんと許可を取って取るし…」

ソロ「スペースハニーパイをサンキュー！」

空「美味いな♪」

カービィ「ホントだね♪」

蛇八「そんな訳で『真王』！行きたいメンバーはコレぐらいだ！」

銀八「次ペンネーム『支配者』さんから『ムッツリー二はスケベを素早く実行する為に早く動く修行をしたんでしょうかね？

質問します。

皆さんに質問

シャマパイの１００倍以上も不味い『地獄汁』を送ります。誰か飲んで感想を送ってください。（黒笑）因みに中身はこの世のもと思えないようなものばかりです。しかも亡者のうめきのような物が絶えずその汁から聞こえてきます。』……」

２人はある方を見る。

マリオ「美味かったぜ♪（≧∀≦）ｂ」

そこには笑顔でサムズアップしてるマリオがいた。

ムッツリーニ「……ただネクサスの様に早く動ける様になりたかったから修行したんだ」

蛇八「『支配者』！廊下に立ってなさい！」

銀八「今回は此処まで！」

リュカ「と言う訳で黒龍さんとのコラボでした；」

スネーク「大変な事になりそうだな；」

クッパ「ホントなのだ…」

ネス「感想を待ってます♪」

東方欲望録～全ては欲望を満たすため～&レッツゴー仮面3　極・スピンオフ！

スネーク「フロストと仮面3の他に今回！作者月詠の『とある能力の異常言語（イレギュラーコード）』の音霧　霊夢も呼ぶぞ！」

フォックス「おお…あの擬人化オーズか…」

ワリオ「どうなるのやら…」

ゼロ「此処で追加するぞ！」

星&Wカザリ「いきなり過ぎるぅぅ！！」

ゼロの言葉に星とWカザリがツッコミを入れた後にゼロはカードを装填する。

ゼロブレスレッド「サモンライド！作者月詠！」

音声と共にオーズ3人の所に東方の博麗霊夢のポニテを長くした男の娘、音霧　霊夢が現われた。

霊夢「ちょっとナレーター！何で出すんですか！？」

Kオーズ GC「霊夢！？ってか敬語！？」

Fオーズ LC「悪い物でも食べたか？」

霊夢「初対面なのに酷くないかな！？」

ツッコミを入れる霊夢にKオーズは驚き、Fオーズ LCの言葉に霊夢は言う。

マリオ「あ～名無に魅空、そいつはお前達の知ってる博麗じゃなくて別世界のオーズである音霧　霊夢だ…呼び出してすまないがそちらの雷系コンボに変身してくれないか？」

霊夢「なっ、何でそれを!?ってかどう言う事?」

ＦオーズＬＣ「つまりだ。君は僕たちと共に彼と戦うって事だ」

マリオの言葉に霊夢は驚いた後にＦオーズＬＣがオーズＳＹＣＸ５を指してマリオの意図を言う。

霊夢「分かりました…それじゃあ」

見たこと無いコンボに驚いた後に霊夢はため息を付きながら、オーズドライバーを装着し、マリオに言われたコンボに必要な雷の『ナチュラルコアメダル』を装填し、スキャンする。

霊夢「変身!」

オーズドライバーＨ「スパーク!サンダー!ライトニング!ス・サ・サング!スサングッ!」

音楽と共に霊夢の黒髪は朱色に変化し、稲妻を模した髪飾りでツインテール、瞳は紫に。

オーラングサークルには上から横一本線、Ｘ字交差、縦三本線の稲妻が描かれている。

通常の漆黒のライダースーツではなく、オレンジのジャケットで腰には『雷』と書かれた腰マント。

オーラングサークルは喉元で小さくなっており、右手に朱色のハンドガン、左手には腕と一体化している黄金の逆三角砲身の巨銃、下半身はヘソ出しで黒の短パンに、同じく黒のオーバーニーソという

活発（？）な女の子チックな状態になっていた！

これこそ彼が変身するオーズの中の番外コンボの１つ『仮面ライダーオーズ・スサングコンボ』である。

星「何あの姿！？オーズじゃないよね！？普通に女の子だよね！？」

Ｆカザリ「と言うか雷って何！？」

マリオ「あ～～～あの姿でもオーズなんだよ…」

驚いてツッコミを入れる星とＦカザリにマリオは頭を掻いて言う。

オーズＳＹＣＸ５「凄い！オーズは別世界だと人のままのもいるんだ」

Ｋオーズ ＧＣ「俺も驚きだな」

ＦオーズＬＣ「色々と興味深い！後で話しをしたいよ！」

霊夢オーズＳＳＣ「んで再開するの？アタシは何時でも良いわよ」

驚くオーズＳＹＣＸ５とＫオーズＧＣだがＦオーズＬＣは歓喜の声を上げる中、霊夢オーズＳＳＣが言う。

オーズＳＹＣＸ５「はい、良いですよ」

霊夢オーズＳＳＣ「それじゃあ先手必勝！！」

オーズＳＹＣＸ５の了承の後にそう言って霊夢オーズＳＳＣは右手

のサンダーバレットから捕縛弾を放つがオーズＳＹＣＸ５は上へ飛び上がる。

Ｋオーズ ＧＣ「予想はしていたが…」

Ｆオーズ ＬＣ「Ｘ５となる事で飛行能力を得るのか…」

オーズＳＹＣＸ５「インパクトレーザー！！」

飛び上がるオーズＳＹＣＸ５を見てＫオーズ ＧＣとＦオーズ ＬＣが言った後にオーズＳＹＣＸ５が上空からスパロウガンで３人のオーズを攻撃する。

Ｋオーズ ＧＣ「うおっ！？」

霊夢オーズＳＳＣ「どうするの？アタシは飛べるコンボのメダルは持ってないわよ！」

Ｆオーズ ＬＣ「こうなったら魅空、こちらも飛べるコンボだ。君は借りてるだろう？」

Ｋオーズ ＧＣ「まあね…」

避けながら霊夢オーズはそう言い、Ｆオーズ ＬＣの言葉にＫオーズ ＧＣは嫌々ながら事前に借りたガタキリバ用のメダル以外にアンクから借りた赤のメダルを取り出す。Ｆオーズ ＬＣも紫のメダルを取り出す。

Ｋオーズ ＧＣ「うおぉぉぉぉい！？何で紫持ってるの！？」

Fオーズ LC「このメダルでのコンボに興味があったので彼女から借りた」

※このコラボでの名無は現時点の東方欲望録～全ては欲望を満たすため～の為、紫のコンボを知らない。

Kオーズ LCがツッコミを入れてる間にFオーズ LCは言いながらメダルを変え、KオーズGCもメダルを変えてスキャンする。

Fオーズドライバー「プテラ！トリケラ！ティラノ！プットッティラ～ノザウルース！！」

Kオーズドライバー「タカ！クジャク！コンドル！タージャードル～！！」

音声と共にKオーズはタジャドルにFオーズはプトティラにコンボチェンジする。

KオーズTCはタジャスピナーの弾丸で攻撃し、プトティラもメダジャガンで攻撃する。

オーズSYCX5は避けながらクロスカテドラルに黄金のメダル、ジークグレイモンメダルを装填する。

それと同時にオーズドライバーに装填されてるシャウトモンメダルが輝き、黄金のメダル、オメガシャウトモンメダルとなるとオーズSYCX5はオーズドライバーを再スキャンし、次にクロスカテドラルを再スキャンする。

オーズドライバーK「オメガシャウトモン！バリスタモン！ドルル

モン！」

クロスカテドラル「スターモンズ！スパロウモン！ジークグレイモン！シャバル！シャバルゥゥゥ！！シャバル！！Ｘ７！！」

歌の後にオーズＳＹＣＸ５は光りに包まれ、全員が腕で光りを遮り、収まると共に異世界組は驚く。

姿は胸部分を除き、シャウトモンＸ７となり、顔はシャウトモンＸ７を模した『オメガシャウトヘッド』となり、胸のオーラングサークルはクロスハートのマークが入った『仮面ライダーオーズ・シャバルコンボＸ７』となった。

Ｋオーズ ＴＣ「メダルは６枚なのにＸ７！？」

霊夢オーズＳＳＣ「どう言う事？」

オーズＳＹＣＸ７「ジークグレイモンは元々はグレイモンとメイルバードラモンと言う２体のデジモンがデジクロスしたメタルグレイモンが超進化したデジモンだからＸ７なんです」

Ｆオーズ ＰＣ「ホントに興味深いね」

驚くＫオーズＴＣと霊夢オーズＳＳＣに専用武器『シャバルロッド』構えながらオーズＳＹＣＸ７は言い、Ｆオーズ ＰＣがメダジャガンとメダガブリューを構えた後にそれぞれ駆け出す。

フヨウ「凄いね黒狼君」

星「と言うかあんなに使って暴走しないんだね…」

3人のオーズと戦うオーズＳＹＣＸ7にフヨウに星は呆れ混じりの感嘆の声を上げる。

Ｆアンク「帰ったら絶対…デジモンの奴を検索するだろうな…」

Ｆカザリ「あり得るね」

帰った時の名無の姿を思い浮かべてＦアンクは呟き、Ｆカザリは同意する。

オーズＳＹＣＸ7「決めますよ！」

ＦオーズＰＣ「ああ…魅空、これを使いたまえ」

Ｋオーズ ＴＣ「おっ、おお」

霊夢オーズＳＳＣ「受けて見なさい！」

それぞれ必殺技の体制に入り、ＫオーズＴＣもＦオーズＰＣからメダジャガンを渡された後にセルメダルを3枚入れてスキャンする。

オーズドライバー「「スキャニングチャージ！」」

メダガブリュー「ガブッ、ゴックン！プットッティラ～ノヒッサ～ツ！」

メダジャガン「トリプル！スキャニングチャージ！」

霊夢オーズＳＳＣの左腕の黄金の巨銃『サンダーカノン』から三つ、

煙を上げる薬莢が弾き出される。

ＦオーズＰＣはメダガブリューをバズーカモードに、Ｋオーズ＆ＴＣもメダジャガンを構える。

オーズＳＹＣＸ７は前に７つのＶが現われる。

霊夢オーズＳＳＣ「―緋色の落雷（シャルラハロドゥナーシュラーク）―」

ＦオーズＰＣ＆ＫオーズＴＣ「はぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！」

オーズＳＹＣＸ７「セブンビクトライズ！マキシマム！！」

必殺技名と咆哮と同時に強力エネルギー波がぶつかり合う。

Ｆウヴァ「うおっ！」

ウヴァ「なんてパワーだ！」

星「めっちゃ危ないんだけどぉぉぉぉ！！」

Ｆアンク「うおぉぉぉ！吹っ飛ばされるぅぅぅ！」

アンク「掴まれ！」

外野はぶつかり合うエネルギーに吹き飛ばされない様に踏ん張っていた。

４人のオーズは踏ん張り持てる力を出し合ってる内に…

ドカーーーーン!!

オーズ4人「うわぁぁぁぁぁぁぁぁ!!」

中央で爆発し、4人のオーズは吹き飛ばされ、変身が解ける。

数分後

黒狼「3人とも、これを…」

それぞれ手当てされてる中で黒狼から霊夢、名無、魅空にそれぞれ黒狼が使っていた6枚ずつデジメダルを渡す。

魅空「さっき使っていたメダルか…」

霊夢「何か分かんないけど良いの?」

名無は目を光らせてじ~と見てるが魅空が呟き、途中参加の霊夢が聞く。

黒狼「はい、霊夢さんならすぐに使えます…魅空さんは分からないけど…」

魅空「はっ?どう言う事?」

アンク「シャバルコンボになるには中空核となるシャウトモンメダルが認めなきゃ無理って事だ…光ればそれは認めた証だ」

黒狼の言葉に魅空は訝しげに聞き、アンクの言葉に魅空は2人を見るとそれぞれ持つシャウトモンメダルは光っていて、自分のを見る

と光ってなかった。

ウヴァ「認めて貰うには魂の叫びを見せろ」

カザリ「変態的な意味のじゃないからね」

魅空「はいはい…」

メズール「ちなみに順番があるからX５以降になるにはまずはスターモンズを入れてからスパロウモン、ジークグレイモンの順に入れないと無理よ」

名無「成る程…」

霊夢「へえ…」

その後、色々話した後にそれぞれ、元の世界に戻ったのであった。

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

蛇八「それじゃあやるぞ！ペンネーム『武田軍兵士　清坂　剣麻』から『銀次殿に質問・・・貴殿は今でも赤屍さんが怖いですか？』…それじゃあ銀次」

銀次「怖さは抜けません！」

銀八「との事です…『武田軍兵士　清坂　剣麻』さん！廊下に立ってなさい！」

蛇八「今回は此処まで！」

東方欲望録～全ては欲望を満たすため～&レッツゴー仮面3　極・スピンオフ！

リュカ「と言う訳でフロストさん、仮面3さん、作者月詠さんからのゲストでした！！」

スネーク「ホントな…」

フォックス「使うかね…」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　～銀女神鎮魂歌～　－　第別訓パート４０

スネーク「真王とのコラボ第４０弾！」

フォックス「ついに此処まで来たな」

マリオ「だな」

～秘密の魔王計画施設～

『破壊せよ！クローンなのはと研究所！』

ビビ「あれ？マリオいないの？」

とある日、呼び出された明久、ムッツリーニ、ソロ、リュウケンドー、チルノ、東方不敗、ゴッド、デスティニー、ウイング、デスサイズ、スィンを見て、銀時、ネプテューヌ、ネプギア、ジャンヌ、ナリア、アリアといたビビが聞く。

明久「先生、此処最近で常識の無い転生者が増えて来てるから忙しいそうなんです」

ムッツリーニ「……それで呼び出した理由？」

明久が言った後にムッツリーニが聞く。

ナリア「それは…」

ビビ「愛しのなのはちゃんのクローン製造している奴らがいるですって！？なのはちゃんが増えるのならうれしいけど兵器にする奴らは許せん！！うらやま……じゃなくて成敗してくれるわぁ！！（その後もらっちゃおうかな？）」

ガッ！

ナリアが言おうとしてビビが叫んだ後にゴッドがビビの頭を掴む。

ビビ「ねえ…何で頭掴まれてるかな私？」

ゴッド「マリオからもしビビが暴走した場合に止めろと言われたからだ」

そのままの体制で聞くビビにゴッドが言う。

ビビ「いや、暴走してないわよ」

ウイング「思いっきり邪念が顔に出てたぞ」

ビビ「嘘ッ！？」

ウイング「嘘だ」

デスサイズ「慌てるって事は何か考えてたんだな…；」

否定した後にウイングの言葉にビビが驚いた後にウイングは言い、デスサイズが冷や汗流して言う。

ビビ「…ソッ、ソンナコトナイヨ」

デスティニー「カタゴトになってるし後目を反らすな；」

ムッツリーニ「（……絶対になのはさんのクローンをお持ち帰りする気だな）」

目を反らすビビにデスティニーはツッコミを入れて、ムッツリーニは予想する。

ソロ「そろそろ行こうぜ！」

リュウケンドー「ああ！ソロの新しい力を見せてやろうぜ！」

ジャンヌ「新しい力？それって…」

チルノ「見てからのお楽しみだよ～」

ソロとリュウケンドーの言った事に聞くジャンヌにチルノはそう言った後にメンバーは行く。

秘密の魔王計画施設

（ＩＢＧＭクッパＪｒ．クリーチャープラント…ｂｙスーパーマリオギャラクシー）

ソロ「沢山いるな…」

銀時「確かに」

入って早々にソロは目の前を見ていい、銀時が同意する。

彼等の前には…クローンなのは量産系が複数いた。

ソロ「見せてやるぜ！俺の、俺と親父たちの力を！」

そう言うとソロはディケイドライバーを銀色に染めて中央の球の色を黄緑にし、その周りのマークがウルトラ戦士の顔となった『ゼロイドライバー』を装着し、カードを構える。

ソロ「変身！」

ゼロイドライバー「カメンライド！ゼロイド！」

音声と共にソロの周りにウルトラ戦士の幻影が現われてソロと重なると共に姿が変わり、顔にカード装甲が差し込まれる。

その姿は顔はディケイドの額をWの額のにして色を黄緑に変え、目の色を黄色にして顔のマゼンタの部分を銀色にした感じ、体はディケイドの胸アーマーのXを消してウルトラマンゼロのプロテクターを付けてカラーリングをウルトラマンゼロのカラーリングへ変えた感じであった。

ソロ↓ゼロイド「これが俺の新たな力！仮面ライダーゼロイドだ！」

名乗り上げると共にクローンなのは量産系はアクセルシューターを放つ。

それをメンバーが避けた後にゼロイドはカードを装填する。

ゼロイド「変身！」

ゼロイドライバー「カメンライド！レオ！」

音声と共にゼロイドの体が赤く輝き、その姿はウルトラマンレオにウルトラマン超闘士劇伝の闘士レオの重装鉄鋼を纏い、手と足にス

ーパー1のグローブとブーツを追加した仮面ライダー『仮面ライダーゼロイド・レオ』に変身した。

Zレオ「行くぜ！」

そう言うと同時にZレオは素早い速さでなのは量産系の武器を破壊して首に手刀を当てて気絶させて行く。

リュウケンドー「やるなソロ！」

チルノ「ホントだね」

キーブレードで気絶させながらリュウケンドーはそう言い、チルノもバスタードチルノソードの腹で頭を叩いては気絶させる。

ジャンヌ「凄い…」

ナリア「あっちもだけど…」

ゴッド「ゴッドフィンガー！！」

東方不敗「甘い甘い！そんな事でワシを倒そうなど笑止千万！！」

ウイング「目標を気絶させる！」

ジャンヌが3人に呟いた後にナリアが本気で落としている3人を見る。

デスサイズ「いや～ようやるね～」

デスティニー「やり過ぎ感があるけどな；」

スィン『気にしてたらダメだよ』

アリア「そっちもそっちでやるわね；」

ビームを出してないシザースで叩いて行くデスサイズとアロンダイトの腹で叩いて行くデスティニーにスィンはＩＳを使いながらそう言い、アリアはそれを見ながらそう言う。

ネプテューヌ「良し！次に行こう！」

ネプギア「うん！」

銀時「さて、次は何が出るのやら…」

ネプテューヌとネプギアが言った後に銀時は頭を掻きながら進む。

すると…まるでゾンビのように歩く大量のクローンなのはが来た。

銀時「何かゾンビみたいに来るんですけどぉぉぉぉぉぉ！！？」

東方不敗「見るからに失敗したクローンの様じゃな」

ビビ「と言うかどんだけ作ってるの！？」

ジャンヌ「それよりも押して行こう！」

Ｚレオ「ああ！変身！」

ゼロイドライバー「カメンライド！ウルトラマン！」

叫ぶ銀時の隣で東方不敗は考察して呟き、ビビが叫んだ後にジャンヌが言った後にZレオは新たなカードを入れる。

Zレオは光りに包まれ、それが収まるとウルトラマンにウルトラマン超闘士激伝の闘士ウルトラマンの新装鉄鋼のボディアーマーを胸部分を全部覆う形に変更し、右肩に左肩と同じ装甲を纏い、両足に赤いアンクレットを付けた『仮面ライダーゼロイド・ウルトラマン』に変身した。

Zウルトラマン「ウルトラ水流！！」

向かって来るクローンなのは失敗系にZウルトラマンは両手を合わせると共に勢いが付いた水流を放ち、それにより複数が流される。

銀時「ほわたっ！」

リュウケンドー「この！」

チルノ「おりゃあ！」

ネオス「喰らえ！」

ネクサス「……一発」

Zウルトラマンの背中から飛び出した銀時とリュウケンドー、チルノ、ネオス、ネクサスが残ったクローンなのは失敗系を気絶させる。

ネプギア「凄いですね」

Zウルトラマン「俺じゃなくて師匠やウルトラマンが凄いのさ」

ネプギアの言葉にZウルトラマンはそう言った後にゼロイドに戻ると駆け出す。

慌てて他のメンバーも行く。

ビビ「こらぁ！！なのはちゃんのクローン製造を止めなさい！」

奥に着き、ビビがドアを吹き飛ばして中に入って早々にそう言い、全員入る。

座っているクローンなのはと思われる製造者は立ち上がる。

ナリア「何でこんな事をしたのかは聞かないけど…」

ネクサス「……さっさと輪廻へ戻れ」

ナリアの後にネクサスがそう言うとクローンなのは製造者はくくくと笑った後に手を上げるとさっきまで量産系と失敗系のクローンなのはがまた複数現われる。

そしてクローンなのは製造者を守る様に他のクローンなのはとは違うなのはと同じ気配を放つクローンなのはがいた。

クローン製造者「行け！クローンなのは完全系！」

ゼロイド「胸糞悪いな…完全系は任せろ！」

ビビ「んじゃあ製造者は…」

東方不敗「それもソロに任せて周りの奴等を止めるぞ！」

ゼロイドがクローンなのは完全系に向かって行きビビも向かおうとして東方不敗に首を掴まれて、量産系と失敗系のクローンなのはと戦わせられる。

クローンなのは完全系「アクセルシューター」

ゼロイド「なんの！」

クローンなのは完全系が放つアクセルシューターをゼロイドはライドブッカーで切り裂いた後にカードを取り出す。

ゼロイド「（行くぜ親父！）変身！」

ゼロイドライバー「カメンライド！セブン！」

音声と共にゼロイドの顔から変化し、セブンにウルトラマン超闘士激伝の闘士セブンの重装鉄鋼を纏い、両足に銀色のアンクレットを装着した『仮面ライダーゼロイド・セブン』へと変身した。

クローンなのは完全系「ディバイーンバスター」

Zセブン「デヤッ！」

クローンなのは完全系が放った砲撃をZセブンはアイスラッガーで切り裂いた後にカードを装填する。

ゼロイドライバー「フォームライド！セブン・ウェポン！」

音声と共にＺセブンにアルファ・ソードという剣、盾（β号型）、背面ウィング（γ号型）と両肩部分からエネルギー弾を発射するキャノン砲、弓と矢と盾、バックパックが装着した『仮面ライダーゼロイド・セブン・ウェポンフォーム』となる。

クローンなのは完全系「スターライトレイン」

上空に浮かんだクローンなのは完全系は杖を掲げると魔法陣が現われ、そこから雨の様にスターライトブレイカーが降り注ぐ。

ＺセブンＷＦ「させるか！！」

それ等をＺセブンＷＦは避けたり、キャノン砲で相殺して行くとクローンなのは完全系に近づくと峰うちちする。

崩れ落ちるクローンなのは完全系を受け止めるとＺセブンＷＦは地面に降りる。

クローンなのは製造者「何で…沢山のなのはを作って僕のハーレムを作りたかっただけなのに…」

ＺセブンＷＦ「……輪廻へ戻れ、そこで静かにお前がやった行為を考えろ…」

後ずさるクローンなのは製造者にＺセブンＷＦは静かにそう言うとネオスから渡されていたカードを製造者の額に貼り付け、輪廻へ戻した。

変身を解いた後にソロは深い息を吐く。

明久「それでどうする？」

ゴッド「確かに、こう沢山いるとなると…」

アリア「どうします？」

ネプテューヌ「う～～～ん」

数分後、生み出されていたクローンなのはを1箇所に集めて今後を考える。

数は失敗と量産を合わせて３００人いて、完全体は1人だけであった。

ナリア「メテンズギルドで教育をお願いしようかしら」

ソロ「それしかないか…」

ナリアの提案にソロはそう言う。

ゴッド「んで…1人連れて行こうするな！」

ビビ「あう；」

デスティニー「やれやれ」

そそくさと失敗の方を連れて行こうとするビビにゴッドは釘を刺し、デスティニーはため息を付く。

その後、作り出されたクローンなのは達はメテンズギルドに保護されたのであった。

リュカ「と言う訳で真王さんとのコラボでした！」

ヨッシー「今回出たソロが変身するゼロイドはゼロディアスさんから貰いました！！」

ネス「ゼロディアスさん、ホントにありがとうございます！ｍ（＿＿）ｍ」

ワリオ「感想を待ってるぞ！」

スネーク「ユートピアとのコラボだ！」

ネス「楓さんが再び攫われた！」

ワリオ「んで蟲と武具のヤミーが現われた！」

クッパ「どうなっているのだ！」

ネス「んで関係ないけどＰＶが５万突破！！」

ソニック「これからも頑張って行くからよろしくな！」

レッドファルコン「一夏！決めるぞ！ゴーオンジャーだ」

リュウレンジャー「ああ！」

それぞれヤミーを吹き飛ばした後にモバイレーツとゴーオンジャーのレンジャーキーを構える。

レッドファルコン&リュウレンジャー「豪快チェンジ！」

モバイレーツ「「ゴーオンジャー！！」」

音声と共にレッドファルコンはゴーオンブラック、リュウレンジャーはゴーオングリーンへ豪快チェンジした。

ゴーオンブラック「カウルレーザー！」

ゴーオングリーン「ブリッジアックス！」

それぞれのゴーオンギアを構えた後にそれぞれのヤミーをみつえる。

ゴーオンブラック「カウルレーザー！レーザーハイビーム！！」

カウルレーザーから光弾を連発で放ち、刀ヤミーを撃ち抜き…

ゴーオンブラック「オマケ！！」

近づいてゼロ距離からも連発する。

それに刀ヤミーは爆発してセルメダルが散らばる。

ゴーオングリーン「ブリッジアックス！アックスツーリング！！」

ブリッジアックスから衝撃波を放った後に…

ゴーオングリーン「十字バージョン！！」

横に振って十字の衝撃波とする事で蜘蛛ヤミーを両断する。

キングスカッシャー「オレッチは猛烈に！熱血してるぅぅぅ！！」

最後にタランチュラヤミーにキングスカッシャーはそう叫んだ後に目を光らせる。

キングスカッシャー「チェェェェンジ！サムライオーーーン！！」

咆哮と共にキングスカッシャーは変形し、ライオンの姿、サムライオンに変形するとタランチュラヤミーに突撃３回突撃し…

サムライオン「キングスカッシュ！ハリケーーーーン！！」

回転しながらタランチュラヤミーを貫き、爆発する。

マリオ「皆無事か！」

サムライオンが勝利の雄たけびを吼えると共に準備していたマリオ達が来る。

一方…

楓「うっ、うう～ん…」

呻いた後に楓は目を開き、周りを見ると廃墟の中に居て辺りを見渡すと銀色の頭が蟻、体が蜘蛛、足が蜂のグリードと銅色で頭が長刀、体が刀、足が鎧のグリードが居た。

楓「（私は…お手洗いに行って…）」

済ませた後に戻ろうとした際に何かの気配に気づき、振り返った瞬間に何者かに意識を奪われたまでは思い出し、目の前の2体がやったんだと判断した。

銀色グリード「あら？起きたようね」

それに銀色のグリードが気づき、声をかける。

声からしてどうやら女性だと楓は判断した。

楓「あなたは…」

銀色グリード↓ワティル「私はワティル、それで隣にいるのはアグムよ」

アグム「……」

銀色のグリード、ワティルは名乗った後に一緒にいた銅色のグリード、アグムを紹介する。

楓「私をどうするんですか?」

ワティル「それはひ・み・つ」

自分の首筋を撫でるワティルに楓は聞くとワティルはそう言った後…噛みついた。

楓「あっ…（皆さん…）」

楓は意識が朦朧とし、心の中で呟いた後に気を失う。

ワティルは手から糸を出して楓を繭の中に閉じこめる。

ワティル「さて、後はこれを…」

ワティルはそう言った後に金のコアメダルを取り出した。

戻って終達はマリオ達にこれまでの経緯を話した後に子供たちと本音に楓を探していたが見つからずにいた。

椛「楓！楓！！」

木乃香「椛さん、うち等より必死やな」

刹那「そうですな」

マリオ「長く楓と共にいたからな…」

必死に楓を探す椛に木乃香はそう言い、刹那が同意して、マリオが

望遠鏡で探しながら言う。

椛「楓…うっうっ…」

楓の名前を呼んだ後に椛は崩れ落ち、泣き出す。

ブリッツ「大丈夫でござるか？」

スィン『しっかり』

そんな椛をブリッツとスィンが左右から支える。

椛「私は…楓が居てくれれば良かった…けど、何で楓は…」

心の内を声から漏らしてあかし泣く椛に終達は歯がゆくなった。

その時…

アンク「！メダルだ…」

メダルの気配を感じたアンクがそう叫ぶと走り出す。

ウヴァ「おいアンク！」

アンク「メダルの気配がした！もしかすると持ち主の所に音梨　楓もいる筈だ！」

叫ぶウヴァにアンクも叫び返した後に終達は慌てて走る。

椛「（楓、無事にいて！）」

セシリア「（楓さん！）」

鈴＆シャル＆ラウラ「（楓！）」

それぞれ無事を祈りながらメダルの元へ走るアンクを追う。

リュカ「と言う訳でユートピアさんとのコラボでした！」

ワリオ「どうやら金色のグリードもいるようだな…」

クッパ「楓が攫われた理由は！」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　～銀女神鎮魂歌～　－　第別訓パート４１

スネーク「真王とのコラボだ」

フォックス「今回はペットの為の捕獲か…」

ワリオ「どうなるのやら」

ソロ「よう」

リュウケンドー「また来たぜ」

ネプテューヌ「ヤッホー来てくれてありがとう」

ネプテューヌに呼ばれたソロとリュウケンドーにルイージ、ソニック、デスティニー、ウイング、デスサイズ、スィンにノワール、ブラン、ベール、ネプギア、ユニ、ロム、ラム、コンパ、アイエフと一緒にいたネプテューヌが言う。

デスティニー「それにしても…今度は何だ？」

ラム「今度はね～…捕獲なんだ～」

デスティニーの問いにラムが前置きした後に言う。

スライヌ大好きお譲様『諸君、私はスライヌが好きだ。たまらなく大好きだ。あのプニプニした触感と犬のようにかわいらしいところが大好きだ。なのでスライヌ１０…いや１００匹集めてくれ！！』

デスサイズ「おおう、１００匹って多いな；」

ノワール「でしょ？普通は１０匹なのに…」

ネプギア「あはは；」

依頼の内容を聞いたデスサイズの言葉にノワールは同意してネプギアは苦笑する。

ソニック「それにしてもスライヌって犬の様なスライムか？」

ベール「行けばどう言う感じなのか分かるわ」

ソニックの疑問にベールがそう言った後に一同はリーンボックスにあるスライヌの巣窟へ向かった。

コスモス「この子がスライヌか…」

ウイング「確かに犬の様なスライムだな」

リュウケンドー「捕獲すると大人しくなるんだな」

ソロ「確かにこの触感と犬の様な感じは好きな人がいてもおかしくないな」

目の前でスィンに撫でられてるスライヌを見て、コスモスが言った後にウイング、リュウケンドー、ソロが感想を言う。

アイエフ「それにしても普通はタウンで捕獲された時よ、大人しくなるのは…」

コスモス「僕が今変身してる今のコスモスの姿は怪獣とかを大人しくさせる技がメインだからね」

コンパ「へえ～そうなんですか～」

ソロ「それじゃあスライヌを捕獲する時はコスモスをメインに行こうぜ」

ネプテューヌ「賛成！」

ブラン「色々と楽」

ユニ「そうですね」

ラム「そんじゃあレッツゴ～」

ロム「ゴー」

その後、スライヌ以外のスライム系モンスターを撃退しながらリュウケンドー達はスライヌを捕獲して行く。

ノワール「後何匹捕まえれば良い？」

リュウケンドー「２０匹だな」

ノワールの問いに数えてリュウケンドーは言う。

ネプギア「楽だから良いですね」

ウイング「しかし…スライヌ以外に色々いるな…」

デスティニー「確かに、普通のスライムとか女の子なスライムとか…」

ウイングがそう言った後にデスティニーが肩を竦めて言う。

スィン『２０匹連れて来たよ』

そこにスライヌを引き連れたスィンが来る。

デスサイズ「おっ、ヘビーアームズ、良く連れて…」

コンパ「はわわ…」

ラム「うわ～」

ベール「あらら…」

デスサイズが気づいた後にコンパとラムはスィンの後ろにいるデカスライヌに驚く。

スィン『何でも此処の主で何でちゃんと同胞を可愛がってくださいとお願いする為に来た様だよ』

ネプテューヌ「へえ～そうなんだ」

ソロ「まあ、聞く限り大丈夫だな」

ネプギア「そうですね」

スィンの言葉にデカスライヌは頭を下げ、ネプテューヌは納得し、ソロはそう言って、会ったネプギアは頷く。

ブラン「あなたの心配は大丈夫」

ノワール「安心しなさい」

デカスライヌ「♪」

ブランとノワールの言葉にデカスライヌは顔をスリスリさせる。

リュウケンドー「んじゃあ行こうか」

その後、スライヌ大好きお譲様に１００匹スライヌとデカスライヌのお願いしますと言う手形付き手紙を付けて届けたのであった。

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

蛇八「それじゃあ行くぞ、ペンネーム『武田軍兵士　清坂　剣麻』から『剣麻「皆様方に質問。　お館様は溶岩の中にいても平気でござるし、平八公は宇宙空間を生身でいて平気であったんですが、貴殿達も生身で平気でござるか？」』…それじゃあ行こう」

一同「無理です」

マリオ「変身してる時は大丈夫だけどな…流石に生身は無理だな」

銀八「とのことです。『武田軍兵士　清坂　剣麻』さん廊下に立ってなさい！」

蛇八「今回は此処まで！」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　～銀女神鎮魂歌～　―　第別訓パート４１

リュカ「と言う訳で真王さんとのコラボでした！」

スネーク「今回は楽だったな」

ネス「そうだね～」

ワリオ「感想を待ってるぜ！」

スネーク「黒龍とのコラボだ」

フォックス「色々とな…」

ルイージ「だね」

マリオ「あちら側の本編でもそう言う奴が出て欲しいもんだ…」

ブロントさん「んで、おmえは何で従ったのか詳しくおしえろい！」

ピーチ姫を返した後にブロントさんが正座している銀地に聞く。

銀地「あなた達を騙した事をすいませんでした…私は無縁や伊藤の存在で今の日常が壊れるのが怖かったんです」

マリオ「それで…俺たちに無縁達を倒して欲しいんだな？」

謝った後に銀地はそう言い、マリオの問いに銀地は頷く。

冥王「的もとい無縁より伊藤って奴が厄介なの」

銀次「（的扱いなんだ；）…確かにあっちの方が厄介だよね…」

冥王の言葉に銀次は冷や汗流した後に伊藤を思い出して言う。

ブロントさん「無縁よりも奴はきたにぃ…【ほって置けません】」

マリオ「まっ、元より常識の無い転生者を送り返すのが俺たちだ…無縁よりも伊藤が先だな」

銀地「その無縁についての情報があります」

銀地はそう言った後、妹である真田美代（しんだみよ）の面倒を見なくてはならないので、マリオ達に情報を伝えて家に帰って行った。

マリオ「行った方が良いですね」

銀次「そうだね」

ブロントさん「ｈａｉ！」

聞いた情報にマリオがそう言い、銀次とブロントさんも同意する。

マリオ達が銀地に教えられた情報は、なんでも数少ない平穏の望む転生者や正義感の強い転生者が結束して無縁を倒そうとしていると言う事。

そしてその人達と協力して無縁討伐に参加して欲しいと言う話だった。

ただ数が数名なので、さすがにそれでは無縁は勝てないだろうと思った銀地はマリオ達にその人達の手助けをして欲しいとの事である。

マリオ「どう思います？」

銀次「あの時見たけど無縁は多人数でも負けて無かったね」

ブロントさん「しかも、何かわからにぃが偽神とは違う奴から能力を貰っている可能性がありぃ」

冥王「銀地の予想は当たってると思うの勘違い的はしぶといし」

移動しながらマリオ達は話し合い、銀地から聞いた転生者達が集まる広場に行く。

そしてマリオ達が着くと、そこにはボロボロになった転生者達がいた。

銀次「当たってたね」

マリオ「アイテムを使いましょう」

冥王「私は得意じゃないから借りるの」

ブロントさん「ジュースを奢ってやろう」

その光景に銀次が言った後に銀次以外の3人はボロボロになった転生者達を介抱する。

マリオ「大丈夫か？何があった」

転生者1「あんた達は…実は…」

話を聞くと、さっき全員で無縁に勝負を挑んだが負けてしまった事。

殺されてるかと思ったが…

無縁「お前等は殺す価値もないなァ」

…と言われて殺されずに済んだ事を話した。

冥王「的が偉そうに言うなの」

ブロントさん「良かったですね」

転生者１「悔しいが…あのまま殺されてるよりは確かに良かった」

いない無縁に冥王はそう言い、ブロントさんの言葉に転生者１は悔しげだがそう言う。

転生者を治療していた時…

伊藤「おいこら！俺をバカにした奴等！」

そこに伊藤が何十人と言う転生者達と黒い巨大ドラゴン、そして檻に閉じ込められた美波と姫路を連れてやって来た。

マリオ「（あ～あ…敵に回しちゃ行けない奴を回したな…）」

伊藤をマリオは哀れみの目で見て心の中で呟く。

マリオが言う敵に回しては行けない者とは！

リュカ「と言う訳で黒龍さんとのコラボでした」

クッパ「あ～あなのだ…」

スネーク「敵に回しては行けない奴はな…」

ネス「感想を待ってます♪」

ＩＳ&Ｉｔ；インフィニット・ストラトス＆ｇｔ；黒き牙と永遠の月　金色のコラボ

スネーク「ユートピアとのコラボだ！」

フォックス「そしてついに１５０話目に突破だ！！」

ネス「どんどん行こうね！」

アンク「もうすぐだ！」

先頭を走るアンクを追いかける終達

鈴「ねえ！こっちに楓はいるの！」

アンク「祈っとけ！」

一夏「祈っとけって；」

鈴の問いに返したアンクの言葉に一夏が呆れた後に一同の目に廃墟が目に入る。

アンク「此処からだ！此処からメダルの気配を感じる！」

メズール「私も感じるわ」

ガメル「俺も！」

ギル「ぷっ！」

ショカ「かっか！」

アンクの言葉と共に他のグリード達も反応する。

中に入ると繭以外は何もなかった。

セシリア「何ですかあの繭は？」

椛「！感じる！あの繭から楓の気配がする！」

アンク「ん？」

繭を見てセシリアが言った後に椛はそう言うとアンクは顔を顰める。

アンク「（何だ…この違和感は…）」

その感じる違和感にアンクは考えようとした時、椛が繭に向かって駆け出す。

その時…

アンク「！変身！」

ヴァトル「変身！」

オーズドライバーA「タカ！クジャク！コンドル！タージャードル～♪」

オーズドライバーV「フェニックス！ドラゴン！ペガサス！フェ！ドラ！！サス！！！フェドラ♪フェドラサス♪」

殺気に気づいたアンクとヴァトルが変身して、オーズTCはワティルを、オーズFCがアグムの攻撃を防ぐ。

ワティル「あら？気づいた？」

オーズＴＣ「みくびんなよこの世界のグリード！」

終「奇襲か！豪快チェンジ」

一夏「豪快チェンジ！」

モバイレーツ「「ゴーカイジャー！」」

それに終と一夏は豪快チェンジすると終はオーズＦＣと共にアグム、一夏はオーズＴＣと共にワティルと戦う。

黒狼「僕達も！変身！」

ウヴァ＆カザリ＆メズール＆ガメル「変身！」

ギル「ぷっ！」

ショカ「かっか！」

オーズドライバーＣ「タカ！トラ！バッタ！タ・ト・バ！タトバ♪タ・ト・バ♪」

オーズドライバーＵ「クワガタ！カマキリ！バッタ！ガーッタガタガタキリッバ、ガタキリバ♪」

オーズドライバーＫ「ライオン！トラ！チーター！ラッタ♪ラッタ～ラトラーター♪」

オーズドライバーＧ「サイ！ゴリラ！ゾウ！…サゴーゾ、サッゴーゾ！！」

オーズドライバーM「シャチ！ウナギ！タコ！…シャシャシャウタ、シャシャシャウタ♪」

オーズドライバーS「タカ！イマジン！ショッカー！タ・マ・シー！タマシー！タ・マ・シー！ライダーーーーダマシー！！」

オーズドライバーGR「プテラ！　トリケラ！　ティラノ！　プットティラノ～ザウル～ス！」

黒狼達もそれぞれのオーズに変身して手助けしょうとするとワティルとアグムは屑ヤミーを作り出し黒浪達を寄せ付けない。

長瀬「これじゃあ近づけないぞ！」

明日菜「そんだけ近寄らせたくない訳！」

2人が言ってる間、楓ＬＯＶＥズは繭に近づいていた。

椛「楓！」

シルク「この中に入っていたのね…」

ラウラ「早く出すぞ！」

シャル「勿論！」

中にいる楓を繭から出そうとするが繭は堅く破れずにいた。

楯無「あれ硬いみたいだよ！」

簪「どれだけですか…」

一方、終と一夏はオーズＴＣとオーズＦＣがいるがワティルとアグムと苦戦していた。

ゴーカイブルー&ゴーカイグリーン「豪快チェンジ！」

モバイレーツ「「マージレンジャー！！」」

ゴーカイブルーはマジブルー、ゴーカイグリーンはマジグリーンに豪快チェンジする。

マジブルー「喰らえ！ブルースプラッシュ！」

マジステックから放たれた水流はアグムに命中するがアグムは仰け反らない。

オーズＦＣ「おりゃあ！」

アグム「…！」

そこをオーズＦＣがパンチする事で後ずさるが構わずオーズＦＣを攻撃する。

マジグリーン「グリーングランド！」

マジグリーンも魔法を使って草の綱でワティルを縛り上げる。

マジグリーン「どうだ！」

ワティル「これで私を縛り付けたつもり？」

マジグリーンにワティルはそう言うと草の綱を引きちぎる。

タジャスピナー「タカ・クジャク・コンドル・ギン・ギン・ギン！ギガスキャン！！」

オーズＴＣ「その余裕が命取りだ！」

ワティル「！？」

そこにマグナブレイズを発動させたオーズＴＣがワティルに突撃する。

オーズＴＣ「おりゃあ！」

ワティル「くっ！」

それを受けたワティルが吹き飛ぶ際、ワティルの体から3枚のメダルが飛び出す。

すかさずオーズＴＣはそれを掴み取ると絵柄を確認して今戦ってる黒狼が変身したオーズに叫ぶ。

オーズＴＣ「黒狼！使え！」

オーズ「えっ！？」

投げ渡されたコアメダルにオーズは驚いた後に裏を見て確認した後

にオーズドライバーに装填してスキャンする。

オーズドライバーC「アリ！クモ！ハチ！ア～モ～ハ～！！」

歌と共にオーズは銀色の複眼が黒の『アリヘッド』、胸は蜘蛛の『クモアーム』、足はハチの『ハチレッグ』の蟲系コンボ『仮面ライダーオーズ・アモハコンボ』へコンボチェンジした。

オーズAMC「あばばばばばばばばばばばばば！！！！！」

すかさずオーズAMCは連続で蹴りを放つとハチレッグから針が飛び、屑ヤミーを貫いて行く。

ワティル「くっ！油断したわ」

マジブルー&マジグリーン「豪快チェンジ！」

モバイレーツ「ギーンガマン！！」

胸を押さえるワティルにワティルを支えるアグムにマジブルーとマジグリーンはギンガマンに豪快チェンジする。

ギンガブルー「激流一刀！！」

ギンガグリーン「疾風一陣！！」

星獣剣を構えてそれぞれの必殺技を放つとワティルはそれを避け、アグムはそれを受け止める。

ギンガグリーン「おいおい…」

ギンガブルー「マジかよ…」

傷一つ付かずなアグムに2人は驚く。

ワティルは楓の入った繭を見る。

繭が一瞬薄く中から金色の光が見えた。

ワティル「（頃合いね…）」

アグム「…（コク）」

ワティルがそれを見た後にアグムは頷いた後に地面を殴り、土煙を起こす。

それが収まると2体のグリードはいなかった。

オーズＴＣ「逃げたか…」

オーズＦＣ「けどまあ、楓の救出がメインだしな」

オーズＧＣ「おりゃあ！」

オーズＳＣ「はあ！」

オーズＳＧＣ「ふん！」

それを見てオーズＴＣがそう言った後にオーズＦＣがそう言った後に他のオーズ面々の攻撃で屑ヤミーは殲滅された。

ゼロ「離れてろ」

四苦八苦してる楓ＬＯＶＥズにマリオが変身したゼロがそう言うとゼロスラッガーで少し切れ目を入れるとそこから眉を破る。

椛「楓！！」

気を失っている楓に抱き付く椛に他の楓ＬＯＶＥズは嫉妬するが…

セシリア「（まあ、今回は…）」

鈴「（譲ってあげるわ）」

シャル「（だね）」

ラウラ「（ふん）」

シルク「（そうね）」

我慢して椛に譲った。

千冬「…此処は旅館に戻るぞ」

ソロ「そうだな」

リュウケンドー「楓の容態が気になるしな」

千冬がそう言い、他のメンバーが同意した後にキングスカッシャーが楓をおんぶして戻ったのであった。

楓の体の中で金色のコアメダルが漂っている事と一瞬、開いた楓の目が金色に光ったのに誰も気付かずにいた…

アンク「（何で楓からメダルの気配が…）」

ただ1人、アンクを除いて…

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

蛇八「それじゃあやるぞペンネーム『ケン』から『統夜「おいおい・・あいつらって懲りないのか？」

はやて「さあ？」

統夜「おっ！懐かしのたぬきスーツ！はやて。これを着てみて」

はやて「え～・・・どうせたぬきマリオみたいな格好になるんやろ・・・」

統夜「何か・・・たぬきスーツｖｅｒ　２０１１って書かれてあるから・・・分からんぞ」

はやて「一回だけやで・・・」

たぬきスーツｖｅｒ　２０１１を着ると光に包まれ、光が収まると・・・
はやての格好が上が下乳が見える程の茶色のスポーツブラタイプ、下が茶色のＴバックの水着にお尻から尻尾が生えた姿になった。
はやて「何やこれえぇぇぇぇ！！！／／／／／」
自分の格好を見て顔を紅くしていた。
統夜「はやて・・・可愛いぞ」
普通に言っているが鼻血を流していた。
統夜の言葉を聞いたはやては顔を赤らめていたとか・・・
こいつらはほっといて・・・質問するか。
マリオへ質問
マムー相手に自分じゃ無くても八百屋のおっちゃんでも倒せると思った事は一回ぐらいありましたか？
キテレツに出てくる八百屋の親父とかが思い浮かんで・・・
美波と優子へ
僕の作品で秀吉は女性化になり胸が瑞希や咲夜並の大きさになりました。これを見てどう思いますか？
鳴神ソラさんへ
マロやジーノとか出ますか？』…と言う訳で答えろ！」

マリオ「まあ野菜があれば沢山あればな…」

美波&優子「……色んな意味で羨ましいのと同時に嫉妬物です…」

鳴神　ソラ「マロとジーノは出します」

銀八「との事だ『ケン』さん、そちらの小説頑張って下さい！」

蛇八「次は…おっ、あんたのとこだと銀八先生」

銀八「おっ、そうか、んじゃあペンネーム『黒龍』から『1．質問。鳴神ソラさんは『超ウルトラ8兄妹』を見ましたか？

2．マリオに質問。ウルトラマンゼロと戦って勝てますか？

3．ウヴァに質問。原作ではあなたは哀れな最後を迎えましたが、その事についてどう思いますか？（黒笑）』…じゃあ答えろ」

鳴神　ソラ「見ましたよ！あれは見逃してはならない！！」

マリオ「五分五分だな」

ウヴァ「どうもないな…俺オリジナルじゃないし」

銀八「との事だ『黒龍』！廊下に立ってろい！！」

蛇八「今回は此処まで！」

ＩＳ＆Ｉｔ；インフィニット・ストラトス＆ｇｔ；黒き牙と永遠の月　金色のコラボ

リュカ「と言う訳でユートピアさんとのコラボでした！」

ワリオ「そしてまさかのユートピアが出した１つのコンボが登場するとはな；」

クッパ「なのだ；」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　～銀女神鎮魂歌～　―　第別訓パート４２

スネーク「真王とのコラボだ！」

フォックス「今回はアイテム集めだな」

ワリオ「こう言うのって大変だよな…」

ＺゼロＧＦ「んで…今回は何だ？」

新八「いやいやいや！いきなり変身していてしかも何でその上に厚着してるんですか！！」

会って直後に頭に毛糸の帽子、セーターにカイロを付けた『仮面ライダーゼロイド・ゼロ・グレンフォーム』に新八はツッコミを入れる。

ちなみに２人以外に苦笑しているリュウケンドーとチルノ、ギル、ジーノとマロに銀時、神楽、ネプテューヌ、ネプギア、ノワール、ユニ、ブラン、ラム、ロム、ベールがいる。

ネプテューヌ「どうしたのソロ？」

リュウケンドー「ソロは寒さが苦手なんだよ；」

ＺゼロＧＦ「この姿じゃないとマジ寒いんだよ！！」

銀時「そう言われてもな；」

ノワール「逆にこっちが熱いって感じるわ…」

ネプテューヌの問いにリュウケンドーはそう言い、ＺゼロＧＦが鼻を啜りながらそう言い、銀時とノワールはそう言う。

マロ「それで…依頼は何ですか？」

ラム「今回は～アイテム集めだよ～」

さすらいの旅人『俺はさすらいの旅人。あんた達の噂は聞いている。だがその実力が本物かどうか確かめたい。まずは俺の指定したアイテムを集めてくれ。なに、モンスターから取れる代物だからな』

ジーノ「そのモンスターとアイテムは？」

ブラン「これ…」

ラムが言った内容にある目的の奴を聞くジーノの問いにブランは紙を見せる。

回収アイテム
氷狼の牙×５
雪人狼の体毛×５
吹雪獣の爪

対象モンスター

ブリザードフェンリル
吹雪の獣王と呼ばれるフェンリル。その爪でやられた物は凍傷死の後を絶たないと言われる。
ドロップアイテム：吹雪獣の爪

アイスウルフ
雪原に住む狼モンスター。仲間との連携が強く、素早さが高いため油断はできない。
ドロップアイテム：氷狼の牙

スノーワーウルフ
雪原に住む人狼モンスター。アイスウルフからは同類の関係。決して狙った獲物は逃がさない主義のようだ。なお素早さも狼種の特権。
ドロップアイテム：雪人狼の体毛

チルノ「狼種ばっかだね～」

ギル「ぷっ！」

詳細を見てチルノはそう言い、人間状態のギルも同意する。

ベール「それじゃあ行きましょう」

ZゼロGF「ああ！早く終わらして暖かいもん食べるぞ！」

神楽「お前、そんなにダメアルか…」

ベールの言葉にZゼロGFはぶんぶん頷き、神楽は呆れた顔で言う。

ルウィー・ホワイト雪原

ユニ「此処に言われた3体が出るわ」

ロム「注意して」

ラム「そうそう」

ジーノ「分かったよ」

銃を構えたユニと杖を構えたロムとラムの忠告にジーノが代表で答える。

すると…アイスウルフの集団が現われた。

銀時「早速現われたな」

ジーノ「スピード戦のはこっちも持ってるんでね」

銀狼夜叉を構える銀時の隣でジーノがそう言うと擬人化し、ドレイクグリップを取り出して構えるとそれに現われたドレイクゼクターが合体する。

ジーノ「変身！」

ドレイクゼクター「ヘンシン」

音声と共にジーノの姿は『仮面ライダードレイク・マスクドフォーム』となり…

ドレイクＭＦ「キャストオフ！」

ドレイクゼクター「キャストオフ」

ヒッチスロットルを引く事でドレイクＭＦの前面のアーマーがパージされ、『仮面ライダードレイク・ライダーフォーム』となった。

ドレイクゼクター「チェンジ！ドラゴンフライ！」

マロ「僕も行きます！」

同じく擬人化したマロも腰にフォーゼドライバーを装着し、４つのスイッチを素早くオンにする。

フォーゼドライバー「３…２…１…」

マロ「変身！」

ベルトの右サイドのレバーを押しだす。

そして右腕を上に、左腕を横に伸ばすとマロの姿は『仮面ライダーフォーゼ』に変身した。

その後にアイスウルフが襲い掛かり、それぞれが応戦する。

ドレイク「確かに連携は凄いけど…」

ユニ「飛び掛れば身動き出来ないでしょ！」

自分に飛び掛るアイスウルフを撃ちながらドレイクとユニがそう言った後…

フォーゼドライバー「ロ・ケ・ッ・ト・モ・ジュール」

フォーゼ「この！」

アイスウルフ「ギャン！」

フォーゼはロケットモジュールで飛び掛って来たアイスウルフを倒す。

Ｚゼロ ＧＦ「はっくしゅん！ホントに早めに終わらして暖かいもん食べる！！」

新八「クシャミしながら良く倒せますね！」

ウルトラゼロランスを振るいながらアイスウルフを倒して行くＺゼロＧＦに新八は木刀を振るいながらツッコミを入れる。

チルノ「お～他のも来た様だよ」

チルノがバスターチルノソードを振った後にある方向を見てそう言う。

すると、スノーワーウルフの集団が来る。

ドレイク「流石に一度に来て貰うと厳しいから使わして貰うよ！クロックアップ！」

ドレイクゼクター「クロックアップ」

音声と共にドレイクの姿が消えた後にスノーワーウルフとアイスウルフの集団が一気に倒れる。

ドレイクゼクター「クロック・オーバー」

音声と共にドレイクが姿を現す。

ネプギア「どっ、どうなってるんですか?」

リュウケンドー「高速移動したんだよ。俺たちより速く動いてね」

ノワール「嘘!?」

銀時「そう言うのが付いてるのか?」

ドレイク「まあね」

驚いてるネプギアにリュウケンドーが言い、ノワールも驚いて銀時が聞くとドレイクはそう言う。

チルノ「取ったよ~」

ギル「ぷっ!」

その間にチルノとギルが氷狼の牙5個と雪人狼の体毛5個を手に入れていた。

ZゼロGF「良し!後はブリザードフェンリルの吹雪獣の爪だけだな」

ネプテューヌ「それで出て来たね」

ZゼロGFにネプテューヌが別方向を見て言う。

そこにはアイスウルフやスノーワーウルフより大きい狼が立っていた。

神楽「デカイアルな」

リュウケンドー「あれがブリザードフェンリルか…」

神楽とリュウケンドーが呟いたあとにブリザードフェンリルが爪を振るうが…

リュウケンドー「おっと！」

ZゼロGF「この！」

リュウケンドーとZゼロGFが防ぐ。

リュウケンドー「決めろチルノ！」

チルノ「OK！」

リュウケンドーの言葉にチルノが答えた後にドレイクとユニが銃で話した後に…

ブラン「これも…」

ロム「オマケ…」

ラム「だよ～！！」

続いてブランとロム、ラムが追撃してチルノはブリザードフェンリルにヒョウリュウケンとバスタードチルノソードを構える。

チルノ「ブレイク！」

宣言と共にヒョウリュウケンからエネルギーが発生した後にヒョウリュウケンの形をした剣状のエネルギーが５つ出てブリザードフェンリルを囲み、さらにバスタードチルノソードが分離、当たり剣以外の剣もブリザードフェンリルを囲む。

チルノ「双剣奥義！？・極・武・神・覇・斬！！！」

周りの剣がブリザードフェンリルを連続で切り裂いた後…

チルノ「おお…当たりッ！！！」

ヒョウリュウケンと当たり剣でＸ状に斬る。

チルノが着地して、他の剣が円を描くように刺さるとブリザードフェンリルは倒れる。

チルノ「あたい達ってばホントにサイキョー！！」

リュウケンドー「だな」

銀時「と言うか最強だろ？」

ベール「あの子の決め台詞ですよ」

ビシッと決めるチルノにリュウケンドーはそう言い、銀時が呆れ顔で言うとベールがそう言う。

その後、吹雪獣の爪を手に入れ、依頼主にアイテムを渡した後に暖

かいものを食べたのであった。

リュカ「と言う訳で真王さんとのコラボでした」

ワリオ「何気に決まったんだなフォーゼの受け継ぎし者…」

クッパ「なのだ」

ピット「白だしね…」

ネス「感想を待ってます♪」

スネーク「黒龍とのコラボだ！」

フォックス「ついにな…」

クッパ「なのだ」

ソニック「レッツゴー！」

伊藤「ははははははは！人質がいるから抵抗するなよ！！」

高笑いする伊藤だったが哀れみの目をするマリオに気づく。

伊藤「なっ、何だその目は！」

マリオ「ああ…ご愁傷様」

激怒する伊藤にマリオはそう言った時…

数人が何かに飲まれ、姫路と美波はある人物に救出される。

ネオス「大丈夫？姫路さん、美波」

姫路「はい！」

美波「大丈夫よ」

その人物、マリオが言っていた人物であるネオスが安否を聞く。

伊藤「貴様！」

マリオ「怒るのはお前じゃないぜ」

怒る伊藤にマリオがそう言うと２人から伊藤に振り返ったネオスは怒気を纏わせる。

ネオス「僕も大切な友達を人質に取ろうとするあんたを許さない！」

伊藤「ほざけ！1人で何…が…」

ネオスの言葉に伊藤は言おうとして周りを見てそれは途切れる。

周りにスターダストやリバイス・ドラゴン、ブラック・レイ・ランサー、ブラック・ミスト、ホープ、ヴォルカザウルスがそれぞれ睨んでいた。

ネオス「いっけぇぇぇぇぇぇぇ！！」

その言葉と共にモンスター達は転生者達を攻撃する。

能力を使おうとすればブラック・レイ・ランサーが無効にし、強さを上げようとすればブラック・ミストが吸収する。

スターダストとリバイス・ドラゴンの咆哮にヴォルカザウルスのマグマックスで転生者が吹き飛ぶ。

伊藤「くそ！やれ！」

伊藤が黒いドラゴンに命令し、黒いドラゴンは口から滅びのバーストストリーム級の破壊光線を放つが…

ネオス「ムーン・バリア！」

ホープが前に出て、光線を受け止める。

マリオ「それにしてもあのドラゴンは一体…」

ネオス「外見はレッドアイズブラックドラゴンなのにブルーアイズ並みですね…」

黒いドラゴンを見て呟くマリオの隣にネオスが降り立って言うと…

？？？『あれはエリアだ』

その言葉にマリオ達はした方を見るとダークエリザベスがいた。

マリオ「ダークエリザベス」

ネオス「と言うかあのドラゴンがエリアさんって…」

ダークエリザベス『お前たちは知らないのは当然だな…エリアがまだ呪いを解かれる前に自分の体も実験していた。その過程でドラゴンになれるようになったのだ。ただ、自分が戦う時や仲間が危険な時にしかならないのだ』

戸惑うネオスにダークエリザベスは説明する。

マリオ「良し！ネオスはエリアを正気に戻してくれ。俺たちは奴だ！」

ネオス「はい！」

ダークエリザベス『うむ』

ブロントさん「ｈａｉ！」

銀次「分かった！」

冥王「いっちょやってやるの！」

ネオスにエリアを正気に戻すのを任せた後に伊藤へ立ち向かう。

マリオ「覚悟しろ！」

冥王「あなたの能力は聞いてるの！」

ブロントさん「俺たちには効かにぃ」

伊藤「ふっふっふっふっ」

マリオの後に冥王とブロントさんの言葉に伊藤は笑う。

ダークエリザベス『何がおかしい？』

伊藤「こう言う事だ」

ダークエリザベスの問いに伊藤はそう言うと伊藤の体がウヴァと同じ昆虫系グリードになる。

ドカ！（マリオの蹴りが炸裂）

バキ！（ブロントさんのギガトンパンチ炸裂）

メキ！（ダークエリザベスのボード攻撃が炸裂）

マリオ「どう言う訳だ？」

ブロントさん「【何だったのか】【分かりません】」

ダークエリザベス『攻撃しておいてなんだが…強いのか？』

美波「一瞬で攻撃した！？」

冥王「油断なの」

銀次「あっはっはっ；」

マリオとブロントさん、ダークエリザベスが倒れた伊藤グリードに聞き、美波が驚いた後に冥王が涼しく言い、銀次は苦笑する。

伊藤グリード「ぐっ、ぐおおおおおおおお！！！」

ふらふらとだが立ち上がった伊藤グリードは咆哮した後に巨大なカマキリの怪物に変わる。

ブロントさん「巨大化しましたね」

マリオ「やれやれ、暴走か…」

美波「どっ、どうするんですか！？」

目の前の暴走した伊藤グリードにブロントさんはそう言い、マリオは頭を掻くと美波がそう聞いた時…

ネオス「カオスエクシーズチェンジ！！現われろ！ＣＮＯ．３９！希望皇　ホープレイ！！！」

その言葉にマリオ達はネオスの方を見る。

すると、元に戻ったエリアを背にカードを掲げたネオスがいた。

そして暴走伊藤グリードの後ろにカオスエクシーズチェンジしたホープレイが現われる。

ネオス「ホープレイの効果発動！オーバーレイ・チャージ！」

ネオスの言葉と共にホープレイは両肩から補助腕が伸びて背中の大剣を持ち、掲げると共に灰色の部分が真っ白に輝く。

マリオ「聞こえてはいないが言って置くぞ…敗因はただ1つ、お前は俺の弟子を怒らせた」

よろける暴走伊藤グリードにマリオはそう言う。

ネオス「切り裂け！ホープレイ！ホープ剣・カオススラッシュ！！」

その言葉と共にホープレイは腰の双剣でX状に切り裂いた後に補助腕が持つ大剣で1直線に両断する。

両断されると共に暴走伊藤グリードは爆発し、爆風から何かが飛び出して砕け散った。

銀地「ホントに良いんですか？」

マリオ「ああ、そこはお前たちの様な転生者を保護するからな」

ダークエリザベス『（それって…俺が襲撃したあそこか…）』

世界の壁を背にして聞く銀地にマリオは安心させる様に頷く。

ちなみに後ろでエリアが明久に抱き付き、美波と姫路がぎゃあぎゃあ言ってる。

銀地「ありがとうございます！」

美代「ホントにありがとうございます！」

転生者「このご恩は忘れません！」

マリオ「ああ！平和に暮らせよ」

お礼を言った後に銀地や美代に転生者達は世界の壁を通り抜けて行く。

マリオ「ふぅ…1つ終わったな…」

そう言った後にマリオはある方向に駆け出す。

無縁「気づいたんだ」

マリオ「そりゃあな」

立っていた無縁にマリオはそう言う。

無言でマリオはカードを無縁に貼り付けると無縁は消えなかった。

無縁はそのままどこかに転移してしまった。

マリオ「（やはり無縁は転生者の皮をかぶった存在だな…やれやれ、何か銀時達に大変な奴を相手をさせるな…）」

無縁がいた場所を見てマリオは感じた事を呟いた後に頭を掻いた。

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

蛇八「と言う訳でやるぞ…ペンネーム『匿名希望』から『質問城戸真司のことが好きな人は誰がいますか？　全員教えてください。』…これ、普通にライぷち（『仮面ライダー龍騎～ライダーとアイドルとぷちどる日常～』の略）向けだよな…え～真司の事が好きなのは真司が契約してるモンスターに霧島　美穂だ」

銀八「と言う訳で『匿名希望』さん、この小説以外の小説の質問はその小説でしてください！」

蛇八「次ペンネーム『武田軍兵士　清坂　剣麻』から『銀次に質問・・・・奪還屋やってますか？　もしやっているんでしたら依頼があります。

依頼内容　捕らわれた幸村と人質（女性）の救出。　人質を取られ捕まってしまった幸村を救出し、犯人を捕まえる事。　・・・ち

なみに、相手側は転生者（幸村より劣る）で守り屋として菱木竜堂が、運び屋としてドクターＪ（赤屍さん）が雇われてます。

赤屍「いやいや。　今回の仕事は退屈でした。　次の仕事は私を楽しめますかね？」

菱木「・・・・・フン！！」↑（サッカーボールを素手で引き裂いている）『…』

銀次「時たま…1人だけどね（苦笑）」

銀八「との事です『武田軍兵士　清坂　剣麻』さん廊下に立ってなさい！」

蛇八「今回は此処まで！」

リュカ「と言う訳で黒龍さんとのコラボでした」

ワリオ「ホントに無縁って何者だ？」

スネーク「そうだな…」

ネス「感想を待ってます♪」

IS&It;インフィニット・ストラトス>黒き牙と永遠の月　黄金のグリード

スネーク「ユートピアとのコラボだ」

クッパ「前回の話は！」

1つ！廃墟にて銀色のグリード、ワティルと銅色のグリード、アグムと戦う。

2つ！アンクがワティルより手に入れたメダルで黒狼は新たなコンボ、アモハコンボへコンボチェンジする。

そして3つ！楓を救出したが誰もが知らない中、楓の中に金色のコアメダルが漂っていた。

ネス「今回もまた凄い展開が！」

ワリオ「始まるぜ！」

ドクター「…今の所、首元以外に異常はないよ」

椛「そう…」

長瀬「良かったな」

宿に戻り、楓を見たドクターがそう言い、椛は安堵の息を吐き、長瀬が肩を叩いて言う。

千冬「しかし…奴等の目的は何だったんだ?」

アンク「さあな…だが、お陰で黒狼の使えるコンボは増えた」

黒狼「そうだね」

顎に手を当てて考える千冬にアンクはそう言い、ワティルのメダルを見ていた黒狼は苦笑すると…

楓「うっ、うう~ん」

呻いた後に楓は目を開ける。

アンク「(?)」

一瞬だが、アンクは楓の目が金色に光ったのを見たが他のメンバーは気づかなかった。

椛「楓、大丈夫？」

楓「あっ、はい…」

セシリア「よっ、良かったですわ…」

椛の問いに楓は頷き、セシリアや楓ＬＯＶＥズは安堵の息をまた吐く。

キョン子「なあ…どう思う？」

マリオ「そうだな…あのグリード達はきっと…あの偽神モドキの転生者のせいで目覚めたんでしょうね…」

キョン子の問いにマリオはそう言う。

銀次「何が目的なんだろうね…」

冥王「ほとんど吹き飛ばせば良いの」

キョン子「…それ以外ないのか？」

首を傾げる銀次の後に言った冥王にキョン子は呆れて言う。

椛「それにしても…攫われた楓にお仕置きと行きましょうか」

楓「ふえっ！？」

鈴「良いわね」

シャル「着せ替えやろう！」

ラウラ「ふっふっふっ！フォックスから貰った写真の様にしようじゃないか！」

シルク「沢山あるわよ～」

木乃香「んじゃあせっちゃんの着替えも…」

月詠「ええどすな～」

刹那「このっちゃん！？」

椛の言葉に楓ＬＯＶＥズは楓を取り囲んで隣の部屋に連れ込み、木乃香も月詠と共に刹那を連れ込み…

ネギ「あっ、あの明日菜さん…何で私まで？」

明日菜「良いから！」

のどか「待ってください！私も！」

千雨「んじゃあ私もアドバイザーでやるか」

明日菜やのどか、千雨も行く。

キングスカッシャー「ありゃりゃ；」

デスサイズ「大変だね；」

ウイング「だな」

本音「賑やかだね～」

虚「そうですね」

それにメンバーが苦笑している間にアンクはマリオに近寄る。

マリオ「何だ？」

アンク「貸して欲しいライダーのカードがある」

その頃、旅館の外では…

ゴーカイブルー「はっ！」

ゴーカイグリーン「たっ！」

ゴーカイジャーに変身した終と一夏がいた。

2人はさっきの戦いで痛感した。

ワティルはともかく、アグムに傷1つも付かなかったのだ。

負けない為に2人はお互いに訓練をしているのだ。

箒「一夏…」

楯無「終…」

簪「頑張れ」

それを思いを寄せる少女達は見ていた。

そして夜になり全員が寝静まった後、楓は何かに引き寄せられるように1日目に遊んだ海岸に行く。

ワティル「待ってたわよ」

アグム「……」

そこにワティルとアグムが居た。

ワティル「さあ！復活の時よ！」

そう言うと共にワルティとアグムはセルメダルを何枚か真上に投げると楓の足が地面から浮かび、セルメダルに包まれると頭が鳳凰、胸と肩にユニコーンの頭があり足はフェンリルのグリードになると金色のグリードとなった。

ワティル「おはよう…と言うよりこんばんわ、レリル」

金色のグリードの名をワティルが言うとレリルから楓が出て来る。

それを見ていたワティルに…

アグム「！」

アグムがワティルの前に立つ。

そこに…炎を纏ったオーズＴＣが体当たりする。

ワティル「アグム！」

オーズＴＣ「やっぱり用心していたら正解だったか…」

アグムを支えるワティルにアグムから飛び出した銅色の3枚のメダルを左手に持ち、右腕に楓を抱き抱えて距離を取ったオーズＴＣはそう言う。

ワティル「あら？気づかれてた？」

オーズＴＣ「音梨　楓からメダルの気配を感じてたもんでな…まさか人を媒体に復活させるとはな…」

ワティルの言葉にオーズＴＣはそう言ってレリルを見る。

オーズＴＣ「教えろ、そいつを復活させたお前等の目的は何だ？」

ワティル「それは無理ね」

そう言うと同時にアグムが廃墟の様に砂浜を殴って起こした砂煙に紛れる。

オーズＴＣは火炎弾を放つがもう3体のグリードは去っていた。

舌打ちした後にオーズＴＣは楓の頬を叩く。

オーズＴＣ「おい！起きろ！目を開けろ！」

その言葉に反応しない楓にオーズＴＣは自分の手で楓の目を開かすと目を開けた楓の目に光りはなかった。

ＩＳ＆Ｉｔ；インフィニット・ストラトス＆ｇｔ；黒き牙と永遠の月　黄金のグリード

リュカ「と言う訳でユートピアさんとのコラボでした！」

クッパ「黄金のグリードが復活したのだ！」

スネーク「そして楓に何が起こった！」

フォックス「と言うかアンクが最近出張ってるな…」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　～銀女神鎮魂歌～　－　第別訓パート４３

スネーク「真王とのコラボ第４３弾だ！」

クッパ「今回はパート３９で行ったあのギャラクシーへまた行くのだ」

スネーク「今回はボス戦だな」

ネス「タバネさんの幼い頃の知り合いの様だよ」

～マッドスクールラビリンスギャラクシー～

『対決！マダム・アンバリー』

マリオ「おっ、メテンズギルドの長から手紙か…」

ルイージ「へえ～珍しいね」

手紙を見て言うマリオにルイージがそう言った後にマリオは手紙を開く。

アテナス『お久しぶりです。アテナスです。今回私からの依頼なんですが、実はある場所で悪の転生者を教育をしている学校長がいると聞きました。悪の転生者がたくさんいればいくら我々でも限度がございます。なのでマッドスクール校長・マダム・アンバリーを討伐を以来します』

マリオ「場所は…前、俺の代わりに行って貰ったギャラクシーか…」

ルイージ「だね」

その後、マリオはルイージとソニック、銀次に冥王にリュウケンドーとソロ、明久とムッツリーニ、チルノ、ヨッシーと共に向かい、銀時、新八、神楽、桂、エリザベス、ネプテューヌ、ネプギア、レーティア、ジャンヌ、ギルシア、リル、ネリア、ビビ、ナリア、タバネと合流して向かった。

マッドスクールラビリンスギャラクシー

（ＩＢＧＭオバケの迷宮ギャラクシー…ｂｙスーパーマリオギャラクシー２）

学校の中庭（ＩＢＧＭ：Ｍａｄａｍｅ　Ａｍｂｅｒｌｙ　Ｓｃｈｏｏｌ　Ｙａｒｄ…ｂｙ：Ｃｒａｓｈ　Ｔｗｉｎｓａｎｉｔｙ　ＯＳＴ）

銀時「いっぱいいるな…」

ソロ「まあ、前来た時に戻る時に大暴れしたしな」

ネプギア「主に相手側だよね；」

冥王「まあ、今回も私が入って大暴れなの」

銀次「あんまりやらせたくないしね」

目の前の悪転生者の集団を見て言う銀時とソロにネプギアに冥王がそう言い、銀次も電撃を散らす。

ソロ＆ソニック「変身！」

明久＆ムッツリーニ＆ルイージ「ＫＡＭＥＮＲＩＤＥ！！」

ゼロイドライバー「カメンライド！ゼロイド！」

ネオスバックル&ネクサスベルト&コスモスバックル「ライダーアップ」

冥王「レイジングジャベリン・バースト！セット・オン！！」

ヒョウリュウケン「チェンジ・リュウケンオー！」

チルノ「氷龍変身！」

それぞれソロとソニック、明久、ムッツリーニ、ルイージはライダーに変身し、冥王はレイジングジャベリン・バーストを構え、チルノもリュウケンオーになる。

デルフ「久々に喋れた！！」

カリバーン「確かにそうだな…しかし赤ちゃんがいるが大丈夫なのか？」

ビビ「ああ…」

ジャンヌ「そこ等へんはね…」

カリバーが構えたデルフの後にカリバーンがリルの事について聞くとビビとジャンヌはリルを乗せたヨッシーの方を見ると…

リル「ばぶっ！」

悪転生者集団「ぎゃあぁぁぁあぁぁあぁぁぁぁぁ！！！」

ヨッシー「いや～凄いですね～」

リルの能力で吹き飛ぶ悪転生者の集団の姿があった。

デルフ「おでれーたー、パワフルな赤ん坊だな」

レーティア「でしょ？」

ギルシア「俺達の子だもんな」

デルフの言葉にレーティアとギルシアは誇らしげに言う。

マリオ「おかしい…」

銀時「何がだ？」

戦っていたマリオが状況を見て呟き、その呟きを聞いた銀時が聞く。

マリオ「数だよ…多くないか？」

桂「言われて見れば…防衛にしては数が異常過ぎるな…」

ネリア「何か中で起こっている？」

エリザベス『この可能性ありですね』

マリオの問いに桂も状況を見てそう言う。

ネリアが言った事をエリザベスも同意する。

ゼロイド「そんじゃあ早く行くぜ！変身！」

ゼロイドライバー「カメンライド！ネクサス！！」

音声と共にゼロイドはムッツリーニが変身するネクサスと同じ『仮面ライダーゼロイド・ネクサス・アンファンスフォーム』へ変身した。

Ｚネクサス「行くぜ！」

ネクサス「……加速」

Ｚネクサスとネクサスがそう言った後に2人の姿が消え、一瞬で悪転生者全員が倒され、輪廻へ送られた。

タバネ「それじゃあ中に入ろう～」

それを見届けた後にタバネが先頭で入り、マリオたちも続く。

学校内（ＩＢＧＭ：Ｃｌａｓｓｒｏｏｍ　Ｃｈａｏｓ　（Ｃｒａｓｈ）：ｂｙ：Ｃｒａｓｈ　Ｔｗｉｎｓａｎｉｔｙ　ＯＳＴ）

なぜ中庭に沢山いたかは中に入って分かった。

ブロントさん「ギガトンパンチ！！」

ガウェイン「ふん！！」

ブロントさんやガウェインがキルケイビーと悪転生者をなぎ払っていた。

キョン子「おっ、お前らも来てたのか？」

ネプテューヌ「キョン子ちゃん、何で此処に？」

バットを構えて見ていたキョン子にネプテューヌは話しかける。

キョン子「あたし達も頼まれたのさ」

ガウェイン「悪の転生者は常識のない転生者より幾分マシだが流石に多くい過ぎるのも駄目なので相手側には悪いが輪廻を戻って貰ってる」

ブロントさん「汚い事もするが【そっちより】【まだマシ】」

キョン子の言った後に倒し終えたガウェインとブロントさんも来る。

リュウケンオー「楽になったね」

神楽「暴れたりないけど、確かに多過ぎもそうアルな」

リュウケンオーと神楽が言った後に一同は進む。

銀時＆ブロントさん「おりゃあ！」

そして校長室と思われるドアを銀時とブロントさんが蹴って吹き飛ばす。

ネプギア「あなたがマッドスクール校長のマダム・アンバリー？」

ネプギアは椅子に座っている女性に聞く。

女性「いかにも」

そう言うと女性、アンバリーは立ち上がると名乗り上げる。

アンバリー「宇宙一の悪の科学者・マダム・アンバリーとは私のことだよ」

銀時「何かタバネと似た感じのやつだな…」

マリオ「んで…俺たちが来た理由は分かるな?」

アンバリーを見て銀時は呆れた顔をし、マリオが言う。

アンバリー「分かるけど…そう簡単にはやられないよ~」

そう言うとパチンと指を鳴らすと…

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

ゼロイド「うおっ!」

神楽「何アルか!?」

新八「地面が揺れてる!」

ネオス「あっ!あれを!」

いきなりの揺れにメンバーは倒れないように踏ん張ってるとネオス

がアンバリーの前の床が開く事に気づくと何かが現れた。
現れたのはガレオムとソードサイドとガンサイドが別れたデュオンであった。
リュウケンオー「何あれ？」
アンバリー「フッフッフ～♪私こう見えて科学力も強いんだよ」
そう言うとアンバリーは懐から何かが入ったのを投げ、落ちると兵隊になる。
マリオ「アーナロイド！！」
コスモス「こう言うのも作れるの！？」
現れた兵隊にマリオとコスモスが驚いてる間にアンバリーの後ろにメカゴモラが現れる。
メカゴモラの背中からアンバリーは乗り込むとメカゴモラは目を光らせる。
アンバリー『私のロボが最強なんだよ』
タバネ「それはどうかな～」
ゼロイド「行くぜ！」
リュウケンドー「おう！」

アンバリーの言葉の後にタバネ、ゼロイド、リュウケンドーの後にそれぞれ駆け出す。

マダム・アンバリー戦（Ｃｒａｓｈ　Ｔｗｉｎｓａｎｉｔｙ　－Ｂｏｓｓ　６　Ｍａｄａｍｅ　Ａｍｂｅｒｌｙ）

ゼロイドとリュウケンドー、リュウケンオー、タバネがアンバリーの乗るメカゴモラと対峙する。

ゼロイド「おりゃあ！」

リュウケンドー「そりゃあ！」

ゼロイドとリュウケンドーが斬撃を喰らわした後にタバネがお手製の銃で攻撃する。

アンバリー『タバネちゃんより私の方が機械がいいよ？』

その言葉と共にメカゴモラの手からビームが放たれる。

リュウケンオー「うわっ！」

タバネ「おっとっと」

それを４人は避ける。

ゼロイド「危ないな…」

ゲキリュウケン「だが…感じたエネルギーはデバイスで言う非殺傷

レベルの奴だ」

リュウケンドー「そうなのか？」

ゼロイドが地面を見て言い、ゲキリュウケンが感じたのを言うとリュウケンドーは聞く。

アンバリー『いくら悪でも私は人を殺さない主義でね』

リュウケンオー「んじゃああれは？」

アンバリーの言葉にリュウケンオーがガレオムやソードデュオンとガンデュオンを見て言う。

アンバリー『そりゃあ殺さない程度にレベルを下げてるんだよ』

タバネ「やるね～」

リュウケンオー「ふ～ん…決めますか！」

そう言うとリュウケンオーはファイナルキーを出す。

リュウケンオー「ファイナルキー！発動！」

ヒョウリュウケン「ファイナルブレイク」

音声と共にヒョウリュウケンから５つのエネルギー剣がメカゴモラに突き刺さる。

リュウケンオー「ヒョウリュウケン！奥義！！氷華？咲！！」

前方に出来た氷の結晶をジャンプして行き、メカゴモラの頭にヒョウリュウケンを振りかぶる。

リュウケンオー「おりゃあぁぁぁぁぁ！！！！」

叩き付ける様にメカゴモラの頭に叩き付けた後にメカゴモラは壁をぶち破り、中庭へ落ちて行く。

ネオスA「ウェーブシュート！！」

鎧部分が青くなり、イルカを模した感じに変わった『仮面ライダーネオスアクア』が水を巻き起こし、ガレオムとソードデュオン、ガンデュオンを飲み込んだ後に…

銀次「食らえ！！」

冥王「レイジング・ブレイカー！」

ブロントさん「ホーリー！」

ガウェイン「ハドロン砲！発射！」

そこを銀次の電撃、冥王とガウェインの砲撃、ブロントさんの魔法が炸裂して爆発する。

銀時「ホワタッ！！」

ネプテューヌ「ええい！」

ネプギア「この！」

ジャンヌ「はっ！」

そしてアーナロイドも銀時達が殲滅した。

銀時「いないな…」

ビビ「そっちどう？こっちはいないわ」

銀次「いないよ～」

数分後、銀時達は中庭でメカゴモラの周りを探索していた。

探してる人物は勿論アンバリーなのだが…

タバネ「いないね～」

マリオ「足速いな…」

ブロントさん「まあ、1人では無理でしょ」

ギルシア「そうだな」

レーティア「それでどうする？」

呆れた顔をするマリオにブロントさんはそう言い、ギルシアも同意した後にリルを抱えたレーティアが聞く。

マリオ「ふむ…メテンズギルドの長に報告だな…討伐は無理だった

が此処にいた悪転生者は全て輪廻へ送ったからな…」

キョン子「それにああ言う輩はどっかで会えるだろうな…」

チルノ「帰るの？」

リュウケンドー「だな」

マリオの報告にチルノが聞いた後にリュウケンドーは腕を組んで言う。

離れた場所で…

アンバリー「いや～やるねこの子」

走りながらアンバリーは何時の間にか撮ったチルノの写真を見て呟く。

アンバリー「フッフッフ～♪次を楽しみにしといてね～」

アンバリーはチルノの写真にそう言うと懐にしまいスピードを上げる。

ネス「と言う訳で真王さんとのコラボでした～」

リュカ「何か生き残ったね；」

クッパ「作者がキャラ的に気に入った様だぞ」

スネーク「だな」

ネス「感想を待ってます♪

ううう～…今回は震えが止まらないな…ｂｙ銀次（前書き）

スネーク「武田軍兵士　清坂　剣麻からのリクエストだ！！」

ネス「大変だね～銀次さん」

リュカ「だよね；」

クッパ「どうなるのやら…」

ううぅ～…今回は震えが止まらないな…ｂｙ銀次

銀次「嫌だなホント…」

リュウケンドー「それ何回目だよ？」

ソロ「割り切れよな…」

ぶつぶつ言う銀次にリュウケンドーは呆れた口調で言い、ソロも呆れた顔で言う。

タレ銀「割り切れまちぇぇぇぇぇん！！流石に相手に別世界と言えぞ赤屍さんがいるんだから言いたくなるよ！！！」

チルノ「そんなに怖いの？」

ソニック「じゃないのか？」

タレ銀になって叫ぶ銀次にチルノは首を傾げ、ソニックもそう言う。

タレ銀「めっちゃ怖いの！笑顔で弄って来るの！！マジで怖いんだよ！！」

ぶるぶると震えるタレ銀にソロは頭を掻く。

ソロ「んじゃあ依頼の復習だが『捕らわれた真田　幸村と人質の女性の救出。　人質を取られ捕まってしまった幸村を救出し、犯人を捕まえる事』…だな」

チルノ「それでどうするの？」

カリバーン「此処はやはり、相手の目を引き寄せる囮役と幸村と人質の女性を救出に向かうチームだな」

チルノの問いにソニックの腰に差されてるカリバーンが言う。

タレ銀「はい！こっちが救出に行く！」

ソロ「それはソニックだけで十分だから俺達は囮な…」

タレ銀「ＮＯｏｏｏｏｏｏｏｏｏ！！！」

ビシッと名乗り上げるタレ銀にソロはそう言うとタレ銀は崩れ落ちる。

数分後

赤屍「おやおや、君だけですか銀次君」

銀次「（ホントにいやぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！）」

ニッコリと笑う赤屍に銀次は叫んだ。

竜童「うおぉぉぉぉぉぉぉぉ！！！」

するともう1人、守り屋として雇われていた竜童が突撃して来るが…

ドカ！（ソロのウルトラゼロランスが頭に直撃）

キン！（リュウケンドーの蹴りが竜童の急所に炸裂）

ビリリリリリリリリ（銀次の電撃に痺れる音）

赤屍「おやおや、パワーアップしてる様ですね」

倒れる竜童を見た後に銀次を見てそう言う。

敵大将「ちっ！やはりギャグキャラ扱いには無理か…いけぇぇぇぇぇ！！」

転生者集団「うぉぉぉぉぉぉぉぉぉ！！！」

舌打ちした後に敵大将の指示と共に転生者の集団が襲い掛かる。

チルノ「あたいの強さは泣けるよ」

ソロ「行くぜ！」

リュウケンドー「しゃあ！」

バスタードチルノソードを構えたチルノ、ウルトラゼロランスを持つソロ、キーブレードとツインエッジゲキリュウケンを構えたリュウケンドーが駆け出す。

赤屍「さて、銀次君、お相手願おうか」

銀次「やっぱこうなるのねぇぇぇぇぇぇぇぇ！」

ふふふと微笑む赤屍に銀次は心の底から叫ぶ。

赤屍「では…」

そう言うと赤屍は早速大量のメスを銀次に向けて投げる。

銀次「この！」

銀次は電撃で落として行く。

赤屍「やりますね」

そう言うと赤屍はメスで自分の手を傷つけると流れた血で赤い剣（ブラッディ・ソード）を作り出し、銀次に突撃する。

銀次「くっ！」

それに銀次は右手に電気を収束させ…

ガキン！

赤屍「！ほう…電気の剣ですか…」

銀次が構えた電撃で出来た剣を見て赤屍は感嘆の声を上げる。

赤屍「ホントに君は楽しませてくれるね」

銀次「（ホントに別世界でも赤屍さんは変わらないぃぃぃぃ！！）」

歓喜で体を震わせる赤屍に銀次は心の中で叫ぶ。

一方転生者集団と戦う3人は…

リュウケンドー「おりゃあ！！」

チルノ「うりゃりゃりゃりゃ！！」

ソロ「であぁぁぁぁぁぁぁ！！」

沢山の集団を吹き飛ばしていた。

敵大将「ちっ！こうなれば人質を…」

ドカーーーン！！

それを見て敵大将が利用しようとした時に爆発が起き、その中から二槍を構えた男が出て来る。

幸村「真田　幸村見参！助けられた恩を返す為、そなた等を助太刀いたす！」

リュウケンドー「分かった！」

現れて名乗り上げる幸村にリュウケンドーが頷いた後に幸村は転生者達を吹き飛ばして行く。

敵大将「どっ、どうして！人質がいる筈なのに…まさか奴らは囮だったのか！」

ソロ「気づくのおせえよ」

驚く敵大将に近づいたソロがそう言い、チルノ、リュウケンドー、幸村も並び立つ。

リュウケンドー「んじゃあ行くぜ！」

幸村「うむ！」

リュウケンドーの言葉に幸村が頷いた後に敵大将に向けて走り出し、交互に攻撃し、リュウケンドーが敵大将を打ち上げると飛び上がった幸村が飛び上がり…

幸村「天・誅！！」

敵大将「ぐわあぁぁぁぁぁぁぁぁ！！」

二槍で敵大将を切り裂くと幸村は着地し、リュウケンドーはマリオから貰った青いカードを敵大将の額に貼り付けて輪廻へ送る。

赤屍「おやおや、依頼人がやられたので私はこれでおいとましましょう…では銀次君」

その光景に赤屍はそう言った後に帽子を整えた後にそう言って去る。

竜童も何時の間にかいなかった。

タレ銀「たっ、助かった…」

幸村「お陰で助かった。感謝する」

リュウケンドー「いやいや」

ソニック「頑張れよ」

幸村「うむ！精進しなくては…では！」

頭を下げる幸村にリュウケンドーはそう言うとソニックが応援し、
幸村は頷いた後に去った。

タレ銀「ふう…終わった…」

チルノ「ホントに苦手なんだね」

ソロの頭に乗ってタレルタレ銀にチルノはそう言う。

ううう～…今回は震えが止まらないな…ｂｙ銀次（後書き）

リュカ「と言う訳で武田軍兵士　清坂　剣麻のリクエストでした！」

ネス「武田軍兵士　清坂　剣麻さん！どうでしょうか！」

フォックス「しっかし銀次はホントに赤屍が苦手だな」

スネーク「そうだな」

テイルス「感想を待ってます♪」

スネーク「ユートピアとのコラボだ！」

クッパ「今までのお話は！」

１つ！楓がお仕置きと言う事でお着替えをさせられた！

２つ！一夏と終が相手の強さに痛感し訓練する。

そして３つ！楓の体を媒体に金色のグリード、レリルが復活！アンクが見た楓の目には光がなかった。

フォックス「…ホントに楓って…」

スネーク「何かの媒体にされやすいな；」

このままいても仕方ないと思ったアンクは変身を解いた後に楓を抱えて宿に戻る。

黒狼「あっ、アンク！」

メズール「あなたどこに…って！」

セシリア「楓さん！？」

そこに起きていたメンバーがいて、楓ＬＯＶＥズはアンクに抱えられた楓を見て叫ぶ。

アンクは楓を空いていた布団に寝かせるとさっきまでの経緯を話した。

鈴「そんな事が…」

シャル「それで…何で楓は起きないの？」

アンク「推測だが…媒体にされたせいで昏睡状態になってるんだろう…」

シルク「そう…」

椛「……」

鈴が呟いた後にシャルが楓を見て聞き、アンクの言葉にシルクは苦

い顔をし、椛は苦い顔をすると旅館を出てしまう。

黒狼「メズール」

メズール「分かったわ」

黒狼の言葉にメズールは頷いた後に椛の後を追う。

マリオ「ふむ…」

他のメンバーが沈んだ表情をした中、マリオは難しい顔をしていた。

その頃ワティル、アグム、レリルは楓を拉致した廃墟で人間の姿になっていた。

ワティルは腰まである銀髪で目が銀色の千冬と鈴を合わせた様な姿でスーツを着ている。

アグムは外見年齢が一夏と終と同じで髪が茶髪で武人を思わせる雰囲気をかもし出している。

レリルは楓の髪と目が金色になった少女で、黒のタンクトップの上に金色のジャケットを羽織り、短パンを履いている。

ワティル「メダルを取られると言う計算外が起きたけど…行けるわねアグム？」

アグム「……ああ」

レリル「そんじゃあヤミーを作ってくるよ」

髪を掻き揚げて言うワティルにアグムは頷いた後にレリルはそう言うと座っていたドラム缶から降りて歩き出す。

それを見てアグムも外に歩き出す。

ワティル「あら？アグムも？」

アグム「……ああ、俺もヤミーを作りに…」

そう言うとアグムも出る。

一方、終達は椛がメズールと共に戻った後に食事を作る為の準備をしていた。

終「それじゃあビーフシチューの材料買いに行くの任せたぞ」

ガメル「分かった～」

ショカ「かっか！」

ギル「ぷっ！」

終の言葉に人間態になったガメルが頷いた後にショカとギルと共に出かける。

ちなみに普段、男性陣グリードは怪人態で行動しており、ガメルの人間態は１５歳位の元気活発な少年の姿になっている。

カザリ「それにしても…君、普通に作れるんだね」

終「失敬な、俺は出来るんだぞ」

アンク「あれを見ると普通に食べられない奴を料理にしたのを得意だと思うぞ」

カザリの言葉に終はそう言い、アンクがそう言う。

数分後

ガメル「ただいま～買って来たよ～」

ギル「ぷっ！」

ショカ「かっか！」

終「サンキュー……」

3人が帰って来て終はお礼を言った後に渡された物を見てあ～と困った顔をする。

終「ガメル、これ、ビーフシチュー用のじゃなくてカレーのルーだ」

ガメル「そうなの？」

カザリ「ほとんどメズールが買い物に行ってたしね」

終の言葉にガメルは首を傾げ、カザリが頭を掻いて言う。

ラウラ「つまり…お前達は働かずか？」

ウヴァ「ああ、普通にニートだ」

楯無「いや、胸を張って言う事じゃないよ;」

本音「だね～」

ラウラの言葉にウヴァは胸を張って言い、楯無がツッコミを入れて本音も同意する。

ブリッツ「それでどうするでござるか？」

終「普通にビーフカレーにするか…」

ヴァトル「そうなるよな」

その後、ビーフカレーを作り、食べたのであった。

その頃長刀のようなヤミー、ナギナタヤミーが博物館で武器などを取り出して、別の場所でガーゴイルのヤミー、ガーゴイルヤミーが人々を襲っていた。

アンク「！ヤミーだ！しかも二箇所だ！」

ヴァトル「確かに感じるな」

終「分かれて行くぞ」

一夏「そうだな」

食べ終えた後にアンク達グリードは気づき、それを聞いた終がそう言い、一夏も納得する。

アンク「俺達も分かれて行くぞ…黒狼、これを持っとけ」

他のメンバーにそう言うとアンクは黒狼にメダルを渡す。

黒狼「これって…」

アンク「質問は後にしてくれ」

戸惑う黒狼にアンクはそう言った後に終側はガーゴイルヤミーの元へ、一夏側がナギナタヤミーの元に向かった。

～オマケ～

蛇八「教えて」

生徒一同「蛇八先生！銀八先生！」

銀八「そんな訳でやるぞペンネーム『ケン』さんから『統夜「あの人相手なら納得がいくかも」

まだ本編では未公開の真祖形態でトレーニングしていた。

統夜「恐怖を乗り越えれる・・・のか？」

う～ん・・・分かんない。

統夜「マリオ達に質問だ。作者は俺の秘密を徐々に明かし本当の種族をネタバレのあるイメージＥＤ３で暴いた事に対してどう思う？」

のっけからじゃ面白くないと思ったんだけど・・・

統夜「俺と鮮華の兄妹の種族が一生謎に包まれるって・・・誰も納得出来んぞ・・・」『…と言う訳で答えろ」

マリオ「ありじゃないか？本編でどう言う風に出るかが気になるな」

ネス「まあ、ＯＰやＥＤでネタバレはありでしょ」↑スマブラＸでＯＰで登場がもう出ていた隠し人物その１

マルス「だね」↑その２

ルイージ「そうだね」↑初代スマブラのシンプルで普通に出ていた人

蛇八「との事だ…『ケン』！廊下に立ってなさい！次ペンネーム『黒龍』から『黒龍「とりあえず、完全に超ウルトラ八兄妹を参考にすれば大丈夫です。残りの人達も次の話を言う時に出します。コラボ頑張ってください。そして最後に質問です」

１．質問ですが、ＵＬＴＲＡＭＡＮは見ましたか？それで、見た感想はどうでしたか？

２．仮面ライダーの映画は映画館で見る方ですか？それともＤＶＤで見る方ですか？

３．一番好きなライダーは平成ライダーのうちどれですか？ちなみに俺はオーズとカブトとクウガとディケイドが好きです。」』それ

じゃあ答えろ」

鳴神　ソラ「ええっと…1はネクサスの前にした映画でしょうか？それでしたらテレビだったかパソコンの動画でちょこっと…2は映画館で見た後にＤＶＤですね。3は好きなライダーは龍騎とブレイドと電王とディケイドとオーズで1番好きなのはブレイドですね」

銀八「との事だ『黒龍』！そちらも頑張れよ！」

蛇八「今回は此処まで！」

リュカ「と言うわけでユートピアさんとのコラボでした」

ネス「それぞれ分かれて行くけど…」

スネーク「ホントに目的が謎だな」

クッパ「なのだ」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　～銀女神鎮魂歌～　―　第別訓パート４４

スネーク「真王とのコラボ第４４弾だ！」

フォックス「今回は墓場か…」

ネス「だね」

マリオ「ふうむ…」

ルイージ「どうしたの兄さん？」

唸るマリオにルイージは聞くとマリオは見せる。

イストワール『イストワールです。先日ゲイム業界にギョウカイ墓場が復活してしまいました。そこで死した者たちがモンスターとして蘇っています。このままでは被害が大きくなる可能性がありますので援護をお願いできますか？』

ルイージ「成る程…」

マリオ「と言う訳で行くぞ」

その後、マリオはルイージ、ソニック、ソロ、リュウケンドー、チルノ、デスサイズ、ウイング、スィン、冥王、銀次に銀時、新八、神楽、桂、エリザベス、ネプテューヌ、ネプギア、ノワール、ユニ、ブラン、ロム、ラム、ベール、ヴィヴィオ、プリア、アリア、ザック、ムツリ、ヒメラ、レグナ、ラートと合流してギョウカイ墓場に向かった。

ソロ「此処がギョウカイ墓場か…」

デスサイズ「色々と雰囲気出てるね～」

チルノ「不気味だね…」

着いた早々にソロが言った後にデスサイズ、チルノが感想を言う。
ところどころに捨てられたゲーム機やコントローラーやコード線などがある。雷が鳴り、黄色いマグマ（オイルかもしれないが…）が流れている。

銀時「ホントだな…」

新八「色々と荒れてますね…」

ヴィヴィオ「それ程此処ってやばいのかな？」

冥王「安心するの、ヴィヴィオちゃんは私が守るの」

銀時や新八も周りを見てそう言い、不安そうに言うヴィヴィオに冥王は安心させる様に言う。

ネプテューヌ「おかしい…」

プリア「はい？」

エリザベス『どうしたの？』

ボソリと呟くネプテューヌにマリオを除いた全員の目が集まり、エリザベスが聞く。

ネプテューヌ「荒れ過ぎなんだよ…誰かが私達より先に来ている」

ザック「そう言えば…資料で見た時より違うな…」

ネプギア「でも誰が…」

アリア「うーん…」

ユニ「！ちょっとあれ！？」

ノワール「どうしたのユニ？」

ネプテューヌの言葉にザックは同意し、ネプギアとアリアが言った後に何かに気づいたユニが叫び、ノワールが言った後にユニが指す場所を見ると…

死屍累々と倒れたポンコツザグ、ヘドロスライム、ディスくん、ドーカンの集団があった。

ベール「これは…」

ブラン「凄い…」

ラム「どれも一撃だよ～」

ロム「しかも正確…」

桂「銃の様なのでやられた感じだな」

ムツリ「…一体誰が…」

その光景にそれぞれ呟く中、マリオと銀次は滝の様な汗を流す。

ソニック「Ｈｅｙ，どうしたマリオに銀次？」

レグナ「凄い汗だけど」

ラート「大丈夫ですか？」

冥王「どうしたなの？」

それに気づいたソニックとレグナ、ラートと冥王が話しかける。

マリオ「いやな…知り合いだわ…しかも俺達のリーダー」

タレ銀「（ガタガタブルブル）」

マリオとタレ銀を除いた一同「はい！？」

疲れた顔をするマリオの言葉に一同は驚くと…

？？？「おや、マリオに銀次じゃないか」

マリオ「やっぱり」

タレ銀「（ぴいいいいいいいいいい！！！）」

響いた声にマリオは脱力し、タレ銀は泣いた。

すると袖なしの胸元と背中が開いた黒いドレスを着て、地面へ引きずる程の黒く輝く髪を持った長身な女性が来る。

大型の銃を片手で持っていた。

女性「酷いぞ銀次、妻である私の所に帰らないなんて…」

マリオとタレ銀を除いた一同「えぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！？」

悲しそうに言う女性に銀時達は叫ぶ。

タレ銀「俺達結婚してませんよぉぉぉぉぉぉ！！」

女性「ふふふっ、私達はあの時出会ってからもう夫婦さ」

タレ銀「どう言う理屈ですかぁぁぁぁぁ！！！」

腕をバタバタさせて叫ぶタレ銀に女性は頬を赤くしてタレ銀を抱き締めて言い、タレ銀はジタバタする。

銀時「詳しく説明をお願いしたいんですけど…」

ウイング「ついて行けないぞ…」

スィン『うんうん』

銀時とウイングが代表でマリオに聞き、スィンが頷く。

マリオ「彼女はアーカード…神と契約した銀次先輩より数倍生きている不老不死の吸血鬼だ」

新八「すっ、数倍！？」

神楽「それであの体系とか羨ましいにも程がアルね」

ブラン「…」

ムツリ「（ぶばっ！）」

ヒメラ「ムツリ君！？」

マリオの言葉に新八は驚き、神楽とブランはベールより二周り大きいアーカードの胸を凝視し、ムツリは耐え切れず鼻血を噴出、ヒメラは慌てて介抱する。

桂「それでリーダーと言うのは？」

マリオ「転生者を輪廻へ送る方のリーダー…銀次さんは2番目、ブロントさんが3番目、4番目の俺は彼女にスカウトされて、5番目のガウェインこそルルーシュ、6番目のキョン子は俺がスカウト、最後が冥王だ…まっ、冥王自身、キョン子にスカウトされてだけどな…」

銀時「スカウト制なんだな…」

桂の問いにマリオはそう言い、銀時はそれに呆れた顔をする。

ネプテューヌ「それで…能力は他にあるの？」

マリオ「戦闘にはほとんど役に立たない能力を持ってるけど…」

神楽「どんな能力か教えるアル」

ネプテューヌの問いにマリオは頬をポリポリ掻いて言い、神楽が言

う。

マリオ「…『能力を奪ってそれで自分のスタイルをあげる程度の能力』…」

新八「確かに戦闘では役に立たない！！」

ノワール「と言うか聞く側によっちゃあ羨ましい能力ね…」

マリオの言った事に新八は叫び、ノワールはある方を見て言う。

そこには…ブランや神楽がアーカードを嫉妬の目線で見ている。

ザック「なあなあ、あんた達の能力って大抵、チートの奴が付くのに何で彼女のはないんだ？」

マリオ「無差別なんだよね…俺達以外の人は触られれば本人の意思によって奪われるんだよ…」

プリア「それ…普通に能力者殺しじゃ；」

聞いていて疑問に思って言ったザックの質問にマリオは肩をすくめてそう言い、プリアがそう言う。

アーカード「そう言えば…あっちで転生者の怨霊や完全な転生が出来てない転生者がいたぞ」

ほれあっちと指したアーカードのその言葉と共にデッドライダーと堕転生者の集団が来る。

冥王「いっぱいなの…」

マリオ「ルイージ、コスモスに変身してくれ」

ルイージ「えっ…ああ…ＫＡＭＥＮＲＩＤＥ！！」

コスモスバックル「ライダーアップ」

冥王が構える隣でマリオがルイージにそう言い、ルイージはマリオの意図に気づいた後にコスモスに変身するとフルムーンレクトをデッドライダーと堕転生者の集団へ放つ。

それにより、デッドライダーと堕転生者の集団は大人しくなる。

マリオ「…今度は良い来世へなれよ」

そう言うとマリオはカードを全員に投げ付ける。

ザック「何か俺達戦わなかったな…」

ムツリ「…確かに…」

デスサイズ「良いじゃん良いじゃん、楽になったんだし」

アーカード「やれやれ、それじゃあ銀次…いざ…」

頭を掻くザックにムツリが同意してデスサイズが手を振って言った後にアーカードは抱いている銀次の方を見ると…

何時の間にかタレ銀ヌイグルミに変わっていた。

新八「変わり身!?」

アーカード「あ～またやられたか」

エリザベス『しかも何回もやってた!?』

新八の言葉にアーカードはそう言い、エリザベスはツッコミを入れる。

アーカード「だが、だからこそ良い」

ユニ「大変ね…銀次さん」

一同「うんうん」

その後、イストワールに依頼達成を報告した後に銀次はアーカードに捕まって存分に抱き締められたのであった。

リュカ「と言う訳で真王さんとのコラボでした！」

フォックス「新しい人が加わったな…」

スネーク「そうだな…」

ネス「感想を待ってます♪」

ダンボール少年セイタ　別話2　雑談と修行（前書き）

スネーク「龍の骨とのコラボだ」

フォックス「今回はタイトル通り」

マリオ「だな」

ダンボール少年セイタ　別話2　雑談と修行

ソロ「そりゃあ大変だな」

ネス「克服頑張ってください」

セイタ「はい；」

ノブナガの真紅の甲冑を手伝う事にしたセイタ、再び来たソロとネスにリュカに一緒に来たリュウケンドーとチルノと縁側で話していた。

最初チルノに困っていたが事情を話して見ない様にして貰っている。

ソロ「良し！ここは一肌脱いでやるよ！」

セイタ「えっ？」

立ち上がって言うソロにセイタは目を丸くする。

ソロ「修行だよ修行！ＬＢＸって色々いるんだろ？だったら俺達のは多彩だから修行していれば後で役に立つと思うぜ？」

セイタ「なっ、成る程…」

ソロの言葉にセイタは納得する。

この先、デクー以外の人間大のＬＢＸが出て来る可能性がある。

ソロの言う通りやって置けばこの先の甲冑集めの時もプラスになると考え、セイタはやりますと言う。

尾張の広い場所

ノブナガ「しかし…なぜこの様な広い場所でやるのじゃ？」

セイタとヒデヨシ以外に前回いなかったノブナガとミツヒデがセイタの前に立つソロに聞く。

ソロ「そりゃあ広くないと実力が分かんないだろ？それに建物を壊したら駄目だろ？」

セイタ「まあ、確かに…」

ソロの言葉にセイタは頷いた後に懐からグラディエーターを取り出し、腕輪にかざす。

セイタ「チェンジアーマー！グラディエーター！」

するとグラディエータが光だし、等身大のパーツに分離し、セイタに装着する。

前に出てきたグラディウスとラウンドシールドを手に取り、構え、目の部分のゴーグルが下りる。

リュウケンドー「すっげぇ！あれがソロの言っていた奴か！」

セイタ「けど…大丈夫かな…」

ネス「大丈夫大丈夫、こっちも似たのあるから」

リュウケンドーが興奮した声で言うとセイタは不安そうに聞くがネスは手を振った後にダブルドライバーを装着、リュカの腰に同じのが現れる。

ジョーカーメモリ「ジョーカー！」

サイクロンメモリ「サイクロン！」

ネス&リュカ「変身！」

それぞれのメモリを取り出し、叫ぶと2人は同時にメモリを入れて展開する。

ダブルドライバー「サイクロン！ジョーカー！」

音声と共に2人を風が包み込み、晴れると共に2人は仮面ライダーWに変身していた。

ミツヒデ「なっ！？」

ヒデヨシ「2人が1人に！？」

それにミツヒデとヒデヨシは驚き、ノブナガもほうと言葉が漏れる。

W（ネス）「行くよセイタさん！」

セイタ「あっ、うん！」

Wが左手首をスナップさせた後に言い、セイタが頷いた後にWは先制とばかりに駆け出す。

W「はっ！」

セイタ「くっ！」

Wのパンチをラウンドシールドで受け止めるとセイタはグラディウスを振るうがWは避ける。

W（ネス）「変えるよ」

メタルメモリ「メタル！」

Wはそう言うとジョーカーメモリを抜き、代わりにメタルメモリを装填して展開する。

ダブルドライバー「サイクロン！メタル！！」

音声と共にサイクロンメタルとなるとWCMはメタルシャフトを握り、セイタのグラディウスと激しくぶつかり合う。

WCM（リュカ）「今度はこれ！」

ルナメモリ「ルナ！」

ぶつかり合ってる間に右手がルナメモリを取り出してサイクロンメモリと変える。

ダブルドライバー「ルナ！メタル！」

離れた後にルナメタルとなると鞭となったメタルシャフトを振るう。

セイタ「うわっ！？」

ヒデヨシ「セイタ！」

ミツヒデ「鉄が一瞬で柔らかくなった！？」

ノブナガ「なんと…」

いきなりの事にセイタはＷＬＭの攻撃を食らい、ヒデヨシはそれに声をあげ、ミツヒデとノブナガは鞭となったメタルシャフトに驚く。

セイタ「いきなり棒が鞭になるって…」

ＷＬＭ（ネス）「今度は変則だよ」

トリガーメモリ「トリガー！」

立ち上がったセイタにＷＬＭはそう言うと今度はトリガーメモリに変える。

ダブルドライバー「ルナ！トリガー！」

ルナトリガーとなるとトリガーマグナムを持ち、銃弾を放つ。

セイタ「（変則って言うからきっと何かある…此処は防御だ）」

ＷＬＴが言った言葉にセイタはそう考えた後に前方にラウンドシー

ルドを構えるが…

セイタ「なっ！？ぐっ！」

銃弾は軌道を変えて、セイタの右わき腹に命中する。

ＷＬＴ（リュカ）「今度は連続です！」

そう言うとＷＬＴは連続で銃弾を放つ。

どれも軌道が不規則でセイタは何発かは防ぐが他は当たって行く。

セイタ「（全然読めないっ！）」

ＷＬＴ（ネス）「今度は熱いの行くよ」

ヒートメモリ「ヒート！」

膝を付くセイタにＷＬＴはそう言うとルナメモリをヒートメモリに変える。

ダブルドライバー「ヒート！トリガー！！」

音声と共に今度はヒートトリガーとなると炎の銃弾を放つ。

真っ直ぐとなった銃弾に今度はセイタは防ぐが…

セイタ「（くっ！熱いし来る衝撃が半端ない！）」

防いだと同時に感じる威力にセイタはそう感じた後にジグザグに走

る。

ＷＨＴは撃って行くが変則に走る道を変えているのでセイタには当たらない。

セイタ「このっ！」

ＷＨＴ（ネス）「うわっ！」

セイタの一撃がＷＨＴに当たり、ＷＨＴは転がる。

ＷＨＴ「やるね！今度は獣だ！」

ファングメモリ「ギャウ！」

起き上がったＷＨＴがそう言うとファングメモリが現れて、両側のメモリを抜いた後にファングメモリをメモリモードにするとジョーカーメモリと共に入れる。

ファングメモリ「ファング！」

ダブルドライバー「ファング！ジョーカー！！」

音声と共にファングジョーカーとなるとタクティカルホーンを1回弾く。

ファングメモリ「アームファング」

音声と共に右腕にアームセイバーが出るとＷＦＪは獣の如く、荒々しく攻撃する。

ノブナガ「まさしく獣じゃのう…」

ヒデヨシ「変わってますねネス君とリュカ君がなったの…」

ソロ「Wは様々なメモリを組み合わせる事で戦法を変えるオールラウンダーな仮面ライダーだからな…」

それを見てノブナガはそう言い、ヒデヨシの言った事にソロはそう言う。

セイタ「はぁはぁ…」

WFJの攻撃を何回か避けた後にセイタは肩を上下させる。

ソロ「そこまでだ…休憩を入れる」

その言葉と共にWFJは変身を解き、セイタもアーマーを解除すると座り込む。

ソロ「どうだ?Wと戦闘してみて?」

セイタ「…様々なスタイルに変わって行くのに戸惑ったけど…けれど、タメになります」

リュウケンドー「そのタメをもっと吸収する為に頑張ろうぜ!」

ヒデヨシ「頑張ってねセイタ!」

ソロの言葉にセイタはそう言い、リュウケンドーがそう言い、ヒデ

ヨシも応援する。

その後、何もない時はソロ達は雑談する他にセイタの特訓をしたのであった。

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

蛇八「と言う訳でやるぞ、ペンネーム『匿名希望』から『前の龍騎の質問にかんしては本当に申し訳ありませんでした。？

銀次さんに質問ですが、今まであった人達で苦手な人達を全員教えてください。』…と言う訳で銀次…」

銀次「赤屍さんにアーカードさん…あの2人以外は…」

銀八「との事です『匿名希望』さん！廊下に立ってなさい！」

蛇八「今回はここまで！」

ダンボール少年セイタ　別話2　雑談と修行（後書き）

ワリオ「と言う訳で龍の骨とのコラボだったな」

スネーク「セイタの真紅の甲冑集め探しの手伝いはどう言う風になるのやら…」

クッパ「なのだ」

フォックス「感想を待ってるぞ！」

葉月の凶悪兵器リスト　凶悪兵器番外編　サイドロシアンルーレット（前書き）

スネーク「葉月のコラボなリクエストだ」

フォックス「ああ…来てしまった…」

ワリオ「頑張れよお前ら…」

葉月の凶悪兵器リスト　凶悪兵器番外編　サイドロシアンルーレット

とある会場、一部が沈んでいた。

マリオ「いや～楽しみだな～」

ピーチ「そうね～」

ウキウキしているマリオにピーチも笑顔で言う。

デント「え～司会をする事になりましたソムリエ司会者デントです」

ニャース「同じくニャースですニャー」

新八「何であなた方が司会なんですか？」

蝶ネクタイを付けたデントとニャースに新八が代表で行く。

デント「え～司会をする理由はこれから出る料理の解説を僕達がするからだよ」

ニャース「後、作者がＢＷ４３話のニャーとソムリエ司会者のが良かったから司会に抜擢されたのニャー」

土方「なんだそりゃあ…」

デントとニャースの説明した事に土方は呆れた顔をする。

ニャース「（ジャリボーイ達は大変ニャね）」

デント「（不謹慎だけど、選ばれなくて良かったよね…）」

銀時「んで…俺達前半のは何だ？」

小声で会話する2人に銀時の問いにメンバーは頷く。

ニャース「まあまあ落ち着くニャ」

デント「まずはメンバー紹介をしとかないと…会話出来ないで倒れる可能性があるからね」

近藤「ちょっ！？不吉過ぎるんだけど！！」

エリザベス『桂さん、頑張りましょう！』

桂「うむ」

ニャースが宥めた後にデントの言った事に近藤はそう言い、エリザベスと桂はそう言う。

デント「まず！銀魂から銀さん、神楽ちゃん、お妙さん、近藤さん、新八さん、桂さん、土方さん、長谷川さん、エリザベスにお登勢さん！」

お登勢「やれやれ」

長谷川「今度は食べさせられるのかよ…」

ニャース「どれも癖のある人達にゃあ…そしてこちらのスマブラか

らはマリオ、ルイージ、ドンキー、クッパ、ピーチ、ヨッシー、カービィ、リンク、ピカチュウ、フォックス、ファルコン・ハート（ファルコ）、スネーク、ミュウツー、ルカリオ、デオキシス、ネス、リュカなのニャ」

ルイージ「うわぁ…」

デオキシス「初登場が…」

リンク「当たりません様に…」

ファルコン・ハート「俺…このまんまかよ…」

ピカチュウ「ピカ…」

ドンキー「怖いな…」

ミュウツー「……」

ネス「頑張ろう」

リュカ「うん；」

フォックス「ホントに…」

スネーク「だな」

クッパ「ううむ…」

カービィ&ヨッシー「……」↑頭に必勝！と書かれた鉢巻を巻い

ている。

デント「こちらも一癖あるメンバーだね…次にリリカルなのはからなのはさん、フェイトさん、はやてさん、スバル、ティアナ、エリオ、キャロ、フリード、シャーリーさん、リイン、ヴィヴィオちゃんのメンバーだ！」

ニャース「ある意味、当たったらご愁傷様ニャ」

なのは「ある意味って何！？」

リイン「ううぅ…やばいですぅ…」

はやて「マジな…」

シャーリー「あわわ…」

スバル「ティア～」

ティアナ「どうなるかしら…」

エリオ＆キャロ「（当たりません様に…）」

ニャース「そして最後！ゲットバッカーズより銀次（タレ銀ｖｅｒ）さんニャ！」

タレ銀「逃げられたと思ったらこれだよ！」

メンバーの紹介が終わった後にニャースとデントは言う。

ニャース「さて！此処から料理を出すニャ！」

デント「カモン！」

その言葉の後に輝夜と慧音に早苗と白蓮、お空、フランが料理を運んでくる。

新八「シュウマイですか？」

ニャース「そうなのにゃ」

デント「ちなみに何個か製作者はピーチ姫です」

マリオ&ピーチを除いたスマブラ&タレ銀「（Ｎｏｏｏｏｏｏｏｏｏ！！）」

新八とニャースの後のデントの言葉にマリオとピーチを除いたスマブラメンバー&タレ銀は叫んだ。

お登勢「まあ、それだけなら良いが…まだあるんだろ？」

デント「流石はお登勢さん、分かりますか？」

お登勢の言葉にデントはそう言う。

ニャース「ニャんと！付ける醤油の一部に別のを混ぜてあるのニャ！」

フェイト「それってつまり…」

シャーリー「付ける奴にもハズレがあるって事？」

ニャースの言葉にフェイトとシャーリーはそう言う。

ニャース「と言う訳で！」

デント「イッツ、ロシアンルーレットタイム！！」

フリード「キュ！」

2人の言葉の後にそれぞれシュウマイと付ける醤油を選ぶ。

ニャース「全員選んだかニャ？」

デント「それじゃあ一斉に口に入れてください」

マリオ「んじゃあ！」

ニャースとデント、マリオが言った後にそれぞれ口に入れる。

ヨッシー&カービィ「からごぱっ！！」

ファルコン・ハート「すっぱ！？醤油にレモン入れてるだろ！」

デオキシス&フリード「＃”＃！&$”$＃”＋＊＞＜！」

キャロ&エリオ「フリード！？」

リイン「苦いですぅぅぅぅぅ！！」

お妙「あら?酢醤油かしら?」

はやて「味ぽんやな」

土方「ぐふっ!?」

近藤「トシぃぃぃぃぃ!?」

するとキャロとエリオと近藤を除く上記のメンバーが反応を見せた。

銀時「おいおい、何に当たったんだ?;」

神楽「怖いアルな…」

デント「え～ヨッシーとカービィが食べたのは×１００００倍の激辛エキスを入れたシュウマイです」

ニャース「ファルコン・ハートは醤油の方でレモンが入った醤油、デオキシスとフリードは激苦エキスが入ったシュウマイに激辛醤油で、リインは苦いエキスが入った醤油、土方は食べた瞬間に麻痺する程の辛さが入ったシュウマイなのニャ」

お登勢「少し当たりが入ってたようだけどね…」

当たらなかった前半だけのメンバー「ほっ…」

ニャース「さて、後半は誰が当たるのかニャ!」

デント「少し待っててね!!」

葉月の凶悪兵器リスト　凶悪兵器番外編　サイドロシアンルーレット（後書き）

リュカ「と言う訳で葉月さんのリクエストコラボでした！」

スネーク「当たらなくて良かったな…」

クッパ「どうなるのやら…」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂ライダー～異世界鎮魂歌～　劇場版　大決戦！超オールライダーズ

スネーク「黒龍の劇場版風コラボだ！」

フォックス「超ウルトラ八兄弟風な奴だな」

ネス「どうなるかな～」

リュカ「だね」

さて、皆さん、お話に入る前に少し世界について語りましょう。

我々の世界を含み、世界は数億以上もあるのは分かりますね。

その中の1つでウルトラマンが特撮として放映されている世界でその特撮の怪獣やウルトラマンが現れました。

このお話ではそんなウルトラマンが特撮として放映されている世界と似た世界で起こるお話…

そこはとある平行世界。その世界は仮面ライダーが特撮として放映されている世界。だが、作り物でも仮面ライダーは人々に希望や夢を与えてくれた。

非現実的な事が起こらない普通の世界に住んでいる門矢（かどや）　士（つかさ）と言う新聞記者が居た。士は子供の頃から仮面ライダーが好きだった。

士「はぁ…」

公園でベンチに座り、士はため息を付いた。

大人になった士は子供の頃の夢だった一流のカメラマンは諦めて写真を撮るのが得意だったの活かして新聞記者をしている。恋人の光（ひかり）　夏海（なつみ）の事や今の自分の仕事について悩んでいた。

翔太郎「よう士」

渡「何ため息付いてるの？」

そこに、彼の子供の頃からの親友である左（ひだり）　翔太郎（しょうたろう）と紅（くれない）　渡（わたる）が来る。

士「2人とも…別に…」

翔太郎「どうせ、夏海ちゃんの事とかで悩んでるんだろ？」

顔を逸らす士に翔太郎はそう言う。

士「そう言う2人はどうなんだ？」

翔太郎「あー…」

渡「ちょっとね」

士の問いに2人は言葉を濁す。

翔太郎は歴史に残るほどの探偵になる事を夢見ていたが、昔探偵をやっていた頃に依頼人に大怪我をしてしまったトラウマから警察官をしている。

今は探偵の頃に相棒だったフィリップと言う青年からまた探偵をやろうと誘われているが、今だに断っている。

渡は子供の頃から一流のバイオリニストになる事を夢見ていたが、天才と言う重みから耐えられないと言う不安から音楽学校の先生をしている。

3人はその後他愛もない会話をして分かれた後…

士「（何だあれ？）」

士の目に壊れた都市の蜃気楼が現れた。それを見た士は見た事ある怪人と自分が見た事ない仮面ライダーを見る。

その仮面ライダーは最初は3色だったが姿や色が変えて戦って行く。最後に仮面ライダーが必殺技を出そうとした所で士はハッと目を覚ます。

士「……夢だったのか…？今の仮面ライダーは…それにさっきの蜃気楼は…」

蜃気楼が現れた事で町に少しづつだが不穏な空気が流れ始めていた。

その頃

銀時「此処どこ！？」

マリオ「落ち着け」

銀次「けど…ホントにどこかな？」

叫ぶ銀時にマリオがそう言い、銀次が周りを見て言う。

謎の光によってマリオ達と銀時、新八、ライダー、なのははこの平行世界に飛ばされた。

アーカード「ふむ、特に変わった様子はなさそうだな…」

マリオ「確かに…今の所は…」

冥王「それじゃあどうする？」

周りを見て銀次の傍に寄ろうとしながらアーカードはそう言い、マリオも同意し、冥王が聞く。

銀時「どうせなら帰る前に観光しねえ？」

新八「良いですね」

ライダー「私は銀時のに同意します」

なのは「何があるかな？」

銀時の提案に新八達も了承し、マリオ達も同意した後に観光する事にした。

だが…実はと言うとマリオ達以外来ている者達がいた。

？？？「此処どこぉぉぉぉぉぉ！？」

？？？２「たぐいぞ」

？？？３「です」

青年が叫び、青年の傍に浮いた赤い手と赤い服を着た少女がそう言う。

リュカ「と言う訳で黒龍さんとのコラボでした」

スネーク「と言うか最後に出たのって…」

フォックス「作者が考えてる正史とめっちゃ離れたあいつらか？」

うん…

ネス「感想を待ってます♪」

IS<インフィニット・ストラトス>黒き牙と永遠の月　2箇所で

スネーク「ユートピアとのコラボだ！」

クッパ「前回のお話は！」

1つ！終達はアンクにより、経緯を話される。

2つ！レリル達が人間になり、アグムとレリルがヤミーを作ろうと動き出す。

そして3つ！ヤミーが出現し、それぞれ分かれて戦う事に！

ネス「どうなるんだろうね…」

リュカ「だね；」

ゴーカイブルー「はっ！」

ガーゴイルヤミー「ギャッ！」

ガーゴイルヤミーと戦う終はゴーカイジャーになって戦っていた。

周りでオーズＴＣとオーズＦＣ、オーズＴＭＣ、オーズＧＣ、オーズＬＣ、簪と楯無、ネクサス、ゼロ、リュウケンオー、リュウトウオー、リュウレツオー、リュウアンオー、アデューが変身したゼファーが屑ヤミーと戦っていた。

ガーゴイルヤミー「ギャッ！」

ゴーカイブルーの攻撃をガーゴイルヤミーは飛んで避ける。

ゴーカイブルー「豪快チェンジ！」

モバイレーツ「デーカレンジャー！！」

音声と共にデカレンジャーのデカブルーに撃ち落とそうとするがガーゴイルヤミーに次々避けられる。

デカブルー「厄介な相手だな…」

撃ちながらデカブルーは眉を潜める。

一方

ゴーカイグリーン「くそ…厄介だな…」

ゴーカイグリーンとなった一夏はナギナタヤミーを戦っていた。

周りでオーズとオーズＰＣ、オーズＳＣ、オーズＳＧＣ、ネオス、キングスカッシャー、リュウケンドー、リュウガンオー、リュウジンオー、リュウセイオー、リュウサイオー、箒、ソロが屑ヤミーと戦っていた。

他の場所にいないメンバーはもしもの為の楓の防衛である。

ゴーカイグリーン「豪快チェンジ！」

モバイレーツ「メーガレンジャー！！」

武器の長さが不利だと感じるとメガレンジャーのメガブラックになるとメガロッドを構えて戦う。

戻って終達

デカブルー「これで終わりだ」

なんとか撃ち落としたガーゴイルヤミーにそう言うと必殺技を放そうとし…

デカブルー「ぐあっ！！」

楯無＆簪「終！」

横から誰かに殴られ、ゴーカイブルーに戻る。

殴った人物、レリルはメンバーを見る。

レリル「初めましてだね。僕はレリルさ、このヤミーの作り主さ」

ゴーカイブルー「こいつが…」

オーズＴＣ「ああ、音梨　楓の媒体に復活した黄金のグリードだ」

ガーゴイルヤミーの隣に立ち、名乗るレリルに起き上がったゴーカイブルーやメンバーにオーズＴＣは祖言う。

一夏達の方では…

メガブラック「うわぁ！！」

ナギナタヤミーと互角の戦いをしていた所をアグムが現れてメガブラックを切り裂く。

箒「一夏！」

ゴーカイグリーン「大丈夫だ」

オーズ「銅色のグリード…アグムか！」

アグム「…いかにも」

オーズＳＣ「（喋れたのね）」

箒の悲鳴にゴーカイグリーンに戻った一夏は安心させる様に立ち上がり、構えるオーズにアグムは答え、オーズSCは場違いな考えを浮かべていた。

オーズはアンクから渡されたメダルでアグムのメダルを装填するとスキャンする。

オーズドライバー「ナギナタ！カタナ！ヨロイ！ナッギ、カロ～！！」

歌と共にオーズは銅色の頭に長刀が付いた複眼の色は白の『ナギナタヘッド』、腕は肩に刀が付いた『カタナアーム』、足は鎧の『ヨロイレッグ』の武具系コンボ『ナギカロコンボ』にコンボチェンジした。

アグム「…俺のコンボか…」

肩の刀を付かんで構えるオーズNCにアグムは静かに言った後に同じく刀を構える。

戻って終達の方では…

レリル「はっ！」

ゴーカイブルー「くっ！」

ゼロ「デヤッ！」

オーズTC「どりゃあ！」

レリルの攻撃にゴーカイブルーが吹き飛んだ後にゼロとオーズＴＣが格闘戦をしかける。

ガーゴイルヤミーはさっきゴーカイブルーのゴーカイスラッシュにより倒された。

レリル「やるね…」

ゼロ「お前こそ…」

オーズＴＣ「（やはり3体の中でこいつが1番手ごわいな…）」

ゴーカイブルー「お前達の目的は何なんだ！」

距離を取るレリルにゼロも距離を取り、オーズＴＣが眉を潜める中、ゴーカイブルーが聞く。

レリル「言う訳ないじゃん…それよりも僕のメダルを知らないかな？」

オーズＧＣ「どう言う意味だ！」

オーズＬＣ「そうそう！」

オーズＦＣ「俺達は会うの初だしな」

レリルの問いにオーズＧＣとオーズＬＣ、オーズＦＣはそう言う。

レリル「知らないか…なら君かな？」

オーズＴＣ「……」

３人の反応にレリルはオーズＴＣを見る。

戻って一夏達

ゴーカイグリーン「この！」

オーズＮＣ「はっ！」

アグム「ふん」

ゴーカイグリーンとオーズＮＣが戦うがアグムに少し押されていた。

ナギナタヤミーはソロとリュウケンドーが押した後にゴーカイグリーンが懐に入ってのゴーカイスラッシュで斬って倒した。

ゴーカイグリーン「やっぱりこいつ、強いし硬い！」

オーズＮＣ「強敵だ…」

アグム「……」

呻くゴーカイグリーンとオーズＮＣを見た後にアグムは静かに立つ。

それぞれの戦い、そしてレリルが言うレリルのメダルは…

ＩＳ&Ｉｔ；インフィニット・ストラトス＆ｇｔ；黒き牙と永遠の月　２箇所で

リュカ「と言う訳でユートピアさんとのコラボでした」

スネーク「ホントにどうなるんだ…」

フォックス「楓の目覚めとかな…」

ネス「感想を待ってます♪」

ううう～…今回も震えが止まらないよ…（Ⅱ－Ⅱ）ｂｙ銀次（前書き）

スネーク「武田軍兵士　清坂　剣麻からのリクエストだ」

フォックス「今回、またもや」

クッパ「銀次は大変なのだ」

ううぅ～…今回も震えが止まらないよ…（Ⅱ－Ⅱ）ｂｙ銀次

タレ銀「いいいいいいいいやぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！」

リュウケンドー「叫んでばっかだな；」

チルノ「だね～」

アーカードを入れて今回の依頼人である前回銀次が戦った別世界の赤屍の元へ向かっているのだがアーカードが抱き締めてなかったら逃げているだろう。

ソニック「それで？合流地点まで後どれ位なんだ？」

ソロ「後、もう少しで、他にもその赤屍の世界の銀次や美堂　蛮と工藤　卑弥呼も同行するようだぞ」

タレ銀「！」

アーカード「銀次？」

ソニックの問いにソロが言った後に付け加えた事にジタバタしていたタレ銀の動きは止まり、アーカードは訝しげにタレ銀の顔を見る。

その顔は寂しい表情であった。

それにアーカードは理解してぎゅっとタレ銀を抱き締める。

アーカード「安心しろ、嫁の私がいるからな」

タレ銀「だから嫁じゃないでしょ！」

リュウケンドー「んじゃあちゃっちゃっと行くか」

チルノ&ソロ「おー！」

アーカードの言葉にタレ銀は叫び、リュウケンドーの言葉にチルノとソロは腕を上げる。

1分後

赤屍「やあ、別世界の銀次君」

タレ銀「（ガタガタガタガタガタ）」

蛮「ホントに銀次だな…」

卑弥呼「聞いてはいたけど…」

天野「ホントにそっくりだ…」

挨拶する赤屍にタレ銀は振るえ、蛮と卑弥呼も驚いてタレ銀を見て、蛮の後ろに隠れた天野（タレ銀Ｖｅｒ）もタレ銀を見て…

タレ銀と天野は近づき…

タレ銀&天野「同士！！」

抱き合った。

赤屍「こう銀次君が2人揃うと…苛めたくなりますね」

タレ銀&天野「（ひぃぃぃぃぃぃ）」

口元をニヤリとさせる赤屍に2人は震える。

アーカード「私の夫を苛めないで欲しいね」

蛮&卑弥呼「夫!?」

ずいっと2人の前に立つアーカードの言った事に蛮と卑弥呼はさっきより驚く。

天野「結婚してたの?」

タレ銀「違うの、あの人が言ってるだけなの;」

天野の問いにタレ銀はそう言う。

ソロ「んでまぁ…依頼の話してくれないか?」

赤屍「はい、内容は私のクローン製造を止めるのと家宝を奪還して欲しいんですよ」

リュウケンドー「成る程…」

タレ銀&天野「すいません!帰らして貰って良いでしょうか!!」

赤屍「駄目です((ー( ) 」

タレ銀&天野「ですよね（Π－Π）」

ソロの問いに赤屍は依頼内容を話し、リュウケンドーが納得すると2人の銀次はそう申し上げ、一蹴される。

蛮「W銀次、お前らの言いたい事は分かるがもう受けたからにはやるぞ」

卑弥呼「だから頑張りましょ；」

呆れた顔で言う蛮の後に卑弥呼が2人を慰める。

1分後、ソロ達は目的の場所まで歩いていた。

蛮「なぁ…」

アーカード「何だ?」

歩いてる途中、蛮はアーカードに誰にも聞かれない程度の大きさで話しかける。

蛮「あんたは何であっちの銀次の嫁発言するんだ?」

アーカード「好きだからに決まっているだろう」

蛮の問いにアーカードは即答する。

その言葉に蛮は頭を掻く。

蛮「成る程…あんたのあっちの銀次への想いは分かった…だが、それ以外に銀次を1人にさせたくない気がするんだが…」

アーカード「…流石は銀次が信頼するパートナーだ」

蛮の言葉にアーカードは笑った後、顔を引き締める。

アーカード「お前からしてどう思う?」

蛮「そうだな…見るからに…外側は何時も通りだが内側に深い悲しみを持ってるな…」

顎に手を当てて銀次を見てそう言う。

アーカード「その悲しみが長く1人でいたのと…自分の相棒が己の目を銀次に移植したからだ」

蛮「なっ!?」

顔を歪めて言うアーカードに蛮は大声をあげようとして口を塞ぐがまだ目には驚きが残っている。

蛮「どう言う事だ?」

アーカード「最初は銀次は普通に相棒と過ごしていた。だが、とある組織に1人でいる所を捕まり、様々な実験をその身にされた」

蛮の問いに答えたアーカードの言葉に蛮は息を飲む。

アーカード「助け出されたのが良いが、銀次は老いる事もなく長く

生きる体になり、目が見えなくなっていた」

蛮「それでそっちの俺が目を…」

アーカードの言葉に蛮はそう言う。

リュウケンドー「お～い、早く来いよ！」

天野「蛮ちゃ～ん早く早く！」

話してる間にどうやら2人はメンバーから離れていたようだ。

今行くと言った後に走ろうと駆け出す蛮にアーカードは言う。

アーカード「美堂　蛮！そっちの銀次を悲しませる事はしない様にな」

蛮「肝に銘じて置く」

そして数分後

タレ銀&天野「帰りたい…」

目の前の卍一族五十人、転生者２００人といるクローン赤屍１００体を見てそう言う。

リュウケンドー「んじゃあ行きますか！」

蛮「だな」

リュウケンドーと蛮が言った後…

赤屍「すいませんね」

ほとんどのクローン赤屍と卍一族５０人を赤屍が殺していた。

ソロ「はえぇ！？」

アーカード「銀次を脅かす奴は…」

ソロが驚いてる隣でアーカードが駆け出し、転生者１００人を瞬時に上へ投げ飛ばすと…

アーカード「銃に撃たれて輪廻へ戻れ！！」

大型の銃を取り出すと片手で上へ飛ばした転生者１００人を撃ち抜く。

その後に他の転生者を踊る様に倒して行く。

チルノ「うへぇ…凄いね…」

ソニック「ホントだな」

残ったクローン赤屍を倒しながらチルノとソニックは初めて見るアーカードの戦いにそう言う。

敵大将「ぐぬぬ…」

赤屍「さあ、ほとんどはもう無理ですから大人しく死んで欲しいね」

蛮「まあ、盗んだ奴は返して貰うぞ」

それに苦い顔をする敵大将に赤屍はメスを向け、蛮が手をポキポキ鳴らしながら言う。

敵大将「こうなったら…クローン赤屍完全体！」

それに敵大将がそう言うと後ろにクローン赤屍完全体が現れる。

クローン赤屍完全体「では…戦いましょうかオリジナル」

赤屍「良いでしょう」

蛮「しゃあねえ！」

敵大将「この間に…」

2人がクローン赤屍完全体と戦いを始めると敵大将はこの隙にと逃げようとするが…

リュウケンドー「待てよ」

ソロ「逃がさないで」

ソニック「お前以外はもういないで」

リュウケンドーとソロ、ソニックが前に立ってそう言い、敵大将は戦っていた場所を見ると卑弥呼の毒香水により思考が猿になった転生者達がいた。

チルノ「と言う訳でW銀次！」

ソロ「決めろ！」

銀次＆天野「赤屍さんを…」

敵大将「ひぃ！？」

チルノとソロの言葉の後に電撃をチャージする銀次と天野に敵大将は怯えた後…

銀次＆天野「増やすなぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！！！」

敵大将「ぎゃあぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！」

2人の電撃により黒こげになったのであった。

その後、クローン赤屍完全体を倒した赤屍と蛮が合流した後に敵大将を輪廻へ送り、盗まれた物を取り返したのであった。

蛮「銀次！」

銀次「？」

分かれる直前、蛮に呼ばれた銀次は振り返る。

蛮「頑張れよ」

銀次「…うん！」

蛮の言葉に銀次は頷き、アーカードは微笑ましく見ていた。

ううう～…今回も震えが止まらないよ…（Ⅱ－Ⅱ）ｂｙ銀次（後書き）

リュカ「と言う訳で武田軍兵士　清坂　剣麻さんからのリクエストでした！」

ネス「だね～」

ワリオ「なかなか、銀次にとっての大変でもあったが良い事があったな」

クッパ「感想を待ってるのだ！」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　～銀女神鎮魂歌～　―　第別訓パート４５

スネーク「真王とのコラボ第４５弾だ！」

ネス「時期的にリリ銀パーティ編の後位だね」

クッパ「始まるのだ！」

ヴィヴィオ「パパ、手紙が来たよ」

何気なく普通に過ごしている銀時達。

ルイージ、ソロ、リュウケンドー、ソニック、ファルコン・ハート、チルノ、お空、フランが遊びに来ていた時、ヴィヴィオが一通の手紙を持って来る。

銀時「何だ？」

受け取った銀時は封を切ると早速内容を見る。

その内容は『転生者を食にしているエイリアンが地球にいる。助けてくれ』と書かれていた。

ソロ「転生者を食べるエイリアン？」

ビビ「おっかないわね…」

銀時「どうせ軽いいたずらじゃねえか？」

内容を見て呟くソロにビビは眉を潜めるが銀時はそう言う。

ネプテューヌ「いいから！」

なのは「銀さんも来るの！！」

銀時「いでででで！耳を引っ張るな！！」

なのはとネプテューヌに耳を引っ張られて無理やり銀時を連れていく。

と言う訳でリュウケンドー達に新八、神楽、桂、エリザベス、月詠、九兵衛、辰馬、源外、猿飛、近藤、土方、沖田、山崎、フェイト、はやて、シグナム、ヴィータ、シャマル、ザフィーラ、スバル、ティアナ、エリオ、キャロ、フリード、ヴィヴィオ、ノワール、ブラン、ベール、コンパ、アイエフ、ネプギア、ユニ、ロム、ラム、レーティア、ジャンヌ、シャル、ギルシア、リアス、イッセー、カイム、アンヘル、レオン、ユウカ、ナリア、タバネ、ガレーナ、レシア、ヤルオ、ルシアス、ルーシア、アルテス、チフユ、リル、プリア、グレイ、ビビ、レイン、森羅、咲夜、蒼馬、紅也、さくら、エール、コヨリ、メア、セレスのメンバーと共に手紙に書かれていた指定の場所に向かう。

九兵衛「此処が指定の場所か？」

銀時「ああ、手紙に書かれてるのは此処だ」

辰馬「それにしちゃあ下水道の入り口っぽいのあるだけで何もないのー」

九兵衛の問いに銀時は手紙を見て言い、辰馬が周りを見て言う。

チルノ「んでさぁ…手紙の差出人って誰？」

銀時「ああ…『悪の使者』だ」

レイン「思いっきりハンドルネームだな」

チフユ「出したからには近くにいる筈だ…」

チルノの問いに銀時は差出人の名前を言い、レインは呆れた顔で言い、チフユの言葉の後に全員が周りを見て探していると…

???「そおい！」

チルノ「うひゃぁ！？」

聞き覚えのある声とチルノの声に全員がした方を見ると…

アンバリー「おお！結構良いね～」

チルノ「あうぅ／／／」

チルノの胸を鷲掴みしているアンバリーがいた。

ちなみに思いっきり前の別の人のコラボで書いたがチルノは大人化しており、身長はレティと同じ位で髪が膝まで伸びている服装は上は文の服ベースにアレンジした感じで腋や肩が露出しており、霊夢の様に白い袖を虹色の紐で括り付け、下は文の様にミニスカートで青い生地の上に雪の結晶が描かれて、首に白いマフラーが巻かれている。

胸もベールに負けない大きさを持っている。

ルイージ&新八&銀時&山崎&近藤&森羅&フェイト&ノワール&シャル「いきなり何してるのぉぉぉぉぉぉ！？」

それに上記のメンバーがツッコミを入れた。

アンバリー「待ってたよみんな」

ラム「あー！悪い奴の！」

ロム「……（ラムの後ろに隠れる）」

チルノ「あうあう／／／」

アンバリーはそのまま言い、ラムが指差す。

ソロ「お前が呼んだのか」

アンバリー「そうだよ～」

お空「誰？」

チフユ「マダム・アンバリー、タバネのライバルだ」

ソロの問いに答えたアンバリーにアンバリーを知らないメンバーを代表してお空が聞き、チフユが簡潔に言う。

タバネ「おひさ～一体どうしたの？」

アンバリー「実はね～」

ネプギア「その前にチルノちゃんを離したら；」

タバネが聞き、アンバリーが言う前にネプギアにそう言われ顔を赤くしたチルノを放すと言う。

話を聞く限りアンバリーは転生者達と実験中にエイリアン達に襲われ、彼女含め数名の転生者が逃げのびたらしい。エイリアンは人間の血肉を喰らう残虐非道な存在。しかも転生者やチート能力者の区別が出来るらしく、B級以下の転生者を喰らっていたのだ。

アンバリー「それでさ～呼んだのはエイリアン討伐をして欲しいんだ」

ネプテューヌ「どうする銀さん？」

銀時「う～む…」

アンバリーの依頼にネプテューヌは銀時に聞き、聞かれた本人は腕を組んで悩む。

チルノ「受けてあげようよ」

ソロ「襲うからにはビビ達に襲い掛かるだろうしな…」

リュウケンドー「知り合ったからにはな…」

困ってる人がいるならすぐに手を出す3人が言った後…

ソニック「！はっ！！」

？？？「ぎしゃあぁぁぁぁぁぁぁ！！！」

ソニックがアンバリーの後ろから迫る何かに気づき、カリバーンとデルフで切り裂く。

アンバリー「こいつ等だよ」

ブラン「他にも来たみたい…」

アンバリーがソニックが倒した奴、エリアンを見て言い、ブランの言葉の後に同じ集団が来る。

スバル「どうする銀さん！？」

銀時「しゃあねぇ…受けてやるよ！」

アンバリー「ありがと～」

ファルコン・ハート「んじゃあ行くぞ！」

スバルの問いに銀時はやむなく協力し、アンバリーのお礼の後にゴウリュウガンを構えたファルコン・ハートが言う。

銀時「エイリアン」

全員「狩りじゃぁアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア！！！！！」

銀時の後に全員がそれぞれの武器を構えて、エイリアン駆逐のために駆け出し、エリアンを倒して行く。

チャイナータウン、地下水道（Metal Slug 6 OST：

Ａｓｉａｎ　Ｉｍｐａｃｔ　（Ｍｉｓｓｉｏｎ　３））

エリアンを倒して地下水道を進む銀時達…

すると

中華人？「ウァアアアア！！！」

プリア「民間人に取りついている！？」

ヴィヴィオ「叩き落とすしかないよ！」

民間人に取り付いたエイリアン、プリダーにプリアは驚き、大人モードのヴィヴィオがそう言う。

ゼロイド「コスモス！あれで行くぞ！変身！」

ゼロイドライバー「フォームライド！」

コスモス「ああ、あれね！チェンジ！」

ゼロイドライバー「コスモス・エクリプス！！」

ゼロイドの言葉にコスモスはウルトラマンコスモス・エクリプスモードに顔と胸を除いたＮＥＷ電王のアーマーを装着した感じの『仮面ライダーコスモス・エクリプスフォーム』にチェンジし、ゼロイドも『仮面ライダーゼロイド・コスモス・エクリプスフォーム』になると２人は両腕を交差させてエネルギーを溜め、それを右腕に移して放つ万能光線『コズミューム光線』を放ち、取り付いているプリダーだけを倒す。

さくら「凄い」

グレイ「相手だけを倒すとはな…」

コスモスＥＦ「コスモスはこう言う相手にも向いてるからね」

蒼馬「成る程…」

その光景にさくらとグレイはそう言い、コスモスＥＦがそう言い、蒼馬が納得すると…

リル「ばぶっ！」

ギルシア「まだ来るようだぞ」

リルの言葉にギルシアが前を見て言うとプリダーにゼルド、ガードシップが現れる。

ヤルオ「いっぱい来たおｗｗｗｗｗ」

チフユ「出て来るなら倒して行くだけだ」

沖田「んじゃあ土方さんと一緒に吹っ飛ばしてやりますぜ」

土方「おい！」

コンパ「行きます！」

アイエフ「やってやろうじゃん！」

それぞれそう言った後に迎撃して行く。

取り付いてるプリダーが現れた時はコスモスＥＦとＺコスモスＥＦが倒して行く。

そして地下水道を進んでいくと…

ボスエイリアン（Ｍｅｔａｌ　Ｓｌｕｇ　６　ＯＳＴ：　Ｂｉｏｔｏｘｉｃ　（Ｂｏｓｓ　Ｔｈｅｍｅ　Ｂ））』

なのは「うわぁ…」

フェイト「何あれ…」

神楽「なんだこのキモイロボは？」

新八「そんなこと言ってる場合じゃ…うおわ！！」

目の前の頭部に脳ミソと目玉が付いた二足歩行ロボットになのは達女性陣が引いた感想を言い、新八がツッコミを入れた瞬間に巨大ロボットの頭部から電流の塊が発射され、新八は慌てて避ける。

リュウケンドー「相手はやる気満々らしいな！」

チルノ「んじゃあやろう！」

フラン「おお！」

上記３人が言った後にネプテューヌが近づいて斬撃を当てる。

それに巨大ロボット、バイオブライドは両腕に電撃を纏ってネプテューヌに向けて振る。何度も同じことやっていると発狂したのか歩きながらパンチを繰り出して来た。

ネプテューヌ「うわぁ暴れ出したよ！！」

アイエフ「あんたが不意に近づいて怒らせたりするからよ！！」

避けながら叫ぶネプテューヌにアイエフが叫ぶ。

少しして落ち着いたのかバイオブライドは今度は水の下に埋まっている廃車を銀時達に投げたり、クワガタの手から電流を流す手になり、水面に１０億ボルトの電流を流したり、最初に新八にやった攻撃を連続でやる。

銀時「しつけぇな！！でっかいゴミ飛ばしたり電球飛ばしたり水面電流流したり！」

ソニック「けど、分かれば問題ないさ」

それに銀時は顔を顰めてそう言う隣でソニックがそう言う。

少しずつ攻撃して行く内にバイオブライドは下半身の筒を構える。

シグナム「何をする気だ？」

ノワール「警戒しないとね…」

ファルコン・ハート「だな」

それに全員が警戒すると…

バイオブライド「…ウェーブダン…ハッシャ」

ドドドドドドドドドドドドドドドドドド！

全員「何処から出してんだァァァァァァァァァァァァ！！！！」

下半身の筒から電球弾を波のように発射した事に全員がツッコミを入れる。

ファルコン・ハート「フラン！お空！やっちまえ！」

お空＆フラン「おお！」

避けながらファルコン・ハートは2人に言うと2人は答えた後にスペルカードを取り出す。

お空「爆符『ギガフレア』！」

フラン「禁弾『スターボウブレイク』！」

制御棒から巨大な核エネルギーを波動砲のように発射するお空のとフランの七色の弾が途中で1つとなり、バイオブライドを飲み込む。

そして…消えるとバイオブライドの姿はなかった。

リュウケンドー達を除いた一同「（@口@；）」

あまりの威力にリュウケンドー達を除いたメンバーは一部が口をあんぐりとさせて唖然とする。

ソニック「それにしても…このままにしといたらやばいのは分かったな」

銀時「確かにそうだな…」

ベール「もしかしたら他の人を狙う可能性もありますし…」

ソニックの言葉に我に返った銀時は頷き、ベールがそう言う。

しゃあねえと銀時は振り返り、全員に言う。

銀時「いこうぜ。わけわかんねえ奴に地球滅亡されてたまるか」

なのは「いこう！」

リュウケンドー「おう！」

ゼロイド「だな！」

エール「んじゃあ」

チルノ&アンバリー&タバネ「レッツゴー！」

それぞれ駆け出し、次のエイリアンが占拠にしている場所へ追っていくのであった。

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

蛇八「それじゃあ行くぞペンネーム『匿名希望』から『質問です。昭和ライダーに変身できる人を全員教えてください。』」

鳴神　ソラ「昭和ライダーズはいません」

銀八「即答だな…『匿名希望』さん！廊下に立ってなさい！」

蛇八「今回は此処まで！」

リュカ「と言う訳で真王さんとのコラボでした！」

スネーク「しかし最後のボスは色々とツッコミ所あるのだ」

フォックス「だな」

ワリオ「次は何が待ち受けてるのやら…」

ネス「感想を待ってます♪」

何をやろうか？　ｂｙチルノ（前書き）

スネーク「黒一文字からゲストだ！」

フォックス「何をするのやら」

クッパ「確かになのだ」

何をやろうか？　ｂｙチルノ

チルノ「いえ～いあたいの勝ち！」

レヴィ「また負けた！」

今日も幻想卿でチルノとレヴィが弾幕勝負をしてチルノが勝った様だ。

シュテル「またですか」

ロード「良い所で負けるなお主は…」

リュウケンドー「けど、良くなってるよな」

ソロ「だな」

それを本を読みながら見ていたシュテルはそう言い、ロードが呆れた顔で言う隣でリュウケンドーとソロがそう言う。

チルノ「今度は何する？それともまたする？」

レヴィ「う～ん」

チルノの問いにレヴィは考えてると…

ユエ「あら？」

クレス「おい」

レヴィ「うひゃあ!?」

レヴィの影からユエとクレスが現れ、レヴィは慌てて飛び退る様に離れる。

チルノ「誰?」

リュウケンドー「と言うか何で影から?」

クレス「えっと…この中でゼロに変身するマリオの知り合いはいるか?」

ユエとクレスを囲むメンバーにクレスはそう言う。

数分後

空「マリオの知り合いだったのか〜」

ソロ「いきなりだったからびっくりしたぜ」

博麗神社でお茶を飲みながら話していた。

ユエ「まあ、私は知り合いの知り合いなだけで会ってませんけど…自己紹介しましょう。私は神託(オラクル)の盾騎士団第六師団所属師団長ユエです」

リュウケンドー「へ〜団長なのかあんた」

ソロ「俺達の知り合いにも団長がいるんだ」

クレス「俺はクレス・エスティードだ」

チルノ「お～クレスなのか～同じ名前の人がいるんだよね」

クレス「それなら会ってるぞ」

自己紹介をして色々と話していると…

早苗&文&白蓮「チルノ（ちゃん！）（さん！）！」

そこに早苗、文、白蓮が来る。

クレス「誰？あいつ等？」

シュテル「チルノのを嫁さんにしたいメンバーです」

ソロ「仲が良いよな」

空「ホントホント」

クレスの問いに答えたシュテルの後に言った2人の言葉に…

ユエ「（成る程、鈍いんですねね）」

クレス「（明久クラスが此処にいたか…）」

ユエとクレスは察知した。

チルノ「それでどうするの？」

クレス「そうだな…」

ユエ「そうですね…」

チルノの問いにクレスとユエは考える。

ソロ「どうせなら…此処を廻って行くか？」

クレス「ん？」

ユエ「どう言う事ですか？」

空「つまり観光だな」

ソロ「そう言う事だ」

ソロの言葉にクレスとユエは少し首を傾げ、ソロの言いたい事が分かった空がそう言う。

クレス「成る程…見所沢山あるか？」

チルノ「うん！たっぷりあるよ！」

レヴィ「色々とあるぞ！」

クレスの問いにチルノとレヴィがそう言う。

シュテル「暇にはならないと思います」

ロード「強い奴もいるぞ」

ユエ「成る程…良いですね」

クレス「それに土産も手に入るし良いな…」

続けて言ったシュテルとロードの言葉にユエとクレスはそう言う。

空「んじゃあ幻想卿廻りと行こうじゃないか！」

ユエ「ですね」

そんな訳で幻想卿を廻る事にしたクレスとユエ、色んな場所でどんな事があるのやら…

何をやろうか？　ｂｙチルノ（後書き）

クッパ「続く奴になるのか！？」

スネーク「らしいな；」

フォックス「どうなるのやら…」

ネス「感想を待ってます♪」

ＩＳ<インフィニット・ストラトス>ＥＸＶＳ～エクストリームバーサス～

スネーク「今回はベガＦ９１の『ＩＳ＜インフィニット・ストラトス＜ＥＸＶＳ～エクストリームバーサス～』とのコラボだ！」

マリオ「今回、俺達スマブラメンバーは出ません」

ルイージ「そりゃあね…」

クッパ「ＳＤガンダムフルカラー劇場の１部のメンバーだけの登場なのだ！」

荒澤　拓斗は目の前の光景に呆然としていた。

いや、一夏達もそうであった。

訓練の為にアリーナに来たのだが…来て見るとふぅ～と良い汗掻いたと頭の汗を拭うターンAと…埋まっているガンダムたちの姿があった。

デスティニー「って！何だよこの始まり方ぁぁぁぁぁぁぁ！！！」

ボコン！と勢い良く抜け出してデスティニーがツッコミを入れる。

数分後、拓斗達の手によりガンダムたちは救助された。

ガンダム「埋めないでよターンA！！」

シャア「まったくだぞ！お前はどんだけ埋めるのが好きなんだ！！」

ターンA「すいませ～ん」

助け出された後にすぐさまガンダムとシャアがターンAに怒るが本人はまったく反省してるのか分からない。

ゴッド「師匠ぉぉぉぉぉぉぉ！！」

マスター「ふはははははは！甘いぞゴッド！！」

隣では救助されて早々にゴッドとマスターが修行している。

デスサイズ「いや～まさか埋められるとは思いもしなかったな…」

ウイング「そうだな…」

ＤＸ「すまねえな」

ゴシゴシと汚れを拭いながらデスサイズはそう言い、ウイングが同意した後にターンＡと仲の良いＤＸがそう言う。

一夏「なあ拓斗…小さいけどお前がＩＳで使っていた奴に似てないか？」

拓斗「いや、似てるんじゃなくて彼らが元になった奴なんだよ」

デスティニー「俺達の事知ってるのか？」

見ていた一夏が拓斗に聞き、拓斗は興奮して言い、デスティニーが聞く。

拓斗「まあね」

ゼータ「…僕達有名人なのか？」

セシリア「拓斗さんが使ってるＩＳがそうなのです…それより小さい…つめたっ！？頭が冷たすぎですわ！？」

ラウラ「確かに冷たいな」

マーク？「お前…頭の中にドライアイス入れてるだろ？」

ゼータ「…ああ、最近暑くなって来たから」

デスティニー「後、俺達人じゃないだろ；」

ゼータの問いにセシリアがそう言ってゼータの頭に触れてすぐさま手を引っ込め、ラウラも触れたがすぐに手を遠ざけて言い。マーク？がジト眼でそう言い、ゼータが頭を摩りながらそう言い、デスティニーがツッコミを入れる。

一夏「（頭の中にドライアイス；）」

箒「（どうやって入れてるんだ？）」

デスティニー「それにしても…さっきの話を聞くとそいつのＩＳって俺達の姿になれるのか？」

拓斗「そうだよ…って君達はＩＳを知ってるの！？」

一夏と箒がゼータを見ている中、デスティニーが拓斗に聞き、頷いた後に驚いて聞く。

ターンＡ「はい！僕達は一夏さん達と知り合いですから！」

一夏「えっ！？」

シャル「僕達は君達の事知らないけど？」

ＤＸ「１つ抜けてるぜターンＡ、別世界のだろ？」

笑顔で言うターンAの言った事に一夏達は驚き、DXが訂正する。

拓斗「別世界って…」

ガンダム「いや～色々とね」

デスティニー「確かに色々ですね」

呆然とする拓斗にガンダムは頭を掻き、デスティニーはそう言う。

山田「それにしても…そこのガンダムさんは拓斗君が無人ISと戦った時になったのに似てますね」

ダブルオー「俺がガンダムだ！！」

デスティニー「お前は黙っとけ」

拓斗「あ～サイコガンダムを倒したのに使用しましたしねDX」

マーク？「なにいいいいいいいいいい！？」

拓斗「うわっ！？」

DXを見て山田の言った事にダブルオーが反応して叫んでデスティニーがそう言い、拓斗の言った事にマーク？が反応して拓斗は驚く。

マーク？「お前、サイコを倒しただとぉぉぉぉぉぉぉぉ！！…許せん！！」

ガンダム「落ち着いてマーク？！」

シャア「別の、しかも無人ＩＳだから本人じゃないぞ！」

デスティニー「しかも最後は思いっきり仮面ライダーの誰かの台詞だぞ！」

思いっきりサイコ馬鹿なマーク？にガンダムとシャアが止めにかかり、デスティニーがツッコミを入れるが…

マーク？「うぉぉぉぉぉぉぉ！！」

ゼータ「駄目だな、耳に入ってない」

拓斗「うわっ！？」

怒りで我を忘れてるマーク？にゼータはそう言い、向かって来るマーク？に拓斗は慌ててＩＳを起動させ、ユニコーンガンダムになるとマーク？を避ける。

拓斗「（小さいとはいえマーク？だから一気に決める！）」

ドドドドドと来るマーク？を見てそう呟くとＮＴ－Ｄを発動させ、デストロイモードへと変形するとサイコミュジャックを放ち、動きを封じようとするが…

マーク？「んな小手先効くかぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！」

拓斗「えぇぇぇぇぇぇぇぇ！？」

サイコミュジャックをもろともしないマーク?に拓斗は驚いた後に蹴りを入れられる。

一夏「拓斗!?」

箒「まさかあれを受けないだと!?」

ゼータ「…前に怒っていていきさつはどうあれレイダー、カラミティ、フォビドゥンを倒した事があるからな…」

吹き飛ぶ拓斗に一夏は叫び、箒は福音の動きを止めたのを受け付けないマーク?に驚き、ゼータが隣でそう言う。

拓斗「(油断した。まさかSEED系のを倒してるなんて…)」

マーク?「うぉぉぉぉぉぉぉ!!」

ゼータの言った事に拓斗は起き上がりながらそう呟く中、マーク?は追撃しようと拓斗に駆け出すが…

千冬「そこまでだ」

パシーン!

何時の間にかマーク?に近寄った千冬が出席簿でマーク?を気絶させた。

千冬「まったく…」

デスティニー「出席簿で気絶させたぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ!!」

デスサイズ「いや～世界ちがえど千冬先生は変わんないね～」

ウイング「確かに」

倒れたマーク?を見る千冬にデスティニーは叫び、デスサイズは感嘆の声を上げ、ウイングは同意する。

ラウラ「それにしても…その時は何に怒ったんだ?」

ゼータ「…上の2人の兄とペットの犬の首輪の2本目の色を青か黄色かでもめて…」

ラウラの疑問にゼータが答えた事に拓斗達は思った。

ISメンバー「(めっちゃくだらない揉め事だな;)」

マスター「どうしたゴッド!」

ゴッド「まだまだ!」

デスティニー「あんたらも何時までやってんだよ!!」

呆れてるISメンバーの後ろでまだ修行している師弟にデスティニーは叫ぶ。

その後、戻るまで会話したり、ゴッドがISメンバーと訓練したりして過ごしたのであった。

ＩＳ＆Ｉｔ；インフィニット・ストラトス＆ｇｔ；ＥＸＶＳ～エクストリームバ

リュカ「と言う訳でベガＦ９１さんとのコラボでした！」

ルイージ「拓斗君、少しご愁傷様；」

スネーク「だな」

フォックス「と言うか千冬ってホントに凄いよな…」

クッパ「ハイパービームソードを受け止めていたは凄いのだ；」

ネス「感想を待ってます♪」

IS<インフィニット・ストラトス>黒き牙と永遠の月　牙と白い

スネーク「ユートピアとのコラボだ！」

クッパ「前回のお話は！」

1つ！ヤミーと戦う2箇所でレリルとアグムが現れる。

2つ！黒狼はナギカロコンボとなってアグムに挑む。

そして3つ！レリルが自分のメダルの事を聞く。

ネス「どうなるんだろうね…」

ワリオ「だな」

ゴーカイブルー「この！」

レリル「甘いよ」

ゴーカイブルーの攻撃を受け止めるとがら空きのどてっぱらにパンチを叩き込む。

それにより変身が解け、終は地面に倒れて呻く。

楯無＆簪「終！」

オーズドライバー「スキャニングチャージ！」

オーズＴＭＣ「ぷっ！」

オーズＧＣ「おりゃあ！」

オーズＬＣ「はっ！」

オーズＦＣ「おりゃあ！」

それに楯無と簪が駆け寄る間にオーズＴＣを除いたオーズメンバーがそれぞれ必殺技を放つ。

レリル「おっと、よっ」

まず来た魂ボンバーを防いだ後にガッシュクロスの後にガタキリバ

キックとフェドラサスキックを受けるが後ずさりするだけで…堪えてない。

ゼロ「食らえ！」

タジャスピナー「クワガタ！カマキリ！ライオン！トラ！フェニックス！ドラゴン！ペガサス！ギガスキャン！！」

オーズＴＣ「おりゃあ！」

そこにゼロのゼロツインシュートとウヴァ、カザリ、ヴァトルから事前に借りてたコアメダルを使ってのオーズＴＣのエネルギー弾が命中する。

レリル「ぐうううう！」

それにレリルは吹き飛び、膝を付く。

レリル「まさか僕が膝を付くとはね…もう用はないしじゃあね！」

そう言うとレリルは炎を出してメンバーを近寄らせなかった後に離れる。

終「くそっ！」

地面に拳を叩き付ける。

一夏達の方では…

アグム「ふん！」

オーズＮＣ「はっ！」

それぞれクロスカウンターをし、吹き飛ぶと同時にオーズＮＣからアリメダルとナギナタメダルが飛んでしまい、それをアグムは回収する。

アグム「…返して貰ったぞ」

オーズＳＧＣに支えて貰いながら起きる黒狼にアグムはそう言うと消える。

一夏「大丈夫か？」

黒狼「大丈夫だよ…痛み分けか…」

変身を解いた一夏に黒狼はそう言ってクロスカウンターを放った右手を開くと、さっき取られた筈のナギナタメダルがあった。

箒「それは…」

黒狼「さっきので相手側から飛んで来たのを…運が良かったとしか言い様がないですよ」

駆け寄る箒に黒狼は苦笑する。

宿に戻ったメンバーはそれぞれ情報を交換する。

アンク「そうか…」

黒狼「御免ねアンク」

呟いたアンクにアリメダルを取られた事を黒狼は謝る。

アンク「気にするな、また取れば良いだけだ」

セシリア「気にするべきは…」

鈴「一夏達だよね…」

アンクの後にセシリアと鈴は一夏と終を見る。

一夏は落ち込み、終も歯痒い気持ちであった。

完敗であったのだ実力も力も…訓練したのに相手はまだ上だった。

ウヴァ「此処は修行だな」

カザリ「そうだね」

アデュー「相手が上ならそれしかないよな」

ウヴァ、カザリ、アデューが2人にそう言った時…

楓「うっ、う～ん」

呻いた後に楓が目を開ける。

シャル「楓！」

ラウラ「起きたか！」

シルク「良かったわ…」

椛「楓ぇぇぇぇぇ！！」

それに楓ＬＯＶＥズは駆け寄り、椛が抱き付く。

椛「良かった！良かったよ！」

楓「椛…皆さん、すいませんでした心配させてしまい…」

うわ～～んと泣く椛に楓は見た後に全員に謝る。

アンク「（さて、奴に対抗するには修行と取ったあいつのメダル以外に考えるべきは…）」

それを見ながらアンクはそう心の中で呟いた。

ＩＳ&Ｉｔ；インフィニット・ストラトス＆ｇｔ；黒き牙と永遠の月　牙と白い

リュカ「ユートピアさんとのコラボでした！」

クッパ「コンボが１つ減ったのだ」

ワリオ「ホントだな」

フォックス「さて、次はどうなるのやら…」

ネス「感想を待ってます♪」

ＩＳ　光の英雄　別話　ソロと光（前書き）

スネーク「今回は光を継ぐ者の『ＩＳ　光の英雄』とのコラボだ！」

マリオ「ちなみに俺達出ません」

ルイージ「最近、同じＩＳでとのコラボで出てないね」

クッパ「我輩等より合う奴らがいるからな…」

ＩＳ　光の英雄　別話　ソロと光

自分の世界の神、ウルトラマンノアによりＩＳ世界に人間へと転生したウルトラマンティガこと古代　光、これは彼が別のウルトラマンと出会ったお話

それは訓練をしていて終わった時であった。

一夏「何だあれ…」

終わると同時に現れた灰色のヴェール。

それに千冬が厳しい目で見ていて、真耶はオロオロしていた。

光「（この感じ…）」

その中で光は灰色のヴェールから感じる気配について考えていた。

すると…

？？？「おわっ！？」

灰色のヴェールから1人の青年が出てきた。

それと同時に灰色のヴェールは消えた。

青年「いきなり出て来やがって…」

千冬「何者だ？」

頭を抑えて立ち上がる青年に千冬は話しかける。

それに気づいた青年が顔を向ける。

青年「千冬さん…って事は此処はＩＳ学園か…」

千冬「!?なぜ私の名前を知っている?」

千冬を見て納得する青年に千冬は驚いて聞く。

青年「まあ…どう説明すれば良いのやら…」

光「（織斑先生）」

困った顔をして頭を掻く青年に光が千冬に近づいて耳元で話しかける。

千冬「（何だ?）」

光「（もしかしたら彼は別世界から来たんじゃ…）」

千冬「（成る程…）」

Ｇ４「（その可能性はありえますね）」

小声で返す千冬に光はそう言い、Ｇ４も２人に聞こえる程度に言う。

千冬「お前の名前は?」

青年↓ソロ「俺？俺の名前はソロ、まあ、すぐに帰ろうと思ったんだが…そこの」

光「僕？」

千冬の問いに青年、ソロは名乗り、光を指差す。

指差された光はきょとんとして返す。

ソロ「そうだ…お前の実力、見せて貰うぜ」

そう言うと同時に距離を取り、ソロは懐からゼロイドライバーを取り出して装着し、ライドブッカーからカードを取り出し…

ソロ「変身！」

ゼロイドライバー「カメンライド！ゼロイド！！」

光「（！あれは僕！？）」

ゼロイドライバーにカードを装填し、音声と共に現れたウルトラ戦士の幻影の中で光は自分の前の姿であるティガの姿を見つけた後にそれ等はソロと重なり、ソロは仮面ライダーゼロイドに変身していた。

ゼロイド「さて、お前の力を見せてくれよ」

光「…分かった」

構えて言うゼロイドに光は答えた後に右手にスパークレンスを持ち、

右腕と左腕を前でクロス（右腕は地面に垂直、左腕は地面に平行）させ反時計回しに回して右腕を上に突出し…

光「Ｇ４～～～！！」

叫ぶと光の体中を光が体を包み、ＩＳを纏っていた。

光「（様子を見る為にガンダムで行こう…）」

そう考えた後にガンダムをイメージし、纏っていたＩＳが光り輝き、ガンダムになる。

ゼロイド「成る程、そっちがガンダムの原点ならこっちも原点だ！変身！」

ゼロイドライバー「カメンライド！ウルトラマン！」

それを見てゼロイドはそう言うとその姿は光と同じ様に光り輝き、姿はウルトラマンに変わった。

光「（あれは…ウルトラマン！？）」

かつてダイゴと一体化していた時に遭遇した怪獣バイヤーである宇宙魔人チャリジャが出した謎の機械で１９６５年に行き、そこでチャリジャが復活させた宇宙恐竜　ヤナカーギーに苦戦した時に助けられたウルトラマンになった事に光は驚く。

光「（あの時見たのと違って鎧を纏っているけど…あの時感じたのと同じだ）」

Zウルトラマン「行くぜ！」

光が心の中で呟いた後にZウルトラマンは掌を合わせて連続発射するスラッシュ光線を放つ。

それに光はビームライフルで相殺する。

光「たあ！」

シールドとビームサーベルを取り出すとスラッシュ光線を避けたりシールドで防いで接近し、ビームサーベルを振り下ろす。

Zウルトラマン「おっと！」

それにZウルトラマンはライドブッカーをソードモードにして防ぐ。

光「剣にもなるの！？」

Zウルトラマン「他にも銃にも変形出来るぞ」

驚く光にZウルトラマンはそう言うと距離を取る。

光「（こうなったら…）」

Zウルトラマンを見て光は今度はユニコーンガンダムをイメージし、武装と姿をユニコーンガンダムに変える。

Zウルトラマン「（あれは最近聞くユニコーンガンダムって奴か…）…ん？」

光のそれを見て呟いた後にライドブッカーからカードが飛び出し、自分を使えとアピールする様に光る。

Zウルトラマン「んじゃあ行くか！変身！！」

ゼロイドライバー「カメンライド！ティガ！」

カードを装填し、音声と共にZウルトラマンの胸部分が輝いた後に全体を包むとウルトラマンティガ・マルチタイプが銀魂の銀時が攘夷戦争時に着ていた白い鎧を纏っている感じの『仮面ライダーゼロイド・ティガ・マルチフォーム』へ変身した。

光「なっ！？（今度はティガに！？）」

千冬「あれは…」

真耶「織斑先生？」

Zティガに光は驚き、唯一知る千冬は目を開き、真耶はなぜ驚くかに首を傾げる。

Zティガ「行くぜ！」

ライドブッカーSMとマルチセイバーを構えた後にZティガは光に突進し、光はビーム・ガトリングガンで牽制しようとするが…

Zティガ「だりゃりゃりゃりゃ！！」

光「うそ！？」

マルチセイバーとライドブッカーＳＭで弾くＺティガに光は驚いた後にビームサーベルで防ぎ、激しい剣のぶつかり合いが始まる。

一夏「すげぇ…」

その光景に一夏はそう呟く。

突如現れたソロが変身するゼロイドに驚いたがそれに対抗する光の実力に驚く。

セシリア「凄い」

そしてセシリアも驚いていた。

驚きの意味では一夏と違い、ぶつかり合う2人の動きがまるで剣舞の様に綺麗な事に驚いていた。

Ｚティガ「一気に決めるぜ！」

光「（あの構え…来る！）」

マルチセイバーとライドブッカーＳＭを仕舞って胸の前で両腕を前方で交差させて一瞬光った後、左右に大きく広げてエネルギーを集約するのに光はかつて自分が使っていたゼペリオン光線が来ると感じ、ビームマグナムを取り出して５基連結させて、Ｚティガに向ける。

Ｚティガ「デヤァァァァ！！」

光「いっけぇぇぇぇぇぇぇ！！」

L字型に腕を組んで放つZティガと光がビームマグナムを撃つのが同時でそれぞれ中心にぶつかると鬩ぎ合い…

ドカーーーン！！

Zティガ「おわっ！」

光「うわぁ！」

爆発し、それに2人は吹き飛び、地面に落ちると同時にZティガは変身が解け、光もＩＳが消える。

セシリア「光さん！」

真耶「古代君！」

それにセシリアと真耶は慌てて駆け寄る。

光「だっ、大丈夫です」

ソロ「やるなお前、強いじゃないか（やっぱりこいつは…）」

2人を安心させる為に光はそう言って立ち上がるとソロが来る。

ソロ「これ、やるよ。お守りで持っといてくれ」

光「！これって…」

光に近寄り、ソロはティガのカードを渡すと光は驚いてソロを見る。

光「まだ僕の名前を言ってなかったね…僕は古代　光…ソロ、君は何者なんだい？」

ソロ「俺かい？俺は…」

名前を名乗り、聞く光にソロは懐からウルトラゼロアイを取り出すとデュワ！の掛け声と共に目に装着する。

それと同時にソロの体は変わって行き、銀色の顔に光り輝く黄色の目、両肩と胸を守るプロテクターと赤と青のカラーリングの体に胸の中心に青く輝くカラータイマー、最後に頭部にゼロスラッガーが装着される。

ウルトラマンゼロ「ゼロ、ウルトラマンゼロだ」

光「ウルトラマン…ゼロ（そうか…感じたのは…彼の光だったのか）」

驚いてる光達にウルトラマンゼロは名乗り上げると共に光がその名を呟いて、最初に感じた事を理解した後にウルトラマンゼロを最初に見た灰色のヴェールを包み込む。

ウルトラマンゼロ『頑張れよ！古代　光！ウルトラマンティガ！！』

姿が見えなくなる直前に光の頭にウルトラマンゼロの声が響く。

一夏「なっ、なんだったんだろうな…」

箒「ああ…」

光「ウルトラマンゼロ…頑張るよ」

一夏は呆然とした顔で箒に言い、箒も同じく呆然としている中、光は渡されたティガのカードを見てそう言う。

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生!蛇八先生!」

蛇八「それじゃあ行くぞペンネーム『ケン』から『統夜「コンボが一つ減ってしまったな」

減ってしまったね・・・

統夜「最強形態のプトティラなら敵グリードのコアメダル砕けるんじゃね?」

原作でカザリやメズールを倒したもんね。

質問しますか・・・

ギルへ

コアメダル破壊能力を持つ紫のコアメダルを持つ君は敵のグリードから恐れられてませんか?

マリオへ

最新ライダーであるフォーゼにフォームライドしたいって事ありますか？

マリオ達へ

セイントクルセイダーズに出てくるセイラをどう思っていますか？

以上です。

統夜「コアメダル破壊って恐ろしいからね・・・」

次回も楽しみにしています。』…それじゃあ答えろ」

ギル「ぷっ？」

アンク「内のは純粋無垢な性格だから恐れられるってのはな…」

マリオ「いや、感想内でした事あるぞ…んでセイラは…欲と力に飲み込まれた哀れな者だな」

ルイージ「ある意味、数ある世界の１つである管理局の闇の１つかな？」

ブロントさん「色々と汚い奴」

アンク「相手を間違えた奴だな」

フォックス「傲慢さが倒された一因の奴だな」

銀八「との事だ『ケン』さん！そちらの物語頑張ってください！」

蛇八「今回は此処まで！」

ＩＳ　光の英雄　別話　ソロと光（後書き）

リュカ「と言う訳で光を継ぐ者さんとのコラボでした！」

スネーク「ちなみに光がもしティガになれてたら話の内容が変わっていたんだよな…」

フォックス「そうそう…」

ネス「感想を待ってます♪」

万事屋奇譚幕　別話5：WとD／別世界での訓練試合（前書き）

スネーク「亀鳥虎龍とのコラボだ」

クッパ「タイトル通りなのだ」

フォックス「どうなるのやら」

万事屋奇譚幕　別話5：WとD／別世界での訓練試合

クオーター（当麻）「はぁ…」

W（ネス）「大丈夫？」

ため息を吐くクオーターに前に立つWは聞く。

クオーター（当麻）「すまん、さっき食べさして貰ったのに」

W（リュカ）「凄い食べっぷりでしたね；」

クオーター（インデックス）「ホントにありがとうね」

謝る当麻にリュカはそう言い、インデックスがそう言う。

なぜこの会話かと言うと呼び出された際に2人共、お腹が空いていたのでルイージや明久が大急ぎで作り、2人がそれを食べたのであった。

そして落ち着いた後にマリオからWとの訓練試合をする様に言われたのだ。

それに当麻はこの先の事を考えて了承したが…

W（ネス）「噛まれまくってましたね；」

クオーター（当麻）「ああ、あんなに食べたのにまだお代わりしようとして…」

クオーター（インデックス）「だって沢山食べられるのは全然ないんだから良いじゃん！」

W（リュカ）「あはは；」

ネスの言葉に当麻は呆れ、インデックスはぷんぷん怒り、リュカは苦笑する。

マリオ「準備良いか？」

W（ネス）「ＯＫだよ」

クオーター（当麻）「俺達も良いぞ」

マリオの問いにWとクオーターは答える。

マリオ「それじゃあ…始め！」

その言葉と共にそれぞれ2人で1人のライダーはぶつかり合う。

W（ネス）「はっ！」

クオーター（当麻）「おりゃあ！」

先ずはお互いに格闘戦で行き、お互いに相手の攻撃を避けたり、受け止めたりして行く。

クオーター（インデックス）「メモリチェンジするよ！」

【ＩＭＡＧＩＮＥ　ＢＲＥＡＫＥＲ・ＳＡＩＮＴ】

インデックスが言うと同時にメモリを変え、クオーターの左半身が水色に変わり、背中には長刀、セイントブレードが出現する。

Ｗ（ネス）「んじゃあこっちも暑く行こうか」

Ｗ（リュカ）「分かった」

【ＨＥＡＴ・ＭＥＴＡＬ】

セイントブレードを構えるクオーターＩＳを見てＷもメモリチェンジし、ヒートメタルになるとメタルシャフトを握る。

クオーターＩＳ「はっ！」

ＷＨＭ「たっ！」

セイントブレードとメタルシャフトでぶつかり合い、つばぜり合いになった後に距離を取り、お互い同時にメモリチェンジする。

【ＩＭＡＧＩＮＥ　ＢＲＥＡＫＥＲ・ＭＡＧＩＣ】

【ＬＵＮＡ・ＴＲＩＧＥＲ】

クオーターの左半身が朱色に変わり、左肩には外套、マジックマントが出現し、Ｗはルナトリガーとなり、トリガーマグナムから銃弾を放つ。

クオーターＩＭ（当麻）「悪いが…」

クオーターIM（インデックス）「効かないよ！」

飛んで来る銃弾をクオーターは右側は幻想殺し（イマジンブレイカー）の力で防ぎ、左側はマジックマントで防ぐ。

WLT（ネス）「あら…防御系なんだ」

WLT（リュカ）「どうする？」

それを見たネスがそう言い、リュカが聞くと赤いメモリを取り出す。

WLT（ネス）「スマブラメモリで行こうか」

WLT（リュカ）「ああ！」

それを見て青いメモリを取り出すとスイッチを押す。

【ＳＯＮＩＣ】

【ＭＡＲＩＯ】

その音声の後にダブルドライバーに装填する。

【ＳＯＮＩＣ・ＭＡＲＩＯ】

音声と共に右側が『音速のハリネズミの記憶』のソニックメモリの青色に、左側は『爆熱の勇者の記憶』のマリオメモリの赤色になった『仮面ライダーW・ソニックマリオ』になった。

クオーターＩＭ（当麻）「別のメモリ…」

クオーターＩＭ（インデックス）「とうま、変えるよ」

【ＩＭＡＧＩＮＥ　ＢＲＥＡＫＥＲ・ＩＮＤＥＸ】

それを見て呟く当麻にインデックスはそう言うとインデックスメモリに戻した瞬間…

ＷＳＭ「はっ！」

クオーター「うわっ！」

ＷＳＭがクオーターの前に一瞬で現れてパンチし、クオーターは吹き飛ぶ。

クオーター（当麻）「速い！」

クオーター（インデックス）「分かったよ当麻、ソニックメモリは音速までスピードを上げるスピード重視のメモリでマリオメモリはパワー重視のメモリだよ」

なんとか体制を立て直したクオーターはＷＳＭを見てそう言い、インデックスが調べた事を簡単に言う。

ＷＳＭ「行くよ！」

左スロットのメモリを右腰のスロットに差し込んだ。

【ＭＡＲＩＯ　ＭＡＸＩＭＵＭＤＲＩＶＥ】

その音声の後に高く飛び上がり、右足に炎を模したエネルギーが纏われる。

クオーター（当麻）「必殺技ならこっちもだ！」

そう言ってクオーターは右スロットのメモリを右腰のスロットに差し込んだ。

【ＩＭＡＧＩＮＥ　ＢＲＥＡＫＥＲ　ＭＡＸＩＭＵＭＤＲＩＶＥ】

蒼白いエネルギーを纏った右手の拳を強く握りながら、来るＷＳＭを迎え撃つ。

ＷＳＭ「『マリオ・コメットブレイク』！」

クオーター「『イマジンブレイク・インパクト』！」

キックとパンチがぶつかり合い、衝撃波が起こり…

ＷＳＭ「うわっ！」

クオーター（当麻）「どわぁぁぁ！」

両者同時に吹き飛び、変身が解ける。

ネス「いや～凄かったね～」

当麻「そっちもいきなりだったから上条さんはビックリしたぞ」

数分後、料理を食べながらネスはそう言い、当麻はそう返す。

インデックス「たっぷり食べとかないと！！」

ルイージ「ちゃんとお持ち帰り用のあるからね；」

リュカ「あはは；」

バクバク食べるインデックスにルイージはそう言い、リュカは苦笑する。

その後、当麻とインデックスは料理を持って帰ったのであった。

万事屋奇譚幕　別話5：WとD／別世界での訓練試合（後書き）

リュカ「と言う訳で亀鳥虎龍さんとのコラボでした」

スネーク「出たな…スマブラメモリ」

マリオ「まあ、あの2本だけだがな」

ルイージ「だね」

スネーク「クオーターのメモリは色々と多彩だな」

フォックス「ホントだな」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　～銀女神鎮魂歌～　―　第別訓パート４６

スネーク「真王とのコラボ第４６弾だ」

クッパ「前回のでエイリアンとの戦いが始まったのだ」

フォックス「次はな…」

銀時「しかし、他のエイリアンはどこにいるんだ？」

はやて「ほんまやな…」

地下水道から出て他のエイリアンを捜索しながら銀時は呟き、はやてが同意する。

チフユ「分かった…情報を感謝する」

源外「ん？何か分かったのか？」

どこかにかけていたチフユに源外が話しかける。

チフユ「ハイウェイでエイリアンどもがいるそうだ」

ゼロイド「成る程」

紅也「それじゃあ行こう！」

チフユの得た情報に銀時達はハイウェイに向かう。

付くとハイウェイはエイリアンの攻撃で半壊していた。

レイン「見事にぼろぼろだな」

なのは「はやくしないと…」

目の前のハイウェイの様子を見てレインは呟き、なのはの言葉の後に全員が動く。

ゼロイド「今回はこの人だ！変身！」

ゼロイドライバー「カメンライド！エース！」

音声と共にゼロイドは両拳をぶつけると共に光が走り、収まると胸に電王ＳＦのアーマーの上にウルトラマンエースに超闘士激伝の闘士ウルトラマンエースの重装鉄鋼を纏い、Ａと描かれた手甲と足を纏った『仮面ライダーゼロイド・エース』へ変身した、

そして右手で胸元のパーツを外し、メタリウムソードにして構える。

Ｚエース「行くぜ！メタリウム・バースト！！」

Ｚエースが左手にエネルギーを纏わせた後にそのエネルギーを地上に走らせ、地面ごとエリアンの集団を吹き飛ばす。

そして近づいて来たエリアンをメタリウムソードとライドブッカーの二刀流で切り裂く。

銀時「色々となるなあいつ…」

新八「そうですね」

それをエリアンを倒しながら銀時は呆れ混じりの呟きが口から漏れ、新八が同意する。

カリバー「はっ！」

こちらもカリバーに変身したソニックがエリアンを切り裂き、口を上に向けた一つ目のエイリアン、ゴボグチの口から放った紫色の泡を黄金の魔方陣で防いだ後に切り裂く。

ザフィーラ「しかし、これだけの数、どこから来るのだ？」

近藤「うむ、確かに疑問だな」

シャマル「それじゃあなんとか探してみるわ」

撃退しながらザフィーラは誰もが思う疑問を言い、エリアンを切り払った近藤が同意した後にシャマルがそう言う。

銀時「たくっ！後どれ位だ？」

リュウケンドー「大体の敵は倒したぞ」

猿飛「！銀さんに皆！あれ！！」

人に憑いてないプリダーを切り払った後に銀時にリュウケンドーはそう言った時、何かに気づいた猿飛が全員に声をかけて指差す。

猿飛が指した方には…大型の茶色い体に芋虫と思わせるこの付近のボスと思われるエイリアンが逃げ出す所であった。

銀時「おいおい、空中かよ！」

新八「どうします銀さん？一部の人が飛べませんよ」

ルーシア「それじゃあどうする？」

ルシアス「飛べるメンバーで行く？」

カイム「危険があるよ」

アンヘル「じゃあどうする？」

それに銀時は叫び、新八は困った顔をし、メンバーは悩んでいると…

？？？「オイソコノ」

声をかけられ、メンバーは振り向くと…火星人の頭に手が生えて頭部に脳味噌（カバーで守られている）が見える宇宙人がいた。

レオン「誰だお前？」

ルーズマーズ「オレハルーズマーズ、カセイカラキタ」

レオンの問いに宇宙人、ルーズマーズは名乗った。

ファルコン・ハート「んで、状況から察するにエイリアンと戦う俺達に協力を求めにか？」

ファルコン・ハートの問いにルーズマーズは話す。

カタゴトだったがなんでもやつらのせいで我が一族が食料にされているとのことでルーズマーズはそんな事から一族を開放する為に銀時達に協力を求めに来たというのだ。

ルーズマーズ「テヲカセ」

ネプテューヌ「いいよ」

ルーズマーズの求めにネプテューヌが答える。

ルーズマーズ「カンシャスル」

新八「けど、協力するのは良いけど、どうやって飛んで行ったエイリアンを…」

虫の様なエイリアンの飛んでった方を見て困った顔をする新八にルーズマーズは自分の後ろを指す。

すると、戦闘機のようなものがあった。

ルーズマーズ「アレヲツカエ」

銀時「成る程な…」

ファルコン・ハート「んじゃあ俺は先に行くぞ」

リュウケンドー「俺も」

そう言うとファルコン・ハートはスカイクローをリュウケンドーはグミシップを出すとそれに乗る。

新八「何か後者の奴かわってるんですけどぉぉぉぉぉぉ！！」

ルーズマーズ「ドウホウノカタキヲトッテクレ」

銀時「了解した」

新八が叫んでる間に銀時に操縦の仕方を教えたルーズマーズにそう言うと銀時は戦闘機、ストライクスラッグに乗り込むと3機は離陸する。

飛行する3機の戦闘機は大型の茶色い体に芋虫なエイリアン、ポルティアンを追う。

そんな3機の後ろをエリアンシップが現れ、撃とうとし…

ウルトラマンゼロ「デヤッ！」

ウルトラマンゼロの投げたゼロスラッガーに両断される。

リュウケンドー『ゼロ！』

銀時『あの時のか！』

ウルトラマンゼロ「俺も手伝うぞ」

ファルコン・ハート『んじゃあ行くぜ！』

その後、襲い掛かる、エアエリアンの集団にエリアンシップ、ミサイラーを退け、ガードシップを避けながらポルティアンに追いついた。

ポルティアンは振り向くと毒液を銀時達に向けて放ち、それを銀時達は避けて攻撃する。

ウルトラマンゼロ「デヤッ！」

ウルトラマンゼロはポルティアンの毒液を避けて体の上に付くとエメリウムスラッシュ光線を放つ。

それにポルティアンは体に乗っているウルトラマンゼロを追い払うために回転する。

ウルトラマンゼロ「おっと！」

それにゼロは上へ飛んだ後にポルティアンは腹部にある穴から毒霧弾を出す。

ウルトラマンゼロ「おっと！」

それをウルトラマンゼロがバリアで防いでる間も銀時達の攻撃は続く。

ポルティアン「オオオオオオォォォォォォォ！！！」

そんな銀時達にポルティアン口にたまった毒液をブレスのように出す。

リュウケンドー「なんの！」

ファルコン・ハート「当たるかよ」

それに銀時達はあっさり避け…

銀時「こいつでシメーだ芋虫野郎！！」

その言葉と共に銀時とリュウケンドーはミサイルを放ち、ファルコン・ハートはスマートボムを放ってポルティアンに止めを刺す。

ポルティアン「オオオオオオオォォォォォォォ！！！」

叫び声をあげた後にポルティアンは炎に包まれた後…

ドカーーーン

爆散した。

リュウケンドー「良し」

ファルコン・ハート「これでハイウェイの奴等も倒したな」

銀時「しっかし敵さんの本拠地はどこにあるのやら」

ウルトラマンゼロ「そうだな…」

それぞれで言った後にメンバーの元へ帰還する。

リュカ「と言うわけで真王さんとのコラボでした」

スネーク「なかなか変わったエイリアンだったな」

フォックス「そうだな」

クッパ「次は何が待ち受けてるのやら…」

ネス「感想を待ってます♪」

葉月の凶悪兵器リスト　凶悪兵器番外編　サイドロシアンルーレットパート2

スネーク「葉月のコラボなリクエスト後半戦だ」

フォックス「今度は誰が当たるんだ！」

ワリオ「だな；」

クッパ「うむ…」

デント「と言うわけで後半戦！」

ニャース「次は誰が当たるんニャろうか」

パチュリー「ムキュ…」

萃香「うぅ…」

霊夢「（大丈夫、私は当たらないわ）」

魔理沙「（こう言うのだと絶対霊夢の直感は当たる）」

文「（狙うなら霊夢さんが取ろうとした物ですね！）」

デントとニャースの言った後に後半参戦メンバーのパチュリーと萃香は呻き、一部は心の中で考える。

デント「え～前半の銀魂メンバーとリリなのメンバーに代わって後半のスマブラメンバーと銀次さん以外に参加するのは東方から霊夢、魔理沙、紫さん、妹紅さん、妖夢、チルノ、アリス、萃香、幽々子さん、文、パチュリーで…僕達の方からはサトシ、タケシ、ハルカ、ヒカリ、アイリスのメンバーだよ」

アイリス「大丈夫かな？」

サトシ「料理は何なんだ？」

チルノ「どーんと来い！」

妹紅「無知は良いよな…」

妖夢「確かに；」

不安げなアイリスとサトシとは別にチルノはどーんと言い妹紅と妖夢は苦笑する。

ニャース「と言うわけで今回の料理を紹介ニャ！」

デント「お願いします！」

ニャースとデントの言った後に輝夜と慧音に早苗と白蓮、お空、フランが料理を運んでくる。

マリオ「おっ、今回はカキ氷か」

デント「そう、シンプルにかけたシロップに当たり外れがあるんだ」

ニャース「見た目は定番のと同じのがあるけど、別のが混じってるのニャ」

タケシ「成る程…」

ハルカ「ある意味、当てたくないかも」

ヒカリ「それは誰だって同じだと思うわよ」

デントの後のニャースの説明にタケシは納得してハルカとヒカリは

顔を見合わせる。

ニャース「と言う訳で取るのニャ！」

デント「イッツ、ロシアンルーレットタイム！！」

1匹と1人の言った後にそれぞれ取るが…

霊夢「あんた達ね…」

魔理沙「早い者勝ちだぜ」

文「そうですよ～」

霊夢が取ろうとしたかき氷を魔理沙と文が取った。

アリス「（大丈夫かしら…）」

それを見たアリスはそう呟く。

デント「それじゃあ一斉に食べて！」

一同「いただきます」

デントと合図と共に全員がカキ氷を一口食べる。

文&魔理沙「ぶはっ！？」

ヨッシー&カービィ&幽々子「からすぱっ！？」

妖夢「幽々子様！？」

タレ銀&妹紅「渋いいいいい！！」

輝夜&慧音「妹紅！」

フォックス&ルカリオ&クッパ「ぶー！？」

ドンキー「おっ、これバナナだ」

ドンキーと妖夢、運んでいた輝夜と慧音を除いた上記のメンバーが当たったようだ。

霊夢「どうせ狙って来ると思ったわ」

パチュリー「霊夢の直感は凄いから狙って来るのを分かるわよね」

アリス「まったく…」

紫&萃香「狙った罰よ（だよ）」

倒れた2人に霊夢とアリスは呆れた顔をし、パチュリーはそう言い、紫と萃香は自業自得と言う。

ニャース「それじゃあ発表するニャ」

デント「え～まず魔理沙と文が食べたのはドルピックアイランドのマンマビーチにある海の家特製の栄養はあるけど味が凄く悪いジュースをシロップにしたのを、大食い同盟が食べたのはイチゴに見せかけた辛さとすっぱいが合わさったシロップ、銀次さんと妹紅さん

が食べたのはオレンジと見せかけた渋柿を濃縮したシロップ、フォックスとクッパにルカリオが食べたのはメロンと見せかけた青汁でした」

ルイージ&スネーク「（ご愁傷様）」

ネス「当たんなかったね」

リュカ「うん；」

サトシ「ほっ」

デオキシス「今回当たらなくて良かった」

ピカチュウ「ピカピカ」

ミュウツー「そうだな」

デントの説明にルイージとスネークは心の中で呟き、ネスとリュカ、サトシは安堵し、デオキシスの言った事にピカチュウとミュウツーは同意する。

デント「と言う訳でロシアンルーレットでした！」

ニャース「終わりなのニャ！」

葉月の凶悪兵器リスト　凶悪兵器番外編　サイドロシアンルーレットパート2

リュカ「と言う訳で葉月さんとのコラボリクエストでした；」

スネーク「大変だったな」

フォックス「まったくだ；」

クッパ「うむ；」

ネス「感想を待ってます♪」

何をやろうか？　ｂｙチルノ　パート２（前書き）

スネーク「黒一文字とのコラボ続きだ」

クッパ「幻想卿へ来たユエとクレスを空達が案内する事になったのだ」

ネス「まあ、もう１人追加だけど」

リュカ「だね」

何をやろうか？　ｂｙチルノ　パート２

クレス「それでどこから行くんだ？」

ＳＵリュウケンドー「そうだな…」

クレスに聞かれてＳＵリュウケンドーが言おうとした時…

シィ「私を忘れるなぁぁぁぁぁぁぁ！！！」

ソロ「うおっ！？」

どこからかにょん！と出たシィにソロは驚く。

レヴィ「何こいつ？」

クレス「知り合いだ」

シュテル「これまた、ハイテンションな人ですね」

レヴィの問いにクレスが答え、シュテルがそう言う。

シィ「と言う訳で私も行くから！」

ユエ「そうですね。人数が多ければ楽しいですし」

ＳＵリュウケンドー「んじゃあ行くか」

チルノ「お～」

と言う訳でクレス達を連れて最初に行ったのは…

クレス「人里か…」

SUリュウケンドー「ああ、良く色んな人が此処に来て買い物をするんだ」

目の前を見て言うクレスにSUリュウケンドーは言う。

シィ「にぎやかね」

ユエ「確かに…時折、上の人達のを見てますけど…」

シィの言った後にユエは上で弾幕勝負をしている文と白蓮、早苗を見て言う。

大妖精「皆さん、よくやってるのでちょっとした名物になってるんですよ;」

クレス「そうか…」

途中で合流した大妖精の言葉にクレスはそう言うと…

ナズーリン「やあ、何やら知らない人を連れてるな」

そこにナズーリンが走って来る。

ソロ「よお、ナズーリン、ちょっと知り合いの知り合いを案内している所だ」

ナズーリン「そうかい、じゃ私はこれで」

そう言うとそそくさとナズーリンは逃げる様に駆け出す。

ちょっとした後に…

藍「待てぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！！！橙の笑顔の為にも捕まれぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！！！」

手に縄を持った思いっきり顔を赤くした藍が通り過ぎる。

クレス&シィ「…誰？」

ソロ&SUリュウケンドー&ロード「親バカ」

呆然と聞くクレスとシィに3人はそう言う。

大妖精「名前は八雲　藍さんって言うんです；」

ユエ「これはこれは…此処は面白い人がいるんですね」

苦笑した大妖精の言った後にユエはそう言う。

その後、リュウケンドー達は人里を歩き、寺子屋に来る。

そこで子供達と慧音、妹紅、輝夜を前にちょっとした舞台にダイヤとパールが立っていた。

パール「幻想卿と言えば！」

ダイヤ「幻想卿と言えば～」

パール「此処の人の一部は『なんとか程度の能力』を持ってますね～」

ダイヤ「そうですね～」

パール「色々とありますよね～『空を飛ぶ程度の能力』『魔法を使う程度の能力』『千里先まで見通す程度の能力』『冷気を操る程度の能力』『闇を操る程度の能力』」

ダイヤ「『焼き芋を作る程度の能力』『オニギリを簡単に作る程度の能力』「食べ物関係でそう言う能力はないだろ！（パシッ！）」へぶっ！」

パール「気を取り直して…好きな能力ってありますか？僕的に『空気を読む程度の能力』ですね。色々と空気が読めて分かりますし～…あなたは？「そうですね～『時間を操る程度の能力』ですね～」その理由は？」

ダイヤ「食べ物を長期保存出来ますから～「やっぱ食べ物かい！（パシッ！）」へぶっ！」

パール&ダイヤ「どうも！ありがとうございました！」

笑う子供達にペコリと頭を下げるパールとダイヤにリュウケンドー達は拍手する。

リュウケンドー「今日も冴えてるじゃんか」

ダイヤ「や～見てたんだね～」

パール「そっちは？」

ソロ「マリオの知り合いの知り合い」

ユエ「それにしても…痛くありませんか？二回も頬を叩かれてますけど」

舞台を降りて来たダイヤとパールはクレス達を見て聞き、ソロが簡単に言い、ユエがそう聞く。

ダイヤ「痛いのは痛いけど慣れてますから～」

パール「これも1つの漫才ですし、それにツッコミはハートですから！」

苦笑して言うダイヤの後に左手を胸の前に出して言う。

クレス「それで、アンコール出してるぞ？」

シィ「行くの？」

パール「おっ、んじゃもう1回やるか！」

ダイヤ「また～？…オイラの方の痛みでの赤みはちゃんと消えるかな…」

後ろを指してアンコールを出してる子供達の事を言うクレスとシィ

にパールは笑って言い、ダイヤは頬を押さえながらそうぼやく。

その後、クレス達は漫才を見た後に別の場所へ向かうのであった。

何をやろうか？　ｂｙチルノ　パート２（後書き）

リュカ「と言うわけで２回目です！」

フォックス「次はどこに行くのやら」

クッパ「だな」

ネス「感想を待ってます♪」

また赤屍さん…ｏｒｚ　ｂｙ銀次（前書き）

スネーク「武田軍兵士　清坂　剣麻からのリクエストだ」

フォックス「銀次、苦手な人本人じゃないけど登場パート３」

クッパ「なのだ」

また赤屍さん…ｏｒｚ　ｂｙ銀次

タレ銀「何でこう赤屍さんが絡むのぉぉぉぉぉぉぉぉぉ！！！！」

アーカード「よしよし」

泣きながら叫ぶタレ銀にアーカードは頭を撫でて諌める。

流石に言い過ぎなければタレ銀も嫌がらないのでこう言う時にアーカードはタレ銀を撫でられるのだ。

ちなみに、前回のメンバーに今回はサトシ、明久、ムッツリーニ、カービィ、リンク、ロイ、カブトが加わっている。

ソニック「んで今回は？」

ソロ「クローン赤屍の後始末と迷い込んだジャック・ラカンって男の保護だとさ」

リュウケンドー「ああ…」

カブト「あいつか…」

ソニックの問いにソロは今回の依頼を話し、リュウケンドーとカブトは後半に出た名前に呟く。

サトシ「それにしても…どんだけいるんだ？」

ソロ「クローン赤屍の半分は赤屍本人が倒したそうだぞ」

明久「それでも変身しといた方が良いよね」

リンク「ですね」

そう言った後に銀次を除いてそれぞれ変身した後に目的の場所に向かう。

カブトＨＦ「倒したと言う割に多いな…」

目の前のクローン赤屍４５００人、田中さん１００体、ゲシュペンストＭｋ－？（人型サイズ）５０機、転生者４００人を見てカブトＨＦはそう呟く。

？？？「来たか…」

そんな所をその集団の後ろで敵大将である新魔　黄泉がリュウケンドー達を見ていた。

黄泉「さてと、まずは相手の戦力をっと……黄泉眼！！」

そう言うと同時にその目でリュウケンドー達を見て…

黄泉「（あれ…半端なくない；）」

その戦力の強さに汗が流れる。

転生者１「どっ、どうするんですか！？」

黄泉「行って来い！」

転生者２「そんな殺生な！黄泉さんも戦ってくださいよ！」

転生者３「立ってないで加わってくださいよ！！」

それに気づいた１人の転生者が怯えて聞き、黄泉の言葉に２人が叫ぶ。

黄泉「何とでも言いなさい！私の本気は頭脳によって発揮される！！」

転生者４「理不尽だ！」

黄泉「だまらっしゃい！それよりもさっさと行く！」

黄泉の言葉にまた転生者の１人が叫び、黄泉の指示に転生者達はやけくそと武器や能力を展開する。

アーカード「クローンは任せろ」

ブレイド（リンク）ＫＦ「それじゃあ俺たちは他の奴等だな」

ガタック（ロイ）ＨＦ「よっしゃあ！」

リュウジンオー「行くぞ」

怯えている銀次を見ているクローン赤屍集団を見て銃を構えるアーカードに他のメンバーは動き出す。

カブトＨＦ＆ガタックＨＦ「ハイパークロックアップ！」

ハイパーゼクター「ハイパークロック・アップ」

カリバー「クロックアップ！」

ネクサス「……加速」

先ず、高速移動が出来るカブトＨＦ、がタックＨＦが先に行き、その後にカリバー、ネクサスが続けて行き、田中さん、ゲシュペンストＭｋ－？、転生者の集団を吹き飛ばす。

リュウケンドー「おりゃあ！」

リュウケンオー「うりゃりゃりゃりゃ！」

リュウセイオー（サトシ）「食らえ！」

ネオス「せい！」

ゼロイド「デヤッ！！」

そこをすかさず他のメンバーが残った集団を倒して行く。

？？？「俺も混ぜろやぁぁぁぁ！」

その声と同時に褐色の大男が現れる。

ゼロイド「あんた、ジャック・ラカンか？」

ジャック「おう！何で俺の名前を知ってるんだ？」

？？？「あなたの保護をその人達に頼んだからですよ」

ゼロイドの問いに答えるラカンがそう聞くとどこからかアル「こほん」…クウネルが現れる。

クウネル「さて、戻る前に…」

ラカン「混ぜさせて貰うぜ」

リュウセイオー「はい！」

リュウケンオー「んじゃあ行こう！！」

ラカンとクウネルが加わり、今までいた集団はクローン赤屍も含めて殲滅された。

黄泉「うそ～～～ん！？もう全滅……あまり期待してなかったけど盾にもならなかったわね」

その様子に黄泉はそう言った後に来るメンバーを見る。

黄泉「しょうがない…最後の切り札！頼むよ！」

そう言うとリュウケンドー達の前の地面が開き、ベック・ザ・グレートＲＸ－３が現れる。

リュウケンドー「リュウケンオー！これで決めろ！」

それを見たリュウケンドーがアルティメットキーをリュウケンオー

に投げる。

リュウケンオー「ＯＫ！アルティメットキー！発動！」

ヒョウリュウケン「チェンジ！アルティメットリュウケンオー！」

アルティメットキーを受け取ったリュウケンオーはそう答えた後にアルティメットキーをヒョウリュウケンに差し込む。

リュウケンオー「究極武装！」

叫ぶとヒョウリュウケンから金色の龍が飛び出し、リュウケンオーのスーツが白銀に変わり、鎧が黄金に染まり、ヒョウリュウケンに現れたアルティメットドラゴンが分離してパーツとなり、装着される。

Ｕリュウケンオー「今こそ氷結の剣士は究極の力を纏わん！魔弾剣士アルティメットリュウケンオー！ライジン！！」

ラカン「おお！？なかなか凄いのじゃねえか！」

名乗り上げるＵリュウケンオーにラカンは興奮した顔で言うとベック・ザ・グレートＲＸ－３は拳を振り下ろす。

それを避けた後にラカンとＵリュウケンオーが飛び出す。

キングラウザー「スペード、１０、Ｊ、Ｑ、Ｋ、Ａ、ロイヤルストレートフラッシュ！」

ブレイドＫＦ「ウェェェェイ！！」

ネオス「行っけぇぇぇぇぇぇ！！」

銀次「どりゃあ！！」

アーカード「受け取れ」

援護する様にブレイドＫＦとネオスがそれぞれ、ロイヤルストレートフラッシュとマグネシウム光線でベック・ザ・グレートＲＸ－３の両腕を破壊し、銀次とアーカードが両足を破壊する。

Ｕリュウケンオー「ファイナルキー！発動！」

ヒョウリュウケン「ファイナルクラッシュ！」

ラカン「うおぉぉぉぉぉぉ！！」

Ｕリュウケンオーがファイナルキーを装填する事でヒョウリュウケン・アルティメットモードから５つのエネルギー剣がベック・ザ・グレートＲＸ－３に突き刺さる。

Ｕリュウケンオー「ヒョウリュウケン・アルティメットモード！究極奥義！！究極氷華？咲！！」

ラカン「ラカン！インパクト！！」

Ｕリュウケンドーの振り上げる斬撃とラカンの拳の一撃がベック・ザ・グレートＲＸ－３を貫き、爆発四散する。

黄泉「あわわわわわわわわわ…」

ゼロイド「これでお前だけだぜ」

震える黄泉にゼロイドがそう言い、他のメンバーが黄泉に構える。

黄泉「こうなったら最後の手段……ごめんなさーーーい！！もうしませーん！！！ｍ（＿＿）ｍ」

一同「はぁ！？」

それに構えた後に綺麗な土下座を披露する黄泉にメンバーはあっけに取られた瞬間…

黄泉「っと見せかけて、さいならーーーーー！！！」

リュウセイオー「あっ！？」

リュウジンオー「待て！」

駆け出す黄泉にリュウセイオーとリュウジンオーが黄泉の服を掴んだ時…

ネクサス↓ムッツリーニ「……！？（ブー）」

ネオス「ムッツリーニィィィィ！？」

ブレイドＫＦ「そう言えば…ムッツリーニ君、会話はともかく下着類の抗体なかったっけ…；」

掴まれた服を脱ぎ捨てて下着姿で逃げる黄泉にネクサスは変身を解

いて鼻血を噴出して倒れ、ネオスが慌てて介抱に入り、ブレイドＫＦはそう言う。

黄泉「アッハッハッハ！！私は逃げ足なら誰にも負けないのよーー！！」

カリバー「誰に言ってるんだい？」↑音速の針鼠

カブトＨＦ「逃がすと思うか？」↑ハイパークロックアップ使用

ガタックＨＦ「だな」↑カブトＨＦと同じ

笑って逃げたと思った黄泉だったが何時の間にかカリバー、カブトＨＦ、ガタックＨＦにより捕縛されていた。

それに黄泉は目をパチクリさせた後にアーカードがやって来て黄泉の顔を覗き込む。

アーカード「さて…歯をぶるぶる震わして鳴く準備はＯＫ？」

黄泉「ＮＯ！ＮＯ！Ｎｏｏｏｏｏｏｏｏｏ！！」

良い笑顔で吸血用の歯を見せて聞くアーカードに黄泉は泣きながらそう叫んだ後にメンバーは離れ…

みぎゃあぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！

１分後、黄泉の叫び声が響き渡ったのであった。

アーカード「あースッキリした♪」

艶々した顔で前よりスタイルが上がったアーカードの後ろでシクシクとメイド服を着て泣く黄泉がいた。

その口からは吸血鬼の証である牙が出ている。

カービィ「その子どうするの？」

アーカード「何、もったいないから私と銀次のメイドにな…」

タレ銀「だから結婚してましぇぇぇぇぇぇん！！」

黄泉を見て聞いたカービィに言ったアーカードの言葉にタレ銀は腕をぶんぶん振る。

アーカード「と言う訳でメイド！ビシビシ鍛えてやるから、覚悟するんだぞ」

黄泉「ふあ～い（Π－Π）」

アーカードの言葉に黄泉は泣きながら敬礼する。

クウネル「では、我々はこれで」

ラカン「あった時、バトルしようぜ！」

チルノ「おう！」

クウネルが一礼して、ラカンにチルノが答えた後に2人は元の世界に戻って行き、黄泉を引き連れてメンバーは帰ったのであった。

また赤屍さん…ｏｒｚ　ｂｙ銀次（後書き）

リュカ「と言う訳で武田軍兵士　清坂　剣麻さんからのリクエストでした」

ワリオ「あのメンバーから逃げられる訳ないだろ」

スネーク「だな、片や音速を行く奴で片や高速戦闘得意なライダーだしな…」

ネス「感想を待ってます♪」

スネーク「ユートピアとのコラボだ」

クッパ「前回のあらすじは！」

１つ！レリルの力の前に終は完敗する。

２つ！黒狼はアリメダルを取られる。

そして３つ！楓は目覚め、全員に謝る。

ネス「今回はさらに厄介な事に…」

リュカ「うん…」

ゴーカイグリーン「はっ！」

ゴーカイブルー「ふっ！」

楓が起きた後に一夏と終は訓練していた。

すると、突然ゴーカイブルーは手を止める。

ゴーカイグリーン「？どうした終？」

それに不思議がるゴーカイグリーンだがゴーカイブルー、終は最近、自分の弱さを感じていた。

偽神に対しては複数で挑んだからこそ行けたがグリードにはほとんど歯が立たず、マリオ達がいたから退けたのだ。

ゴーカイブルー「（俺は…まだまだだな）」

その頃、起きた楓には椛が離れなかった。

セシリア「べったりですわね」

鈴「ホントね」

シャル「僕達もしたいのにね」

ラウラ「まったくだ」

シルク「そうね」

それぞれイリア、フィン、フェアル、ルウラをあやしているセシリア達はそれを見ていて椛に変わって優を可愛がってるシルクも同意する。

ルイージ「何が目的なんだろうね兄さん？」

マリオ「そうだな…色々と気になるな…」

レリル達を思い浮かべて聞くルイージにマリオも腕を組んで言う。

アンク「！奴等だ！」

そんな時、アンクが感じ取った気配に叫ぶ。

レリル「ふう～ん、こんな所にいるんだ」

楓達のいる旅館の前で人間姿のレリルがワティルとアグムと共にいて、２人に行くよと言った後にグリード態になると…

ゴーカイグリーン＆ゴーカイブルー「はっ！」

そこにゴーカイグリーンとゴーカイブルーが３人に攻撃するがアグムがそれを防いだ後にレリルが手から火炎弾を放し、２人を攻撃する。

ゴーカイブルー「ぐわっ！」

ゴーカイグリーン「がっ！」

レリル「君達か、また邪魔するの？」

火炎弾を受けて転がる２人にレリルはそう言う。

ゴーカイグリーン「当たり前だろ！豪快チェンジ！」

モバイレーツＧ「デーカレンジャー！」

ゴーカイブルー「豪快チェンジ！」

モバイレーツＢ「メーガレンジャー！」

音声と共に一夏はデカレッド、終はメガレッドになる。

デカレッド「ハイブリッドマグナム！」

メガレッド「ドリルスナイパーカスタム！フルパワー！」

デカレッドはディーマグナム０１と０２を連結し、メガレッドはダブルトップを装着したドリルセイバーとメガスナイパーを合体させ、バトルライザーの０３モードを発動する。

レリル「ほう？」

デカレッド「マグナムエクスキュージョン！」

メガレッド「ハイパーメガニックバスター！」

Wレッドが放った必殺技は途中で1つとなるとレリル達に向かっていくが…

レリル「むん！」

両手を前に突き出し、Wレッドの放った必殺技を受け止め…

レリル「返すよ」

そう言うと一旦両腕を引いた後に突き出すと同時にWレッドに返される。

Wレッド「うわぁぁぁぁぁぁ！！」

それにより、2人は変身が解ける。

一夏「がっ、はっ！」

終「ぐっ！」

箒「一夏！」

楯無&簪「終！？」

楓「お2人共！？」

ボロボロになり、呻く2人に箒と楯無、簪が駆け寄り、楓も来るとレリルはニヤリと笑い…

レリル「飛びなよ」

その言葉と共にレリルが放ったエネルギー弾は６人の前に着弾すると同時に謎の穴が出現し…

一夏＆終「うわぁぁぁぁぁぁ！！」

箒「一夏！」

楯無＆簪「終！」

楓「きゃぁぁぁぁぁぁ！！」

楓ＬＯＶＥズ「楓（さん）！！？」

それに６人は吸い込まれてしまい、楓ＬＯＶＥズが駆けつける前に消えてしまう。

千冬「貴様！一夏達をどうした！！」

束「そうだそうだ！箒ちゃん達をどうした！」

レリル「異空間に飛ばしたのさ」

アンク「黒狼！銅のメダルと一緒に渡したあのコンボだ！」

黒狼「あっ、あれ！？わ、分かった！」

睨む千冬と腕をぶんぶんさせる束にレリルがそう言った後のアンクの指示に黒狼は戸惑った後にオーズドライバーを装着し、あの時アンクにアグムのメダルを渡された時に一緒に渡されたメダルを装填

する。

ワティル「それは！？」

レリル「やっぱり持ってたんだ」

黒狼「変身！！」

驚愕するワティルにレリルはそう言うと同時に黒狼はスキャンして叫ぶ。

オーズドライバーC「ホウオウ！ユニコーン！フェンリル！ホ・ウ・ニ！ホウニコ～ル！」

音楽と共に黒狼の姿は目の色が赤の『ホウオウヘッド』、肩にユニコーンの角を持つ『ユニコーンアーム』、チーターと似てるが足に爪を装着した『フェンリルレッグ』の金色の伝説系コンボ『仮面ライダーオーズ・ホウニコールコンボ』へ変身した。

オーズHCはフェンリルの部分を光らせた後にワティルに接近し、肩にあるユニコーンの角をガントレットにするとワティルを殴り飛ばし、その後にアグムにキックを炸裂させる。

レリル「はっ！」

オーズHC「ふっ！」

レリルのパンチをガントレットで受け止めるとオーズHCは炎を放ち、レリルは飛び退る。

ワティル「何時の間にレリルのメダルを…」

アンク「そいつが目覚める前に拝借させて貰った」

マリオ「あの時、オリジンのカードを借りたのはこの為か…」

胸を押さえるワティルにアンクはそう言い、マリオは思い出して呟く。

レリル「ふう～ん、まあ、減らしたし、じゃあね」

そう言うとレリル達は炎で姿をくらます。

オーズＨＣ「アンク…取ったよ」

アンク「良く取れたもんだな」

ワティルにパンチした右手を開いてアリメダルを見せるオーズＨＣにアンクは感嘆交じりの呆れで返す。

本音「だけど～飛ばされた皆はどこに行ったのかな…」

虚「ですね」

本音と虚が心配してる頃

幻想卿

レヴィ「暇暇暇！！チルノがいないから暇だぞ！」

シュテル「うるさいですよレヴィ」

ロード「じっと出来んのか」

足をジタバタさせるレヴィに本を読んでいたシュテルがそう言い、ロードが呆れた顔で言った後にせんべいを齧る。

霖之助「…キミ達、何度も言うが此処はお店だからね。集会所じゃないよ」

呆れた顔で霖之助は目の前にいる3人以外にいる美鈴やリグル、ミスティアに鈴仙を含めて言う。

すると…

美鈴「!?」

何かを感じ取った美鈴が立ち上がると同時に虚空から穴が現れ…

美鈴「おっと」

落ちて来た楓を受け止める。

楓「うっ、ううう…」

鈴仙「女の子!?」

霖之助「美鈴君、その子を中に!」

美鈴「はい！」

気絶している楓に鈴仙は驚いた後に霖之助がそう言い、美鈴は楓を言われた通りに店の中に運ぶ。

学園都市…

ハーツ「はっ！」

ディブレイカー「最後！」

ハーツとディブレイカーがアンヴァースを殲滅していた。

インデックス「やったねとうま！」

佐天「今日も絶好調だね」

そんな2人にインデックスや佐天が駆け寄る。

吹寄「しっかし、最近はアンヴァースの出現が多いな」

御坂「そうね…」

ディブレイカー「上条さんとしては大事は止めて欲しいもんですよ」

一緒にいた吹寄がそう言い、御坂も同意した後にディブレイカーが肩を竦めて言う。

すると…

ハーツ「うわっ！」

虚空から穴が出て、そこから出て来た終と簪に楯無がハーツの上に落ちる。

ディブレイカー「何だ！？」

佐天「2人共大丈夫！？」

ハーツ（ヴェン）「なんとか…」

ハーツ（ヴァニタス）「何なんだいきなり？」

吹寄「気絶してるな…」

御坂「しかも1人が怪我してる！」

インデックス「それじゃあ運ぼう！」

2人のライダーが変身を解いた後に気絶した3人を探偵事務所に運ぶ。

明久達の世界…

キュゥべえ「色々と暇だね」

杏子「そうだな…」

マミのマンションでぐぜ～としている女の子になってるキュゥべえの呟いた事にポッキーを銜えた杏子が同意する。

さやか「明久さん達、出かけてるのがね…」

マミ「どこに行ったのかしら？」

まどか「私達もどこか行く？」

ゆま＆キリカ「さんせ～」

織莉子「それじゃあどこに行く？」

さやかとマミが言った後のまどかの言葉にゆまとキリカが同意して織莉子が聞いた瞬間…

ほむら「！」

まどかの上に穴が現れたのに気づいたほむらが魔法少女になり、時間停止すると…

キリカ「ぶにゃあ！？」

織莉子「キリカ！？」

まどかの代わりにキリカを置いて落ちて来た一夏と箒のクッション変わりにする。

キリカ「何するの！？」

うがー！と一夏と箒を退かして吼えるキリカを無視してほむらはまどかを抱き締める。

織莉子「と言うかこの人達って…」

さやか「ＩＳ＜インフィニット・ストラトス＜の主人公にヒロインじゃん！？」

杏子「怪我してるな…ゆま！」

ゆま「分かった！」

一夏と箒を見て驚く織莉子とさやかの後に杏子に言われたゆまは一夏を治療する。

別々に飛ばされた楓達、はたして…

ＩＳ＆lt；インフィニット・ストラトス＆gt；黒き牙と永遠の月　飛ばされた先は

リュカ「と言う訳でユートピアさんとのコラボでした～」

クッパ「ちなみにさやかが一夏達の事を言ってるのはＩＳがあるからなのだ」

ネス「感想を待ってます♪」

逃走中のまた始まりだぜ！　ｂｙダブルゼータ（前書き）

スネーク「葉月と光を継ぐ者のリクエストだ！」

フォックス「と言う訳で逃走中だが…」

クッパ「掃き切れるのか作者？」

逃走中のまた始まりだぜ！　ｂｙダブルゼータ

ダブルゼータ「と言う訳で逃走中２回目の始まりだぜ！！」

ププビレッジにてマリオ、ルイージ、ピーチ、ヨッシー、リンク、ピカチュウ、カービィ、ルカリオ、スネーク、ソニック、銀時、神楽、新八、お妙、月詠、桂、土方、近藤、沖田、蛮、銀次、土度、卑弥呼、マクベス、十兵衛、花月にソロと光を継ぐ者さんのＩＳ光の英雄の主人公の光の総勢２８名を前にダブルゼータがそう言う。

銀時「またかよ！」

タレ銀「別世界の蛮ちゃ～ん」

蛮「おう、あの時以来だな」

光「こんにちわ」

ソロ「久しぶりだな」

叫んでる銀時を後ろでタレ銀が蛮の頭に乗り、ソロと光は色々と話していた。

マリオ「んで、聞きたいんだが…」

ダブルゼータと一緒にいるガルマドップにマリオは冥王、霊夢、魔理沙、妖夢、紫、文、ゆっくりまりさとれいむ、チルノ、妹紅、咲夜、ワルイージ、ディクシー、フェイト、スバル、橙、ナックルズ、ミュウツー、テイルズ、エミーが入った檻を見て聞く。

マリオ「何であいつ等が檻に？」

ガルマドップ「ああ、ハンターだから」

土方「待て待て！見つかったら即アウトな奴がいるぞ！飛ぶ奴もいるし！」

答えたガルマドップに土方が抗議する。

ダブルゼータ「大丈夫大丈夫！そこ等へんも飛ばない様にしたり、普通に自分の運動能力で行って貰うからさ～」

新八「それならまだ安心…かな？」

スネーク「安心にしとけ、不安になる」

手を縦に振ってそう言うダブルゼータの言葉に新八はそう言い、スネークが肩に手を置いて言う。

ガルマドップ「ちなみにルールは…」

・制限時間は前回と同じ３０分

・ハンターは初期は１０人だが１０分経つ事に５人ずつ増える。

・ミッションを受けるかは個人の自由

・１分間に８万円加担される

・ハンターから逃げ切れたら２４０万円、逆に掴まれば０円でリタイア

銀時「前より増えてるな」

蛮「面白くなって来たな！」

士度「ふん、とっとと捕まれ」

蛮「なんだと？」

士度「やるか？」

タレ銀「２人共喧嘩駄目！！」

十兵衛「…」

マクベス「（別世界の銀次…こちらより格段にあがっているな…）」

花月「（あの２人…大丈夫かな；）」

ピーチ「頑張るわ！」

月詠「（さて、逃れた時に何に使おうかのう…）」

ルールを聞いた後にそれぞれ思い思いに考える中…

冥王「楽しみなの～」

霊夢「（1人で4万、3人で12万！）」

魔理沙「（ゲットするぜ！）」

ワルイージ「（凄いオーラだな…）」

ゆっくりれいむ「頑張って行こう♪」

ゆっくりまりさ「おーだぜ♪」

フェイト「何か凄いのもいるね…」

スバル「そうですね…」

ハンター側もやる気満々であった。

ガルマドップ「次回で始まるから待っていてくれたまえ」

ダブルゼータ「さてさて、どうなるのやら…」

逃走中のまた始まりだぜ！　ｂｙダブルゼータ（後書き）

ワリオ「第２回目の逃走中の前置きだな」

ネス「誰が残るのやら～」

リュカ「だね」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　～銀女神鎮魂歌～　―　第別訓パート４７

スネーク「真王とのコラボだ」

フォックス「そしてエイリアン編ラストだな」

クッパ「なのだ」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　～銀女神鎮魂歌～　－　第別訓パート４７

前回、ルーズマーズと出会い、虫型エイリアンを倒した銀時達は今…

地球に来ていた。

あの後、ミッドチルダにエイリアンの基地がなかったので途方にくれていた時にメテンズギルドからの情報で地球のとある場所で隕石落下現場からエイリアンが出現していると言う事、奴等の本拠地はそこだと睨んだ銀時達は地球に向かい、隕石落下現場へ着いたのであった。

銀時「ここに奴らの本拠地が…」

なのは「急ごう！」

銀時が呟いた後のなのはの言葉に一同は中へ進入する。

隕石墜落現場・上層部（Ｍｅｔａｌ　Ｓｌｕｇ　６　ＯＳＴ：　Ｆｉｎａｌ　Ａｔｔａｃｋ　（Ｆｉｎａｌ　Ｍｉｓｓｉｏｎ））

入ると早速エリアンの集団が現れた。

ギルシア「どうやらビンゴだな」

リアス「そのようね」

アイエフ「それじゃあやるわよ！」

ギルシアとリアスが言った後にアイエフがエリアン1体を攻撃して倒し、リュウケンドー達も続く。

カリバー「たっ！」

リュウケンオー「どっこいしょ！」

ティアナ「食らいなさい！！」

途中で蟹型のメカ、ブレイザーや上に張り付いたゴボグチを倒して行く。

そして進んで行くと…

ガレーナ「ん？あれは…」

レオン「銀次だな」

ユウカ「何してるのかしら？」

ケースの前で四苦八苦している銀次がいた。

リュウケンオー「お～い銀次～」

銀次「あっ、皆、丁度良かった」

ベール「丁度良かった？」

ネプテューヌ「と言うか中にいるの…」

リュウケンオーに呼ばれ、銀次は気づいてそう言う。

マーズピープル「ピィ！ピピピピ！（「ここから出して」と言っている）」

ネプギア「何かへんなケースに捕まっています！」

ルーズマーズ「ドウホウヨ！イキテイタカ！」

銀次「うん、助けようとさっきから試してたんだけど…」

リュウケンドー「んじゃあ俺の出番だな」

ルーズマーズが近寄り、銀次が困った顔をするとリュウケンドーはキーブレードでケースを叩く。

するとケースが開き、マーズピープルは嬉しそうに出て来る。

ヴィータ「すげぇな…」

銀次「他にもいるんだ」

リュウケンドー「よし！任せろ！」

その後、他にも捕まっていたマーズピープルを助けて次へ行く。

隕石墜落現場・中層部（Ｍｅｔａｌ　Ｓｌｕｇ　６　ＯＳＴ：　Ｆｉｎａｌ　Ａｔｔａｃｋ　（Ｆｉｎａｌ　Ｍｉｓｓｉｏｎ））

着いた後に紫のエリアン、エリアンエリートやゴボグチに似た赤い

エイリアン、プレッシャーを倒して行く。

神楽「またアルか」

コヨリ「しつこいな」

桂「ココはさっさと倒す！」

また現れたエリアンに神楽とコヨリは呆れ、桂がそう言って3体を倒すと…

それぞれ3体のエリアンの口から6匹の虫、ボンワームが出て来る。

カイム「何だ？」

ルシアス「こう言うのは倒すに限るわ！」

ルーシア「ですね！」

出て来たボンワームにカイムが呟いた後にルシアスとルーシアがそう言って近寄った時…

ボカーーン！！

辰馬「そういや、そいつに似た近づくと爆発するエイリアンを見たから近寄らん方が言いじゃき」

ルシアス&ルーシア「早く言え」

ポンと手を叩く辰馬に黒こげになったルシアスとルーシアがそう言

う。

デカゴボグチ「……」

なのは「コイツ全然攻撃が効いてない！」

ラム「いやいや、こう言う敵に限って目が弱点だったりするよ！」

ロム「王道…」

カリバー「任せろ！ファイヤーレオン！！」

そんな中、ゴボグチより大きいデカゴボグチになのはは攻撃したが倒れず、ラムがそう言って、ロムが呟いた後にカリバーがデルフから炎の獅子がデカゴボグチの目に当たると飲み込む。

そして、この層部にいたマーズピープルも救出した。

隕石墜落現場・下層部（Ｍｅｔａｌ　Ｓｌｕｇ　６　ＯＳＴ：　Ｆｉｎａｌ　Ａｔｔａｃｋ　（Ｆｉｎａｌ　Ｍｉｓｓｉｏｎ））

エイリアン達を一掃し、ほとんど奥へ進むとプリダーの塊があった。

近藤「おお！あれが敵のボスか！？」

ビビ「そうなんじゃない？」

その中で飛び出た三つ目と緑の体が特徴のプリダー、プリガンターを見て近藤が叫び、ビビが言った後、銀次が周りを見る。

銀時「どうした？」

銀次「いや、アーカードさんが来ている筈なんだけど…」

ゼロイド「あれか？」

そう言ってゼロイドが指した方向を見るとアーカードが中から現れた。

しかし様子がおかしかった。

洗脳プレイヤー（Ｍｅｔａｌ　Ｓｌｕｇ　６　ＯＳＴ：　Ｕｎａｖｏｉｄａｂｌｅ　Ｄｕｅｌ　（Ｂｏｓｓ　Ｔｈｅｍｅ　Ｃ））

洗脳アーカード「イマスグミナゴロシニシテヤルヨ！」

ネプギア「アーカードさん！」

銀時「チ、やるしかネぇな」

そう言うアーカードにネプギアは驚き、銀時が言った瞬間…

ゼロイド「目ぇ覚ませ」

バチンとゼロイドがアーカードの頭をはたいた。

アーカード「ぬぅ…痛いのだが」

新八「あんれぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！！！？思いっきりラスボスの風格出してたよね！？」

山崎「はたいて洗脳を解いたぁぁぁぁぁぁぁぁぁ!?」

ビビ「いやいやいやいやいやいや!?そんなのあり!?思いっきり倒さなきゃあ解けない感じだったんだけど!?」

涙目のアーカードに新八、山崎、ビビが叫んでツッコミを入れる。

ゼロイド「知らないのか?聞いた話によるとディケイド系ライダーはこれでしか倒せないとか解けないを破壊出来るんだよ」

セレス「マジ?」

アンバリー「いや~常識を疑うよね~」

ゼロイドの言葉にアンバリーがそう言った後にうろたえてるプリガンダーにゼロイドはカードを取り出す。

ゼロイド「と言う訳で決めさせて貰うぜ!変身!」

ゼロイドライバー「カメンライド!タロウ!」

音声の後にゼロイドは青い球体に包まれた後に少しして青い球体は弾け飛び、中からウルトラマンタロウがウルトラ超闘士劇伝の闘士タロウの新装鉄鋼を纏い、Wのマフラーを首に巻き、クウガのマイティアンクレットを両足に装着した『仮面ライダーゼロイド・タロウ』へ変身した。

Zタロウ「んでもってもう1つ!」

ゼロイドライバー「フォームライド！タロウ・スーパー！」

音声と共にＺタロウにエネルギーの稲妻が迸ると共にウルトラホーンが巨大化して黄金に輝く『仮面ライダーゼロイド・タロウ・スーパーフォーム』にフォームチェンジした。

ＺタロウＳＦ「宇宙の果てまで飛んでけ！！」

叫んだ後にストリウム光線を放つ前の動作をし…

ＺタロウＳＦ「ストリウム！超・光・波ぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！」

本来のタロウのストリウム光線を越える光線がプリガンターを包み込むと共に周りを貫き、そのまま宇宙まで届き…プリガンターを消滅させた。

リュウケンドー達を除いた一同「（@口@；）」

フランとお空以上の威力にリュウケンドー達を除いたメンバーは一部が口をあんぐりとさせて唖然とする。

ＺタロウＳＦ「……あんまり地下で撃たない方が良いな…」

ゴゴゴゴゴゴと周りが揺れてる様子にＺタロウＳＦは撃った体勢のまま呟いた。

銀時「おいいいいいいいいいい！！！？」

スバル「銀さん！早く脱出しよう！」

エリザベス『そうしましょそうしましょ！！』

メア「だね！」

リル「ぼぶっ！」

銀時が叫んだ後のスバルの言葉に全員が急いで入り口まで走る。

なんとか全員が脱出した後に入り口は崩れ落ちた

土方「はあはあ…たくっ！使う技考えろよな！」

ゼロイド「すまん；」

全員が地面に座り込んだり、肩を上下させてる中、土方の言葉にゼロイドは謝る。

沖田「まったくですぜ。どうせなら土方さんだけを埋める程度の技を出して欲しいもんですぜ」

土方「お前が埋まれ＃」

ガレーナ「まあ、これで安心だな」

レシア「確かに」

ルーズマーズ「カンシャスル。オカゲノコッタドウホウモタスカッタ」

ファルコン・ハート「そりゃあ良かったな」

アンバリー「一件落着だね。それじゃあじゃあねチルノちゃん♪」

チルノ「お～何時でもあたいは受けて立つ！」

それぞれが言った後にアンバリーはそう言って去って行き、その背中にチルノはそう言う。

その後、ウルトラマンゼロによりルーズマーズ達は火星に帰ったのであった。

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　～銀女神鎮魂歌～　―　第別訓パート４７

リュカ「と言う訳で真王さんとのコラボでした！」

クッパ「思いっきりご都合主義な展開があったのだ；」

スネーク「破壊したな思いっきり；」

鳴滝「おのれディケイド！！」

士「俺は関係ねえよ！！」

ネス「感想を待ってます♪」

ダンボール少年セイタ　別話3　ネスとソロのセイタ女性克服特訓（前書き）

スネーク「龍の骨とのコラボだ」

ルイージ「大変だよねセイタ君；」

フォックス「この先な；」

ダンボール少年セイタ　別話3　ネスとソロのセイタ女性克服特訓

セイタ「はぁ…」

縁側でセイタはため息を付いていた。

最近、色々とあったが今、彼が悩んでいるのは叔母の言った事である。

セイタ「（このままだと結婚出来ないって言われてもな…）」

女性を見て気絶するのを克服しようとするが中々進まないのでどうしようかと思った時…

ソロ「よう！」

ネス「遊びに来たよ～」

セイタ「ソロさん、ネスさん」

そこにネスとソロが来て、セイタは2人を見た後にため息を付く。

ソロ「おいおい、どうした？ため息を付いて？」

セイタ「いえ…実は前、修行を付けてくれる前に言った事で…」

ネス「ああ、女性と目が合うと気絶するって話だね」

ソロの問いにセイタはそう言い、ネスが思い出して言う。

ソロ「良し！それだったら俺達が女性苦手克服を手伝うぜ！…と言いたいが…俺自身、直す方法を知らないんだよな…」

パンと手を叩き合わせて鳴らして力強く言うソロだが腕を組んでそう言う。

ネス「やっぱり此処は手始めに女性と目を合わせても気絶しない様にするだね」

セイタ「やっぱりそうだよね…」

ネスの言葉にセイタは頷く。

ノブナガ「それで…何でワシ等を？」

謁見の間で集まったノブナガがソロにそう言い、ミツヒデとヒデヨシもセイタを見ている。

ソロ「そりゃあセイタの女性苦手克服の最初は女性の目を見ても気絶しない様にだ…」

ネス「と言う訳でノブナガさん達にはセイタさんが気絶しない様に女性の目を見ても気絶しない手伝いをして欲しいんですよ」

ソロとネスが訳を説明し、セイタは顔を赤くする。

ミツヒデ「そうは言うが…今、必要なのか？」

ソロ「この先、色んな人と会うからには初対面でいきなり気絶され

たら相手は気持ちが不愉快になるだろ？」

ヒデヨシ「確かに…」

ネス「それに戦いで気絶したら格好の餌食でしょ」

ノブナガ「ふむ…一理あるな…良いじゃろ」

ミツヒデの疑問にソロがそう言い、ヒデヨシは頷き、続けて言ったネスの言葉にノブナガは顎に手を当ててそう言い、セイタに近寄り、セイタの顔を掴んで目を合わせる。

それにセイタは顔が赤く、心臓の脈打ちが早くなり、気絶した。

ミツヒデ「気絶したな…」

ソロ「やれやれ…変身」

ゼロイドライバー「カメンライド！ゼロイド！」

それを見たミツヒデがポツリと呟き、ソロはかぶりを振った後にゼロイドに変身し…

ゼロイド「さらに変身」

ゼロイドライバー「カメンライド！ウルトラマン！」

音声と共にZウルトラマンになる。

ノブナガ「ほう…姿を変えるとはな…」

Zウルトラマン「ウルトラ水流（弱）」

興味深げに呟いたノブナガを尻目にZウルトラマンはセイタの顔に弱めに水をかける。

セイタ「つめたっ！？」

Zウルトラマン「どんどんやるぞ！」

がばっ！と起きるセイタにZウルトラマンはそう言う。

その後、ノブナガやミツヒデにヒデヨシと目を合わせた行く内に数分は大丈夫だが、それ以上は気絶しちゃうのであった。

その夜…

セイタ「（なんとかすぐに気絶しなくなったけど…それでもまだまだだよな…）」

そう考えた後にセイタは眠りに入った。

セイタが深く寝た後に…

ネス「寝たね」

ソロ「だな」

そこにネスとソロが入って来ると…

ネス「女性は大丈夫だぞ。見ても気絶しないし普通に話し掛けられるぞ」

ソロ「目を見ても気絶しないし、普通に戦えるぞ」

セイタ「う～んう～ん」

耳元で言い聞かせる様に2人はセイタに言う。

2人がやってるのは睡眠学習で寝ている間にセイタの女性苦手を抑える様にしているのだ。

後日、2人が起きてる間の訓練と寝ている間の睡眠学習を何回もやったおかげでセイタはノブナガ達と目を合わせても気絶はしなくなったのであった。

ダンボール少年セイタ　別話3　ネスとソロのセイタ女性克服特訓（後書き）

リュカ「と言う訳で龍の骨さんとのコラボでした；」

ルイージ「まさかの睡眠学習；」

スネーク「確かにそれならな；」

クッパ「…大丈夫なのだろうか？」

ワリオ「感想を待ってるぜ」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　～銀女神鎮魂歌～　－　第別訓アナザーパート

スネーク「今回は真王と言うより邪王からの依頼だ」

クッパ「ハートレス討伐なのだ！」

ネス「それでね…」

マリオ「俺出ない」

マッハ・ザ・ハード「なあ？疲れないか？」

サタン・ザ・ハードと挟んで飛んでいるグミシップを操縦している空にマッハ・ザ・ハードはそう聞く。

空「グミシップのエネルギーは笑顔だからな～」

ソロ「まあ、俺達は自分の好きなのを見てるからな」

チルノ「だね」

操縦しながら顔をひくひくさせて空はそう言い、漫画を読んでるソロとチルノがそう言う。

ちなみに彼等は此処（にじファン）では出れないメンバーの代わりである。

サタン・ザ・ハード「色々と大変だね…っとどうやら来たらしいよ」

空にそう言った後にサタン・ザ・ハードは下のハイウェイを見て言う。

すると、キライダーが現れ、プラズマ弾をグミシップとサタン・ザ・ハード達に向けて放つ。

２人と空はそれを避ける。

マッハ・ザ・ハード「んじゃあやるか！！」

サタン・ザ・ハード「ええ！」

空「良し！！」

3人はそう言った後にマッハ・ザ・ハードは銃を構え、サタン・ザ・ハードは杖から魔力弾を放ち、グミシップはショットを放ってキライダーを攻撃する。

キライダーの集団を倒した後、鳥のように見えるノーバディ機、ミサリアが現れて羽から弾幕が発射される。

空「うおっ！」

ソロ「とととと…」

チルノ「きゃ～♪」

空は避けては行くが弾幕は追尾性能があるのか追いかけてくる。

サタン・ザ・ハード「大丈夫？」

当たらない様にかわすグミシップを追いかける弾幕をサタン・ザ・ハードが撃ち落して聞く、

空「サンキュー！」

ソロ「マッハ・ザ・ハードは…」

お礼を言う空の隣でソロが周りを見ると…

マッハ・ザ・ハード「遅い遅い！！」

弾幕より速く行くマッハ・ザ・ハードの姿があり、ミサリアに近づくとすれ違い様に銃で攻撃し、さらにマッハ・ザ・ハードを追っていた自分の弾幕に当たり、落ちた。

ソロ「凄いぜマッハ・ザ・ハード！」

マッハ・ザ・ハード「軽い軽い♪」

ソロの言葉にマッハ・ザ・ハードはそう返すとタイマーのようなノーバディ機、ドンロックの集団が現れる。

サタン・ザ・ハード「さっさと倒すよ」

空「分かった」

マッハ・ザ・ハード「あいよ！」

それを見た瞬間に言ったサタン・ザ・ハードに空とマッハ・ザ・ハードが答えた後にドンロックの集団を倒して行く。

空「ふう…それで…目的のハートレスは…」

ソロ「！空！後ろだ！」

周りを見る空にソロがレーダーを見て叫ぶ。

すると2人の女神とグミシップの後ろに巨大な2つの車輪がくっつ

いてスバイクのついた巨大ハートレス、ジャッジ・ザ・ローダーが現れる。

チルノ「デカイね」

すると、ジャッジ・ザ・ローダーはスピードを上げて2人とグミシップを潰そうと迫る。

マッハ・ザ・ハード「悪いけど、そう簡単に潰されないよ」

そう言うとマッハ・ザ・ハードはジャッジ・ザ・ローダーの車輪の横にある目を打ち抜く。

その瞬間、ジャッジ・ザ・ローダーは後退する。

ソロ「どうやらあの車輪の横にある目が弱点らしいな」

空「んじゃあ攻撃開始!!」

サタン・ザ・ハード「ええ!」

それを見たソロがそう言い、空とサタン・ザ・ハードがそう言うと同時に連続攻撃をする。

それにジャッジ・ザ・ローダーは迫ろうとするが後退をさせられまくれ…

ドカーーーン!!

最後には爆発した。

空「よっしゃあ！」

サタン・ザ・ハード「お疲れ様」

ソロ「これで終わりか？」

声を上げる空にサタン・ザ・ハードはそう言い、ソロがそう聞く。

マッハ・ザ・ハード「ああ、また何かあった時頼むぞ」

チルノ「任せとけ！」

マッハ・ザ・ハードの言葉にチルノはそう言う。

リュカ「と言う訳で邪王さんの依頼でした～」

スネーク「しかし、真王の所の女神は色々と凄いよな」

フォックス「色々といるよな」

クッパ「うむ」

ネス「感想を待ってます♪」

良かった！今回は赤屍さんじゃない！　ｂｙ銀次（前書き）

スネーク「武田軍兵士　清坂　剣麻からのリクエストだ」

ルイージ「今回は…」

フォックス「色んな意味で濃い人達だな…」

良かった！今回は赤屍さんじゃない！　ｂｙ銀次

黄泉「…あの…」

ソロ「何だ？」

歩いて行く中、冷や汗掻いてる黄泉が話し掛け、何かを見ていたソロが聞く。

黄泉「何で私は此処に？」

アーカード「何言ってるんだ？私のメイドだからに決まってるだろ？」

何聞いてるのと呆れた顔でアーカードが言う。

黄泉「アンバリーさんに助けられたのになぜ？」

（詳しくは真王さんの感想を見てください）

アーカード「ああ、私がメイドにした奴は何時でも呼び出せるのだよ。ちなみに転生者関連のでの妨害は出来んぞ」

その言葉に黄泉は崩れ落ちる。

アーカード「それにしても…勘違いしてるぞお前…私はな、気に入った奴は調教ではなく鍛えるだぞ」

黄泉「…ホントですか？」

アーカード「疑い深い奴だな…」

訝しげな目で見る黄泉にアーカードは呆れる。

ちなみに今回は前回出たメンバーでロイとリンク、カブトがいない。

リュウケンドー「それで今回の依頼は?」

ソロ「依頼人は白浜兼一、風林寺美羽の2人で、梁山泊ってメンバーの回収だってよ」

サトシ「へえ~どう言う人達なんだろうな?」

明久「サトシ、前々」

リュウケンドーの問いにソロは写真を2枚に紙を取り出して見て言い、複数の写真を出すソロを見てサトシが聞くと明久がそう言う。

それにサトシは前を見ると…

アパチャイ「やあアパチャイだよ!」

サトシ「うわっ!?」

ソロ「こいつが梁山泊の1人、アパチャイ・ホパチャイだ」

目の前に何時の間にかいたアパチャイにサトシは驚き、ソロがそう言う。

アパチャイ「いや～君たち面白いよ～」

リュウケンドー「あんたもな♪」

カービィ「さっきの凄かったね～」

サトシ「気づきませんでしたよ」

チルノ「どうやるの！」

黄泉「……良く仲良くなれますね…」

仲良く話し合うメンバーに黄泉は呆れる。

ソロ「近くにいるな…」

にとりから貰った依頼人の探し人を探すレーダーを見てソロはそう言った後…

ソロ「此処に1人いるな」

黄泉「何でパチンコ屋！？」

明久「ギャンブルが好きだからじゃないかな？」

パチンコ屋の前に立って言うソロに黄泉はツッコミを入れた後に銀次が代表で中に入り…

逆鬼「よう」

銀次と共に来た逆鬼がアパチャイにそう言う。

アーカード「これで後４人だな」

ムッツリーニ「……それなら１人捕まえた」

剣星「ねえ、君、おいちゃんの縄を解いてくれないかね？」

アーカードが呟いた後にムッツリーニが厳重に縄で縛った剣星を引きずって来る。

逆鬼「…予想は出来るが一応聞こう…何した？」

ムッツリーニ「……カメラ片手に凄いスピードで女性を撮りまくっていた。カメラは破壊しておいた」

剣星「あれ高いんだけどね」

それに逆鬼の問いにムッツリーニはそう言い、剣星はそうぼやく。

それに黄泉はすすすっと離れるとアーカードに呼ばれる。

黄泉「何ですか？」

アーカード「護身用にこれを渡して置くぞ」

黄泉にそう言って銃を渡す。

アーカード「中にスタンガンと同じ相手を気絶させる程度の電力が入った銃だ…ちなみに充電式だ」

黄泉「あっ、どうも…」

女性「きゃあぁぁぁぁぁぁぁぁ！！」

お礼を言った瞬間に女性の叫び声が聞こえ、メンバーは走る。

剣星「ちょっ！引きずらないで欲しいね！！」

そんな言葉を気にせずにメンバーは行くと…

ムッツリーニ「（ぶばっ！！）」

明久「ムッツリーニィィィィィィィ！！！！」

黄泉「飛んだぁぁぁぁぁぁぁぁ！！」

しぐれ「？」

目の前に1万人の女性転生者の武器と服を細切れにした直後のしぐれに相棒の闘忠丸がいて、大量の下着姿の女性転生者にムッツリーニは吹き飛ぶ。

ムッツリーニ「……服は…ちゃん…と…着てろ…（がくっ）」

明久「しっかりするんだムッツリーニ！ムッツリーニィィィィィィィ！！！」

黄泉「輸血するから退いて！！」

しぐれ「どう言う事？」

闘忠丸「？」

逆鬼「まあ、気にするな」

ソロ「あいつ、こう言うのに慣れてないんだよ」

途切れ途切れに言った後にムッツリーニは気絶し、明久が揺すった後に黄泉が輸血作業に入り、首を傾げるしぐれに逆鬼とソロはそう言う。

その後、その場にいた転生者を輪廻を送り、なんとかムッツリーニが復活した後に移動を開始し…

秋雨「迎えが来たか」

見事な芸術作品を幾つも造っている所の秋雨を発見した。

リュウケンドー&ソロ「すっげえ！！」

チルノ「凄い凄い！！」

ムッツリーニ「……見事」

サトシ「うわぁ…」

それにメンバーは感嘆の声をあげる。

アーカード「見事な芸術だな」

黄泉「ってか、良く作れたね；」

その後、最後の1人を探して歩いていると…

ソロ「おいおい」

カービィ「うわぁ…」

目の前の転生者約１００００００人と女性転生者１００００００人、空手ロボ３０００体がいた。

逆鬼「どうやら、戦いの様だな」

剣星「だな」

アパチャイ「頑張るよ！」

それに逆鬼と剣星、アパチャイは構え、しぐれや秋雨も構え、リュウケンドー達も戦闘になろうと思った時、銀色のオーロラ発生し、中から現れたのは…2人の男であった。

信玄「儂が甲斐の虎じゃあああああああああッッ！！！！」

江田島「わしが男塾塾長江田島　平八であーーーーーる！！！！！」

隼人「そしてわしは風林寺　隼人であーーーーる！！」

黄泉＆銀次＆明久「何普通に混ざってるの！！」

オーロラから出て来た信玄と江田島に混ざって言う隼人に黄泉と銀次、明久がツッコミを入れた後に3人は転生者約１０００００人に向かって行き、己の技で早々と全滅させた。

ゼロイド「すっごいな…」

リュウケンドー「ああ…」

ネオス「絶対に先生と張り合えそうだな…」

剣星「んじゃあ次はおいちゃんの技を見せてあげるね」

それにゼロイドとリュウケンドー、ネオスが感嘆の声をあげた後に剣星がそう言うと女性転生者に駆け出し…

剣星「はっ！」

相手の衣服を利用して拘束する技、馬家縛札衣で全ての女性転生者を拘束した。

リュウケンドー「服で相手の動きを止めた！」

ネクサス「……恐るべし…」

逆鬼「次は俺だ！」

それにリュウケンドーは驚き、ネクサスはなるべく拘束された女性転生者を見ない様にしてそう言うと逆鬼が飛び出し…

逆鬼「おりゃあ！！」

空手ロボに向けて突きを放すと空手ロボは1ミリも動かず、後方へ衝撃が行き、半分を破壊する。

リュウセイオー「すげぇ！」

セイリュウケン「なんて突きだ！攻撃した相手を動かさずに後方に衝撃を飛ばすとは！」

それにリュウセイオーは驚き、セイリュウケンが言った後に増援と思われる転生者３００００人、アルトもどき１０機、ヴァイスもどき１０機、量産型ヒュッケバイン５０機、殺人ロボット１０００機、雇われたと思われる傭兵５０００人が来る。

黄泉「うわぁ…」

アーカード「やれやれ、今回は多いな」

それに黄泉は引き、アーカードが呆れると…

アパチャイ「此処はアパチャイに任せるよ！」

秋雨「ならば傭兵は私が」

アパチャイと秋雨がそう言って飛び出し、アパチャイは殺人ロボットに秋雨は傭兵へ向かって行く。

アパチャイ「行くよ！チャイキックよ！！」

そう言うと同時にアパチャイは殺人ロボット１０００体を空高く…

というより見えなくなるまで蹴り飛ばす。

秋雨「悶虐陣破壊地獄」

一方の秋雨は傭兵に投げ、当て身、間接技の三つを同時にしかける技でほとんどの傭兵達をダウンさせていた。

チルノ「大丈夫なの？」

秋雨「死ぬ事はない」

黄泉「（これ、死んだ方がマシだって思えるよ）」

ネオス「（あっ、僕も思いました）」

ピクピクしている技をかけられた傭兵達を見て聞くチルノに秋雨はそう言い、黄泉は冷や汗を流し、ネオスが同意する。

リュウケンドー「すっげぇ技だな！ゼロイド！チルノ！俺達は合体技をやるぞ！」

ゼロイド「合体技ってあれか！」

チルノ「もしかしてトリニティ？よっしゃあ！ブレイク！！」

数々の技に即発されたリュウケンドーの言葉にゼロイドが言った後のチルノがそう言うとバスタードチルノソードを分離させた後にリュウケンドーとゼロイドがチョコエッジとウエハースブレイドをそれぞれ握るとそれでアルトもどき１０機、ヴァイスもどき１０機、量産型ヒュッケバイン５０機、転生者１５０００人を攻撃し、チル

ノもスイカソードと当たり剣で切り裂いた後にバスタードチルノソードに戻してヒョウリュウケンを構え、リュウケンドーもツインエッジゲキリュウケンとキーブレードを構え、ゼロイドがライドブッカーソードモードを上に振り上げる。

リュウケンドー「トリニティリミット！」

ゼロイド「超？龍神光覇斬！！」

チルノ「大当たり！！」

振り下ろすと共に機械は破壊し、転生者半分は倒れる。

カリバー「俺達も音速で行こうぜ！！」

ネクサスＪＦ「……了承」

リュウジンオー「良いだろう」

そこを残った奴等をカリバー、ネクサスＪＦ、リュウジンオーが高速で動き、宙へ浮かばせた後に３人は必殺技の構えに入る。

リュウジンオー「三位一体」

ネクサス「光波」

カリバー「斬！！」

乱舞とコアインパルス、エクスカリバー（斬撃バージョン）が同時に放ち、残っていた者達は落ちた。

ちなみに残った傭兵はは闘忠丸にリュウセイオー、銀次にアーカード、黄泉が倒した。

その後、メンバーは話した後…

隼人「かぁあああああああつっっ！！！！！」

信玄「はぁあああああああああっっ！！！！！！」

江田島「わしが男塾塾長江田島平八であるーーーーーッッ！！！！！」

長老とお館様と塾長の叫びにより銀色のオーロラが発生し、それを潜って梁山泊の一同や信玄に江田島は帰って行った。

アーカード「黄泉」

黄泉「はい！」

こそこそ行こうとする黄泉にアーカードは呼びかけ、本人はビクッと震えた後…

アーカード「鍛えるからには責任を持って鍛える。だから、お前はしっかりあっちでも頑張るんだぞ」

黄泉「あっ、はい」

アーカードの言葉に黄泉はそう答えた後にアンバリーの元へ帰るのであった。

良かった！今回は赤屍さんじゃない！　ｂｙ銀次（後書き）

リュカ「と言う訳で武田軍兵士　清坂　剣麻さんからのリクエストでした！」

スネーク「作者は史上最強の弟子ケンイチを読んでないから大変だったな；」

クッパ「うむ；」

ネス「感想を待ってます♪」

IS<インフィニット・ストラトス>黒き牙と永遠の月　それぞれ

スネーク「ユートピアとのコラボだ」

フォックス「ちなみに今回のでネオス&ネクサスのネタバレあり」

ネス「だよね～」

一夏「うっ…」

呻いた後に一夏は目を開ける。

そして驚いてガバッと上半身を起こす。

一夏「おい！箒起きろ！！」

隣に箒も寝かされていたので一夏は箒の肩を掴んで揺する。

箒「ん…一夏…此処は？」

一夏「わかんねえ…あいつに飛ばされたと思ったら…どこなんだ？」

起きた箒の問いに一夏はそう言い、首を傾げた時…

まどか「あっ、起きたんですね」

そこにまどか達が来る。

一方の終はこちらは体中に包帯を巻かれてハーツのケアルで回復していた。

楯無「つまり、私達はそこのハーツの上に落ちて…」

簪「それで此処に運び、終の手当てをしたと…」

上条「そうそう」

御坂「それにしても…その怪我は一体どうしたの？」

楯無と簪が自分達の運ばれた状況を聞いて、上条が頷いた後に御坂が聞く。

それに終は手を握り締め、歯を食いしばる。

ヴァニタスはその様子を見て察する。

そして幻想卿の楓はと言うと…

美鈴「元気ないですね」

鈴仙「ホントですね」

目が覚めて、事情を話した後に楓は暗い表情をしながら外に出て空を見ていた。

そんな楓を美鈴や鈴仙達は心配する。

楓「（私のせいだ…私が…）」

霖之助「音梨　楓君だっけ…」

内心自分を責める楓に霖之助が話し掛ける。

霖之助「大体の事情は聞いたが…君が悪い訳じゃないんだ…そう自分を責め過ぎない方が良い」

楓「ですけど…」

ナズーリン「まあ、店主の言う通りだね。あんまり責め過ぎると人生に良い事が起きないぞ」

ぽんと楓の肩を叩いてそう諭す霖之助に楓は顔を伏せると成り行きを見ていたナズーリンがそう言う。

美鈴「あなたは利用されただけですよ！そう自分が悪い様に考えるのは体に悪いですよ」

鈴仙「そうね。あなたは色々と気を使い過ぎて倒れちゃいそうなタイプだし」

リグル「しばらく此処で休んで癒しなよ」

ミスティア「そうそう、あっ、どうせなら八目鰻食べる？」

楓「美鈴さん、鈴仙さん、リグルちゃん、ミスティアちゃん…」

励ます美鈴、鈴仙、リグル、ミスティアに楓は顔をあげ…リグルはダバーと涙を流す。

楓「！どっ、どどどうしたんですか！？」

リグル「久しぶりに…久しぶりに大ちゃん以外にちゃん付けされた…」

ミスティア「永琳さんに大人の体に成長されたしね～」

（ミスティアの言葉で詳しく知りたい人は別サイトに投稿している大乱闘スマッシュハーツブラザーズにある東方魔弾戦記の日常5を見てください）

慌てる楓に歓喜に震えてるリグルの隣でミスティアが苦笑して言う。

戻って一夏達の所で…

一夏「そんな事が…」

箒「明久達はそんな事をやり遂げたのか…」

一夏と箒は状況を聞いた後に自分達がいる世界とまどか達の話を聞いて唖然としていた。

キュゥべえ「!?これって!」

まどか「キュゥべえどうしたの？」

そんな時、何かを感じ取り、驚いた様子のキュゥべえにまどかは聞くと慌ててキュゥべえは飛び出し、まどかや一夏達はキュゥべえの後を追う。

すると…まどか達は目の前の奴に驚く。

織莉子「魔女!?」

さやか「何で!?」

箒「魔女とは…確か明久の手により存在しなくなった奴か？」

キュゥべえ「うん、けど何で…」

織莉子とさやかの言葉に箒は聞き、キュゥべえが頷いた後に驚愕の表情で目の前の魔女を見る。

一夏「今は倒す事に専念するんだ！豪快チェンジ！」

モバイレーツG「ゴーカイジャー！」

そんなまどか達に一夏はそう言うとゴーカイジャーに変身し、ゴーカイガンで魔女を攻撃する。

一夏の変身にまどか達は驚いた後にそれぞれカードを取り出す。

まどか&ほむら&マミ&さやか&杏子&ゆま&織莉子&キリカ「アデアット！」

言うと同時にまどか達の服が変わり、それぞれの武器を構える。

ゴーカイグリーン「豪快チェンジ！！」

モバイレーツG「ゴーゴーファーイブ！！」

音声と共にゴーカイグリーンはゴーゴーファイブのゴーグリーンになるとブイランサーを取り出して魔女を攻撃する。

さやか「おりゃあ！」

杏子「オマケだ！」

ゆま「ええい！」

キリカ「とう！！」

そこにさやかや杏子、ゆまとキリカが追撃し…

マミ「食らいなさい！」

織莉子＆ほむら「はっ！」

まどか「えい！」

銃を構えたマミと水晶球を飛ばす織莉子に弓を構えたまどかとほむらの遠距離攻撃が入る。

ゴーグリーン「ブイスラッシュ！！」

その後にV字に切り裂いた後にゴーグリーンはモバイレーツを取り出す。

ゴーグリーン「豪快チェンジ！」

モバイレーツ「ターイムレンジャー！！」

音声と共に今度はタイムレンジャーのタイムグリーンに豪快チェンジするとスパークベクターとアローベクターを構えるとジャンプし…

タイムグリーン「ベクターエンド！ビート9！！」

魔女に飛び掛かりながら、スパークベクターで上から下へ、アローベクターで右から左へ、十字を描くように斬り、その後にスパークベクターをアサルトベクターにし…

タイムグリーン「アサルトバーニング！！」

必殺技で魔女を打ち抜くと魔女は爆発し、爆風からグリーフシードが飛んで来て、タイムグリーンはそれをキャッチする。

タイムグリーン「これがグリーフシード…」

キュゥべえ「だけどまがい物だね」

呟いたタイムグリーンに近寄ったキュゥべえがそれを見てそう言う。

キュゥべえ「精巧に作られてるけど、これは…誰かが人工的に作り上げたものだよ」

別の場所で

ハーツ「はっ！」

ディブレイカー「おりゃあ！」

ゴーカイブルー「ふっ！」

こちらも説明した後にアンヴァースが発生し、ヴェンとヴァニタスはハーツに上条もディブレイカーに変身し、終もゴーカイジャーになると剣術で圧倒する。

ゴーカイブルー「豪快チェンジ！」

モバイレーツB「ゴーゴーファーイブ！！」

ゴーブルーに豪快チェンジするとファイブレイザーをスティックモードにして攻撃して行く。

ハーツ（ヴェン）「あいつもディブレイカーやディケイドの様に別の姿になれるのか！」

佐天「凄い！」

ゴーブルー「豪快チェンジ！」

モバイレーツB「ターイムレンジャー！！」

豪快チェンジにヴェンと佐天は驚いた後にゴーブルーはタイムブルーになるとツインベクターを構え…

タイムブルー「ベクターエンド！ビートX」

ツインベクターをビートアップさせて残ったアンヴァースをX字を描くように斬って倒す。

楯無「やったね」

簪「大丈夫…？」

タイムブルー「ああ…」

御坂「それにしても…ちょっと早過ぎるわ」

黒子「アンヴァースの発生は極端ですが…こんなに早くとはおかしいですわ」

ハーツ（ヴァニタス）「どうやら…なんらかの前兆かもな…」

ふうと息を吐くタイムブルーに楯無と簪が駆け寄る中、御坂は呟き、黒子が同意した後にヴァニタスはそう言う。

それぞれが飛ばされた中、起こっている事態は…

IS<インフィニット・ストラトス>黒き牙と永遠の月　それぞれ

リュカ「と言う訳でユートピアさんとのコラボでした！」

スネーク「色々と起こるな…」

クッパ「うむ…」

ネス「感想を待ってます♪」

逃走中のまた始まりだぜ！　ｂｙダブルゼータ　その２（前書き）

スネーク「と言う訳で葉月と光を継ぐ者のリクエスト続きだ」

クッパ「忘れない様に参加者確認なのだ」

逃走者：マリオ、ルイージ、ピーチ、ヨッシー、リンク、ピカチュウ、カービィ、ルカリオ、スネーク、ソニック、銀時、神楽、新八、お妙、月詠、桂、土方、近藤、沖田、蛮、銀次、土度、卑弥呼、マクベス、十兵衛、花月、ソロ、光

ハンター：冥王、霊夢、魔里沙、妖夢、紫、文、ゆっくりまりさとれいむ、きめぇ丸、チルノ、妹紅、咲夜、ワルイージ、ディクシー、フェイト、スバル、橙、ナックルズ、ミュウツー、テイルズ、エミー

通報者：クッパ、ネス、ワリオ、子供リンク、ゼルダ、ピチュー、デオキシス、リュカ、ウルフ、長谷川、エリザベス、お登勢、なのは、ティアナ、ヴァイス、リインフォース、リイン、シグナム、ヴィータ、ザフィーラ

逃走中のまた始まりだぜ！　ｂｙダブルゼータ　その２

ガルマドップ「と言う訳で鎖を引いてくれたまえ」

ダブルゼータ「ハンターを放出するハズレ以外にドクロ鎖が５本あって、それを引くと距離が縮まるからな～」

クジを引かされた後のメンバーに１２ｍ離れたハンターボックスへ続く人数分の鎖をダブルゼータが指してガルマドップと共に言う。

ルイージ「うわぁ…怖いな」

最初になったルイージが見た後に１つ選んで引く。

すると…何もなかった。

ルイージ「ほっ…」

ガルマドップ「んじゃあ移動しても良いよ」

安堵するルイージにガルマドップはそう言い、ルイージは他のメンバーにお先にと離れる。

銀時「俺か…」

次に銀時が鎖を引くと…２ｍ縮まった。

蛮「何してやがるこの天パー！！」

新八「銀さぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁん！！！」

銀時「おいこら！確かに申し訳ないけど天パーはないだろ！！」

蛮の罵声と新八のツッコミを受けながら蛮の言葉に銀時はそう言いながら離れる。

蛮「たくっ…」

それを見届けた後に蛮は手短な鎖を引くと…さらに２ｍ縮まった。

タレ銀「蛮ちゃぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁん！！！」

土度「てめぇも人の事を言えねえじゃねえか！！」

蛮「～♪；」

十兵衛＆マクベス「はぁ…」

卑弥呼「蛮…」

それにすぐさま銀次が叫び、土度の罵声に蛮は冷や汗掻きながら口笛を吹いて離れて行く様子に十兵衛とマクベスはため息を付き、卑弥呼は呆れ、花月は苦笑する。

その後、ソロと光もセーフで離れ、リンクと沖田がドクロを引いてしまいハンターボックスとの差が６ｍまでに縮まった。

土方「あんにゃろ…」

ピーチ「それじゃあ私の番ね」

沖田を毒づく隣でそう言ってピーチが歩いて行って鎖を引くと…ハンターボックスが開き、冥王、霊夢、魔里沙、妖夢、紫、文、ゆっくりまりさとれいむ、チルノ、妹紅が飛び出す。

新八「出たぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！」

マリオ「早く行くぞ」

それに新八が叫んだ後にマリオがそう言い、残っていたメンバーが逃げるが…

ピーチ「あう；」

チルノ「捕まえた！」

チルノによりピーチは確保された。

0分2秒…ピーチ姫確保…

これにより本格的に逃走中が始まった。

ルイージ「えっと…『ハンターが開放され、0分2秒にピーチがチルノにより確保』…姫；」

先に出ていたルイージはそれを読んで冷や汗を掻く。

銀時「ホントどうなるのやら…」

別の場所で銀時もそれを読んでそう呟いているとそんな銀時を見ている者が…

ピーチ「残念」

ゼータ「ご案内」

残念がるピーチをゼータがそう言い、牢へ入れる。

残り、27人

逃走中のまた始まりだぜ！　ｂｙダブルゼータ　その２（後書き）

リュカ「逃走中２回目です」

フォックス「短いな…」

クッパ「今回は５分おきのを書くそうなのだ…ちなみに今回は本格的な始まりの状況なのだ」

スネーク「ホント、どうなるのやら…」

ネス「感想を待ってます♪」

ゆるいロウきゅーぶ　ちょっとした出会い（前書き）

スネーク「ベガＦ９１の『ゆるいロウきゅーぶ』とのコラボだ」

ルイージ「あれ？前に他の人のコラボお願いあったよね？」

フォックス「理由としては…他の人のでもそうだが受けてから６日も経ってるから先にやる事にしたそうだ」

ゆるいロウきゅーぶ　ちょっとした出会い

デスティニー「何でこんな状況に…」

ソロ「そうだな…」

目の前の状況にデスティニーは聞き、ソロは腕を組む。

京子「ほいっと」

空「お～」

ブリッツ「あの…あんまり見ないで欲しいのとほっぺを引っ張らないで欲しいでござる～；」

あかり「凄いね」

ちなつ「機械なのに何で伸びるのかな？」

真帆「どうしてかしら？」

京子のスローインに感嘆の声を上げる空、ブリッツのほっぺを摘むあかりにそれを見て疑問を呟くちなつと真帆の姿があり…他のメンバーは…

チルノ「あたいってばサイキョー！」

レヴィ「だぞー！」

智花「この人達、初心者なのに凄い…」

ひなた「う、うん」

愛莉「ホントだね」

シュテル「？は運動が良いって事です」

結衣「君、さりげなく友達2人を酷く言ってないか；」

ロード「気にするな」

残っていた紗季、智花と愛莉、ひなたとバスケをしていたチルノとレヴィに智花がしていた2人の動きを見て驚き、シュテルの言った事に意味を知った結衣がツッコミ、ロードがそう言う。

さて、なぜソロ達がこの世界に来ているかと言うと世界の壁により飛ばされたのだ。

それならばすぐに帰れるのだが…飛ばされた場所が丁度あかり達が真帆達に教えて練習している体育館の中なのだ。

飛ばされた、空、ソロ、ブリッツ、デスティニー、チルノ、レヴィ、シュテル、ロードにあかり達が驚き（特にデスティニーとブリッツを見て）、パニックになっている時に咄嗟にシュテルが…

シュテル『我々はとあるトップシークレットな実験をしている際に参加していた者達です。決して怪しい者ではありません』

と言い、何人かは警戒していたが空とチルノやレヴィの性格で打ち

解けて今もバスケ勝負をしている。

結衣「それにしても…君たち双子？」

ソロ「ん？いや違うぞ」

話しかけて来た結衣にソロはそう言う。

ソロ「ホント、行く先々で言われるな…」

結衣「髪や服を除いて顔とかがそっくりだからな…もし変わったら誰もが間違えるだろうな」

ふうと息を吐くソロに結衣はそう言う。

ソロ「けどまあ、あいつといると楽しいし、あんたも彼女達といるから楽しいだろ？」

結衣「まあ、苦労させられる事もあるけどね…」

ソロの言葉に頬をポリポリさせながら結衣はそう言う。

ちなつ「……」

あかり「ちなつちゃん、怖いよ；」

空「どうしたんだ？」

デスティニー「（ああ…百合って事か…）」

そんな結衣と話すソロにちなつはゴゴゴゴゴと黒いオーラを纏って睨んでいて、あかりは後ずさり、空は首を傾げ、デスティニーはそう呟く。

その後、メンバーは話したり、バスケをした後に分かれたのであった。

ゆるいロウきゅーぶ　ちょっとした出会い（後書き）

リュカ「と言う訳でベガＦ９１さんとのコラボでした～」

ネス「いや～ホントにあちら側のこの先どうなるんだろうね～」

フォックス「だな」

クッパ「感想を待ってるのだ！」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　～銀女神鎮魂歌～　―　第別訓パート４８

スネーク「真王とのコラボ第４８弾だ！」

フォックス「それにしてもめっちゃ来たな…」

クッパ「うむ…」

銀時「さあ～て、終わった事だし帰るか」

ビビ「そうね」

ルーズマーズ達を送り届けるウルトラマンゼロを見送った後に銀時とビビがそう言ったのと同時に全員が帰ろうとした時にネプギアはある物に気づく。

それは…崩れた地下から巨大な卵を担ぐエリアン達が見えた。

その卵の中にはとても凶暴そうなエイリアンが見えていた。

ネプギア「あれは…」

マリオ「あれが本当の親玉らしいな」

ルイージ「兄さん!?」

ビビ「何時の間に；」

ネプギアの言葉に何時の間にかいたマリオが言い、ルイージとビビは驚く。

マリオ「メテンズギルドから連絡があってな…」

銀時「それより破壊するぞ！」

銀次「うん！」

アーカード「では行くぞ！」

なのは「はい！スターライト・ブレイカー！！」

リュウケンドー「ゲキリュウケン！魔弾斬り！！」

マリオと銀時の後に銀次は電撃、アーカードは銃を放ち、なのはの砲撃とリュウケンドーの斬撃が行く。

４人の攻撃はエリアンと巨大卵に命中する。

近藤「やったか！？」

ファルコン・ハート「いや、まだだ！」

フラン「出て来るよ！」

それに叫ぶ近藤にファルコン・ハートはそう言い、フランが叫ぶとそれは煙から現れた。

ドラゴンボールのヒルデガーンに腕が４本をイメージした巨大エイリアン、ギルデバーンが銀時達の前に現れる。

後ろに壊れた卵のかけらがある限り、あの卵の中にいたエイリアンの様だ。

ギルデバーン「セカイ、スベテ、シハイ、スル」

銀時「んなことさせると思うか？」

なのは「あなたは私達が倒す！」

喋ったギルデバーンに銀時となのはがそう言った後にティアナとユニが攻撃するが…

ティアナ「えっ！？」

ユニ「ウソッ！？」

すると、２人の攻撃はギルデバーンをすり抜けてしまった。

銀時「どうなってるんだ？」

ネプギア「今度は私が！」

驚く銀時の隣でネプギアがパープルシスターになると接近してソードを振るがティアナとユニと同じ様に当たらない。

ギルデバーン「チョウシニノルナ」

パープルシスター「きゃあ！」

ギルシア「あぶねぇ！」

リュウケンドー「守りを！！」

そんなパープルシスターにギルデバーンは腕を振るい、咄嗟にリュウケンドーがパープルシスターの前に立って、リフレガを発動して

防ぐと同時に爆発がギルデバーンに行く。

ギルデバーン「ヌゥ！？」

フェイト「効いてる！」

マリオ「どうやら相手の攻撃をギリギリでカウンターをしないとこちらの攻撃が通らない様だな」

呻くギルデバーンにフェイトの隣でマリオはそう言う。

そうと分かればと他のメンバーも狙おうとするがさせまいとギルデバーンは荒々しく攻撃するが…

銀時「調子にのんなよこのデカブツ野郎！」

ギルデバーン「グォオオオオオオ！」

銀時がそれを避けると共にギルデバーンにカウンターの斬撃を食らわし…

リュウケンオー「剣技！クライムハザード！！」

ギルデバーン「ぬぅ！！」

リュウケンオーが迫ったパンチを避けて上に着地すると同時にヒョウリュウケンと滑らせる様にギルデバーンの腕を走って切り裂く。

パープルハート「食らえ！！エックスカリバー！！！」

そこにパープルハートになったネプテューヌが攻撃を避けてギルデバーンの胸に自分の必殺技を炸裂させる。

ギルデバーン「ヌォォォォォォォ！！」

呻いた後にギルデバーンは倒れる。

ジャンヌ「これで終わり…じゃなさそうだけど」

コスモス「こう言う輩程、何かあるよね」

ウルトラマンゼロ「皆！」

それを見たジャンヌがそう呟き、コスモスも同意した後にルーズマーズ達を送り届けたウルトラマンゼロが戻って来て、ソロになると同時にゼロイドに変身する。

リュウケンドー「ソロ！」

ゼロイド「まだ終わってなかったようだな」

ゼロイドにリュウケンドーは駆け寄り、ゼロイドはギルデバーンを見る。

すると、ギルデバーンは光り、それに一同は腕で隠し、収まると共にメンバーはギルデバーンの状態に驚く。

今のギルデバーンは体が茶色くなって背中に羽が生えていた。

ギルデバーン「キサマラモココマデダ」

銀時「オイオイオイまじかよ；」

ビビ「まんまドラゴンボールのヒルデガーンじゃない；」

目の前のギルデバーンに銀時は冷や汗を掻き、ビビはそうぼやく。

ギルデバーン「ウセロ」

全員「ぐあああああああああああ！！！」

飛び上がると同時にギルデバーンは地面にパンチし、それに全員が吹き飛び、何人かは地面に叩きつけられ、何人かは空中で踏ん張り、また何人かは着地する。

ギルデバーン「ホントウノジゴクヲミセテヤル」

リアス「そのセリフ、そっくりそのまま返してやるわ」

ゼロイド「ああ！俺達のビックバンはこれからだ！」

マリオ「ああ！ＫＡＭＥＮＲＩＤＥ！」

ゼロバックル「ライダーアップ」

全員を見てそう言うギルデバーンにリアスはそう言い、ゼロイドがそう言い、マリオもゼロに変身すると全員がそれぞれ構える。

最終決戦だ！

リュカ「と言う訳で真王さんとのコラボでした」

クッパ「いよいよラストなのだ」

フォックス「だな」

ネス「感想を待ってます♪」

あの人は良くあるの迷う事…　ｂｙ銀次（前書き）

スネーク「武田軍兵士　清坂　剣麻からのリクエストだ」

フォックス「今回はな…」

ネス「いや～迷い込むね～」

あの人は良くあるの迷う事…　ｂｙ銀次

銀次「それで今回は…またも迷い込んで来たラカンさんの回収？」

ソロ「ああ」

リュウケンドー「何か戦ってそうだな」

銀次の問いにソロは頷き、リュウケンドーは思い浮かべてそう言う。

黄泉「あの時の人ですか…」

アーカード「やれやれ…」

明久「ホントに…」

ムッツリーニ「……バグキャラにも程がある」

呼ばれた黄泉が呆れ顔でその時を思い出し、アーカードは顔を横に振り、明久とムッツリーニは繋げて言って呆れる。

ちなみに今回はラカンが出た時のメンバーである。

カブト「それで……丁度戦ってたようだな…」

数ｍ先を見てカブトはそう言う。

その先には…転生者集団３０００人をラカンが全員ぶっ倒して、転生者の山積みの上でＮｏ１のポーズをとっていた。

リンク「良くやりますね」

カービィ「ホントだね」

それを見てリンクとカービィがそう言った後に駆け出す。

ラカン「おっ、お前等か！」

リュウケンドー「よう！」

ソロ「また会ったな」

駆け寄ったメンバーにラカンは気づき、リュウケンドーが言った後にソロが言うと…

増援と思われる転生者７０００人、機械獣もどき軍団１００機（人型サイズ）、戦闘獣もどき軍団１００機が現れ、その後ろであしゅら男爵っぽい人物とＤｒ．ヘルっぽい人物がいた。

あしゅら左側「フフフ、遂に我らの悲願が達成される」

あしゅら右側「一騎当千の力を持つ機械獣と戦闘獣によって」

あしゅら男爵「「遂に我らが主君Ｄｒ．ヘルの世界征服がなされるのだ！！」」

あしゅら左「ガハハハハ！！」

あしゅら右「アハハハハ！！」

ラカン「何だあいつ等？」

黄泉「（うわぁ…何か終わりそうだな…）」

ソロ「やれやれ、変身！」

ゼロイドライバー「カメンライド！ゼロイド！」

あしゅらの笑い声にラカンは訝しげに言い、黄泉はそれを見てそう呟き、ソロはゼロイドに変身し…

ゼロイド「さらに変身！」

ゼロイドライバー「カメンライド！ウルトラマン！」

音声と共にZウルトラマンになる。

ヘル「ふん、姿は変わった位で何がある？」

Zウルトラマン「姿は伊達じゃないんだよ…行くぜ！」

ヘルの言葉にZウルトラマンはそう言うと左腕に付けたウルトラクラウンを取る。

Zウルトラマン「ウルトラクラウン！装着！！」

額にウルトラクラウンを装着すると共ウルトラクラウンは分かれると共にZウルトラマンの顔の両側に装着され、それと共にZウルトラマンは『仮面ライダーウルトラマン・スーパーフォーム』になっ

た。

ヘル「ぬっ！」

あしゅら男爵「「何だ！？この力！？」」

ラカン「おお！付けただけでアップしやがった！」

ＺウルトラマンＳＦにヘルは眉を潜め、あしゅら男爵はその上がった力に驚き、ラカンは興奮する。

ＺウルトラマンＳＦ「行くぜ！！」

その言葉と共に転生者の１人をふっとばし、ＺウルトラマンＳＦは連続で倒して行く。

リュウケンドー「ソロに遅れを取るな！」

リュウセイオー「よっしゃあ！」

リュウジンオー「行くぞ」

リュウケンオー「おー！」

ネオス「うん！」

ネクサス「了承」

ブレイドＫＦ「ああ！」

カリバー「ＹＥＳ！」

銀次「行くよ！」

アーカード「遅れを取るなよ」

黄泉「あ、はい！」

ラカン「よっしゃあ！」

そしてリュウケンドー達も転生者達を倒して行く。

あしゅら男爵「「機械獣に戦闘獣よ！奴等を倒せ！！」」

それにあしゅらはそう言うと共に機械獣もどき軍団１００機、戦闘獣もどき軍団１００機が動き出すが…

Ｚウルトラマンｓｆ「跡形もなくぶっ飛ばさせて貰うぜ！！」

それを前にＺウルトラマンは右腕だけにエネルギーを集中する。

Ｚウルトラマンｓｆ「スペシウム！超・光・波！！」

突き出すと共にスペシウム光線を超える光線が機械獣もどき軍団１００機、戦闘獣もどき軍団１００機を飲み込み、収まった後には跡形もなかった。

あしゅら男爵「「馬鹿な！？機械獣と戦闘獣をあっさりと！？」」

Ｚウルトラマンｓｆ「んじゃあ輪廻に戻りな！」

そう言うと同時にＺウルトラマンＳＦは驚愕しているヘルとあしゅら男爵の額にカードを貼り付け、２人を輪廻へ送る。

それと同時に転生者達もラカンやリュウケンドー達に倒された。

ラカン「いや～暴れたぜ」

リュウケンドー「ふう…」

アーカード「これで終わりだな」

黄泉「（ホントに…この人達を敵に回したくないな；）」

その後、ラカンを元の世界に戻したのであった。

あの人は良くあるの迷う事…　ｂｙ銀次（後書き）

リュカ「と言う訳で武田軍兵士　清坂　剣麻さんからのリクエストでした」

クッパ「あっさり吹き飛ばしたのだ；」

ワリオ「だな；」

スネーク「と言うかマジンガー系の転生者とはな…」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　～銀女神鎮魂歌～　―　第別訓アナザーパート

スネーク「邪王からの依頼だ」

ルイージ「今度は…」

フォックス「魔女かいな」

チルノ「それにしても…どうしたの？」

明久「うん、どうしたのキュゥべえ？」

呼ばれたリュウケンドーとソロ、チルノに明久とムッツリーニにまどか、さやか、杏子、マミ、ほむらが人間姿のキュゥべえを見る。

キュゥべえ「この世界で蜘蛛だかのっぺらぼうだか分かんない奴がソウルジェムを食べちゃった。その結果魔女になったんだけどもね。手伝ってくれるかい？」

明久「ソウルジェムが！？」

まどか「けど…ソウルジェムはもうない筈だけど…」

キュゥべえの言葉に明久は驚き、まどかはそう言うと…

サタン・ザ・ハード「それについては…私が教えるよ」

ソロ「サタン・ザ・ハード、どう言う事だ？」

現れたサタン・ザ・ハードに皆を代表してソロが聞く。

サタン・ザ・ハード「別世界の肉体を亡くしたソウルジェムがこの世界に紛れ込んだの…それを私が回収しようと来たんだけど…」

ムッツリーニ「……それを食べられてしまった」

さやか「んじゃあ早く倒しちゃおう！」

サタン・ザ・ハートの言葉にムッツリーニは繋げ、さやかがそう言った後にメンバーは魔女を探す。

彼女達の持っている契約カードは元々はソウルジェム（まどかの場合は仮契約のので）だったので魔女を感知出来るのだ。

思いっきりネタバレだがキュゥべえもリュウケンドーにより、願いを叶える力を破壊されて魔法少女を作れない様になっている。

ほむら「…見つけたわ」

ソロ「そんじゃあ連絡だな」

魔女の結界の入り口の証である紋章を見てほむらは呟き、ソロは他のメンバーに連絡を入れる。

そして全員が集まり、変身した後に全員、魔女の結界内へ入る。

中はトイブロックで出来たアスレチックの様な迷路であった。

さやか「これはまた…」

キュゥべえ「アクションが必要な迷路だね」

さやかとキュゥべえは呆れた顔で目の前のにそう感想を述べる。

その後、メンバーは迷路を乗り越えて行き、魔女の手下である頭蓋

骨の集合体で、下からは鎌を持った死神と思わせる使い魔を倒して進み…

まどか「あれが…」

リュウケンオー「目標の魔女だね」

顔を神の毛でおおわれた姿に6本の手をしたから生やした姿の魔女、呪いの魔女にまどかとリュウケンオーは呟く。

ゼロイド「んじゃあ先手必勝だ！」

そう言うと同時にライドブッカーをガンモードにして放つとそれは魔女を通り抜ける。

マミ「すり抜けた！？」

ネオス「もしかしてあの魔女は実態がないの？」

それに驚くマミの隣でネオスがそう推察すると魔女は口と下から使い魔を出す。

ゼロイド「だったらこの人だ！変身！」

ゼロイドライバー「カメンライド！ジャック！」

それを見てゼロイドはそう言うと音声と共にゼロイドを眩き光が覆い、晴れると共にその姿はウルトラマンジャックがウルトラマン超闘士激伝の闘士ジャックの重装鉄鋼を装着し、腕にクウガ・ドラゴンフォームの腕を模したアンクレットを装備し、足にウルトラディ

フェンダーを模したアンクレットを装着した『仮面ライダージャック』へ変身した。

その際、魔女は悶絶していた。

杏子「何だ?」

リュウケンドー「もしかして眩しいのが苦手なのか?」

ほむら「どうやらそれ以外に…」

訝しげに魔女を見る杏子の隣でリュウケンドーが呟くとほむらは銃で攻撃すると今度は当たった。

ほむら「実体化もしたようね」

Zジャック「だったら消えない様に…」

Zジャックは左腕のウルトラブレスレットを上へ投げるとウルトラブレスレットは光り輝き、全体を包み込む。

それに魔女はさらに悶絶する。

ネオス「今だ!」

ネオスバイザー「アドベント!ユニゾンベント!」

それを見たネオスはすぐさまスターダスト・ドラゴンを呼び、ネオスSになるとマグネシウム・ソニックの構えに入り…

Zジャック「シネラマブラスター！」

邪魔しようとする使い魔をZジャックは吹き飛ばし、まどか達も援護に入る。

ネオスS「でぁぁぁぁぁ！！」

そしてマグネシウム・ソニックは呪いの魔女に命中し、呪いの魔女は姿を少女の姿に変えた後にカードとなってネオスSの手に収まる。

それと共に結界は消えた。

杏子「はあ…疲れたな」

サタン・ザ・ハード「お疲れ様」

肩を揉む杏子や皆にサタン・ザ・ハードはそう言う。

その後、少し話した後に分かれたのであった。

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

蛇八先生「さて、久々の質問だ…ペンネーム『武田軍兵士　清坂剣麻』から『終わるの早ェェェ！？……まあ予想してたことだけど…。

では久々に質問いたす！！
美羽「皆さんが迷惑かけて申し訳ありませんですわ」
兼一「では僕から質問します。　ぶっちゃけ師匠達の第一印象はどんな感じでしたか？」
美己「それとバカテス組に姫路瑞希から差し入れがあるようですっとミサカは念仏を唱えます」
姫路瑞希「がんばってる皆さんのために私がお弁当を作ってきました。デザートも有りますから皆さんタベテクダサイネ？」
＊必殺料理人の面々は腐留苦去主の一件から互いに連絡を取り合い……破壊力が上昇した』…答えろ」

ソロ「マリオと同じかそれ以上のを感じたぜ」

リュウケンドー「俺も」

チルノ「サイキョーだ！！」

銀次「個性があったね」

アーカード「剣星と言う男は技がどうかと思うんだが…」

リンク「アパチャイさんってアニメと漫画だと顔が違いますね」

ムッツリーニ「……うっ！」↑しぐれのやった事を思い出して気絶

雄二「あっ、こらムッツリーニ！！」

秀吉「姫路の料理があるのに気絶するでない！」

明久「どの人も凄いと感じたよ…うぉぉぉぉぉぉぉ！！ぐふっ！」
↑姫路弁当とデザートを全て完食した。

雄二＆秀吉「明久ぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！」

銀八「見事だな…『武田軍兵士　清坂　剣麻』さん！姫路の料理精進をして欲しいと願います！」

蛇八「今回は此処まで！」

リュカ「と言う訳で邪王さんの依頼でした」

ネス「いや～ネタバレだね～」

クッパ「うむ…」

ワリオ「感想を待ってるぜ！」

万事屋奇譚幕　別話6：ハーツとディブレイカーとレールガン（前書き）

スネーク「亀鳥虎龍とのコラボだ」

フォックス「あちらのレールガンである御坂が来るんだよな」

ネス「うんうん」

クッパ「ちなみにレールガンに変身する方は美琴と表記するのだ」

万事屋奇譚幕　別話6：ハーツとディブレイカーとレールガン

美琴「たくっ…此処どこよ…」

美琴は頭を掻いてぼやく。

突如歩いている所を世界の壁により、知らない世界に飛ばされたのだ。

美琴「はぁ…ん？」

御坂「はっ？」

黒子「！」

ため息を付いて歩こうとした所でこの世界の御坂と出会い、御坂は唖然とし、黒子は驚く。

黒子「（お姉さまが2人…何てお得！）」

…驚きが微妙にズレテルが…

佐天「ほえ～」

吹寄「ホントに御坂なんだな」

インデックス「だね」

初春「こっちの御坂さんと変わりませんね」

美琴「ジロジロ見ないで欲しいんだけど…」

その後、美琴はヴェンとヴァニタスの探偵事務所に連れて行かれ、来ていた佐天に吹寄、インデックス、初春に興味深そうに見られ、居心地悪そうに顔を逸らす。

上条「別世界のビリビリねぇ…」

御坂＆美琴「ビリビリ言うな！！」

御坂妹「ホントにお姉さまですねとミサカは驚きながら言います」

インデックス「だね～」

インデックスと一緒に来た上条の言葉に2人は言い、御坂妹はそう言う。

氷華「こんにちわ…って！御坂さんがもう1人！？」

姫神「ドッペルゲンガー？」

そこに氷華と姫神が来て、美琴を見て驚く。

ヴァニタス「何か探偵事務所が異世界から来る人を出迎える場所になって来てるな」

ヴェン「確かに」

それを見てヴァニタスはそう言い、ヴェンは同意する。

すると、置かれていた電話機が鳴り、ヴァニタスが取る。

ヴァニタス「はい、こちら光闇探偵事務所…ああ、黄泉川さんか…了解した」

電話を切ると振り返る。

ヴァニタス「ライダーでの仕事だ…どうやらアンヴァースじゃない怪人が現れたそうだ」

上条「おいおい」

美琴「手伝おうか？私もライダーだけど」

ベルトを装着してレールガンメモリを見せる美琴に…メンバーは微妙な顔をする。

美琴「えっ？何？」

御坂妹「バイク…と言うか乗り物を持っているのですか？とミサカは別世界のお姉さまに聞きます」

ヴァニタス「結構遠いぞ」

そう言われ、メンバーの微妙な顔の理由に美琴は気づいてあーと呟いて顔を逸らす。

美琴「ない…」

上条「んじゃあ俺の後ろに乗るか？」

御坂＆御坂妹＆吹寄＆氷華＆姫神＆インデックス＆黒子「！？」

乾いた笑みを浮かべる美琴に上条がそう言い、それに上条に好意を寄せるメンバー＋１は美琴を見る。

美琴「（こいつの後ろに…でっ、でもこいつは別世界のなんだし…）」

【ＫＥＹ】

【ＢＬＡＤＥ】

【ＫＡＭＥＮ　ＲＩＤＥ】

ヴェン＆ヴァニタス＆上条「変身！」

【ＫＥＹ・ＢＬＡＤＥ】

【ＤＥＢＲＥＡＫＥＲ】

美琴が考え込んでる間にヴェンとヴァニタスに上条は変身していた。

ディブレイカー「ほらビリビリ、早く行くぞ」

美琴「はっ…うん！」

【ＲＡＩＬ　ＧＵＮ】

ディブレイカーに言われ、美琴はレールガンメモリをベルトの左側にに挿入し、右側のレバーを回した。

美琴「変身」

【ＲＡＩＬ　ＧＵＮ】

その瞬間、美琴は黄色いボディに赤い複眼の戦士・仮面ライダーレールガンに変身した。

ディブレイカー「早く乗れ！」

変身を見た後に自分のバイク、ディブレイダーに乗ったディブレイカーがそう言い、隣でハーツキングダムをキーブレードライドさせたハーツがいる。

レールガン「う、うん！」

超著した後にレールガンはディブレイカーの後ろに捕まり、それを確認してハーツを先導に目的地へ向かう。

黄泉川「たくっ、こいつ等は何じゃん？」

鉄装「全然倒れませ～ん」

目の前のミイラの様な怪人、屑ヤミーに黄泉川はそう言い、鉄装が叫ぶ。

そこに、ハーツとディブレイカーにレールガンが来る。

黄泉川「おお～来たか…って何か増えてるな」

ディブレイカー「まあ、気にしないでください」

前に出たディブレイカーに声をかけてレールガンを見て言う黄泉川にディブレイカーはそう言った後にライドブッカーＳＭを構える。

レールガン「んじゃあ行きますか！！」

そう言うと同時にレールガンは電撃を発し、屑ヤミーを一掃して行く。

ハーツ（ヴェン）「おお」

ディブレイカー「やるじゃん」

ハーツ（ヴァニタス）「確かに合うな…」

それを見てハーツとディブレイカーは屑ヤミーを倒しながら感想を言う。

ディブレイカー「おっ？」

するとライドブッカーから3枚のカードが飛び出し、それを手に取る。

レールガン「んじゃあ決めますか」

ディブレイカー「レールガン、ちょっとくすぐったいぞ」

数が減って来たのでマキシマムで一気に決めようとするレールガンにディブレイカーはそう言うと出て来たカードの1枚を入れる。

【ＦＩＮＡＬ　ＦＯＲＭ　ＲＩＤＥ】

レールガン「えっ？」

【ＲＡ・ＲＡ・ＲＡ・ＲＡＩＬ　ＧＵＮ】

それに振り返ろうとして、レールガンはディブレイカーに前を向かされ…

ディブレイカー「よっ」

レールガン「ふえっ！？」

ポンと背中を押されると共にレールガンはファイズブラスターに良く似た銃、レールガンブラストへ超絶変形する。

レールガンＢ「何これ！？」

ディブレイカー「いきなりですまんな…」

ハーツ（ヴァニタス）「俺達も決めるか」

驚くレールガンＢにディブレイカーは謝り、ハーツもそう言うと必殺技の体制に入る。

【ＦＩＮＡＬ　ＡＴＴＡＣＫ　ＲＩＤＥ】

【ＫＥＹ・ＢＬＡＤＥ・ＴＷＩＮＭＡＸＩＭＵＭＤＲＩＶＥ】

【ＲＡ・ＲＡ・ＲＡ・ＲＡＩＬ　ＧＵＮ】

屑ヤミーの集団にハーツはハーツキングダムの先を、ディブレイカーはレールガンブラストの銃口を向ける。

ハーツ「キーブレード！ツインインパクト！！」

ディブレイカー「ディブレイカーレールガン！！」

ハーツの複数のエネルギー弾とディブレイカーの超電磁弾が屑ヤミーを吹き飛ばし、後には何もなかった。

美琴「びっ、びっくりした…」

探偵事務所に戻って変身を解いた直後の美琴の一言に御坂はあーと理解する。

御坂「やっぱり間近で人が変形すると驚くわよね」

美琴「いや、自分が変形したんだけど…」

苦笑して言う御坂の言葉に美琴はそう言う。

間

御坂「ねえ…なに別世界の私を変形させてるのよ！！」

上条「そう言われても出て来たんだから仕方ないだろ！！」

電撃を発して上条を追いかける御坂にメンバーは苦笑すると世界の壁が現れる。

美琴「これって…」

ヴァニタス「どうやら帰る時間の様だな」

佐天「頑張ってくださいね御坂さん」

御坂妹「応援してますとミサカは旗を振って見送ります」

黒子「お元気でそっちのお姉さま」

初春「色々と頑張ってくださいね」

美琴「うん、ありがとうね…それじゃあ」

それを見て呟く美琴にヴァニタスはそう言い、佐天と御坂妹と初春、黒子の言葉に美琴はお礼を言った後に自分の世界に戻ったのであった。

御坂「待ちなさ～い！」

上条「たくっ…使わない方が良かったかもな…」

追いかけられながら上条はレールガンのライダーカードを見て呟くのであった。

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

蛇八「んじゃあやるぞ…ペンネーム『武田軍兵士　清坂　剣麻』から『美己「皆さんに質問があります。　あなた達は腐留苦去主スーパーを食べる勇気がありますかっとミサカは問います」＊腐留苦去主スーパー：腐留苦去主にゲッター線と光子力エネルギーが加わった物で、食べたのは今のところ、コウエンとスティンガーだけである。美己「……ついでにもう一つ質問を行います。　姫路瑞希と吉井晶が作った特製料理の味はどうでしたかっとミサカは問います」』…それじゃあ答えるぞ」

マリオ「食べたいな、後、美味かったぜ♪」

大食いトリオ「独特な味でした」

明久「……ウマカッタヨ；」

ムッツリーニ＆ルイージ＆フォックス「……さらに目指そう」

蛇八「ホントにな…」

銀八「そりゃあ…『武田軍兵士　清坂　剣麻』さん！マリオ以外に極力料理を送らない様にお願いします」

蛇八「今回は此処までだ」

1961

万事屋奇譚幕　別話６：ハーツとディブレイカーとレールガン（後書き）

リュカ「と言うわけで亀烏虎龍さんとのコラボでした～」

スネーク「と言うかレールガンのカードを手に入れたな；」

フォックス「だな；」

ワリオ「しかもＦＦＲのオマケ付きだよな；」

ネス「感想を待ってます♪」

何をやろうか？　ｂｙチルノ　パート３（前書き）

スネーク「黒一文字とのコラボ続きだ」

フォックス「待たせてすまん！」

ネス「それで次に行くのは…」

何をやろうか？　ｂｙチルノ　パート３

ダイヤ達と別れ、今度に来たのは…

クレス「今度は寺か…」

ソロ「命蓮寺だ」

チルノ「白蓮のお寺だよ～」

白蓮「そして…私とチルノさんとの…」

早苗＆文「言わせませんよ！！」

ユエ「面白い人達ですね」

目の前の苗字を見て呟くクレスにソロは名前を言い、チルノの後に言おうとした白蓮の言葉を早苗と文が遮り、それにユエはそう言う。

？？？「何やっとるんじゃお主等は…」

チルノ「あっ、マツゾウお婆ちゃん」

レヴィ「マツゾウお婆ちゃんヤッホー」

そんな３人に呆れながら命蓮寺から出て来た眼鏡をかけて頭に葉っぱを乗せた狸耳と尻尾を持つ女性にチルノとレヴィは嬉しそうに近寄る。

マツゾウ「今日も元気じゃな2人共♪」

クレス「…若いな」

空「口調でね」

シュテル「あの2人はそう呼んでるんですよ」

ロード「他の者が言ったらバチンだぞ」

笑顔でチルノとレヴィの頭を撫でるマツゾウを見て呟くクレスに空は苦笑し、シュテルとロードがそう言う。

星「聖〜〜〜」

そこに涙目な星が走って来る。

白蓮「どうしたの星？」

星「ナズーリンが帰って来ないんですよ！大好物のチーズを用意してるのに！！」

シィ「ナズーリンって…」

クレス「さっき藍って人に追いかけられてた奴か…」

白蓮の問いに答えた星の言葉にシィとクレスは寺子屋に行く前の時を思い出して呟くと…

星「…今、藍って言いましたよね？」

シィ「えっ、ええ…」

ユエ「縄を持って追いかけてました」

ゴゴゴゴゴゴゴゴとオーラを纏って聞く星にシィは頷き、ユエがそう言うと…

星「あの人はぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！何べん私のナズーリンを追いかけるんですかぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！」

そう叫ぶと星はバビュンと飛び出して行く。

文「いや～星さんのナズーリンさん命は見ていても素晴らしいですね」

早苗「そうですね」

それを見て文と早苗は感嘆の声をあげる。

シィ「凄いと言うか…んじゃあ中に入っても「こんにちわー！！」…うひゃあ！！」

ソロ「よう響子、今日も元気だな」

ロード「元気ありまくりだがな…」

響子「えへへ～」

良いと聞こうとして隣からいきなり大声の挨拶をされてシィは驚き、

ソロは返して、ロードは呆れ、言われた本人は頭を掻く。

マツゾウ「いや～ホントに2人は元気じゃのう～」

チルノ「あたいは元気ありまくりだよ！」

レヴィ「ボクもチルノ以上に元気だぞ！」

マツゾウに向かって胸を張った後に張り合う2人にマツゾウは微笑ましく見ている。

白蓮「2人共～お菓子を食べますか？」

チルノ「食べる～」

レヴィ「同じくだぞ～」

白蓮の言葉に2人はそう言って先に中に入り、メンバーはやれやれと続いて入ったのであった。

何をやろうか？　ｂｙチルノ　パート３（後書き）

フォックス「今回は此処まで」

ネス「続きはまた後で～」

リュカ「新しいパターン！？」

スネーク「これ、後どれ位続くんだろうな…」

クッパ「感想を待ってるのだ～」

IS<インフィニット・ストラトス>黒き牙と永遠の月　暴走する

スネーク「ユートピアとのコラボだ！」

クッパ「前回の話は！！」

1つ！終達はそれぞれの状況を理解する！

2つ！楓は美鈴達に慰められる。

そして3つ！一夏の所で出ない筈の魔女が、終の方ではアンヴァースの出現し、お互いに撃破する。

ネス「ホントにどうなるんだろうね…」

ディブレイカー「さて、戻るか」

タイムブルー「そうだな」

それぞれそう言って戻ろうとすると…

ハーツ（ヴァニタス）「避けろ!!」

ヴァニタスの言葉にその場にいたメンバーは慌てて動くと共にメンバーがいた場所を何かが攻撃する。

御坂「何よ!?」

??「おやおや、外しましたか」

体勢を整えていきなりの攻撃に驚く御坂の後に攻撃した人物は現れる。

ハーツ（ヴェン）「誰だお前は!」

アクマロ「筋殻アクマロと申します。ちょいとあんた等の実力を見させて貰います」

そう言うと同時にアクマロはディブレイカーとハーツ、タイムブルーに襲い掛かる。

刃のついた?を振るうアクマロに3人はそれぞれ避けたり、鍔迫り

合いになる。

タイムブルー「このっ！」

アクマロ「ほっ！」

その均等を崩そうとベクターを振るうタイムブルーの攻撃を避けた後にアクマロは蹴鞠を取り出し…

アクマロ「はっ！」

タイムブルー「ぐわっ！！」

ポンポンとリフティングし、タイムブルーがあっけに取られた瞬間にアクマロは蹴鞠をタイムブルーにぶつけ、それにより変身が解け、終は地面に倒れる際に頭を打ち、気を失う。

楯無&簪「終！」

ディブレイカー「やろう…」

ハーツ（ヴェン）「こいつ、手ごわいぞ」

倒れる終に楯無と簪は声をあげ、ディブレイカーとハーツは短いながらもアクマロの強さを知り、警戒する。

アクマロ「なかなかですな…おっと！」

それを見てそう言うアクマロは他の方向から来た火炎弾を?で防ぎ…

？？？「はっ！」

？？？2「たっ！」

そんなアクマロに2人の人物が攻撃する。

ディブレイカー「五和！神裂！」

神裂「大丈夫ですか？」

五和「あの怪人は一体…」

それぞれ武器を構える2人にディブレイカーは声をかけ、神崎と五和はアクマロを見る。

アクマロ「おやおや、どうやら此処までのようですな」

そう言うと同時にアクマロの姿が消えた。

ハーツ（ヴェン）「消えた！？」

？？？「大丈夫ですか！」

楯無「タジャドル！？もしかしてアンク？」

簪「けど…声が違う」

驚くハーツに声をかけて来るオーズＴＣに楯無は驚き、簪が声を聞いて否定する。

ディブレイカー「おお、のび太にオルソラ！」

オルソラ「何やら凄い事になってますね」

ハーツ（ヴァニタス）「さっきの火炎弾はお前か」

オーズＴＣ「はい、何やら危ないと思って…」

オーズＴＣの後から来たオルソラを見て言うディブレイカーにオルソラはそう言い、ハーツの問いにオーズＴＣはそう言う。

神崎「それで…そこの倒れてる人は大丈夫なんですか？」

オーズ『さっき頭をぶつけてたよね？』

御坂「そう言えば…」

神崎とオーズの言葉に御坂がそう言った瞬間、終がゆらりと立ち上がる。

佐天「あっ、起きた。大丈…「離れろ佐天！」うえっ！？」

それを見て佐天が安否を聞こうとしてハーツの言葉に驚いた後に終がＩＳを纏うと…

終「うおぉぉぉぉぉぉ！！」

ハーツとディブレイカー、オーズＴＣに襲い掛かる。

一方、一夏達の方でもそいつは現れた。

一夏「ぐっ…」

まどか「うあ…」

???「ふん！なんともあっけない！この救世主のブラジラにとって相手に不足だな」

倒れ付した一夏達にその前に立ったブラジラはそう吐き捨てる。

魔女を倒した後にどうしようかと一夏達が考えてる時にブラジラが強襲し、一夏達は応戦するが圧倒的な力で敗北してしまった。

ブラジラ「去らばだ、魔法少女に別世界の人間！」

そう言って右手にエネルギーを収束させた時…

???「ミラクルドラゴンバレット！！」

???2「モウギュウバズーカ！！外道覆滅！」

その声の後にブラジラに龍と猛牛を模した弾丸が命中する。

ブラジラ「ぬおっ！？この攻撃！！」

杏子「なっ、何だ？」

それに吹き飛び、仰向けに倒れ、自分に来た攻撃にブラジラは呻き、

驚く一夏達の前に2人の人物が立つ。

それは…ハイパーシンケンレッドにスーパーゴセイレッドであった。

ブラジラ「ゴセイレッドにシンケンレッド!!邪魔をするか!」

起き上がって自分を攻撃した者達にブラジラは怒声をあげる。

ネオス「まだいるよ!」

ネクサス「……オマケ」

ブラジラ「ぬあっ!!」

そして一夏達とHシンケンレッドとSゴセイレッドを飛び越えて、ネオスとネクサスがマグネシウム光線とクロス・レイ・シュトロームでブラジラを追撃する。

一夏「明久!ムッツリーニ!!」

キュゥべえ「明久!」

ネオス「大丈夫、キュゥべえに皆?」

まどか「なっ、なんとか…」

なんとか起き上がって箒を支える一夏と自分に抱き付くキュゥべえを見た後にネオスはそう聞き、まどかが代表で答える。

ブラジラ「ぬぅ…覚えていろ!!」

捨て台詞と共にブラジラは姿を消す。

箒「それにしても良く此処が分かったな…」

ネオス「あの後、一夏さん達が飛ばされた後に先生が知り合いに頼んで探索をして貰って、突き止めて此処へは僕達とネス君にリュカ君と来たんだ」

Hシンケンレッド→ネス「それじゃあ治療するよ」

Sゴセイレッド→リュカ「今回復しますね」

箒の言葉にネオスはそう説明した後に変身を解いたネスとリュカがPKライフアップを使ってメンバーを治療する。

楓「（皆さん、大丈夫でしょうか…）」

そして楓は幻想卿の森を1人で歩いていた。

？？？「音梨　楓とはお前だな？」

楓「！？誰ですか！？」

虚空からの声に楓は叫んで周りを見ると楓の前に青い忍者のような姿の怪人が現れる。

楓「何者ですか？」

闇のヤイバ「闇のヤイバと人を俺をそう呼ぶ…音梨　楓、貴様の心には闇がある」

警戒する楓に闇のヤイバは名乗るとそう指摘する。

それに楓は目を開く。

楓「どっ、どう言う！」

闇のヤイバ「他者に対する嫉妬、力、そして過去の記憶…それ等がお前の心の闇だ…」

言おうとする楓に闇のヤイバは遮って言う。

闇のヤイバの言った事に楓は否定出来なかった。

助けられてばかりの自分、肝心な時に力を振るえない自分、過去の記憶…どれ等も当てはまるからだ…

闇のヤイバ「（…ふん、たあいもない）」

黙る楓に闇のヤイバは心の中で笑った後にさらに言おうとした時…

鈴仙「はっ！！」

闇のヤイバ「むっ！」

そこにバンダナとマントを纏った鈴仙のピーター・ザ・ラビットの銃撃が闇のヤイバの足元に炸裂する。

鈴仙「大丈夫、楓？」

楓「鈴仙さん…」

それに怯む闇のヤイバを尻目に駆け寄って聞く鈴仙に楓は目を向けた後…

美鈴「1（イー）、2（アール）、3（サーン）」

モスグリーンの足首までのブーツに同色の半ズボンを履き、腰の部分から同じ色のコートを付け、モスグリーンと白の半袖にヘソ出しルックで髪の上にモスグリーンの帽子を乗せた美鈴が闇のヤイバの懐に飛び込み…

美鈴「メーリンキック！！」

闇のヤイバ「ぐおっ！？」

力を貯めた右回し蹴りを闇のヤイバのドテッパラに叩き込む。

その背にはなぜか決めポーズする仮面ライダーカブトの幻影が見えた。

闇のヤイバ「ぬぅ…」

シュテル「パイロシューター！」

レヴィ「電刃衝（でんじんしょう）！」

ロード「エルシニアダガー！！」

木にぶつかり、呻く闇のヤイバに追い討ちとシュテル、レヴィ、ロードが攻撃するが、闇のヤイバは避ける。

シュテル「何者かは知りませんが…」

レヴィ「知り合いに手を出すなら相手するぞ！！」

ロード「しかし、またこう言う奴が入って来るとは…あの隙間妖怪、ちゃんと出来ないのか？」

それぞれのデバイスを構えて言うシュテルとレヴィの隣でロードは呆れてそう言う。

闇のヤイバ「なかなかやるな…」

ボウケンレッド「そこまでだ！闇のヤイバ！！」

呟く闇のヤイバにそこにボウケンレッドとソロ、リュウケンオーとボウケンシルバー、リュウガンオー、リュウセイオー、リュウサイオー、リュウトウオー、リュウレツオー、リュウアンオー、フラン、お空が来て闇のヤイバを囲む。

美鈴「フランお嬢様！皆！」

闇のヤイバ「まさか来るとはな…」

ボウケンレッド「紫が教えてくれたんだ」

ボウケンシルバー「目的は楓の心の闇か？」

ボウケンレッド達を見て呟く闇のヤイバにボウケンレッドがそう言い、ボウケンシルバーが闇のヤイバの目的を聞く。

闇のヤイバ「ほう…もう分かってるのか？」

ボウケンレッド「楓の心に暗い部分があった…お前ならそれを狙う前科があるからな」

関心の声をあげる闇のヤイバにボウケンレッドはそう言う。

闇のヤイバ「お前達がいる以上、此処までだな…さらば！」

そう言うと同時に地面に閃光弾をぶつけると姿を消す。

ボウケンレッド「逃げたか…」

楓「（私の心の闇……）」

呟くボウケンレッドの後ろで鈴仙に支えられながら楓は自分の胸をぎゅっと握り締める。

IS<インフィニット・ストラトス>黒き牙と永遠の月　暴走する

リュカ「と言う訳でユートピアさんとのコラボでした！」

スネーク「ホントに楓はな…」

フォックス「色々と抱えてるよな…」

ネス「うんうん」

クッパ「感想を待ってるのだ！」

クイーンズゲイト　ウルトラマンノアの少年　『ソロとシンゴと康太』（前書き）

スネーク「今回は龍の骨の『クイーンズゲイト　ウルトラマンノアの少年』とのコラボだ」

フォックス「まあ、あちら側の本格的な連載は先になるけど…」

ネス「どうなるのやら～」

クイーンズゲイト　ウルトラマンノアの少年　『ソロとシンゴと康太』

ウルトラマンノアと一体化したハルト・シンゴ、同じ様に別世界に飛ばされたまろん＝まかろんと複数の世界を廻るアリスと共に様々な次元を廻る事になったのであった…

シンゴ「此処は…」

目の前の光景にシンゴは呟く。

どこかの世界の様だが、綺麗な風景が広がり、遠くにはお城と思われる建物がある。

まろん「綺麗な所ですね～」

アリス「此処はどこかしら？」

目を輝かせるまろんの隣でアリスは考えていると…

ネクサス「ジュア！！」

シンゴ「あれは！？」

アリス「別のウルトラマン！？」

現れたウルトラマンネクサスにシンゴとアリスが驚き…

ゼロ「であっ！」

まろん「もう1人出た！」

反対側でウルトラマンゼロが現れ、まろんは興奮する。

アリス「けど…周りに怪獣は見えないわね…」

シンゴ「確かに…何で？」

アリスの疑問にシンゴも同意して呟いた時、ウルトラマンゼロがゼロライザーを取り出す。

ゼロライザー「ゼロライザー！モンスロード！！」

音声と共にゼロライザーから光が2つ現れ…

バキシム「ぎゃおおおん！！」

タイラント「ぐおぉぉぉぉぉん！！」

バキシムとタイラントが現れる。

まろん「ウルトラマンが怪獣を呼んだ！？」

アリス「うそっ！？」

シンゴ「何で…」

驚くまろんとアリスの隣でシンゴは呟いた後にの胸が赤く光り、体中に光の巨人と思わせる銀色のラインが現れ、銀色のラインが光りだす。

まろん「シンゴ君!?」

アリス「また…」

シンゴは光に包まれ、だんだん大きくなり、光が晴れると、ウルトラマンノアとなる。

ゼロ「ウルトラマンノア!?」

ネクサス「……誰がなってるんだ?」

バキシム&タイラント「?」

現れたノアにゼロは驚き、ネクサスは警戒し、バキシムとタイラントは首を傾げる。

ノア「なぜ、怪獣を呼び出した?」

ゼロ「そりゃあ仲間だから」

ネクサス「……俺のノアの長時間なれる為の訓練の練習相手だ」

ノア「えっ?」

ノアの問いにゼロはそう言い、ネクサスの言葉にノアが驚いた後にネクサスはジュネッス、ジュネッスブルーとなった後にノアと同じウルトラマンノアとなる。

アリス「うそっ!?」

まろん「シンゴ君と同じウルトラマンに!?」

それにアリスとまろんは驚く。

だが…

ネクサスノア「……ぬぅ…」

シンゴノア「えっ?」

ネクサスノアは呻いた後に膝を付いた事にシンゴノアが驚いている間に再びネクサスに戻る。

ネクサス「……やはり…仮面ライダーと違って短い…」

シンゴノア「それはどう言う事?」

ゼロ「それについては説明する為に、お互い、人間に戻らないか?」

肩を上下させるネクサスにシンゴノアは聞き、ゼロがそう言う。

アリス「人口ウルトラマン!?」

ソロ「まあ、俺はオリジナルだけどな」

それぞれ戻ったネクサスこと康太とゼロことソロから話された事にアリスが代表で叫ぶ。

まろん「他の次元にはそう言う人がいるんですね」

ソロ「まあな」

しみじみと言うまろんにソロはそう言う。

シンゴ「驚きだよ…けど、何で康太さんはノアに？」

康太「……元々ネクサスはノアが力を失っての状態、人口のウルトラマンだから何時でもノアになれるが…」

アリス「短い時間でしか、その…ウルトラマンノアになれない？」

シンゴの問いに康太はそう言い、アリスの言葉に康太は頷く。

ソロ「作られたのはネクサスがメインだからな…言わばノアはこいつの最終フォーム扱いなんだよ」

シンゴ「そうなんだ…」

ソロの言葉にシンゴは納得し…ある事に気づく。

シンゴ「だったら思い付いた事があるんですけど…」

康太「？」

シンゴノア「では…行きますよ」

再び、ウルトラマンになったシンゴと康太がおり、シンゴノアの言葉にネクサスは頷いた後に握手するとそれを伝ってシンゴノアの一部の光がネクサスに流れ込み、ネクサスはノアへと再びなる。

シンゴノア「どうですか？」

康太ノア「……以前より体力が減るのが少ない…感謝」

シンゴノアの問いに腕をグッパした後にそう言う。

ソロ「シンゴ、受け取れ」

戻った後、次の次元への扉を見つけて向かおうとするシンゴにソロはあるカードを渡す。

アリス「これって…ネクサス？」

康太「……を模した仮面ライダーネクサス」

ソロ「お守り代わりだ、受け取れ」

シンゴ「えっ…けどこれ使うんじゃないんですか？」

アリスの言葉を訂正した康太の後のソロの言葉にシンゴがそう言うとソロは同じカードを取り出す。

まろん「大丈夫って訳ですか」

ソロ「そう言う事だ」

康太「……応援してる」

シンゴ「ソロさん、康太さん…ありがとうございます！」

まろんの言葉にソロは笑い、康太が言った後にシンゴは康太と握手する。

その後、シンゴ達は別の次元へ向かったのであった。

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「蛇八先生！銀八先生！」

蛇八先生「今回呼ばれる奴での逆バージョン…それではペンネーム『武田軍兵士　清坂　剣麻』から皆様方に質問、次の内、厄介な集団又は物はどれですか。

1．赤屍さん１００００００人
2．梁山泊の面々＋男塾塾生一同
3．腐留苦去主＋混ぜ御飯
4．転生者集団１０００００人
5．オールライダー＋全スーパー戦隊『…俺だったら1と2と3と5だぞ；」

マリオ「2と5だな」

タレ銀「1！！！それ以外も凄いけど俺にとって1がめっちゃ厄介です！！」

ブロントさん「2と3と5です」

アーカード「2と3に5だな」

ルルーシュ「同じく」

キョン子「私も；」

ルイージ「4を除いた全部；」

フォックス「同じく；」

他メンバー「以下同文；」

銀八「との事だ…『武田軍兵士　清坂　剣麻』さん廊下に立ってなさい！」

蛇八「今回は此処まで！」

クイーンズゲイト　ウルトラマンノアの少年　『ソロとシンゴと康太』（後書き）

リュカ「と言う訳で龍の骨さんとのコラボでした！」

ルイージ「シンゴ君の物語はどうなるんだろうね」

スネーク「だな…ん？下に予告が…」

～予告～

それは…ある時の事

ウルトラマンゼロ「様々な次元に異変が？」

ウルトラの父「うむ、何らかの原因で多数の次元が不安定になっている」

セブン「そこでお前にその異変の調査を頼む」

大隊長と父からの指令にとある次元に降り立つゼロことソロ。

ソロ「（クイーンズゲイト…それが原因か…）」

そこで出会ったまろんと共に出会ったアリスの言った事にそう考える。

様々な世界の女戦士と出会い、ソロは戦う。

ソロ「行くぜ！変身！」

ゼロイドライバー「カメンライド！」

自分の力に女戦士達の力と…

ゼロイドライバー「ゼロイド！」

父やウルトラ戦士の力と共に…

ウルトラマンゼロ　ＴＨＥ　ストーリー　～女王の門と女戦士達～

ゼロイド「これが俺と皆の力だ！！」

スネーク「…作者、持ってないのに…」

フォックス「浮かんだそうだぞ」

ネス「感想を待ってます♪」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　～銀女神鎮魂歌～　―　第別訓パート４９

スネーク「真王とのコラボだ」

フォックス「ギルデバーンとの最終決戦！」

ネス「頑張れー」

ソニック「ついに７万突破だ！！」

リンク「これからも頑張って行きます！」

ギルデバーン「グオォォォォォォ！！」

リアス「散開して！」

再び来るギルデバーンの攻撃にリアスが叫んでそれぞれ避ける。

ゼロ「ソロ！これを使え！」

ゼロブレスッド「ウェポンライド！ディエンドライバー！！」

そして着地したゼロはゼロイドにそう言うとディエンドライバーを召還する。

ゼロイド「これって…そうか！」

手に握られたディエンドライバーを見てゼロイドはゼロの意図に気づき、ライダーカードを装填する。

ディエンドライバー「カメンライド！ウルトラマン！セブン！ジャック！！」

音声と共にトリガーを引くと光の三原色で構成されたライダーの幻影が現れた後に仮面ライダーのウルトラマン、セブン、ジャックが現れ…

ディエンドライバー「カメンライド！エース、タロウ、ゾフィー！」

さらに音声と共にエース、タロウとゾフィーに両肩にWの両肩を模したアーマーにウルトラブレスターが付いたのが装着され、カラータイマーを除いた胸を響鬼の胸を模したアーマーにスターマークが付いたのが装着され、足に黄金のアンクレットを付けた感じの『仮面ライダーゾフィー』が現れる。

ゼロイドライバー「カメンライド！ゼロ！！」

そしてゼロイドもZゼロへとなる。

ウルトラマン「行くぞ！」

エース「よっしゃあ！」

セブン「ああ！」

ゾフィー「うむ！」

ウルトラマンの掛け声にエース、セブン、ゾフィーが答えた後に呼び出された6人とZゼロとゼロ、コスモスに何時の間にか銀次が変身したダイナがギルデバーンを掴むと宇宙へ向かう。

銀時「うおぉーーい！宇宙へ行かれたら俺達出番がないんだけど！！」

リュウケンドー「大丈夫大丈夫！あれがあるじゃないか！」

ノワール「あれ？」

パープルハート「ああ！あれか！！」

それに叫ぶ銀時にリュウケンドーがそう言い、首を傾げるノワールの隣でパープルハートが気づく。

一方、宇宙へ飛び出したウルトラ系ライダーはギルデバーンと離れ、戦闘を開始していた。

ウルトラマン「はっ！」

タロウ「たっ！」

ウルトラマンとタロウがスペシウム・アタックとストリウム光線で牽制するとセブンとZゼロにゼロが合体技、トリプルエメリウムで追撃し、攻撃しようとするギルデバーンをゾフィーがゼット光線で動きを止め、エースはメタリウムソードで切りかかり、ジャックがウルトラショットでギルデバーンの目を攻撃する。

コスモスもフューチャーフォームになり、ダイナと共に光線技で攻撃している。

そこに星船に乗って銀時達が来る。

星船が近くにあれば、宇宙でも行動出来るのだ。

エース「誰か！地面を作る技を持ってないか！奴にぶつけてくれ！」

スバル「それなら私が！ウイングロード！！」

エースの言葉にスバルが答えるとウイングロードでギルデバーンにぶつける様に展開する。

エース「メタリウム・バースト！！」

そしてウイングロードを使ってギルデバーンにエネルギーをぶつけた後にメタリウムソードを構え…

エース「食らえ！メタリウム・エクストリーム！！」

エネルギーの刃を飛ばしてギルデバーンを斬る。

セブン「デアッ！」

Zゼロ「たっ！」

ゼロ「はっ！」

そこにセブンとZゼロ、ゼロがそれぞれのスラッガーを投げ…

ティアナ「クロスファイアー！シュート！！」

なのは「アクセルシューター！」

キャロ「フリード！ブラストレイ！」

ダイナ「はっ！」

コスモスFF「いっけ！！」

そこになのは達の魔法とダイナの電撃とコスモスFFの光線を受け、5つのスラッガーは分身するイリュージョンスラッガーへなるとギ

ルデバーンに向かって行き、ギルデバーンは落とそうとして…

ギルデバーン「ナニ！？」

途中でさらに増えた事に驚く。

ティアナがフェイクシルエットで幻影を作り上げたのだ。

それによりギルデバーンは幻影を含んだイリュージョンスラッガーに切り刻まれる。

カリバー&カリバーン&デルフ「約束された！勝利の双剣（ツインエクスカリバー）！！」

ビビ「約束された（エクス）！勝利の剣（カリバー）！！」

そこをカリバーとビビの合体技が続き…

グレイ「爆ぜ、タマモ」

タマモ『“ビッグバン”、発動』

お空「爆符『ギガフレア』！」

グレイとお空が追撃する。

ギルデバーン「オノレォォォォ！！！」

ゾフィー「一気に決めるぞ！」

Zゼロ「おう！」

銀時「んじゃあ行くぜ！」

ふら付くギルデバーンを見てのゾフィーの言葉にＺゼロと銀時が代表で答えた後…

銀時「エイリアン」

全員「狩りじゃぁアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア！！！！！！」

最初に銀時達、接近戦メインのメンバーがそれぞれの必殺技をぶつけた後にウルトラ系ライダーを含んだ遠距離メインのメンバーが必殺技を炸裂させる。

ギルデバーン「ヌアァァァァァァァァァァァァァァァァァァ！！！！」

全員の攻撃を受け、ギルデバーンは叫びながら消え去った。

銀時「よっしゃあぁぁぁぁぁ！！」

パープルハート「やったね銀さん！！」

神楽「やったアル！」

新八「やりましたね！」

それぞれ歓喜の声をあげ、喜びを分かち合う。

Ｚゼロは６人のウルトラ系ライダーを見て、ウルトラマン達は頷い

た後に消えた。

その後、銀時達は帰った後に何時の間にか帰った筈のアンバリーを含めてパーティーをしたのであった。

～オマケ～

銀八「教えて」

生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

蛇八先生「それではペンネーム『武田軍兵士　清坂　剣麻』から『皆様方に質問。　次の内、医者的意味で体を見てほしくない人はどれですか？

1．赤屍さん
2．岬越寺秋雨
3．マユリ（ｂｌｅａｃｈ）
4．ブラック・ジャック
5．リアルゲコ太（冥土返し）

もう一つ皆様方に質問。

次の内頼りになると思える人は誰ですか。

1．美堂蛮
2．風林寺隼人（長老）
3．坂田銀時
4．門矢士
5．武田信玄
6．江田島平八』…俺だったら最初は3で次は…4だな」

タレ銀「最初は絶対に1の赤屍さんで次は1の蛮ちゃんだよ！」

アーカード「最初は銀次以外に誰にも見られたくないのと次のなら銀次の相棒の蛮だな」

マリオ「最初は3で次は誰もが頼りになるけど…そうだな…士だな」

ルイージ「僕は最初は3で次は5の信玄さんだね」

ソロ「俺は最初は3で次は士だな」

リュウケンドー「う～～～ん、最初が3で次は銀時だな」

銀八「との事だ…『武田軍兵士　清坂　剣麻』さん廊下に立ってなさい！」

蛇八「今回は此処まで！」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　～銀女神鎮魂歌～　－　第別訓パート４９

リュカ「と言う訳で真王さんとのコラボでした」

スネーク「いや…なんとか終わったな」

フォックス「まったくだな」

ネス「感想を待ってます♪」

2002

逃走中のまた始まりだぜ！　ｂｙダブルゼータ　その３（前書き）

ワリオ「と言う訳で葉月と光を継ぐ者のリクエスト続きだ」

ファルコ「カウント・ザ・メンバー！現在の逃げてるメンバーは！」

捕まった人：ピーチ

逃走者：マリオ、ルイージ、ヨッシー、リンク、ピカチュウ、カービィ、ルカリオ、スネーク、ソニック、銀時、神楽、新八、お妙、月詠、桂、土方、近藤、沖田、蛮、銀次、士度、卑弥呼、マクベス、十兵衛、花月、ソロ、光

出ているハンター：冥王、霊夢、魔里沙、妖夢、紫、文、ゆっくりまりさとれいむ、チルノ、妹紅

まだ出てないハンター：きめぇ丸、咲夜、ワルイージ、ディクシー、フェイト、スバル、橙、ナックルズ、ミュウツー、テイルズ、エミー

通報者：クッパ、ネス、ワリオ、子供リンク、ゼルダ、ピチュー、デオキシス、リュカ、ウルフ、長谷川、エリザベス、お登勢、なのは、ティアナ、ヴァイス、リインフォース、リイン、シグナム、ヴィータ、ザフィーラ

サトシ「どうなるんだろうな…」

2003

逃走中のまた始まりだぜ！　ｂｙダブルゼータ　その３

銀時「さて…出たからには慎重に行動しねえとな…」

そう言って周りを見る銀時だが…

ピィィィィィ！！

銀時「うおっ！？」

後ろからの笛の音に驚き、銀時は振り返ると…

銀時「ばばあ！？何で此処に！？」

お登勢「何だいあんた？メールを見てないのかい？」

驚く銀時に笛から口を離して言うお登勢の言葉にメールだぁ？と銀時は携帯のメールを見る。

銀時「『なお、ゲームの始まりと共に２０人の通報者が現れる…見つかるとハンターに通報されるので注意せよ…その通報者達の顔を送る』…」

ポン

内容の下の後の画像に通報者の顔にお登勢の顔を見つけた後に笑顔で文が銀時の肩を掴んでいた。

別の場所で

神楽「えっと…『０分３０秒に通報者により来た文により銀時確保…』何やってるアルかあの天パー…」

ピィィィィィ！！

読み終えた後に毒づく神楽の後ろでも笛の音が鳴り、神楽は走りながら後ろを見るとクッパとクッパの頭に乗ったピチューが笛を鳴らして神楽を追いかける。

神楽は逃れようと走るが前に妹紅が現れ…

ガシッ

妹紅「アウトだ」

神楽「…早めに捕まったアル…」

クッパ「まあ、他人を馬鹿にしたのが来たんだろう」

静かに言う妹紅に神楽はそう言い、クッパがそう言う。

ソロ「『０分４０秒に通報者により来た妹紅により神楽確保』…」

光「１分になる前に一気に３人減ったね」

携帯を見て言うソロに光はそう言う。

ソロ「まあ、今回はハンターは目だけで俺達を探すから助かるが…厄介なのは通報者だな」

光「色々といるね…」

ソロの言葉に光は携帯に送られた通報者の顔を見て言う。

ソロ「此処は慎重に行こうぜ」

光「そうだね」

そう言った後、ソロと光は協力して逃走する。

別の場所で

マリオ「早く逃げるぞ新八！」

新八「はい！」

霊夢「待ちなさい！！」

魔理沙「逃がさないぜ！！」

通報者の子供リンクとデオキシスにより発見された2人は霊夢と魔理沙から必死に逃げていた。

さらに別の場所

蛮「うおぉぉぉぉぉぉ！！！」

ゆっくりまりさ「まてぇだぜ～」

ワリオにより通報された蛮がゆっくりまりさから逃げていた。

後ろを気にしていて…

ゆっくりれいむ「おりゃあ！」

蛮「ぶっ！」

前から飛び出たゆっくりれいむの突撃を避けられなかった。

ゆっくりまりさ「やったぜ！」

ゆっくりれいむ「牢屋でゆっくりしててね～」

蛮「ちくしょう、饅頭みたいな奴に捕まるなんて…」

喜ぶゆっくり2人に蛮は悔しそうに言う。

卑弥呼「『1分11秒にて通報者により来たゆっくりれいむにより蛮確保』…蛮…」

タレ銀「蛮ちゃん捕まっちゃったのね；」

連絡で来たメールに卑弥呼は呆れ、共に行動していたタレ銀はそう言う。

その後、5分になる前まで残ったメンバーはなんとか逃げた。
そして5分なる直前にそれは来た。
ボルン「待てぇぇぇぇぇぇぇぇ！！！」
ボルンの警察署からドロンが飛び出し、ボルンは叫んで追いかける。
ピリリリリリリリ
マクベス「今度は何だ…『ミッション、ボルンの警察署からドロンが逃げ出した。１０分になる前に捕まえれば終了時の賞金を2倍にする』…」
お妙「『なお、見つけた逃走者は１０分になるまでの間はハンターに確保されなくなり、１０分になった後も3メートルの範囲内は無事であるが１１分になるまでに出なければ強制失格になる』…なかなか簡単そうで難しいミッションね」
月詠「ふむ…のんびりしたいもんじゃからどうするべきか…」
別々の場所でマクベスとお妙、月詠がミッションの内容を見て言う。
残り、２４人
～オマケ～
銀八「教えて」
生徒一同「銀八先生！蛇八先生！」

蛇八「と言う訳でやるぞ…ペンネーム『光を継ぐ者』から『光「皆さんに質問です。僕の必殺技の中で1番格好良いと思う必殺技は何ですか?また、皆さんは僕のどのタイプが好きですか?」

いきなりどうしたの?

G「何もこの小説を見ていて、他の読者の皆様方が質問をしているのを見てしたくなったみたいです。」

そうだったんだ。鳴海　ソラさん、どうか光の質問に答えてあげてください。よろしくお願いします。』…俺だったらスカイタイプのランバルト光弾でスカイタイプだな」

ソロ「俺はパワータイプのデラシウム光流でタイプではパワフルなパワータイプだ」

リュウケンドー「俺はグリッターティガのグリッターゼペリオン光線でタイプはグリッターティガだな」

チルノ「あたいはスカイタイプのランバルト光弾でタイプはスカイタイプ!」

明久「僕はマルチタイプのゼペリオン光線!タイプは勿論マルチタイプ!」

マリオ「俺も明久と同じだな」

銀八「との事だ『光を継ぐ者』さん!初質問ありがとうと小説を頑張ってください!!」

蛇八「今回は此処までだ！」

逃走中のまた始まりだぜ！　ｂｙダブルゼータ　その３（後書き）

ダイヤ「5分になる前に銀さん、神楽さん、蛮さんが捕まったね」

パール「さて、どうなるのやら…」

ルビー「感想を待ってるよ」

2011

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　～銀女神鎮魂歌～　―　第別訓アナザーパート

スネーク「邪王からの依頼だ」

ルイージ「実力を計る訓練だね」

フォックス「だな」

2012

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　～銀女神鎮魂歌～　一　第別訓アナザーパート

空「実力テスト？」

サタン・ザ・ハード経由でチート・ザ・ハードに呼ばれた空、チルノ、ソロは銀女神世界の指定された場所に着き、空が代表で聞く。

チート・ザ・ハード「対イヴィル戦力としてあなた方の実力を測らせていただきます」

ソロ「イヴィルって…マリオが言っていた銀時達が戦った野郎の兵隊か？」

チルノ「そいつ等と戦えるかあたい達のを見るの？」

ソロの呟いた後のチルノの問いにチート・ザ・ハードは頷く。

チート・ザ・ハード「このブロック平原で出て来る木人４体を倒してください」

チルノ「分かった！」

ソロ「そうと分かれば」

空「早速やるよ！」

３人の決意を秘めた顔にチート・ザ・ハードは言う。

チート・ザ・ハード「後、変身をせずに戦ってください」

空「分かった。ゲキリュウケン、そのまんまで行くぜ！」

ゲキリュウケン「ああ、見せてやれ鳴神！」

チルノ「あたい達の力を見せてあげようヒョウリュウケン！」

ヒョウリュウケン「ああ！」

ソロ「んじゃあ行くぜ！」

チート・ザ・ハードの言った条件の後に空達は気合を入れた後に進む。

チルノ「おお～あれがターゲットか～」

目の前の構えてる木人を見てチルノはヒョウリュウケンとバスタードチルノソードで肩をトントンさせる。

ソロ「この地面のブロックにも何か特徴があるだろうな」

空「それは進まないと分からないから行こうぜ！」

地面のブロックを見て呟くソロに空はそう言い、ソロもそれに同意して3人は駆け出す。

空「まずは小手調べ！燃えろ！！」

そう言うと同時に1対の木人に向かってファイガを放つが…

空「あれ？」

当たった木人は燃えずにいた。

ソロ「ダメージを受けてないな」

チルノ「地面のブロックが関連してるのかな？」

チート・ザ・ハード『そうです』

ソロが呟いた後のチルノの言葉をどこからか聞こえて来たチート・ザ・ハードの声が肯定する。

チート・ザ・ハード『このブロック平原のブロックは特徴があるんです。赤いブロックはジオブロック、進入禁止でパネルが周りを囲んでいます。青いブロックは敵無敵、敵だけが無敵になります。ブロックの範囲に入っている木人はダメージを受けなくなります。緑のブロックは超敵強化3倍、青パネルに乗っている木人の強さが倍になります』

ソロ「成る程…」

空「それじゃあ…青のブロックから敵を出すか！」

チルノ「よっしゃあ！！」

チート・ザ・ハードの説明にソロが納得して空の言葉にチルノが力強く答えた後に飛び出し、青ブロックの中にいる木人をバスタードチルノソードを振るい、ブロック外に押し出す。

チルノ「無敵だけど押し出すのは有効っしょ！」

押し出された木人を切り飛ばしてチルノは言う。

空「おっと！」

緑ブロックの上の青パネルの木人と空は戦っていた。

空「確かにさっき見たのより上がってる…けど、それだからこそ負けるか！！」

ゲキリュウケンとキーブレードを使って巧みに防いだ後に吹き飛ばす。

空「ツイン！ストライクレイド！！」

吹っ飛ぶ木人に向かってゲキリュウケンとキーブレードを投げ、切り裂くと2つの剣は空の元に戻る。

ソロ「この！美味く赤いブロック使って防ぐな…」

攻撃しようとしているソロだが、木人2体は上手く赤いブロックを使ってソロを翻弄する。

ソロ「逃げ回るなら…こうするだけだ！」

ウルトラゼロランスをウルトラゼロブレスレットに戻し…

ソロ「はっ！！」

投げると共にウルトラゼロブレスレットはカッターになり、木人2体を切り裂く。

チート・ザ・ハード「なかなかやりますね」

戻って来た3人にチート・ザ・ハードはそう言う。

チルノ「当然！」

ソロ「俺達も出来る事をやるぜ！」

空「ああ！」

それぞれ答える3人をチート・ザ・ハードは見ていた。

～オマケ～

ソロ「ソロと！」

空「空の！」

ソロ&空「質問コーナー！！」

ソロ「銀八先生と蛇八先生の教えて銀八先生のと交互にやろうと作者が考えたんだよな」

空「と言う訳で俺たちのコーナーでの最初のはペンネーム『光を継ぐ者』から！『光「逃走中って面白いね。」

サ「そう思えるのは、今のうちだぜ。」

フ「はたして逃げ切れるのか？」

またまた質問です。『ウルトラマンティガ』に出てくる怪獣、怪人で好きなのを、３つお願いします。ソロさんは他に可愛いと思った怪獣がいれば、それもお願いします。

グ「次回も楽しみにしてるぞ。」『…そうだな…俺はタラバン、ガーディー、シーラかな？」

ソロ「俺はゴルザにメルバにゴルドラスだな…可愛いと思ったのか…モーラットだな」

空「との事だぞ！そんじゃあ次は『ロムスカ王』から『そちらの皆さんに質問です。ウチのキャラの中で一番戦いたくないのは、次のうちどれですか？

1、クロス＆エンズペア

2、創世の使徒

3、ドナルド

次回も頑張ってください。』…んじゃあ行くぞ」

一同「３で；」

マリオ＆ソニック「３だな」

アーカード「３」

銀次「3かな?」

リュウケンドー「俺は…3だな」

ソロ「全員3だな…まあ俺も3だけど…」

空「今回は光を継ぐ者にロムスカ王の2人だけだ」

ソロ「次の話も楽しみにしてくれよ!」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　～銀女神鎮魂歌～　―　第別訓アナザーパート

リュカ「と言う訳で邪王さんからの依頼でした！」

スネーク「主にこれではソロ、リュウケンドーもとい空、チルノがメインだな」

ネス「ホントだね～」

クッパ「感想を待ってるのだ！」

2020

ＴＨＫＫミッション！　ゲッター線を止めろ　前編（前書き）

スネーク「武田軍兵士　清坂　剣麻からの依頼だ！」

フォックス「上のタイトルのＴＨＫＫは何だ？」

スネーク「作者が考えた『武田軍兵士[T]　清坂[K]　剣麻[K]』の略だ」

ネス「成る程…」

2021

THKKミッション！　ゲッター線を止めろ　前編

リュウケンドー「あれが目的の星か…」

ソロ「ああ、マリオに調べて貰った場所があそこらしいからな」

グミシップに乗り、目の前の星を見て呟くリュウケンドーにソロが同意して言う。

アーカード「しかし変わった奴だな…手紙で呼ぶとは…」

黄泉「そうですね」

黄泉が入れた紅茶を飲みながらアーカードは呟き、黄泉が同意する。

どうも知らない内に手紙があり、内容はリュウケンドー達に依頼でこの場所に来て欲しいと言う物であった。

明久「一体誰なんだろうね出したの？」

ムッツリーニ「……行けば分かるだろう…」

カブト「だな」

ちなみに来ているメンバーは今回はサトシが抜けて、フォックスとファルコが来ている。

ファルコ「久々の元の性別（Π－Π）」

ちなみにファルコは久々に元の性別に戻れたので泣いていた。

ロイ「依頼主はどこにいるんだ?」

???「此処におる」

呟くロイの言葉に答える声に全員がした方を見ると老人がいた。

ソロ「あんたが依頼人か?」

老人「さよう…わしは早乙女だ…お前達に頼む事がある」

早乙女が言うにはこの星で転生者達がこの星全土をゲッター線で満たそうとする計画を発端したのでそれを阻止して欲しいとの事だ

早乙女「わしから後で増援を呼んでやろう……頼むぞ、そしてさらばだ…」

そう言うと同時に早乙女は消えた。

カービィ「消えた!」

アーカード「どうやら魂だけの存在のようだな」

驚くカービィの隣でアーカードがそう言う。

ロイ「それにしても…応援って何だ?」

カブト「…どうやら考える前に来た様だぞ」

顎に手を当てて考えるロイにカブトはカブトクナイガンとウェイトザドーンを取り出してある方向を見る。

カブトが向いた方には転生者と思われる集団が１００人が現れる。

それにロイとリンク、明久とムッツリーニ、ソニックは変身する。

カリバー「んじゃあ行くか！」

ネオス「うん！」

ネクサス「了解」

ブレイド「おう！」

それぞれ答えた後に駆け出す。

リュウケンドー「おりゃあ！！」

カブト「ふっ！」

ゼロイド「デヤッ！！」

カリバー「とうっ！！」

来る転生者をそれぞれ格闘戦や峰打ちで倒して行く。

カブト「（何だ…あっけなさ過ぎるな…）」

ネクサス「（……あっさり過ぎる）」

カリバーン「ソニック、気づいているか?」

カリバー「ああ…骨がなさ過ぎるぜ…」

デルフ「おかしいぞこいつは…」

全員倒し終えた後にカブト、ネクサスがあまりの事に違和感を感じ、カリバーンがカリバーに話しかけ、本人は頷き、デルフが言った瞬間…

ガタック「なっ!?」

リュウジンオー「これは…」

倒された１００人が全て緑色の光になる。

ザンリュウジン「どうなってやがる!?」

リュウケンオー「こいつら…転生者じゃないの?」

ヒョウリュウケン「いや、にとりに組み込んで貰った転生者を見分ける機能を付けられているから分かるがさっきのやつ等は転生者だ」

ザンリュウジンが驚き、リュウケンオーが呟きにヒョウリュウケンが答えた後に後に転生者（インベーダー）２００００体、インベーダー１０００体、メタルビースト１００機、クローン赤屍（ゲッター線変貌体）３００人、首謀者と思われる転生者２人が現れる。

クローン赤屍（ゲッター線変貌体）「サア銀次君、戦イマショウ。

ゲッター線ノオノムムクママニ…」

タレ銀「いやぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ!!また赤屍さんのクローンがぁぁぁぁぁぁぁぁ!!!」

黄泉「しかもさらに怖くなってるぅぅぅぅぅ!!!!」

クローン赤屍を見てタレ銀と黄泉は泣いて叫ぶ。

ゼロイド「でけぇのもいやがる…」

リュウケンドー「だったら俺達の出番だ!ソロ達はそのまま戦ってくれ!」

レンゲル「んじゃあ見せるか!」

リュウケンドーがそう言って、ブレイド、カブト、リュウガンオー、リュウジンオー、ガタック、レンゲル、カリバーがリュウケンドーと共に前に出る。

ガタック「気伝招来!龍星王!星天馬!星獅子!星麒麟!星鳳凰!」

カブト「ギャラクシーメガ!デルタメガ、インストール!!」

ブレイド「ギンガレオン!!ギガバイタス!」

レンゲル&リュウガンオー&カリバー「シノビマシン!!」

リュウケンドー&リュウジンオー「ゴーゴービークル発信!」

アクセルラー「発進シフト・オン！！ダンプ！フォーミューラ！ジャイロ！ドーザー！マリン！ドリル！ショベル！ミキサー！クレーン！ジェット！」

ゴーゴーチェンジャー「発進シフト・オン！！ファイヤー！エイダー！ポリス！」

アクセルラー＆ゴーゴーチェンジャー「ＧＯ！ＧＯ！」

ガタックがスターソードと５つの天宝来来の玉を出し、それを掲げ、カブトは左手首のデジタイザーにコールし、ブレイドは叫び、レンゲル、リュウガンオー、カリバーはそれぞれシノビマシンを呼び、リュウケンドーとリュウジンオーはゴーゴービークルを呼ぶ。

すると、世界の壁とは違う巨大な穴がリュウケンドー達の後ろに現れ、そこから気伝獣、メガシップとデルタメガ、星獣とギガバイタス、シノビマシン、ゴーゴービークルが出て来る。

黄泉「えぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！？」

アーカード「ほう」

現れたのに黄泉は驚き、アーカードが感嘆の声をあげてる間にそれぞれ乗り込む。

ガタック「五星合体！！」

カブト「超電磁合体！！」

ブレイド「星獣合体！！」

レンゲル「忍風合体！！」

リュウガンオー「迅雷合体！！」

カリバー「飛翔変形！！」

リュウケンドー「究極轟轟合体！！」

アクセルラー「アルティメットフォーメーション！！」

リュウジンオー「緊急轟轟合体！！」

ゴーゴーチェンジャー「サイレンフォーメーション！！」

乗り込んだメンバーがそれぞれの合体をコールする。

ガタックが乗り込んだ龍星王を中心に星獅子、星天馬、星麒麟、星鳳凰が合体して巨大武人、大連王へ合体する。

カブトが乗り込んだメガシップとデルタメガは合体しスーパーギャラクシーメガへ…

ブレイドが飛び乗った銀星獣となったギンガレオンを中心にギンガイオーになった後にギガバイタスから分身銃のギガホイールとギガウィングが飛び出し、鋼星獣ギガライノスと鋼星獣ギガフェニックスとなる。

シノビマシンはそれぞれレンゲルが乗るハリケンホークにハリケンドルフィン、ハリケンレオンが忍風合体して旋風神へ、リュウガン

オーが乗るゴウライビートルにゴウライスタッグが迅雷合体して轟雷神へ、カリバーが乗った天空神は変形してカラクリ巨人となる。

ゴーゴービークルはリュウケンドーが乗ったゴーゴーダンプを中心にゴーゴーフォーミューラ、ゴーゴージャイロ、ゴーゴードーザー、ゴーゴーマリン、ゴーゴードリル、ゴーゴーショベル、ゴーゴーミキサー、ゴーゴークレーン、ゴーゴージェットが合体してアルティメットダイボウケンになり、リュウジンオーが乗ったゴーゴーファイヤーを中心にゴーゴーエイダーとゴーゴーポリスが合体してサイレンビルダーへとなる。

ガタック「大連王！！」

カブト「完成！スーパーギャラクシーメガ！！」

ブレイド「超装光！ギンガイオー！」

レンゲル「旋風神！推参！」

リュウガンオー「轟雷神！推参！」

カリバー「天空神！推参！」

リュウケンドー「アルティメットダイボウケン！合体完了！」

リュウジンオー「サイレンビルダー！合体完了！」

それぞれ合体を完了した後にインベーダー１０００体、メタルビースト１００機に向かって行く。

ゼロイド「んじゃあいくぜ！！」

リュウケンオー「おー！」

それを見た後にゼロイドとリュウケンオーは走る。

アーカード「ふん！」

銃とは違う黒い剣を取り出してアーカードはクローン赤屍（ゲッター線変貌体）の1体の腕を切り落とす

クローン赤屍（ゲッター線変貌体）「オヤオヤ……ナカナカノ攻撃デスガ、私ニハ通用シマセン」

そう言うとクローン赤屍（ゲッター線変貌体）の斬られた所から新しいのが出て来る。

黄泉「うえっ！？再生した」

アーカード「ならば倍だ！」

それに驚く黄泉の後にアーカードは銃でクローン赤屍（ゲッター線変貌体）に大ダメージを与えるが致命傷じゃなかった。

クローン赤屍（ゲッター線変貌体）「コレハナカナカ……デスガムダデスヨ？」

そう言うとまた再生する。

黄泉「このままじゃあジリ貧ですよ！！ご主人！！」

アーカード「そうだな…なら、再生能力を奪う！」

そう言うと同時にアーカードは一瞬消えたと思うとクローン赤屍（ゲッター線変貌体）の集団の後ろに立っていて…

アーカード「消えろ、銀次を怖がらせる集団よ」

そう言うと同時にクローン赤屍（ゲッター線変貌体）の集団は細切れになる。

アーカード「う～～ん、なかなかこの能力は便利だが…また大きくなったな」

黄泉「それ以外に少し身長が伸びましたね」

胸を持ち上げるアーカードに黄泉は呆れて言う。

銀次「食らえ！！」

その間に首謀者を除く集団は倒され、ロボットに乗ってるメンバー以外が首謀者2名に構える。

リュウケンオー「これで終わりだ！！氷龍符『アイシクルドラゴン』！！」

そしてリュウケンオーがスペルカードを取り出して宣言すると共に氷の龍が首謀者2名へ直撃する。

リュウケンオー「これで終わりだね」

ゼロイド「待て！様子がおかしいぞ？」

そう言うリュウケンオーにゼロイドがそう言う。

首謀者らしき転生者「「うぅ・・・あぁ・・・ウゥワァアアアアアアーーーー」」

すると倒れた首謀者2名は起き上がると頭を抑えた後に叫ぶ。

それと同時に体が変貌して行く。

黄泉「なっ！？」

銀次「これって一体！？」

リュウケンドー『何だ！？」

それにメンバーが驚く中、全員の目に別の存在がいた。

褐色の男？「フフフ・・・まさか奴ら以外に我々と戦える者達がいるとは・・・実に興味深い。　ね、スティンガー君？」

スティンガーと呼ばれた顔色の悪い男「う、うん。　そうだねコーウェン君。　実に興味深いことだね」

そう言って2人の男はゼロイド達を見る。

ゼロイド達の前に現れた存在は…そして早乙女が言う増援とは…

ＴＨＫＫミッション！　ゲッター線を止めろ　前編（後書き）

リュカ「と言う訳で後編に入ります」

スネーク「さて、どうなるのやら…」

ルイージ「と言うか初だよね…」

フォックス「そうだな…」

ネス「感想を待ってます♪」

IS&It;インフィニット・ストラトス>黒き牙と永遠の月　現れる力

スネーク「ユートピアとのコラボだ！」

クッパ「前回のお話は！！」

1つ！終達の前にアクマロが現れ、アクマロが消えた後に終は暴走する。

2つ！一夏達は現れたブラジラに完敗し、倒されかけた所を駆け付けた明久達に助けられる。

そして3つ！楓は闇のヤイバに自分の心の闇を指摘された後に美鈴やリュウケンドー達が来る。

ウルフ「ホントだが…楓のがドシリアスになりやすいな…」

ワリオ「確かに」

2034

IS&It;インフィニット・ストラトス>黒き牙と永遠の月　現れる力

終「うがぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！」

ディブレイカー「止めろ終！！」

ハーツ（ヴェン）「止まれ！！」

NオーズTC「うわっと！」

暴走スイッチにより暴れる終を止めようと3人のライダーは奮闘するが終は人間の限界を越えた動きをしても疲れる様子がなく次第に押されていく。

ディブレイカー「ここはスピード戦法だ！変身！」

ディブレイカードライバー「フォームライド！ゼロ・ミラー！」

NオーズTC「それならこっちも！」

オーズドライバーN「ライオン！トラ！チーター！ラッタ♪ラッタ～ラトラーター♪」

ディブレイカーは『仮面ライダーディブレイカー・ゼロ・ミラーフォーム』となり、NオーズTCはラトラーターとなると追いかける。

一夏の方では…

一夏「くそっ！！」

ネスとリュカにより回復した一夏は地面を殴る。

さやか「ちょっ、ちょっと駄目でしょ！」

一夏「俺には…あいつ等と戦える力がない…ちくしょう！」

それにさやかが慌てて止めるが一夏は自分に自分の世界のグリードやさっきのブラジラに勝てる力がない事に悔しさを感じた。

箒「一夏、違うぞ」

そんな一夏の手を優しく掴み、箒が一夏の目を見て言う。

箒「お前の力はあいつ等と戦う為の力じゃない。仲間を守る為の力だ」

一夏「仲間を守る為の力…」

箒の言葉に一夏はゴーカイグリーンのレンジャーキーとモバイレーツを取り出す。

一夏「（そうだ…俺は戦う為に力を求めるんじゃない…終達と大切な人…箒を守る為にだ…それが俺の力だ！）」

その時、ゴーカイグリーンのレンジャーキーがモバイレーツに入り、一夏の姿がゴーカイグリーンになるとゴーカイバックルからゴセイナイトを含めたゴセイジャーのレンジャーキーが出て来て、ゴーカイグリーンの手に収まると光り輝く。

ゴーカイグリーン「これは…」

楓の方では…

霊夢「それで、楓って子の様子は？」

永琳「体には異常はないわ…だけど、精神がね…」

博麗神社で霊夢の問いにリグルにより呼ばれた永琳が困った顔をする。

あの後、楓が崩れ落ち、博麗神社に運ばれた後にリグルが大声で永琳を呼んで貰い、それに走って来た永琳に楓を見て貰ったのだ。

鈴仙「ほとんど私たちを拒絶しちゃってるわ」

一緒に見ていた鈴仙が悲しい顔で言う。

パール「そうか…」

ダイヤ「楓さん…そんなに思い詰めてたんだね…」

パールは腕を組み、ダイヤがそう言う。

ルーミア「それにしても…さっきの奴はそこしれぬ闇を感じたが…何者だ？」

さっきミスティア分を補給とミスティアに抱き付いていて今は咥え

タバコしながら空に聞く。

空「あいつは闇のヤイバ、ネガティブシンジゲートの1つ、ダークシャドウの幹部だった男だよ」

カービィ「闇の力で世界を支配することが目的だった男で先代のボウケンジャーの1人を狙っていたけど最終的に倒されたけどね」

美鈴「それが復活していると言う事ね」

空とカービィの説明に美鈴は呟く。

ルビー「そこが謎だよね」

ソロ「何者かが復活させたか…」

にとり「色々と大変な事になってるね」

レヴィ「おわっ!?」

ルビーとソロが言った後にいつの間にかいたにとりにレヴィは驚く。

ナズーリン「君は何時の間にいたんだにとり?」

にとり「ソロが来てるって聞いたから届け物があるから急いで来たんだよ」

ソロ「俺に?」

呆れ顔で聞くナズーリンににとりはそう言い、ソロにある物を渡す。

不動「これは…」

サトシ「ライドブッカーとディケイドライバー!?」

にとり「違う違う。これはゼロイドライバー、ソロの力となる奴だよ」

ソロ「俺の力になる…」

そう呟いた後にソロはライドブッカーからカードを取り出し、見て驚く。

ソロ「親父たちのカード!?」

にとり「そのゼロイドライバーで変身するライダーはウルトラ系ライダーのみで構成されてるのさ…まあ、ディケイドと同じ様に新たなライダーカードが出て来る事もあるよ」

そんなソロににとりはそう言った時…

妖夢「大変です!!楓さんがいません!!」

楓の様子を見に行っていた妖夢が血相を変えて慌てて来る。

楓「（私は欲しい…力が…）」

はあはあ…と息を吐きながら楓は闇のヤイバがいると思われる方向へ走る。

そして…着いた所で目の前の状況に驚く。

闇のヤイバ「ぬっ…ぐっ！！」

？？？「貴様に彼女を誤った闇へは引き込ません！！」

？？？２「諦めろ、闇のヤイバ」

倒れ付した闇のヤイバに赤い戦士とカブトムシを模した仮面ライダー、カブトがそう言う。

闇のヤイバ「くっ、覚えていろ！！」

そうはき捨てると同時に闇のヤイバは消えた。

？？？「音梨　楓君だな」

楓「えっ、あっ、はい」

赤い戦士に話しかけられ、楓が答えた後に赤い戦士はお坊さんが着ている様な着物を纏い、男性になるとはあはあと肩を上下させる。

カブト「あんたも良くやるよ、此処はあんたの世界に近いが別の世界なんだぞ…ゲン」

ゲン「俺はウルトラ戦士だ、弟子にばっかりに任せてばかりでは駄目だからな」

呆れ口調で言うカブトにゲンはそう言う。

楓「あの…あなたは？」

ゲン「俺はおおとりゲン、ウルトラマンレオでゼロの師だ」

カブト「久しぶりだな楓、あの時以来だな」

楓の問いにゲンは名乗り、カブトがそう言った後にゲンは前に出る。

楓「あの…何で私の名前を…」

ゲン「闇のヤイバが言っていたのだ。幻想卿に飛ばされた音梨　楓を闇に染める為だと…」

そう言った後にゲンは楓を強い目で睨み、それに楓はたじろく。

ゲン「ただ力欲しさだけに周りを拒絶するな…拒絶すれば強くなると言うのはお門違いだ」

そう言われ、楓は顔を伏せる。

さっきも心配で見に来ていた鈴仙を思い出したのだ。

カブト「楓、力を欲して闇に手を伸ばせばお前は過ちを犯す…以前の俺の様に」

楓「私は…嫌なんです。皆さんに守られてるだけじゃあ…」

カブトの諭す言葉に楓はそう言う。

ゲン「…ならば…俺の所で修行をするか？」

楓「…ゲンさんの所で？」

ゲンの言葉に楓は顔を上げて聞き、ゲンは頷く。

カブト「俺は皆にそれを伝えに行く」

ゲン「頼んだぞ」

戻って終の方では…

ＤゼロＭＦ「この！」

ＮオーズＬＣ「落ち着いて！！」

終「があぁぁぁぁぁぁ！！！」

なんとか捕まえようと追う2人だが終はなかなか止まらない。

そして終が攻撃しようとした時…

楯無＆簪「駄目ぇぇぇぇぇぇ！！」

暴走する終を楯無と簪が決死の覚悟で抱き締める。

ハーツ（ヴェン）「危ないぞ！！」

楯無「お願い終！」

簪「元に戻って！！」

終「があぁぁぁぁぁぁぁ……」

必死に呼びかける楯無と簪にじたばたしていた終は動きが収まって行き…

終「……俺は…」

御坂「元に戻った」

肩を上下させる終に御坂は呟き、それに3人のライダーは息を吐く。

終「やっぱり俺は…人間じゃないな…」

あははと乾いた笑みを浮かべ、終はそう言うと…

パチン！！

最初に簪が終の右頬を叩き…

パチン！！

次に楯無が終の左頬を叩く。

簪「そんなの関係ない。終は終だよ」

楯無「そうだよ！終が何を言おうと終は終！他にいないよ！！」

終「楯無…簪…」

2人の言葉に終は2人を見た後にライダー3人や御坂達も頷く。

終「（ああ…仲間は良いな…）」

周りを見て終は改めて仲間と言う存在の有り難みを感じるとゴーカイブルーのレンジャーキーがモバイレーツに入り、終の姿がゴーカイブルーになるとゴーカイバックルから姫シンケンレッドを含めたシンケンジャーのレンジャーキーが出て来て、ゴーカイブルーの手に収まると光り輝く。

ゴーカイブルー「これは…まさか新しい力？」

終と一夏の手に現れる力、おおとりゲンの元で修行する事になった楓…そして、なぜ倒された怪人達の復活…一体…

ＩＳ＆Ｉｔ；インフィニット・ストラトス＆ｇｔ；黒き牙と永遠の月　現れる九

リュカ「と言う訳でユートピアさんとのコラボでした！」

クッパ「まさかのレオ登場なのだ；」

スネーク「それでそんなレオの元で修行する事になった様だな楓は」

ネス「感想を待ってます♪」

仮面ライダーW～another world story～ 別話：Kとの出

スネーク「亀鳥虎龍の『仮面ライダーW～another world story～』とのコラボだ」

ネス「ってかKって…」

ワリオ「もう1つ意味があるな…」

ウルフ「だな」

クッパ「ちなみにあっち側のは当麻と表記するのだ」

当麻「……」

ユーノ「大変だったね当麻君」

ムッスーと体中に包帯を巻いた当麻にユーノは苦笑して言う。

上条「わりぃな内の犬が…」

インデックス「犬じゃないもん！！」

それに上条は謝り、インデックスがうがーと吼える。

さて、なぜ当麻とユーノがいるかと言うと…

アームズドーパントとの戦いの後にのんびりしていた所を当麻とユーノを世界の壁がディブレイカーの世界へ飛ばしたのだ。

飛ばされた直後、戸惑ってる当麻に上条と勘違いしたインデックスが噛み付き、上条が話しかけるまで止めず…

ヴェン「今度は別世界の上条か」

ヴァニタス「多いな…ホント」

今、ユーノとヴァニタスがいる探偵事務所で介抱されたのだ。

当麻「ホント不幸だ…」

ユーノ「あはははは；」

はあ…とため息を吐く当麻にユーノは苦笑する。

吹寄「しかし…今度は別世界の上条か…」

佐天「前は仮面ライダーに変身する別世界の御坂さんが来ましたね」

ユーノ「それってジョーカー？」

しみじみと言う吹寄に続いて言った佐天の言葉にユーノは聞く。

上条「んにゃあ、レールガンってライダーで、それがそのライダーの顔」

当麻「レールガンって…あいつにぴったりなライダーだな」

上条が答えてライダーカードを見せ、当麻が受け取って感想を言う。

ヴァニタス「はい…はい…分かった…こう言う異世界の住人が来ると探偵仕事が少ないな…」

電話に出ていたヴァニタスが話しを終えるとそう呟く。

上条「またライダー関連か？」

ヴァニタス「ああ、今度はマスカレイドドーパントの集団が出て来て、キバが戦ってるそうだ」

初春「のび太君が来てるんですか？」

ユーノ「のび太？誰なの？」

ヴェン「別の所にいるライダーになる知り合いだよ」

上条の問いにヴァニタスはそう言い、初春の言った名前にユーノの質問にヴェンはそう言う。

そして戦いの場所で

キバ「はっ！」

警備員（アンチスキル）を背にキバがマスカレイドドーパントと戦っていた。

そこにWを背中に乗せてディブレイダーに乗ったディブレイカーとキーブレードライドしたハーツが来る。

ディブレイカー「手伝うぞキバ！」

ハーツ「さあ！光と闇の鼓動を聞け！」

W「さあ、その幻想をぶち殺す！」

ディブレイカーが言った後にハーツとWがそれぞれのきめ台詞を言った後に駆け出す。

キバ「（翔太郎さん達とは違うWに見た事ない2人のライダー…やっぱり世界は広いな…）キバット！魔法の方のてんこ盛りをやるよ

！」

キバット「あれだな！行くぜ！リリカル組み集合！！」

キバの言葉にキバットは答えた後に４つのフエッスルを吹くと４つの彫像が飛んで来てキバの体に吸い込まれると…

右腕と左肩に鎖が巻き付き弾け飛ぶとクリアブルーに、次に左肩と右肩に鎖が巻き付き弾け飛ぶとクリアホワイトに、続いて両足に鎖が巻き付き弾け飛ぶと灰色となり、最後に胸に鎖が巻き付き弾け飛ぶとクリアイエローとなったキバがいた。

キバット「さらにタッちゃん！！」

タツロット「それでは行きますよ！！テンションフォルテッシモ！！」

さらにタツロットのフエッスルを吹き、タツロットはそう言うとキバの左腕に装着する。

キバのマスクが変わり、腕を振るうとマントが現れる。

キバット「これぞ！仮面ライダーキバ・リリカルエンペラーフォームだぜ！」

タツロット「さあ！キバって行きますよ！」

キバット「それ俺の台詞！！」

２人の会話の後にキバＬＥＦは右手にクリアブルーの女性の絵が描

かれた手甲、魔砕拳クイントナックルを装着して駆け出す。

ディブレイカー「何だありゃあ!?」

ハーツ（ヴェン）「のび太の奴、何時の間にあんなのを…」

キバＬＥＦにディブレイカーとヴェンが驚いているとそこにディケイダーに乗ったディケイドが来る。

ディケイド「あれ?キバとWが…」

ディブレイカー「のび太!?」

ハーツ（ヴァニタス）「と言う事はあのキバも別世界のか…」

軽く驚くディケイドにディブレイカーは驚き、ヴァニタスは両足に魔斬爪リーゼクローを装着して回し蹴りでマスカレイドドーパントを倒すキバＬＥＦを見て言う。

すると、マグマドーパントがいきなり現れ、キバＬＥＦを除いた４人のライダーを攻撃する。

ディブレイカー「この!」

それにディブレイカーが前に出て消して行く。

W（当麻）「早めに決めないとな」

ディケイド「んじゃあちょっとくすぐったいですよ」

Wの言葉にディケイドはそう言うとカードを装填する。

【ＦＩＮＡＬ　ＦＯＲＭ　ＲＩＤＥ】

Ｗ（ユーノ）「えっ？」

【Ｗ・Ｗ・Ｗ】

驚くＷの中央線部分に手を突っ込むディケイド。

するとＷのボディが２つに分かれそのボディが２人のライダーを作る。

【ＣＹＣＬＯＮＥ　ＣＹＣＬＯＮＥ】

【ＪＯＫＥＲ　ＪＯＫＥＲ】

Ｗは仮面ライダーＷサイクロンサイクロン＆仮面ライダーＷジョーカージョーカーとなる。

ＷＣＣ「これは…」

ＷＪＪ「すげぇ…」

ディケイド「決めますよ！」

驚くＷ２人にディケイドがそう言うとカードを装填する。

【ＦＩＮＡＬ　ＡＴＴＡＣＫ　ＲＩＤＥ　Ｗ・Ｗ・Ｗ・Ｗ】

ディブレイカー「食らえ！！」

マグマドーパント「ぐっ！」

ディブレイカーがライドブッカーＧＭでマグマドーパントを怯ませると同時にディケイドを中心に右にＷＣＣ、左にＷＪＪが合わせてジャンプし…足にエネルギーを収束させる。

ディケイド＆ＷＣＣ＆ＷＪＪ「トリプルエクストリーム！！」

マグマドーパント「ぐおおぉぉぉ！！」

三方向からのキックを同時に受けたマグマドーパントは吹っ飛び、それと共にマスカレイドドーパントも巻き込んで爆発する。

ハーツ（ヴァニタス）「俺たちも決めるか」

それを見た後にハーツはメモリをスロットに入れる。

【ＫＥＹ・ＢＬＡＤＥ・ＴＷＩＮＭＡＸＩＭＵＭＤＲＩＶＥ】

音声の後にエネルギーを纏ったハーツが飛び上がり…

ハーツ「キーブレード！！フェイタルブレイク！！」

ハーツキングダムを地面に叩き付け、マスカレイドドーパントを吹き飛ばす。

キバＬＥＦ「凄いな…こっちも決めるか」

狐を模した魔雷斧クオンアックスを振るっていたキバＬＥＦはそう言った後にシュベルト・クロイツを模したクリアホワイトの魔突槍シュベルトランサーを取り出すとタツロットのホーントリガーを引く。

タツロット「シュベルトフィーバー！！」

音声の後にタツロットをシュベルトランサーの先の後ろに接続すると同時に放出された炎がシュベルトランサーの先端に収束し、飛び上がり、マスカレイドドーパントに向けて回転しながら相手に突撃し…

キバＬＥＦ「はっ！！」

残ったマスカレイドドーパントを吹き飛ばして着地する。

当麻「ビックリした…」

ユーノ「ホントだね」

探偵事務所にキバとのび太と共に戻り、当麻は戻って早々にそう言い、ユーノは苦笑する。

御坂「（あれされたのね）」

のび太「それにしても…あなたは誰なんですか？」

御坂は２人の様子にＦＦＲされたんだなと察知じ、そんな隣でのび太がまだ変身を解除してないキバに聞く。

すると、２つの世界の壁が現れる。

キバ「おっと…そろそろ戻らないと…じゃあね！そっちの僕！」

ユーノ「えっ！？」

キバの言葉にユーノは驚いた後、メンバー全員の前でキバは変身を解き、キバ…もう１人のユーノは微笑んで手を振って消える。

佐天「別世界のユーノさんだったんですね…」

ユーノ「あははは…最後の最後で驚いたよ」

佐天の言葉にユーノは苦笑して言う。

その後、２人は元の世界に戻ったのであった。

仮面ライダーW～another world story～ 別話：Kとの出

リュカ「と言う訳で亀鳥虎龍さんとのコラボでした～」

ネス「いや～出しちゃったね～」

スネーク「だな；」

クッパ「あっち側はどうなるのやら…」

ワリオ「感想を待ってるぜ！」

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　～銀女神鎮魂歌～　―　第別訓パート５０

スネーク「真王とのコラボもついに第５０弾だ」

フォックス「いっぱい来たな」

ネス「だね」

銀時「うわぁ…」

チルノ「女の人ばっかりだね」

目の前の光景に銀時は思わず声が漏れ、チルノがそう言う。

新八「ってか、名前通りの王国ですね此処」

ジャンヌ「ホントだね」

自分達、特に男性を見る住民に新八は言い、ジャンヌが同意する。

今、銀時達は性別が女性しかいない女女ヶ王国と言う所に来ていた。

チルノ以外にマリオとルイージ、リュウケンドーにソロ、冥王、銀時側は新八とジャンヌ以外に神楽、桂、エリザベス、レーティア、ギルシア、リル、ヴィヴィオ、プリアがいる。

マリオ「それにしても…ふむ…能力じゃないか…」

プリア「？どう言う事ですか？」

周りを見て呟くマリオに聞こえたプリアは聞くがほらさっさと行くぞと言われ、答えられなかった。

ハーレム大魔王「俺様はハーレム大魔王！ハーレムをこよなく愛する男だ！けどな、噂じゃハーレムをする者は地獄よりも恐ろしい罰

を与える赤い魔王がいるとかいないとか（噂を聞いた程度）。だが俺はハーレムを目指す男。そこで思い付いたことがある。奴が原作キャラのハーレムを駄目とするならば、魔物キャラとのハーレムは良しじゃないかとにらんだのだ！というわけでやつらを捕獲してくれ、頼むぞ」

マリオ達が着いて早々に玉座に座った男がそう言う。

エリザベス『いきなり過ぎる！！』

ギルシア「おいおい、ちゃんとその奴らを教えてくれないか？」

レーティア「それじゃあ動けないわ」

ハーレム大魔王「おお！すまなかったな」

ギルシアとレーティアの言葉にハーレム大魔王が謝る。

マリオ「後、噂を訂正させて貰うぞ…俺はハーレムと言うのを知らん、能力で悪さする奴や無理やりな絆を繋げ様とする輩を輪廻へ送るんだよ。それも原作とかオリジナルとか魔物とか関係なくな」

腕を組んでマリオの言った事にハーレム大魔王はマリオを見る。

ハーレム大魔王「もしかして…噂の赤い魔王？」

マリオ「ＹＥＳ」

ハーレム大魔王「さっき言った事ホント？」

マリオ「ＹＥＳＹＥＳ」

ハーレム大魔王「俺様も送る対象？」

マリオ「ＮＯ」

色々と聞いた後に最後の言葉にハーレム大魔王は安堵の息を吐く。

レーティア「意外ね」

ギルシア「即行で送ると思ったんだが？」

マリオ「俺は能力を使わずに純粋に友達になるとか交友関係を結ぶのは良いんだよ。見て来たが此処の住民には能力を使ってないからな…」

驚くレーティアとギルシアにマリオはそう言う。

ハーレム大魔王「当然だ！頑張ったからな！…後、そこの緑帽子をかぶった奴」

ルイージ「僕？」

ちょいちょいと手招きするハーレム大魔王にルイージは自分を指した後に近寄り、耳貸せと言われて耳を近づける。

ハーレム大魔王「赤い魔王って鈍感？」

ルイージ「超が沢山付く程の鈍感、しかもハーレムの意味はホントに知らない」

ハーレム大魔王の小声の問いにルイージは答えるとハーレム大魔王は冷や汗を掻く。

ハーレム大魔王「とっ、とにかく！この紙に書いた魔物娘達を連れて来てくれ！！」

なんとも言えない空気をごまかすかの様にハーレム大魔王はルイージに紙を手渡して言う。

マリオ「んで…連れて来る魔物娘は何だ？」

ルイージ「えっと…サキュバス、フェアリー、マーメイド、ダークエルフ、アルラウネ、ワーキャット、ラミア、ハーピィ、ミノタウロスの９人だね」

チルノ「色々いるね」

外に出てのマリオの問いに貰った紙に書かれたのを見て言うルイージにチルノはそう言う。

銀時「んじゃあちゃっちゃっと終わらせるか」

新八「ですね」

リル「だね」

銀時、新八が言った後に何時の間にか子供状態のリルがソロの肩に乗って言う。

リュウケンドー「おっ、ソロ、何時の間にリルと仲良くなってるんだ？」

ソロ「いや、俺も何で肩に乗られてるのか分からん」

リュウケンドーの問いにソロはそう言う。

その後、道中で来る女魔物達の攻撃もあったが進んで行く。

サキュバスの場合

サキュバス「あれ？何でかからないの？」

マリオ「そう言う使用だから」

ソロとリュウケンドーに魅力かけようとしたが失敗して落ち込んでる所を話して行って貰う事を了承。

フェアリーの場合

チルノ「面白い所があるよ」

フェアリー「ホント！行きたい行きたい！！」

チルノと話して完了。

マーメイドの場合

マーメイド「綺麗な水をお願いします」

マリオ「了解、依頼者に頼んで置くよ」

綺麗な水の住処を用意して欲しいでマリオは了承して同じく完了

ダークエルフの場合

ダークエルフ「大丈夫なの？」

ルイージ「うん、大丈夫ですよ」

ギルシア「見るからにそう言うのはなかったぞ」

迫害されないかを聞くダークエルフにルイージとギルシアはあの時の王国の様子を思い出して言い、行く事を了承して貰う。

アルラウネの場合

アルラウネ「服を来てくれる人がいる場所に行けるの？」

冥王「うん」

桂「うむ、こんなに良いのがあるからきっと沢山の人が着てくれるな」

自分の作った服を着てくれる人がいるかを聞き、冥王は頷き、桂がそう答えると了承して貰う。

ワーキャットの場合

ワーキャット「お魚あるなら行く！」

新八「お魚限定！？」

プリア「凄いあっさり；」

お魚あるならと言う事であっさり了承

ラミアの場合

ラミア「良い男かしら？」

レーティア「まあ、ああ言うからには良い男と思うわ」

ラミアの問いにレーティアはそう言い、王国に行って貰う事に了承

ハーピィの場合

ハーピィ「自由に飛べるなら良いよ」

神楽「安心するヨ、普通に飛べるね」

住んでる場所が悪かったので飛べる場所が少なかったのですぐに了承

ヴィヴィオ「後1人だね」

銀時「ミノタウロスか…」

マリオ「了承はしてくれたが最後の1人はどうなのやら…」

ヴィヴィオの言葉に銀時は呟き、マリオも腕を組んで呟く。

そして行くと…

ミノタウロス「……虐めない？」

新八「あんれぇぇぇぇぇぇ！？」

隠れて聞くミノタウロスに新八は驚くの声をあげる。

それにミノタウロスはさらに身を隠す。

銀時「おいおい新八、怖がらせちゃ駄目だろ？」

神楽「そうネ、外見とのギャップがあったって驚いちゃダメネ」

新八「いや、ギルシアさん以上の身長でマリオさんの呟きから凄いのかな？と思ってたら驚きませんか？」

マリオ「まあ、否定はせん…ミノタウロスは強気で勝気なのが一般的に伝わってるからな…」

ソロ「人見知りで虐めにあってたのか？」

呆れる銀時と神楽に新八の言葉にマリオはそう言い、ソロは疑問を呟くとミノタウロスはそれを肯定する様に頷く。

リュウケンドー「俺たちは虐めに来たんじゃないよ」

ジャンヌ「保護しに来たんだよ」

ミノタウロス「……そうなの？」

リュウケンドーとジャンヌの言葉にミノタウロスはおずおずと出て聞く。

マリオ「ああ、連れて行く王国はきっとお前を虐めないと思うよ」

マリオが前に出て言う。

それにミノタウロスは考えた後に行くと言う。

ハーレム大魔王「おお！でかしたぞ！！」

マリオ「まあ、繋げられるかはお前しだいだ…」

戻って銀時の報告を聞いたハーレム大魔王はそう言い、マリオがそう言う。

ハーレム大魔王「ああ！彼女達のリクエストも全部答える様に頑張るぞ！！」

その言葉を聞いた後に銀時たちは帰ったのであった。

リリカル銀魂　Ｓｔｒｉｋｅｒｓ　～銀女神鎮魂歌～　―　第別訓パート５０

リュカ「と言う訳で真王さんとのコラボでした」

スネーク「今回はな…書くの大変だったな」

クッパ「うむ…まさかこう言うのがな…」

ネス「感想を待ってます♪」

何をやろうか？　ｂｙチルノ　パート４（前書き）

スネーク「黒一文字の続きだ」

フォックス「今の所命蓮寺だな」

ネス「次はどこなのやら～」

何をやろうか？　ｂｙチルノ　パート４

クレス「んで…次はどこ行くんだ？」

出されたお茶を飲んで一息付いた後にクレスは今後の予定を聞く。

空「そうだな…」

シュテル「それでしたら…紅魔館はどうですか？」

考える空の隣で本を読んでいたシュテルがそう提案する。

シィ「こうまかん？」

ソロ「紅い魔の館で紅魔館だ」

シィの疑問にソロは名前の感じを言う。

ユエ「名前時点で面白いですが…何か他にあるんですか？」

シュテル「はい、色んな本が沢山あるんですよ」

クレス「ほう、色々と興味深いな」

シィ「どんな本があるのか楽しみね」

ユエの問いに答えたシュテルにクレスとシィはどう言う本があるのか考える。

ソロ「んじゃあ、次は紅魔館だな」

3人の様子にソロはそう言う。

数分後

クレス「紅いな」

シィ「紅いね」

ユエ「館の全体が紅いですね」

目の前の館を見て3人は以上の感想を言う。

ソロ「この館の主は吸血鬼なんだぜ」

クレス「ほう」

シィ「吸血鬼か…」

ユエ「見たいですね…」

ソロの後にクレス達が言った後…

不動「アーーーーーーーーー!!」

シィ&クレス&ユエ「!?」

いきなりの声に3人は驚いた後…

空「またか」

ソロ「また血を吸われたんだな」

ロード「何時も通りの紅魔館だな」

シィ「今の悲鳴で何時も通りなの！？」

空、ソロ、ロードの言葉にシィはツッコミを入れる。

シュテル「はい、ちなみにさっき悲鳴をあげたのが私達の主です」

シィ「主なのに良いの！？」

ロード「安心しろ、何時も通りのイチャイチャだ」

クレス「んじゃあ、門番前で起こってる事も何時も通りか？」

シュテルの言った事にシィは驚いて言い、ロードが言った後、目の前の光景を見てクレスがそう聞く。

咲夜「…」

妖夢「…」

椛「わう…」

美鈴＆鈴仙「；」

睨み合う咲夜に妖夢、椛に美鈴と鈴仙は冷や汗を掻いていた。

ソロ「何時も通りだな」

空「うんうん」

シィ「此処！1人の人で複数の子多過ぎない！！」

ソロと空の言葉にシィは叫ぶ。

クレス「ん、どうやら動くようだぞ…」

それを横目で見ていたクレスが目の前の状況が動く事を言う。

咲夜「文句なしよ？これに勝った者が鈴仙以外に美鈴と外で一緒に行けると言うのを…」

妖夢「勿論です」

椛「わう！負けません！」

咲夜がナイフを構えてそう言い、妖夢と椛はそれぞれの剣を構える。

ユエ「何やってるんでしょうか？」

チルノ「今回は何時もとちょっと違う様な…」

早苗「ああ…もしかして私があげた私の元いた世界の恋愛映画のチケットを3枚あげたからそれですね」

首を傾げるユエとチルノに早苗がパンと手を叩いてそう言う。

文「おや？あなたなら我々を出し抜くと思ったんですが…」

白蓮「そうですね…何でですか？」

早苗「だってチルノちゃんはアクション系のが好きですから」

それにチルノＬＯＶＥズの文と白蓮は早苗を見て、その答えに確かにと納得する。

空「まあ、入ろうぜ」

ソロ「そうだな…」

チルノ「メイリ～～ン、入らして貰うよ」

レヴィ「お邪魔しま～す」

シュテル「いつもお疲れ様です」

ロード「飽きないものだなあいつ等も」

鈴仙「あはは、ホントね；」

美鈴「ああ、皆さん…後ろの人たちは初めてですけど、見た限り魔理沙さんと違いますし大丈夫ですね」

睨み合ってる３人の隣を素通りして美鈴に言った後に紅魔館に入って行く。

なお、美鈴とのデートを勝ち取ったのは漁夫の利を得た椛なのであった。

何をやろうか？　ｂｙチルノ　パート４（後書き）

リュカ「まだまだ続きます」

ネス「いや～ホントにこっちの東方だと１人に複数が多いよね～」

スネーク「そうだな；」

フォックス「感想を待ってるぞ！」

逃走中のまた始まりだぜ！　ｂｙダブルゼータ　その４（前書き）

ガノン「と言う訳で葉月と光を継ぐ者のリクエスト続きだ」

ファルコ「カウント・ザ・メンバー！現在の逃げてるメンバーは！」

捕まった人：ピーチ、銀時、神楽、蛮

逃走者：マリオ、ルイージ、ヨッシー、リンク、ピカチュウ、カービィ、ルカリオ、スネーク、ソニック、新八、お妙、月詠、桂、土方、近藤、沖田、銀次、士度、卑弥呼、マクベス、十兵衛、花月、ソロ、光

出ているハンター：冥王、霊夢、魔里沙、妖夢、紫、文、ゆっくりまりさとれいむ、チルノ、妹紅

まだ出てないハンター：きめぇ丸、咲夜、ワルイージ、ディクシー、フェイト、スバル、橙、ナックルズ、ミュウツー、テイルズ、エミー

通報者：クッパ、ネス、ワリオ、子供リンク、ゼルダ、ピチュー、デオキシス、リュカ、ウルフ、長谷川、エリザベス、お登勢、なのは、ティアナ、ヴァイス、リインフォース、リイン、シグナム、ヴィータ、ザフィーラ

サトシ「どうなるんだろうな…」

逃走中のまた始まりだぜ！　ｂｙダブルゼータ　その４

光「それでどうする？」

ソロ「場所指定のなら良いんだが…今回のは動き回る奴だからむやみに行けばハンターが出るだろうしな…こう言うのは極力出ない方が良いな…」

ミッションについて話し合うソロと光だが、ソロの言葉に光は確かにと頷く。

もし追ってる方向からハンターが現れ、さらに後ろからハンターが現れたらこう言う一緒に行動している内のどちらかが確実に捕まるのは予想出来ている。

此処は行かない事にし、逃げ切る事にした２人に…

ピィィィィィィ！！！

ソロ＆光「！」

ティアナが現れ、それにソロと光は慌てて走り、ティアナから離れる。

その途中でハンターの紫（ちなみに服装は動きやすい様にアドチルの服装）が現れ、２人を追いかける。

マリオ「おっ？」

新八「2人共！」

光「マリオさんに新八さん」

ソロ「お前らもか」

そこに同じ様に冥王と妖夢に追いかけられてるマリオと新八と出くわし、一緒に逃げて行く。

沖田「さあ～て、ドロンって奴はどこにいるんッスかね…」

別の場所で沖田がドロンを探していた。

すると…

ピィィィィィィ！！！

後ろでなのはと長谷川が笛を吹き、沖田はそれに駆け出し、なのはと長谷川も追いかける。

長谷川「（逃走者を追うハンターってこんな感じなんだな…」）

笛を吹きながら長谷川はそう思った後に呼ばれた魔理沙と霊夢が現れ…

魔理沙「ゲットだぜ！！」

沖田「あちゃあ、此処で終わりですかい」

霊夢「ちぇ…」

花月「ん？…『５分３０秒にて通報者により来た魔理沙に沖田確保』か…」

月詠「ふむ…通報者はホントに厄介じゃな…むっ？」

花月はメールを見て言い、月詠は通報者に関してそう言うと…気づく。

目の前でミッションのターゲットであるドロンがいた。

月詠「頂きじゃ！！」

すかさず月詠が動き、ドロンは慌てて逃げる。

花月も追おうとして…

ヴィータ「見つけたぜ！」

ピィィィィィィ！！！

花月「おっと！」

ヴィータとザフィーラが現れ、笛を吹かれて逃げる。

士度「げっ！？」

そこに逃げていた士度も見つかり、花月と一緒に逃げる。

士度「お前な！」

花月「怒られても困るんだけど；」

怒鳴る士度に花月は困った顔をした所で、チルノと文が現れ…

チルノ「捕まえた！」

士度「げっ！」

文「捕まえさして貰いますね～」

花月「此処で終わりか；」

マリオ「なんとか逃げ切ったか…」

新八「はい…」

ソロと光と別れて冥王と妖夢からなんとか逃げ切ったマリオと新八は周りを見る。

新八「メールだ…『6分にて通報者により来たチルノと文により士度と花月確保』…これで21人か…」

ソロ「ホントに通報者は厄介だな」

光「そうだね」

別の場所で同じく逃げ切ったソロと光がメールを見て呟く。

月詠「待つのじゃ！！」

一方、月詠は未だにドロンを追いかけていた。

ソニック「ＷＨＡＴ？」

スネーク「ん？」

丁度一緒に行動していたソニックとスネークの間を駆け抜けた瞬間…

ソニック「ゲット！」

月詠「なっ！！」

スネーク「通りががったのが運の付きだな」

咄嗟にソニックがドロンを捕まえた事に月詠は驚き、スネークはそう言う。

お妙「『６分１０秒にてソニックによりドロンは捕まったのでゲーム終了時の金額が２倍になった』…あら」

近藤「やるなソニック」

お妙が読んだ後に別の場所で近藤がそう言う。

その後、ソニックは１０分までのハンターに捕まらない休憩を手に入れたのであった。

そしてその後は誰も捕まらずに１０分になり…

ガチャン

きめぇ丸「おお、怖い怖い、私たちの出番ですか」

ナックルズ「やってやるぜ！」

橙「頑張るよ！」

スバル「よし！」

咲夜「では行きますか」

以上の５人のハンターが放出された。

残り２１人

逃走中のまた始まりだぜ！　ｂｙダブルゼータ　その４（後書き）

ダイヤ「１０分経過までの話だね」

パール「はたして次はどうなるのやら…」

ルビー「だね」

サトシ「感想を待ってるぜ！」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8287t/

大乱闘スマッシュハーツブラザーズ出張版

2011年10月20日02時02分発行